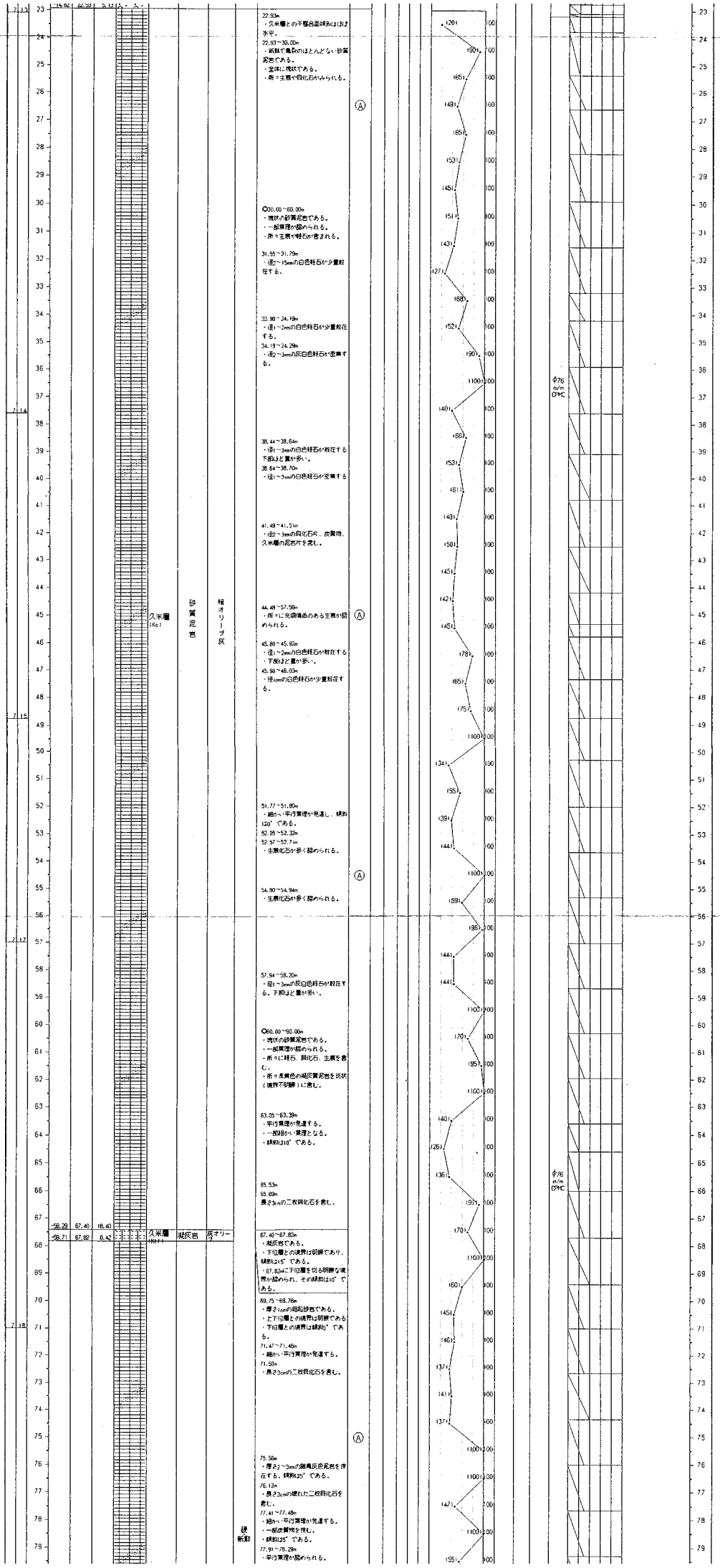
TOUGOU Ver 1.00 1996-03-18 17:47:05

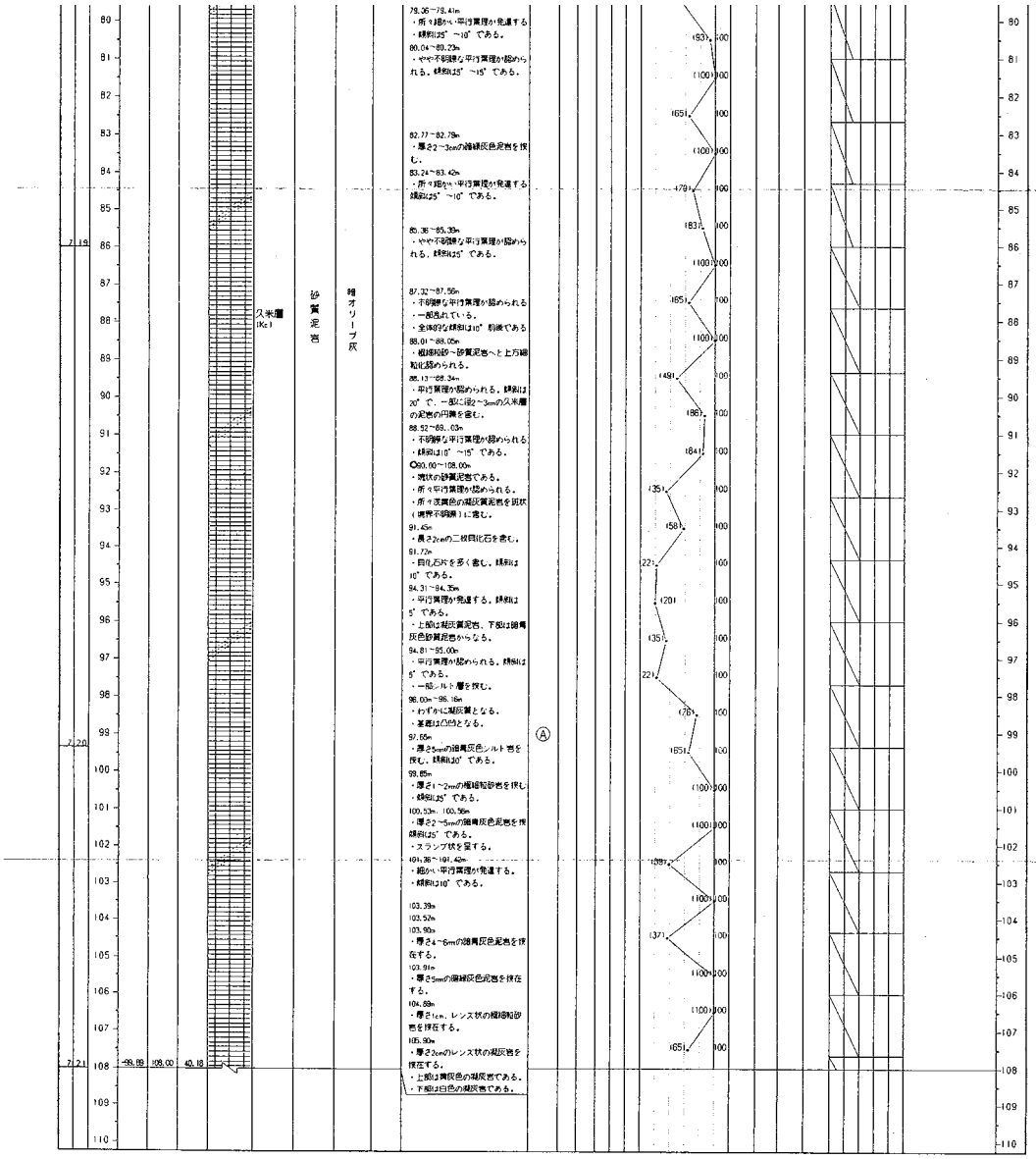
D-2　ボーリング柱状図

件名	東海第二発電所使用済燃料貯蔵設備設置に係るボーリング調査地		主任技術者
調査地	茨城県那珂郡東海村大字白方1-1	孔口標高 EL +8.11m	[redacted]
調査期間	平成 7年7月6日～7年7月21日	最終孔内水位 GL- 9.12m (EL -1.01m)	コア観察者
使用試錐機	YBM-3（吉田鉄工製）	掘削深度 GL- 108.00m	[redacted]

掘進月日 月	日	標尺 m	標高 EL m	深度 GL-m	層厚 m	地質柱状図	地質 地層名	地質 層相	色調	硬軟・風化状況	記事	岩級区分	標準貫入試験 深度 GL-m	N値 回/cm	10cm毎の打撃回数 10 20 30 cm cm cm	N値（回） 10 20 30 40 50 / 最大コア長（cm） 20 40 60 80 100 / RQD（%） 20 40 60 80 100	土質・岩石試験用試料採取 深度 GL-m	採取方法	試料番号	コピアッチュの種類	コア採取率（%） 20 40 60 80 / 掘進時間（min） 10 20 30 40	原位置 試験・検層	標尺 m
			7.78	0.35	0.35		埋土				0.00m～0.35m ・埋土、砕石を多く含む。		実施せず				実施せず			試掘		実施せず	
6	29	1							暗黄灰		0.35～6.40m ・海成のよい中粒砂である。 ・塊状を呈する。 ・未固結できわめてゆるい。 ・下位層（Ag2）とは漸移的である。												
		2	5.61	2.50			砂丘層 (Du)	砂															
		3																					
		4																					
		5																					
		6	1.71	6.40	6.05				褐灰		6.40～9.79m ・中～粗砂からなる。												
		7																					
		8					久慈川推積層 (Ag2)																
7	6	9																					
7	7	10	-1.68	9.79	3.39			礫混り砂	黄褐		9.79～11.38m ・粘砂岩、チャートを主体に含む礫混り粗砂である。 ・中～上部は海成が良く、上方細粒化を示す。 ・下部は海成が悪く、塊状となる												
		11	-2.89	11.00																			
			-3.27	11.38	1.59				黒褐														
		12	-3.99	12.10	0.72			礫混りシルト	オリーブ灰		11.38m～12.10m ・粘砂岩、チャートの円礫を主体として含む。 ・基質はシルト質細砂である。												
			-4.46	12.52	0.47			シルト質砂	暗緑灰														
			-4.61	12.72	0.15			礫混りシルト	暗灰														
		13	-4.89	13.00	0.28				オリーブ灰														
7	10	14	-6.49	14.60	1.60		埋没段丘推積層 (Dc3)	シルト質砂	暗緑灰		12.10～14.60m ・所々葉理の認められるシルト質細砂である。 ・一般粘砂岩、チャートの円～亜円礫を主体に含む、礫混じりシルトとなる。 14.60～17.80m ・所々葉理の認められる緩細粒砂である。 ・葉理の傾斜は主に5°～10°である。												
		15																					
		16						砂	～														
		17							暗灰														
		18	-9.89	17.80	3.20				暗灰		17.80～22.93m ・砂岩、粘砂岩、チャート、花崗岩を主体として含む。 ・礫径は5mm～60mmで深度ごとに変化に富む。 ・海成は悪く、基質はシルト質細砂～シルトとなる												
7	11	19	-10.19	18.30			埋没段丘推積層 (Dg3)	シルト混り砂礫	オリーブ灰														
		20	-10.99	19.10					黄褐														
7	12	21	-12.29	20.40					オリーブ灰														
		22																					



-14.62
22.93
5.13
22.93m
・久米層との不整合面傾斜はほぼ水平。
22.93～30.00m
・新鮮で亀裂のほとんどない砂質泥岩である。
・全体に塊状である。
・所々生痕や貝化石がみられる。
Ⓐ
○30.00～60.00m
・塊状の砂質泥岩である。
・一部葉理が認められる。
・所々生痕や軽石が含まれる。
31.55～31.79m
・径2～15mmの白色軽石が少量散在する。
33.90～34.19m
・径1～2mmの白色軽石が少量散在する。
34.19～34.29m
・径2～3mmの灰白色軽石が密集する。
38.44～38.64m
・径1～3mmの白色軽石が散在する下部ほど量が多い。
38.64～38.70m
・径1～3mmの白色軽石が密集する
41.49～41.51m
・径2～3mmの貝化石片、炭質物、久米層の泥岩片を含む。
44.48～57.56m
・所々に充填構造のある生痕が認められる。
Ⓐ
45.80～45.92m
・径1～2mmの白色軽石が散在する
・下部ほど量が多い。
45.96～46.03m
・径1cmの白色軽石が少量散在する。
51.77～51.80m
・細かい平行葉理が発達し、傾斜は0°である。
52.05～52.32m
52.57～52.71m
・生痕化石が多く認められる。
Ⓐ
54.80～54.94m
・生痕化石が多く認められる。
57.94～58.20m
・径1～3mmの灰白色軽石が散在する。下部ほど量が多い。
○60.00～90.00m
・塊状の砂質泥岩である。
・一部葉理が認められる。
・所々に軽石、貝化石、生痕を含む。
・所々炭質色の凝灰質泥岩を斑状（境界不明瞭）に含む。
63.05～63.39m
・平行葉理が発達する。
・一部細かい葉理となる。
・傾斜は10°である。
65.53m
65.69m
長さ3cmの二枚貝化石を含む。
-58.29
67.40
18.40
-58.71
67.82
0.42
久米層
(Kc)
久米層
(Kt)
凝灰岩
砂質泥岩
暗オリーブ灰
オリーブ
67.40～67.82m
・凝灰岩である。
・下位層との境界は明瞭であり、傾斜は15°である。
・67.83mに下位層を切る明瞭な境界が認められ、その傾斜は10°である。
69.75～69.76m
・厚さ1cmの細粒砂岩である。
・上下位層との境界は明瞭である
・下位層との境界は傾斜5°である。
71.47～71.48m
・細かい平行葉理が発達する。
71.50m
・長さ3cmの二枚貝化石を含む。
Ⓐ
75.56m
・厚さ2～3mmの暗青灰色泥岩を挟在する。傾斜は5°である。
76.12m
・長さ3cmの壊れた二枚貝化石を含む。
77.41～77.48m
・細かい平行葉理が発達する。
・一部炭質物を挟む。
・傾斜は5°である。
77.91～78.29m
・平行葉理が認められる。
硬新鮮
φ76 m/m CPMC
φ76 m/m CPMC



（注） 1．試料採取方法

C：ホーリングコア試料
P：標準貫入試験による試料
D：デニソン型サンプラーによる試料
T：固定ピストン式シンウォールサンプラーによる試料

2．コアチューブ・ビットの種類

SMC：シングルコアチューブ・メタルクラウン
DMC：ダブルコアチューブ・メタルクラウン
DDB：ダブルコアチューブ・ダイヤモンドビット
TMC：トリプルコアチューブ・メタルクラウン
TDB：トリプルコアチューブ・ダイヤモンドビット

3．原位置試験・検層実施状況

○：孔内水平載荷試験
[]：間隙水圧測定
[PS]：PS検層（板たたき方式）
[PS]：PS検層（サスペンション方式）
S：電気検層
|：密度検層
⋮：キャリパー検層

TOUGOU Ver 1.00 1996-03-21 16:29:17

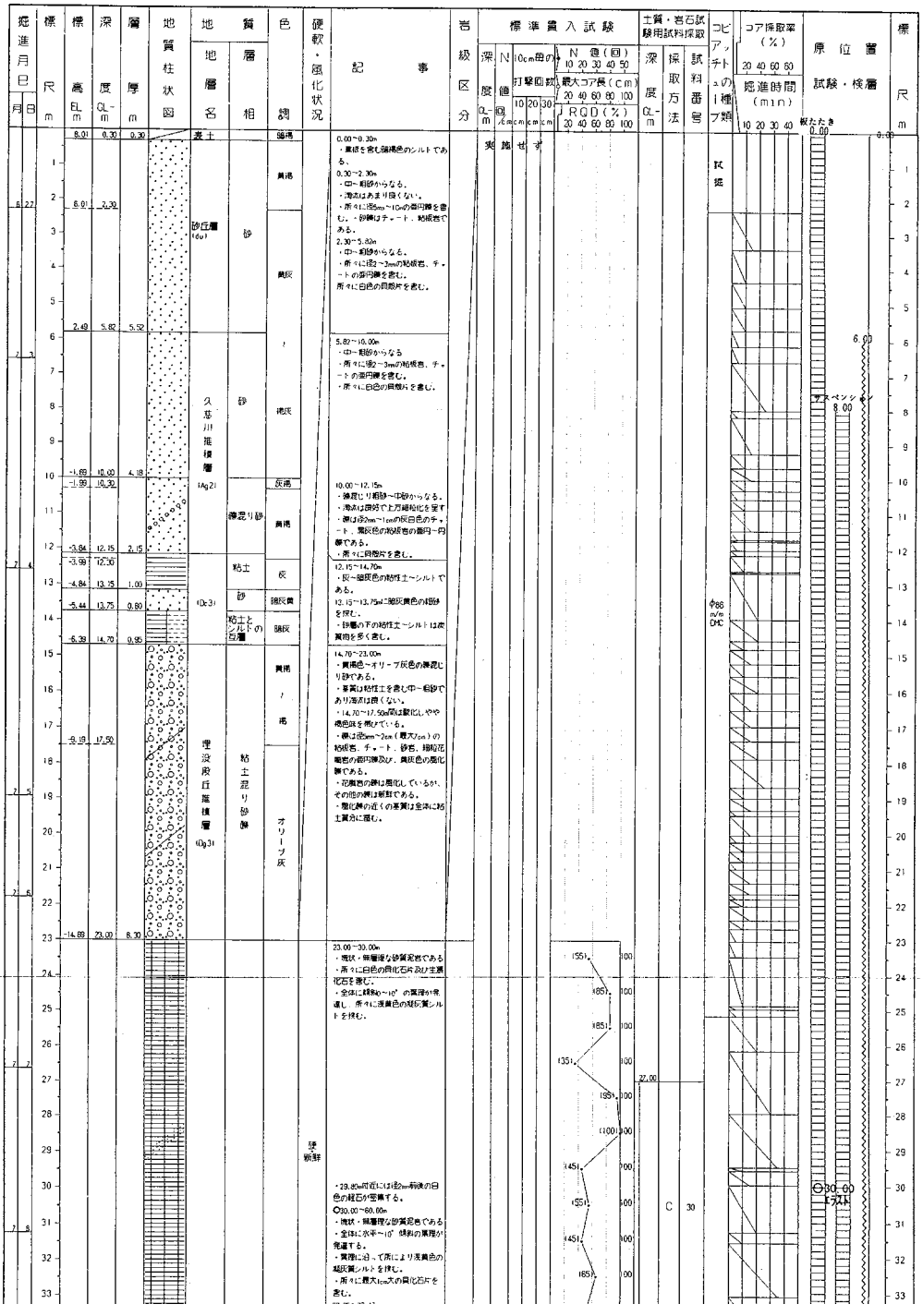
D-3　　ボーリング柱状図

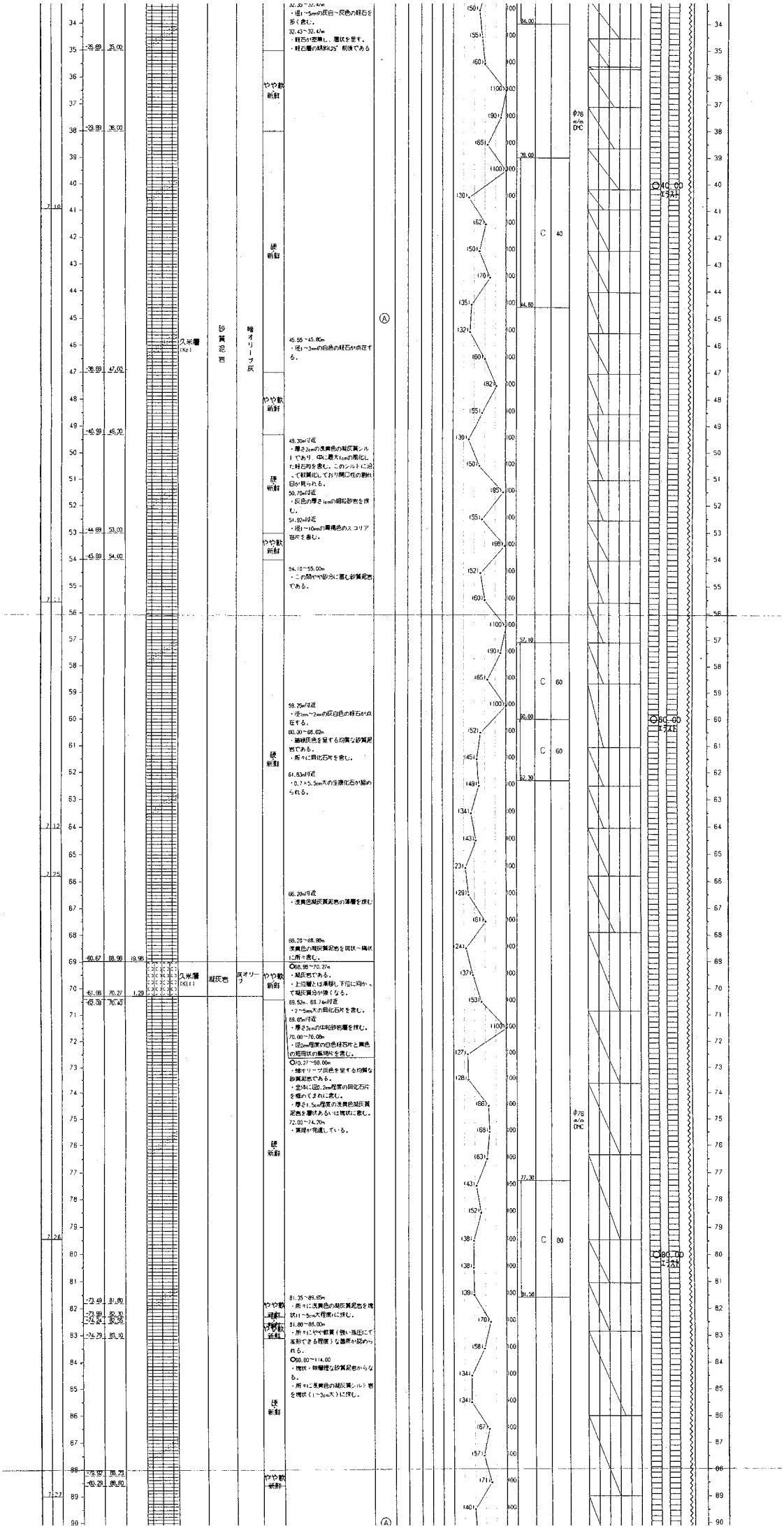
件　　名　東海第二発電所使用済燃料貯蔵施設周に係るボーリング調査他　　主任技術者 [redacted]

調　査　地　茨城県那珂郡東海村大字白方1-1　　孔口標高 EL +8.31m

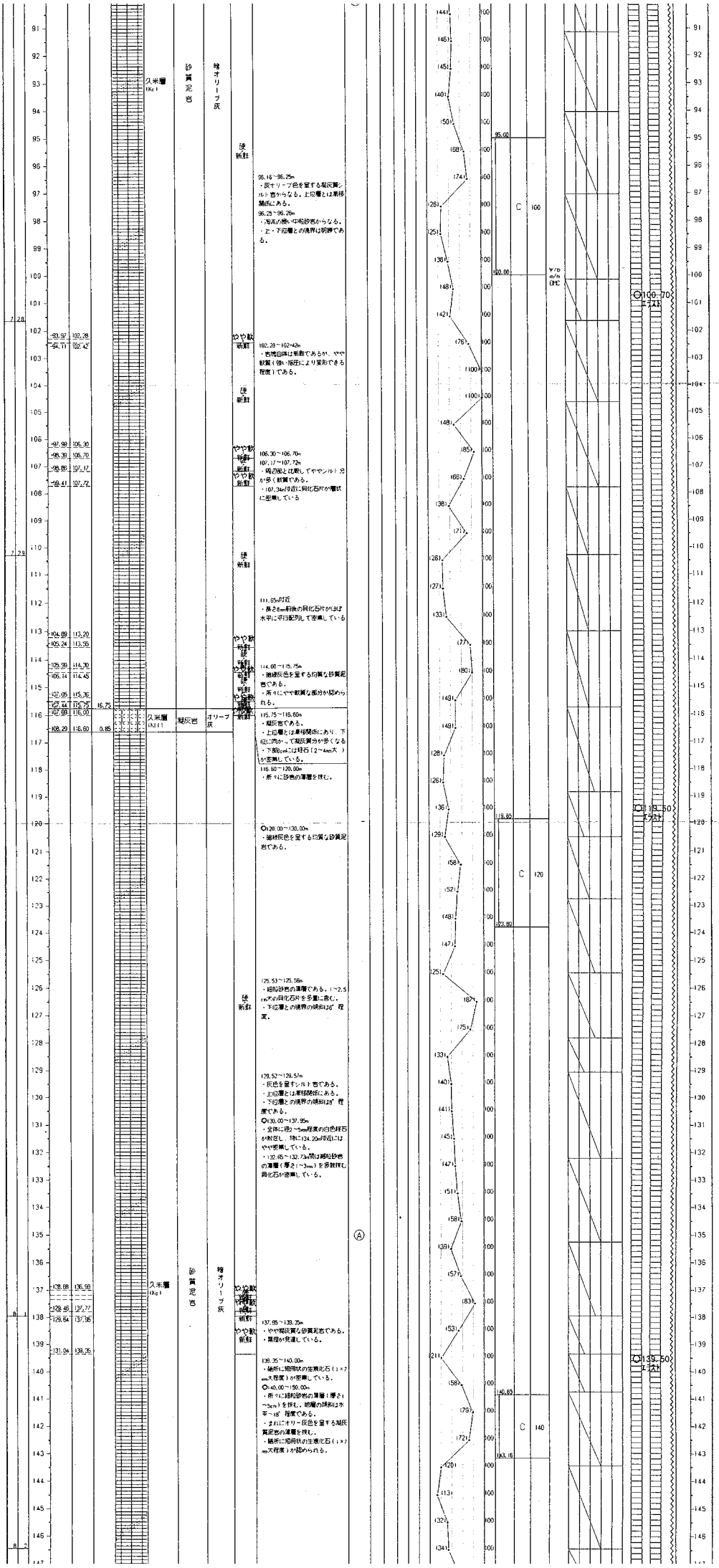
調査期間　平成7年6月27日～7年11月9日　　最終孔内水位 GL- 11.10m (EL -2.79m)　　コア観察者 [redacted]

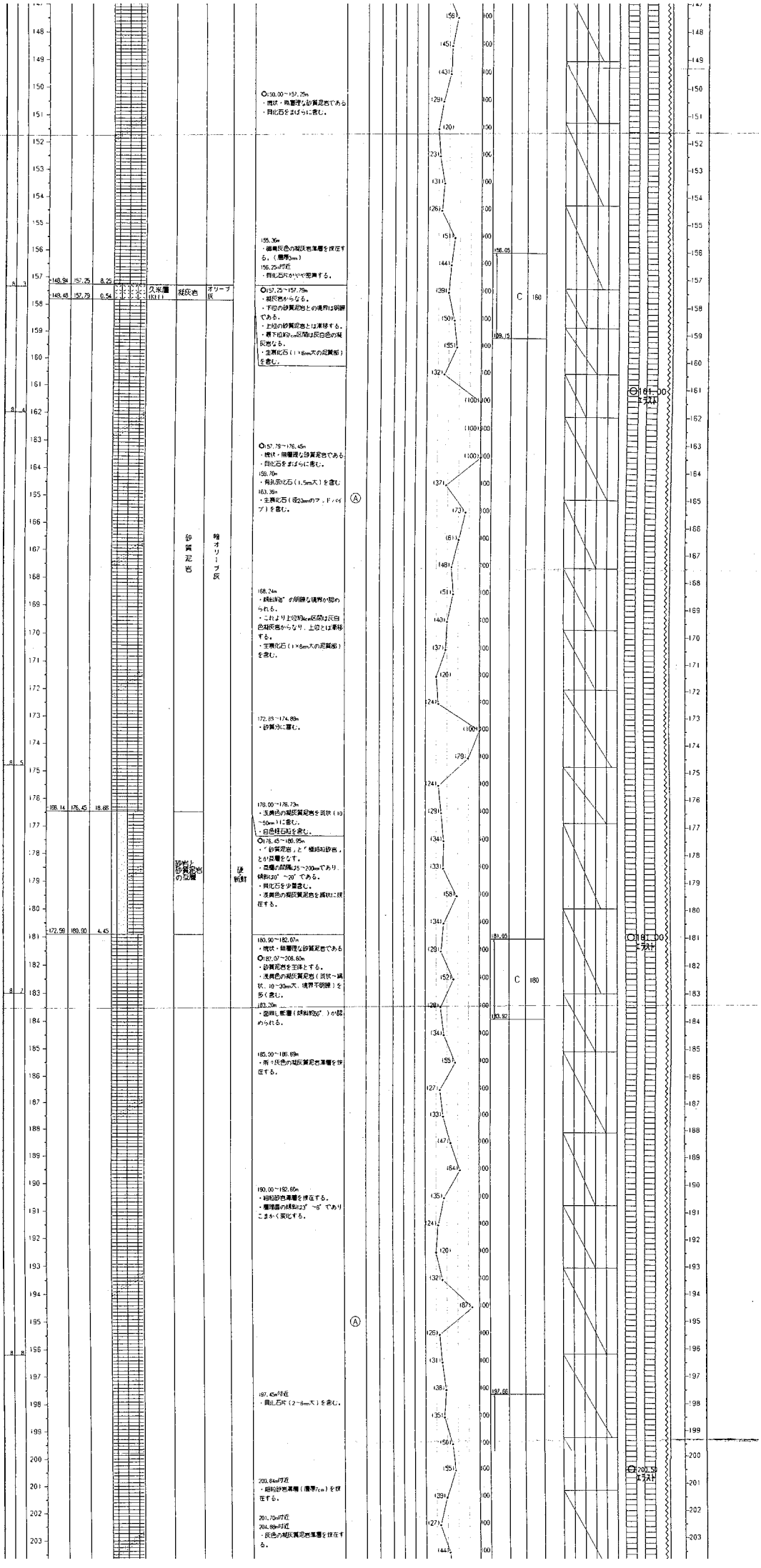
使用試錐機　D26-58、L-38　　掘削深度 GL- 408.00m

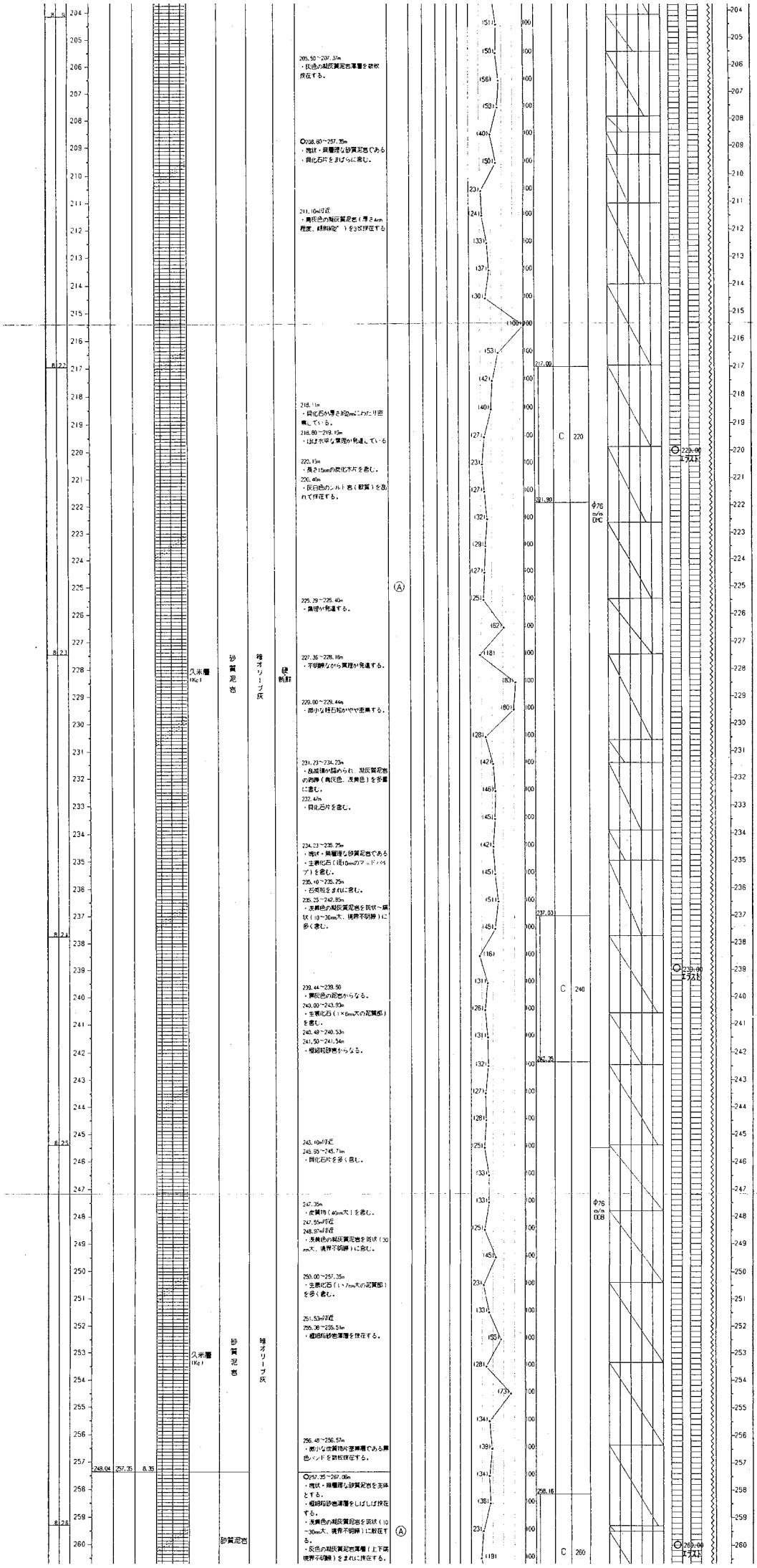




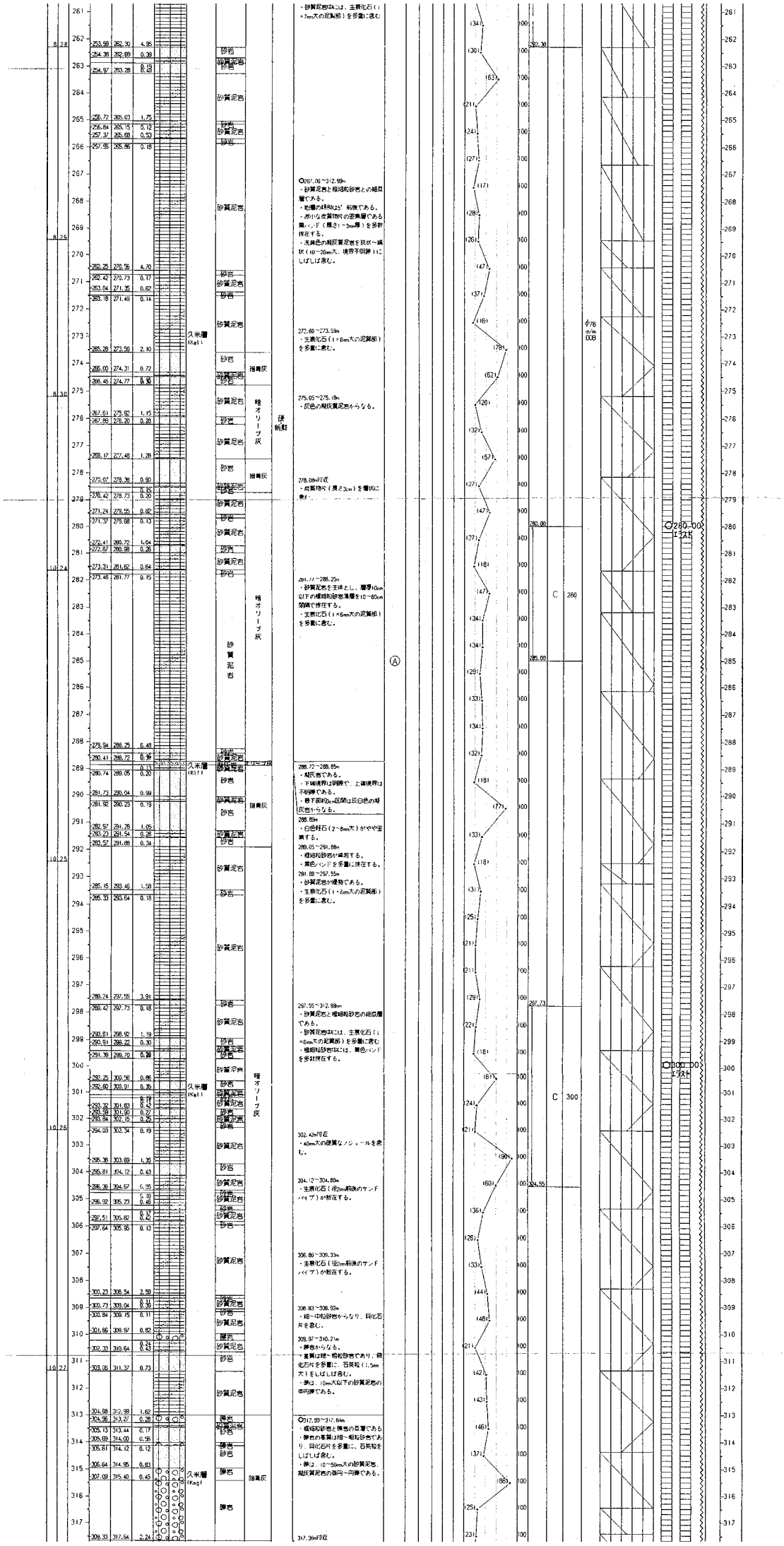
32.35～32.47m
・径1～5mmの灰白～灰色の軽石を多く含む。
32.43～32.47m
・軽石が密集し、層状を呈す。
・軽石層の傾斜は25°前後である
やや軟新鮮
硬新鮮
45.55～45.80m
・径1～3mmの白色の軽石が点在する。
久米層 (Kc)
砂質泥岩
暗オリーブ灰
やや軟新鮮
硬新鮮
49.30m付近
・厚さ2cmの淡黄色の凝灰質シルトであり、中に最大1cmの変化した軽石粒を含む。このシルトに沿って軟質化しており開口性の割れ目が見られる。
50.70m付近
・灰色の厚さ1cmの細粒砂岩を挟む。
51.92m付近
・径1～10mmの黒褐色のスコリア岩片を含む。
やや軟新鮮
54.10～55.00m
・この間やや砂分に富む砂質泥岩である。
硬新鮮
59.25m付近
・径1mm～2mmの灰白色の軽石が点在する。
60.00～66.62m
・暗緑灰色を呈する均質な砂質泥岩である。
・所々に貝化石片を含む。
61.83m付近
・0.7×5.5cm大の生痕化石が認められる。
66.20m付近
・淡黄色凝灰質泥岩の薄層を挟む
68.20～68.98m
淡黄色の凝灰質泥岩を斑状～縞状に所々含む。
久米層 (Kf)
凝灰岩
灰オリーブ
やや軟新鮮
○68.98～70.27m
・凝灰岩である。
・上位層とは漸移し下位に向かって凝灰質分が強くなる。
69.52m、69.74m付近
・2～5mm大の貝化石片を含む。
69.65m付近
・厚さ3cmの中粒砂岩層を挟む。
70.00～70.08m
・径2mm程度の白色軽石片と黄色の細粒状の鉱物片を含む。
硬新鮮
○70.27～90.00m
・暗オリーブ灰色を呈する均質な砂質泥岩である。
・全体に径0.2mm程度の貝化石片を極めてまれに含む。
・厚さ1.5cm程度の淡黄色凝灰質泥岩を層状あるいは塊状に含む。
72.00～74.20m
・葉理が発達している。
やや軟新鮮
81.35～89.85m
・所々に淡黄色の凝灰質泥岩を塊状(1～5cm大程度)に挟む。
81.80～88.60m
・所々にやや軟質(強い抵圧にて変形できる程度)な箇所が認められる。
硬新鮮
○90.00～114.00
・塊状・無層理な砂質泥岩からなる。
・所々に淡黄色の凝灰質シルト岩を塊状(1～3cm大)に挟む。
やや軟新鮮
φ76 m/m DMC
C 40
C 60
C 60
C 80
○40.00 エラスト
○60.00 エラスト
○80.00 エラスト

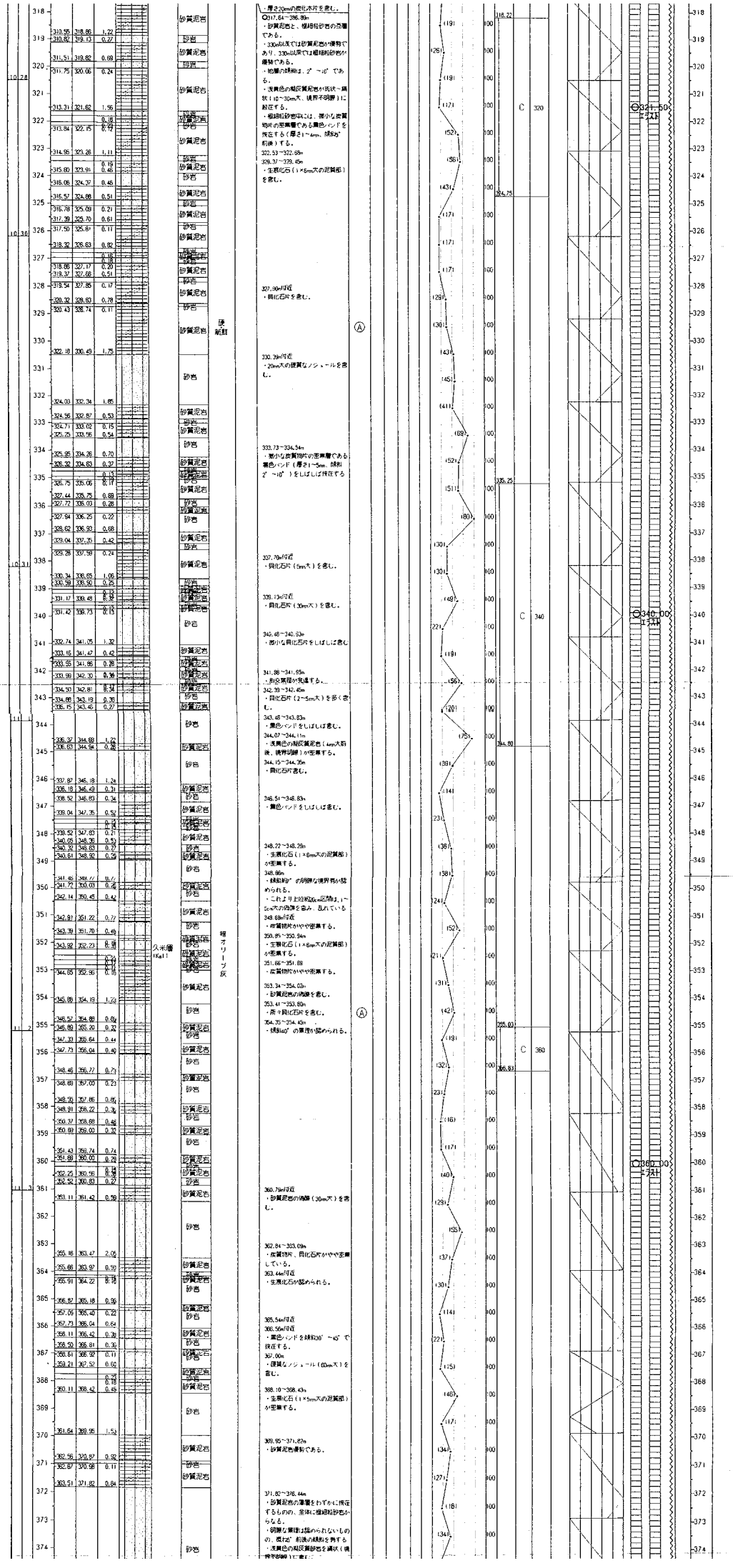

久米層
(Kg)
砂質泥岩
暗オリーブ灰
凝灰岩
オリーブ灰
硬
新鮮
やや軟
新鮮
98.16～98.25m
・灰オリーブ色を呈する凝灰質シルト岩からなる。上位層とは漸移関係にある。
98.25～98.26m
・泥炭の薄い中粗砂岩からなる。
・上・下位層との境界は明瞭である。
102.28～102.42m
・岩塊自体は軟質であるが、やや軟質（強い指圧により変形できる程度）である。
106.30～106.70m
107.17～107.72m
・礫径2㎜と比較してややシルト分が多く軟質である。
・107.34m付近に貝化石片が層状に密集している
111.85m付近
・長さ8㎝前後の貝化石片がほぼ水平に平行配列して密集している
114.00～115.75m
・暗緑灰色を呈する均質な砂質泥岩である。
・所々にやや軟質な部分が認められる。
115.75～116.60m
・凝灰岩である。
・上位層とは漸移関係にあり、下位に向かって凝灰質分が多くなる。
・下部1㎝には軽石（2～4㎜大）が密集している。
116.60～120.00m
・所々に砂質の薄層を挟む。
○120.00～130.00m
・暗緑灰色を呈する均質な砂質泥岩である。
125.53～125.56m
・細粒砂質の薄層である。1～2.5㎝大の貝化石片を多量に含む。
・下位層との境界の傾斜は5°程度。
129.52～129.57m
・灰色を呈するシルト岩である。
・上位層とは漸移関係にある。
・下位層との境界の傾斜は5°程度である。
○130.00～137.95m
・全体に径2～5㎜程度の白色軽石が散在し、特に134.20m付近にはやや密集している。
・132.65～132.73m間は細粒砂岩の薄層（厚さ1～3㎜）を多数挟む貝化石が密集している。
137.65～139.35m
・やや凝灰質な砂質泥岩である。
・葉理が発達している。
139.35～140.00m
・最所に短冊状の生痕化石（1×7㎜大程度）が密集している。
○140.00～150.00m
・所々に細粒砂岩の薄層（厚さ1～5㎝）を挟む。地層の傾斜は水平～5°程度である。
・それにオリーブ灰色を呈する凝灰質泥岩の薄層を挟む。
・最所に短冊状の生痕化石（1×7㎜大程度）が認められる。
C 100
C 120
C 140
○100.70
エスト
○119.50
エスト
○139.50
エスト


148.94 157.25 8.22 久米層(Kt1)
148.48 157.79 0.54
157.79 176.45 18.66
172.99 180.90 4.45
188.14 196.80 8.66
凝灰岩
砂質泥岩
砂岩と砂質泥岩の互層
オリーブ灰
暗オリーブ灰
硬質
A
A
C 160
C 180
181.00
181.00
156.05
159.15
181.95
183.92
197.66
200.59
150.00～157.25m
・塊状・無層理な砂質泥岩である。
・白色石をまばらに含む。
155.36m
・暗青灰色の凝灰岩薄層を挟在する。（層厚3cm）
156.25m付近
・白色石がやや多量する。
157.25～157.79m
・凝灰質からなる。
・下位の砂質泥岩との境界は明瞭である。
・上位の砂質泥岩とは漸移する。
・最下位約2cm区間は灰白色の凝灰岩なる。
・生痕化石（1×8mm大の泥質部）を含む。
157.79～176.45m
・塊状・無層理な砂質泥岩である。
・白色石をまばらに含む。
159.70m
・有孔虫化石（1.5mm大）を含む
163.35m
・生痕化石（径23mmのマッドパイプ）を含む。
168.24m
・鋭く明瞭な境界が認められる。
・これより上位約3cm区間は灰白色凝灰岩からなり、上位とは漸移する。
・生痕化石（1×8mm大の泥質部）を含む。
172.83～174.89m
・砂質分に富む。
176.00～176.73m
・玄黄色の凝灰質泥岩を斑状（10～50mm）に含む。
・白色柱石粒を含む。
176.45～180.95m
・「砂質泥岩」と「細粒砂岩」とが互層をなす。
・互層の間隔は5～200mmであり、傾斜は20°～29°である。
・白化石を少量含む。
・玄黄色の凝灰質泥岩を斑状に挟在する。
180.90～182.07m
・塊状・無層理な砂質泥岩である。
182.07～208.60m
・砂質泥岩を主体とする。
・玄黄色の凝灰質泥岩（斑状～縞状、10～30mm大、境界不明瞭）を多く含む。
183.20m
・細粗礫層（傾斜約60°）が認められる。
185.00～185.69m
・所々灰色の凝灰質泥岩薄層を挟在する。
190.00～192.60m
・細粒砂岩薄層を挟在する。
・層理面の傾斜は2°～6°でありこまかく変化する。
197.45m付近
・白化石片（2～8mm大）を含む。
200.84m付近
・細粒砂岩薄層（層厚7cm）を挟在する。
201.70m付近
204.80m付近
・灰色の凝灰質泥岩薄層を挟在する。

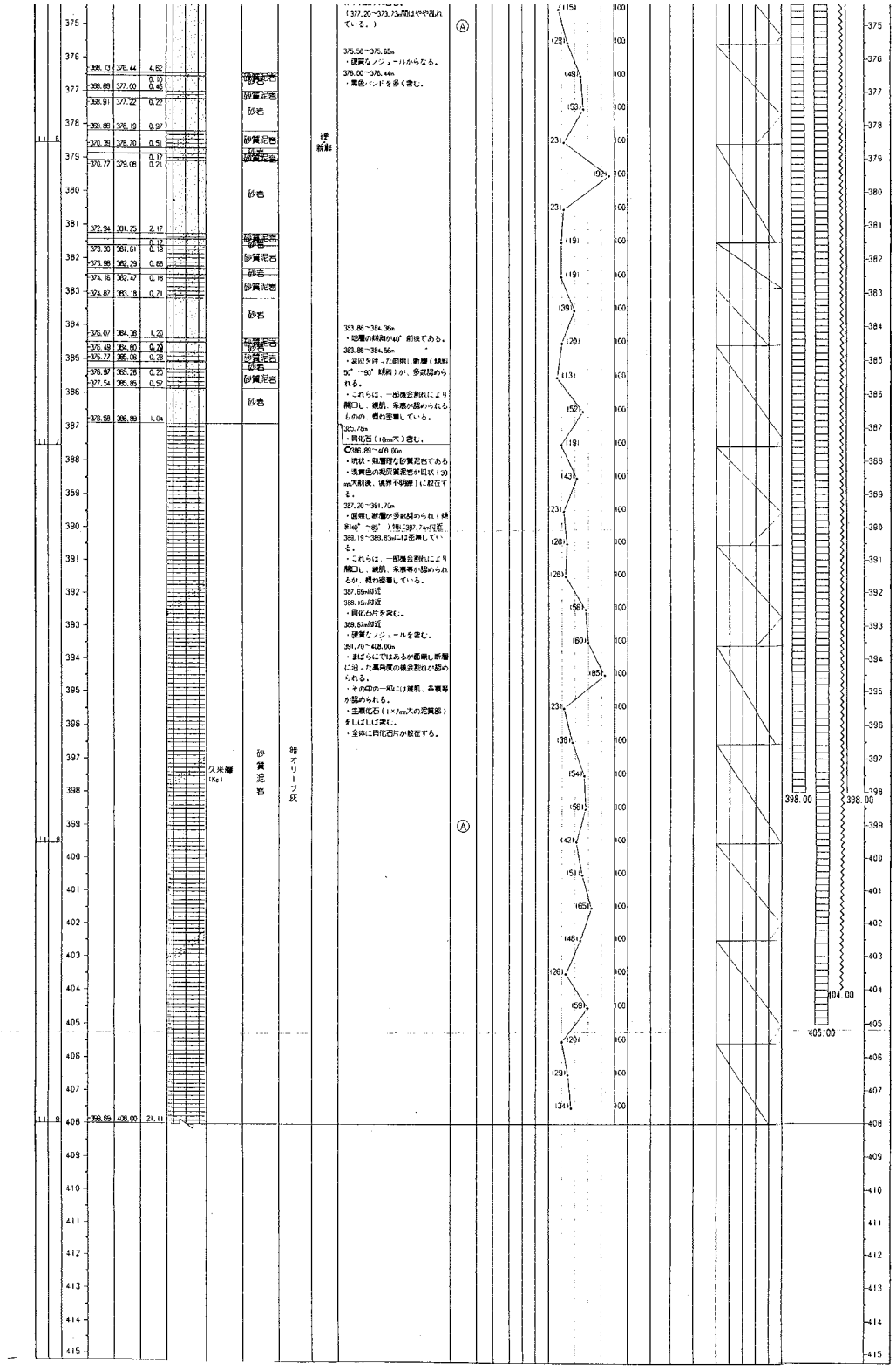


205.50～207.37m
・灰色の凝灰質泥岩薄層を数枚挟在する。
○208.60～257.35m
・塊状・無層理な砂質泥岩である
・貝化石片をまばらに含む。
211.10m付近
・黄灰色の凝灰質泥岩（厚さ4cm程度、縦割線2°）を3枚挟在する
218.11m
・貝化石が厚さ約2mmにわたり密集している。
218.80～219.10m
・ほぼ水平な葉理が発達している
220.15m
・長さ15mmの炭化木片を含む。
220.40m
・灰白色のシルト岩（軟質）を乱れて挟在する。
225.29～225.40m
・葉理が発達する。
227.35～228.16m
・不明瞭ながら葉理が発達する。
229.00～229.44m
・微小な軽石粒がやや密集する。
231.23～234.23m
・乱堆積が認められ、凝灰質泥岩の肉厚（黄灰色、淡黄色）を多量に含む。
232.47m
・貝化石片を含む。
234.23～235.25m
・塊状・無層理な砂質泥岩である
・生裏化石（径10mmのフィッドバイブ）を含む。
235.10～235.25m
・石英粒をまれに含む。
235.25～242.85m
・淡黄色の凝灰質泥岩を斑状～縞状（10～30mm大、境界不明瞭）に多く含む。
239.44～239.50
・黄灰色の泥岩からなる。
240.00～243.93m
・生裏化石（1×6mm大の泥質部）を含む。
240.49～240.53m
241.50～241.54m
・極細粒砂岩からなる。
245.10m付近
245.65～245.71m
・貝化石片を多く含む。
247.35m
・炭質物（40mm大）を含む。
247.55m付近
248.97m付近
・淡黄色の凝灰質泥岩を斑状（30mm大、境界不明瞭）に含む。
250.00～257.35m
・生裏化石（1×7mm大の泥質部）を多く含む。
251.53m付近
255.38～255.51m
・極細粒砂岩薄層を挟在する。
256.48～256.57m
・微小な炭質物片密集層である黒色バンドを数枚挟在する。
○257.35～267.06m
・塊状・無層理な砂質泥岩を主体とする。
・極細粒砂岩薄層をしばしば挟在する。
・淡黄色の凝灰質泥岩を斑状（10～30mm大、境界不明瞭）に散在する。
・灰色の凝灰質泥岩薄層（上下端境界不明瞭）をまれに挟在する。
久米層（Kc）
砂質泥岩
暗オリーブ灰
硬新鮮
Ⓐ
C 220
C 240
C 260
φ76 m/m DHC
φ76 m/m DDB
○229.00 エラスト
○239.00 エラスト
○260.00 エラスト
248.04
257.35
8.35


・砂質泥岩中には、生痕化石（1×7cm大の短冊状）を多量に含む。
○267.00～312.99m
・砂質泥岩と極細粒砂岩との細互層である。
・乾燥の経時変化が顕著である。
・淡リな生質物からの遊離層である薄バンド（厚さ1～3cm厚）を多数挟在する。
・灰黄色の縞状泥質泥岩を斑状～縞状（10～20cm大、境界不明瞭）にしばしば含む。
270.60～273.59m
・生痕化石（1×6cm大の泥質団）を多量に含む。
275.05～275.18m
・灰色の凝灰質泥岩からなる。
278.08m付近
・炭質物片（長さ3cm）を層状に含む。
281.77～288.25m
・砂質泥岩を主体とし、層厚10cm以下の極細粒砂岩薄層を10～80cmの間隔で挟在する。
・生痕化石（1×6cm大の泥質団）を多量に含む。
286.72～288.85m
・凝灰岩である。
・下端境界は明瞭で、上端境界は不明瞭である。
・最下部(0cm区間は灰白色の凝灰岩からなる。
288.85m
・白色軽石（2～8mm大）がやや密集する。
289.05～291.88m
・極細粒砂岩が卓越する。
・黒色バンドを多量に挟在する。
291.88～297.55m
・砂質泥岩が優勢である。
・生痕化石（1×6cm大の泥質団）を多量に含む。
297.55～312.99m
・砂質泥岩と極細粒砂岩の細互層である。
・砂質泥岩中には、生痕化石（1×6cm大の泥質団）を多量に含む。
・極細粒砂岩中には、黒色バンドを多数挟在する。
302.42m付近
・40cm大の礫質なノジュールを含む。
304.12～304.80m
・生痕化石（径2cm前後のサンドパイプ）が散在する。
306.86～306.33m
・生痕化石（径2cm前後のサンドパイプ）が散在する。
306.83～308.92m
・細～中粗砂岩からなり、貝化石片を含む。
309.97～310.21m
・礫岩からなる。
・礫種は暗～褐緑砂岩であり、貝化石片を多量に、石英粒（1.5mm大）をしばしば含む。
・礫は10cm大以下の砂質泥岩の亜円礫である。
○312.99～317.64m
・極細粒砂岩と礫岩の互層である。
・礫岩の基質は暗～褐緑砂岩であり、貝化石片を多量に、石英粒をしばしば含む。
・礫は10cm大以下の砂質泥岩、凝灰質泥岩の亜円～円礫である。
317.36m付近
久米層 (Kg1)
久米層 (Kg1)
久米層 (Kg1)
久米層 (Kag)
砂質泥岩
暗オリーブ灰
褐灰
C 260
C 300
φ76 m/m 008
○280.00 エスト
○300.00 エスト



・厚さ20cmの炭化木片を含む。
○317.64～386.89m
・砂質泥岩と、極細粒砂岩の互層である。
・330m以浅では砂質泥岩が優勢であり、330m以深では極細粒砂岩が優勢である。
・地層の傾斜は、2°～10°である。
・浅黄色の凝灰質泥岩が既状～縞状（10～30cm大、境界不明瞭）に挟在する。
・極細粒砂岩中には、微小な炭質物片の密集層である黒色バンドを挟在する（厚さ1～4mm、傾斜5°前後）する。
322.53～322.68m
329.37～329.45m
・生痕化石（1×6mm大の泥質部）を含む。
327.90m付近
・貝化石片を含む。
330.39m付近
・20mm大の硬質なノジュールを含む。
333.73～334.54m
・微小な炭質物片の密集層である黒色バンド（厚さ1～5mm、傾斜2°～10°）をしばしば挟在する
337.70m付近
・貝化石片（5mm大）を含む。
339.13m付近
・貝化石片（30mm大）を含む。
340.48～340.63m
・微小な貝化石片をしばしば含む
341.88～341.95m
・斜交葉理が発達する。
342.39～342.45m
・貝化石片（2～5cm大）を多く含む。
343.48～343.83m
・黒色バンドをしばしば含む。
344.07～344.11m
・浅黄色の凝灰質泥岩（4mm大前後、境界明瞭）が密集する。
344.15～344.35m
・貝化石片含む。
346.51～346.83m
・黒色バンドをしばしば含む。
348.22～348.29m
・生痕化石（1×6mm大の泥質部）が密集する。
348.86m
・傾斜約0°の明瞭な境界有が認められる。
・これより上位約20cm区間は、1～5cm大の偽礫を含み、乱れている
349.68m付近
・炭質物片がやや密集する。
350.85～350.94m
・生痕化石（1×6mm大の泥質部）が密集する。
351.66～351.89
・炭質物片がやや密集する。
353.34～354.02m
・砂質泥岩の偽礫を含む。
353.41～353.80m
・所々貝化石片を含む。
354.35～354.45m
・傾斜40°の葉理が認められる。
360.79m付近
・砂質泥岩の偽礫（30mm大）を含む。
362.84～363.09m
・炭質物片、貝化石片がやや密集している。
363.44m付近
・生痕化石が認められる。
365.54m付近
366.56m付近
・黒色バンドを傾斜30°～45°で挟在する。
367.00m
・硬質なノジュール（60mm大）を含む。
368.10～368.43m
・生痕化石（1×5mm大の泥質部）が密集する。
369.95～371.82m
・砂質泥岩優勢である。
371.82～376.44m
・砂質泥岩の薄層をわずかに挟在するものの、全体に極細粒砂岩からなる。
・明瞭な葉理は認められないものの、概ね2°前後の傾斜を有する
・浅黄色の凝灰質砂岩を縞状（境界不明瞭）に含む。



(注) 1. 試料採取方法

C:ボーリングコア試料
P:伊豆式試験による試料
D:[illegible]型サンプラーによる試料
T:固定ピストン式シンウォールサンプラーによる試料

2. コアチューブ・ビットの種類

SMC:シングルコアチューブ・メタルクラウン
DMC:ダブルコアチューブ・メタルクラウン
DDB:ダブルコアチューブ・ダイヤモンドビット
TMC:トリプルコアチューブ・メタルクラウン
TDB:トリプルコアチューブ・ダイヤモンドビット

3. 原位置試験・検層実施状況

O:孔内水平載荷試験
□:間隙水圧測定
B:PS検層(現たたき方式)
B:PS検層(サスペンション方式)
S:電気検層
|:密度検層
⋮:キャリパー検層

TOUGOU Ver 1.00 1996-03-18 21:57:5

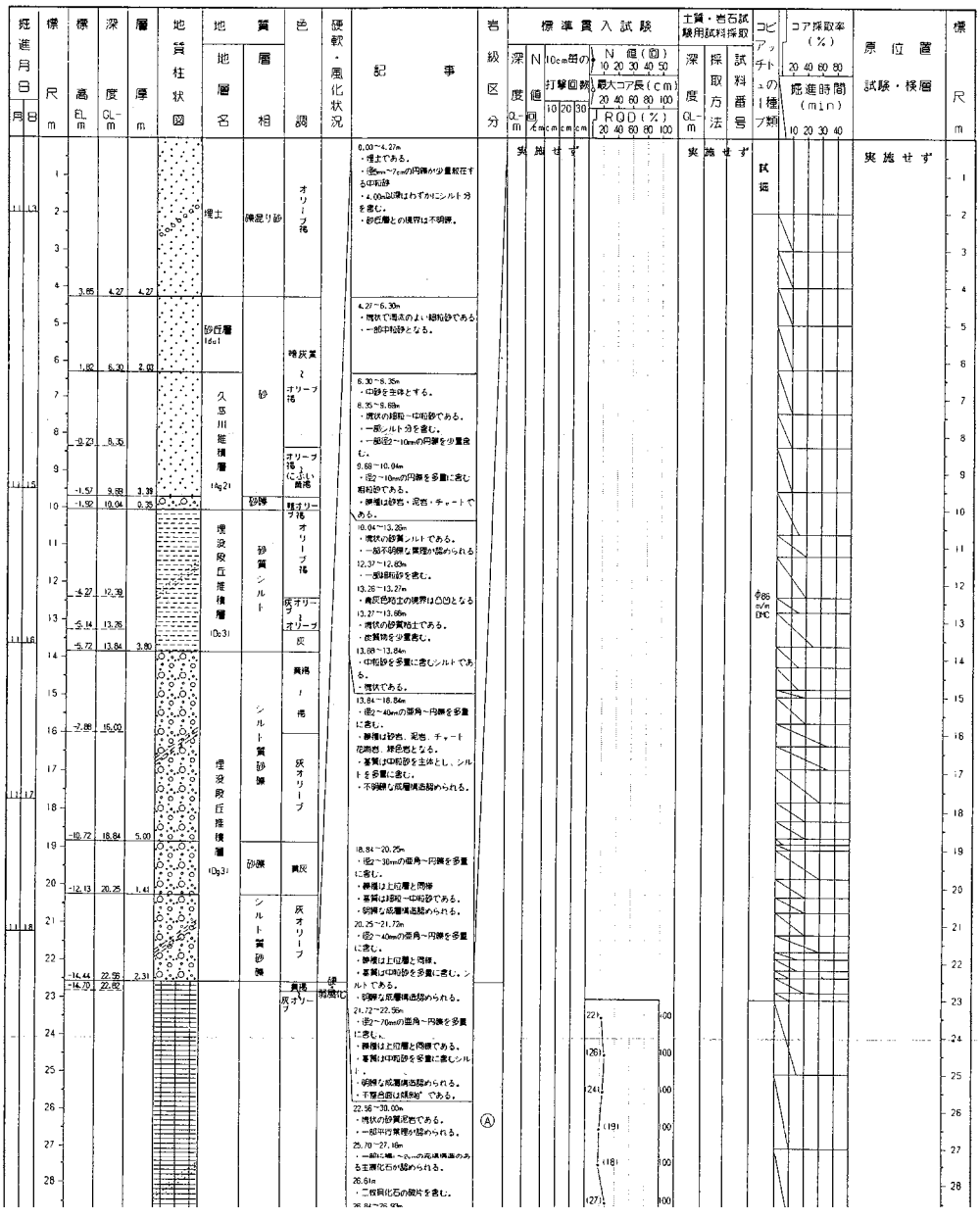
D－4　　ボーリング柱状図

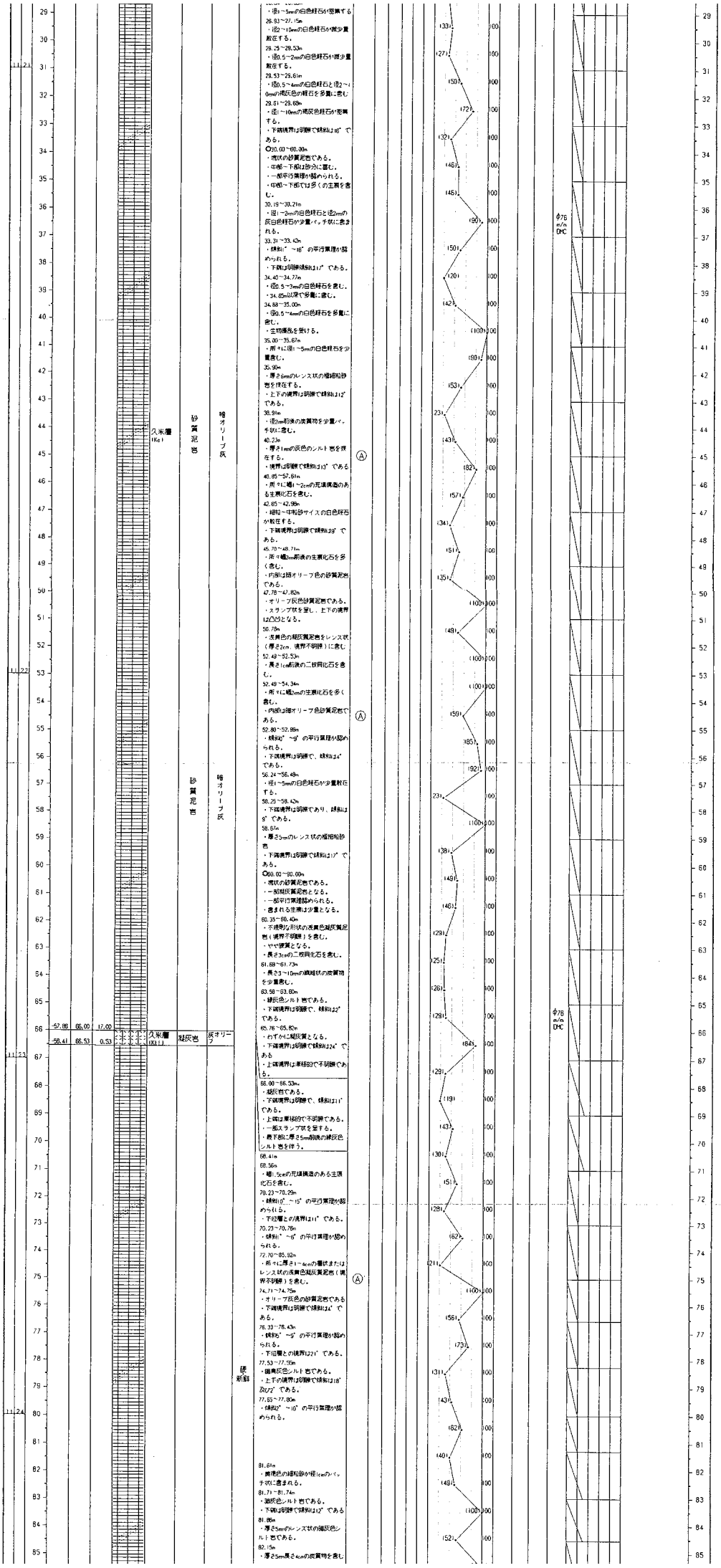
件　　名　東海第二発電所使用済燃料貯蔵設備設置に係るボーリング調査他　　主任技術者

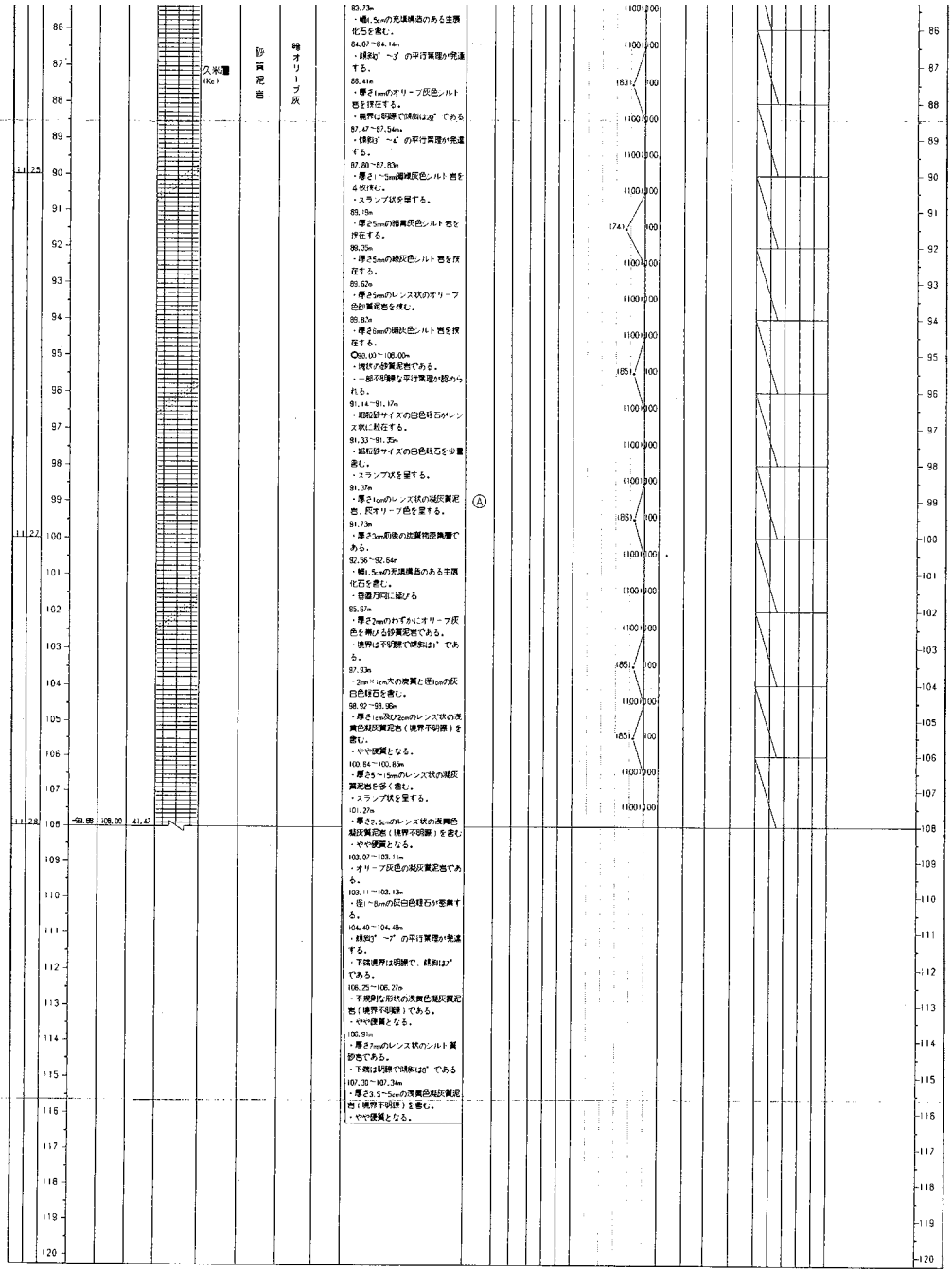
調　査　地　茨城県那珂郡東海村大字白方1-1　　孔口標高 EL +8.12m　　[redacted]

調査期間　平成7年11月15日～7年11月28日　　最終孔内水位 GL- 8.58m (EL -0.46m)　　コア観察者

使用試錐機　YBM－3（吉田鉄工製）　　掘削深度 GL- 108.00m　　[redacted]




久米層
(Ke)
砂質泥岩
暗オリーブ灰
-57.86
66.00
17.00
-58.41
66.53
0.53
久米層
(Ke1)
凝灰岩
灰オリーブ
φ76
m/m
DPC
φ76
m/m
DPC



（注） 1．試料採取方法

C：ボーリングコア試料
P：標準貫入試験による試料
D：デニソン型サンプラーによる試料
T：固定ピストン式シンウォールサンプラーによる試料

2．コアチューブ・ビットの種類

SMC：シングルコアチューブ・メタルクラウン
DMC：ダブルコアチューブ・メタルクラウン
DDB：ダブルコアチューブ・ダイヤモンドビット
TMC：トリプルコアチューブ・メタルクラウン
TDB：トリプルコアチューブ・ダイヤモンドビット

3．原位置試験・検層実施状況

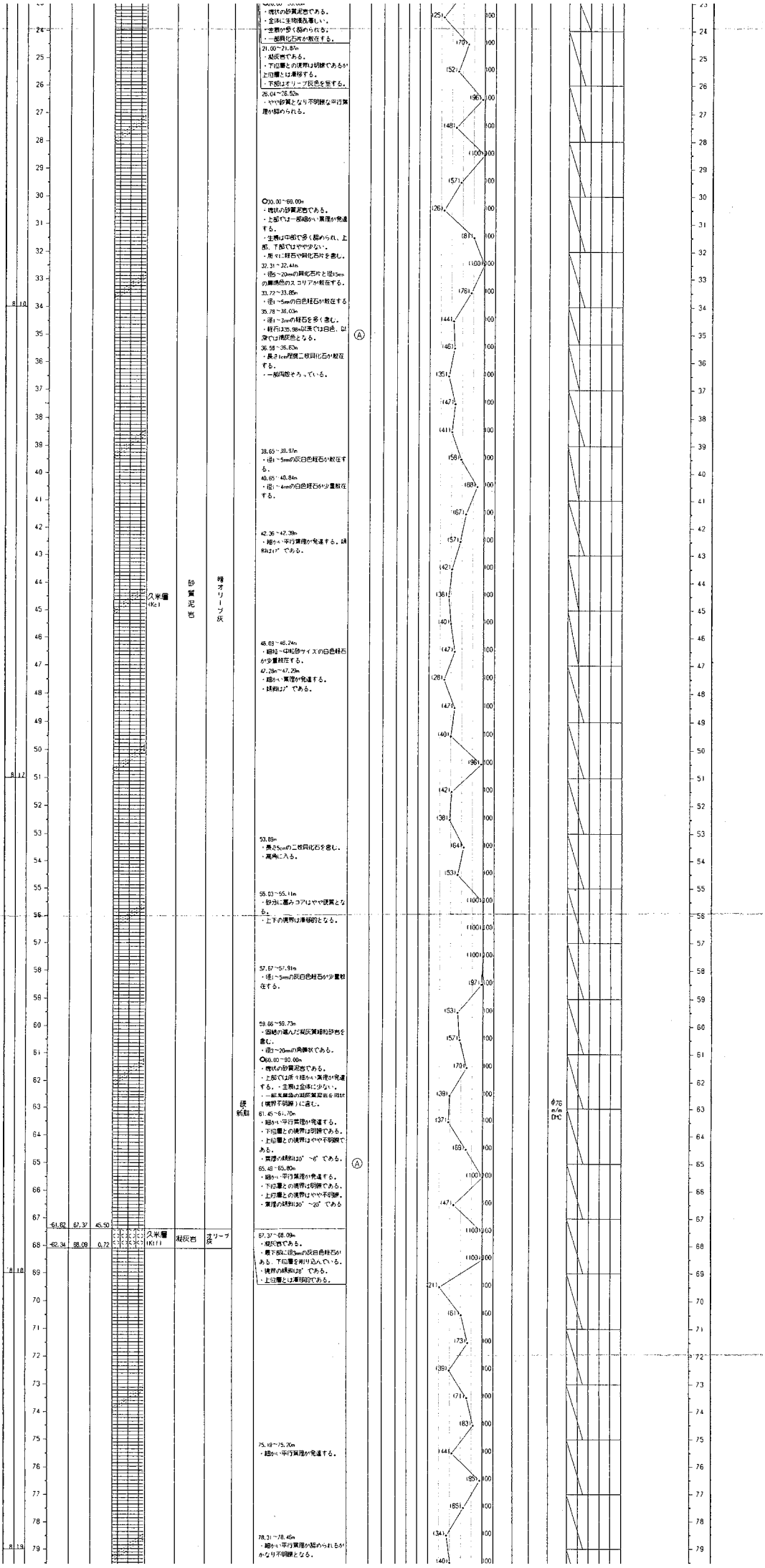
○：孔内水平載荷試験
Ⓤ：間隙水圧測定
Ⓟ：PS検層（板たたき方式）
Ⓟ：PS検層（サスペンション方式）
Ⓢ：電気検層
┃：密度検層
┆：キャリパー検層

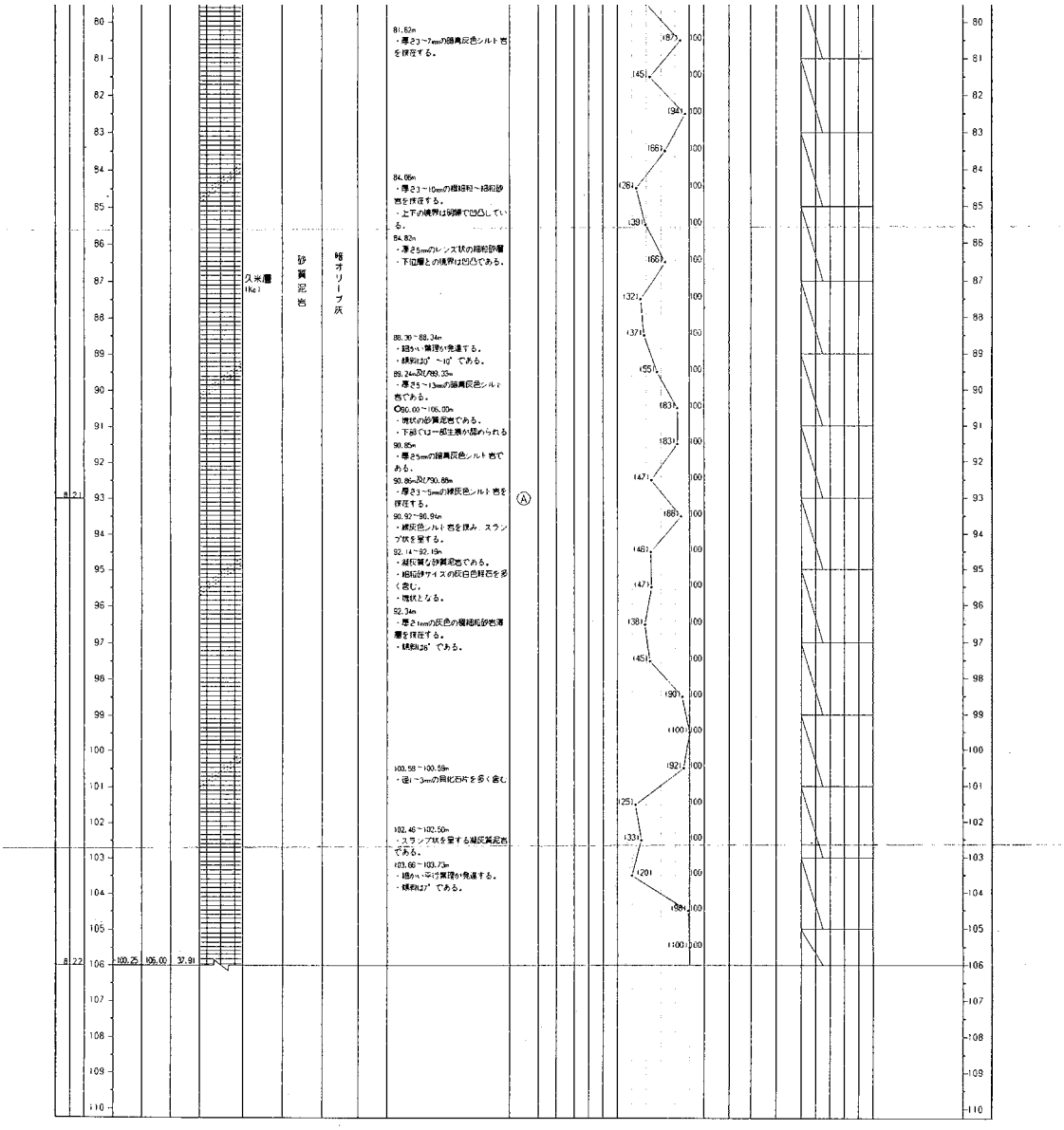
TOUGOU Ver 1.00 1996-03-18 18:33:09

E－1　ボーリング柱状図

件名	東海第二発電所使用済燃料貯蔵設備設置に係るボーリング調査他		主任技術者
調査地	茨城県那珂郡東海村大字白方1-1	孔口標高 EL +5.75m	[redacted]
調査期間	平成 7年8月3日～7年8月22日	最終孔内水位 GL- 6.35m (EL -0.60m)	コア観察者
使用試錐機	YBM－3（吉田鉄鋼製）	掘削深度 GL- 106.00m	[redacted]

掘進月日 月	掘進月日 日	標尺 m	標高 EL m	深度 GL-m	層厚 m	地質柱状図	地質 地層名	地質 層相	色調	硬軟・風化状況	記事	岩級区分	標準貫入試験 深度 GL-m	N値 回/cm	10cm毎の打撃回数 10cm	20cm	30cm	N値(回) 10 20 30 40 50 / 最大コア長(cm) 20 40 60 80 100 / RQD(%) 20 40 60 80 100	土質・岩石試験用試料採取 深度 GL-m	採取方法	試料番号	コピアッチュの1種プ	コア採取率(%) 20 40 60 80 / 掘進時間(min) 10 20 30 40	原位置試験・検層	標尺 m
			5.60	0.15	0.15		表土				0.00～0.15m ・表土である。		実施せず						実施せず			試掘		実施せず	
2	13	1									0.15～4.50m ・塊状の中粒砂を主体とし、一部細粒砂を含む。 ・海浜良い。 ・未固結で非常にゆるい。 ・下位層（Ag2）とは漸移的である。														
5	3	2					砂丘層 (du)																		
		3																							
		4	1.25	4.50	4.35			砂	オリーブ褐																
		5									4.50～7.90m ・中～粗砂からなる。														
		6																							
		7																							
8	4	8	-2.15	7.90	3.40		久慈川堆積層 (Ag2)																		
		9	-3.49	9.24	1.34			腺混り砂	暗灰黄		7.90～9.24m ・径5mm前後の円礫を少量含む。 ・礫種は砂岩、チャートが主体。 ・基質は9.10m以深では中粒～粗粒砂、以深では細粒砂となる。 ○9.24～12.31m ・塊状の細粒砂である。 9.85～9.93m ・粗粒砂がくさび状に入る。 12.31～12.40m ・径2～5cm円礫を多く含む中粒砂からなる。 ・海浜悪い。 ・礫種は砂岩、チャート、花崗岩である。														
8	5	10						砂	灰オリーブ																
		11																							
		12	-6.65	12.40	3.16				暗オリーブ灰～オリーブ灰													φ86 m/m DHC			
			-6.84	12.59					弱黄灰																
		13	-7.10	12.85			(Oc3)	シルト	暗オリーブ灰		12.40～12.59m ・やや凝灰質となるシルトである 12.59～12.85m ・凝灰質シルトである。 12.85～13.56m ・塊状のシルトである。														
			-7.81	13.56	1.16				暗緑灰																
		14	-8.45	14.20					緑灰																
8	7	15	-9.54	15.29			埋没段丘堆積層 (Dg3)	腺混り砂	暗緑灰		13.56～14.20m ・径1cm前後の亜円礫を含む。 ・細粒砂と細粒砂の互層である。 ・礫種は砂岩、花崗岩である。 14.20～15.29m ・径5～10mm前後の亜角～亜円礫を含む中粒～細粒砂である。 ・礫種は砂岩、泥岩、チャートである。 15.29～19.10m ・径5～20mmの亜円礫を含む中粒～細粒砂である。 ・礫種は砂岩、花崗岩、珪質泥岩を含む。チャートは少ない。 19.10～19.80m ・塊状の中粒砂からなる。海浜良い。 19.80～19.78m ・径2～4cmの亜円礫を多く含む中粒砂である。 ・礫種は砂岩、花崗岩である。 19.78～20.00m ・塊状のシルトである。 ・一部に炭質物を含む。 ○20.00～20.60m																		
8	8	16																							
		17																							
		18																							
		19	-13.35	19.10	5.54			砂																	
8	9		-13.85	19.60	0.50			腺混り砂	暗灰																
		20	-14.03	19.78	0.18		(Oc3)	シルト	暗灰																
			-14.25	20.00	0.22		久米層 (Kc)	砂質泥岩	暗オリーブ灰																
		21	-15.25	21.00	1.22																				
			-16.12	21.87	0.87		久米層 (Kf)	凝灰岩	オリーブ灰																
		22																							
		23																							


・機状の砂質泥岩である。
・全体に生物擾乱著しい。
・生痕が多く認められる。
・一部貝化石片が散在する。
21.00~21.87m
・凝灰岩である。
・下位層との境界は明瞭であるが上位層とは漸移する。
・下部はオリーブ灰色を呈する。
26.04~26.52m
・やや砂質となり不明瞭な平行葉理が認められる。
○30.00~60.00m
・機状の砂質泥岩である。
・上部では一部細かい葉理が発達する。
・生痕は中部で多く認められ、上部、下部ではやや少ない。
・所々に軽石や貝化石片を含む。
32.31~32.44m
・径5~20mmの貝化石片と径15mmの黒褐色のスコリアが散在する。
33.72~33.85m
・径1~5mmの白色軽石が散在する
35.78~36.03m
・径1~3mmの軽石を多く含む。
・軽石は35.38mBSまでは白色、以深では褐灰色となる。
36.58~36.83m
・長さ1cm程度二枚貝化石が散在する。
・一部凝灰そう化している。
38.65~38.97m
・径1~5mmの灰白色軽石が散在する。
40.65~40.84m
・径1~4mmの白色軽石が少量散在する。
42.36~42.38m
・細かい平行葉理が発達する。鍵層Kn21である。
46.03~46.24m
・細粒~中粒砂サイズの白色軽石が少量散在する。
47.29m~47.29m
・細かい葉理が発達する。
・鍵層はである。
53.89m
・長さ5cmの二枚貝化石を含む。
・高角に入る。
55.03~55.11m
・砂分に富みコアはやや硬質となる。
・上下の境界は漸移的となる。
57.67~57.91m
・径1~5mmの灰白色軽石が少量散在する。
59.66~59.73m
・淘汰の進んだ凝灰質細粒砂岩を含む。
・径1~20mmの角礫状である。
○60.00~80.00m
・機状の砂質泥岩である。
・上部では所々細かい葉理が発達する。・生痕は全体に少ない。
・一部炭質物の凝灰質凝灰岩を斑状(境界不明瞭)に含む。
61.45~61.70m
・細かい平行葉理が発達する。
・下位層との境界は明瞭である。
・上位層との境界はやや不明瞭である。
・葉理の傾斜は20°~6°である。
65.48~65.80m
・細かい平行葉理が発達する。
・下位層との境界は明瞭である。
・上位層との境界はやや不明瞭。
・葉理の傾斜は30°~20°である
67.37~68.09m
・凝灰岩である。
・層下部に径3mmの灰白色軽石がある。下位層を削り込んでいる。
・境界の傾斜は8°である。
・上位層とは漸移的である。
75.19~75.20m
・細かい平行葉理が発達する。
78.31~78.45m
・細かい平行葉理が認められるがかなり不明瞭となる。
久米層 (Kc1)
砂質泥岩
暗オリーブ灰
硬質
-61.62
67.37
45.50
-62.34
68.09
0.72
久米層 (Kc1)
凝灰岩
オリーブ灰
B-10
B-12
B-18
B-19
A
A
水位 m/m DMC



（注） 1．試料採取方法

C：ボーリングコア試料
P：標準貫入試験による試料
D：デニソン型サンプラーによる試料
T：固定ピストン式シンウォールサンプラーによる試料

2．コアチューブ・ビットの種類

SMC：シングルコアチューブ・メタルクラウン
DMC：ダブルコアチューブ・メタルクラウン
DDB：ダブルコアチューブ・ダイヤモンドビット
TMC：トリプルコアチューブ・メタルクラウン
TDB：トリプルコアチューブ・ダイヤモンドビット

3．原位置試験・検層実施状況

○：孔内水平載荷試験
□：間隙水圧測定
B：PS検層（板たたき方式）
B：PS検層（サスペンション方式）
S：電気検層
I：密度検層
：キャリパー検層

TOUCOU Ver.1.00 1996-03-21 10:37:2.

E-3　　ボーリング柱状図

件　　名　東海第二発電所使用済燃料貯蔵設備設置に係るボーリング調査他

調　査　地　茨城県那珂郡東海村大字白方1-1

調査期間　7年6月26日～7年8月26日

使用試錐機　D2-K，NAS-2

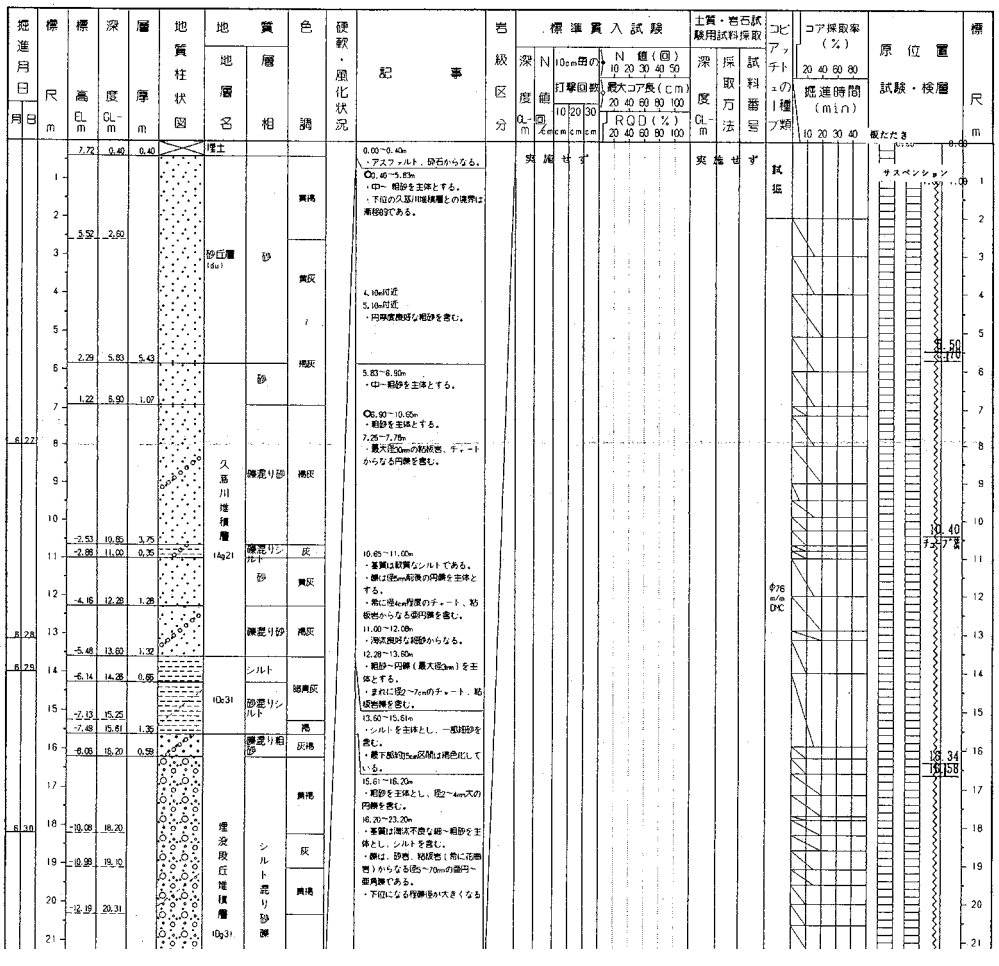
孔口標高　EL　+8.12m

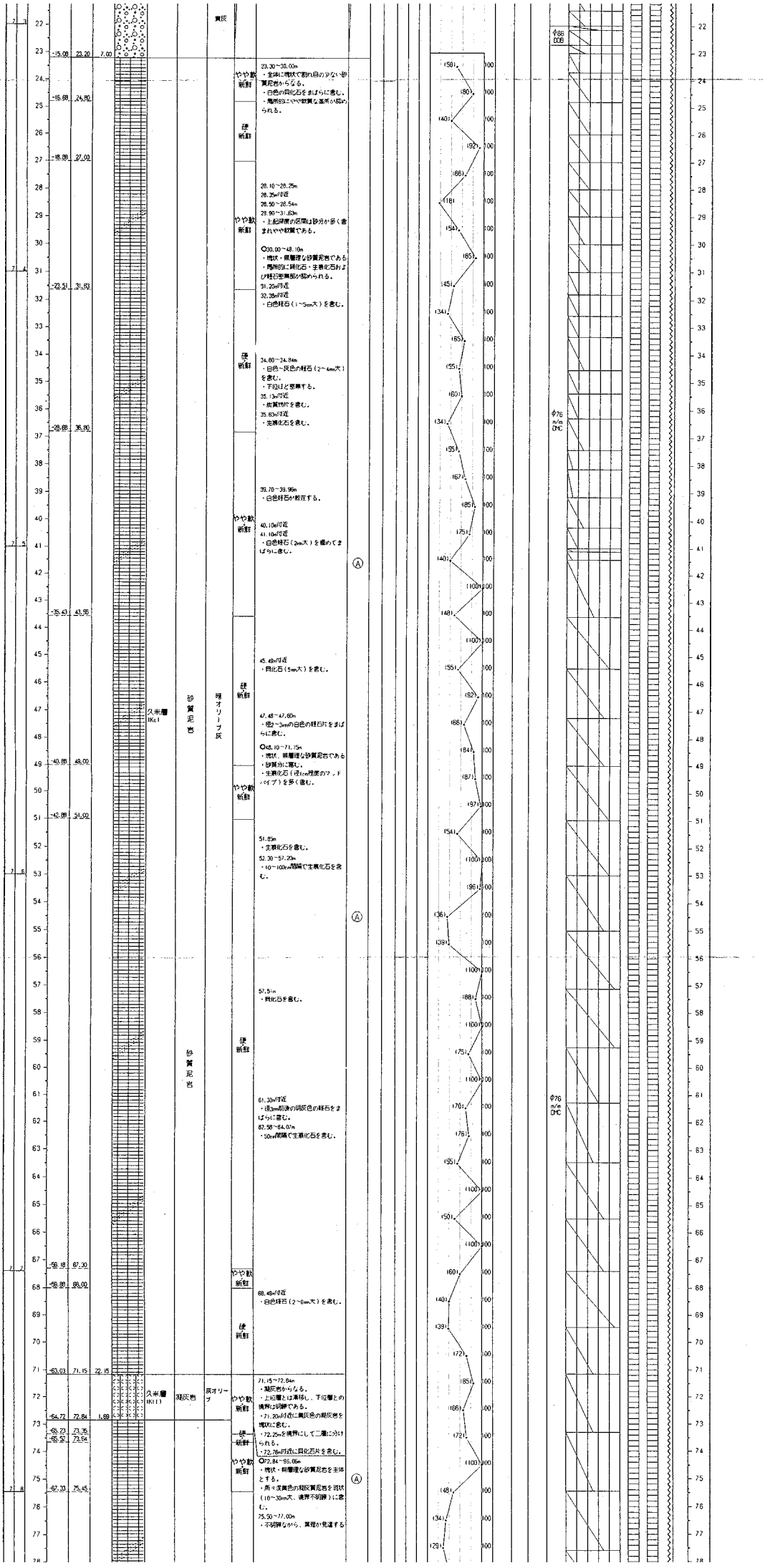
最終孔内水位　GL-　10.90m（EL　-2.78m）

掘削深度　GL-　218.00m

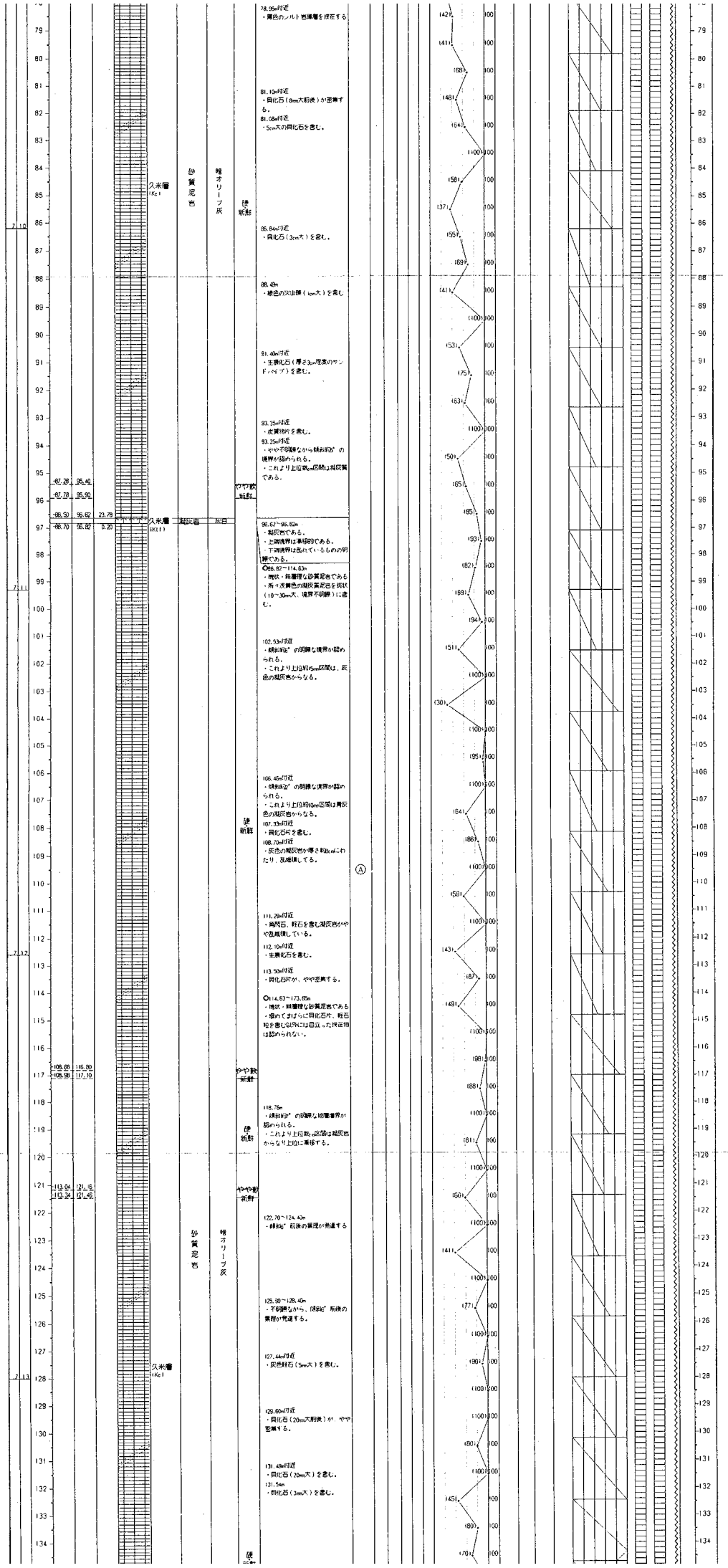
主任技術者　[redacted]

コア観察者　[redacted]

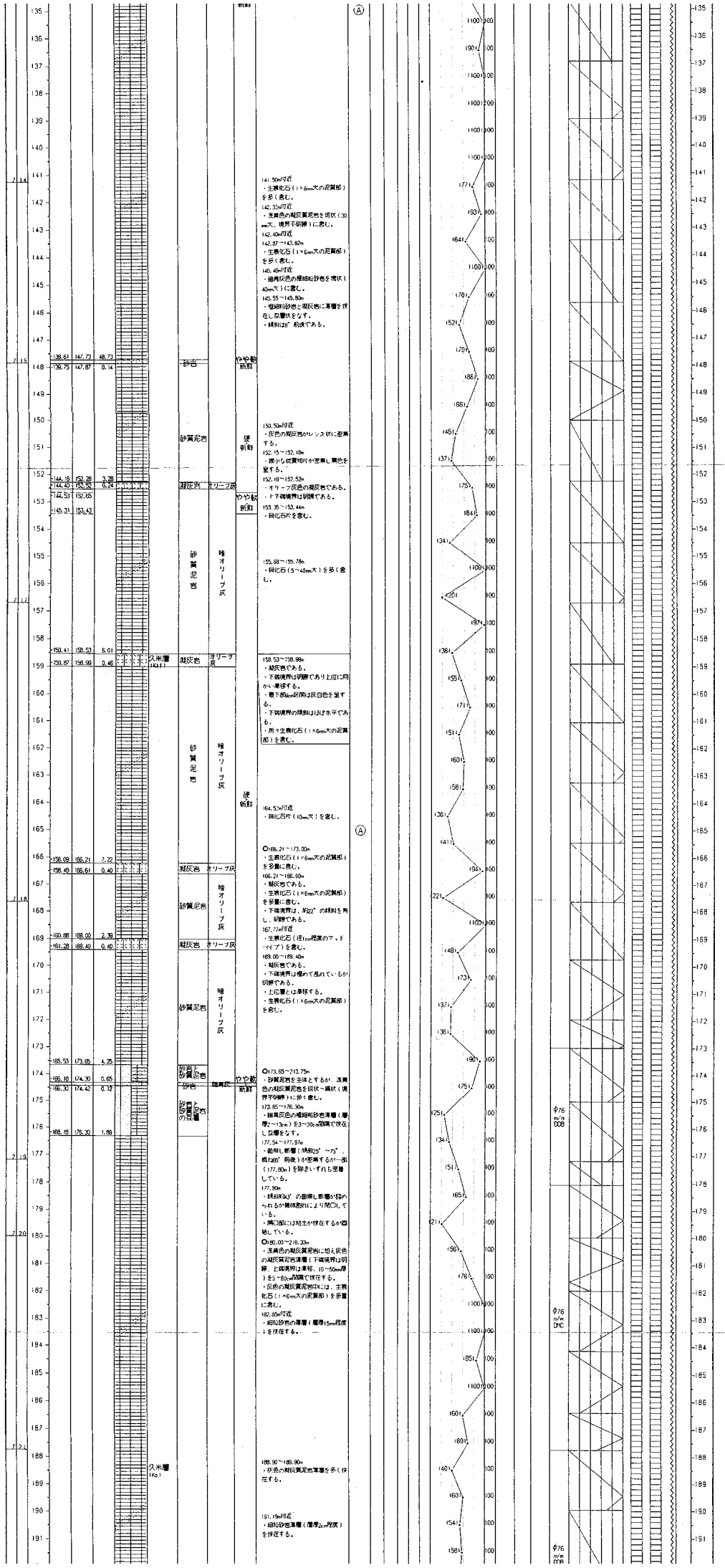


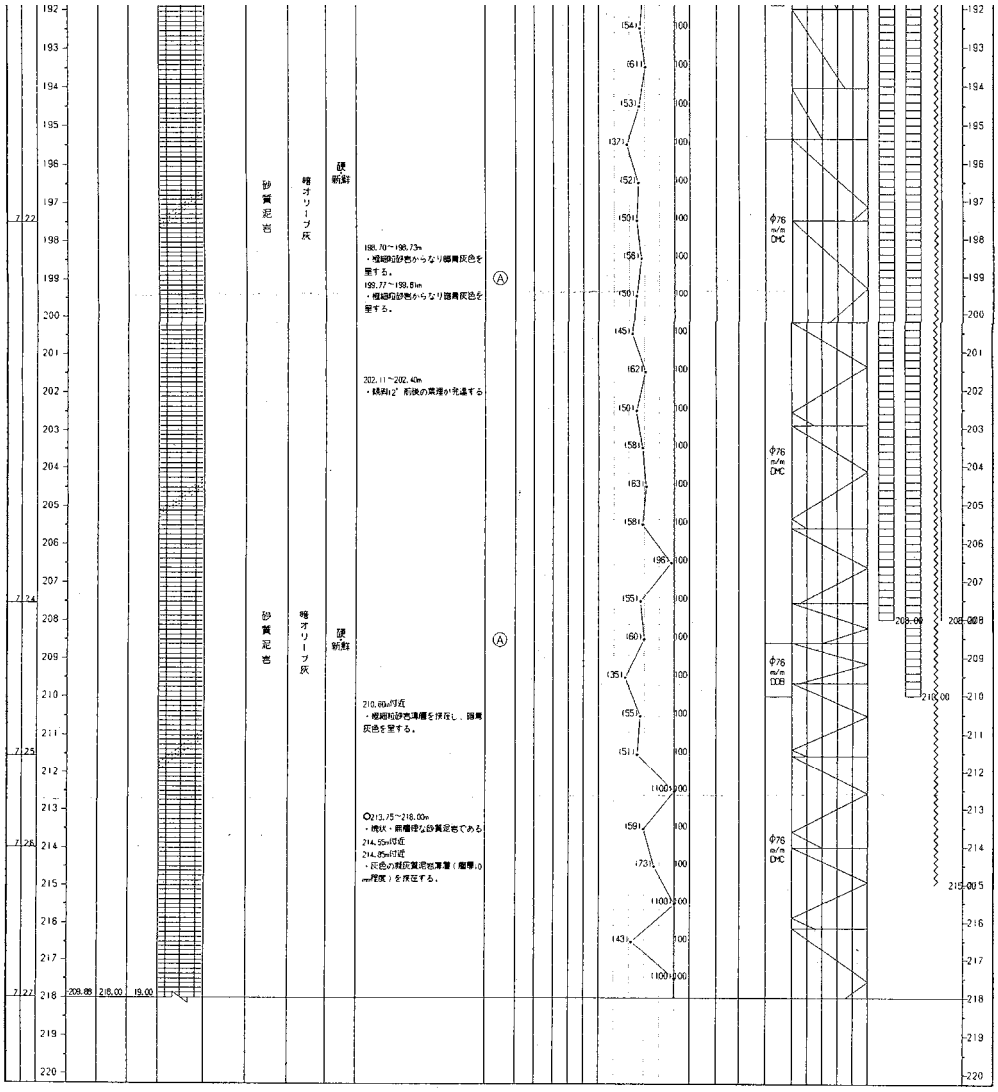


黄灰
久米層 IKc1
砂質泥岩
暗オリーブ灰
砂質泥岩
久米層 IKt1
凝灰岩
灰オリーブ
やや軟 新鮮
硬 新鮮
23.30～30.00m
・全体に塊状で割れ目の少ない砂質泥岩からなる。
・白色の貝化石をまばらに含む。
・馬所的にやや軟質な箇所が認められる。
28.10～28.25m
28.35m付近
28.50～28.54m
29.90～31.63m
・上記硬度の区間は砂分が多く含まれやや軟質である。
○30.00～48.10m
・塊状・無層理な砂質泥岩である
・馬所的に貝化石・生痕化石および軽石密集部が認められる。
31.20m付近
32.35m付近
・白色軽石（1～5mm大）を含む。
34.80～34.84m
・白色～灰色の軽石（2～4mm大）を含む。
・下位ほど密集する。
35.13m付近
・炭質物片を含む。
35.83m付近
・生痕化石を含む。
39.70～39.96m
・白色軽石が散在する。
40.10m付近
41.10m付近
・白色軽石（2mm大）を極めてまばらに含む。
45.49m付近
・貝化石（5mm大）を含む。
47.48～47.60m
・径2～3mmの白色の軽石片をまばらに含む。
○48.10～71.15m
・塊状、無層理な砂質泥岩である
・砂質分に富む。
・生痕化石（径1cm程度のフッドパイプ）を多く含む。
51.85m
・生痕化石を含む。
52.30～57.20m
・10～100cm間隔で生痕化石を含む。
57.51m
・貝化石を含む。
61.30m付近
・径3mm前後の明灰色の軽石をまばらに含む。
62.58～64.07m
・50cm間隔で生痕化石を含む。
68.48m付近
・白色軽石（2～6mm大）を含む。
71.15～72.84m
・凝灰岩からなる。
・上位層とは漸移し、下位層との境界は明瞭である。
・71.20m付近に黄灰色の凝灰岩を塊状に含む。
・72.25mを境界にして二層に分けられる。
・72.78m付近に貝化石片を含む。
○72.84～96.06m
・塊状・無層理な砂質泥岩を主体とする。
・所々淡黄色の凝灰質泥岩を塊状（10～30mm大、境界不明瞭）に含む。
75.50～77.00m
・不明瞭ながら、異理が発達する
Ⓐ
φ86 DDB
φ76 m/m DMC



久米層 (Kc)
砂質泥岩
暗オリーブ灰
硬新鮮
ややや軟新鮮
久米層 (Kc)
凝灰岩
灰白
78.95m付近
・黒色のシルト岩薄層を挟在する
81.10m付近
・貝化石（8mm大前後）が密集する。
81.08m付近
・5cm大の貝化石を含む。
86.84m付近
・貝化石（3cm大）を含む。
88.49m
・緑色の火山礫（1cm大）を含む
91.40m付近
・生痕化石（厚さ3cm程度のサンドパイプ）を含む。
93.35m付近
・炭質物片を含む。
93.35m付近
・やや不明瞭ながら"頻斜紋"の境界が認められる。
・これより上位約6cm区間は凝灰質である。
96.67～96.80m
・凝灰岩である。
・上端境界は漸移的である。
・下端境界は乱れているものの明瞭である。
○96.82～114.63m
・塊状・細層理な砂質泥岩である
・所々炭黄色の凝灰質泥岩を斑状（10～30mm大、境界不明瞭）に含む。
102.53m付近
・"頻斜紋"の明瞭な境界が認められる。
・これより上位約15mm区間は、灰色の凝灰岩からなる。
106.46m付近
・"頻斜紋"の明瞭な境界が認められる。
・これより上位約10mm区間は青灰色の凝灰岩からなる。
107.33m付近
・貝化石片を含む。
108.70m付近
・灰色の凝灰岩が厚さ約8cmにわたり、乱雑填してる。
111.29m付近
・角閃石、軽石を含む凝灰岩がやや乱雑填している。
112.10m付近
・生痕化石を含む。
113.50m付近
・貝化石片が、やや密集する。
○114.63～173.85m
・塊状・細層理な砂質泥岩である
・焼めてまばらに貝化石片、軽石粒を含む以外には目立った挟在物は認められない。
118.76m
・"頻斜紋"の明瞭な細層境界が認められる。
・これより上位約6cm区間は凝灰岩からなり上位に漸移する。
122.70～124.40m
・"頻斜紋"前後の葉理が発達する
125.90～128.40m
・不明瞭ながら、"頻斜紋"前後の葉理が発達する。
127.44m付近
・灰色軽石（5mm大）を含む。
129.60m付近
・貝化石（20mm大前後）が、やや密集する。
131.49m付近
・貝化石（20mm大）を含む。
131.54m
・貝化石（3mm大）を含む。
Ⓐ


141.50m付近
・生痕化石（1×6mm大の泥質部）を多く含む。
142.32m付近
・淡黄色の凝灰質泥岩を斑状（30mm大、境界不明瞭）に含む。
142.40m付近
142.87～143.82m
・生痕化石（1×6mm大の泥質部）を多く含む。
145.45m付近
・暗青灰色の極細粒砂岩を塊状（40mm大）に含む。
145.55～145.80m
・極細粒砂岩と凝灰岩に薄層を挟在し互層状をなす。
・葉理は8°前後である。
150.50m付近
・灰色の凝灰岩がレンズ状に密集する。
152.15～152.40m
・淡りな炭質物片が密集し黒色を呈する。
152.48～152.52m
・オリーブ灰色の凝灰岩である。
・上下端境界は明瞭である。
153.35～153.44m
・凝化石片を含む。
155.68～155.78m
・凝化石（5～40mm大）を多く含む。
158.53～158.98m
・凝灰岩である。
・下端境界は明瞭であり上位に向かい漸移する。
・最下部6cm区間は灰白色を呈する。
・下端境界の傾斜はほぼ水平である。
・所々生痕化石（1×6mm大の泥質部）を含む。
164.53m付近
・凝化石片（10mm大）を含む。
○166.21～173.00m
・生痕化石（1×6mm大の泥質部）を多量に含む。
166.21～166.90m
・凝灰岩である。
・生痕化石（1×6mm大の泥質部）を多量に含む。
・下端境界は、N22°の傾斜を有し、明瞭である。
167.72m付近
・生痕化石（径1cm程度のアナベイプ）を含む。
169.00～169.40m
・凝灰岩である。
・下端境界は極めて乱れているが明瞭である。
・上位層とは漸移する。
・生痕化石（1×6mm大の泥質部）を含む。
○173.85～213.75m
・砂質泥岩を主体とするが、淡黄色の凝灰質泥岩を斑状～塊状（境界不明瞭）に多く含む。
173.85～176.30m
・暗黒灰色の極細粒砂岩薄層（層厚2～15cm）を3～30cm間隔で挟在し互層をなす。
177.54～177.91m
・逆傾し断層（映画N2°～N7°W傾き60°前後）が密集するが一部（177.80m）を除きいずれも密着している。
177.80m
・葉理面N3°Eの逆傾し断層が認められるが礫細割により開口している。
・断層面には粘土が挟在するが固結している。
○180.00～210.30m
・淡黄色の凝灰質泥岩に加え灰色の凝灰質泥岩薄層（下端境界は明瞭、上端境界は漸移、10～50mm厚）を5～80cm間隔で挟在する。
・灰色の凝灰質泥岩Bには、生痕化石（1×6mm大の泥質部）を多量に含む。
182.85m付近
・細粒砂岩の薄層（層厚15mm程度）を挟在する。
188.90～189.90m
・灰色の凝灰質泥岩薄層を多く挟在する。
191.19m付近
・細粒砂岩薄層（層厚2cm程度）を挟在する。
φ76 m/m 008
φ76 m/m DHC
φ76 m/m 008



（注） 1．試料採取方法

C：ボーリングコア試料
P：標準貫入試験による試料
D：デニソン型サンプラーによる試料
T：固定ピストン式シンウォールサンプラーによる試料
T・T・S：トリプルチューブサンプラー

2．コアチューブ・ビットの種類

SMC：シングルコアチューブ・メタルクラウン
DMC：ダブルコアチューブ・メタルクラウン
DOB：ダブルコアチューブ・ダイヤモンドビット
TMC：トリプルコアチューブ・メタルクラウン
TOB：トリプルコアチューブ・ダイヤモンドビット

3．原位置試験・検層実施状況

○：孔内水平載荷試験
□：間隙水圧測定
B：PS検層（板たたき方式）
B：PS検層（サスペンション方式）
S：電気検層
I：密度検層
：キャリパー検層
工：透水試験

TOUGOU Ver-1.00 1996-03-18 18:48:1[illegible]

E-5　　ボーリング柱状図

件　　名　東通第二発電所使用済燃料貯蔵設備設置に係るボーリング調査他

調　査　地　茨城県那珂郡東通村大字白方[illegible]

調査期間　平成7年8月31日～7年9月15日

使用試錐機　YBM-3（吉田鉄工製）

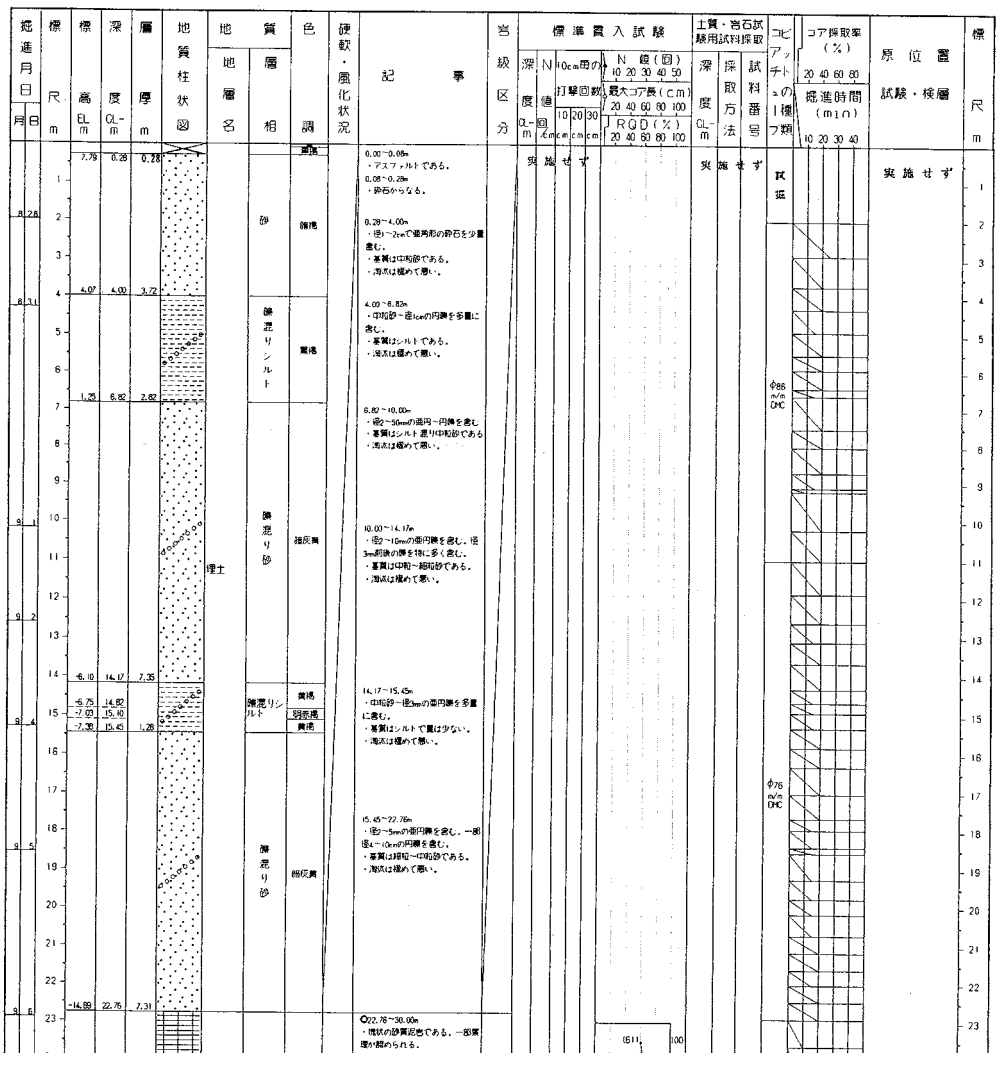
孔口標高 EL　+8.07 m

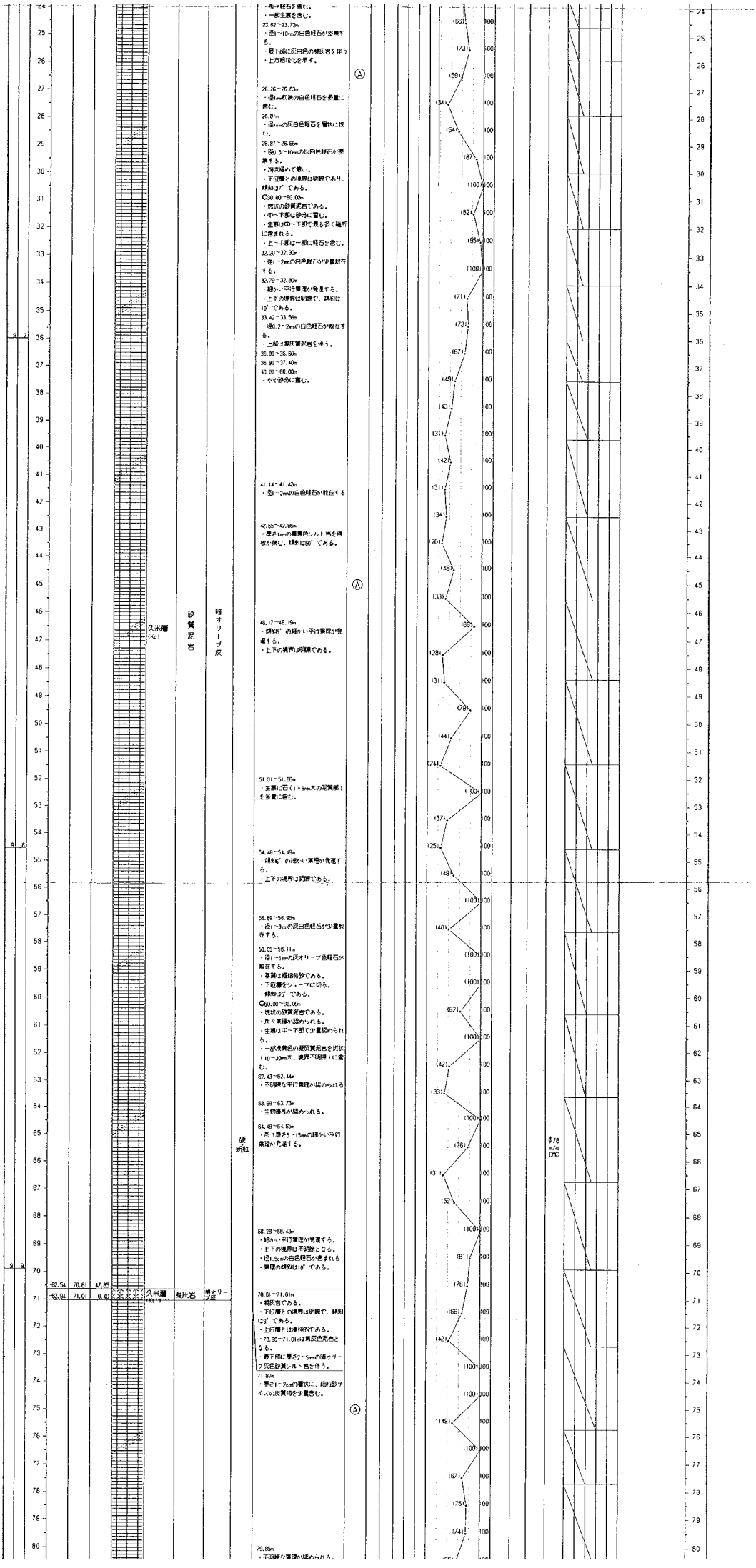
最終孔内水位 GL-　14.35 m (EL　-6.28 m)

掘削深度 GL-　108.00 m

主任技術者　[redacted]

コア観察者　[redacted]





・所々軽石を含む。
・一部生痕を含む。
23.62～23.72m
・径1～10mmの白色軽石が密集する。
・最下部に灰白色の凝灰岩を伴う
・上方細粒化を示す。

26.76～26.83m
・径1mm前後の白色軽石を多量に含む。
26.81m
・径1cmの灰白色軽石を層状に挟む。
26.87～26.95m
・径0.5～10mmの灰白色軽石が密集する。
・海流極めて穏い。
・下位層との境界は明瞭であり、傾斜は7°である。
○90.00～60.00m
・塊状の砂質泥岩である。
・中～下部は砂分に富む。
・生痕は中～下部で最も多く箇所に含まれる。
・上～中部は一部に軽石を含む。
32.20～32.30m
・径1～2mmの白色軽石が少量散在する。
32.79～32.80m
・細かい平行葉理が発達する。
・上下の境界は明瞭で、傾斜は10°である。
33.42～33.56m
・径0.2～2mmの白色軽石が散在する。
・上部は凝灰質泥岩を伴う。
36.00～36.60m
36.90～37.40m
40.00～60.00m
・やや砂分に富む。

41.14～41.42m
・径1～2mmの白色軽石が散在する

42.65～42.86m
・厚さ1mmの黄黒色シルト岩を何枚か挟む。傾斜は50°である。

46.17～46.19m
・傾斜5°の細かい平行葉理が発達する。
・上下の境界は明瞭である。

51.91～51.86m
・生痕化石（1×6mm大の泥質部）を多量に含む。

54.48～54.49m
・傾斜6°の細かい葉理が発達する。
・上下の境界は明瞭である。

56.89～56.95m
・径1～3mmの灰白色軽石が少量散在する。
58.05～58.11m
・径1～5mmの灰オリーブ色軽石が散在する。
・基質は極細粒砂である。
・下位層をシャープに切る。
・傾斜は5°である。
○60.00～90.00m
・塊状の砂質泥岩である。
・所々葉理が認められる。
・生痕は中～下部で少量認められる。
・一部洗黄色の凝灰質泥岩を挿状（10～30mm大、境界不明瞭）に含む。
62.43～62.44m
・不明瞭な平行葉理が認められる

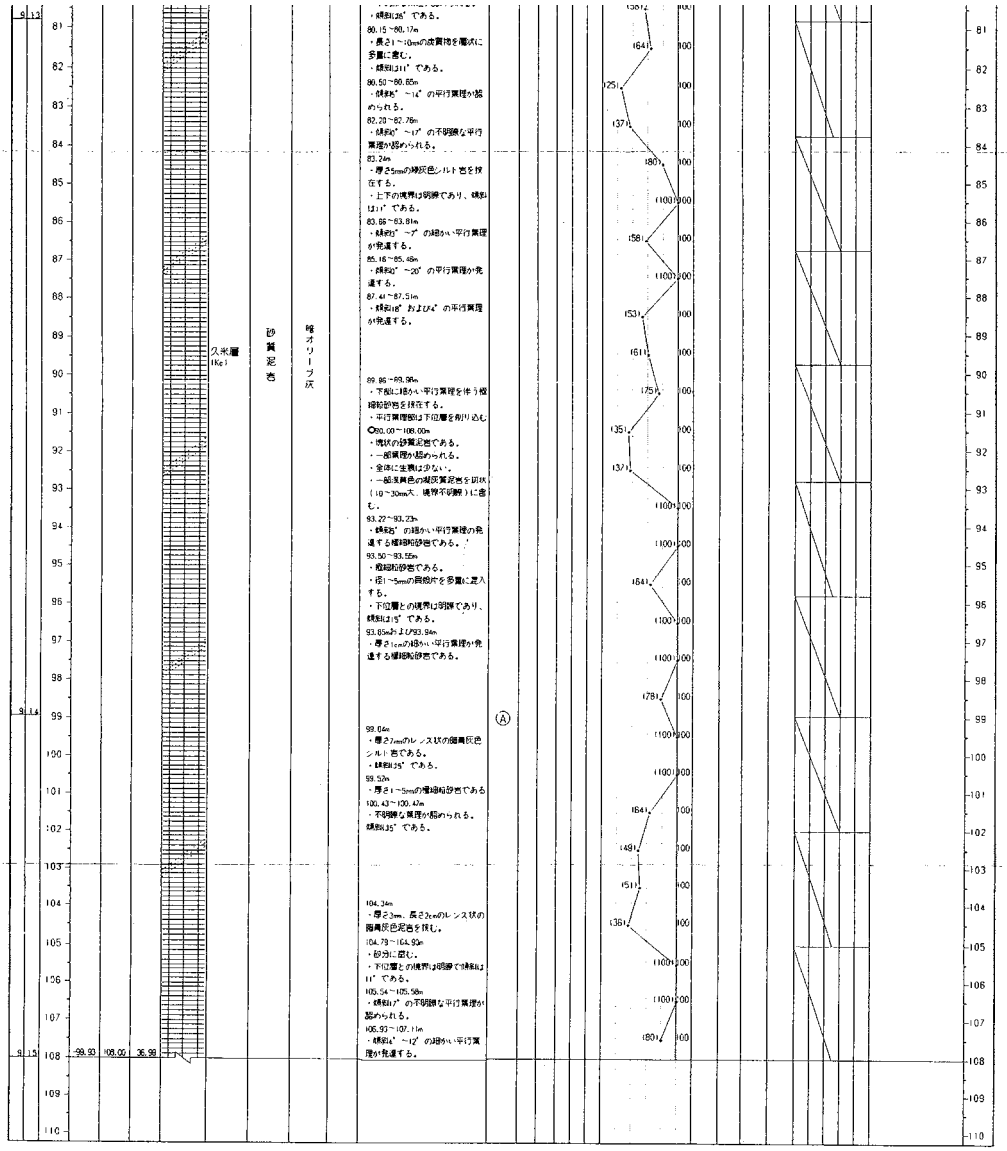
63.69～63.73m
・生物痕跡が認められる。
64.49～64.65m
・所々厚さ5～15mmの細かい平行葉理が発達する。

68.28～68.43m
・細かい平行葉理が発達する。
・上下の境界は不明瞭となる。
・径1.5cmの白色軽石が含まれる
・葉理の傾斜は10°である。

70.61～71.01m
・凝灰岩である。
・下位層との境界は明瞭で、傾斜は9°である。
・上位層とは漸移的である。
・70.98～71.01mは黄灰色泥岩となる。
・最下部に厚さ2～5mmの暗オリーブ灰色砂質シルト岩を伴う。

71.82m
・厚さ1～2cmの層状に、細粒砂サイズの炭質物を少量含む。

79.85m
・不明瞭な葉理が認められる。



（注） 1．試料採取方法

C：ホーリングコア 試料
P：標準貫入試験による試料
D：デニソン型サンプラーによる試料
T：固定ピストン式シンウォールサンプラーによる試料

2．コアチューブ・ビットの種類

SMC：シングルコアチューブ・メタルクラウン
DMC：ダブルコアチューブ・メタルクラウン
DDB：ダブルコアチューブ・ダイヤモンドビット
TMC：トリプルコアチューブ・メタルクラウン
TDB：トリプルコアチューブ・ダイヤモンドビット

3．原位置試験・検層実施状況

：孔内水平載荷試験
：間隙水圧測定
：PS検層（板たたき方式）
：PS検層（サスペンション方式）
：電気検

TOUGOU Ver 1.00 1996-03-18 22:54:20

E-6　　ボーリング柱状図

件　　名　東海第二発電所使用済燃料貯蔵施設設置に係るボーリング調査他

調　査　地　茨城県那珂郡東海村大字白方1-1

調査期間　平成7年8月28～7年8月29日

使用試錐機　YBM-3

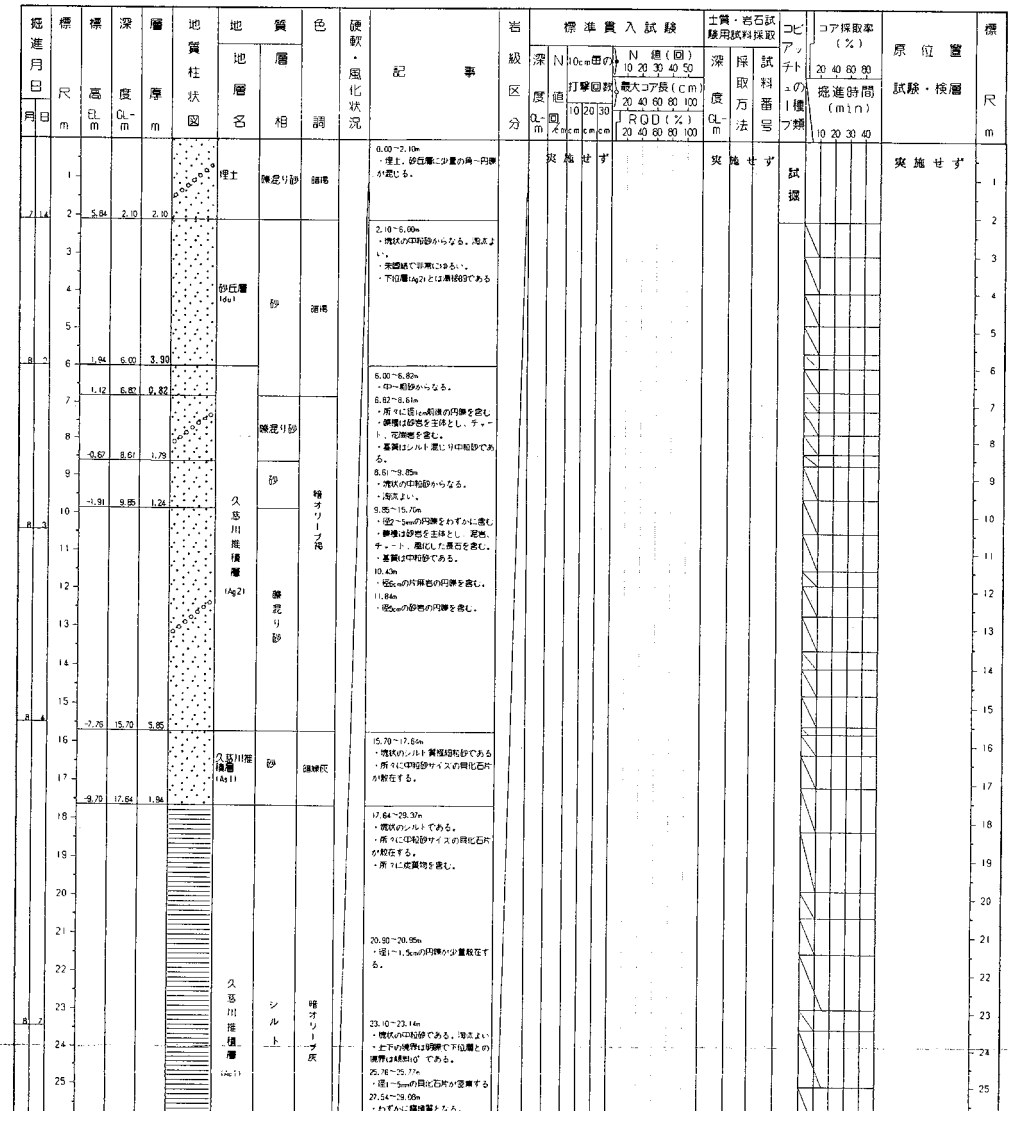
孔口標高 EL +7.94m

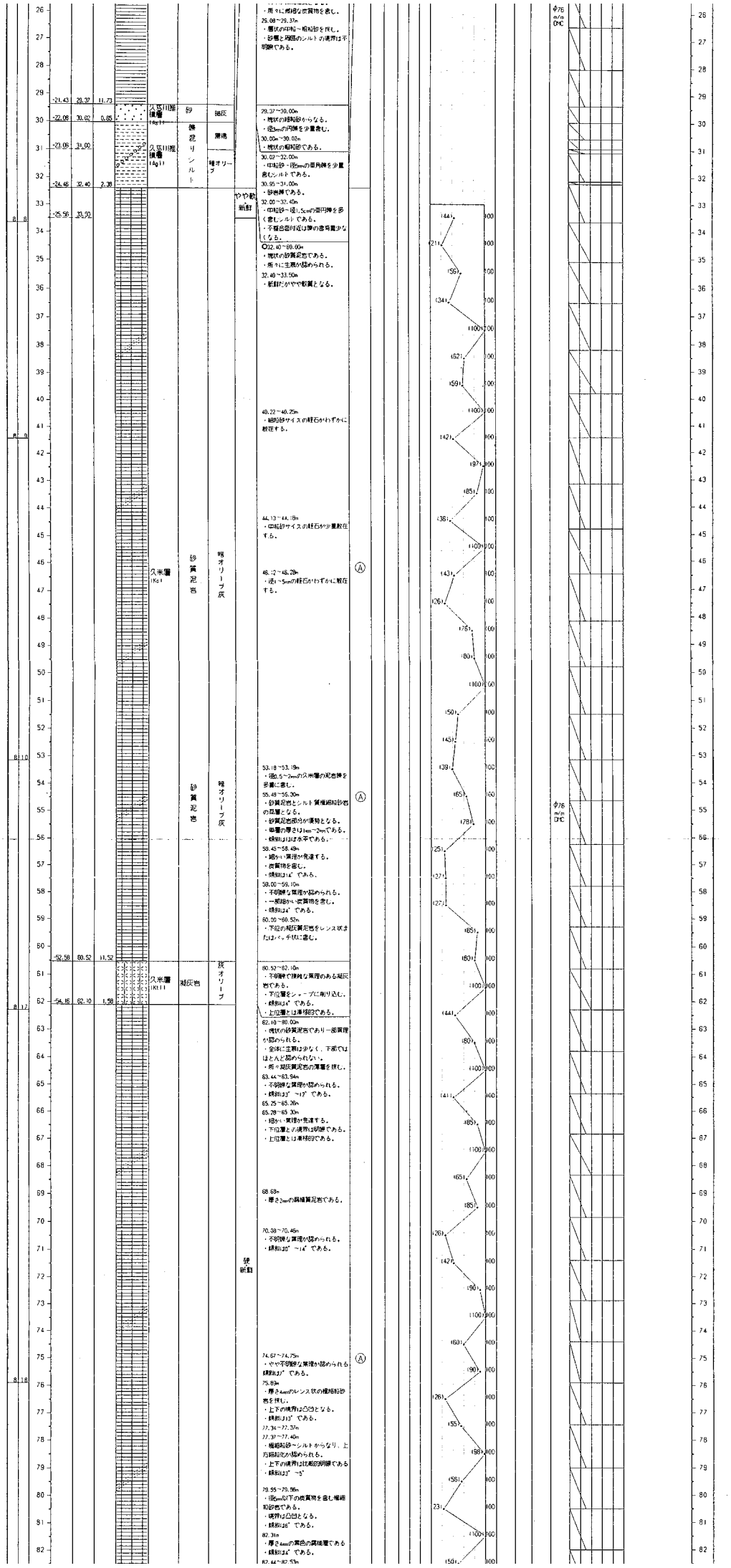
最終孔内水位 GL- 9.40m (EL -1.46m)

掘削深度 GL- 108.00m

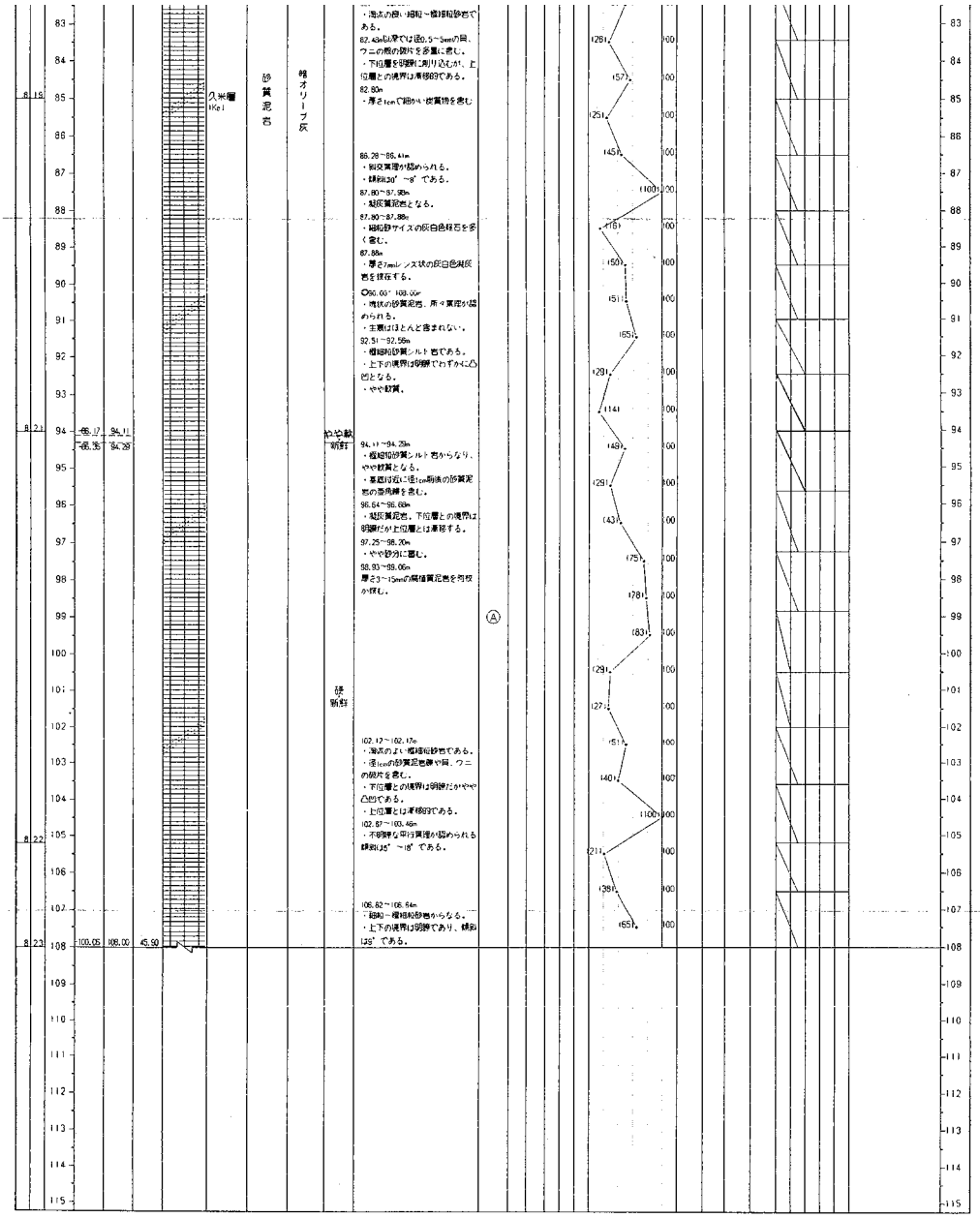
主任技術者 [redacted]

コア観察者 [redacted]





-21.43 29.37 11.73
-22.08 30.02 0.65
-23.06 31.00
-24.46 32.40 2.38
-25.56 33.50
-52.58 60.52 11.52
-54.16 62.10 1.58
久慈川堆積層 (Ag1)
久慈川堆積層 (Ag1)
久米層 (Ks1)
久米層 (Kt1)
砂
礫混リシルト
砂質泥岩
砂質泥岩
凝灰岩
暗灰
暗オリーブ
暗オリーブ
灰オリーブ
ややや軟新鮮
硬新鮮
・所々に微細な炭質物を含む。
29.08～29.37m
・層状の中粒～粗粒砂を挟む。
・砂層と周囲のシルトの境界は不明瞭である。
29.37～30.00m
・塊状の細粒砂からなる。
・径3mmの円礫を少量含む。
30.00m～30.02m
・塊状の粗粒砂である。
30.02～32.00m
・中粒砂～径5mmの亜角礫を少量含むシルトである。
30.95～31.00m
・砂岩礫である。
32.00～32.40m
・中粒砂～径1.5cmの亜円礫を多く含むシルトである。
・不整合面付近は礫の含有量少なくなる。
○32.40～60.00m
・塊状の砂質泥岩である。
・所々に生痕が認められる。
32.40～33.50m
・新鮮だがやや軟質となる。
40.22～40.25m
・細粒砂サイズの軽石がわずかに散在する。
44.13～44.18m
・中粒砂サイズの軽石が少量散在する。
46.12～46.28m
・径1～5mmの軽石がわずかに散在する。
53.18～53.19m
・径0.5～2mmの久米層の泥岩礫を多量に含む。
55.49～56.30m
・砂質泥岩とシルト質極細粒砂岩の互層となる。
・砂質泥岩部分が優勢となる。
・単層の厚さは1mm～2mmである。
・傾斜はほぼ水平である。
58.45～58.49m
・細かい葉理が発達する。
・炭質物を含む。
・傾斜は14°である。
59.00～59.10m
・不明瞭な葉理が認められる。
・一部細かい炭質物を含む。
・傾斜は4°である。
60.00～60.52m
・下位の凝灰質泥岩をレンズ状またはパッチ状に含む。
60.52～62.10m
・不明瞭で複雑な葉理のある凝灰岩である。
・下位層をシャープに削り込む。
・傾斜は4°である。
・上位層とは連移的である。
62.10～80.00m
・塊状の砂質泥岩であり一部葉理が認められる。
・全体に生痕は少なく、下部ではほとんど認められない。
・所々凝灰質泥岩の薄層を挟む。
63.44～63.94m
・不明瞭な葉理が認められる。
・傾斜は3°～12°である。
65.25～65.26m
65.28～65.30m
・細かい葉理が発達する。
・下位層との境界は明瞭である。
・上位層とは連移的である。
68.68m
・厚さ2mmの鋼植質泥岩である。
70.38～70.46m
・不明瞭な葉理が認められる。
・傾斜は0°～14°である。
74.67～74.75m
・やや不明瞭な葉理が認められる傾斜は7°である。
75.89m
・厚さ4mmのレンズ状の極細粒砂岩を挟む。
・上下の境界は凸凹となる。
・傾斜は13°である。
77.34～77.37m
77.37～77.40m
・極細粒砂～シルトからなり、上方細粒化が認められる。
・上下の境界は比較的明瞭である
・傾斜は3°～5°
79.55～79.56m
・径5mm以下の炭質物を含む極細粒砂岩である。
・境界は凸凹となる。
・傾斜は6°である。
82.31m
・厚さ4mmの黒色の鋼植層である
・傾斜は4°である。
82.44～82.53m
Ⓐ
Ⓐ
Ⓐ
φ76 m/m DHC
φ76 m/m DHC



（注） 1．試料採取方法

C：ホーリングコア試料
P：標準貫入試験による試料
D：デニソン型サンプラーによる試料
T：固定ピストン式シンウォールサンプラーによる試料
T・T・S：トリプルチューブサンプラー

2．コアチューブ・ビットの種類

SMC：シングルコアチューブ・メタルクラウン
DMC：ダブルコアチューブ・メタルクラウン
DDB：ダブルコアチューブ・ダイヤモンドビット
TMC：トリプルコアチューブ・メタルクラウン
TDB：トリプルコアチューブ・ダイヤモンドビット

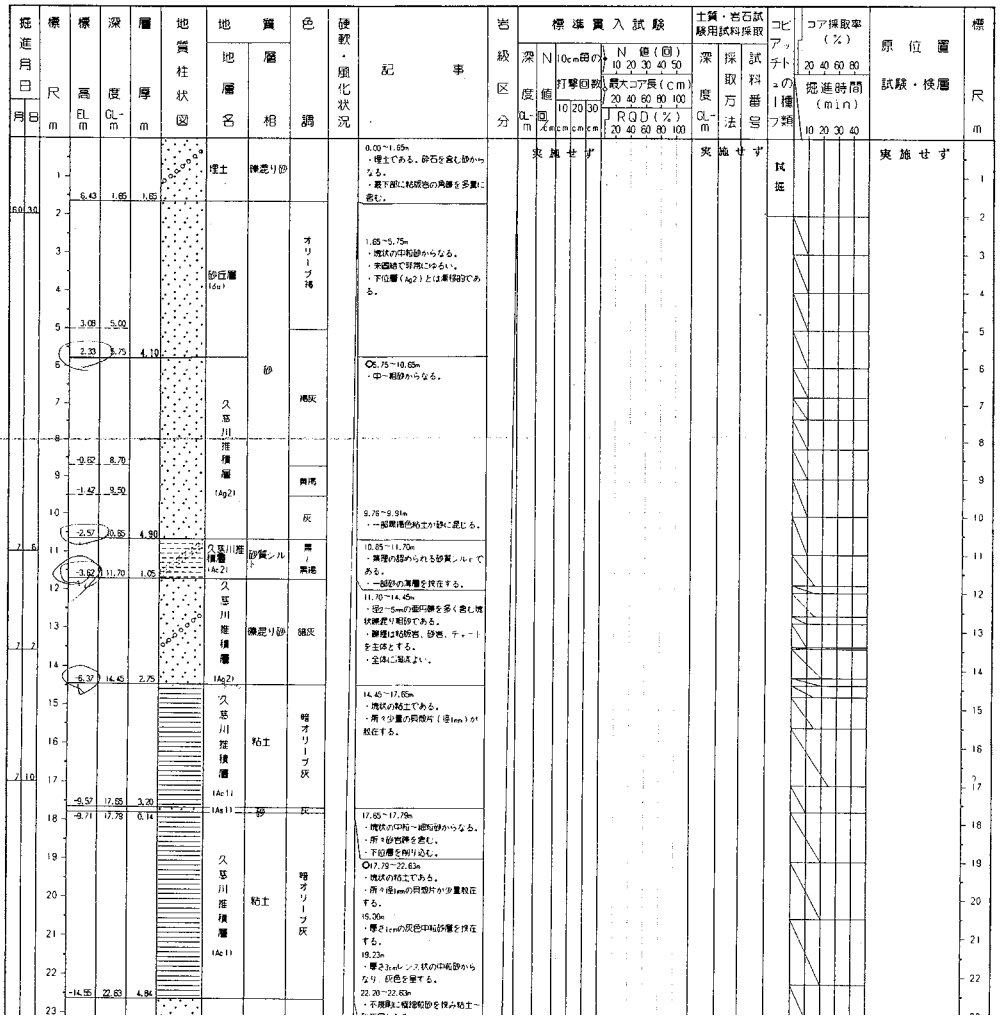
3．原位置試験・検層実施状況

○：孔内水平載荷試験
□：間隙水圧測定
B：PS検層（板たたき方式）
B：PS検層（サスペンション方式）
S：電気検層
|：密度検層
⋮：キャリパー検層

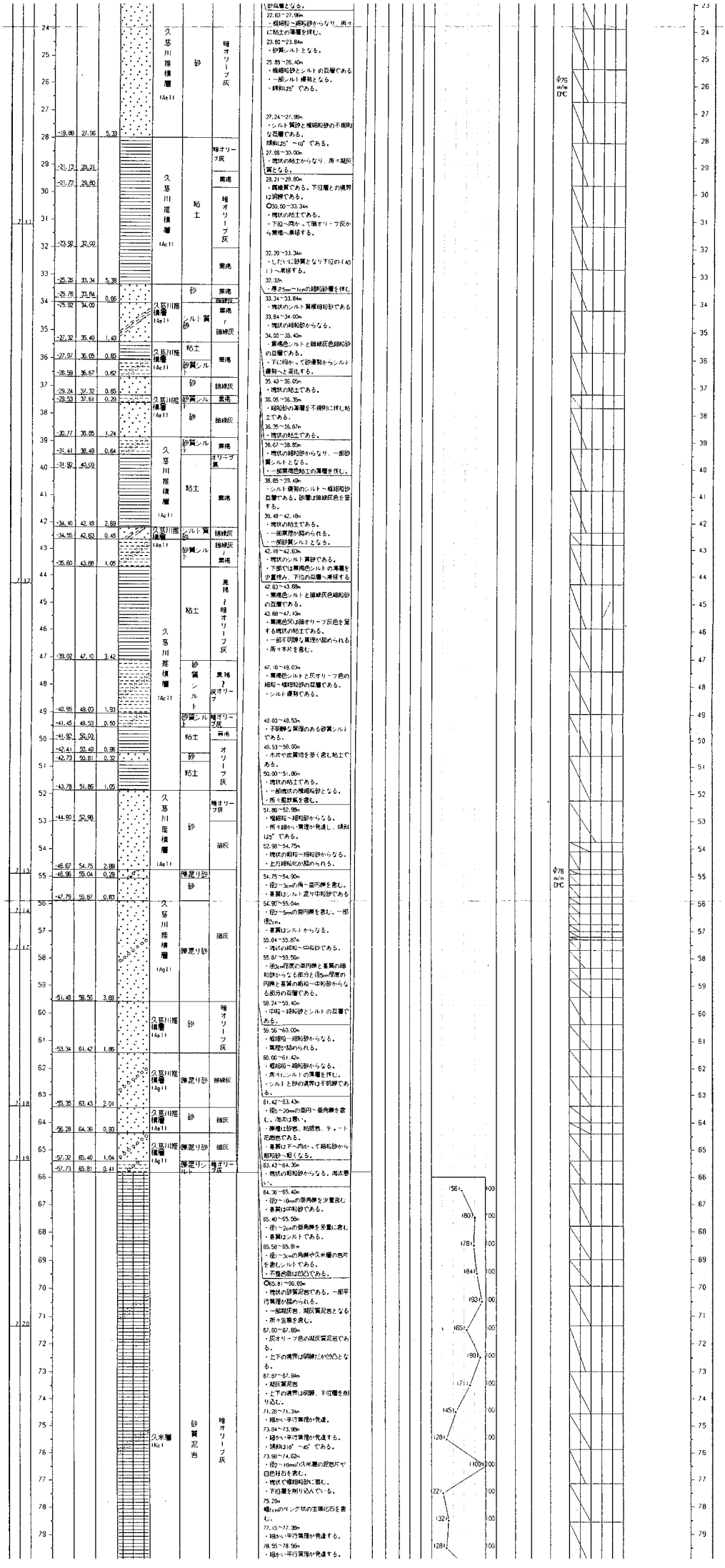
TOUCOU Ver 1.00 1996-03-19 13:37:25

E－7　ボーリング柱状図

件名	東海第二発電所使用済燃料貯蔵設備設置に係るボーリング調査他		主任技術者
調査地	茨城県那珂郡東海村大字白方1-1	孔口標高 EL +8.08m	[redacted]
調査期間	平成 7年7月6日～7年7月25日	最終孔内水位 GL- 7.80m (EL +0.28m)	コア観察者
使用試錐機	YBM-3（吉田鉄鋼製）	掘削深度 GL- 108.00m	[redacted]



掘進月日 月	掘進月日 日	標尺 m	標高 EL m	深度 GL-m	層厚 m	地質柱状図	地質 地層名	地質 層相	色調	硬軟・風化状況	記事	岩級区分	標準貫入試験 深度 GL-m	N値 回	10cm毎の打撃回数 10cm	20cm	30cm	N値（回） 10 20 30 40 50 / 最大コア長（cm） 20 40 60 80 100 / RQD（%） 20 40 60 80 100	土質・岩石試験用試料採取 深度 GL-m	採取方法	試料番号	コピアッチュの種類	コア採取率（%） 20 40 60 80 / 掘進時間（min） 10 20 30 40	原位置試験・検層	標尺 m
													実施せず						実施せず			試掘		実施せず	
6.0	3.0	1	6.43	1.65	1.65		埋土	礫混り砂			0.00～1.65m ・埋土である。砂石を含む砂からなる。 ・最下部に粘質岩の角礫を多量に含む。														
		2					砂丘層 (Au)	砂	オリーブ褐		1.65～5.75m ・塊状の中粒砂からなる。 ・未固結で可塑にゆるい。 ・下位層（Ag2）とは漸移的である。														
		3																							
		4																							
		5	3.08	5.00																					
		6	2.33	5.75	4.10																				
		7					久慈川推積層 (Ag2)		褐灰		○5.75～10.65m ・中～粗砂からなる。														
		8																							
		9	-0.62	8.70					黄褐																
		10	-1.42	9.50					灰		9.76～9.91m ・一部黒褐色粘土が砂に混じる。														
7	6	11	-2.57	10.85	4.90		久慈川推積層 (Ac2)	砂質シルト	黒／黒褐		10.85～11.70m ・黒理の認められる砂質シルトである。 ・一部砂の薄層を挟在する。														
		12	-3.62	11.70	1.05		久慈川推積層 (Ag2)	礫混り砂	暗灰		11.70～14.45m ・径2～5mmの亜円礫を多く含む塊状礫混り粗砂である。 ・礫種は粘板岩、砂岩、チャートを主体とする。 ・全体に海成よい。														
7	2	13																							
		14	-6.37	14.45	2.75																				
		15					久慈川推積層 (Ac1)	粘土	暗オリーブ灰		14.45～17.65m ・塊状の粘土である。 ・所々少量の同酸片（径1mm）が散在する。														
7	10	16																							
		17	-9.57	17.65	3.20																				
		18	-9.71	17.79	0.14		(As1)	砂	灰		17.65～17.79m ・塊状の中粒～細粒砂からなる。 ・所々砂岩礫を含む。 ・下位層を削り込む。														
		19					久慈川推積層 (Ac1)	粘土	暗オリーブ灰		○17.79～22.63m ・塊状の粘土である。 ・所々径1mmの同酸片が少量散在する。 19.00m ・厚さ1cmの灰色中粒砂層を挟在する。 19.23m ・厚さ3cmレンズ状の中粒砂からなり、灰色を呈する。 22.20～22.63m ・不規則に粗細粒砂を挟み粘土～														
		20																							
		21																							
		22	-14.55	22.63	4.84																				
		23																							

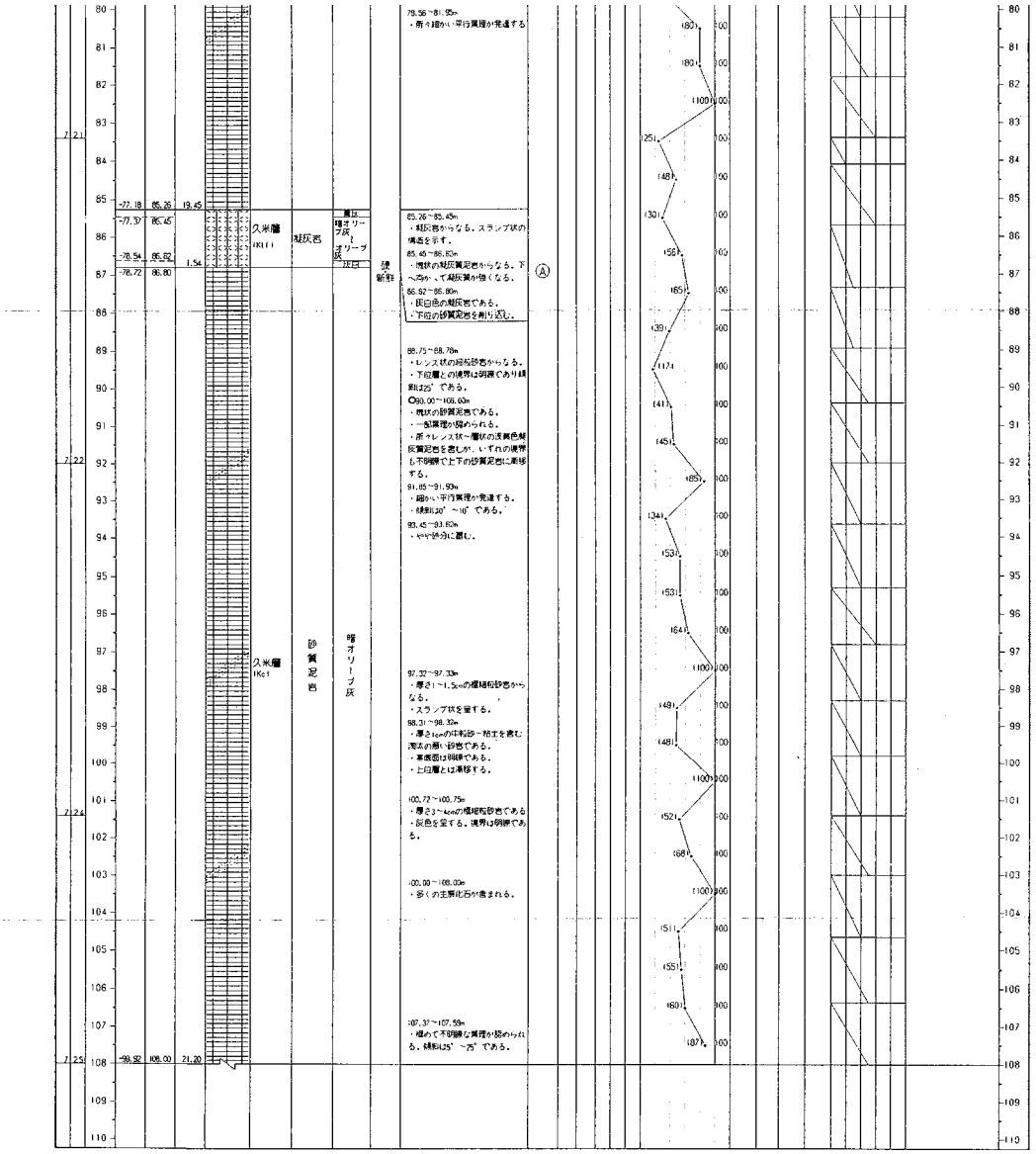


1砂層となる。
27.63～27.96m
・極細粒～細粒砂からなり、所々に粘土の薄層を挟む。
23.80～23.84m
・砂質シルトとなる。
25.85～26.40m
・極細粒砂とシルトの互層である。
・一部シルト優勢となる。
・傾斜は5°である。

27.24～27.96m
・シルト質砂と極細粒砂の不規則な互層である。
傾斜は5°～10°である。
27.96～30.00m
・塊状の粘土からなり、所々凝灰質となる。

28.21～28.80m
・凝灰質である。下位層との境界は明瞭である。
○30.00～33.34m
・塊状の粘土である。
・下位へ向かって暗オリーブ灰から黒褐へ漸移する。

32.20～33.34m
・しだいに砂質となり下位の(As1)へ漸移する。
32.30m
・厚25cm～1cmの細粒砂層を挟む。
33.34～33.84m
・塊状のシルト質極細粒砂である。
33.84～34.00m
・塊状の細粒砂からなる。
34.00～35.40m
・黒褐色シルトと褐緑灰色細粒砂の互層である。
・下に向かって砂優勢からシルト優勢へと変化する。
35.40～36.05m
・塊状の粘土である。
36.05～36.35m
・細粒砂の薄層を不規則に挟む粘土である。
36.35～36.67m
・塊状の粘土である。
36.67～38.85m
・塊状の細粒砂からなり、一部砂質シルトとなる。
・一部黒褐色粘土の薄層を挟む。
38.85～39.49m
・シルト優勢のシルト～極細粒砂互層である。砂層は褐緑灰色を呈する。
39.49～42.18m
・塊状の粘土である。
・一部葉理が認められる。
・一部砂質シルトとなる。
42.18～42.63m
・塊状のシルト質砂である。
・下部では黒褐色シルトの薄層を少量挟み、下位の互層へ漸移する。
42.63～43.68m
・黒褐色シルトと褐緑灰色細粒砂の互層である。
43.68～47.10m
・黒褐色又は暗オリーブ灰色を呈する塊状の粘土である。
・一部不明瞭な葉理が認められる。
・所々木片を含む。
47.10～49.03m
・黒褐色シルトと灰オリーブ色の細粒～極細粒砂の互層である。
・シルト優勢である。
49.03～49.53m
・不明瞭な葉理のある砂質シルトである。
49.53～50.00m
・木片や炭質物を多く含む粘土である。
50.00～51.86m
・塊状の粘土である。
・一部塊状の極細粒砂となる。
・所々酸素鉄を含む。
51.86～52.98m
・極細粒～細粒砂からなる。
・所々細かい葉理が発達し、傾斜は5°である。
52.98～54.75m
・塊状の細粒～極粒砂からなる。
・上方細粒化が認められる。
54.75～54.90m
・径2～3cmの角～亜円礫を含む。
・基質はシルト混り中粒砂である。
54.90～55.04m
・径2～5mmの亜円礫を含む。一部径2cm。
・基質はシルトからなる。
55.04～55.87m
・塊状の細粒～中粒砂である。
55.87～59.50m
・径3cm程度の亜円礫と基質の細粒砂からなる部分と径5cm程度の円礫と基質の細粒～中粒砂からなる部分の互層である。
58.24～59.40m
・中粒～細粒砂とシルトの互層である。
59.56～60.00m
・極細粒～細粒砂からなる。
・葉理が認められる。
60.00～61.42m
・極細粒～細粒砂からなる。
・所々にシルトの薄層を挟む。
・シルトと砂の境界は不明瞭である。
61.42～63.43m
・径5～20mmの亜円～亜角礫を含む、淘汰は悪い。
・礫種は砂岩、粘板岩、チャート花崗岩である。
・基質は下へ向かって細粒砂から粗粒砂へ粗くなる。
63.43～64.36m
・塊状の粗粒砂からなる。淘汰悪い。
64.36～65.40m
・径2～10mmの亜角礫を少量含む。
・基質は中粒砂である。
65.40～65.58m
・径1～2cmの亜角礫を多量に含む。
・基質はシルトである。
65.58～65.81m
・径1～3cmの角礫や久米層の岩片を含むシルトである。
・不整合面は凹凸である。
○65.81～90.00m
・塊状の砂質泥岩である。一部平行葉理が認められる。
・一部緑灰岩、凝灰質泥岩となる。
・所々生痕を含む。
67.80～67.89m
・灰オリーブ色の凝灰質泥岩である。
・上下の境界は明瞭だが凹凸となる。
67.87～67.94m
・凝灰質泥岩
・上下の境界は明瞭、下位層を削り込む。
71.26～71.34m
・細かい平行葉理が発達。
73.94～73.98m
・細かい平行葉理が発達する。
・傾斜は10°～45°である。
73.98～74.62m
・径2～10mmの久米層の泥岩片や白色軽石を含む。
・塊状で極細粒砂に富む。
・下位層を削り込んでいる。
75.29m
幅1cmのリング状の生痕化石を含む。
77.15～77.38m
・細かい平行葉理が発達する。
78.55～78.96m
・細かい平行葉理が発達する。



（注） 1．試料採取方法

C：ボーリングコア試料
P：標準貫入試験による試料
D：デニソン型サンプラーによる試料
T：固定ピストン式シンウォールサンプラーによる試料

2．コアチューブ・ビットの種類

SMC：シングルコアチューブ・メタルクラウン
DMC：ダブルコアチューブ・メタルクラウン
DDB：ダブルコアチューブ・ダイヤモンドビット
TMC：トリプルコアチューブ・メタルクラウン
TDB：トリプルコアチューブ・ダイヤモンドビット

3．原位置試験・検層実施状況

○：孔内水平載荷試験
□：間隙水圧測定
日：PS検層（板たたき方式）
日：PS検層（サスペンション方式）
S：電気検層
I：密度検層
：キャリパー検層

TOUGOU Ver 1.00 1996-03-19 23:37:5

F-3　　ボーリング柱状図

件　　名　東通第二発電所使用済燃料貯蔵設備設置に係るボーリング調査他

調　査　地　茨城県那珂郡東通村大字白方1-1

調査期間　平成7年10月17日～7年11月30日

使用試錐機　RK-2

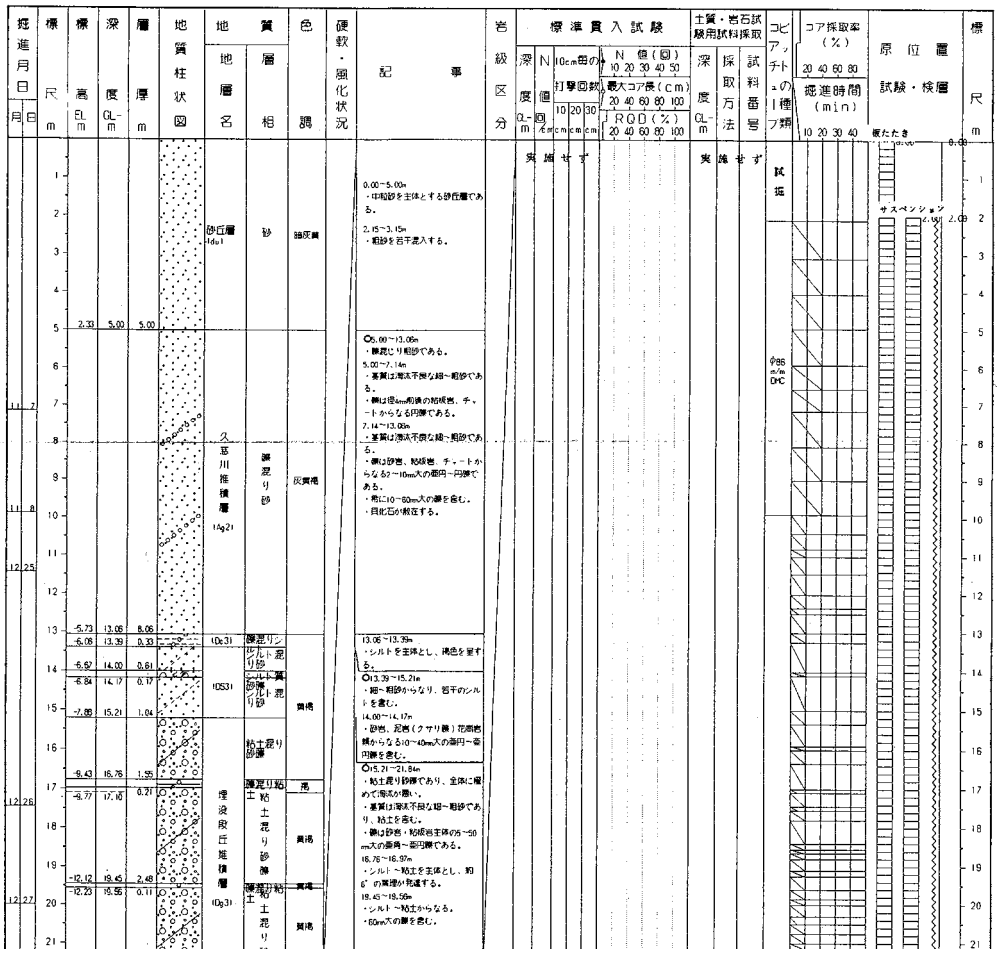
孔口標高　EL　+7.33m

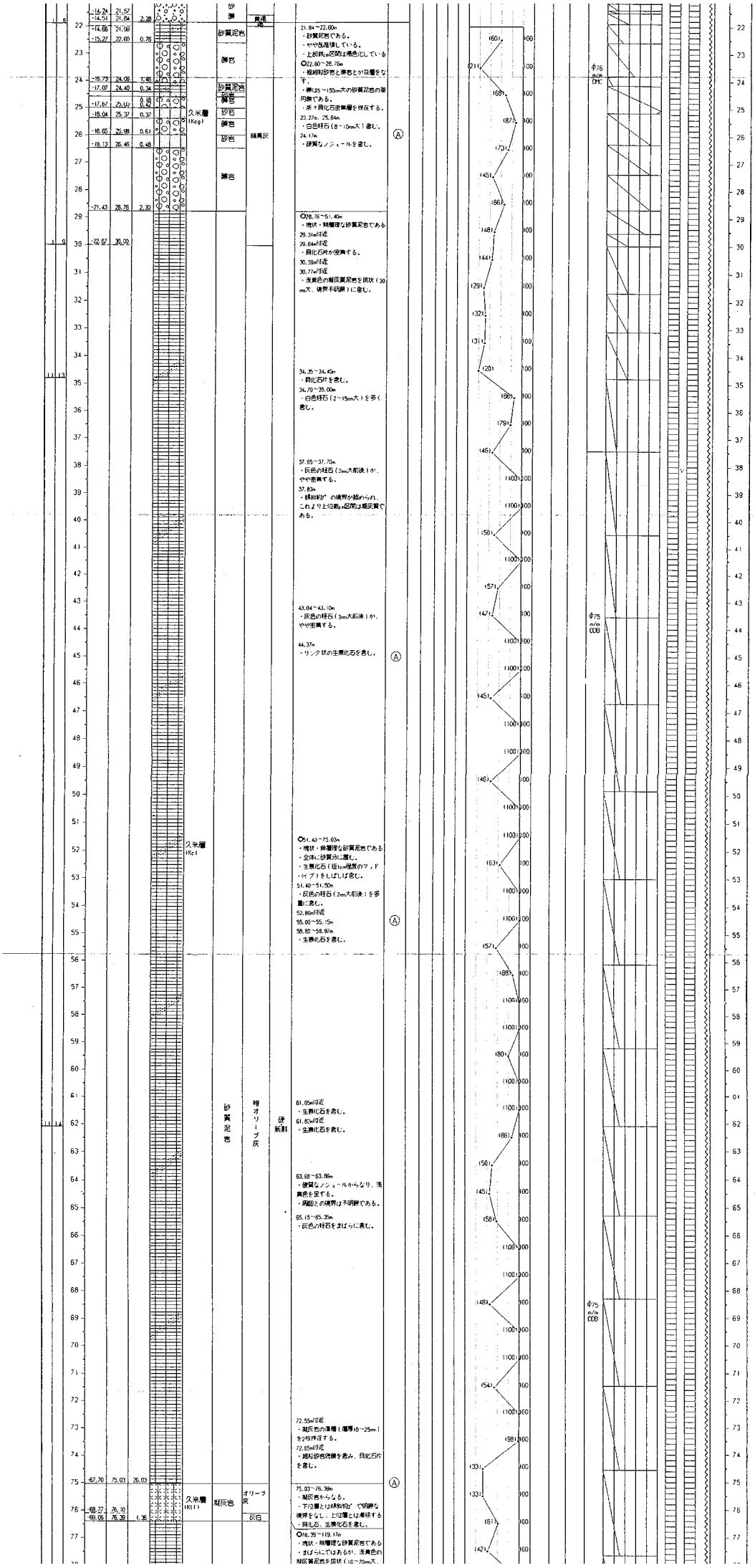
最終孔内水位　GL-　7.00m (EL　+0.33m)

掘削深度　GL-　217.00m

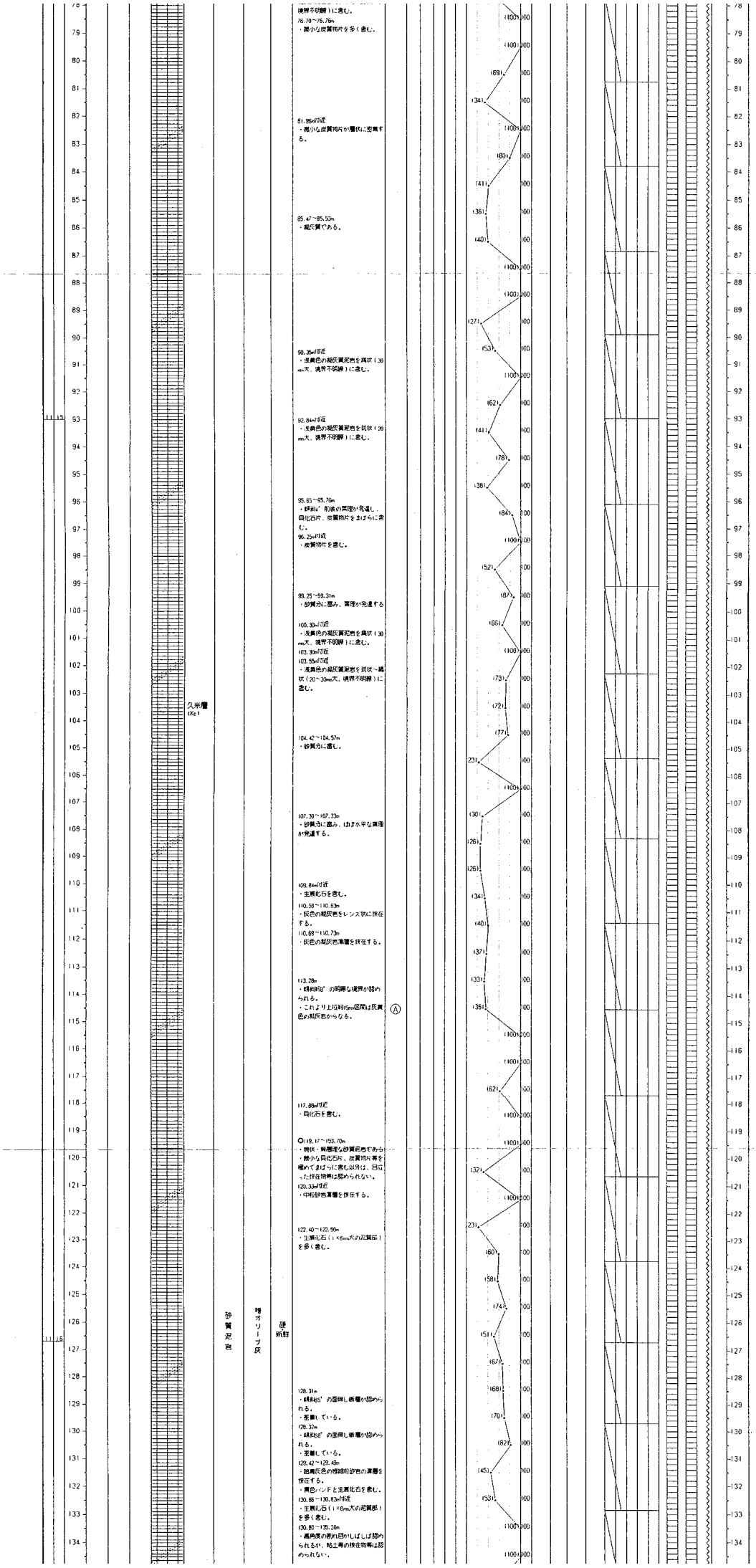
主任技術者　[redacted]

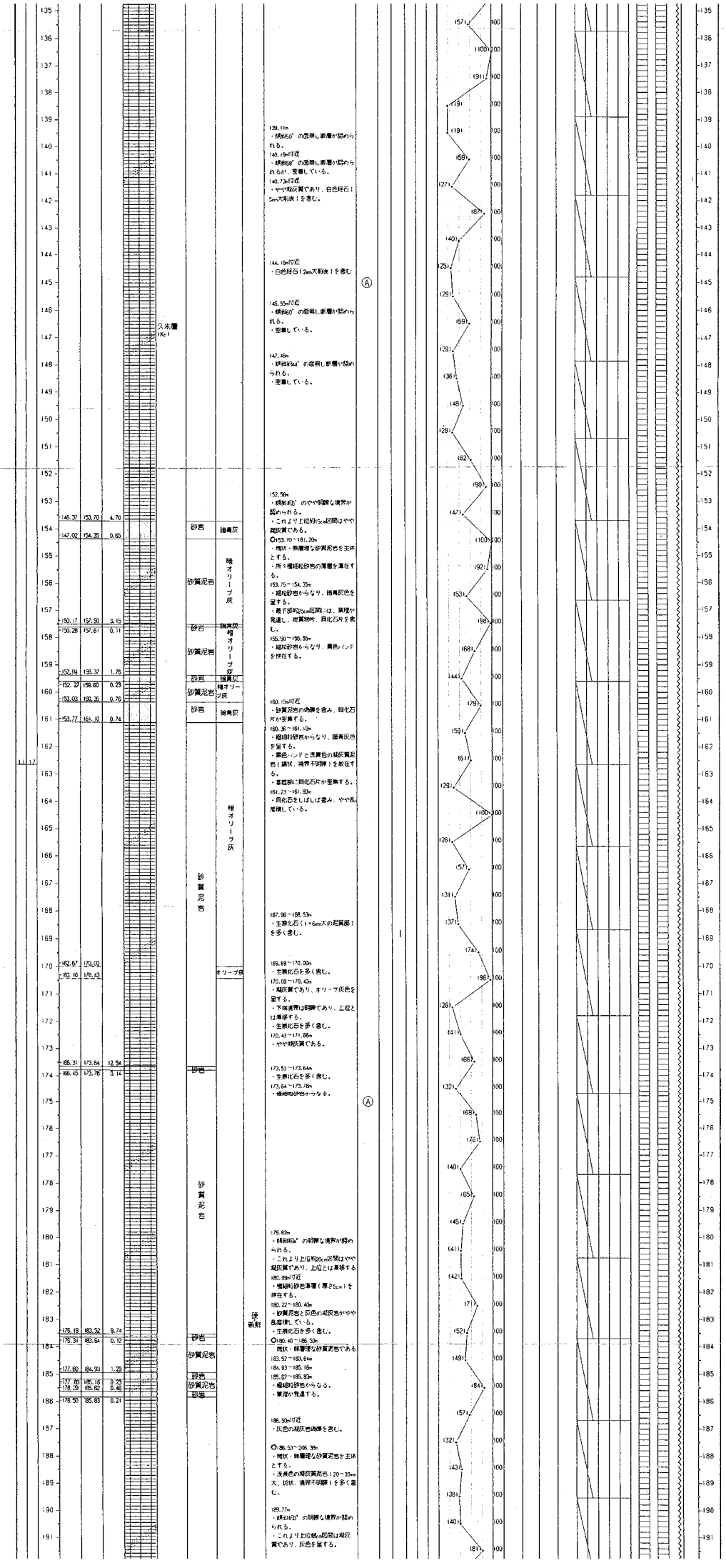
コア観察者　[redacted]

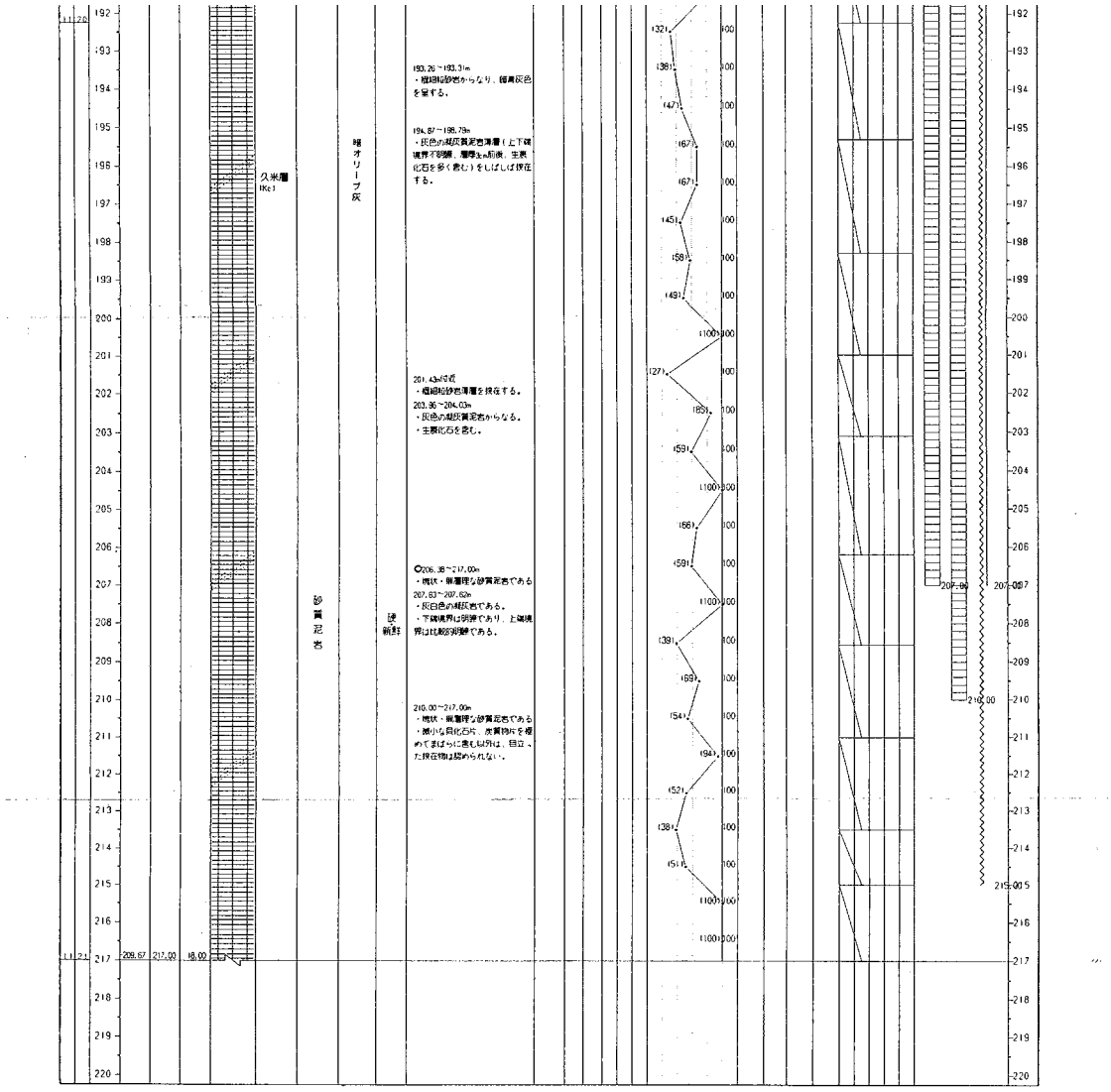




-14.24 21.57
-14.51 21.84 2.28
-14.66 21.98
-15.27 22.60 0.76
-16.73 24.06 1.46
-17.07 24.40 0.34
-17.67 25.00 0.18 0.42
-18.04 25.37 0.37
-18.65 25.98 0.61
-19.13 26.46 0.48
-21.43 28.76 2.30
-22.67 30.00
-67.70 75.03 26.03
-68.27 76.10
-69.06 76.39 1.36
砂礫
砂質泥岩
礫岩
久米層 (Kcg)
久米層 (Kcl)
久米層 (Kcl)
砂質泥岩
凝灰岩
砂質泥岩
礫岩
砂岩
礫岩
砂岩
礫岩
砂岩
礫岩
暗青灰
暗青灰
暗オリーブ灰
オリーブ灰
灰白
硬新鮮
21.84～22.60m
・砂質泥岩である。
・やや乱堆積している。
・上部炭c層区間は褐色化している
○22.60～28.76m
・褐細粒砂岩と礫岩とが互層をなす。
・礫は25～150mm大の砂質泥岩の亜円礫である。
・所々貝化石密集層を挟在する。
23.27m、25.84m
・白色軽石（8～10mm大）含む。
24.17m
・硬質なノジュールを含む。
○28.76～51.40m
・塊状・無層理な砂質泥岩である
29.31m付近
29.84m付近
・貝化石片が密集する。
30.39m付近
30.77m付近
・浅黄色の凝灰質泥岩を斑状（30mm大、境界不明瞭）に含む。
34.35～34.45m
・貝化石片を含む。
34.70～35.00m
・白色軽石（2～15mm大）を多く含む。
37.65～37.70m
・灰色の軽石（2mm大前後）が、やや密集する。
37.83m
・頻度細砂の境界が認められ、これより上位表c層区間は凝灰質である。
43.04～43.10m
・灰色の軽石（3mm大前後）が、やや密集する。
44.37m
・リング状の生痕化石を含む。
○51.40～75.03m
・塊状・無層理な砂質泥岩である
・全体に砂質分に富む。
・生痕化石（径1cm程度のマッドパイプ）をしばしば含む。
51.40～51.50m
・灰色の軽石（2mm大前後）を多量に含む。
52.86m付近
55.00～55.15m
58.80～58.97m
・生痕化石を含む。
61.05m付近
・生痕化石を含む。
61.82m付近
・生痕化石を含む。
63.68～63.86m
・硬質なノジュールからなり、浅黄色を呈する。
・周囲との境界は不明瞭である。
65.15～65.35m
・灰色の軽石をまばらに含む。
72.55m付近
・凝灰岩の薄層（層厚10～25mm）を2枚挟在する。
72.65m付近
・細粒砂岩内礫を含み、貝化石片を含む。
75.03～76.39m
・凝灰岩からなる。
・下位層とは明瞭な"で明瞭な境界をなし、上位層とは漸移する
・貝化石、生痕化石を含む。
○76.39～119.17m
・塊状・無層理な砂質泥岩である
・まばらにではあるが、浅黄色の凝灰質泥岩を斑状（10～20mm大、
Ⓐ
Ⓐ
Ⓐ
Ⓐ
φ76 m/m DMC
φ75 m/m DDB
φ75 m/m DDB


境界不明瞭）に含む。
76.70～76.75m
・微小な炭質物片を多く含む。
81.95m付近
・微小な炭質物片が層状に密集する。
85.47～85.53m
・凝灰質である。
90.35m付近
・淡黄色の凝灰質泥岩を塊状（30mm大、境界不明瞭）に含む。
92.84m付近
・淡黄色の凝灰質泥岩を斑状（20mm大、境界不明瞭）に含む。
95.65～95.76m
・"斜交"葉理の葉理が発達し、白化石片、炭質物片をまばらに含む。
96.25m付近
・炭質物片を含む。
99.25～99.31m
・砂質分に富み、葉理が発達する。
100.30m付近
・淡黄色の凝灰質泥岩を塊状（30mm大、境界不明瞭）に含む。
103.30m付近
103.35m付近
・淡黄色の凝灰質泥岩を斑状～縞状（20～30mm大、境界不明瞭）に含む。
104.42～104.57m
・砂質分に富む。
107.30～107.33m
・砂質分に富み、ほぼ水平な葉理が発達する。
109.84m付近
・生痕化石を含む。
110.58～110.83m
・灰色の凝灰岩をレンズ状に挟在する。
110.69～110.73m
・灰色の凝灰岩薄層を挟在する。
113.28m
・"斜交葉理"の明瞭な境界が認められる。
・これより上位約5m区間は灰黄色の凝灰岩からなる。
Ⓐ
117.88m付近
・白化石を含む。
○119.17～153.70m
・塊状・無層理な砂質泥岩であるが、
・微小な白化石片、炭質物片等を極めてまばらに含む以外は、目立った挟在物等は認められない。
120.33m付近
・中粒砂岩薄層を挟在する。
122.40～122.55m
・生痕化石（1×6mm大の泥質部）を多く含む。
128.31m
・"斜交葉理"の面傾し断層が認められる。
・変質している。
128.32m
・"斜交葉理"の面傾し断層が認められる。
・変質している。
129.42～129.49m
・暗青灰色の極細粒砂岩の薄層を挟在する。
・黄色バンドと生痕化石を含む。
130.68～130.83m付近
・生痕化石（1×6mm大の泥質部）を多く含む。
130.80～135.20m
・高角度の割れ目がしばしば認められるが、粘土等の挟在物等は認められない。
久米層
（Ke）
砂質泥岩
暗オリーブ灰
硬質
111.15
111.15


久米層
(Ke)
硬質頁岩
139.41m
・縞状の 極細し断層が認められる。
140.45m付近
・縞状の 極細し断層が認められる。
・変質している。
140.73m付近
・やや凝灰質であり、白色粒石(5mm大)を含む。
144.10m付近
・白色粒石(2mm大)を含む
145.55m付近
・縞状の 極細し断層が認められる。
・変質している。
147.45m
・縞状の 極細し断層が認められる。
・変質している。
152.56m
・縞状の やや明瞭な境界が認められる。
・これより上位約15cm区間はやや凝灰質である。
○153.70~181.20m
・塊状・無層理な砂質泥岩を主体とする。
・所々極細粒砂岩の薄層を挟在する。
153.75~154.35m
・細粒砂岩からなり、暗青灰色を呈する。
・最下部約25cm区間には、葉理が発達し、炭質物片、白化石片を含む。
155.50~155.55m
・細粒砂岩からなり、黄色バンドを挟在する。
160.15m付近
・砂質泥岩の偽礫を含み、白化石片が密集する。
160.36~161.10m
・極細粒砂岩からなり、暗青灰色を呈する。
・黄色バンドと淡黄色の凝灰質泥岩(縞状、境界不明瞭)を数在する。
・基盤部に白化石片が密集する。
161.23~161.93m
・白化石をしばしば含み、やや高く傾斜している。
167.96~168.53m
・生痕化石(1×6mm大の泥質部)を多く含む。
169.69~170.00m
・生痕化石を多く含む。
170.00~170.43m
・凝灰質であり、オリーブ灰色を呈する。
・下底境界は明瞭であり、上位とは漸移する。
・生痕化石を多く含む。
170.43~171.86m
・やや凝灰質である。
173.53~173.64m
・生痕化石を多く含む。
173.64~173.78m
・極細粒砂岩からなる。
179.62m
・縞状の 明瞭な境界が認められる。
・これより上位約30cm区間はやや凝灰質であり、上位とは漸移する
180.39m付近
・極細粒砂岩薄層(厚さ5cm)を挟在する。
180.22~180.40m
・砂質泥岩と灰色の凝灰岩がやや乱雑状している。
・生痕化石を多く含む。
○180.40~186.53m
・塊状・無層理な砂質泥岩である
181.52~183.64m
184.93~185.19m
185.82~185.83m
・極細粒砂岩からなる。
・葉理が発達する。
186.50m付近
・灰色の凝灰岩薄層を含む。
○186.53~206.38m
・塊状・無層理な砂質泥岩を主体とする。
・淡黄色の凝灰質泥岩(20~30mm大、扇状、境界不明瞭)を多く含む。
189.77m
・縞状の 明瞭な境界が認められる。
・これより上位約6cm区間は凝灰質であり、灰色を呈する。



（注）　1．試料採取方法

C：ホーリングコア試料
P：標準貫入試験による試料
D：デニソン型サンプラーによる試料
T：固定ピストン式シンウォールサンプラーによる試料

2．コアチューブ・ビットの種類

SMC：シングルコアチューブ・メタルクラウン
DMC：ダブルコアチューブ・メタルクラウン
DDB：ダブルコアチューブ・ダイヤモンドビット
TMC：トリプルコアチューブ・メタルクラウン
TDB：トリプルコアチューブ・ダイヤモンドビット

3．原位置試験・検層実施状況

○：孔内水平載荷試験
[]：間隙水圧測定
目：PS検層（板たたき方式）
目：PS検層（サスペンション方式）
≦：電気検層
|：密度検層
⋮：キャリパー検層

TOUCOU Ver 1.00 1996-03-18 23:26:55

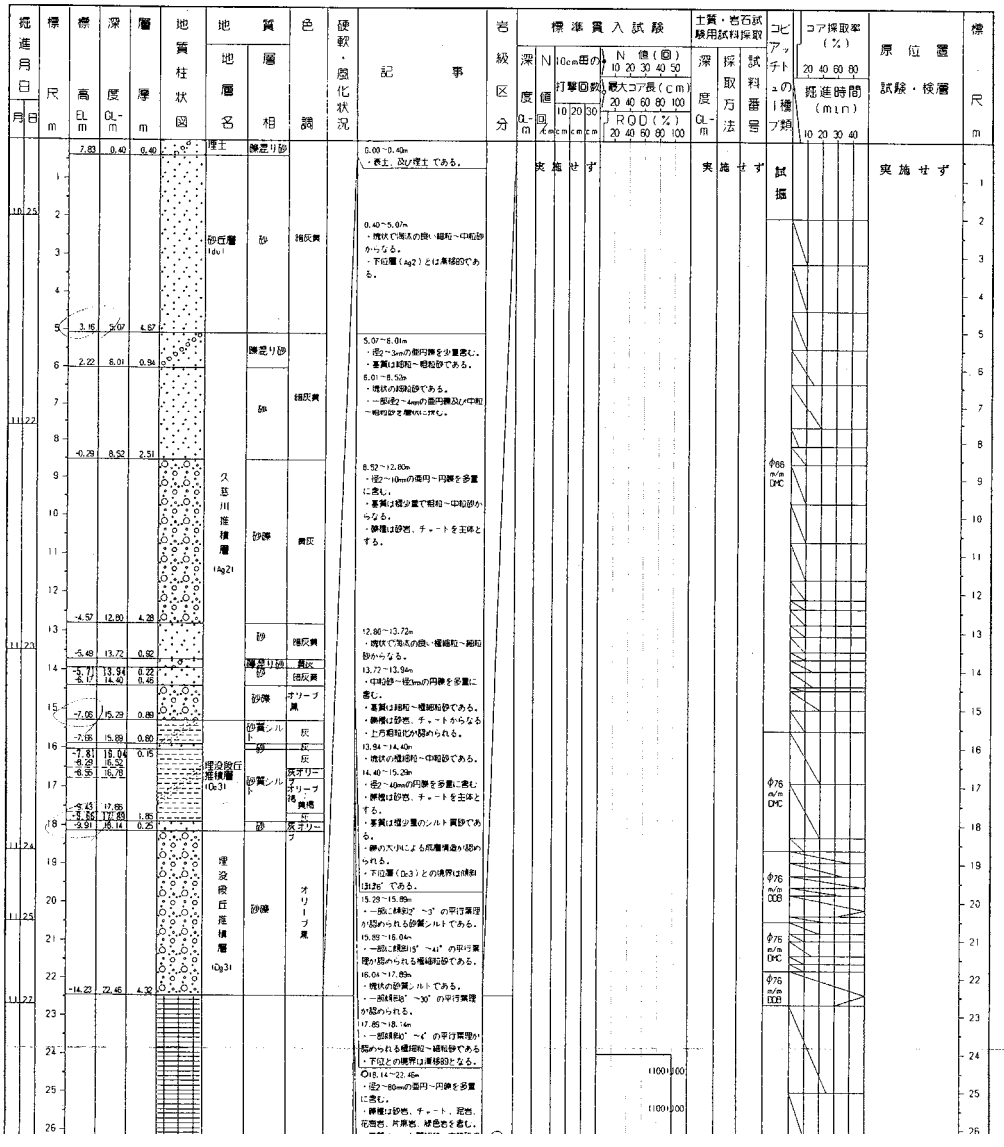
F-5　　ボーリング柱状図

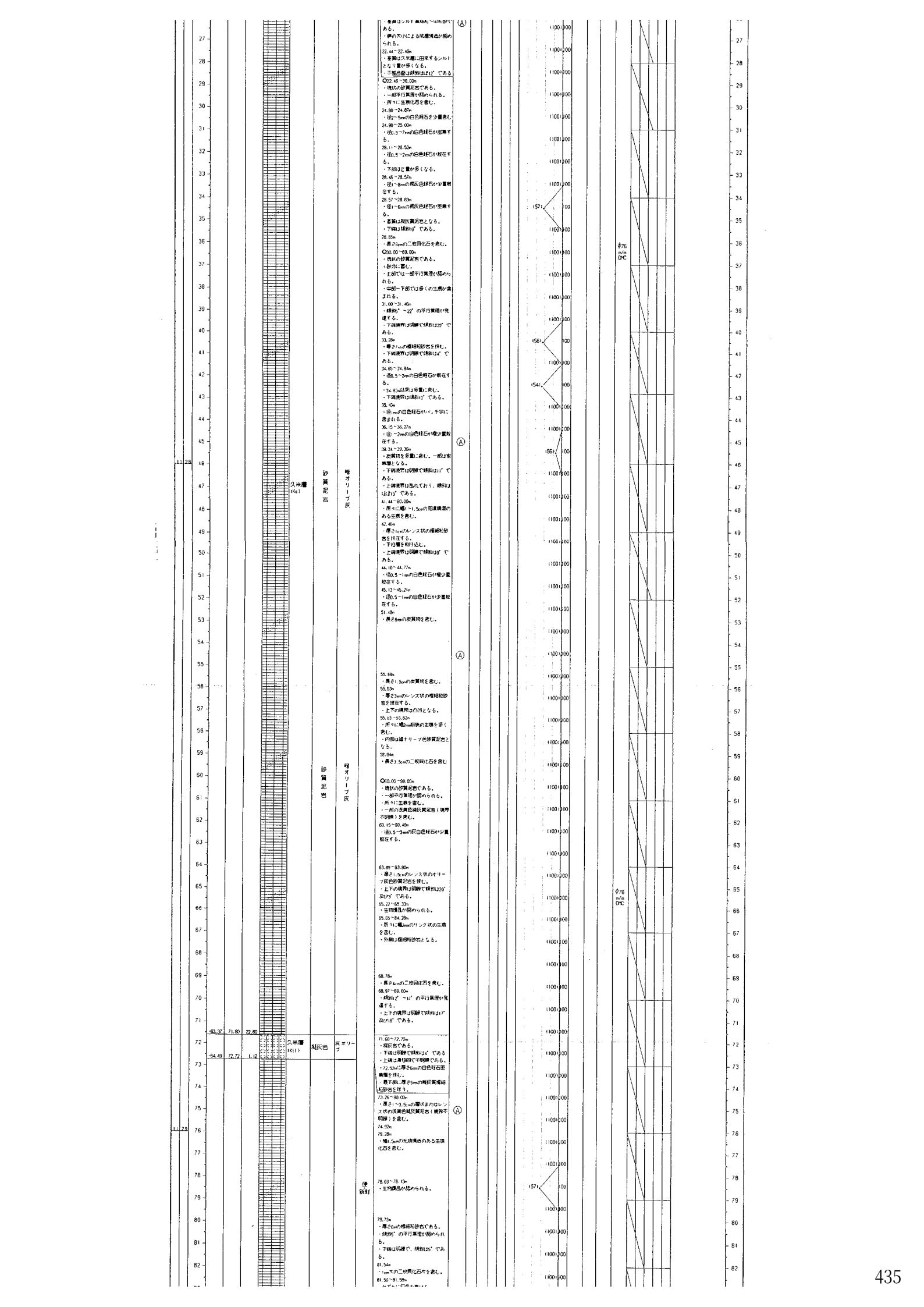
件　　名　東海第二発電所使用済燃料貯蔵設備設置に係るボーリング調査他　　主任技術者

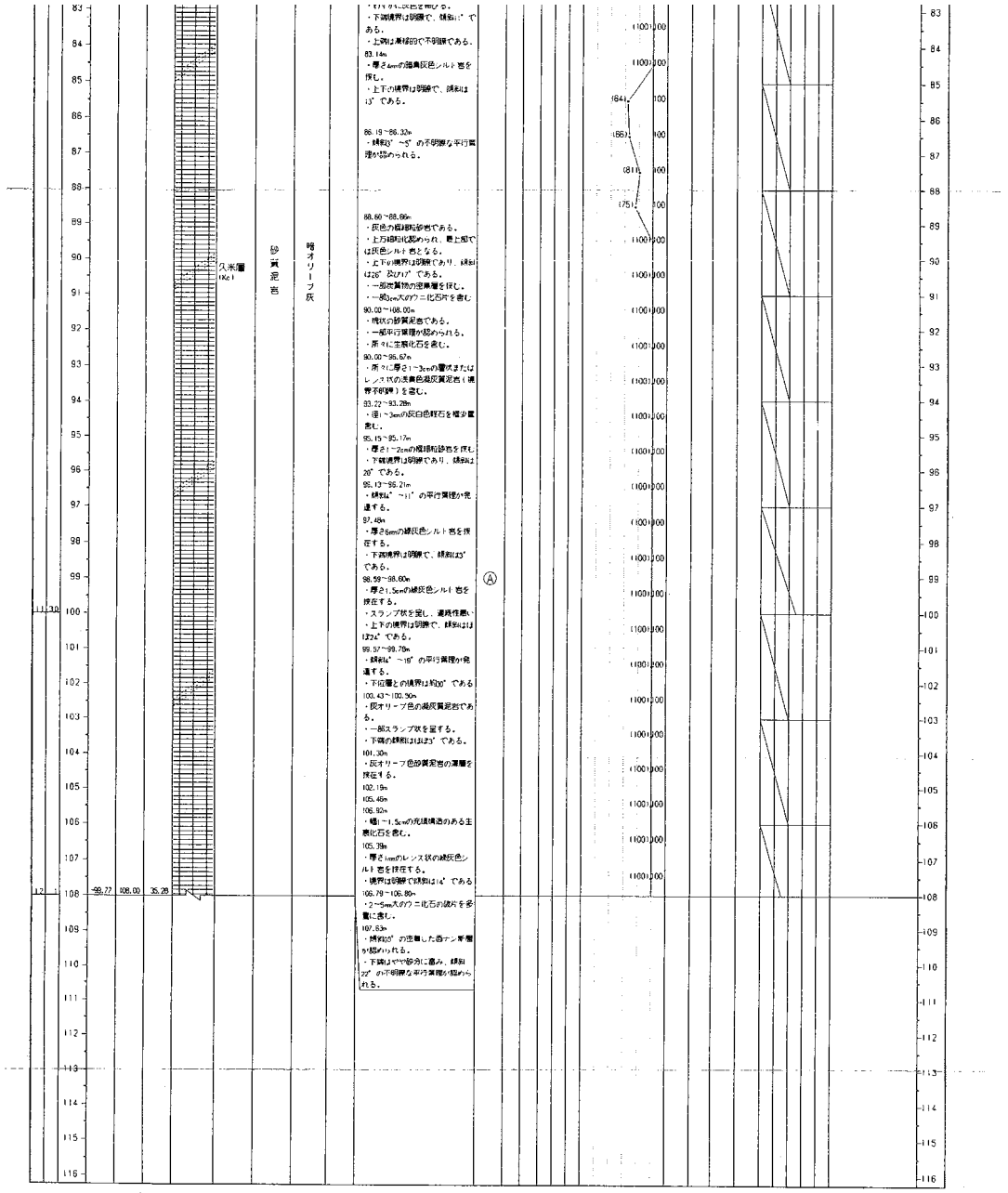
調 査 地　茨城県那珂郡東海村大字白方1-1　　孔口標高 EL +8.23m　　[redacted]

調査期間　平成7年11月22日～7年12月1日　　最終孔内水位 GL- 8.10m (EL +0.13m)　　コア観察者

使用試錐機　L-24（ロングイヤー製）　　掘削深度 GL- 108.00m　　[redacted]




・基質はシルト質粘土～粘土質シルトである。
・葉の欠片による成層構造が認められる。
22.44～22.46m
・基質は久米層に由来するシルトとなり量が多くなる。
・干渉色縞は傾斜約2°である
○22.46～30.00m
・塊状の砂質泥岩である。
・一部平行葉理が認められる。
・所々に生痕化石を含む。
24.80～24.87m
・径2～5mmの白色軽石を少量含む
24.90～25.00m
・径0.5～7mmの白色軽石が密集する。
28.11～28.53m
・径0.5～2mmの白色軽石が散在する。
・下部ほど量が多くなる。
28.45～28.57m
・径1～8mmの褐灰色軽石が少量散在する。
28.57～28.63m
・径1～6mmの褐灰色軽石が密集する。
・基質は凝灰質泥岩となる。
・下縞は傾斜0°である。
28.65m
・長さ6cmの二枚貝化石を含む。
○30.00～60.00m
・塊状の砂質泥岩である。
・砂分に富む。
・上部では一部平行葉理が認められる。
・中部～下部では多くの生痕が含まれる。
31.00～31.45m
・傾斜5°～22°の平行葉理が発達する。
・下縞境界は明瞭で傾斜は22°である。
33.28m
・厚さ1cmの極細粒砂岩を挟む。
・下縞境界は明瞭で傾斜は4°である。
34.65～34.94m
・径0.5～2mmの白色軽石が散在する。
・34.82m以深は多量に含む。
・下縞境界は傾斜10°である。
35.10m
・径1mmの白色軽石がパッチ状に含まれる。
36.15～36.27m
・径1～2mmの白色軽石が極少量散在する。
38.34～39.36m
・炭質物を多量に含む。一部は密集層となる。
・下縞境界は明瞭で傾斜は11°である。
・上縞境界は乱れており、傾斜はほぼ15°である。
41.44～60.00m
・所々に幅1～1.5cmの充填構造のある生痕を含む。
42.45m
・厚さ1cmのレンズ状の極細粒砂岩を挟在する。
・下位層を削り込む。
・上縞境界は明瞭で傾斜は20°である。
44.10～44.77m
・径0.5～1mmの白色軽石が極少量散在する。
45.13～45.21m
・径0.5～1mmの白色軽石が少量散在する。
51.48m
・長さ5cmの炭質物を含む。
55.18m
・長さ1.3cmの炭質物を含む。
55.53m
・厚さ3mmのレンズ状の極細粒砂岩を挟在する。
・上下の境界は凸凹となる。
56.63～58.62m
・所々に幅2mm前後の生痕を多く含む。
・内部は緑オリーブ色砂質泥岩となる。
58.04m
・長さ3.5cmの二枚貝化石を含む
○60.00～80.00m
・塊状の砂質泥岩である。
・一部平行葉理が認められる。
・所々に生痕を含む。
・一部の淡黄色凝灰質泥岩（境界不明瞭）を含む。
60.15～60.49m
・径0.5～3mmの灰白色軽石が少量散在する。
63.89～63.90m
・厚さ1.5cmのレンズ状のオリーブ灰色砂質泥岩を挟む。
・上下の境界は明瞭で傾斜は26°及び0°である。
65.27～65.33m
・生物擾乱が認められる。
65.65～84.28m
・所々に幅2mmのリング状の生痕を含む。
・外側は極細粒砂岩となる。
68.78m
・長さ4cmの二枚貝化石を含む。
68.97～69.00m
・傾斜は2°～12°の平行葉理が発達する。
・上下の境界は明瞭で傾斜は12°及び16°である。
71.60～72.72m
・凝灰岩である。
・下縞は明瞭で傾斜は4°である
・上縞は漸移的で不明瞭である。
・72.52m に厚さ6mmの白色軽石密集層を挟む。
・最下部に厚さ5mmの凝灰質極細粒砂岩を伴う。
73.26～80.00m
・厚さ1～3.5cmの層状またはレンズ状の淡黄色凝灰質泥岩（境界不明瞭）を含む。
74.92m
79.28m
・幅1.5cmの充填構造のある生痕化石を含む。
78.03～78.13m
・生物擾乱が認められる。
79.73m
・厚さ6mmの極細粒砂岩である。
・傾斜5°の平行葉理が認められる。
・下縞は明瞭で、傾斜は25°である。
81.54m
・1cmの二枚貝化石片を含む。
81.56～81.58m
久米層 IKg1
砂質泥岩
暗オリーブ灰
久米層 IKL1
凝灰岩
灰オリーブ
63.37
71.60
22.80
64.49
72.72
1.12
11.28
11.28
φ76 m/m DPC
φ76 m/m DPC
1571
1561
1541
1561
1571



（注） 1．試料採取方法

C：ボーリングコア試料
P：標準貫入試験による試料
D：デニソン型サンプラーによる試料
T：固定ピストン式シンウォールサンプラーによる試料

2．コアチューブ・ビットの種類

SMC：シングルコアチューブ・メタルクラウン
DMC：ダブルコアチューブ・メタルクラウン
DDB：ダブルコアチューブ・ダイヤモンドビット
TMC：トリプルコアチューブ・メタルクラウン
TDB：トリプルコアチューブ・ダイヤモンドビット

3．原位置試験・検層実施状況

O：孔内水平載荷試験
Q：間隙水圧測定
B：PS検層（板たたき方式）
B：PS検層（サスペンション方式）
S：電気検層
I：密度検層
：キャリパー検層

TOUGOU Ver 1.00 1996-03-18 23:44:46

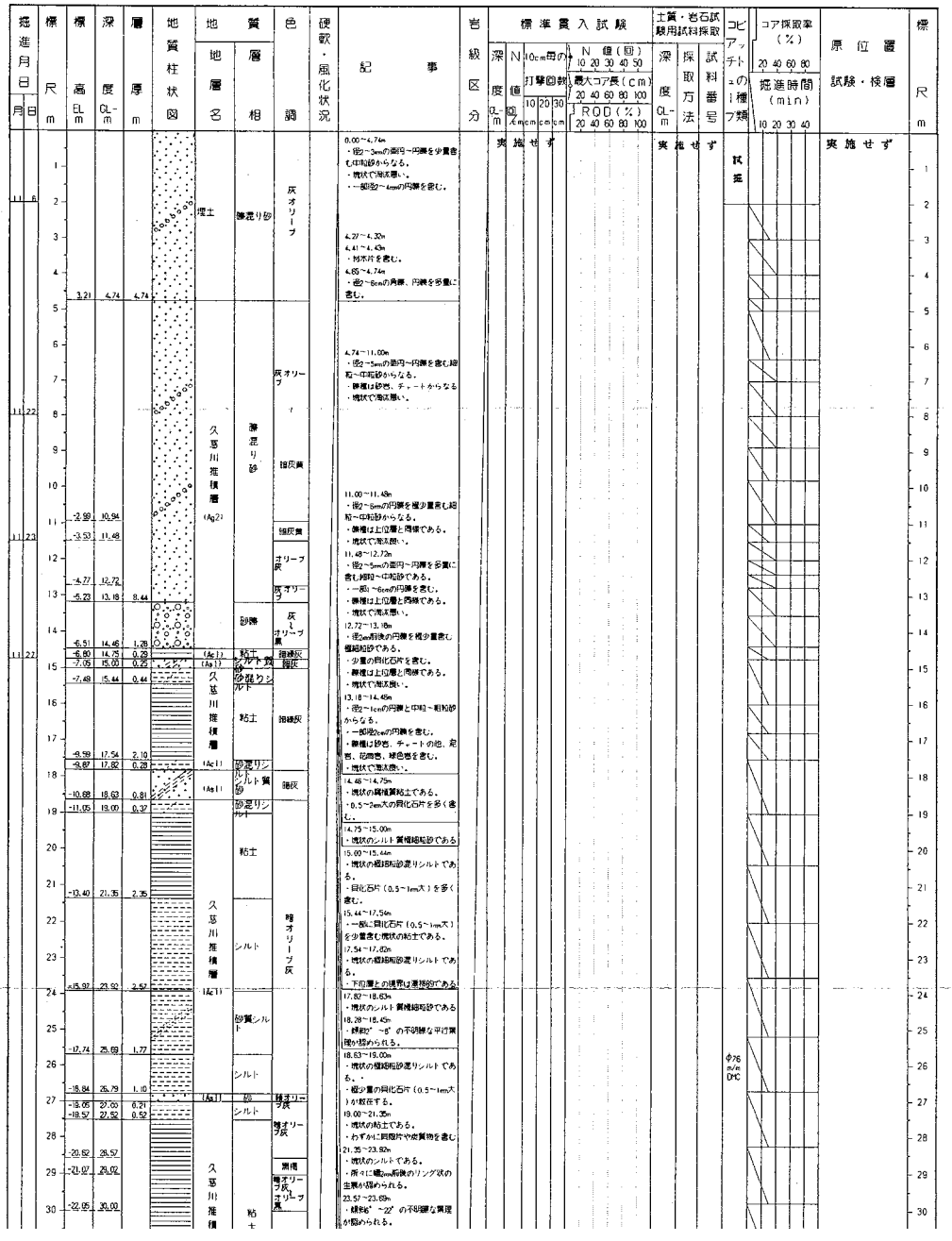
F-6　ボーリング柱状図

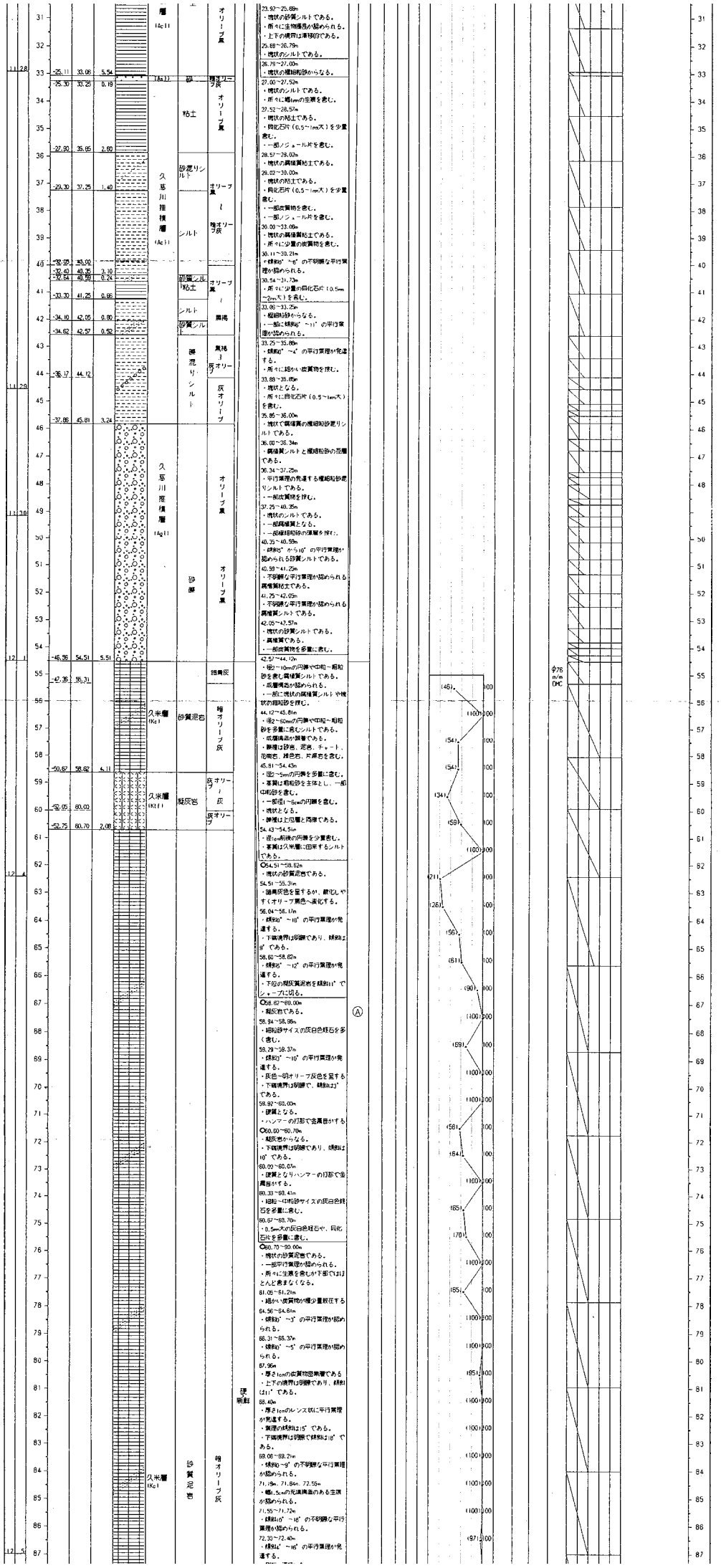
件　名　東海第二発電所使用済燃料貯蔵設備設置に係るボーリング調査他　　主任技術者 [redacted]

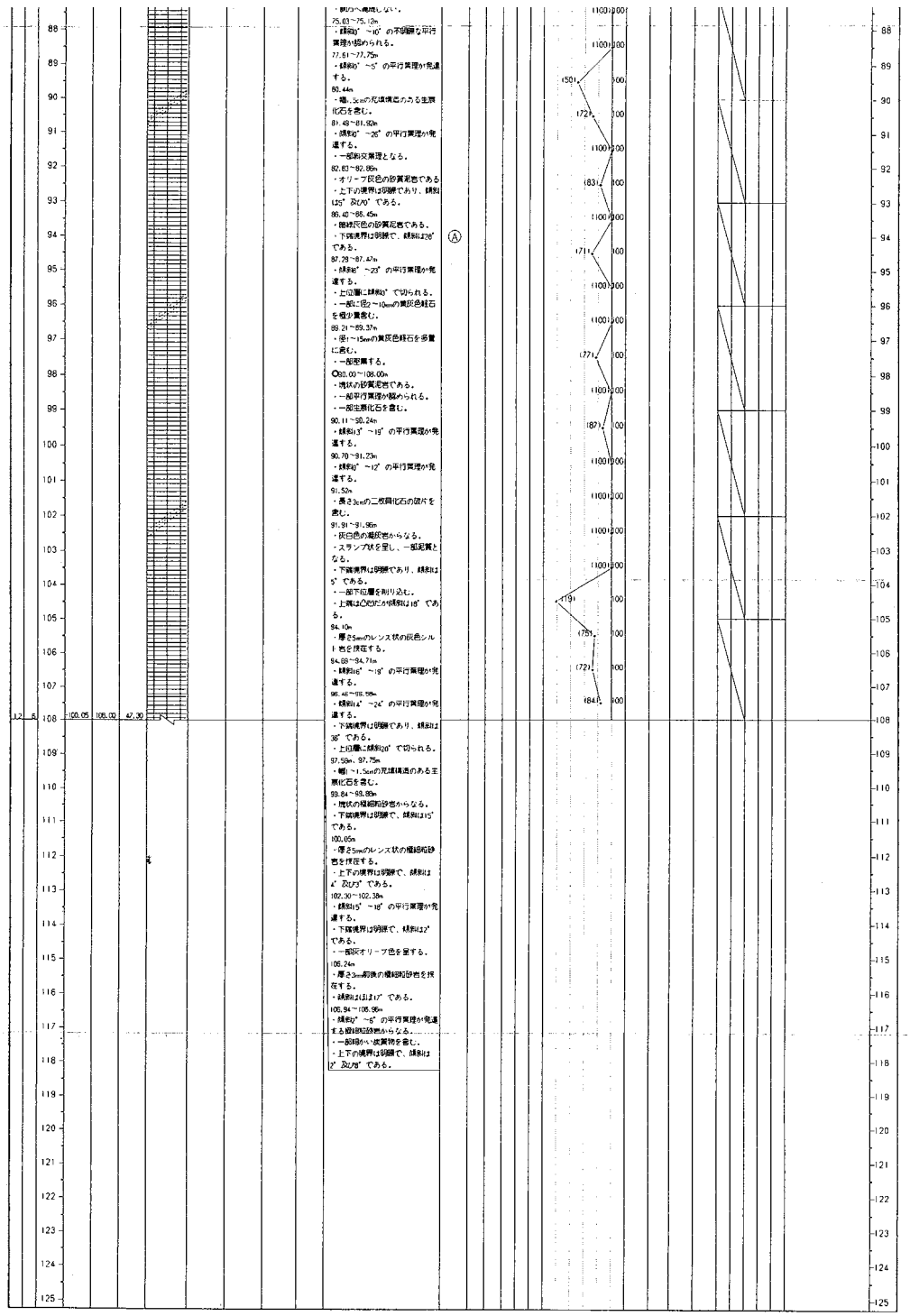
調　査　地　茨城県那珂郡東海村大字白方1-1　　孔口標高 EL +7.95m

調査期間　平成7年11月22日～7年12月6日　　最終孔内水位 GL- 3.00m (EL +4.95m)　　コア観察者 [redacted]

使用試錐機　YBM-3（吉田鉄工）　　掘削深度 GL- 108.00m




久米層 (Kc1)
久米層 (Kt1)
久米層 (Kc1)
久米層 (Kc1)
久米層 (Kc



（注） 1．試料採取方法

C：ボーリングコア試料
P：標準貫入試験による試料
D：デニソン型サンプラーによる試料
T：固定ピストン式シンウォールサンプラーによる試料

2．コアチューブ・ビットの種類

SMC：シングルコアチューブ・メタルクラウン
DMC：ダブルコアチューブ・メタルクラウン
DDB：ダブルコアチューブ・ダイヤモンドビット
TMC：トリプルコアチューブ・メタルクラウン
TDB：トリプルコアチューブ・ダイヤモンドビット

3．原位置試験・検層実施状況

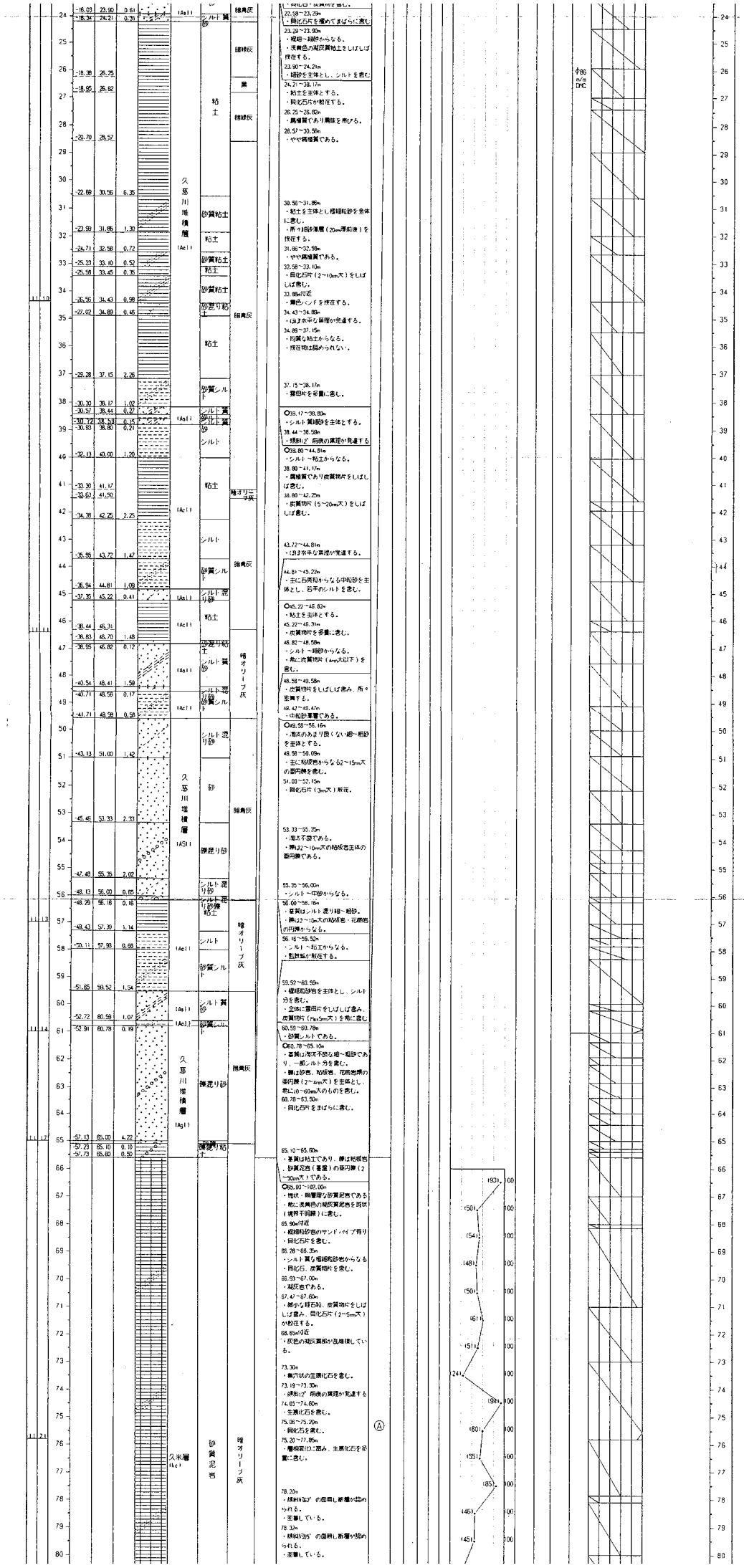
O：孔内水平載荷試験
□：間隙水圧測定
B：PS検層（板たたき方式）
B：PS検層（サスペンション方式）
S：電気検層
I：密度検層
┆：キャリパー検層

TOUCOU Ver 1.00 1996-03-19 14:43:49

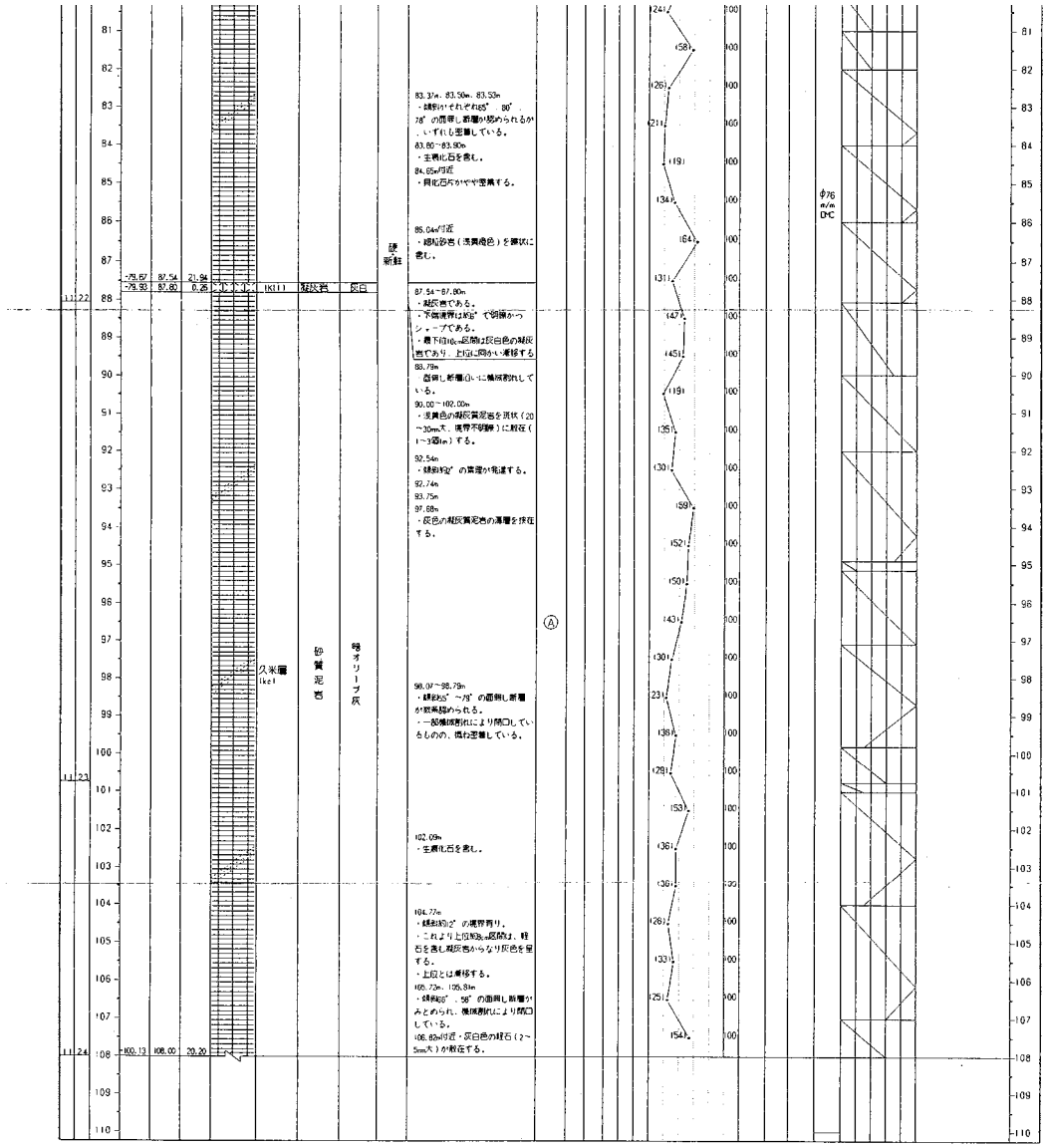
F－7　ボーリング柱状図

件名	東海第二発電所使用済燃料貯蔵設備設置に係るボーリング調査他		主任技術者
調査地	茨城県那珂郡東海村大字白方1-1 平成	孔口標高 EL +7.87m	[redacted]
調査期間	7年11月6日～7年12月4日	最終孔内水位 GL- 13.00m (EL -5.13m)	コア観察者
使用試錐機	D2-G	掘削深度 GL- 108.00m	[redacted]

掘進月日 月	日	標尺 m	標高 EL m	深度 GL-m	層厚 m	地質柱状図	地質 地層名	地質 層相	色調	硬軟・風化状況	記事	岩級区分	標準貫入試験 深度 GL-m	N値 回/cm	10cm毎の打撃回数 10 20 30 cm cm cm	N値(回) 10 20 30 40 50 / 最大コア長(cm) 20 40 60 80 100 / RQD(%) 20 40 60 80 100	土質・岩石試験用試料採取 深度 GL-m	採取方法	試料番号	コピアッチュの1種プ	コア採取率(%) 20 40 60 80 / 掘進時間(min) 10 20 30 40	原位置試験・検層	標尺 m
			7.67	0.20	0.20		埋土				0.00～0.20m ・砂石（10～40mm大）の角礫からなる埋土である。		実施せず				実施せず			試掘		実施せず	
		1					砂丘層 (du)	砂	暗灰質		0.20～4.85m ・細～中砂からなる砂丘層である												1
		2																					2
		3																					3
		4																					4
		5	3.02	4.85	4.65						4.85～7.04m ・中砂を主体とし、粗砂をしばしば混入する。 ・貝化石片（1～5mm大）をまばらに含む。												5
		6																					6
11	6	7	0.83	7.04	2.19		久慈川堆積層 (Ag2)				7.04～9.54m ・粗砂を主体とし、2～10mm大の粘板岩、チャートからなる円礫をしばしば混入する。 ・貝化石片を含む。												7
		8						礫混り砂															8
11	7	9	-1.67	9.54	2.50						9.54～10.48m ・海流根好な細砂からなる。 ・10.10m、10.20m付近に炭質物片含む。												9
		10	-2.13	10.00				砂	暗青灰														10
			-2.61	10.48	0.94						○10.48～13.26m ・マトリックスは、粗砂を主体とし、所々シルトを混入する。 ・礫はチャート・粘板岩からなる円礫である。 ・礫径は2～10mm大であり、基底部約20cm区間では20～30cm大である。 10.89～11.00m ・シルト混り細砂である												
			-3.02	10.89	0.41			礫混り砂															
		11	-3.13	11.00	0.11			シルト混り砂	緑灰														11
		12						礫混り砂															12
		13	-5.39	13.26	2.26																		13
11	8	14					久慈川堆積層 (Ac1)	シルト混り粘土	暗緑灰		○13.26～21.00m ・粘土を主体とし、全体にシルトを含む。 ・貝化石片（1～10mm大）をまばらに含む。 14.89～14.95m ・細～粗砂を混入する。												14
		15																					15
		16																					16
		17									17.06m付近 ・炭質物片（0.5×15mm大）を含む。												17
		18																					18
		19																					19
		20	-12.13	20.00	6.74						20.00～21.00m ・貝母片を含む。												20
		21	-13.13	21.00	1.00			砂質シルト															21
			-13.84	21.71	0.71		(Ag1)	シルト混り砂	暗青灰		21.00～21.71m ・細砂を主体とし、所々シルト薄層（5～10mm厚）を挟在する。 21.71～22.58m ・海流根好な細砂である。 ・所々淡黄色の凝灰質粘土を含む。 21.84m付近 ・貝化石・炭質物片含む。												
		22	-14.71	22.58	0.87			砂															22
11	9	23	-15.42	23.29	0.71		(Ac1)	シルト質粘土	暗緑灰														23
								砂															



441



（注） 1．試料採取方法

C：ボーリングコア試料
P：標準貫入試験による試料
O：デニソン型サンプラーによる試料
T：固定ピストン式シンウォールサンプラーによる試料

2．コアチューブ・ビットの種類

SMC：シングルコアチューブ・メタルクラウン
DMC：ダブルコアチューブ・メタルクラウン
DDB：ダブルコアチューブ・ダイヤモンドビット
TMC：トリプルコアチューブ・メタルクラウン
TDB：トリプルコアチューブ・ダイヤモンドビット

3．原位置試験・検層実施状況

O：孔内水平載荷試験
D：間隙水圧測定
B：PS検層（板たたき方式）
B：PS検層（サスペンション方式）
S：電気検層
I：密度検層
：キャリパー検層

TOUCOU Ver 1.00 1996-03-19 19:31:2

G-8　　ボーリング柱状図

件　　名　東海第二発電所使用済燃料貯蔵設備設置に係るボーリング調査他　　主任技術者 [redacted]

調　査　地　茨城県那珂郡東海村大字白方1-1

平成

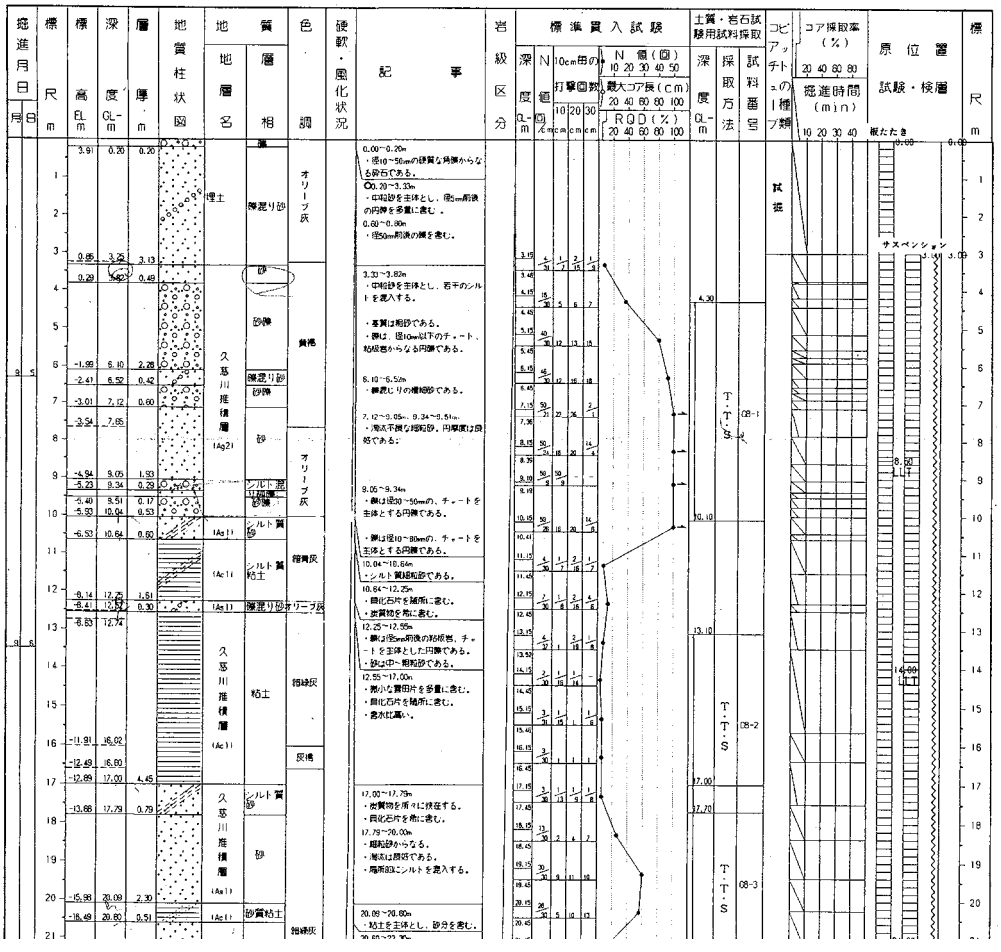
調査期間　7年8月28日～7年12月22日

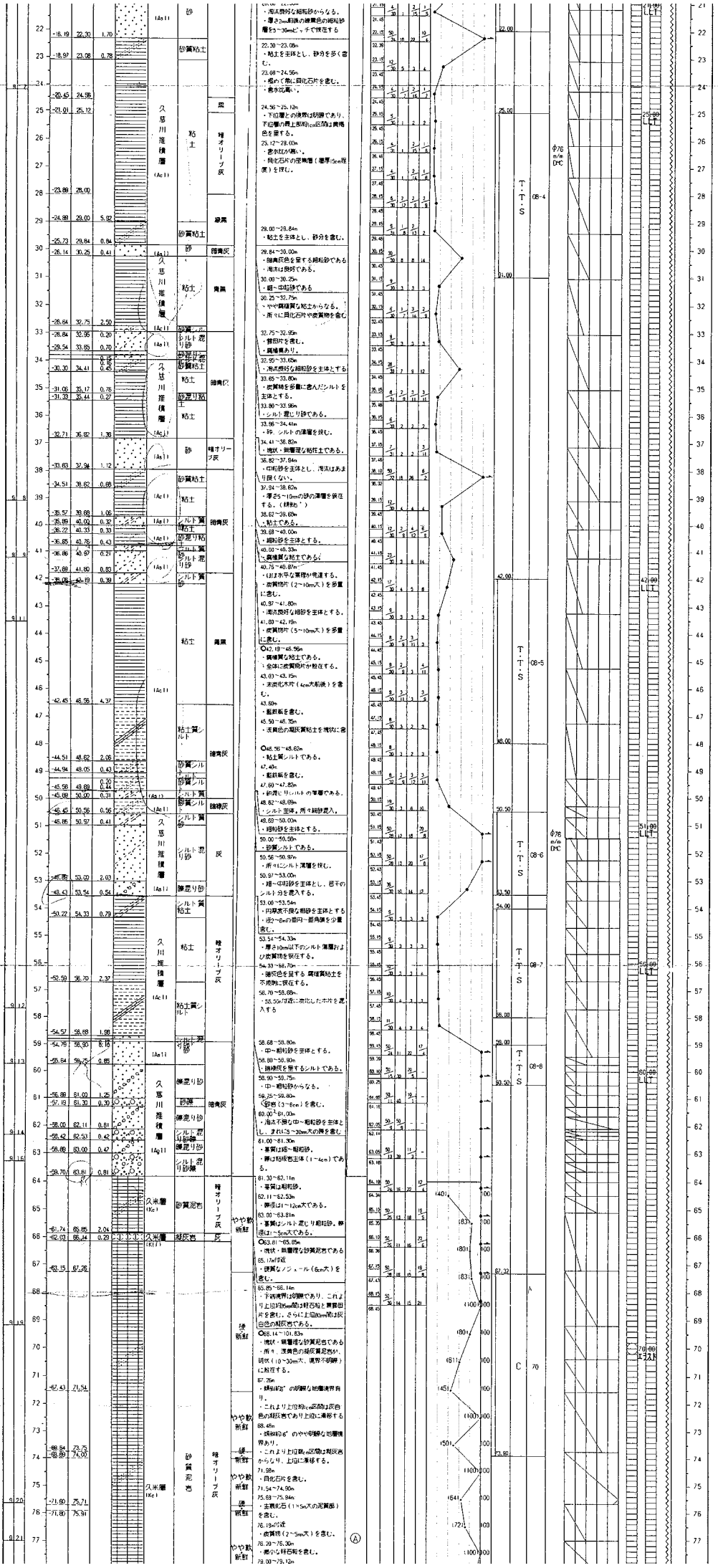
使用試錐機　D2-K、NAS-2

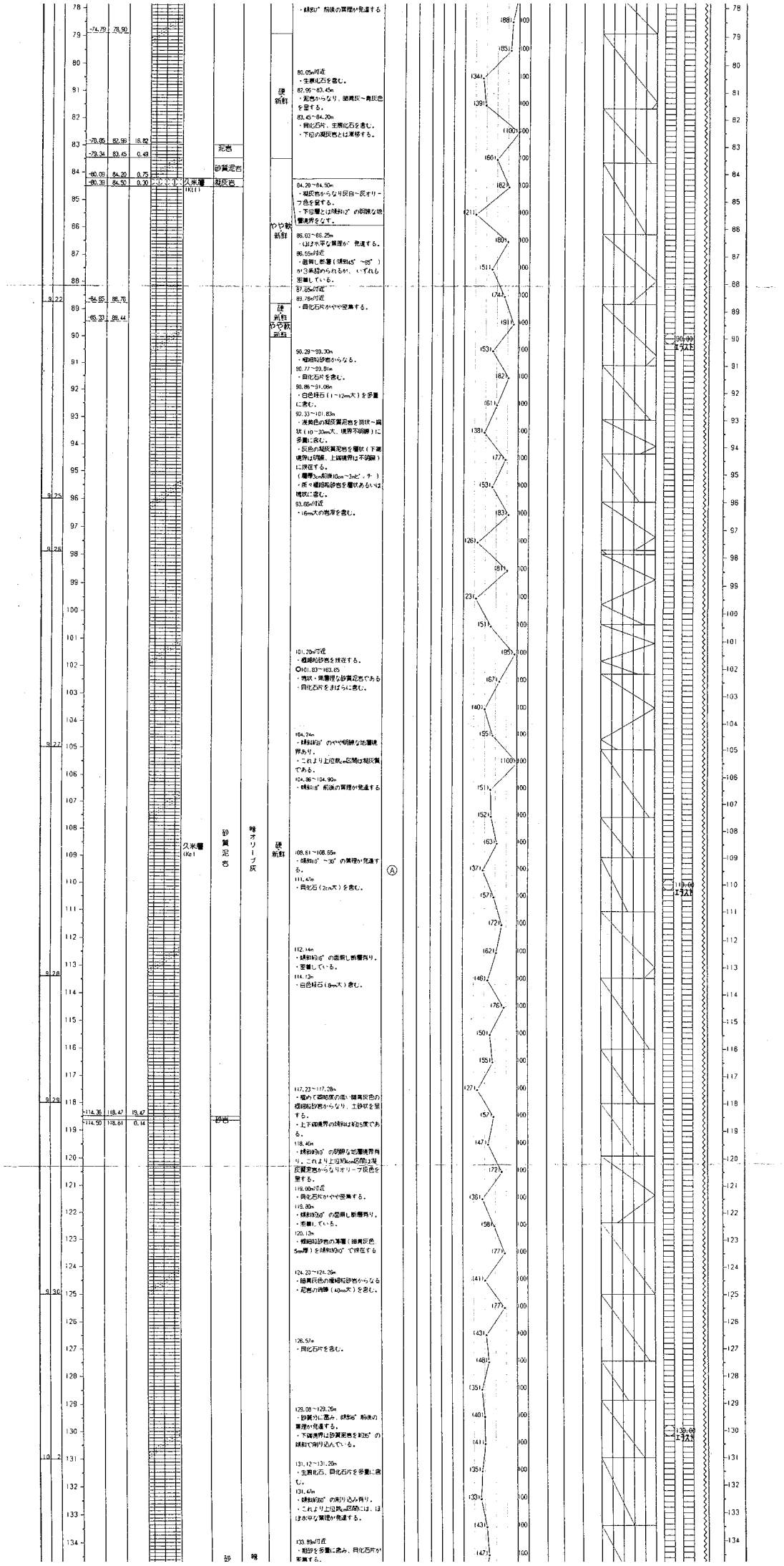
孔口標高 EL　+4.11m

最終孔内水位 GL-　3.73m (EL　+0.38m)

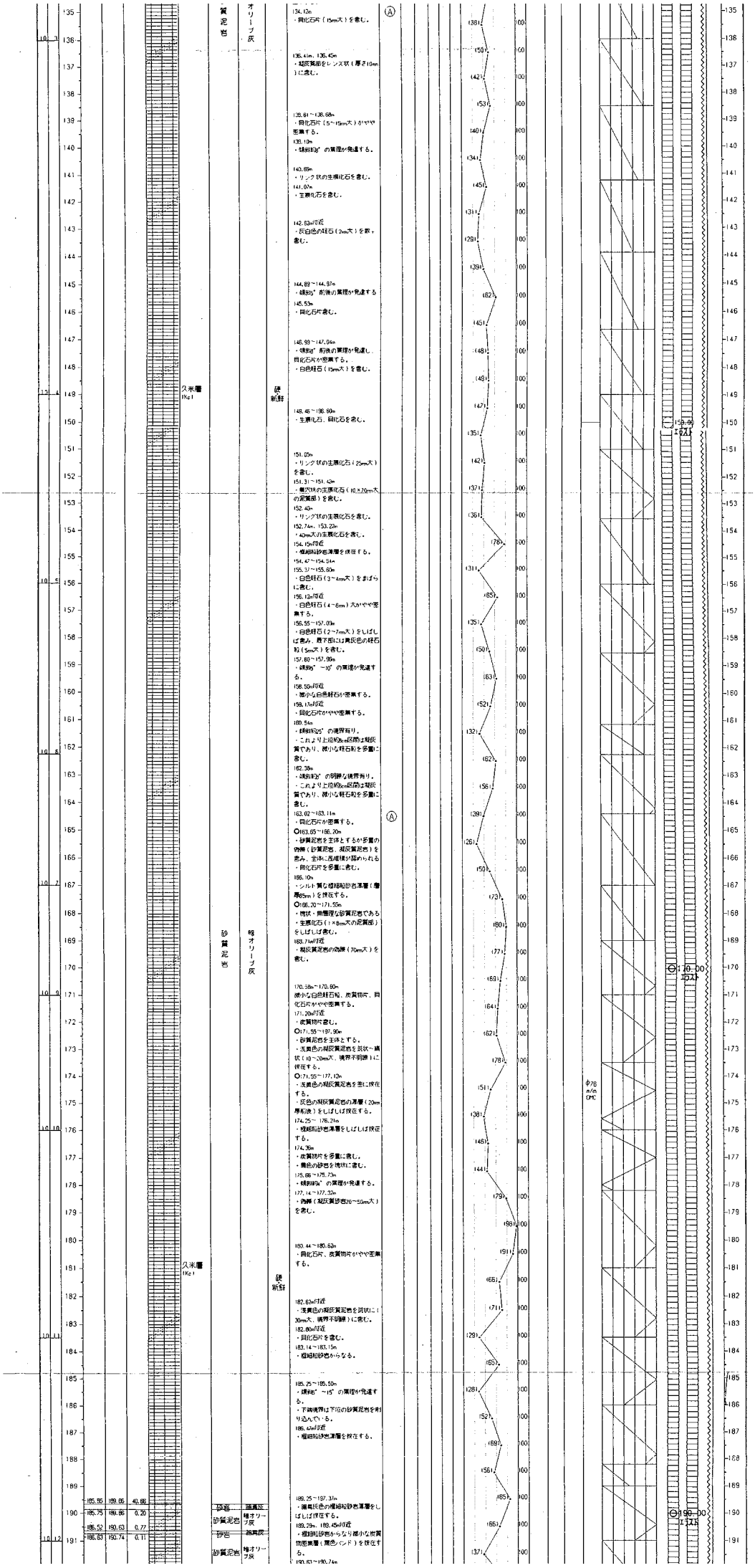
掘削深度 GL-　214.00m　　コア観察者 [redacted]

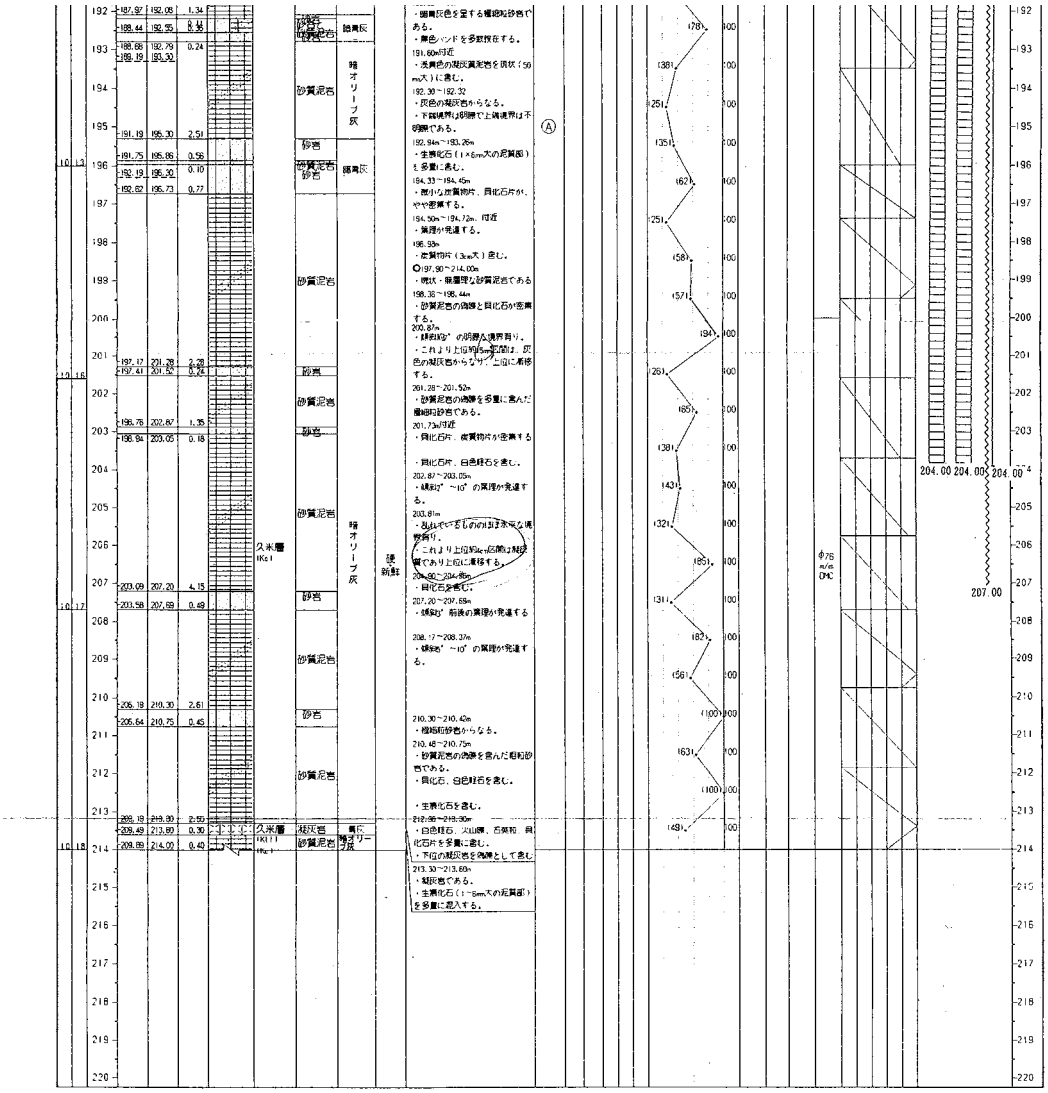






-74.79 78.90
-78.85 82.96 16.82
-79.34 83.45 0.49
-80.09 84.20 0.75
-80.39 84.50 0.30
-84.85 88.76
-85.33 88.44
-114.36 118.47 19.47
-114.50 118.61 0.14
久米層 (Ke1)
泥岩
砂質泥岩
凝灰岩
砂質泥岩
砂岩
暗オリーブ灰
硬新鮮
やや軟新鮮
硬新鮮
やや軟新鮮
硬新鮮
砂
暗
・頻度10°前後の葉理が発達する
80.05m付近
・生痕化石を含む。
82.96～83.45m
・泥岩からなり、暗青灰～青灰色を呈する。
83.45～84.20m
・貝化石片、生痕化石を含む。
・下位の凝灰岩とは漸移する。
84.20～84.50m
・凝灰岩からなり灰白～灰オリーブ色を呈する。
・下位層とは頻度12°の明瞭な地層境界をなす。
86.03～86.25m
・ほぼ水平な葉理が発達する。
86.55m付近
・面無し断層（頻度45°～65°）が3条認められるが、いずれも密着している。
87.85m付近
89.76m付近
・貝化石片がやや密集する。
90.29～90.30m
・細細粒砂岩からなる。
90.77～90.81m
・貝化石片を含む。
90.86～91.08m
・白色軽石（1～12mm大）を多量に含む。
92.33～101.83m
・浅黄色の凝灰質泥岩を頂状～扁状（10～30mm大、境界不明瞭）に多量に含む。
・灰色の凝灰質泥岩を層状（下端境界は明瞭、上端境界は不明瞭）に挟在する。
（層厚3cm前後10cm～3mピッチ）
・所々細細粒砂岩を層状あるいは塊状に含む。
93.66m付近
・16mm大の岩滓を含む。
101.20m付近
・細細粒砂岩を挟在する。
○101.83～163.65
・塊状・無層理な砂質泥岩である
・貝化石片をまばらに含む。
104.24m
・頻度40°のやや明瞭な地層境界あり。
・これより上位数cm区間は凝灰質である。
104.86～104.90m
・頻度18°前後の葉理が発達する
108.61～108.65m
・頻度10°～30°の葉理が発達する。
111.47m
・貝化石（2cm大）を含む。
112.14m
・頻度約16°の面無し断層有り。
・密着している。
114.12m
・白色軽石（8mm大）含む。
117.23～117.28m
・極めて細粒度の低い暗青灰色の細細粒砂岩からなり、土砂状を呈する。
・上下端境界の頻度は約15度である。
118.40m
・頻度約10°の明瞭な地層境界有り。これより上位約4cm区間は凝灰質泥岩からなりオリーブ灰色を呈する。
119.00m付近
・貝化石片がやや密集する。
119.80m
・頻度約30°の面無し断層有り。
・密着している。
120.12m
・細細粒砂岩の薄層（暗青灰色、5mm厚）を頻度約10°で挟在する
124.23～124.26m
・暗青灰色の細細粒砂岩からなる
・泥岩の偽礫（40mm大）を含む。
126.57m
・貝化石片を含む。
129.08～129.26m
・砂質分に富み、頻度6°前後の葉理が発達する。
・下端境界は砂質泥岩を約25°の頻度で削り込んでいる。
131.12～131.20m
・生痕化石、貝化石片を多量に含む。
131.47m
・頻度約60°の削り込み有り。
・これより上位数cm区間には、ほぼ水平な葉理が発達する。
133.89m付近
・粗砂を多量に含み、貝化石片が密集する。
Ⓐ
90.00 エラスト
119.00 エラスト
139.00 エラスト


砂質泥岩
オリーブ灰
134.12m
・貝化石片（15mm大）を含む。
135.41m、136.45m
・凝灰質部をレンズ状（厚さ10mm）に含む。
135.81～136.68m
・貝化石片（5～15mm大）がやや密集する。
136.10m
・縞細粒砂の累理が発達する。
140.89m
・リング状の生痕化石を含む。
141.07m
・生痕化石を含む。
142.62m付近
・灰白色の軽石（2mm大）を数ヶ含む。
144.89～144.97m
・縞細砂の累理が発達する。
145.53m
・貝化石片含む。
146.99～147.04m
・縞細砂の累理が発達し、貝化石片が密集する。
・白色軽石（15mm大）を含む。
久米層
1Kg1
礫
新鮮
148.46～148.80m
・生痕化石、貝化石を含む。
151.05m
・リング状の生痕化石（25mm大）を含む。
151.31～151.42m
・巣穴状の生痕化石（10×20mm大の泥質部）を含む。
152.40m
・リング状の生痕化石を含む。
152.74m、153.22m
・40mm大の生痕化石を含む。
154.15m付近
・極細粒砂岩薄層を挟在する。
154.47～154.54m
155.37～155.60m
・白色軽石（3～4mm大）をまばらに含む。
156.12m付近
・白色軽石（4～6mm）大がやや密集する。
156.55～157.03m
・白色軽石（2～7mm大）をしばしば含み、底下面には黄灰色の軽石粒（5mm大）を含む。
157.80～157.96m
・縞細砂～シルトの累理が発達する。
158.50m付近
・微小な白色軽石が密集する。
159.17m付近
・貝化石片がやや密集する。
160.54m
・縞細粒砂の境界有り。
・これより上位約0.4m区間は凝灰質であり、微小な軽石粒を多量に含む。
162.38m
・縞細粒砂の明瞭な境界有り。
・これより上位約0.5m区間は凝灰質であり、微小な軽石粒を多量に含む。
163.02～163.11m
・貝化石片が密集する。
Ⓐ
○163.65～166.20m
・砂質泥岩を主体とするが多量の物質（砂質泥岩、凝灰質泥岩）を含み、全体に混雑様が認められる。
・貝化石片を多量に含む。
166.10m
・シルト質な極細粒砂岩薄層（層厚65mm）を挟在する。
○166.20～171.55m
・塊状・無層理な砂質泥岩である。
・生痕化石（1×8mm大の泥質部）をしばしば含む。
183.71m付近
・凝灰質泥岩の converge（70mm大）を含む。
砂質泥岩
暗オリーブ灰
170.58m～170.80m
微小な白色軽石粒、炭質物片、貝化石片がやや密集する。
171.20m付近
・炭質物片を含む。
○171.55～197.96m
・砂質泥岩を主体とする。
・淡黄色の凝灰質泥岩を斑状～縞状（10～20mm大、境界不明瞭）に挟在する。
○171.55～177.12m
・淡黄色の凝灰質泥岩を密に挟在する。
・灰色の凝灰質泥岩の薄層（20mm厚前後）をしばしば挟在する。
174.25～176.21m
・極細粒砂岩薄層をしばしば挟在する。
174.36m
・炭質物片を多量に含む。
・黒色の砂岩を斑状に含む。
175.68～175.73m
・縞細粒砂の累理が発達する。
177.14～177.32m
・converge（凝灰質砂岩20～50mm大）を含む。
180.44～180.62m
・貝化石片、炭質物片がやや密集する。
久米層
1Kg1
礫
新鮮
182.62m付近
・淡黄色の凝灰質泥岩を斑状に（30mm大、境界不明瞭）に含む。
182.80m付近
・貝化石片を含む。
183.14～183.15m
・極細粒砂岩からなる。
185.25～185.50m
・縞細粒砂～シルトの累理が発達する。
・下位境界は下位の砂質泥岩を削り込んでいる。
186.62m付近
・極細粒砂岩薄層を挟在する。
189.25～197.37m
・褐灰色の極細粒砂岩薄層をしばしば挟在する。
189.29m、189.45m付近
・極細粒砂岩からなる微小な炭質物岩黒層（黒色バンド）を挟在する。
190.63～190.74m
砂岩
暗黄灰
砂質泥岩
暗オリーブ灰
φ76 m/m SMC
158.99 1Kg1
170.00 1Sh1
190.00 1Sh1



（注） 1．試料採取方法

C：ボーリングコア試料
P：標準貫入試験による試料
D：デニソン型サンプラーによる試料
T：固定ピストン式シンウォールサンプラーによる試料
T・T・S：トリプルチューブサンプラー

2．コアチューブ・ビットの種類

SMC：シングルコアチューブ・メタルクラウン
DMC：ダブルコアチューブ・メタルクラウン
DDB：ダブルコアチューブ・ダイヤモンドビット
TMC：トリプルコアチューブ・メタルクラウン
TDB：トリプルコアチューブ・ダイヤモンドビット

3．原位置試験・検層実施状況

○：孔内水平載荷試験
□：間隙水圧測定
日：PS検層（板たたき方式）
日：PS検層（サスペンション方式）
S：電気検層
｜：密度検層
⋮：キャリパー検層

G－8（パイロット）　ボーリング柱状図

件名	東海第二発電所使用済燃料貯蔵設備設置に係るボーリング調査他		主任技術者
調査地	茨城県那珂郡東海村大字白方1-1	孔口標高 EL +4.11m	[redacted]
調査期間	平成 7年7月19日～7年7月26日	最終孔内水位 GL- 3.60m (EL +0.51m)	コア観察者
使用試錐機	TDC－1G	掘削深度 GL- 25.00m	[redacted]

掘進月日 月	日	標尺 m	標高 EL m	深度 GL- m	層厚 m	地質柱状図	地質 地層名	地質 層相	色調	硬軟・風化状況	記事	岩級区分	標準貫入試験 深度 GL- m	N値	10cm毎の打撃回数 10cm	20cm	30cm	N値（回） 10 20 30 40 50 / 最大コア長（cm） 20 40 60 80 100 / RQD（%） 20 40 60 80 100	土質・岩石試験用試料採取 深度 GL- m	採取方法	試料番号	コピアッチューブの種類	コア採取率（%） 20 40 60 80 / 掘進時間（min） 10 20 30 40	原位置試験・検層	標尺 m
		1									0.00～3.20m ・礫混り砂からなる埋土である。 ・砂は細～粗砂である。 ・礫は10～100mm大の角礫である		実施せず						実施せず		試掘		実施せず	1
		2																							2
		3	0.86	3.25	3.25		埋土	礫混り砂																	3
7	19	4	0.11	4.00	0.75		久慈川推積層 (Ag2)	砂	暗灰黄		3.25～4.00m ・海流良好な中粒砂からなる。														4
		5									○4.00～8.53m ・基質は細～粗砂からなる。 ・礫は、チャートを主体とした2～30mm大の亜円～円礫である。 ・礫は7.20m付近、8.40m付近に密集している。														5
		6																							6
		7	-3.54	7.65	3.65			礫混り砂																	7
		8	-4.14	8.25	0.60			砂	灰オリーブ		7.65～8.25m 8.53～9.13m 海流良好な細砂からなる。														8
			-4.42	8.53	0.28			礫混り砂																	
		9	-5.02	9.13	0.60			砂																	9
7	20	10	-5.89	10.00	0.87			シルト質砂礫			9.08～9.13m ・粗砂を混入する。 9.13～10.00m ・基質はシルト質細砂である。 ・礫は、チャート、粘板岩からなる20～60mm大の円礫である。														10
			-6.34	10.45	0.45			礫混り砂																	
		11	-6.53	10.64	0.19		(As1)	砂	暗緑灰		10.00～10.45m ・基質は細～中砂からなり、礫は径3mm程度の円礫である。														11
		12	-7.89	12.00	1.36		(Ac1)	シルト質粘土			10.45～10.64m ・極細砂からなる。														12
7	22		-8.41	12.52	0.52			砂混りシルト			10.64～12.52m ・貝化石片をしばしば含む。														
		13	-8.63	12.74	0.22		(As1)	砂	灰		12.52～12.74m ・石英粒を多量に含む中砂からなる。														13
		14					久慈川推積層 (Ac1)	シルト混り粘土	暗緑灰		12.74～16.02m ・貝化石片をしばしば含む。											φ76 m/m DMC			14
		15																							15
		16	-11.81	15.92	3.18			シルト																	16
			-11.94	16.02	0.10		(As1)	礫混り砂	灰褐		16.02～16.60m ・海流不良な細～粗砂からなる。														
			-12.48	16.60	0.58			砂混り粘土			16.25～16.60m ・チャートを主体とした2～30mm大の円礫を含む。														
		17	-12.89	17.00	0.40		(Ac1)	砂質シルト			16.60～18.26m ・貝化石片をしばしば含む。														17
7	24	18	-14.15	18.26	1.26						18.26～19.75m ・シルト混り細砂である。 ・雲母片をしばしば含む。														18
		19	-15.64	19.75	1.49		(As1)	シルト混り砂			19.75～20.60m ・海流良好な細砂である。														19
		20	-16.49	20.60	0.85			砂	暗緑灰		○20.60～21.30m ・シルト混りの極細～細砂である														20
		21	-16.73	20.84	0.24		(Ac1)	シルト混り砂			20.84～21.06m ・細砂混りのシルトである。														21
			-16.95	21.06	0.22		(As1)	シルト混り砂																	
			-17.19	21.30	0.24		(Ac1)	シルト混り砂			21.30～21.77m ・細砂混りの粘土である。														
			-17.66	21.77	0.47			砂混り粘土																	
		22					(As1)	砂			○21.77～23.53m ・細砂からなる。														22
		23	-19.09	23.20	1.43																				23
			-19.42	23.53	0.33			シルト質砂混りシルト			23.20～23.53m ・シルトを含む。														
			-19.73	23.84	0.31		(Ac1)				23.53～23.84m ・細砂混りのシルトである。														
		24	-19.94	24.05	0.21		(As1)				23.84～24.05m ・細砂からなる。 ・極めて希に6mm前後の円礫を含む。														24
			-20.29	24.40	0.35		(Ac1)	砂質シルト粘土			24.05～24.40m ・シルトを主体として、細砂薄層をしばしば挟在する。														
7	25	25	-20.89	25.00	0.60						24.40～25.00m ・粘土である。 24.43m付近 ・細砂薄層を挟在する。														25
		26																							26
		27																							27
		28																							28
		29																							29
		30																							30

（注）　1．試料採取方法

C：ボーリングコア試料
P：標準貫入試験による試料
D：デニソン型サンプラーによる試料
T：固定ピストン式シンウォールサンプラーによる試料

2．コアチューブ・ビットの種類

SMC：シングルコアチューブ・メタルクラウン
DMC：ダブルコアチューブ・メタルクラウン
DDB：ダブルコアチューブ・ダイヤモンドビット
TMC：トリプルコアチューブ・メタルクラウン
TDB：トリプルコアチューブ・ダイヤモンドビット

3．原位置試験・検層実施状況

○：孔内水平載荷試験
□：間隙水圧測定
目：PS検層（板たたき方式）
目：PS検層（サスペンション方式）
⚡：電気検層
｜：密度検層
⋮：キャリパー検層

TOUCOU Ver 1.00 1996-03-19 17:56:17

a

ボーリング柱状図

件　　名 東海第二発電所使用済燃料貯蔵施設に係るボーリング調査他

調 査 地 茨城県那珂郡東海村大字白方1-1

調査期間 平成7年8月2日～7年8月28日

使用試錐機 TDC-1G BG-3

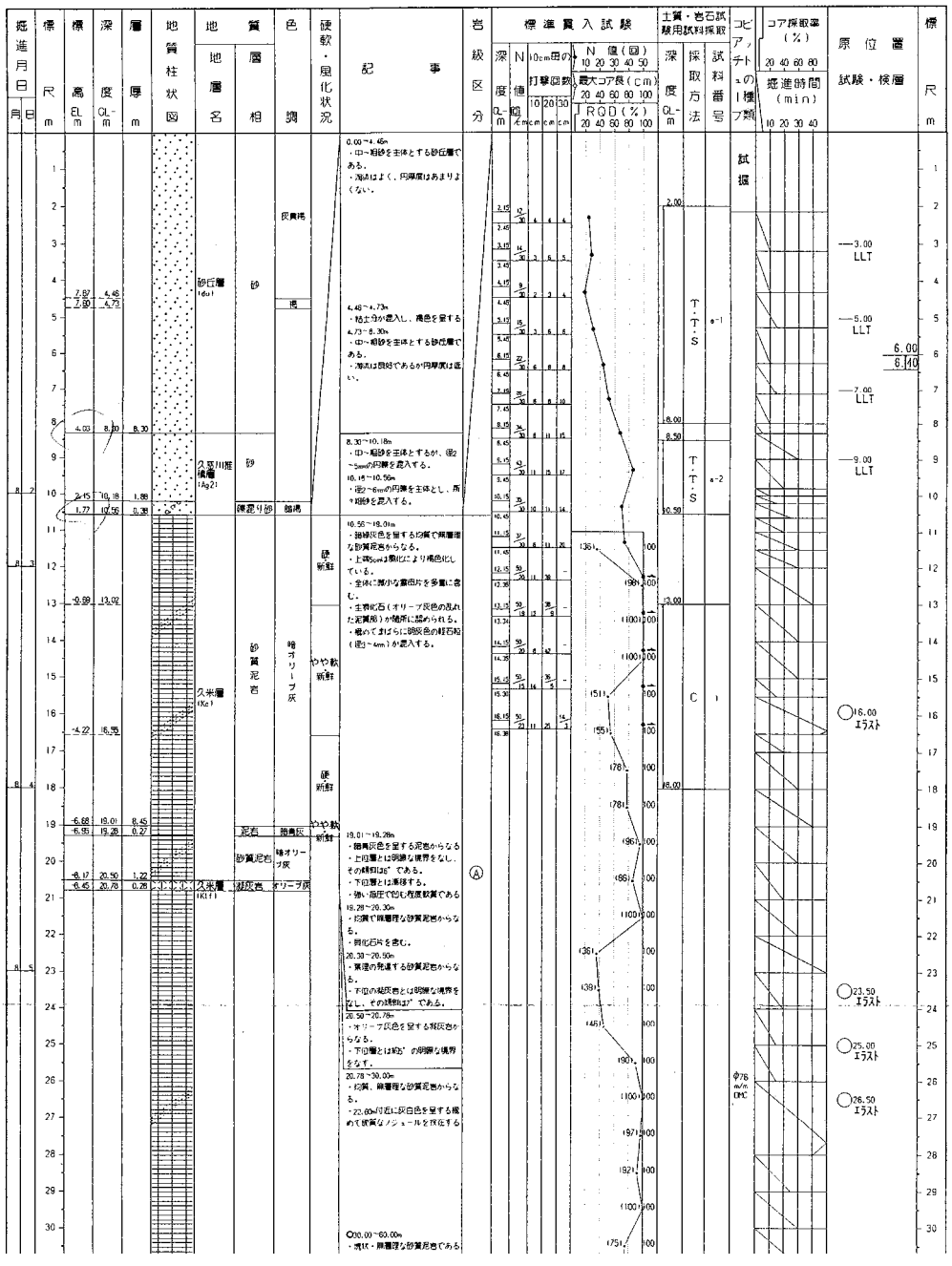
孔 口 標 高 EL +12.33m

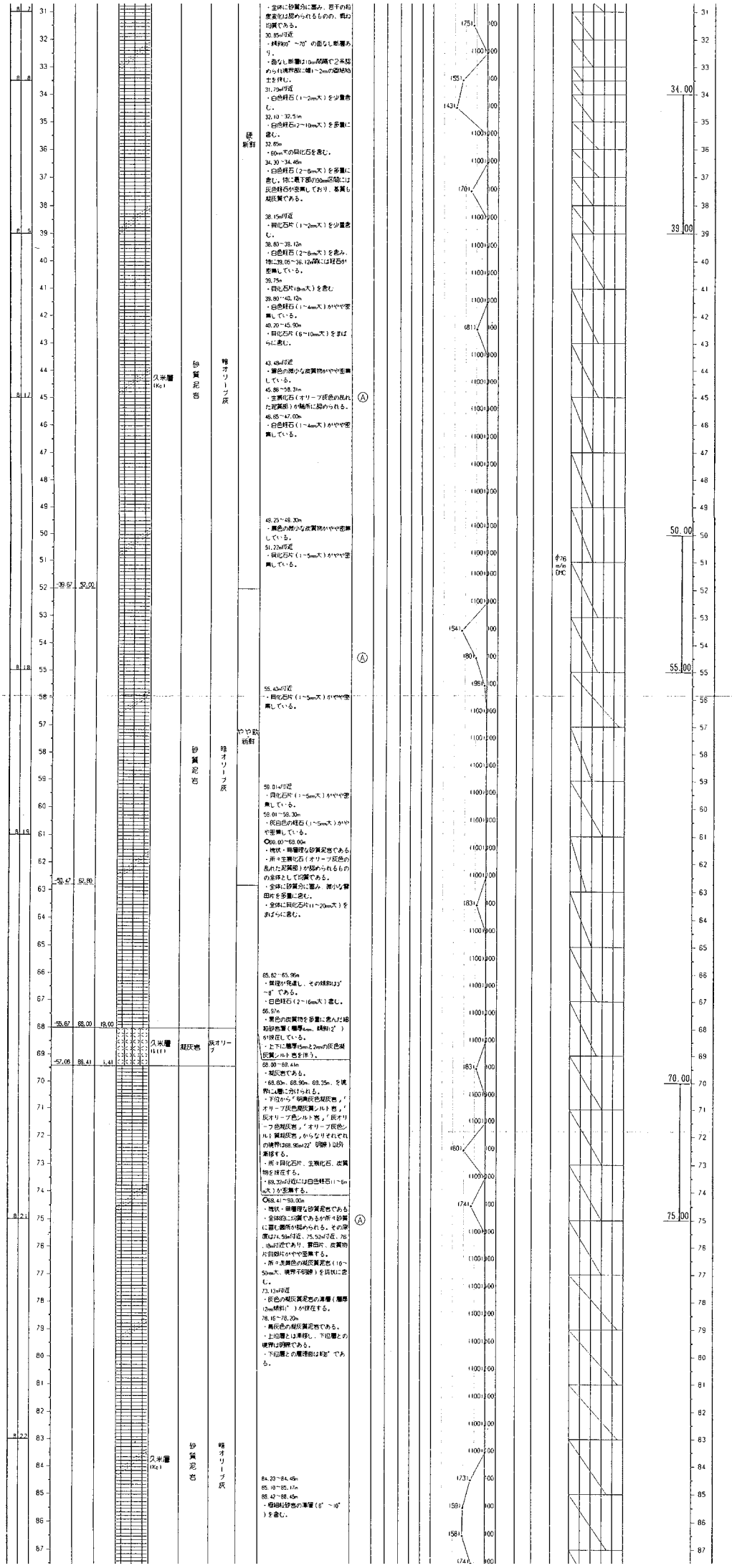
最終孔内水位 GL- 9.40m (EL +2.93m)

掘 削 深 度 GL- 122.00m

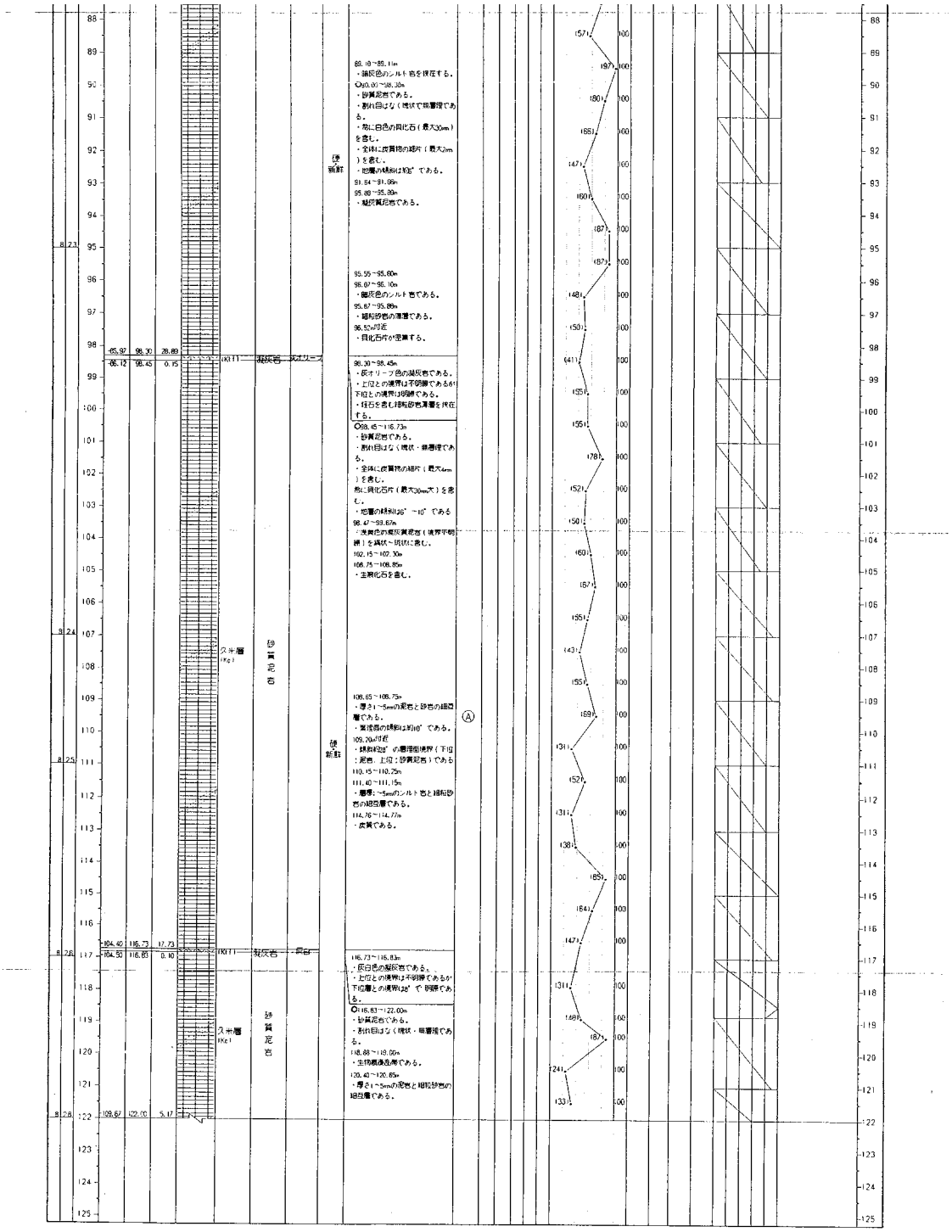
主任技術者 [redacted]

コア観察者 [redacted]





・全体に砂質分に富み、岩手の粒度変化は認められるものの、概ね均質である。
30.85m付近
・縞斜80°～70°の面なし断層あり。
・面なし断層は10mm間隔で2条認められ、境界部に幅1～2mの破砕粘土を伴う。
31.79m付近
・白色軽石（1～2mm大）を少量含む。
32.10～32.51m
・白色軽石（2～10mm大）を多量に含む。
32.85m
・60mm大の同化石を含む。
34.30～34.46m
・白色軽石（2～6mm大）を多量に含む。特に最下部が30mm区間には灰色軽石が密集しており、基質も凝灰質である。
38.15m付近
・同化石片（1～2mm大）を少量含む。
38.80～39.12m
・白色軽石（2～6mm大）を含み、特に39.05～39.12m間には軽石が密集している。
39.75m
・同化石片（8mm大）を含む
39.80～40.12m
・白色軽石（1～4mm大）がやや密集している。
40.20～45.90m
・同化石片（6～10mm大）をまばらに含む。
43.48m付近
・暗色の微小な炭質物がやや密集している。
45.86～58.31m
・主質部（オリーブ灰色の乱れた泥質部）が幾所に認められる。
46.65～47.00m
・白色軽石（1～4mm大）がやや密集している。
49.25～49.30m
・黒色の微小な炭質物がやや密集している。
51.22m付近
・同化石片（1～5mm大）がやや密集している。
55.45m付近
・同化石片（1～5mm大）がやや密集している。
59.01m付近
・同化石片（1～5mm大）がやや密集している。
59.01～59.30m
・灰白色の軽石（1～5mm大）がやや密集している。
○60.00～68.00m
・塊状・無層理な砂質泥岩である。
・所々主質化石（オリーブ灰色の乱れた泥質部）が認められるものの全体として均質である。
・全体に砂質分に富み、微小な貝片を密集に含む。
・全体に同化石片（1～20mm大）をまばらに含む。
65.82～65.96m
・葉理が発達し、その傾斜は3°～8°である。
・白色軽石（2～16mm大）を含む。
66.57m
・黒色の炭質物を多量に含んだ細粒砂岩層（層厚4mm、傾斜12°）が挟在している。
・上下に層厚15mmと2mmの灰色凝灰質シルト岩を伴う。
68.00～69.41m
・凝灰岩である。
・68.60m、68.90m、69.35m、を境界に層に分けられる。
・下位から「明黄灰色凝灰岩」「オリーブ灰色凝灰質シルト岩」「灰オリーブ色シルト岩」「灰オリーブ色凝灰岩」「オリーブ灰色シルト質凝灰岩」からなりそれぞれの境界は68.90m(22°明瞭)以外漸移する。
・所々同化石片、生痕化石、炭質物を挟在する。
・69.32m付近には白色軽石（1～6mm大）が密集する。
○69.41～90.00m
・塊状・無層理な砂質泥岩である。
・全体的に均質であるが所々砂質に富む箇所が認められる。その深度は74.58m付近、75.52m付近、76.18m付近であり、貝片、炭質物片同様がやや密集する。
・所々炭黄色の凝灰質泥岩（10～50mm大、境界不明瞭）を斑状に含む。
75.13m付近
・灰色の凝灰質泥岩の薄層（層厚12mm傾斜1°）が挟在する。
76.16～76.20m
・黄灰色の凝灰質泥岩である。
・上位層とは漸移し、下位層との境界は鋭敏である。
・下位層との層理面は約6°である。
84.23～84.45m
85.10～85.17m
86.42～86.45m
・極細粒砂岩の薄層（6°～10°）を含む。
硬新鮮
やや軟新鮮
久米層（Kc）
砂質泥岩
暗オリーブ灰
凝灰岩
灰オリーブ
Ⓐ
39.67
52.00
50.47
62.80
55.67
68.00
19.00
57.08
69.41
1.41
34.00
39.00
50.00
55.00
70.00
75.00



（注）

1．試料採取方法

C：ボーリングコア試料
P：標準貫入試験による試料
D：テニソン型サンプラーによる試料
T：固定ピストン式シンウォールサンプラーによる試料
T・T・S：トリプルチューブサンプラー

2．コアチューブ・ビットの種類

SMC：シングルコアチューブ・メタルクラウン
DMC：ダブルコアチューブ・メタルクラウン
DDB：ダブルコアチューブ・ダイヤモンドビット
TMC：トリプルコアチューブ・メタルクラウン
TDB：トリプルコアチューブ・ダイヤモンドビット

3．原位置試験・検層実施状況

O：孔内水平載荷試験
U：間隙水圧測定
B：PS検層（板たたき方式）
B：PS検層（サスペンション方式）
S：電気検層
：密度検層
：キャリパー検層
工：透水試験

TOUGOU Ver 1.00 1996-03-20 01:33:58

b

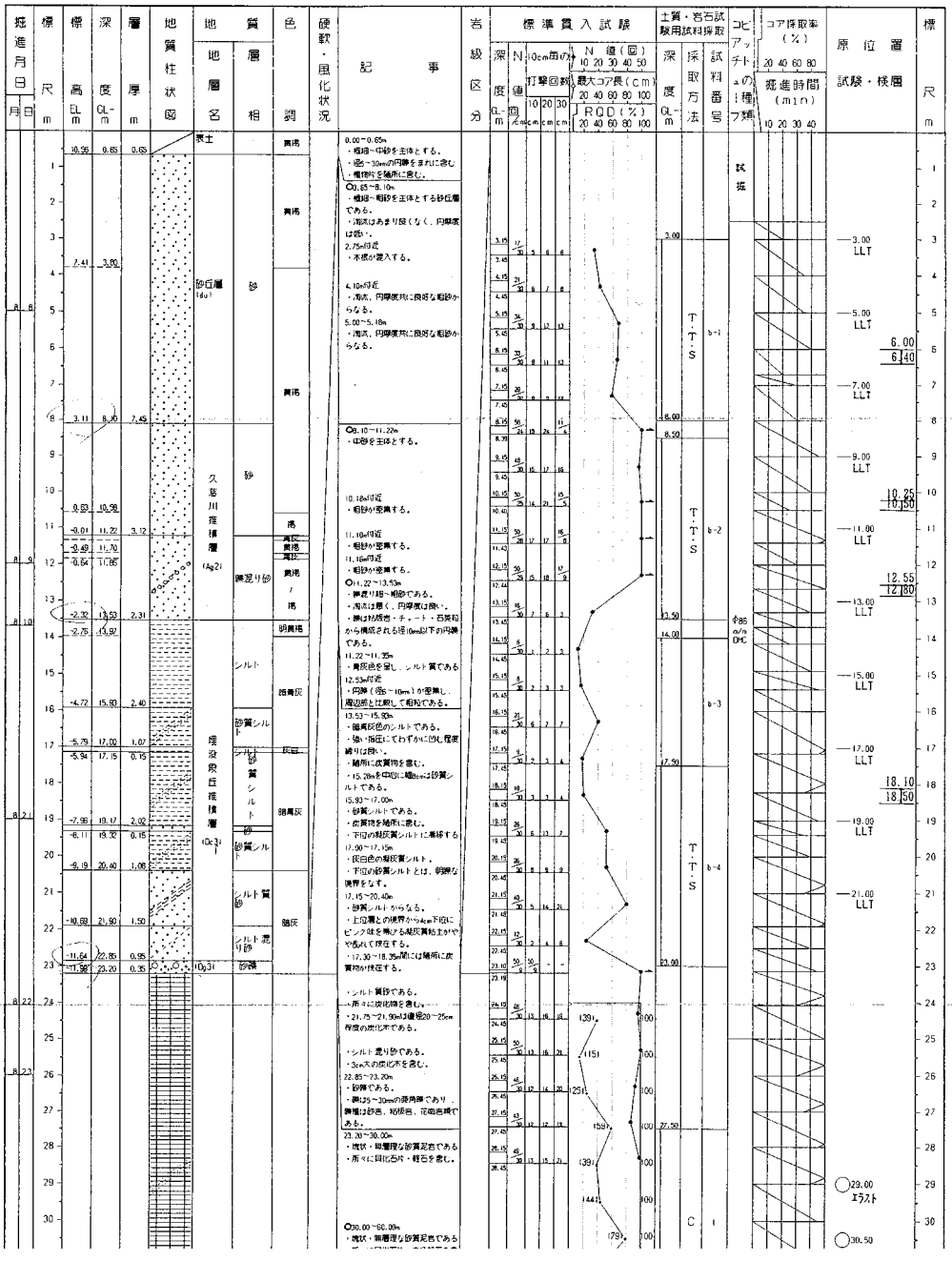
ボーリング柱状図

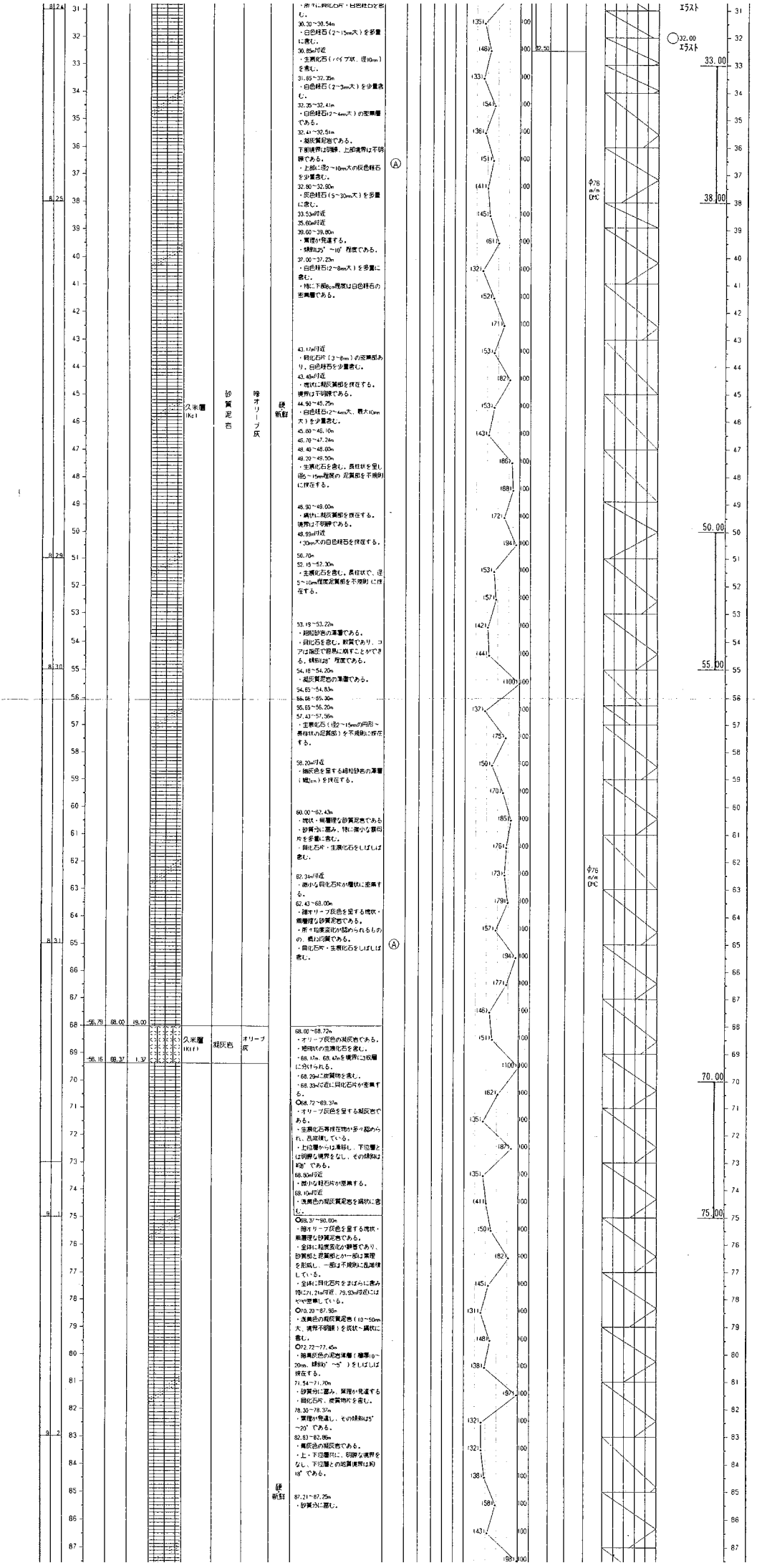
件　　名　東海第二発電所使用済燃料貯蔵設備設置に係るボーリング調査他　　主任技術者

調　査　地　茨城県那珂郡東海村大字白方1-1　　孔口標高 EL +11.21m

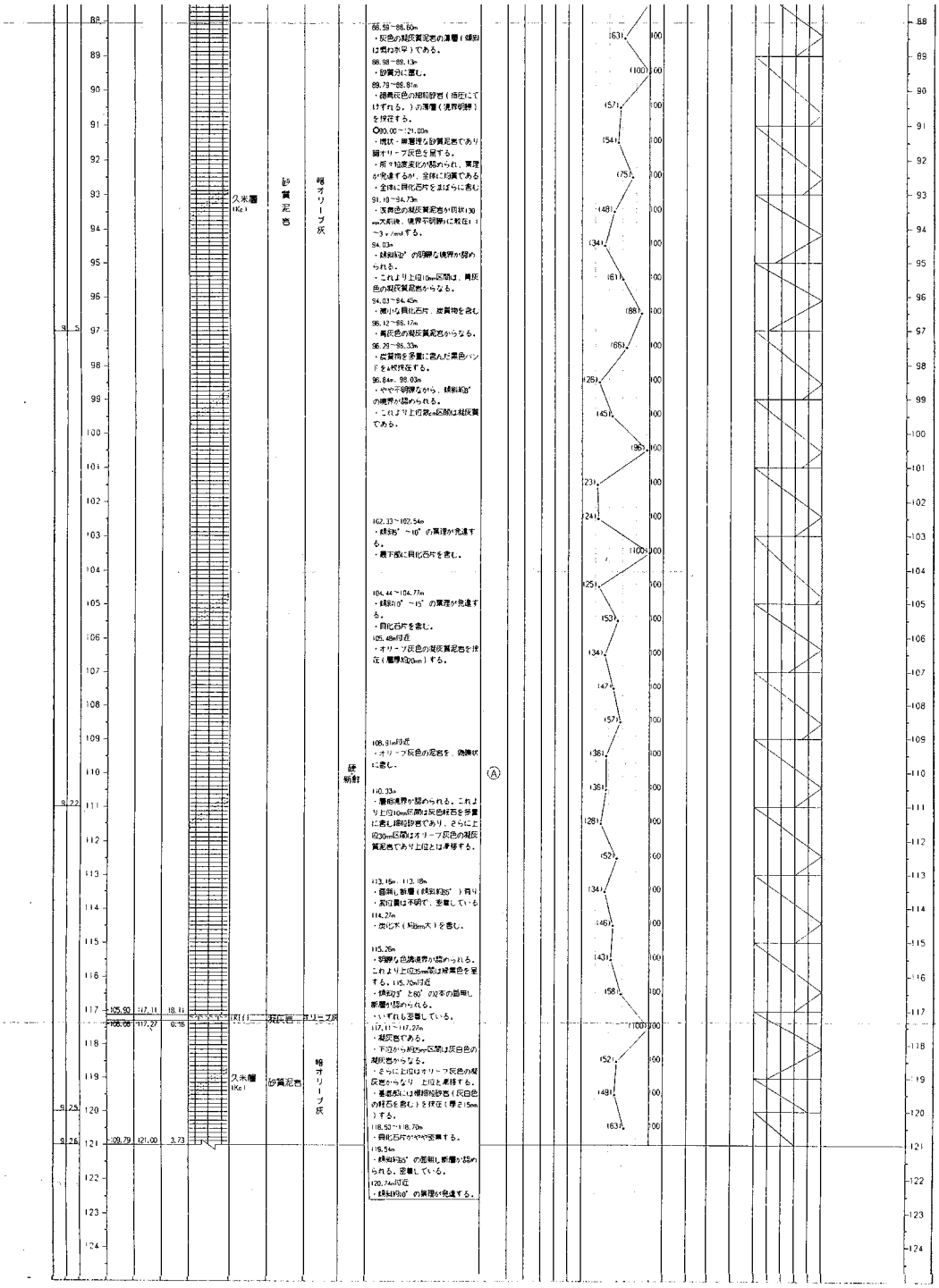
調査期間　平成7年8月8日～7年10月24日　　最終孔内水位 GL- 9.40m (EL +1.81m)　　コア観察者

使用試錐機　YSO-1　　掘削深度 GL- 121.00m





8.24
8.25
8.29
8.30
8.31
9.1
9.2
-56.79
68.00
19.00
-56.16
69.37
1.37
久米層 (Kg1)
砂質泥岩
暗オリーブ灰
硬新鮮
久米層 (Kg1)
凝灰岩
オリーブ灰
硬新鮮
Ⓐ
Ⓐ
・所々に貝化石片・白色軽石を含む。
30.30～30.54m
・白色軽石（2～15mm大）を多量に含む。
30.85m付近
・生裏化石（パイプ状、径10mm）を含む。
31.65～32.35m
・白色軽石（2～3mm大）を少量含む。
32.35～32.41m
・白色軽石（2～4mm大）の密集層である。
32.41～32.51m
・凝灰質泥岩である。
下部境界は明瞭、上部境界は不明瞭である。
・上部に径2～10mm大の灰色軽石を少量含む。
32.80～32.90m
・灰色軽石（5～30mm大）を多量に含む。
33.53m付近
35.60m付近
39.60～39.80m
・葉理が発達する。
・傾斜は5°～10°程度である。
37.00～37.23m
・白色軽石（2～8mm大）を多量に含む。
・特に下部8cm程度は白色軽石の密集層である。
43.17m付近
・貝化石片（3～8mm）の密集部あり。白色軽石を少量含む。
43.40m付近
・塊状に凝灰質部を挟在する。
境界は不明瞭である。
44.90～45.25m
・白色軽石（2～4mm大、最大10mm大）を少量含む。
45.80～46.10m
46.70～47.24m
48.40～48.60m
49.20～49.50m
・生裏化石を含む。長柱状を呈し径5～15mm程度の 泥質部を不規則に挟在する。
48.90～49.00m
・縞状に凝灰質部を挟在する。
境界は不明瞭である。
49.99m付近
・30mm大の白色軽石を挟在する。
50.70m
52.15～52.30m
・生裏化石を含む。長柱状で、径5～10mm程度泥質部を不規則 に挟在する。
53.19～53.22m
・細粒砂岩の薄層である。
・貝化石を含む。軟質であり、コアは指圧で容易に崩すことができる。傾斜は8°程度である。
54.18～54.20m
・凝灰質泥岩の薄層である。
54.65～54.83m
55.66～55.30m
55.65～56.20m
57.43～57.56m
・生裏化石（径2～15mmの円形～長柱状の泥質部）を不規則に挟在する。
58.20m付近
・細灰色を呈する細粒砂岩の薄層（細2cm）を挟在する。
60.00～62.43m
・塊状・無層理な砂質泥岩である
・砂質分に富み、特に微小な裏白片を多量に含む。
・貝化石片・生裏化石をしばしば含む。
62.34m付近
・微小な貝化石片が層状に密集する。
62.43～68.00m
・暗オリーブ灰色を呈する塊状・無層理な砂質泥岩である。
・所々粒度変化が認められるものの、概ね均質である。
・貝化石片・生裏化石をしばしば含む。
68.00～68.72m
・オリーブ灰色の凝灰岩である。
・暗褐状の生裏化石を含む。
・68.17m、68.47mを境界に3枚層に分けられる。
・68.29mに炭質物を含む。
・68.33m付近に貝化石片が密集する。
○68.72～69.37m
・オリーブ灰色を呈する凝灰岩である。
・生裏化石等挟在物が多々認められ、乱雑積している。
・上位層からは漸移し、下位層とは明瞭な境界をなし、その傾斜は約8°である。
68.90m付近
・微小な軽石片が密集する。
69.10m付近
・洗黄色の凝灰質泥岩を縞状に含む。
○69.37～90.00m
・暗オリーブ灰色を呈する塊状・無層理な砂質泥岩である。
・全体に粒度変化が顕著であり、砂質部と泥質部とが一部は葉理を形成し、一部は不規則に乱雑積している。
・全体に貝化石片をまばらに含み特に71.21m付近、79.93m付近にはやや密集している。
○70.20～87.95m
・洗黄色の凝灰質泥岩（10～50mm大、境界不明瞭）を炭状～縞状に含む。
○72.72～77.45m
・暗黄灰色の泥岩薄層（層厚10～20mm、傾斜0°～5°）をしばしば挟在する。
71.54～71.70m
・砂質分に富み、葉理が発達する
・貝化石片、炭質物片を含む。
78.30～78.37m
・葉理が発達し、その傾斜は5°～20°である。
82.83～82.86m
・黄灰色の凝灰岩である。
・上・下位層共に、明瞭な境界をなし、下位層との地質境界は約18°である。
87.21～87.25m
・砂質分に富む。
32.50
φ76 m/m DPC
φ76 m/m DPC
エラスト
32.00
エラスト
33.00
38.00
50.00
55.00
70.00
75.00



（凡）：1．試料採取方法

C：ポーリングコア試料
P：標準貫入試験による試料
D：ダニング型サンプラーによる試料
T：固定ピストン式シンウォールサンプラーによる試料
T・T・S：トリプルチューブサンプラー

2．コアチューブ・ビットの種類

SMC：シングルコアチューブ・メタルクラウン
DMC：ダブルコアチューブ・メタルクラウン
DDB：ダブルコアチューブ・ダイヤモンドビット
TMC：トリプルコアチューブ・メタルクラウン
TDB：トリプルコアチューブ・ダイヤモンドビット

3．現位置試験・孔内状況

○：コア採取率
H：間隙水圧測定
B：PS検層（ボアホール方式）
S：電気検層
I：密度検層
：キャリパー検層
工：透水試験

TOUCOU Ver 1.00 1996-03-21 14:28:39

C

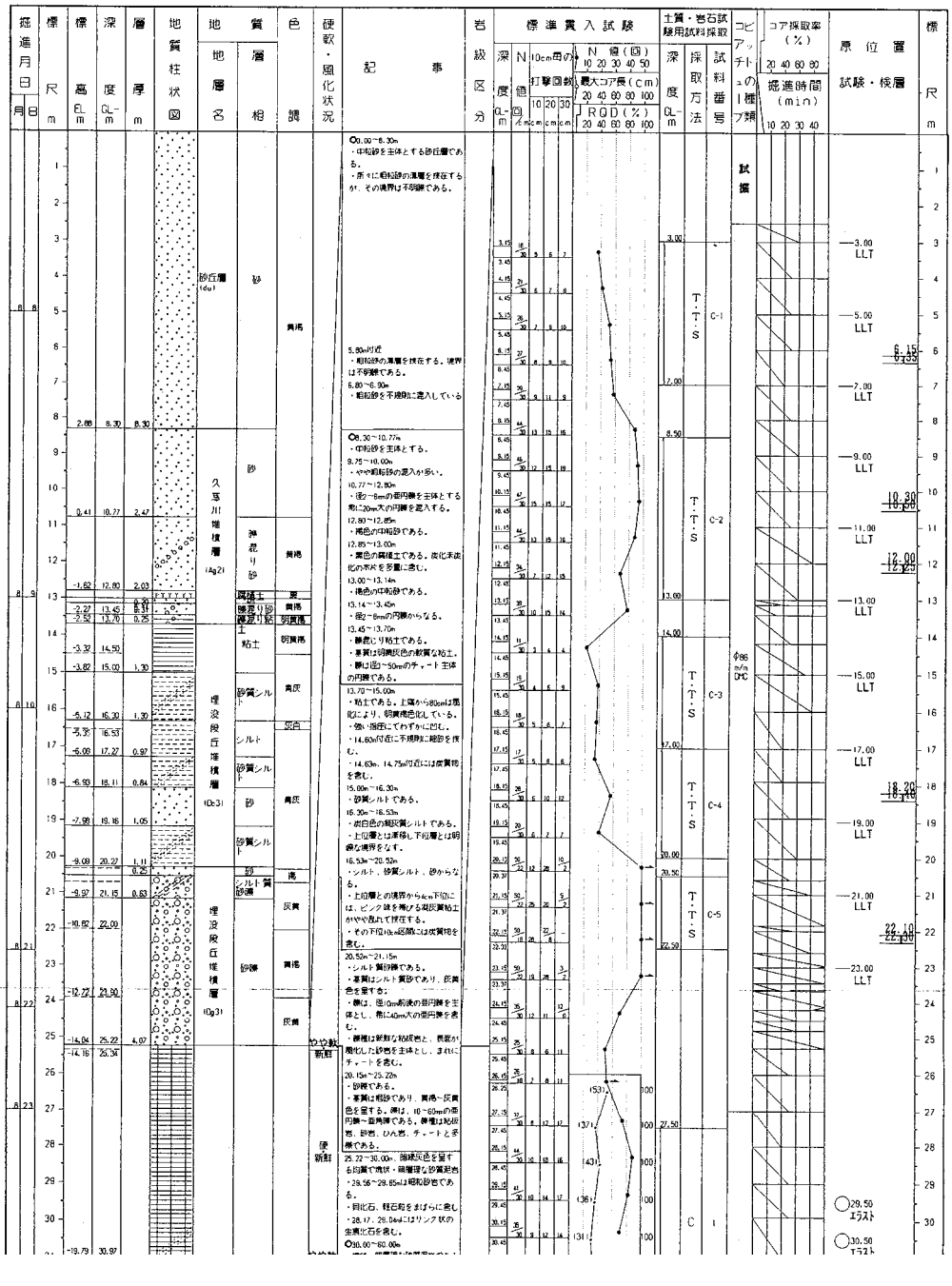
ボーリング柱状図

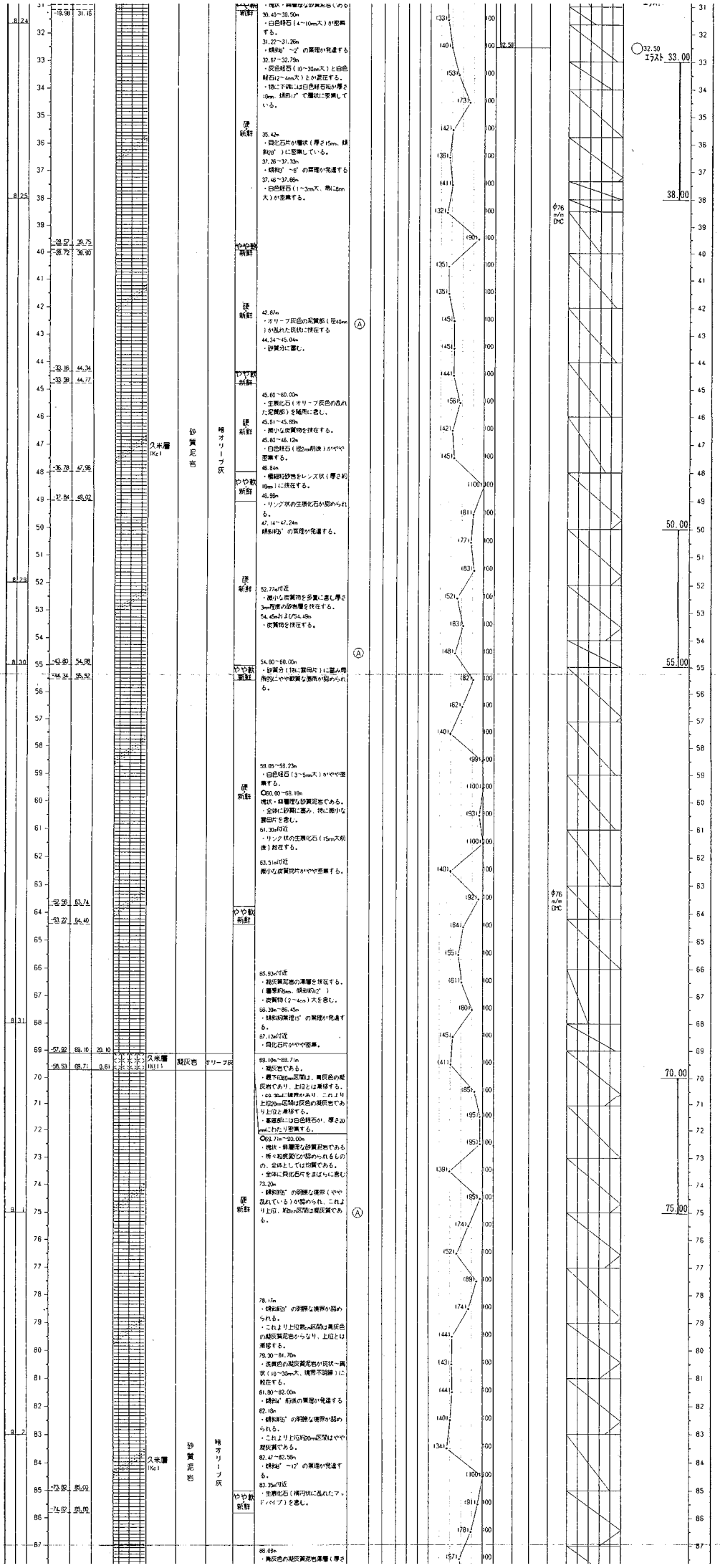
件　　名　東海第二発電所使用済燃料貯蔵設備設置に係るボーリング調査他　　主任技術者 [redacted]

調 査 地　茨城県那珂郡東海村大字白方1-1　　孔口標高 EL +11.18m

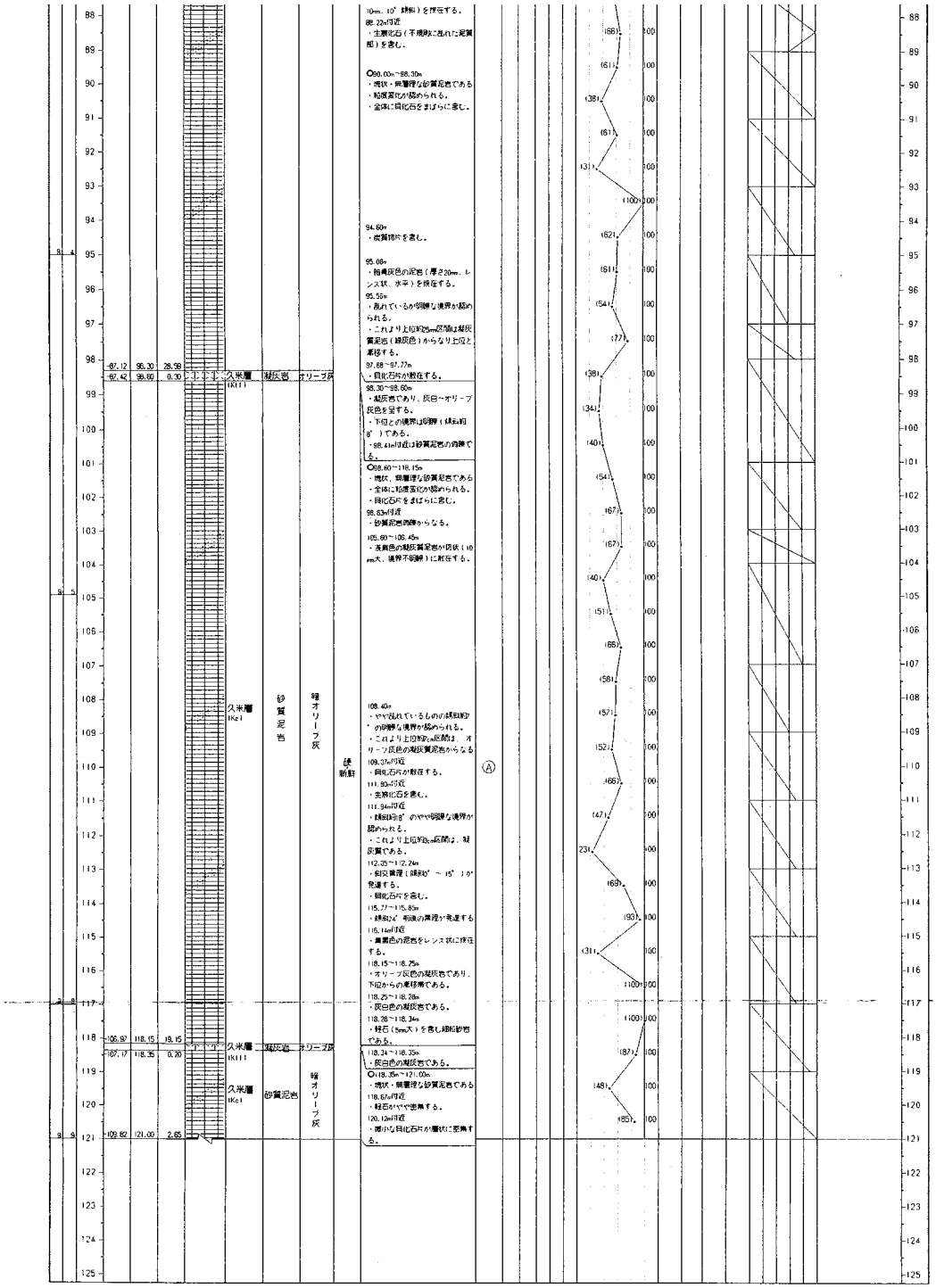
調査期間　平成 7年8月8日～ 7年 9月 9日　　最終孔内水位 GL- 9.10m (EL +2.08m)　　コア観察者 [redacted]

使用試錐機　YS0-1　　掘削深度 GL- 121.00m





・現状・無層理な砂質泥岩である
30.40～30.50m
・白色軽石（4～10mm大）が密集する。
31.22～31.26m
・頻剥30°～2°の葉理が発達する
32.67～32.79m
・灰色軽石（10～30mm大）と白色軽石（2～4mm大）とが混在する。
・特に下端には白色軽石粒が厚さ10mm、頻剥17°で層状に密集している。
35.42m
・白化石片が層状（厚さ15mm、頻剥20°）に密集している。
37.26～37.33m
・頻剥3°～6°の葉理が発達する
37.46～37.66m
・白色軽石（1～3mm大、常に8mm大）が密集する。
42.87m
・オリーブ灰色の泥質部（径40mm）が乱れた現状に挟在する
44.34～45.04m
・砂質分に富む。
45.60～60.00m
・生黒化石（オリーブ灰色の乱れた泥質部）を補所に含む。
45.61～45.68m
・微小な炭質物を挟在する。
45.80～46.12m
・白色軽石（径2mm前後）がやや密集する。
46.84m
・極細粒砂岩をレンズ状（厚さ約10mm）に挟在する。
46.96m
・リング状の生黒化石が認められる。
47.14～47.24m
頻剥約5°の葉理が発達する。
52.77m付近
・微小な炭質物を多量に含む厚さ3mm程度の砂岩層を挟在する。
54.45mおよび54.49m
・炭質物を挟在する。
54.60～60.00m
・砂質分（特に雲母片）に富み局所的にやや軟質な箇所が認められる。
59.05～59.23m
・白色軽石（3～5mm大）がやや密集する。
○60.00～69.10m
塊状・無層理な砂質泥岩である。
・全体に砂質に富み、特に微小な雲母片を含む。
61.30m付近
・リング状の生黒化石（15mm大前後）が存在する。
63.51m付近
微小な炭質物片がやや密集する。
65.93m付近
・凝灰質泥岩の薄層を挟在する。（層厚約5mm、頻剥約12°）
・炭質物（2～4cm）大を含む。
66.30m～66.45m
・頻剥約葉理15°の葉理が発達する。
67.12m付近
・白化石片がやや密集。
69.10m～69.71m
・凝灰岩である。
・最下位60mm区間は、青灰色の凝灰岩であり、上位とは漸移する。
・69.30mに境界があり、これより上位20mm区間は灰色の凝灰岩であり上位と漸移する。
・基底部には白色軽石が、厚さ20mmにわたり密集する。
○69.71m～90.00m
・塊状・無層理な砂質泥岩である
・所々粒度変化が認められるものの、全体としては均質である。
・全体に白化石片をまばらに含む
73.20m
・頻剥約5°の明瞭な境界（やや乱れている）が認められ、これより上位、約3cm区間は凝灰質である。
78.17m
・頻剥約3°の明瞭な境界が認められる。
・これより上位数cm区間は青灰色の凝灰質泥岩からなり、上位とは漸移する。
79.30～81.70m
・淡黄色の凝灰質泥岩が現状～縞状（10～30mm大、境界不明瞭）に存在する。
81.80～82.00m
・頻剥4°前後の葉理が発達する
82.18m
・頻剥約5°の明瞭な境界が認められる。
・これより上位約20mm区間はやや凝灰質である。
82.47～82.56m
・頻剥約5°～12°の葉理が発達する。
83.35m付近
・生黒化石（横円状に乱れたフッドパイプ）を含む。
86.08m
・青灰色の凝灰質泥岩薄層（厚さ
久米層 (Kc)
砂質泥岩
暗オリーブ灰
やや軟新鮮
硬新鮮
久米層 (Kc)
凝灰岩
オリーブ灰
φ76 m/m DMC
エラスト
33.00
38.00
50.00
55.00
70.00
75.00



（注） 1．試料採取方法

C：ボーリングコア 試料
P：標準貫入試験による試料
D：デニソン型サンプラーによる試料
T：固定ピストン式シンウォールサンプラーによる試料
T・T・S：トリプルチューブサンプラー

2．コアチューブ・ビットの種類

SMC：シングルコアチューブ・メタルクラウン
DMC：ダブルコアチューブ・メタルクラウン
DDB：ダブルコアチューブ・タイヤモンドビット
TMC：トリプルコアチューブ・メタルクラウン
TDB：トリプルコアチューブ・タイヤモンドビット

3．原位置試験・検層実施状況

○：孔内水平載荷試験
□：間隙水圧測定
⊟：PS検層（板たたき方式）
⊟：PS検層（サスペンション方式）
⊁：電気検層
|：密度検層
⋮：キャリパー検層
工：透水試験

TOUCOU Ver 1.00 1996-03-20 12:35:50

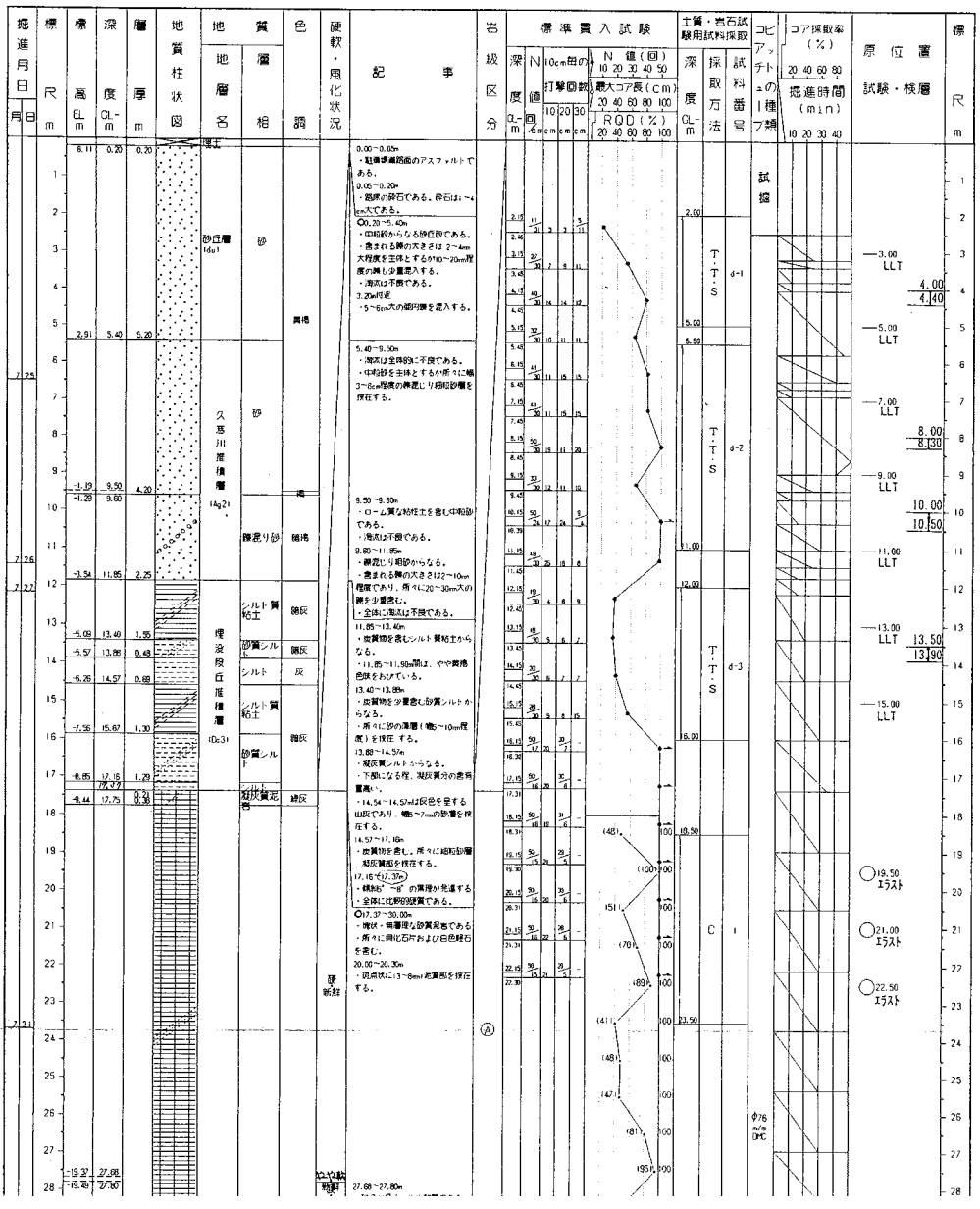
d　ボーリング柱状図

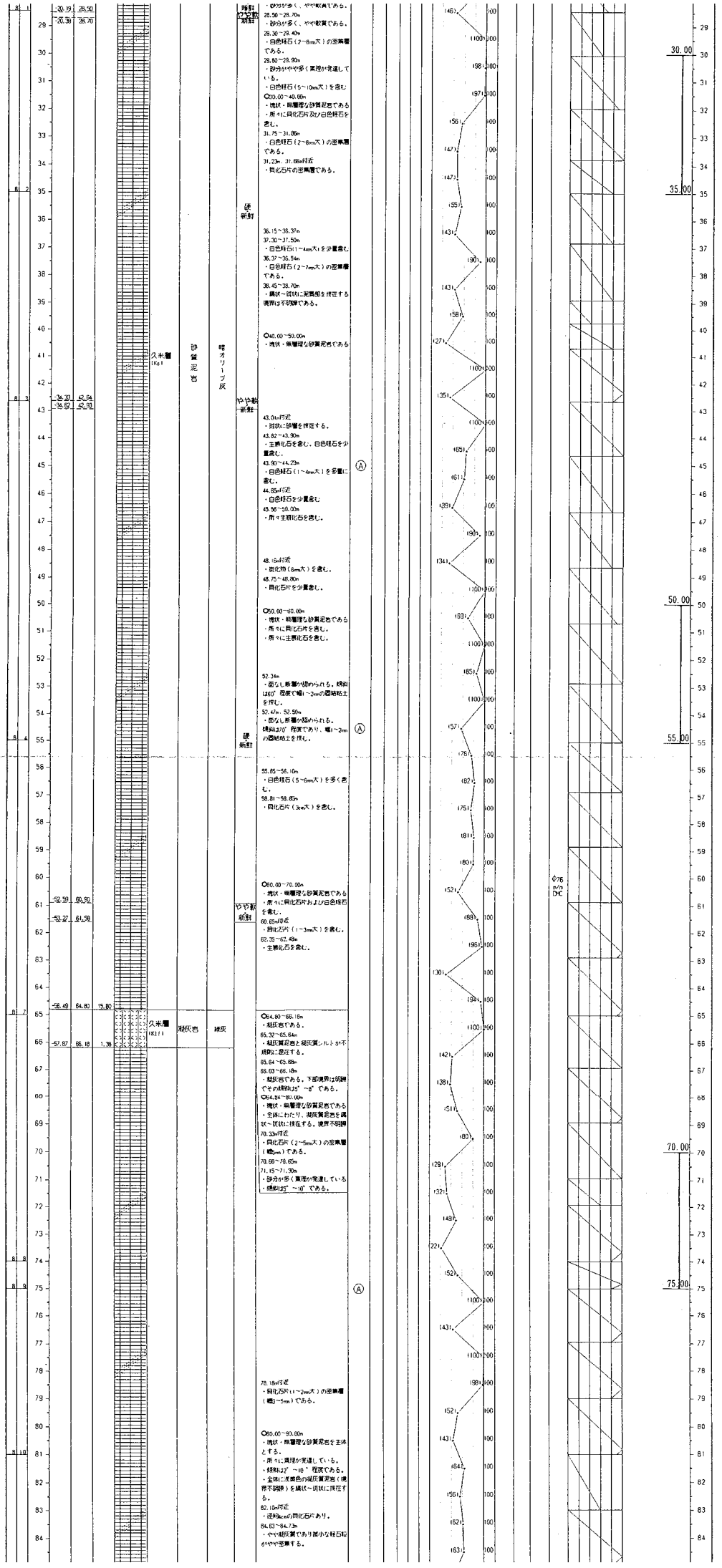
件　　名　東海第二発電所使用済燃料貯蔵設備設置に係るボーリング調査他　　主任技術者

調　査　地　茨城県那珂郡東海村大字白方1-1　　孔口標高 EL +8.31m　　[redacted]

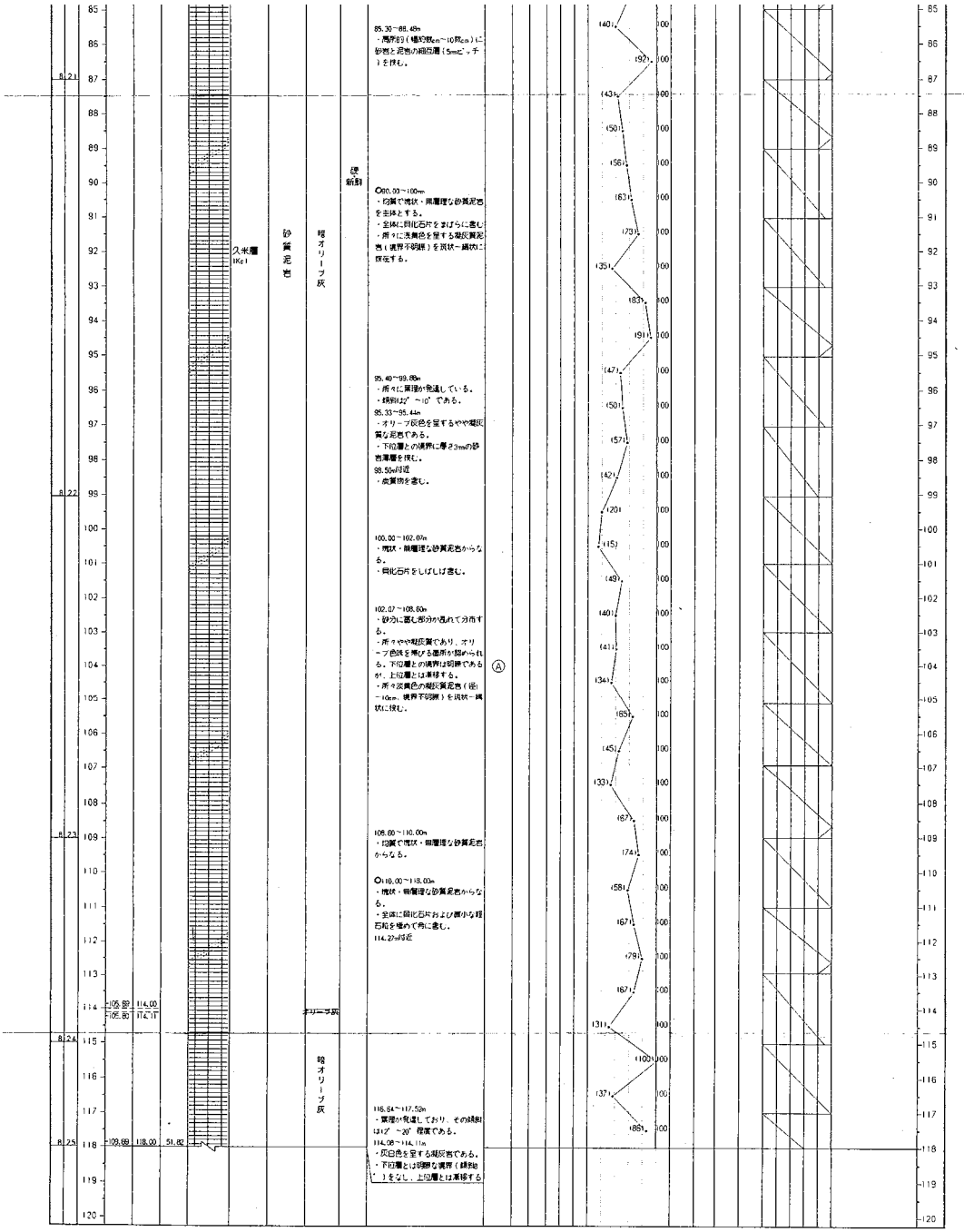
調査期間　平成 7年7月25日～7年 8月25日　　最終孔内水位 GL- 7.55m (EL +0.66m)　　コア観察者

使用試錐機　YBM-1W　　掘削深度 GL- 118.00m　　[redacted]





-20.19 28.50
-20.39 28.70
-34.33 42.64
-34.62 42.93
-52.59 60.90
-53.27 61.58
-56.49 64.80 15.80
-57.87 66.18 1.38
久米層 (Kg)
久米層 (Kl)
砂質泥岩
凝灰岩
暗オリーブ灰
緑灰
暗紫 やや軟 新鮮
硬 新鮮
やや軟 新鮮
硬 新鮮
やや軟 新鮮
・砂分が多く、やや軟質である。
28.50～28.70m
・砂分が多く、やや軟質である。
29.30～29.40m
・白色軽石（2～8mm大）の密集層である。
29.80～29.90m
・砂分がやや多く集理が発達している。
・白色軽石（5～10mm大）を含む
○30.00～40.00m
・塊状・無層理な砂質泥岩である
・所々に貝化石片及び白色軽石を含む。
31.75～31.86m
・白色軽石（2～8mm大）の密集層である。
31.23m、31.66m付近
・貝化石片の密集層である。
36.15～36.37m
37.30～37.50m
・白色軽石(1～4mm大)を少量含む
36.37～36.54m
・白色軽石（2～7mm大）の密集層である。
38.45～38.70m
・縞状～斑状に泥質部を挟在する境界は不明瞭である。
○40.00～50.00m
・塊状・無層理な砂質泥岩である
43.01m付近
・斑状に砂層を挟在する。
43.82～43.90m
・生原化石を含む。白色軽石を少量含む。
43.90～44.23m
・白色軽石（1～4mm大）を多量に含む。
44.65m付近
・白色軽石を少量含む
45.56～50.00m
・所々生原化石を含む。
48.16m付近
・炭化物（6mm大）を含む。
48.75～48.80m
・貝化石片を少量含む。
○50.00～60.00m
・塊状・無層理な砂質泥岩である
・所々に貝化石片を含む。
・所々に生原化石を含む。
52.34m
・面なし断層が認められる。傾斜は60°程度で幅1～2mmの固結粘土を挟む。
52.47m、52.50m
・面なし断層が認められる。傾斜は70°程度であり、幅1～2mmの固結粘土を挟む。
55.85～56.10m
・白色軽石（5～6mm大）を多く含む。
58.81～58.85m
・貝化石片（3cm大）を含む。
○60.00～70.00m
・塊状・無層理な砂質泥岩である
・所々に貝化石片および白色軽石を含む。
60.65m付近
・貝化石片（1～3mm大）を含む。
62.35～62.48m
・生原化石を含む。
○64.80～66.18m
・凝灰岩である。
65.32～65.64m
・凝灰質泥岩と凝灰質シルトが不規則に混在する。
65.64～65.68m
66.03～66.18m
・凝灰岩である。下部境界は明瞭でその傾斜は5°～8°である。
○64.84～80.00m
・塊状・無層理な砂質泥岩である
・全体にわたり、凝灰質泥岩を縞状～斑状に挟在する。境界不明瞭
70.33m付近
・貝化石片（2～5mm大）の密集層（幅5mm）である。
70.60～70.65m
71.15～71.30m
・砂分が多く集理が発達している
・傾斜は5°～10°である。
78.18m付近
・貝化石片(1～2mm大)の密集層（幅3～5mm）である。
○80.00～90.00m
・塊状・無層理な砂質泥岩を主体とする。
・所々に集理が発達している。
・傾斜は2°～10°程度である。
・全体に淡黄色の凝灰質泥岩（境界不明瞭）を縞状～斑状に挟在する。
82.10m付近
・径約4cmの貝化石片あり。
84.63～84.73m
・やや凝灰質であり微小な軽石粒がやや密集する。
Ⓐ
Ⓐ
Ⓐ
φ76 m/m DHC
30.00
35.00
50.00
55.00
70.00
75.00



（注） 1．試料採取方法

C：ボーリングコア試料
P：標準貫入試験による試料
O：デニソン型サンプラーによる試料
T：固定ピストン式シンウォールサンプラーによる試料
T・T・S：トリプルチューブサンプラー

2．コアチューブ・ビットの種類

SMC：シングルコアチューブ・メタルクラウン
DMC：ダブルコアチューブ・メタルクラウン
DDB：ダブルコアチューブ・ダイヤモンドビット
TMC：トリプルコアチューブ・メタルクラウン
TDB：トリプルコアチューブ・ダイヤモンドビット

3．原位置試験・検層実施状況

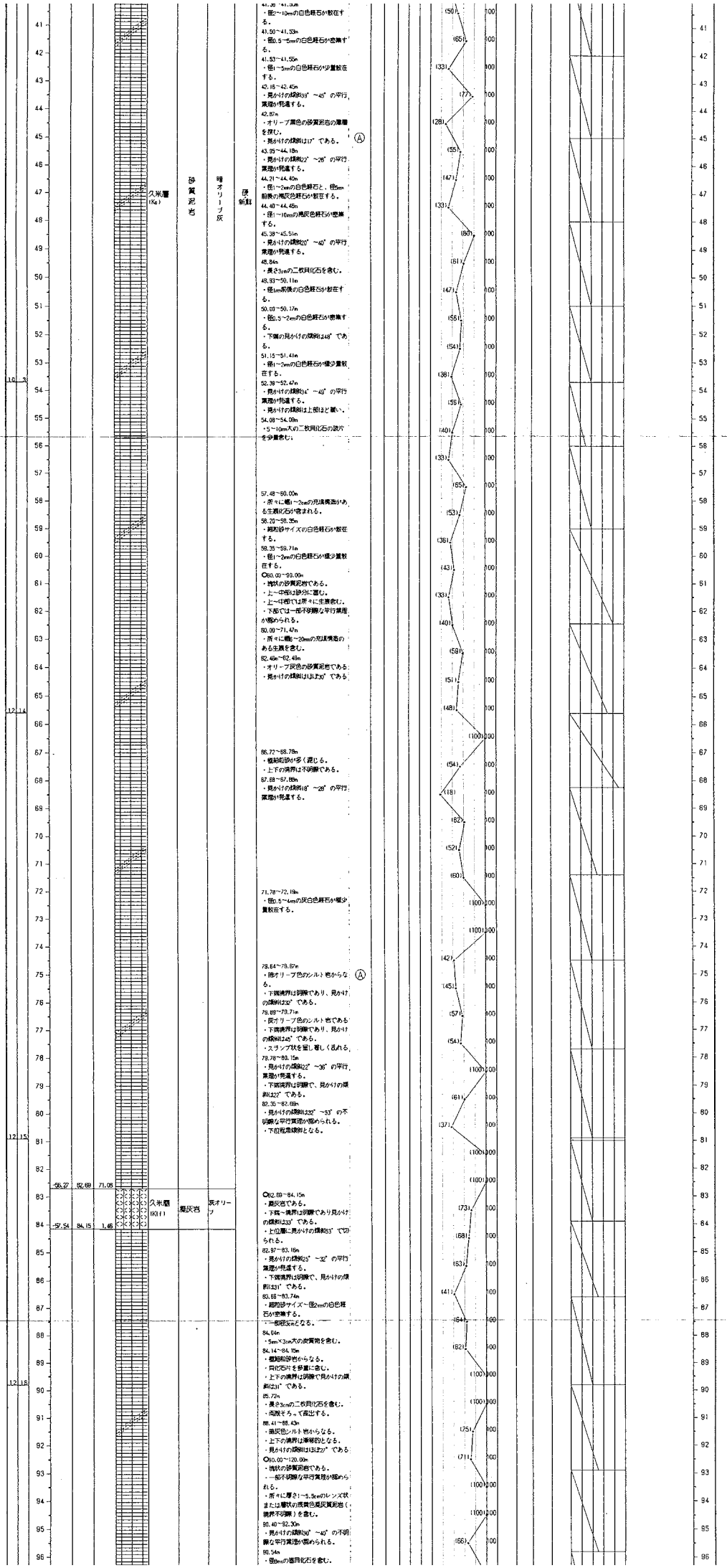
O：孔内水平載荷試験
D：間隙水圧測定
B：PS検層(板たたき方式)
S：PS検層(サスペンション方式)
S：電気検層
I：密度検層
I：キャリパー検層
工：透水試験

TOUCOU Ver 1.00 1996-03-22 20:22:

e 斜60° ボーリング柱状図

件名	東海第二発電所使用済燃料貯蔵設備設置に係るボーリング調査他		主任技術者
調査地	茨城県那珂郡東海村大字白方1-1	孔口標高 EL +15.34m	[redacted]
調査期間	平成 7年9月25日～7年12月26日	最終孔内水位 GL- 5.30m (EL +10.04m)	コア観察者
使用試錐機	D-2(東邦製)	掘削深度 GL- 196.00m	[redacted]

掘進月日 月	日	標尺 m	標高 EL m	深度 GL-m	層厚 m	地質柱状図	地質 地層名	地質 層相	色調	硬軟・風化状況	記事	岩級区分	標準貫入試験 深度 GL-m	N値 10cm田の打撃回数 10 20 30	N値(回) 10 20 30 40 50 / 最大コア長(cm) 20 40 60 80 100 / RQD(%) 20 40 60 80 100	土質・岩石試験用試料採取 深度 GL-m	採取方法	試料番号	コピアッチュの種類	コア採取率(%) 20 40 60 80 / 掘進時間(min) 10 20 30 40	原位置試験・検層	標尺 m
			15.21	0.15	0.15		表土				0.00~0.15m ・表土、植物片を多量に含む砂である。 0.15~11.61m ・海底のよい携状の砂である。 ・ほぼ全体に中粒砂だが一部細粒砂となる。 ・未固結で非常にゆるい。		実施せず			実施せず			試掘		実施せず	
9	14																					
9	25						砂丘層 (du)	砂	暗灰黄													
9	26																			⌀86 m/m DMC		
			6.69	10.00	9.85																	
9	27		6.38	10.35	0.35			砂質シル	黒褐		10.00~10.35m ・砂丘層の細粒砂を含む黄褐質シルトである。上位層へ漸移する。 11.61m ・径1cmの円礫を少量含む。											
								砂	暗灰黄													
			5.29	11.61	1.26				明黒	硬												
			5.11	11.81						物風化	○11.61~30.00m ・携状の砂質泥岩である。 ・12.00m以降は砂分に富む。											
9	28										13.66m、13.79m、14.18m、14.22m 14.56m ・以上の深度で幅5~10mmの黒状の生痕化石を含む。											
											17.30~17.48m ・細粒砂サイズの白色経石が散在する。下部ほど含有量多い。 ・下位層との境界は明瞭であり見かけの傾斜は42°である。											
											20.45~20.51m ・細粒砂サイズの白色経石が少量散在する。 Ⓐ											
9	29										24.42~24.47m ・見かけの傾斜32°の不明瞭な平行葉理が認められる。											
											26.44~26.51m ・見かけの傾斜38°の不明瞭な平行葉理が認められる。 26.52~26.60m ・幅1~2mmの生痕化石を含む。 27.21~27.34m ・泥質の浅黄色の凝灰質泥岩(境界不明瞭)、灰オリーブ色を呈する。 ・境界は不明瞭である。 27.73~27.80m ・硬質なノジュールを含む。 ・灰色を呈する。 27.84~27.92m ・凝灰質となる。 下位層との境界は明瞭であり、見かけの傾斜は21°である。 27.88~27.89m ・幅1mmの生痕化石を含む。 ○30.00~60.00m ・携状の砂質泥岩である。 ・上部は砂分に富む。 ・一部平行葉理が認められる。 ・一部経石や生痕化石を含む。 32.35m ・長さ2cmの二枚貝化石を含む。 33.68~33.77m ・見かけの傾斜34°の不明瞭な平行葉理が認められる。 34.41~34.44m ・見かけの傾斜25°の不明瞭な平行葉理が認められる。											
9	30										38.30~38.32m ・見かけの傾斜30°の不明瞭な平行葉理が認められる。 ・上層境界は明瞭で見かけの傾斜は8°である。											
10	2																					



41.35～41.50m
・径2～10mmの白色経石が散在する。
41.50～41.53m
・径0.5～5mmの白色経石が密集する。
41.53～41.55m
・径1～5mmの白色経石が少量散在する。
42.16～42.45m
・見かけの傾斜39°～45°の平行葉理が発達する。
42.87m
・オリーブ黒色の砂質泥岩の薄層を挟む。
・見かけの傾斜は17°である。 Ⓐ
43.95～44.18m
・見かけの傾斜22°～28°の平行葉理が発達する。
44.21～44.40m
・径1～2mmの白色経石と、径5mm前後の褐灰色経石が散在する。
44.40～44.45m
・径1～10mmの褐灰色経石が密集する。
45.38～45.51m
・見かけの傾斜20°～40°の平行葉理が発達する。
48.84m
・長さ3cmの二枚貝化石を含む。
48.93～50.11m
・径1mm前後の白色経石が散在する。
50.00～50.17m
・径0.5～2mmの白色経石が密集する。
・下端の見かけの傾斜は48°である。
51.15～51.41m
・径1～2mmの白色経石が極少量散在する。
52.39～52.47m
・見かけの傾斜34°～49°の平行葉理が発達する。
・見かけの傾斜は上部ほど緩い。
54.08～54.09m
・5～10mm大の二枚貝化石の破片を少量含む。

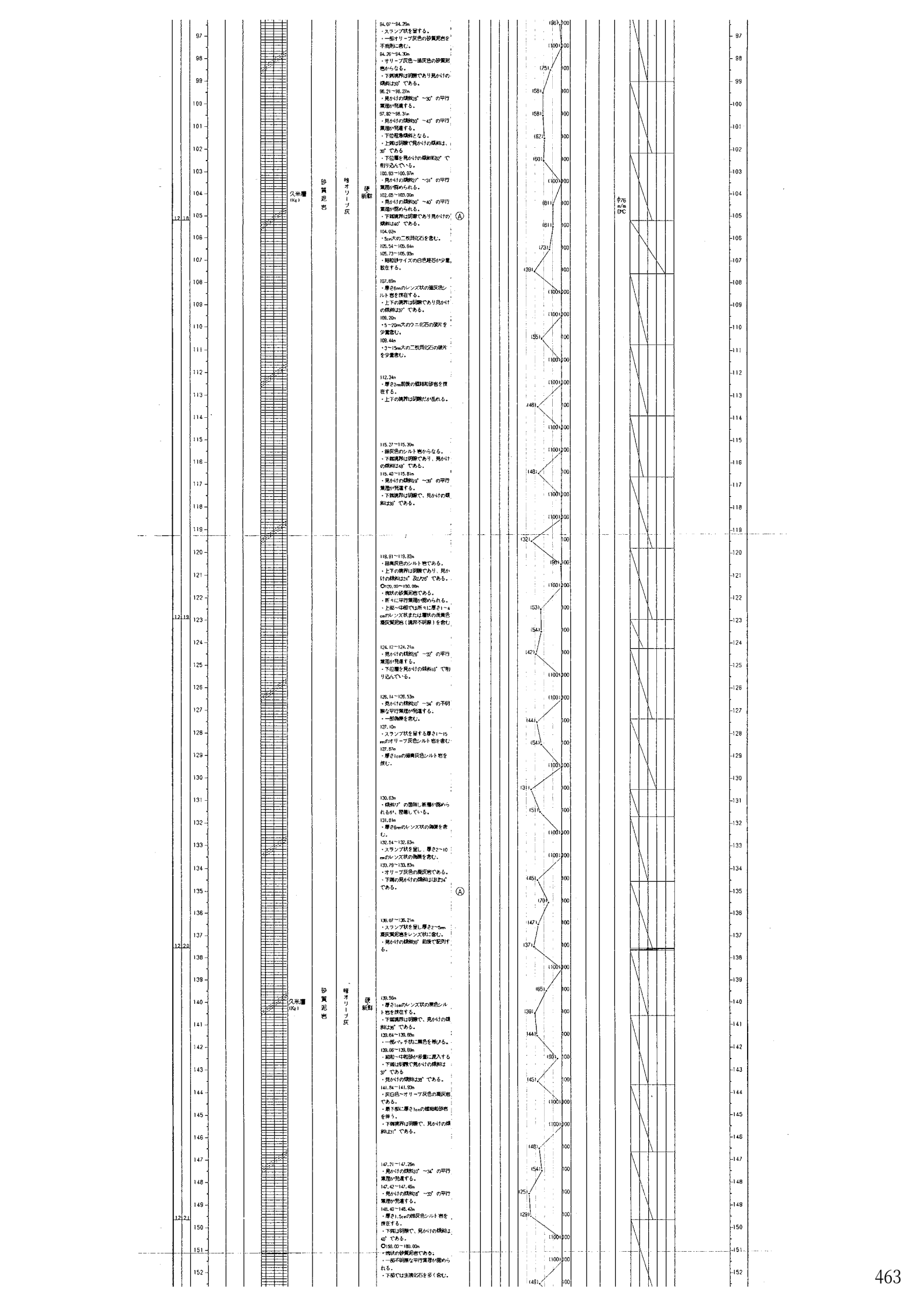
57.48～60.00m
・所々に幅1～2cmの充填構造がある生痕化石が含まれる。
58.20～58.35m
・細粒砂サイズの白色経石が散在する。
59.35～59.71m
・径1～2mmの白色経石が極少量散在する。
○60.00～90.00m
・塊状の砂質泥岩である。
・上～中部は部分に富む。
・上～中部では所々に生痕含む。
・下部では一部不明瞭な平行葉理が認められる。
60.00～71.47m
・所々に幅6～20mmの充填構造のある生痕を含む。
62.46m～62.49m
・オリーブ灰色の砂質泥岩である。
・見かけの傾斜はほぼ30°である。

66.72～68.78m
・極細粒砂が多く混じる。
・上下の境界は不明瞭である。
67.68～67.88m
・見かけの傾斜18°～28°の平行葉理が発達する。

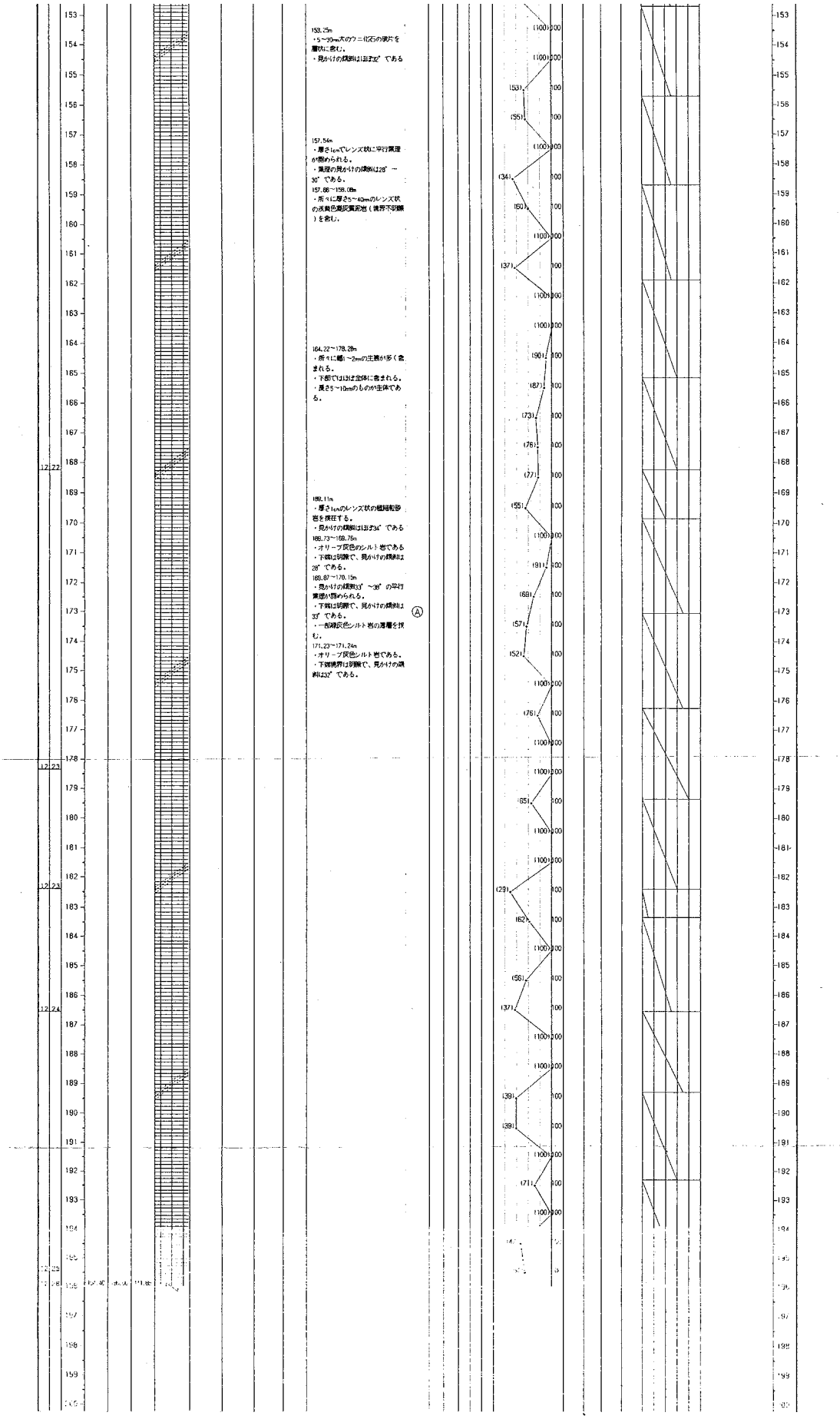
71.78～72.19m
・径0.5～4mmの灰白色経石が極少量散在する。

79.64～79.67m
・暗オリーブ色のシルト岩からなる。 Ⓐ
・下端境界は明瞭であり、見かけの傾斜は32°である。
79.69～79.71m
・灰オリーブ色のシルト岩である。
・下端境界は明瞭であり、見かけの傾斜は45°である。
・スランプ状を呈し著しく乱れる。
79.78～80.15m
・見かけの傾斜22°～36°の平行葉理が発達する。
・下端境界は明瞭で、見かけの傾斜は22°である。
82.35～82.69m
・見かけの傾斜は32°～53°の不明瞭な平行葉理が認められる。
・下位程急傾斜となる。

○82.69～84.15m
・凝灰岩である。
・下端～境界は明瞭であり見かけの傾斜は33°である。
・上位層に見かけの傾斜53°で切られる。
82.97～83.16m
・見かけの傾斜25°～32°の平行葉理が発達する。
・下端境界は明瞭で、見かけの傾斜は31°である。
83.66～83.74m
・細粒砂サイズ～径2mmの白色経石が密集する。
・一部径3cmとなる。
84.04m
・5mm×3cm大の炭質物を含む。
84.14～84.15m
・極細粒砂岩からなる。
・貝化石片を多量に含む。
・上下の境界は明瞭で見かけの傾斜は31°である。
85.72m
・長さ3cmの二枚貝化石を含む。
・両殻そろって産出する。
88.41～88.43m
・暗灰色シルト岩からなる。
・上下の境界は漸移的となる。
・見かけの傾斜はほぼ27°である。
○90.00～120.00m
・塊状の砂質泥岩である。
・一部不明瞭な平行葉理が認められる。
・所々に厚さ1～5.5cmのレンズ状または層状の炭質色凝灰質泥岩（境界不明瞭）を含む。
90.40～92.30m
・見かけの傾斜30°～40°の不明瞭な平行葉理が認められる。
90.54m
・径6mmの蓋貝化石を含む。



94.07～94.25m
・スランプ状を呈する。
・一部オリーブ灰色の砂質泥岩を不規則に含む。
94.26～94.30m
・オリーブ灰色～暗灰色の砂質泥岩からなる。
・下底境界は明瞭であり見かけの傾斜は30°である。
96.21～96.27m
・見かけの傾斜25°～30°の平行葉理が発達する。
97.80～98.31m
・見かけの傾斜30°～43°の平行葉理が発達する。
・下位程急傾斜となる。
・上部は明瞭で見かけの傾斜は、30°である
・下位層を見かけの傾斜約32°で削り込んでいる。
100.93～100.97m
・見かけの傾斜27°～31°の平行葉理が認められる。
102.85～103.00m
・見かけの傾斜30°～40°の平行葉理が認められる。
・下底境界は明瞭であり見かけの傾斜は40°である。
104.02m
・5cm大の二枚貝化石を含む。
105.54～105.84m
105.73～105.93m
・細粒砂サイズの白色凝灰岩6ヶ所に、散在する。
107.69m
・厚さ6mmのレンズ状の暗灰色シルト岩を挟在する。
・上下の境界は明瞭であり見かけの傾斜は37°である。
108.20m
・5～20mm大のウニ化石の破片を少量含む。
108.44m
・3～15mm大の二枚貝化石の破片を少量含む。
112.34m
・厚さ3mm前後の細粒砂岩を挟在する。
・上下の境界は明瞭だが乱れる。
115.27～115.30m
・暗灰色のシルト岩からなる。
・下底境界は明瞭であり、見かけの傾斜は48°である。
115.40～115.81m
・見かけの傾斜28°～35°の平行葉理が発達する。
・下底境界は明瞭で、見かけの傾斜は35°である。
118.91～119.20m
・暗黄灰色のシルト岩である。
・上下の境界は明瞭であり、見かけの傾斜は24°及び26°である。
○120.10～120.00m
・塊状の砂質泥岩である。
・所々に平行葉理が認められる。
・上部～中部では所々に厚さ1～4cmのレンズ状または層状の灰黄色凝灰質泥岩（境界不明瞭）を含む
124.12～124.21m
・見かけの傾斜28°～32°の平行葉理が発達する。
・下位層を見かけの傾斜18°で削り込んでいる。
126.14～126.53m
・見かけの傾斜30°～34°の不明瞭な平行葉理が発達する。
・一部偽礫を含む。
127.10m
・スランプ状を呈する厚さ1～15mmのオリーブ灰色シルト岩を含む
127.67m
・厚さ1cmの暗黄灰色シルト岩を挟む。
130.63m
・傾斜0°の面間し断層が認められる、閉塞している。
131.81m
・厚さ6mmのレンズ状の偽礫を含む。
132.54～132.63m
・スランプ状を呈し、厚さ2～10mmのレンズ状の偽礫を含む。
133.79～133.83m
・オリーブ灰色の凝灰岩である。
・下底の見かけの傾斜はほぼ24°である。
136.07～136.21m
・スランプ状を呈し厚さ2～5mm凝灰質泥岩をレンズ状に含む。
・見かけの傾斜30°前後で配列する。
139.59m
・厚さ1cmのレンズ状の黒色シルト岩を挟在する。
・下底境界は明瞭で、見かけの傾斜は36°である。
139.64～139.69m
・一部ベっ？状に黒色を帯びる。
139.66～139.69m
・細粒～中粒砂が多量に混入する
・下底は明瞭で見かけの傾斜は3°である
・見かけの傾斜は38°である。
141.84～141.93m
・灰白色～オリーブ灰色の凝灰岩である。
・最下底に厚さ1cmの細粒砂岩を伴う。
・下底境界は明瞭で、見かけの傾斜は21°である。
147.21～147.25m
・見かけの傾斜33°～34°の平行葉理が発達する。
147.42～147.46m
・見かけの傾斜25°～25°の平行葉理が発達する。
148.40～148.42m
・厚さ1.5cmの暗灰色シルト岩を挟在する。
・下底は明瞭で、見かけの傾斜は40°である。
○150.00～180.00m
・塊状の砂質泥岩である。
・一部不明瞭な平行葉理が認められる。
・下部では生痕化石を多く含む。


153.25m
・5～30mm大のフニ化石の破片を層状に含む。
・見かけの傾斜はほぼ32°である
157.54m
・厚さ1cmでレンズ状に平行葉理が認められる。
・葉理の見かけの傾斜は28°～30°である。
157.66～158.08m
・所々に厚さ5～40mmのレンズ状の灰黄色凝灰質泥岩（境界不明瞭）を含む。
164.22～178.28m
・所々に幅1～2mmの生裏が多く含まれる。
・下部ではほぼ全体に含まれる。
・長さ5～10mmのものが主体である。
169.11m
・厚さ1cmのレンズ状の極細粒砂岩を挟在する。
・見かけの傾斜はほぼ34°である
169.73～169.76m
・オリーブ灰色のシルト岩である
・下端は明瞭で、見かけの傾斜は28°である。
169.87～170.15m
・見かけの傾斜33°～38°の平行葉理が認められる。
・下端は明瞭で、見かけの傾斜は33°である。
・一部緑灰色シルト岩の薄層を挟む。
171.23～171.24m
・オリーブ灰色シルト岩である。
・下端境界は明瞭で、見かけの傾斜は32°である。
Ⓐ
12.22
12.23
12.23
12.24
12.25
12.26

TOUGOU Ver 1.00 1996-03-19 00:03:10

f 斜60° ボーリング柱状図

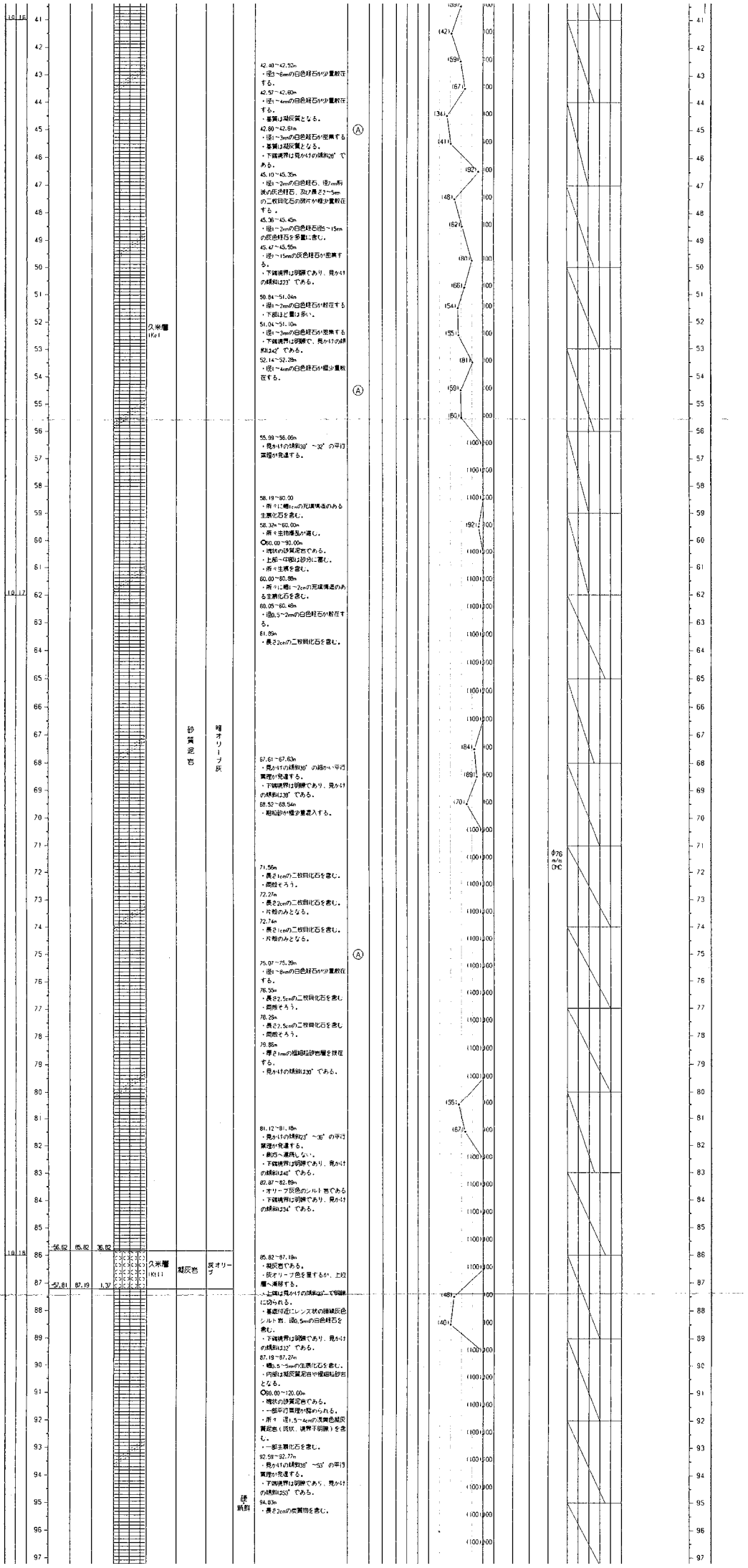
件　　名 東海第二発電所使用済燃料貯蔵設備設置に係るボーリング調査他　　主任技術者 [redacted]

調 査 地 茨城県那珂郡東海村大字白方1-1　　孔口標高 EL +17.70m

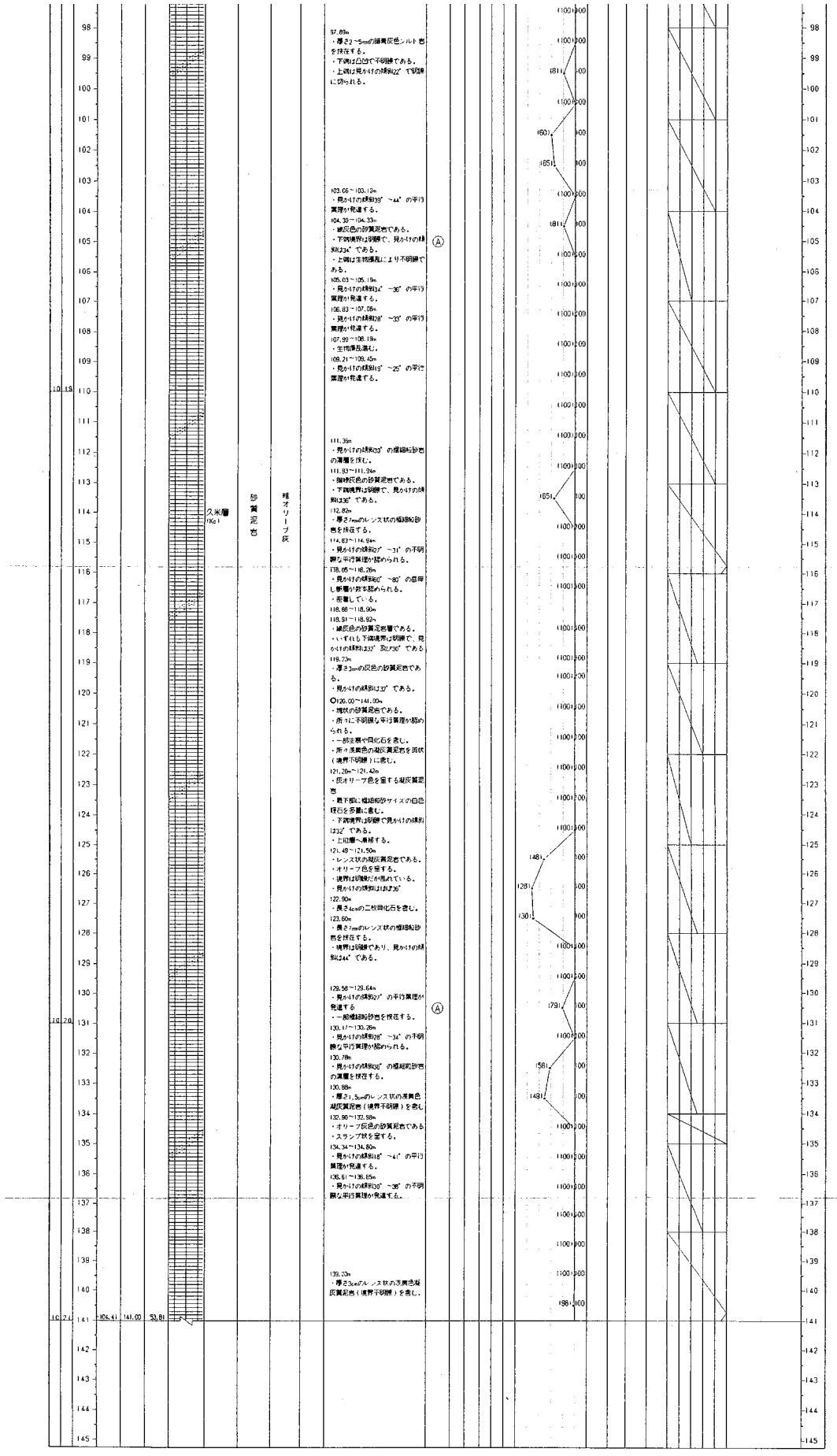
調査期間 平成7年10月10日～7年10月21日　　最終孔内水位

使用試錐機 D-2（東邦製）　　掘削深度 GL- 141.00m　　コア観察者 [redacted]

掘進月日 月	日	標尺 m	標高 EL m	深度 GL- m	層厚 m	地質柱状図	地質 地層名	地質 層相	色調	硬軟・風化状況	記事	岩級区分	標準貫入試験 深度 GL- m	N値 回	10cm毎の打撃回数 cm cm cm	N値（回） 10 20 30 40 50	最大コア長（cm） 20 40 60 80 100	RQD（%） 20 40 60 80 100	土質・岩石試験用試料採取 深度 GL- m	採取方法	試料番号	コピアッチュの1種ブ	コア採取率（%） 20 40 60 80	掘進時間（min） 10 20 30 40	原位置試験・検層	標尺 m
		0	17.65	0.05	0.05		表土				0.00～0.05m ・表土である。		実施せず						実施せず			試掘			実施せず	0
9	28	1							オリーブ褐		0.05m～15.42m ・礫状で最大のもの<D程～細粒砂 ・主礫種で非常にかたい。 ・下位の層（Ag2）とは連続的である。													1
2		2																								2
3		3																								3
4		4																								4
5		5																								5
6		6																								6
10	10	7	11.29	7.40			砂丘層（du）																			7
		8							褐灰		7.40～9.20m ・わずかにシルト分を含む。															8
		9	8.27	9.20				砂																		9
		10							オリーブ褐																	10
		11																								11
		12																								12
		13																								13
10	11	14																								14
		15	4.75	15.42	15.37																					15
		16					久米川堆積層（Ag2）				15.62～18.62m ・中～粗砂からなる。 18.62～18.76m ・基底礫層である。 ・久米層に由来する砂～径5cmの泥岩礫を多量に含むシルトである。 ・上部はややC凹で見かけの傾斜24°である。 ・久米層との不整合面は明瞭で見かけの傾斜は0°である。														16
		17																								17
		18	1.57	16.62	3.28																					18
10	12	19	1.48	16.76	0.14			礫混り砂	礫混り	礫混化																19
		20	0.38	20.00					オリーブ灰	硬新鮮	18.76～20.00m ・塊状の砂質泥岩である。 ・一部平行葉理が認められる。 ・ほぼ全体にわたり幅1～2mmの生痕を多量に含む。														20
		21	0.43	20.90					灰オリーブ		18.94～28.34m ・所々に淡黄色の凝灰質泥岩を斑状（境界不明瞭）に含む。 ・多くは風化し、オリーブ褐色となる。 20.21～20.42m ・径2～10mmの久米層の礫を多量に含む。 ・基質は極細粒砂岩である。 下限境界は明瞭であり見かけの傾斜は0°である。														21
		22																								22
10	13	23																								23
		24							暗オリーブ	硬強風化	23.08m ・厚さ1～2cmの塊状の極細粒砂岩である。 24.45～24.50m ・見かけの傾斜20°～30°の平行葉理が発達する。 ・細粒の炭質物を層状に挟む。 25.06～25.14m ・見かけの傾斜20°～35°の平行葉理が発達する。 26.92～28.71m ・見かけの傾斜30°～44°の平行葉理が発達する。 ・一部径5～10cmの久米層の泥岩の円礫を含む。 ・一部平行葉理の発達する極細粒砂となる。	A													24
		25																								25
		26																								26
		27																								27
		28																								28
		29	-7.15	28.71					オリーブ黒																	29
10	14	30	-7.75	29.39							29.39～30.00m ・塊状の砂質泥岩である。 ○30.00～60.00m ・塊状の砂質泥岩である。 ・一部白色軽石を含む。 ・一部生痕化石や貝化石を含む。 30.54～31.99m ・所々に幅1cm前後の充填構造のある生痕化石が含まれる。 32.74m ・長さ4cmの二枚貝化石を含む。														30
		31																								31
		32																								32
		33																								33
		34																								34
		35									35.02～35.27m ・径5cmの褐灰色軽石が幾少量散在する。															35
		36																								36
		37									37.25～37.40m ・見かけの傾斜20°～35°の平行葉理が発達する。 ・上部より急傾斜となる。														37
		38																								38
		39																								39
		40																								40



42.40～42.52m
・径3～6mmの白色経石が少量散在する。
42.57～42.60m
・径1～4mmの白色経石が少量散在する。
・基質は凝灰質となる。
42.60～42.61m
・径1～3mmの白色経石が密集する
・基質は凝灰質となる。
・下端境界は見かけの傾斜26°である。
45.10～45.35m
・径1～2mmの白色経石、径7mm前後の灰色経石、及び長さ2～5mmの二枚貝化石の破片が極少量散在する。
45.36～45.45m
・径1～2mmの白色経石径5～15mmの灰色経石を多量に含む。
45.47～45.55m
・径1～15mmの灰色経石が密集する。
・下端境界は明瞭であり、見かけの傾斜は23°である。
50.84～51.04m
・径1～2mmの白色経石が散在する
・下部ほど量は多い。
51.04～51.10m
・径1～3mmの白色経石が密集する
・下端境界は明瞭で、見かけの傾斜は42°である。
52.14～52.28m
・径1～4mmの白色経石が極少量散在する。
55.99～56.06m
・見かけの傾斜30°～32°の平行葉理が発達する。
58.19～60.00
・所々に幅1cmの充填構造のある生原化石を含む。
58.32m～60.00m
・所々生物擾乱が進む。
○60.00～90.00m
・塊状の砂質泥岩である。
・上部～中部は砂分に富む。
・所々生原を含む。
60.00～60.88m
・所々に幅1～2cmの充填構造のある生原化石を含む。
60.05～60.48m
・径0.5～2mmの白色経石が散在する。
61.89m
・長さ2cmの二枚貝化石を含む。
67.61～67.63m
・見かけの傾斜30°の細かい平行葉理が発達する。
・下端境界は明瞭であり、見かけの傾斜は38°である。
68.52～68.54m
・細粒砂が極少量混入する。
71.56m
・長さ1cmの二枚貝化石を含む。
・両殻そろう。
72.27m
・長さ2cmの二枚貝化石を含む。
・片殻のみとなる。
72.74m
・長さ1cmの二枚貝化石を含む。
・片殻のみとなる。
75.07～75.39m
・径1～8mmの白色経石が少量散在する。
76.55m
・長さ2.5cmの二枚貝化石を含む
・両殻そろう。
78.25m
・長さ2.5cmの二枚貝化石を含む
・両殻そろう。
79.86m
・厚さ1mmの極細粒砂岩層を挟在する。
・見かけの傾斜は30°である。
81.12～81.18m
・見かけの傾斜23°～36°の平行葉理が発達する。
・最近5～連続しない。
・下端境界は明瞭であり、見かけの傾斜は40°である。
82.87～82.89m
・オリーブ灰色のシルト岩である
・下端境界は明瞭であり、見かけの傾斜は34°である。
85.82～87.19m
・凝灰岩である。
・灰オリーブ色を呈するが、上位層へ漸移する。
・上端は見かけの傾斜30°で明瞭に切られる。
・基底付近にレンズ状の細縁灰色シルト岩、径0.5mmの白色経石を含む。
・下端境界は明瞭であり、見かけの傾斜は32°である。
87.19～87.27m
・幅0.5～5mmの生原化石を含む。
・内部は凝灰質泥岩や極細粒砂岩となる。
○90.00～120.00m
・塊状の砂質泥岩である。
・一部平行葉理が認められる。
・所々（径1.5～4cmの淡黄色凝灰質泥岩（斑状、境界不明瞭）を含む。
・一部生原化石を含む。
92.59～92.77m
・見かけの傾斜38°～53°の平行葉理が発達する。
・下端境界は明瞭であり、見かけの傾斜は53°である。
94.83m
・長さ2cmの炭質物を含む。



（注）　1．試料採取方法

C：ホーリングコア試料
P：標準貫入試験による試料
D：デニソン型サンプラーによる試料
T：固定ピストン式シンウォールサンプラーによる試料

2．コアチューブ・ビットの種類

SMC：シングルコアチューブ・メタルクラウン
DMC：ダブルコアチューブ・メタルクラウン
DDB：ダブルコアチューブ・ダイヤモンドビット
TMC：トリプルコアチューブ・メタルクラウン
TDB：トリプルコアチューブ・ダイヤモンドビット

3．原位置試験・検層実施状況

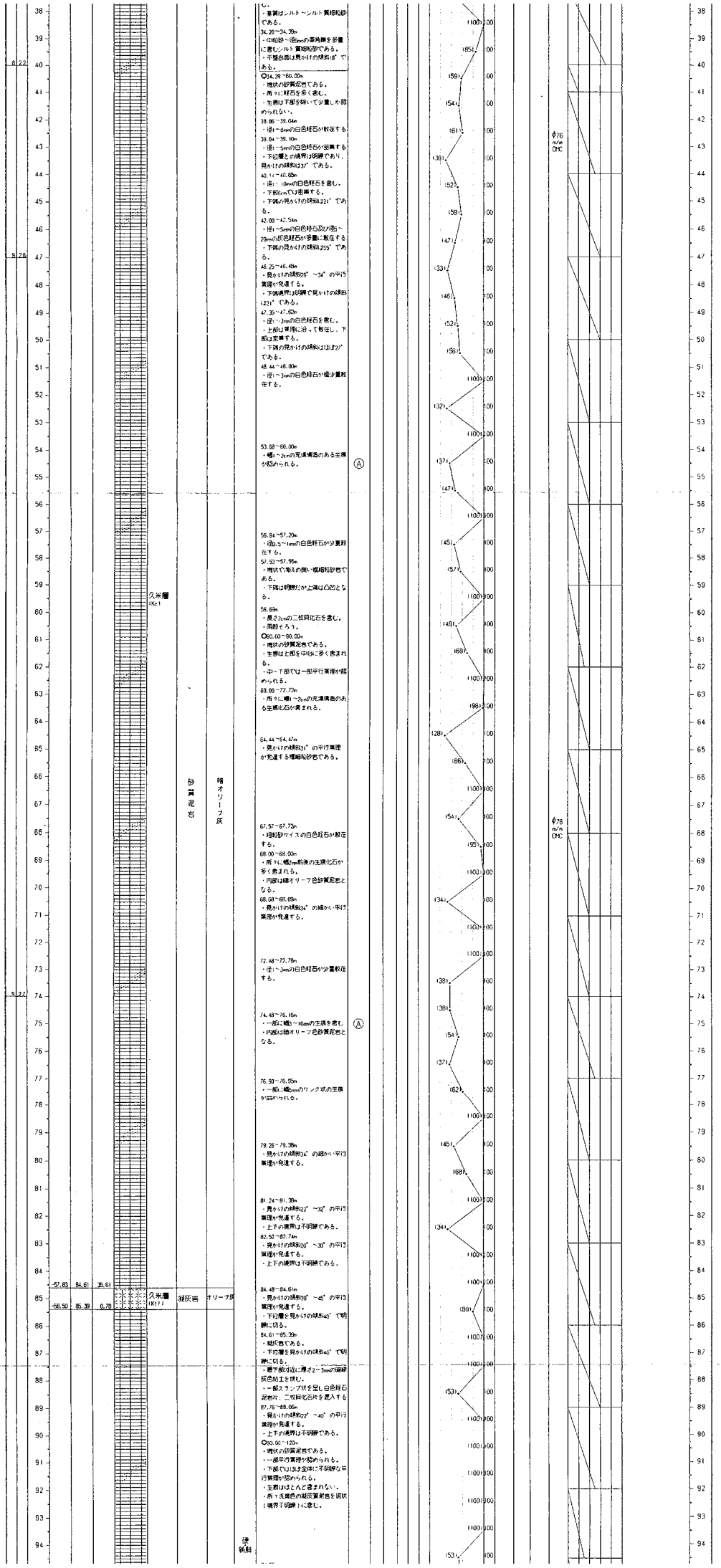
○：孔内水平載荷試験
□：間隙水圧測定
B：PS検層（板たたき方式）
B：PS検層（サスペンション方式）
S：電気検層
|：密度検層
⋮：キャリパー検層

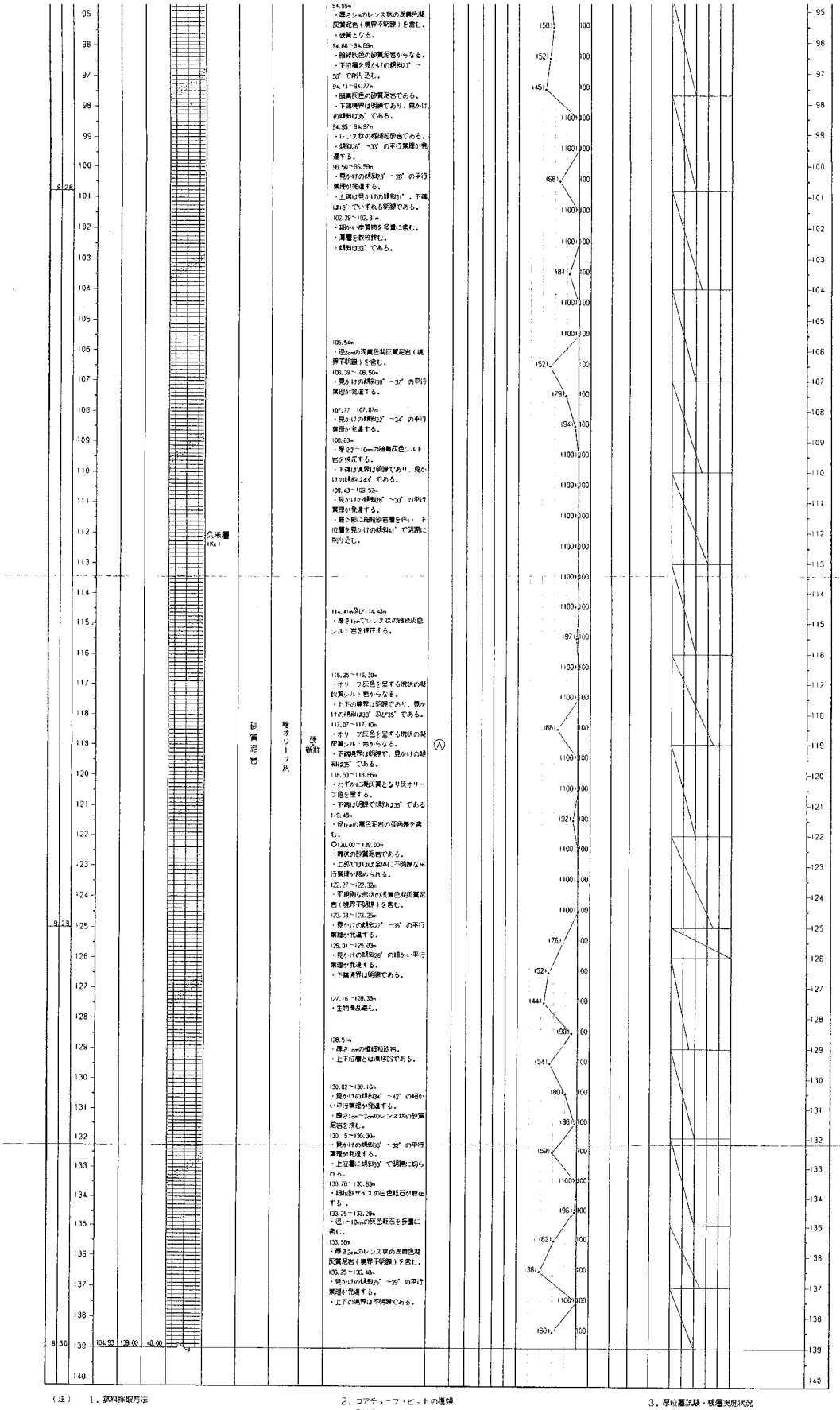
TOUGOU Ver 1.00 1996-03-19 15:09:55

g 斜60°　ボーリング柱状図

件名	東海第二発電所使用済燃料貯蔵設備設置に係るボーリング調査他		主任技術者
調査地	茨城県那珂郡東海村大字白方1-1	孔口標高 EL +15.45m	[redacted]
調査期間	平成 7年8月3日～7年9月30日	最終孔内水位 GL- 17.40m (EL -1.95m)	コア観察者
使用試錐機	D-2（東邦製）	掘削深度 GL- 139.00m	[redacted]

掘進月日 月	日	標尺 m	標高 EL m	深度 GL-m	層厚 m	地質柱状図	地質 地層名	層相	色調	硬軟・風化状況	記事	岩級区分	標準貫入試験 深度 GL-m	N値	10cm毎の打撃回数 10 20 30 cm cm cm	N値（回） 10 20 30 40 50 最大コア長（cm） 20 40 60 80 100 JROD（%） 20 40 60 80 100	土質・岩石試験用試料採取 深度 GL-m	採取方法	試料番号	コピアッチュの1種フ類	コア採取率（%） 20 40 60 80 掘進時間（min） 10 20 30 40	原位置試験・検層	標尺 m
			15.32	0.15	0.15		表土				0.00～0.15m ・表土である。		実施せず				実施せず			試掘		実施せず	
7	26						砂丘層 (Ag1)	砂	オリーブ褐		0.15～14.33m ・塊状の中粒～細粒砂からなる。 ・湿点深い。 ・末固結で非常にゆるい。 ・下位層（Ag2）とは漸移的である。												
8	3		3.04	14.33	14.18						14.33～18.53m ・中～粗砂からなる。												
8	4		-0.80	18.53	4.20		久慈川推積層 (Ag2)													φ76 m/m DMC			
8	5		-3.15	21.48	2.95			礫混り砂	暗褐		18.53～21.48m ・径5mm前後の亜角～円礫を含む粗粒砂である。 ・礫種は砂岩、泥岩、チャートを主体とする。 21.28～21.31m ・径1～1.5cmの円礫が層状に挟まれる。 ・一部径5cmの円礫を含む。												
			-3.56	21.95			埋没段丘推積層 (Dc3)	シルト質砂	黄褐 暗オリーブ		21.48～24.37m ・塊状のシルト質極細粒砂～細粒砂である。 ・上方細粒化が認められる。												
8	7		-4.31	22.82	1.34			砂	暗青灰														
8	8		-5.66	24.37	1.95			凝灰質砂	灰		24.37～24.83m ・凝灰質極細粒砂である。 ・下位層との境界は明瞭だが、上位層との境界は漸移的で不明瞭となる。 24.83～28.83m ・シルト質極細粒砂～細粒砂である。ほぼ全体に塊状となる。 24.88 ・厚さ3～10mmの明瞭灰色火山灰層である。凸凹となる。 24.95～25.50m ・炭質物を多く含む。 26.90～28.83m ・所々細粒～中粒砂となる。 ・一部黒程が認められる。 ・見かけの傾斜は23°～35°である。												
			-6.05	24.83	0.46			シルト質砂	暗オリーブ～暗オリーブ灰														
			-9.52	28.83	4.00																		
			-10.76	30.26	1.43		埋没段丘推積層 (Dg3)	礫混り砂	オリーブ褐		28.83～30.00m ・径5～20mmの亜円～円礫を少量含む。 ・礫種は砂岩を主体とし、少量の末固結泥岩片を含む。 ・基質は中粒砂であり、一部シルト質となる。 ○30.00～34.39m ・含まれる礫種は砂岩を主体とし少量の泥岩、チャート、花崗岩、末固結泥岩片、長石や石英の粒子緑色片岩を含む。 30.00～30.26m ・径2～5mmの亜角礫を含むシルト質中粒砂である。 30.26～30.47m ・シルト質中粒砂である。 30.47～32.53m ・径2～10mmの亜角～亜円礫を含むシルト質細粒砂である。 32.53～34.20m ・径4cm程度の亜円礫を多量に含												
8	9		-10.94	30.47	0.21			砂															
8	17		-13.41	33.33				シルト混り砂礫	黄褐														
8	18		-14.33	34.39	3.92				灰オリーブ														
8	19		-15.38	35.60						硬新鮮										φ86 m/m DMC			
			-15.64	35.90						やや軟新鮮													


6.22
9.28
9.22
久米層 (Kc)
砂質泥岩
暗オリーブ灰
57.83 84.61 26.61
56.50 85.39 0.78
久米層 (Kt)
凝灰岩
オリーブ灰
硬 新鮮
φ76 m/m DHC
φ76 m/m DHC



（注）　1．試料採取方法

C：ホーリングコア試料
P：標準貫入試験による試料
D：デニソン型サンプラーによる試料
T：固定ピストン式シンウォールサンプラーによる試料

2．コアチューブ・ビットの種類

SMC：シングルコアチューブ・メタルクラウン
DMC：ダブルコアチューブ・メタルクラウン
DDB：ダブルコアチューブ・ダイヤモンドビット
TMC：トリプルコアチューブ・メタルクラウン
TDB：トリプルコアチューブ・ダイヤモンドビット

3．原位置試験・検層実施状況

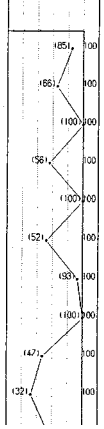
○：孔内水平載荷試験
□：間隙水圧測定
Ⅱ：PS検層（板たたき方式）
Ⅱ：PS検層（サスペンション方式）
S：電気検層
Ⅰ：密度検層
⋮：キャリパー検層

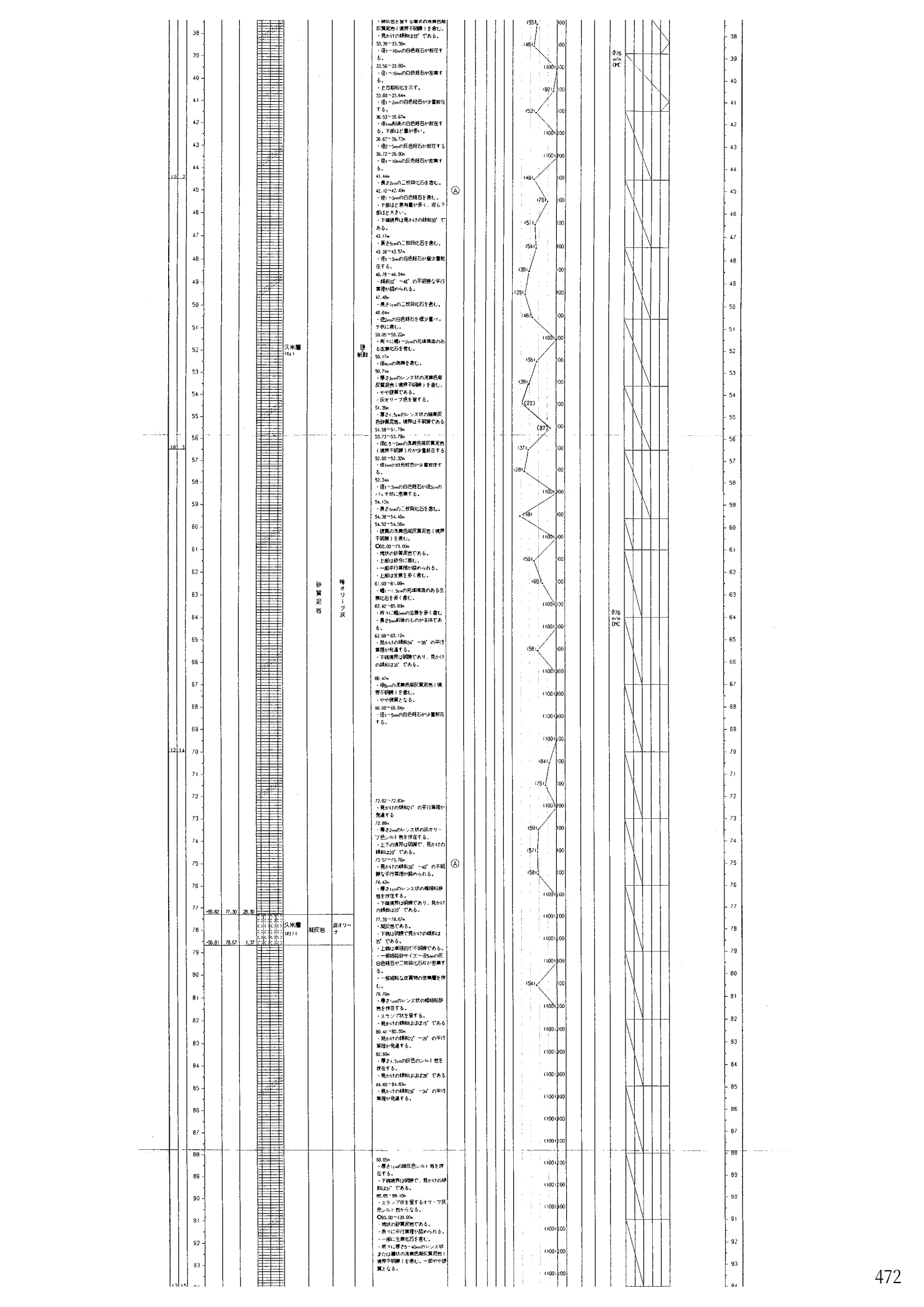
TOUGOU Ver 1.00 1996-03-19 16:08:30

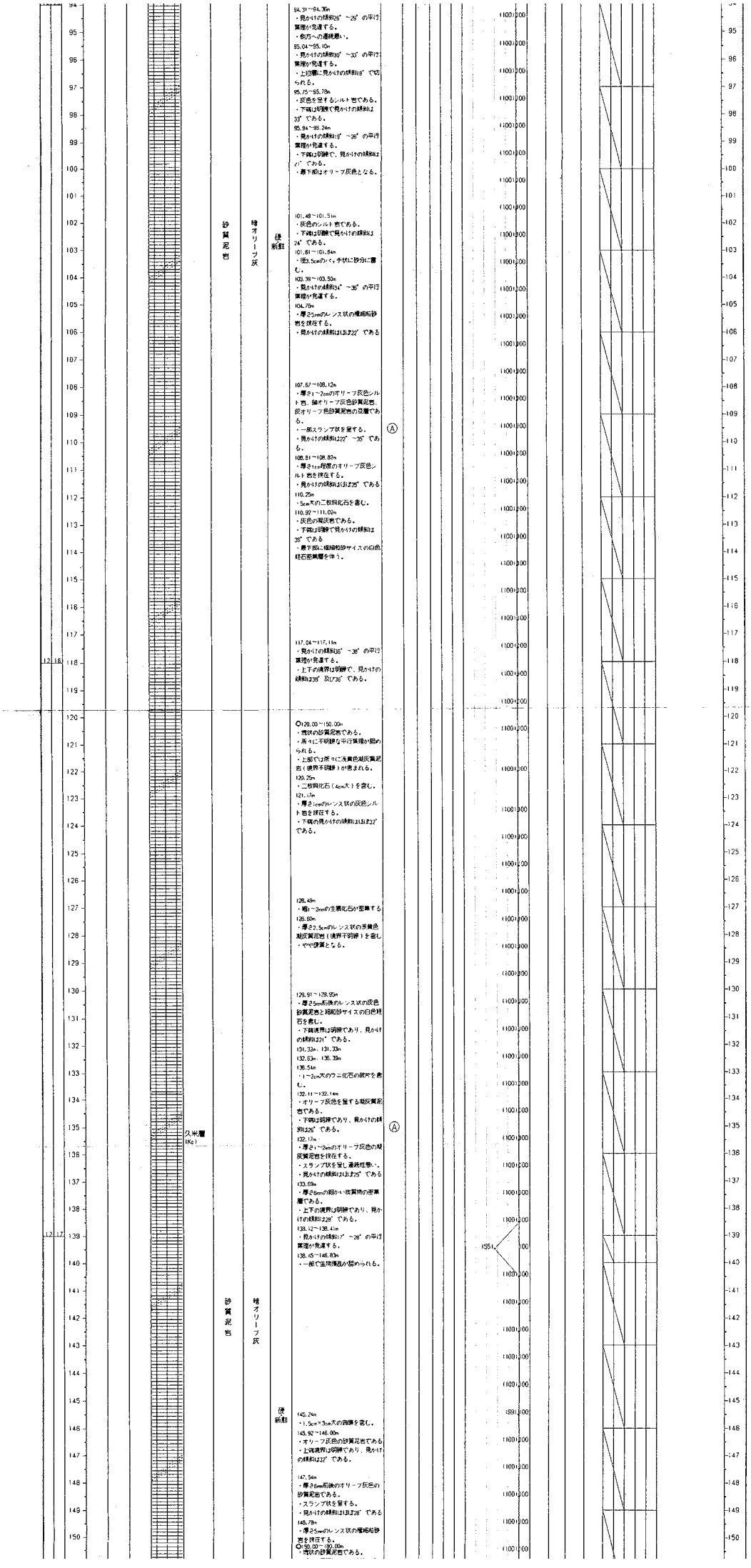
h 斜60° ボーリング柱状図

件名	東海第二発電所使用済燃料貯蔵設備設置に係るボーリング調査他		主任技術者
調査地	茨城県那珂郡東海村大字白方1-1 平成	孔口標高 EL +11.32m	[redacted]
調査期間	7年9月20日～7年12月20日	最終孔内水位 GL- 10.80m (EL +0.52m)	コア観察者
使用試錐機	L-28（ロングイヤー製）	掘削深度 GL- 192.00m	[redacted]

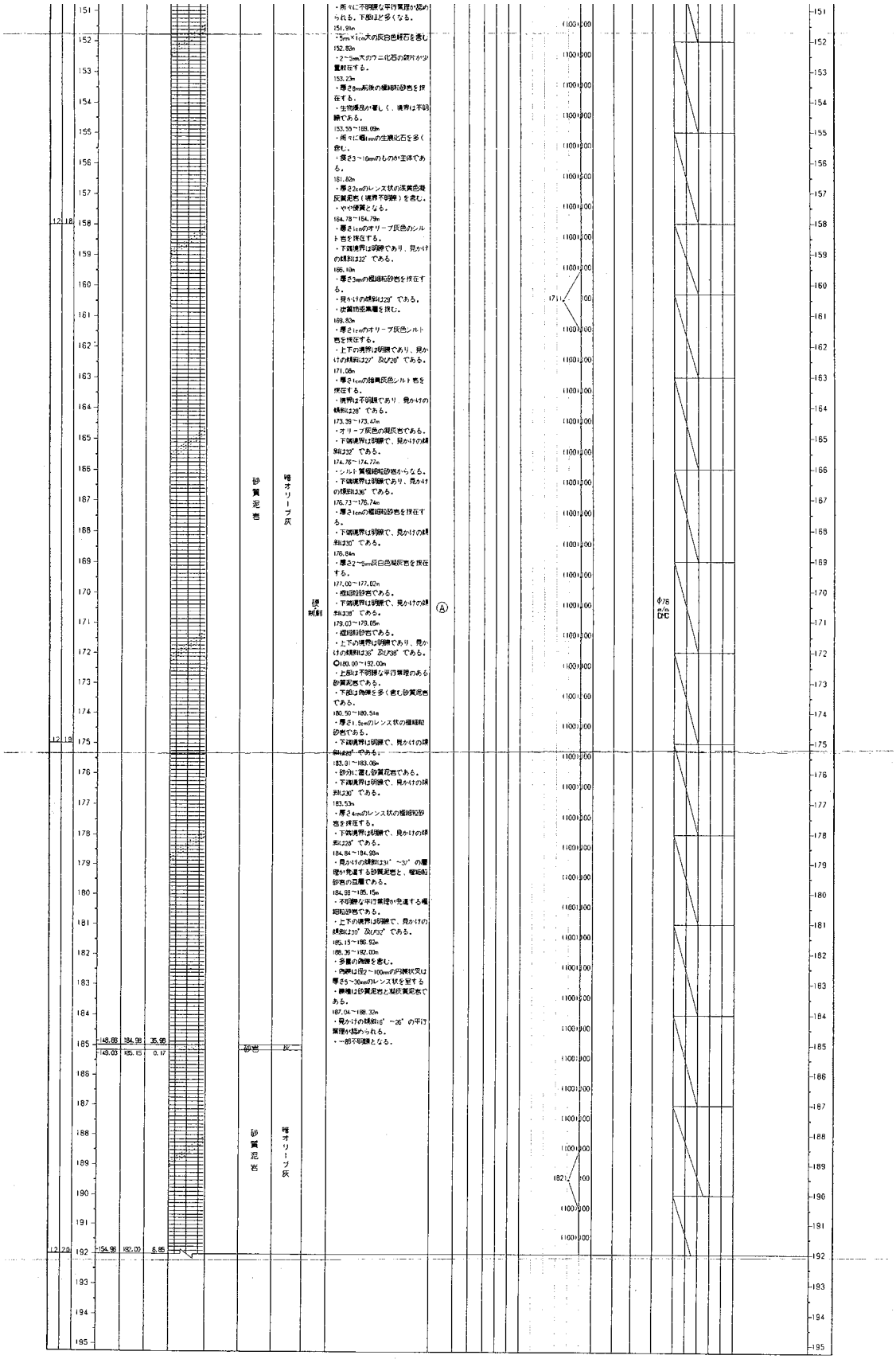
掘進月日 月	日	標尺 m	標高 EL m	深度 GL-m	層厚 m	地質柱状図	地質 地層名	地質 層相	色調	硬軟・風化状況	記事	岩級区分	標準貫入試験 深度 GL-m	N値 /cm	10cm毎の打撃回数 10 cm	20 cm	30 cm	N値（回） 10 20 30 40 50 / 最大コア長（cm） 20 40 60 80 100 / RQD（%） 20 40 60 80 100	土質・岩石試験用試料採取 深度 GL-m	採取方法	試料番号	コピアッチュの種類	コア採取率（%） 20 40 60 80 / 掘進時間（min） 10 20 30 40	原位置試験・検層	標尺 m
			11.19	0.15	0.15		表土				0.00～0.15m ・表土、植物片を多く含む砂である。		実施せず						実施せず			試錐		実施せず	
9	11	1																							1
		2																							2
		3									0.15～9.38m ・海底のよい塊状の中粒～細粒砂からなる。 ・未固結で非常にゆるい。 ・一部シルト分を含む。 ・下位層（Ag2）とは、漸移的である。														3
		4																							4
		5					砂丘層 (Idu)																		5
		6																							6
9	20	7						砂	暗灰黄																7
		8																							8
9	21	9	3.20	9.38	9.23																				9
9	22	10									○9.38～14.48m ・中～粗砂からなる。														10
9	25	11					久慈川堆積層 (Ag2)																		11
		12									12.06～12.09m ・青灰色を呈し、シルト質となる														12
		13																							13
9	26	14	-1.20	14.46	5.08																	φ76 m/m OHC			14
			-1.50	14.80	0.34			砂礫	暗褐		14.46～14.80m ・径2～15mmの円礫を含む。礫は最大径4cmである。 ・基質は細粒砂である。 ・礫種は砂岩、チャートが主体である。 ・塊状となる。														
		15	-1.66	14.99	0.19			礫混り シルト	黄褐																15
9	27		-2.12	15.52																					
		16					埋没段丘堆積層 (Dc3)	砂質シルト	暗オリーブ灰																16
		17									14.80～14.99m ・径5～15mmの円礫を少量含む砂質シルトである。 14.99m～18.00m ・塊状の砂質シルトである。 ・16.83m以深は砂分に富む。 ・一部炭質物を層状に含む。 18.00～18.19m ・凝灰質となる。 ・下位層との境界は明瞭だが不規則な形状となる。 18.19～19.59m ・細粒砂サイズ～長さ1cmの炭質物を多量に含む。 18.21m ・厚さ5mmのレンズ状の明赤灰色火山灰質シルトを挟在する。 19.59～20.00m ・塊状の砂質シルトである。														17
		18	-4.27	18.00																					18
			-4.43	18.19					灰																
		19							暗オリーブ灰																19
		20	-6.00	20.00	5.01																				20
9	28	21	-7.33	21.54	1.54		埋没段丘堆積層 (Dg3)	シルト混り砂																	21
		22	-7.73	22.00			埋没段丘堆積層 (Dc3)	シルト	黒褐																22
			-8.19	22.53	0.99																				
		23						シルト混り砂	暗オリーブ灰		20.00～21.54m ・厚さ2～5cmのシルト層を挟む細粒砂。境界は漸移的である。 20.77～21.09m ・線数26°～36°の細かい平行葉理が発達する細粒砂である。														23
		24					埋没段丘堆積層 (Dg3)																		24
			-10.18	24.83	2.30			砂	暗灰																
		25	-10.54	25.24	0.41						21.54～22.09m ・炭質物を多量に含む縞堆質シルトである。 22.09～22.53m ・塊状のシルトである。														25
			-10.89	25.65			(Dg3)	シルト混り砂礫	暗灰																
9	29	26	-11.76	26.65	1.41																	φ76 m/m OHB			26
		27									22.53～24.83m ・一部に厚さ数cm～10数cmのシルト層を挟む細粒～極細粒砂。境界は漸移的である。 ・所々細かい平行葉理が発達する ・一部炭質物を含む。 24.83～25.24m ・塊状で海底のよい中粒～細粒砂である。														27
		28																							28
		29																							29
9	30	30									25.24～26.65m ・径2～100mmの亜円～円礫を多量に含む。 ・主体は径1～5cmの礫である。 ・礫種は砂岩、泥岩、花崗岩、緑色岩、閃緑岩を含む。 ・基質はシルト混り細粒砂である ・礫径による成層構造が明瞭である。 ・不整合面の見かけの傾斜は目ぼ36°である。														30
		31																							31
		32																							32
		33																							33
		34									26.65～30.00m ・塊状の砂質泥岩である。 ・所々に生痕化石やフニ化石片を含む。 ○30.00～60.00m ・塊状の砂質泥岩である。 ・所々に軽石を含む。 ・生痕は下部で多く認められる。 30.77m ・厚さ1cmでやや縞堆質となる。 ・見かけの傾斜は32°である。 30.98～31.00m														34
		35																							35
		36																							36
		37																							37




久米層
(Kx1)
久米層
(Kf1)
砂質泥岩
凝灰岩
硬質新鮮
暗オリーブ灰
オリーブ
-55.62
77.30
28.30
-56.81
78.57
1.27
φ76
m/m
DHC



砂質泥岩
暗オリーブ灰
硬新鮮
94.31～94.36m
・見かけの傾斜26°～29°の平行葉理が発達する。
・側方への連続悪い。
95.04～95.10m
・見かけの傾斜30°～33°の平行葉理が発達する。
・上切層に見かけの傾斜18°で切られる。
95.75～95.78m
・灰色を呈するシルト岩である。
・下端は明瞭で見かけの傾斜は33°である。
95.94～96.24m
・見かけの傾斜19°～26°の平行葉理が発達する。
・下端は明瞭で、見かけの傾斜は21°である。
・最下部はオリーブ灰色となる。
101.49～101.51m
・灰色のシルト岩である。
・下端は明瞭で見かけの傾斜は24°である。
101.61～101.64m
・径3.5cmのくっ手状に砂分に富む。
103.39～103.50m
・見かけの傾斜34°～36°の平行葉理が発達する。
104.75m
・厚さ5mmのレンス状の複細粒砂岩を挟在する。
・見かけの傾斜はほぼ22°である
107.67～108.12m
・厚さ1～2cmのオリーブ灰色シルト岩、暗オリーブ灰色砂質泥岩、灰オリーブ色砂質泥岩の互層である。
・一部スランプ状を呈する。
・見かけの傾斜は22°～36°である。
Ⓐ
108.81～108.82m
・厚さ1cm程度のオリーブ灰色シルト岩を挟在する。
・見かけの傾斜はほぼ25°である
110.25m
・5cm大の二枚貝化石を含む。
110.92～111.02m
・灰色の凝灰岩である。
・下端は明瞭で見かけの傾斜は36°である
・最下部に複細粒砂サイズの白色軽石密集層を伴う。
117.04～117.11m
・見かけの傾斜36°～38°の平行葉理が発達する。
・上下の境界は明瞭で、見かけの傾斜は38°及び36°である。
○120.00～150.00m
・塊状の砂質泥岩である。
・所々に不明瞭な平行葉理が認められる。
・上部では所々に淡黄色凝灰質泥岩（境界不明瞭）が含まれる。
120.25m
・二枚貝化石（4cm大）を含む。
121.17m
・厚さ1cmのレンス状の灰色シルト岩を挟在する。
・下端の見かけの傾斜はほぼ32°である。
126.49m
・幅1～2mmの生痕化石が密集する
126.60m
・厚さ2.5cmのレンス状の多黄色凝灰質泥岩（境界不明瞭）を含む
・やや硬質となる。
129.91～129.95m
・厚さ5mm前後のレンス状の灰色砂質泥岩と細粒砂サイズの白色軽石を含む。
・下端境界は明瞭であり、見かけの傾斜は21°である。
131.32m、131.33m
132.63m、136.39m
136.54m
・1～2cm大のウニ化石の破片を含む。
132.11～132.14m
・オリーブ灰色を呈する凝灰質泥岩である。
・下端は明瞭であり、見かけの傾斜は26°である。
Ⓐ
132.17m
・厚さ1～2cmのオリーブ灰色の凝灰質泥岩を挟在する。
・スランプ状を呈し連続性悪い。
・見かけの傾斜はほぼ25°である
133.69m
・厚さ6mmの細かい炭質物の密集層である。
・上下の境界は明瞭であり、見かけの傾斜は28°である。
138.12～138.41m
・見かけの傾斜17°～28°の平行葉理が発達する。
138.45～146.83m
・一部で生物擾乱が認められる。
久米層
(Ke)
砂質泥岩
暗オリーブ灰
硬新鮮
145.24m
・1.5cm×3cm大の跡線を含む。
145.92～146.00m
・オリーブ灰色の砂質泥岩である
・上端境界は明瞭であり、見かけの傾斜は32°である。
147.54m
・厚さ6mm前後のオリーブ灰色の砂質泥岩である。
・スランプ状を呈する。
・見かけの傾斜はほぼ28°である
148.78m
・厚さ5mmのレンス状の複細粒砂岩を挟在する。
○150.00～180.00m
・塊状の砂質泥岩である。
1551



（注） 1．試料採取方法

C：ボーリングコア試料
P：標準貫入試験による試料
D：デニソン型サンプラーによる試料
T：固定ピストン式シンウォールサンプラーによる試料

2．コアチューブ・ビットの種類

SMC：シングルコアチューブ・メタルクラウン
DMC：ダブルコアチューブ・メタルクラウン
DDB：ダブルコアチューブ・ダイヤモンドビット
TMC：トリプルコアチューブ・メタルクラウン
TDB：トリプルコアチューブ・ダイヤモンドビット

3．原位置試験・検層実施状況

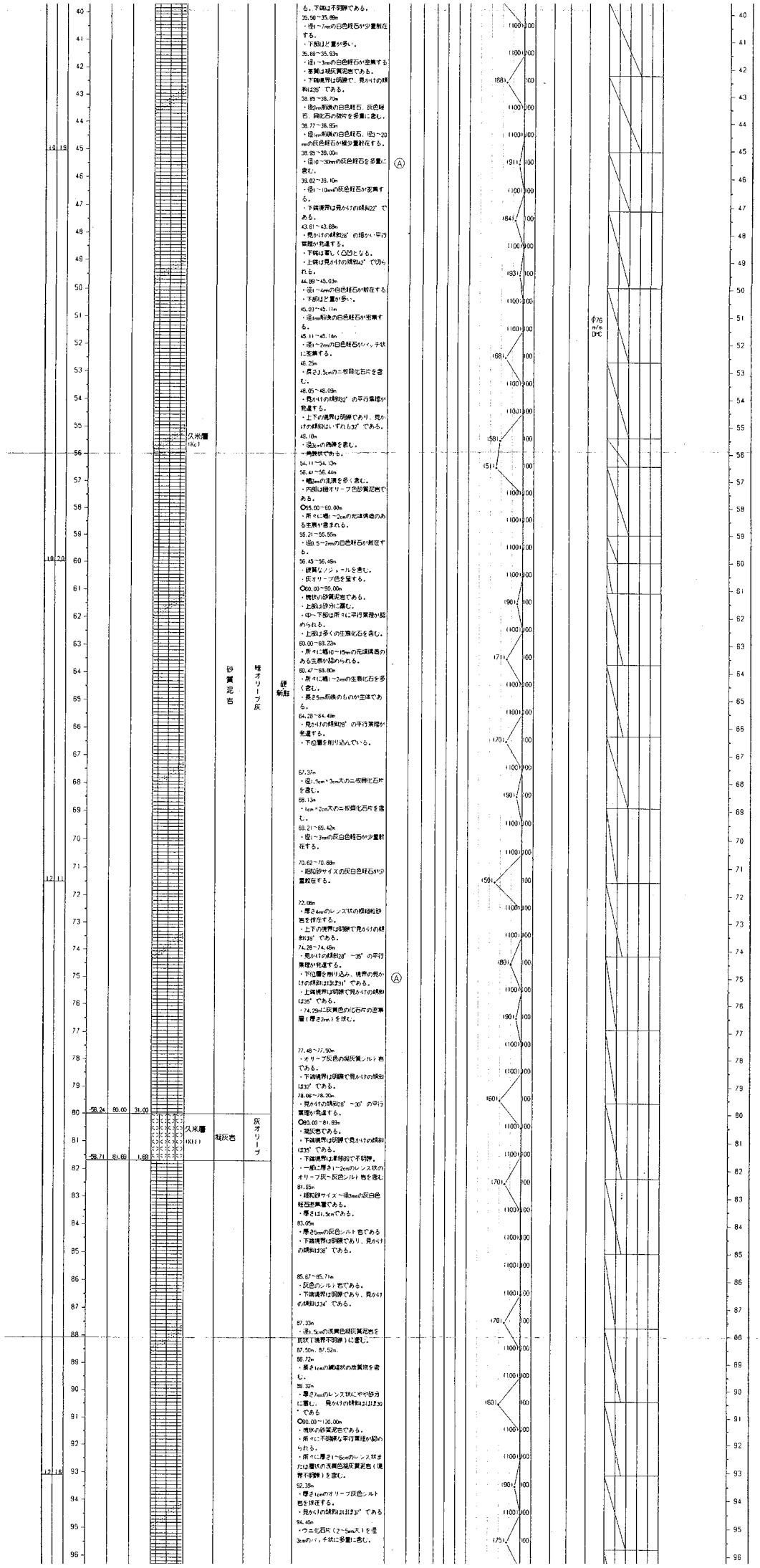
○：孔内水平載荷試験
□：間隙水圧測定
B：PS検層（板たたき方式）
B：PS検層（サスペンション方式）
S：電気検層
：密度検層
：キャリパー検層

TCUCOU Ver 1.00 1996-03-20 07:55:

1 斜60° ボーリング柱状図

件名	東海第二発電所使用済燃料貯蔵設備設置に係るボーリング調査他		主任技術者
調査地	茨城県那珂郡東海村大字白方1-1	孔口標高 EL +11.04m	[redacted]
調査期間	平成 7年9月25日～7年12月23日	最終孔内水位 GL- 21.10m (EL -10.06m)	コア観察者
使用試錐機	D-2GS（東邦製）	掘削深度 GL- 191.00m	[redacted]

掘進月日 月	日	標尺 m	標高 EL m	深度 GL-m	層厚 m	地質柱状図	地質 地層名	地質 層相	色調	硬軟・風化状況	記事	岩級区分	標準貫入試験 深度 GL-m	標準貫入試験 N値 回	標準貫入試験 10cm毎の打撃回数 10 cm	標準貫入試験 20 cm	標準貫入試験 30 cm	標準貫入試験 N値（回） 10 20 30 40 50 / 最大コア長（cm） 20 40 60 80 100 / RQD（%） 20 40 60 80 100	土質・岩石試験用試料採取 深度 GL-m	土質・岩石試験用試料採取 採取方法	土質・岩石試験用試料採取 試料番号	コピアッチュの種類	コア採取率（%） 20 40 60 80 / 掘進時間（min） 10 20 30 40	原位置試験・検層	標尺 m
			10.87	0.20	0.20		埋土	礫混り砂			0.00～0.20m ・埋土、礫混り砂である。		実施せず						実施せず			試掘		実施せず	
9	11	1																							1
9	25	2									0.20～9.35m ・塊状で海水の良い中粒～細粒砂 ・下位層(Ag2)とは漸移的である											φ86 DHC			2
		3																							3
		4																							4
		5					砂丘層 (du)	砂	暗灰黄																5
		6																							6
		7																							7
		8																							8
		9	2.94	9.35	9.15																				9
9	26	10	2.38	10.00							9.35～11.73m ・中～粗砂からなる。														10
		11							オリーブ褐																11
		12	0.88	11.73	2.38		久慈川推積層 (Ag2)	礫混り砂	オリーブ褐～暗灰黄		11.73～13.70m ・径2～3mmの円礫や粗粒砂を多く含む。 ・礫種は砂岩、チャートである。 ・基質は中粒～細粒砂からなる。 ・塊状である。														12
9	27	13	-0.82	13.70	1.97																				13
		14						砂礫			13.70～15.84m ・径2～10mmの円礫を多く含む。 ・礫種は砂岩、チャートである。 ・基質は粗粒～中粒砂からなる。 ・塊状である。														14
		15																							15
9	28	16	-2.68	15.84	2.14						15.84～15.89m ・径2～5mmの円礫を含む砂質シルトで、灰オリーブ色を呈する。 15.89～16.20m ・長さ2～5mmの腐植物を少量含むシルトである。 16.20～18.00m ・塊状の砂質シルトである。 ・一部見かけの傾斜30°程度の不明瞭な葉理が認められる。 18.00～18.34m ・凝灰質シルトからなる。 ・上位層へ漸移する。 ・下端の見かけの傾斜はほぼ30°である。 18.35m ・厚さ2～3mmの明瞭灰色の火山灰を挟在する。 18.34～20.00m ・塊状の砂質シルトである。														16
		17					埋没段丘推積層 (Dc3)	砂質シルト	暗緑灰																17
		18	-4.55	18.00					灰																18
			-4.84	18.34					暗緑灰																
		19																							19
		20	-5.28	20.00	4.16																				20
		21					埋没段丘推積層 (Dg3)	シルト質砂	灰オリーブ～灰																21
		22	-6.08	22.08	2.08																				22
		23	-6.64	22.73	0.65			砂	灰		20.00～22.08m ・灰オリーブ色のシルト質極細粒砂と灰色の細粒砂の不規則な互層である。 22.08～22.34m ・見かけの傾斜34°～37°の不明瞭な平行葉理が認められる細粒～中粒砂である。 22.34～22.73m ・塊状の細粒～中粒砂である。														23
9	29	24	-9.05	23.21					褐																24
		25	-10.83	25.25			埋没段丘推積層 (Dg3)	砂礫	オリーブ褐																25
		26							灰オリーブ		22.73～25.31m ・径2～20mmの亜角～亜円礫を少量含む中粒砂である。 ・礫種は砂岩、チャートである。 25.31～25.44m ・径5～15mmの亜円礫を多量に含む粗粒砂である。 ・礫種は砂岩、チャートである。 25.44～26.00m ・径2～10mmの円礫を多量に含む ・基質は上部ほど粗かく粗粒砂～中粒砂へと変化する。 ・礫種は砂岩、チャートである。 26.00～30.00m ・径2～10mmの円礫を多量に含む ・基質は中粒～細粒砂である。 ・礫種は砂岩、泥岩、チャート。 ・一部径3～4cmの円礫を層状に含む。 30.00～30.68m ・径2～10mmの円礫を多量に含む ・径2mmの礫を主体とする。 ・礫種は砂岩、泥岩、チャート、緑色岩を含む。 ・基質は中粒砂～細粒砂。最下部ではシルトを混じる。 30.68～30.94m ・径1～3cmの久米層に由来する円礫を多量に含む。 ・基質はシルトである。										φ76 m/m DHC			26
10	17	27																							27
		28																							28
		29																							29
		30																							30
10	18	31	-15.53	30.68	7.95			礫混りシルト	橙オリーブ灰																31
		32	-15.76	30.94	0.26																				32
		33																							33
		34																							34
		35																							35
		36																							36
		37																							37
		38																							38
		39																							39



る。下端は不明瞭である。
35.50～35.89m
・径1～7mmの白色軽石が少量散在する。
・下部ほど量が多い。
35.89～35.93m
・径1～3mmの白色軽石が密集する
・基質は凝灰質泥岩である。
・下端境界は明瞭で、見かけの傾斜は39°である。
38.65～38.70m
・径2mm前後の白色軽石、灰色軽石、同化石の破片を多量に含む。
38.77～38.95m
・径1mm前後の白色軽石、径3～20mmの灰色軽石が極少量散在する。
38.95～39.00m
・径10～30mmの灰色軽石を多量に含む。
39.02～39.10m
・径1～10mmの灰色軽石が密集する。
・下端境界は見かけの傾斜22°である。
43.61～43.68m
・見かけの傾斜28°の細かい平行葉理が発達する。
・下端は著しく凸凹となる。
・上端は見かけの傾斜42°で切られる。
44.89～45.03m
・径1～4mmの白色軽石が散在する
・下部ほど量が多い。
45.03～45.11m
・径1mm前後の白色軽石が密集する。
45.11～45.14m
・径1～2mmの白色軽石がパッチ状に密集する。
45.25m
・長さ3.5cmの二枚貝化石片を含む。
48.05～48.09m
・見かけの傾斜32°の平行葉理が発達する。
・上下の境界は明瞭であり、見かけの傾斜はいずれも32°である。
49.10m
・径3cmの偽礫を含む。
・角礫状である。
54.11～54.13m
56.41～56.44m
・幅2mmの生痕を多く含む。
・内部は細オリーブ色砂質泥岩である。
○55.00～60.00m
・所々に幅1～2cmの元塊構造のある生痕が含まれる。
55.21～55.55m
・径0.5～2mmの白色軽石が散在する。
56.45～56.49m
・硬質なノジュールを含む。
・灰オリーブ色を呈する。
○60.00～90.00m
・塊状の砂質泥岩である。
・上部は砂分に富む。
・中～下部は所々に平行葉理が認められる。
・上部は多くの生痕化石を含む。
60.00～68.22m
・所々に幅10～15mmの元塊構造のある生痕が認められる。
60.47～68.80m
・所々に幅1～2mmの生痕化石を多く含む。
・長さ5mm前後のものが主体である。
64.28～64.49m
・見かけの傾斜28°の平行葉理が発達する。
・下位層を削り込んでいる。

67.37m
・径1.5cm×3cm大の二枚貝化石片を含む。
68.13m
・1cm×2cm大の二枚貝化石片を含む。
69.21～69.42m
・径1～3mmの灰白色軽石が少量散在する。

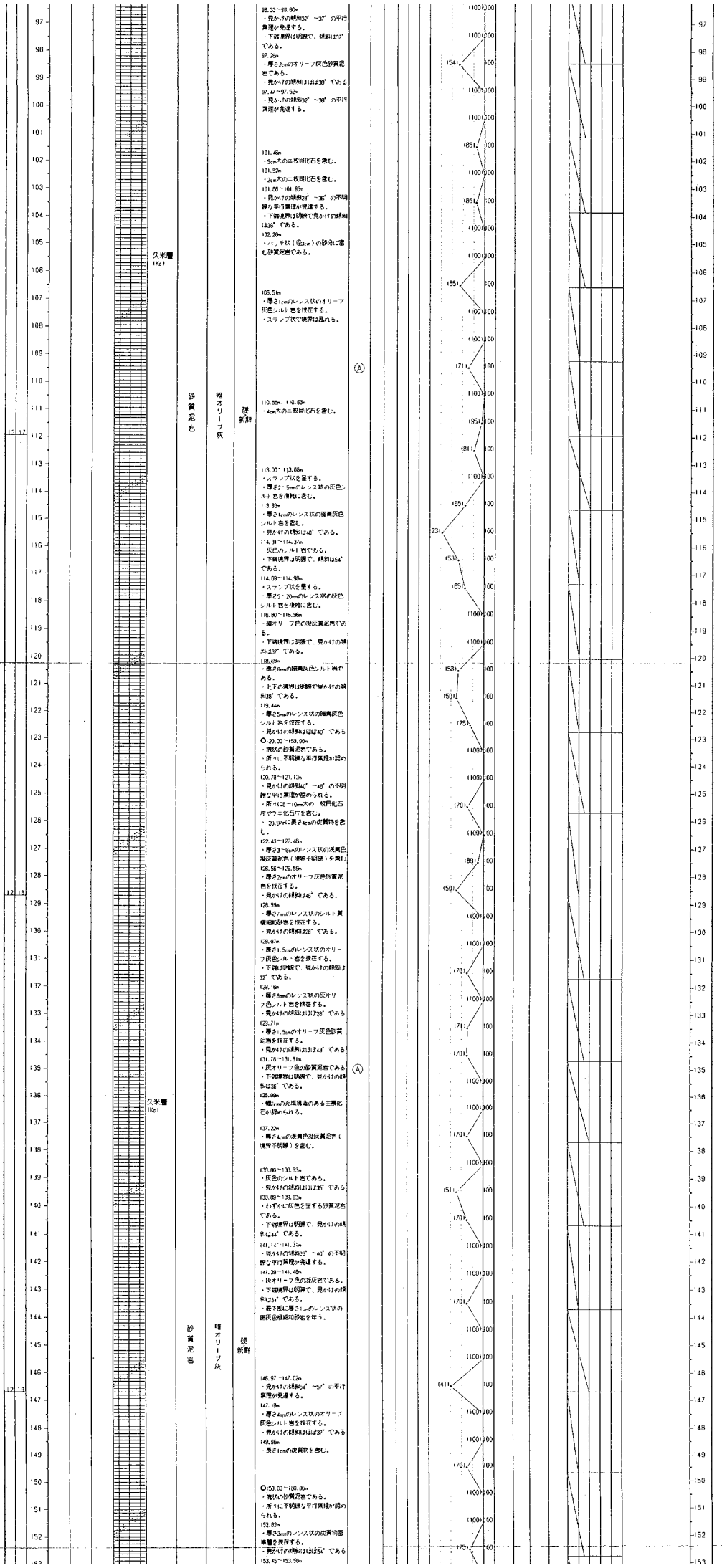
70.62～70.68m
・細粒砂サイズの灰白色軽石が少量散在する。

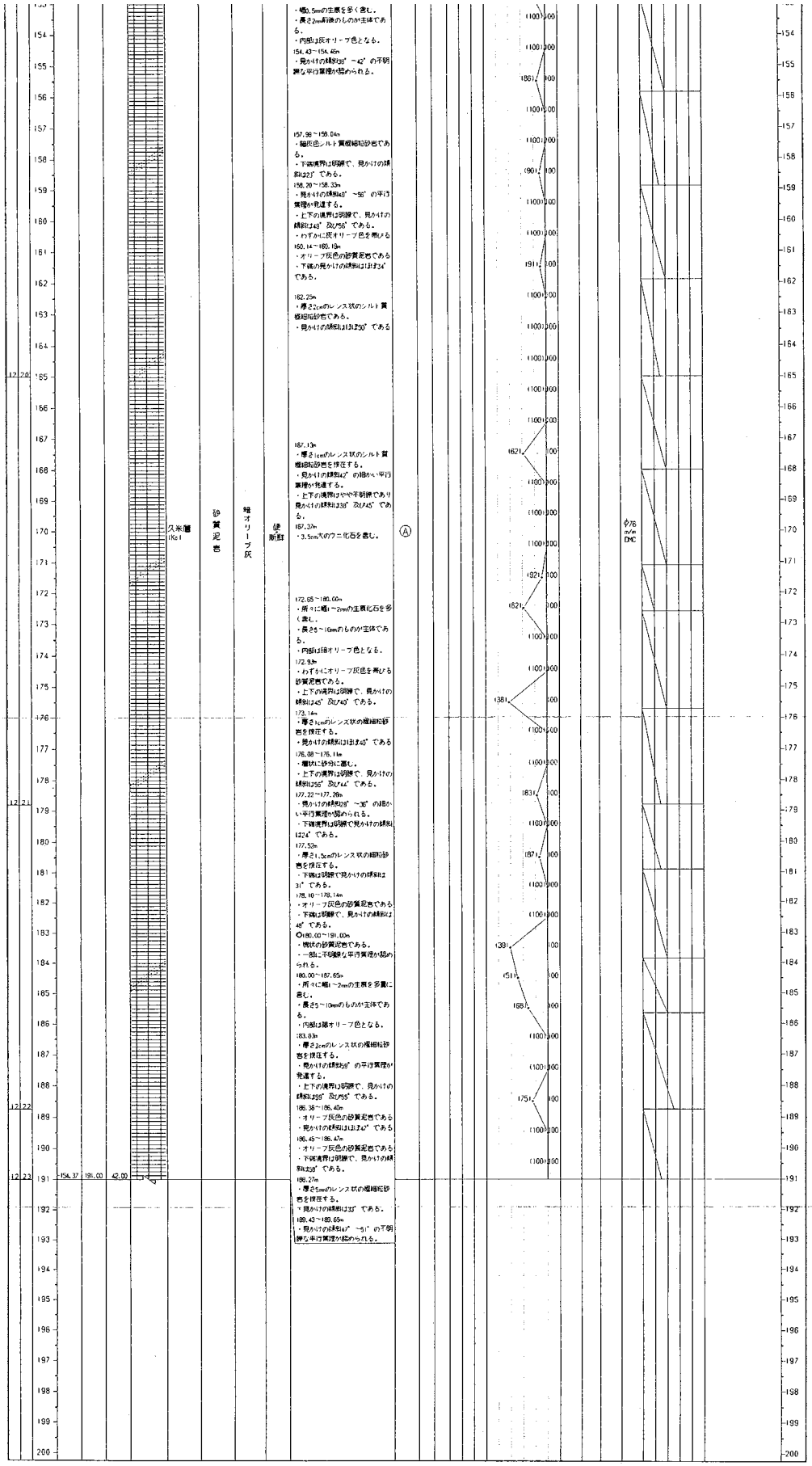
72.06m
・厚さ4mmのレンズ状の細細粒砂岩を挟在する。
・上下の境界は明瞭で見かけの傾斜は39°である。
74.28～74.46m
・見かけの傾斜28°～35°の平行葉理が発達する。
・下位層を削り込み、境界の見かけの傾斜はほぼ31°である。
・上端境界は明瞭で見かけの傾斜は35°である。
・74.29mに灰黄色の化石片の密集層（厚さ2mm）を挟む。

77.48～77.50m
・オリーブ灰色の凝灰質シルト岩である。
・下端境界は明瞭で見かけの傾斜は32°である。
78.06～78.20m
・見かけの傾斜28°～30°の平行葉理が発達する。
○80.00～81.69m
・凝灰岩である。
・下端境界は明瞭で見かけの傾斜は35°である。
・下端境界は単移的で不明瞭。
・一部に厚さ1～2cmのレンズ状のオリーブ灰～灰色シルト岩を含む
81.65m
・細粒砂サイズ～径3mmの灰白色軽石密集層である。
・厚さは1.5cmである。
83.05m
・厚さ5mmの灰色シルト岩である
・下端境界は明瞭であり、見かけの傾斜は38°である。

85.67～85.71m
・灰色のシルト岩である。
・下端境界は明瞭であり、見かけの傾斜は34°である。

87.33m
・径1.5cmの灰黄色凝灰質泥岩を切状（境界不明瞭）に含む。
87.50m、87.52m
88.72m
・長さ1cmの鍋堆状の炭質物を含む。
89.32m
・厚さ7mmのレンズ状にやや砂分に富む。 見かけの傾斜はほぼ30°である
○90.00～120.00m
・塊状の砂質泥岩である。
・所々に不明瞭な平行葉理が認められる。
・所々に厚さ1～6cmのレンズ状または層状の灰黄色凝灰質泥岩（境界不明瞭）を含む。
92.39m
・厚さ1cmのオリーブ灰色シルト岩を挟在する。
・見かけの傾斜はほぼ32°である
94.40m
・ウニ化石片（2～5mm大）を径3cmのパッチ状に多量に含む。


久米層
(Kc)
砂質泥岩
暗オリーブ灰
礫
新鮮
久米層
(Kc1)
砂質泥岩
暗オリーブ灰
礫
新鮮



（注） 1．試料採取方法

C：ボーリングコア試料
P：標準貫入試験による試料
D：デニソン型サンプラーによる試料
T：固定ピストン式シンウォールサンプラーによる試料

2．コアチューブ・ビットの種類

SMC：シングルコアチューブ・メタルクラウン
DMC：ダブルコアチューブ・メタルクラウン
DDB：ダブルコアチューブ・ダイヤモンドビット
TMC：トリプルコアチューブ・メタルクラウン
TDB：トリプルコアチューブ・ダイヤモンドビット

3．原位置試験・検層実施状況

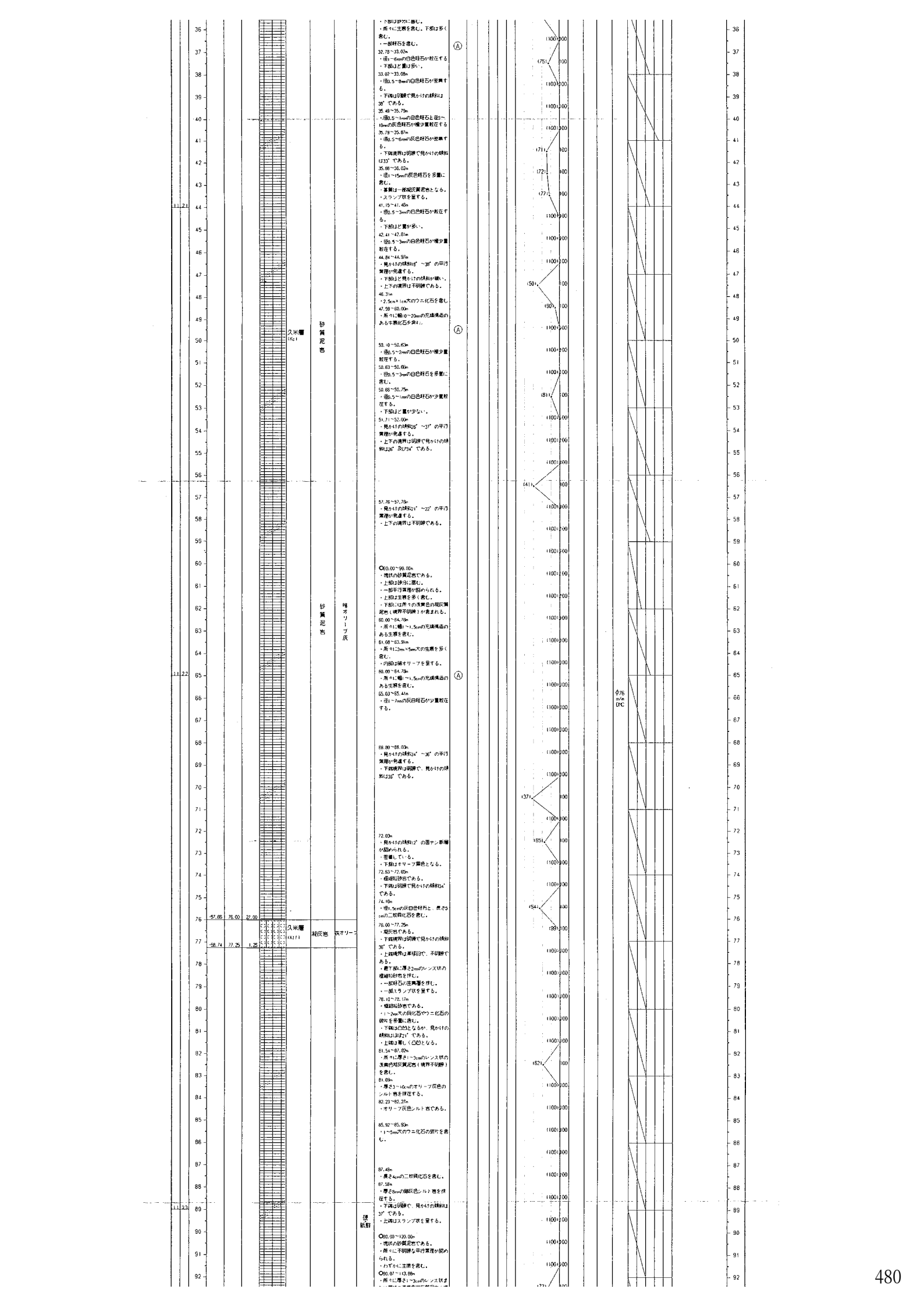
○：孔内水平載荷試験
□：間隙水圧測定
B：PS検層（板たたき方式）
B：PS検層（サスペンション方式）
S：電気検層
｜：密度検層
：キャリパー検層

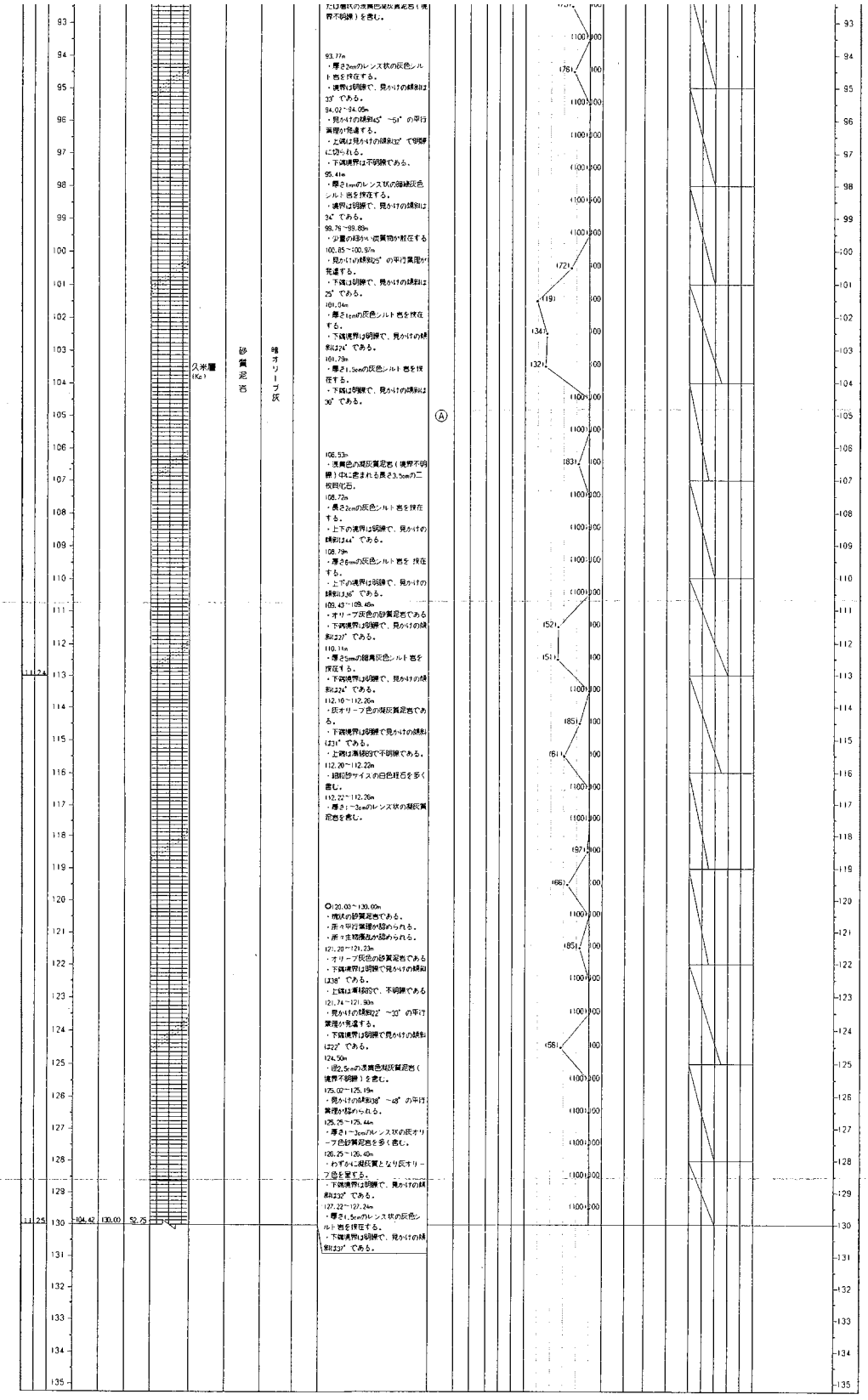
TOUCOU Ver 1.00 1996-03-19 01:48:45

j 斜60°　ボーリング柱状図

件　名	東海第二発電所使用済燃料貯蔵設備設置に係るボーリング調査他		主任技術者
調査地	茨城県那珂郡東海村大字白方1-1	孔口標高 EL +8.16m	[redacted]
調査期間	平成 7年11月10日～7年11月25日	最終孔内水位	コア観察者
使用試錐機	D-2（東邦製）	掘削深度 GL- 130.00m	[redacted]

掘進月日 月	日	標尺 m	標高 EL m	深度 GL-m	層厚 m	地質柱状図	地質 地層名	地質 層相	色調	硬軟・風化状況	記事	岩級区分	標準貫入試験 深度 GL-m	N値 (回)	10cm毎の打撃回数 10cm	20cm	30cm	N値(回) 10 20 30 40 50 / 最大コア長(cm) 20 40 60 80 100 / RQD(%) 20 40 60 80 100	土質・岩石試験用試料採取 深度 GL-m	採取方法	試料番号	コピアチェの1種ブ	コア採取率(%) 20 40 60 80 / 掘進時間(min) 10 20 30 40	原位置試験・検層	標尺 m
			7.94	0.25	0.25		埋土	礫混り砂	暗灰黄		0.00～0.25m ・アスファルト及び砂石からなる。 ○0.25～11.65m ・埋土である。 ・径2～5mmの円～亜円礫を極少量含む中粒砂である。 ・機状である。		実施せず						実施せず			試掘		実施せず	
11	6	1																							1
		2																							2
		3																							3
		4																							4
11	10	5																							5
		6																							6
		7																							7
		8																							8
11	11	9	0.37	9.00					黒褐		9.04～9.13m ・ワイヤーを含む。 9.13～9.43m ・材木片を多量に含む。														9
		10	-0.01	9.43					暗灰黄																10
11	14	11	-1.76	11.45	11.40				灰黄褐																11
		12	-1.93	11.65			久慈川堆積層(Ag2)	礫混り砂	オリーブ褐		11.65～13.95m ・径2～5mmの円礫を多く含む相粒～中粒砂からなる。 ・礫種はチャートを主体とし、砂岩、泥岩、緑色岩を含む。 13.95～14.18m ・径5～20mmの亜円～円礫を含む中粒～細粒砂である。 ・礫種は、上位層と同様である。														12
		13																							13
		14	-4.12	14.18	2.53																				14
11	15	15	-4.79	14.95	0.77		埋没段丘堆積層(Dc3)	砂質シルト	灰		14.18～14.95m ・一部に見かけの傾斜16°～30°の不明瞭な平行葉理のある砂質シルトである。														15
		16					埋没段丘堆積層(Da3)	砂	灰		14.95～15.23m ・機状の中粒～細粒砂からなる。 15.23～16.53m ・所々に見かけの傾斜24°～34°の平行葉理が認められる細粒砂である。														16
		17	-6.16	16.53	1.58			凝灰質砂																	17
			-6.43	16.85	0.32			凝灰質シルト	灰																
			-6.73	17.19	0.34		埋没段丘堆積層(Dc3)	砂質シルト	暗オリーブ灰		16.53～16.85m ・見かけの傾斜25°～30°の平行葉理が認められる凝灰質細粒砂である。														18
			-7.43	18.00	0.81																				
		19	-8.23	18.92	0.92		埋没段丘堆積層(Da3)	シルト混り砂	灰オリーブ		16.85～17.19m ・機状の凝灰質砂質シルトである 17.19～18.00m ・機状の砂質シルトである。 ・一部炭質物を多く含む。														19
		20	-8.74	19.51				砂	オリーブ黄																20
			-8.85	19.64					灰																
11	16	21	-10.28	21.29	2.37						18.00～18.92m ・灰オリーブ色の砂質シルトと灰色の極細粒砂の互層である。 18.92～19.51m ・機状の極細粒砂からなる。 ・下部では平行葉理が認められる 19.51～19.64m ・機状の砂質シルトである。														21
		22					埋没段丘堆積層(Dg3)	礫混り砂	灰																22
		23	-11.70	22.93	1.64			砂礫																	23
11	17		-11.98	23.25	0.32			礫混り砂																	
		24	-12.15	23.45	0.20						19.64～19.78m ・見かけの傾斜32°～36°の平行葉理が発達する極細粒砂～砂質シルトである。 19.78～20.15m ・機状の細粒砂である。 20.15～20.33m ・見かけの傾斜16°～15°の平行葉理が発達する極細粒砂～砂質シルトである。 20.33～21.29m ・機状の極細粒砂である。														24
11	18	25																							25
11	20	26																							26
		27																							27
		28									21.29～22.93m ・径2～10mmの亜円～円礫を含む中粒砂である。 ・礫種は砂岩、泥岩、チャート、花崗岩からなる。 22.93～23.25m ・径1～6cmの円礫を多量に含む極細粒砂からなる。 ・礫種は上位層と同様である。 23.25～23.45m ・径2～4cmの久米層の泥岩礫を含む細粒砂である。 ・不整合面は見かけの傾斜24°である。														28
		29																							29
		30																							30
		31																							31
		32									○23.45～30.00m ・機状の砂質泥岩である。 ・一部に平行葉理が認められる。 25.20～25.37m ・硬質なノジュールを含む。 27.35～28.99m ・幅10～15mmの充填構造のある主裏化石を含む。 ○30.00～60.00m ・機状な砂質泥岩である。														32
		33																							33
		34																							34
		35																							35


・下部は砂分に富む。
・所々に生痕を含む。下部は多く含む。
・一部軽石を含む。
32.78～33.02m
・径1～6mmの白色軽石が散在する。
・下部ほど量は多い。
33.02～33.05m
・径0.5～8mmの白色軽石が密集する。
・下底は明瞭で見かけの傾斜は38°である。
35.48～35.79m
・径0.5～1mmの白色軽石と径5～10mmの灰色軽石が僅少量散在する。
35.79～35.87m
・径0.5～6mmの灰色軽石が密集する。
・下底境界は明瞭で見かけの傾斜は33°である。
35.88～36.02m
・径1～15mmの灰色軽石を多量に含む。
・基質は一部凝灰質泥岩となる。
・スランプ状を呈する。
41.15～41.45m
・径0.5～3mmの白色軽石が散在する。
・下部ほど量が多い。
42.41～42.81m
・径0.5～3mmの白色軽石が僅少量散在する。
44.84～44.97m
・見かけの傾斜は5°～35°の平行葉理が発達する。
・下部ほど見かけの傾斜が緩い。
・上下の境界は不明瞭である。
46.31m
・2.5cm×1cm大のウニ化石を含む。
47.59～50.00m
・所々に幅10～20mmの充填構造のある生痕化石を含む。
50.10～50.63m
・径0.5～2mmの白色軽石が僅少量散在する。
50.63～50.68m
・径0.5～3mmの白色軽石を多量に含む。
50.68～50.75m
・径0.5～1mmの白色軽石が少量散在する。
・下部ほど量が少ない。
51.71～52.00m
・見かけの傾斜26°～37°の平行葉理が発達する。
・上下の境界は明瞭で見かけの傾斜は26°及び34°である。
57.76～57.78m
・見かけの傾斜21°～22°の平行葉理が発達する。
・上下の境界は不明瞭である。
○60.00～90.00m
・塊状の砂質泥岩である。
・上部は砂分に富む。
・一部平行葉理が認められる。
・上部は生痕を多く含む。
・下部には所々の淡黄色の凝灰質泥岩（境界不明瞭）が含まれる。
60.00～84.78m
・所々に幅1～1.5cmの充填構造のある生痕を含む。
61.08～63.91m
・所々に2cm×5cm大の生痕を多く含む。
・内部は暗オリーブを呈する。
60.00～84.78m
・所々に幅1～1.5cmの充填構造のある生痕を含む。
65.03～65.44m
・径1～7mmの灰白軽石が少量散在する。
68.80～69.03m
・見かけの傾斜14°～36°の平行葉理が発達する。
・下底境界は明瞭で、見かけの傾斜は35°である。
72.03m
・見かけの傾斜12°の斜交葉層が認められる。
・密着している。
・下部はオリーブ褐色となる。
72.53～72.65m
・塊状粘土岩である。
・下底は明瞭で見かけの傾斜は14°である。
74.16m
・径1.5cmの灰白色軽石と、長さ5cmの二枚貝化石を含む。
76.00～77.25m
・凝灰岩である。
・下底境界は明瞭で見かけの傾斜は36°である。
・上底境界は漸移的で、不明瞭である。
・最下部に厚さ2mmのレンズ状の極細粒砂岩を挟む。
・一部軽石の濃集層を挟む。
・一部にスランプ状を呈する。
78.10～78.17m
・極細粒砂岩である。
・1～2mm大の貝化石やウニ化石の破片を多量に含む。
・下底は凸凹となるが、見かけの傾斜は31°である。
・上底は薄く凸凹となる。
81.54～81.89m
・所々に厚さ1～3cmのレンズ状の淡黄色凝灰質泥岩（境界不明瞭）を含む。
81.89m
・厚さ3～10cmのオリーブ灰色のシルト岩を挟在する。
82.23～82.27m
・オリーブ灰色シルト岩である。
85.92～85.93m
・1～5mm大のウニ化石の破片を含む。
87.48m
・厚さ4cmの二枚貝化石を含む。
87.58m
・厚さ8mmの褐灰色シルト岩を挟在する。
・下底は5°で、見かけの傾斜は37°である。
・上底はスランプ状を呈する。
○90.00～120.00m
・塊状の砂質泥岩である。
・所々に不明瞭な平行葉理が認められる。
・わずかに生痕を含む。
○90.07～113.86m
・所々に厚さ1～3cmのレンズ状ま
久米層 (Kc1)
砂質泥岩
暗オリーブ灰
久米層 (Kf1)
凝灰岩
灰オリーブ
硬質頁岩
φ76 m/m DMC



（注） 1．試料採取方法

C：ボーリングコア試料
P：標準貫入試験による試料
D：デニソン型サンプラーによる試料
T：固定ピストン式シンウォールサンプラーによる試料

2．コアチューブ・ビットの種類

SMC：シングルコアチューブ・メタルクラウン
DMC：ダブルコアチューブ・メタルクラウン
DDB：ダブルコアチューブ・ダイヤモンドビット
TMC：トリプルコアチューブ・メタルクラウン
TDB：トリプルコアチューブ・ダイヤモンドビット

3．原位置試験・検層実施状況

○：孔内水平載荷試験
□：間隙水圧測定
■：PS検層（板たたき方式）
■：PS検層（サスペンション方式）
S：電気検層
I：密度検層
：キャリパー検層

TOUCOU Ver 1.00 1998-03-19 16:24:42

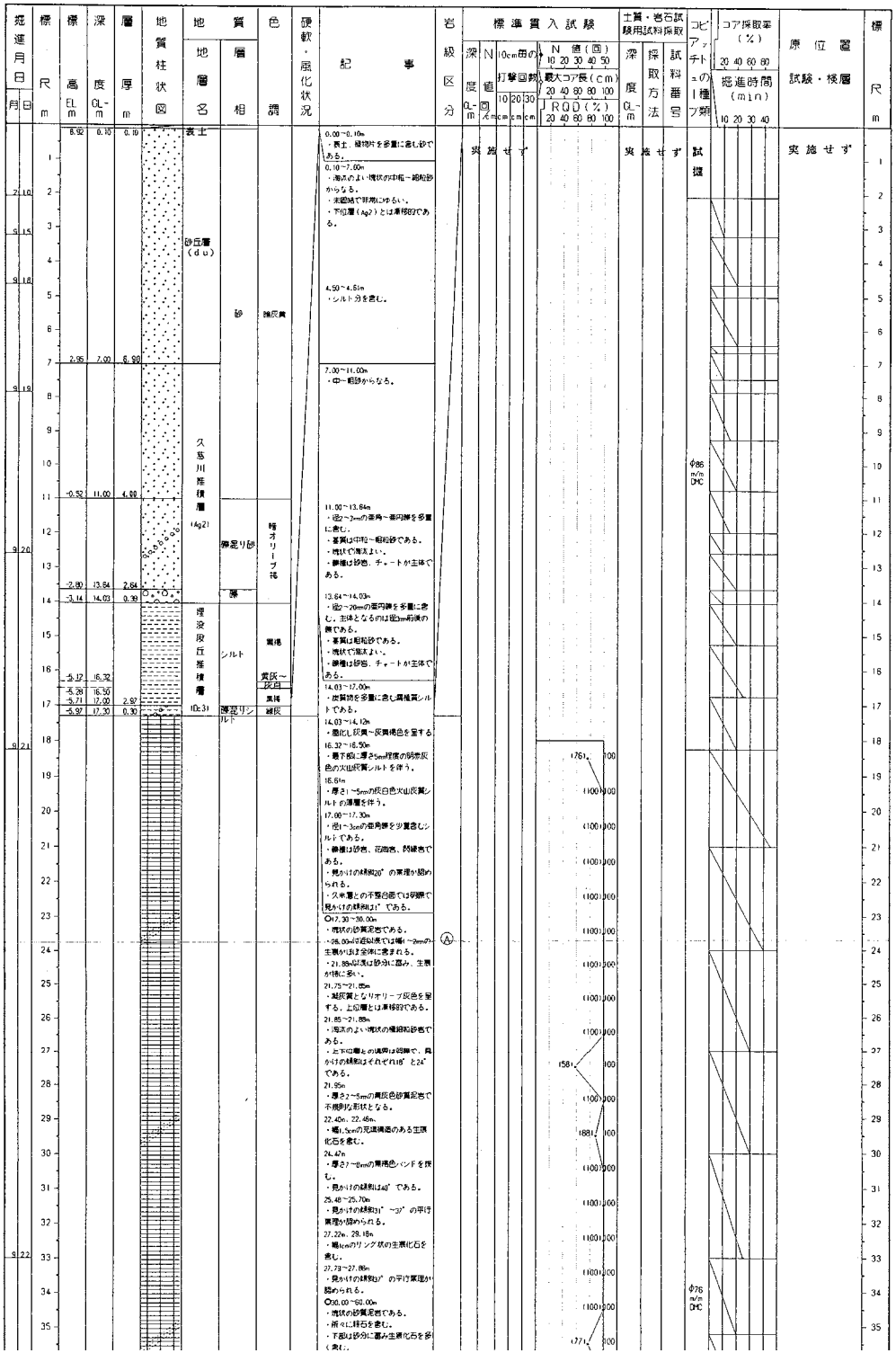
K 斜60° ボーリング柱状図

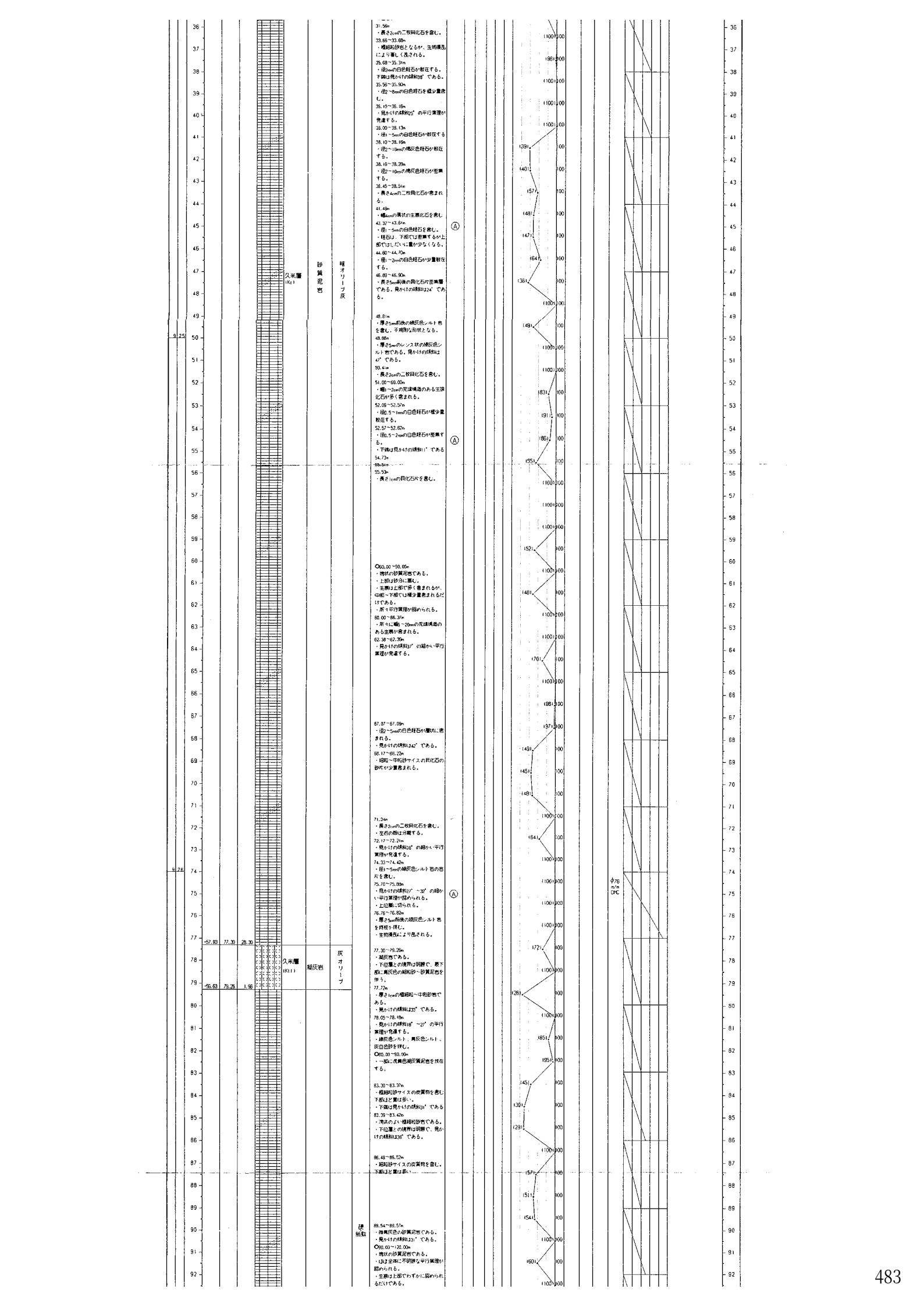
件　　名　東海第二発電所使用済燃料貯蔵設備設置に係るボーリング調査他　　主任技術者

調 査 地　茨城県那珂郡東海村大字白方1-1　　孔口標高 EL +9.01m　　[redacted]

調査期間　平成7年9月15日～7年9月29日　　最終孔内水位 GL- 7.80m (EL +1.21m)　　コア観察者

使用試錐機　L-24（ロングイヤー製）　　掘削深度 GL- 131.00m　　[redacted]





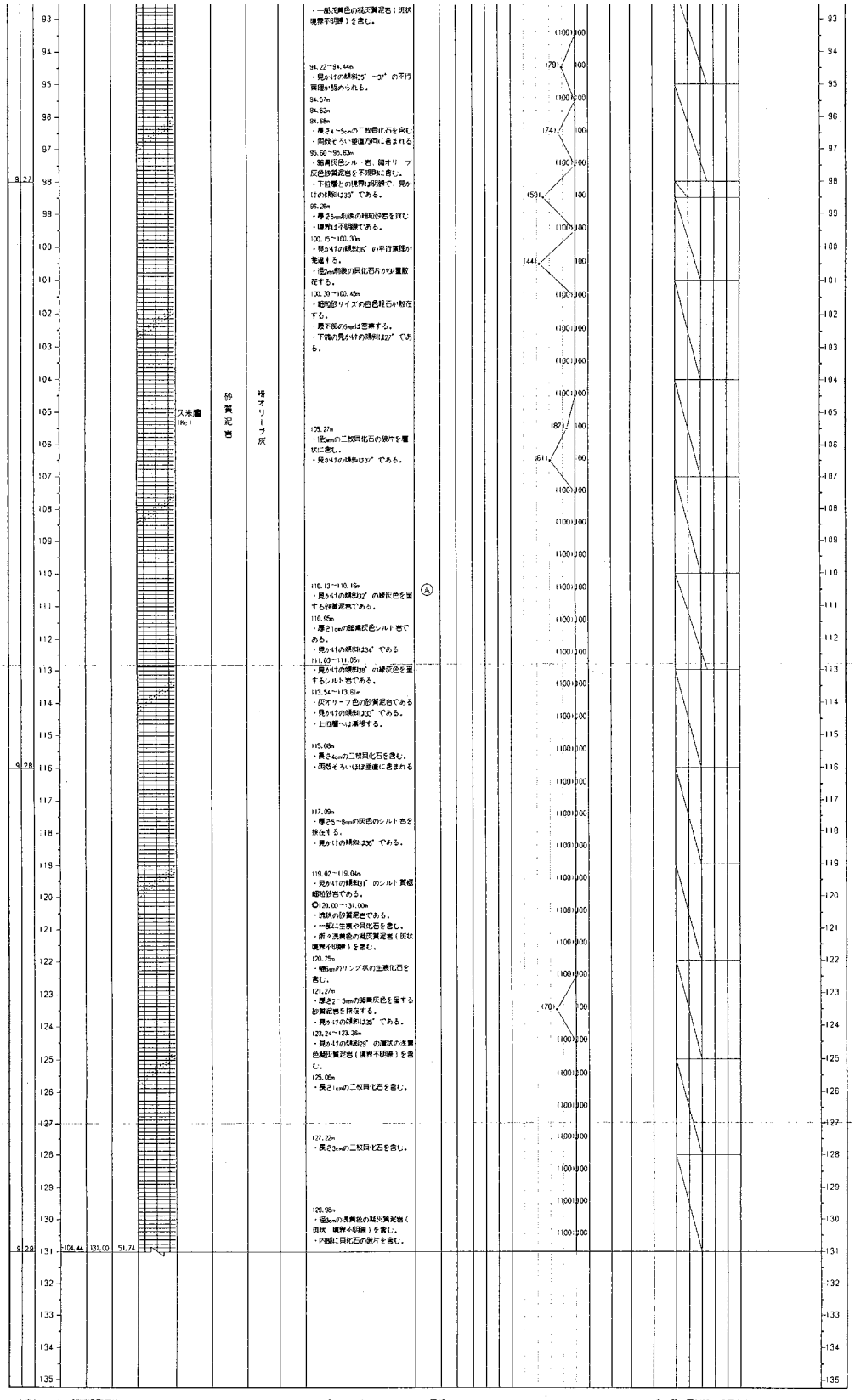
				久米層 (Kc)	砂質泥岩	暗オリーブ灰	31.56m ・長さ2cmの二枚貝化石を含む。 33.66~33.68m ・極細粒砂岩となるが、生物擾乱により著しく乱される。 35.08~35.31m ・径2mmの白色粒石が散在する。下端は見かけの傾斜38°である。 35.56~35.90m ・径2~8mmの白色粒石を縦少量含む。 38.10~38.16m ・見かけの傾斜25°の平行葉理が発達する。 38.00~38.13m ・径1~5mmの白色粒石が散在する 38.10~38.16m ・径2~10mmの褐灰色粒石が散在する。 38.16~38.28m ・径2~10mmの褐灰色粒石が密集する。 38.45~38.51m ・長さ4cmの二枚貝化石が含まれる。 41.49m ・幅4mmの薄状の生痕化石を含む 43.32~43.61m ・径1~5mmの白色粒石を含む。 ・粒石は、下部では密集するが上部ではしだいに量が少なくなる。 44.60~44.70m ・径1~2mmの白色粒石が少量散在する。 46.89~46.90m ・長さ5mm前後の貝化石片密集層である。見かけの傾斜は24°である。 48.81m ・厚さ5mm前後の緑灰色シルト岩を含む。不規則な形状となる。 48.88m ・厚さ5mmのレンズ状の緑灰色シルト岩である。見かけの傾斜は42°である。 50.41m ・長さ2cmの二枚貝化石を含む。 51.00~60.00m ・幅1~2cmの充填構造のある生痕化石が多く含まれる。 52.09~52.57m ・径0.5~1mmの白色粒石が縦少量散在する。 52.57~52.62m ・径0.5~2mmの白色粒石が密集する。 ・下端は見かけの傾斜11°である 54.73m 55.51m 55.53m ・長さ1cmの貝化石片を含む。 ○60.00~90.00m ・塊状の砂質泥岩である。 ・上部は砂分に富む。 ・生痕は上部で多く含まれるが、中部~下部では縦少量含まれるだけである。 ・所々平行葉理が認められる。 60.00~66.37m ・所々に幅6~20mmの充填構造のある生痕が含まれる。 62.38~62.39m ・見かけの傾斜37°の細かい平行葉理が発達する。 67.07~67.09m ・径2~5mmの白色粒石が層状に含まれる。 ・見かけの傾斜は42°である。 68.17~68.22m ・細粒~中粒砂サイズの貝化石の砂片が少量含まれる。 71.34m ・長さ2cmの二枚貝化石を含む。 ・左右の殻は分離する。 72.17~72.21m ・見かけの傾斜26°の細かい平行葉理が発達する。 74.33~74.42m ・径1~5mmの緑灰色シルト岩の岩片を含む。 75.70~75.80m ・見かけの傾斜27°~32°の細かい平行葉理が認められる。 ・上位層に切られる。 76.76~76.82m ・厚さ5mm前後の緑灰色シルト岩を挟む。 ・生物擾乱により乱される。 77.30~79.26m ・凝灰岩である。 ・下位層との境界は明瞭で、最下部に青灰色の細粒砂~砂質泥岩を伴う。 77.72m ・厚さ1cmの極細粒~中粒砂岩である。 ・見かけの傾斜は33°である。 78.05~78.18m ・見かけの傾斜18°~27°の平行葉理が発達する。 ・緑灰色シルト、青灰色シルト、灰白色砂を挟む。 ○80.00~90.00m ・一部に流黄色凝灰質泥岩を挟在する。 83.30~83.37m ・極細粒砂サイズの炭質物を含む下部ほど量は多い。 ・下端は見かけの傾斜31°である 83.39~83.42m ・湾流のよい極細粒砂岩である。 ・下位層との境界は明瞭で、見かけの傾斜は36°である。 86.48~86.52m ・細粒砂サイズの炭質物を含む。下部ほど量は多い。 89.54~89.57m ・微黄灰色の砂質泥岩である。 ・見かけの傾斜は31°である。 ○90.00~120.00m ・塊状の砂質泥岩である。 ・ほぼ全体に不明瞭な平行葉理が認められる。 ・生痕は上部でわずかに認められるだけである。
9.25							
9.26							
	-57.93	77.30	28.30				
	-56.63	79.25	1.96	久米層 (Kt1)	凝灰岩	灰オリーブ	
						硬頭鱗	

Ⓐ

Ⓐ

Ⓐ

φ76 m/m DPC


久米層
(Kc)
砂質泥岩
暗オリーブ灰
9.27
9.28
9.29
104.44
131.00
51.74
(100)100
(79)100
(100)100
(74)100
(100)100
(50)100
(100)100
(64)100
(100)100
(100)100
(100)100
(100)100
(87)100
(61)100
(100)100
(100)100
(100)100
(100

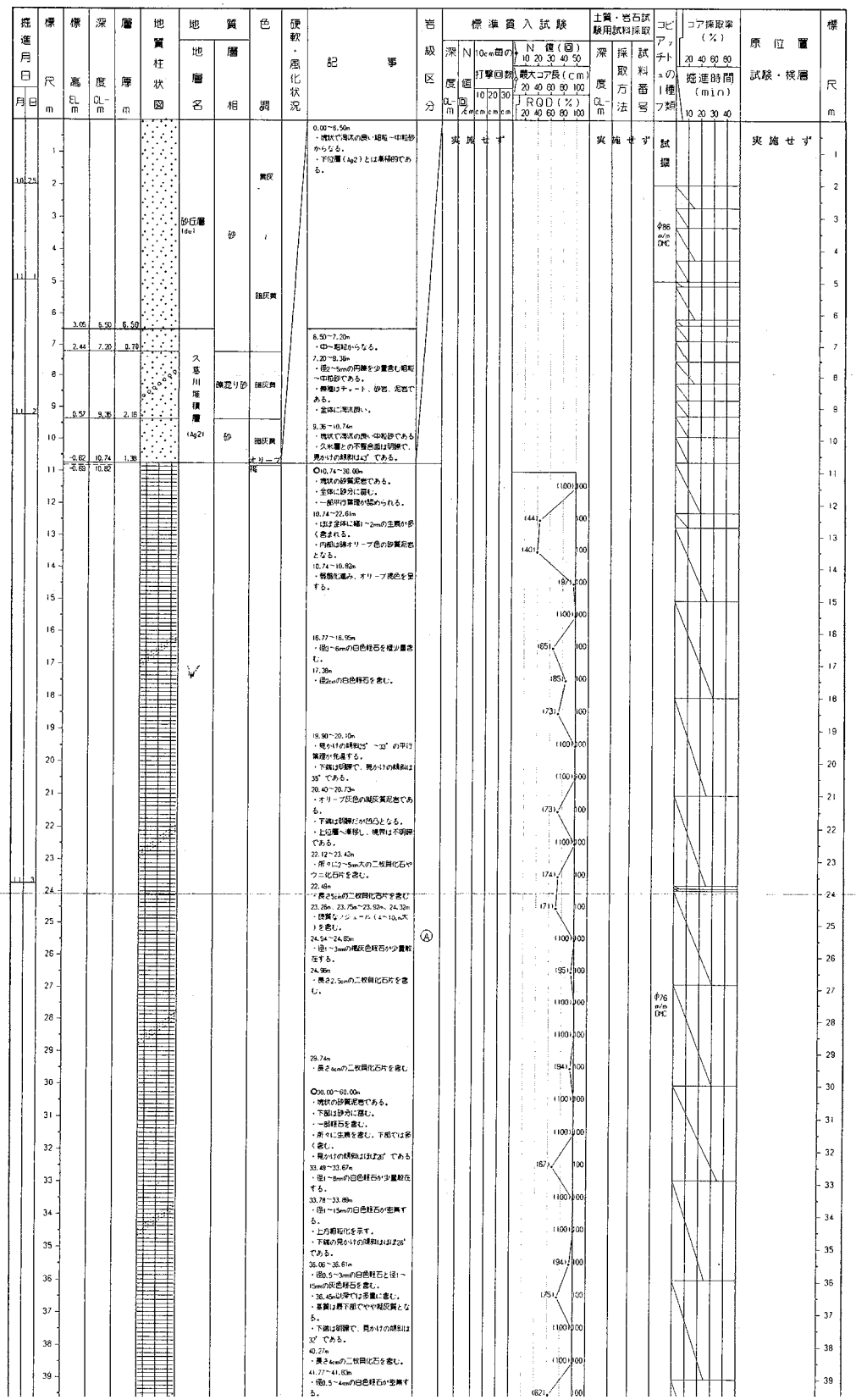
1　斜60°　ボーリング柱状図

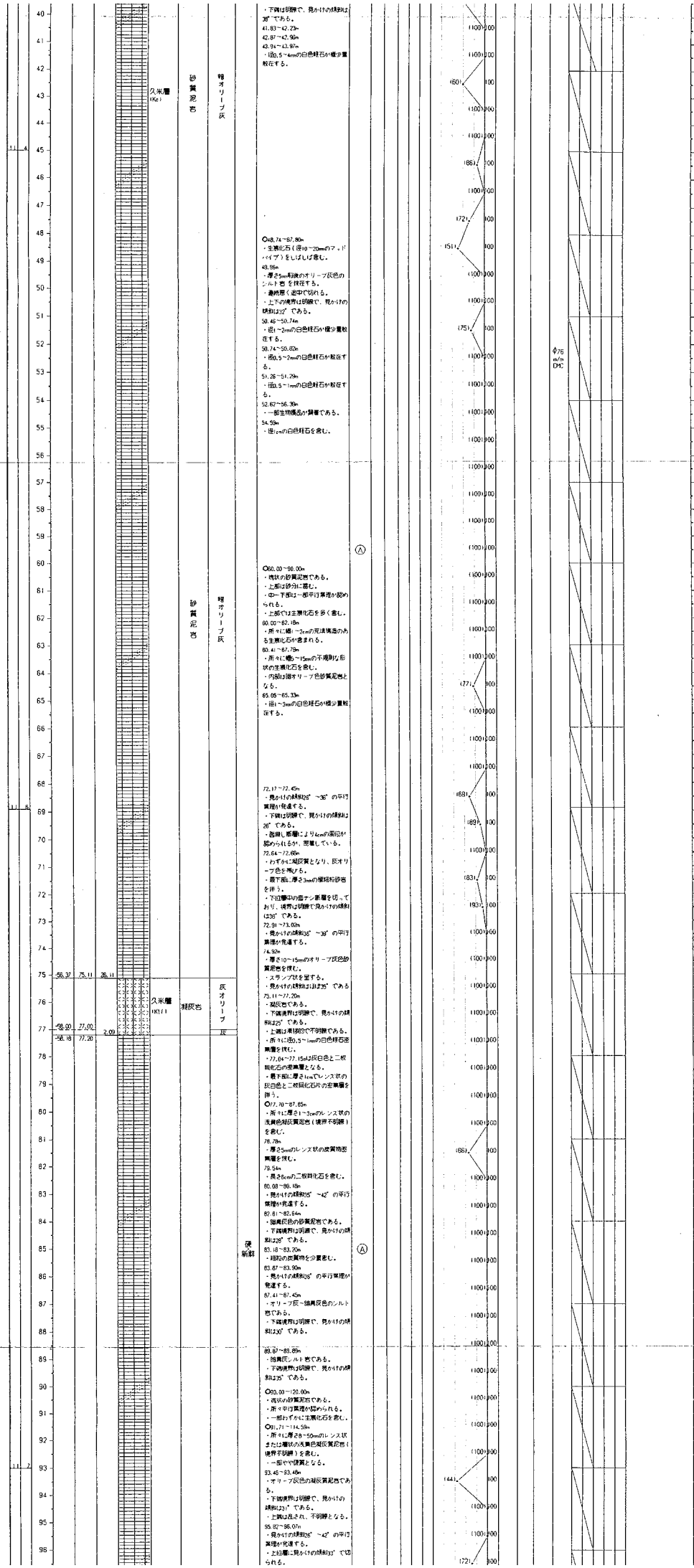
件　　名　東通第二発電所使用済燃料貯蔵施設設置に係るボーリング調査他　　主任技術者 [redacted]

調 査 地　茨城県那珂郡東海村大字白方1-1　　孔 口 標 高　EL　+8.68 m

調査期間　平成7年11月1日～7年11月14日　　最終孔内水位　GL-　7.10 m (EL　+1.58 m)　　コア観察者 [redacted]

使用試錐機　L-24（ロングイヤー製）　　掘 削 深 度　GL-　189.00 m





・下端は明瞭で、見かけの傾斜は38°である。
41.83～42.23m
42.87～42.96m
43.94～43.97m
・径0.5～4mmの白色軽石が極少量散在する。

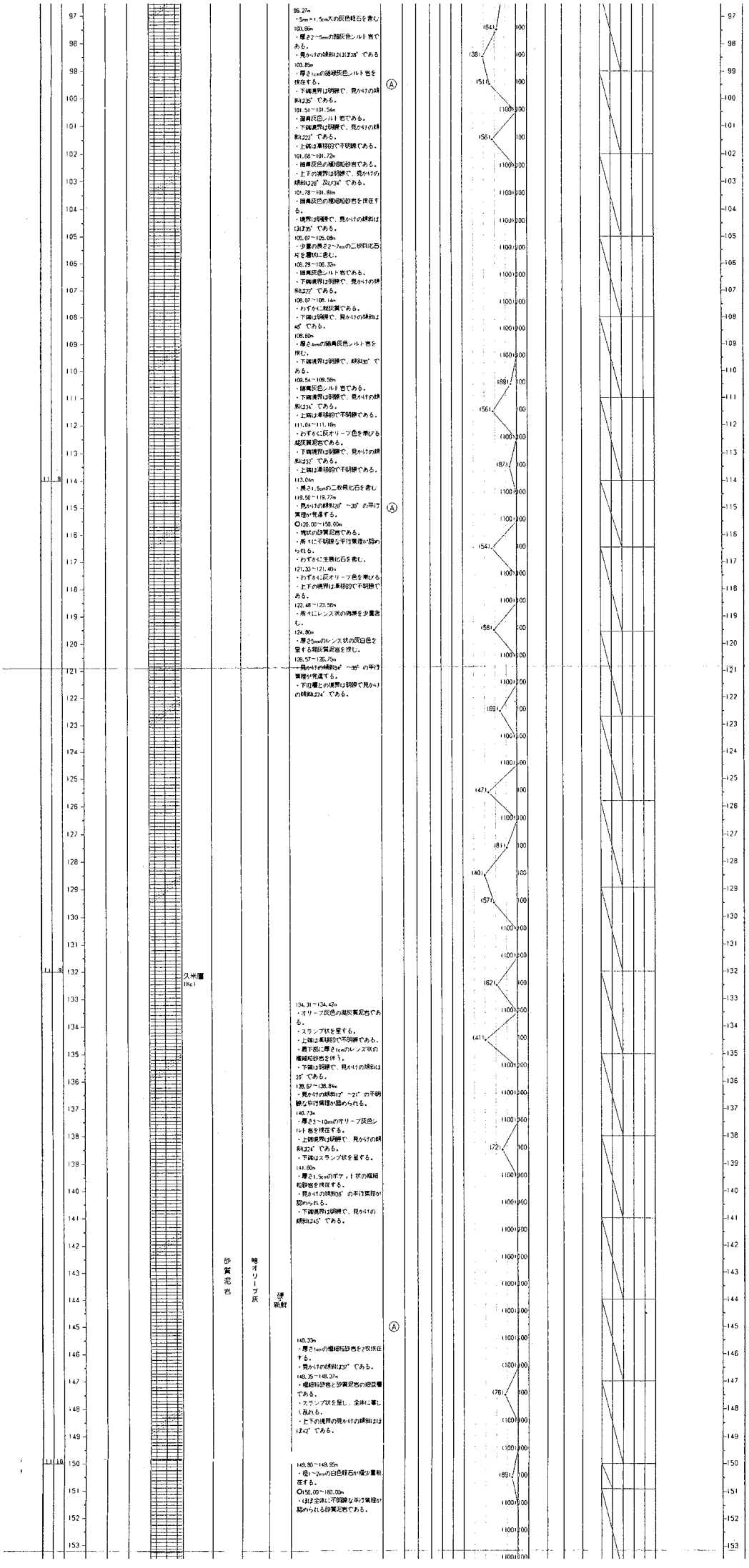
○48.74～67.80m
・生痕化石（径10～20mmのマッドパイプ）をしばしば含む。
49.96m
・厚さ5mm前後のオリーブ灰色のシルト岩 を挟在する。
・連続層く途中で切れる。
・上下の境界は明瞭で、見かけの傾斜は32°である。
50.46～50.74m
・径1～2mmの白色軽石が極少量散在する。
50.74～50.82m
・径0.5～2mmの白色軽石が散在する。
51.26～51.29m
・径0.5～1mmの白色軽石が散在する。
52.67～56.39m
・一部生物擾乱が顕著である。
54.59m
・径1cmの白色軽石を含む。

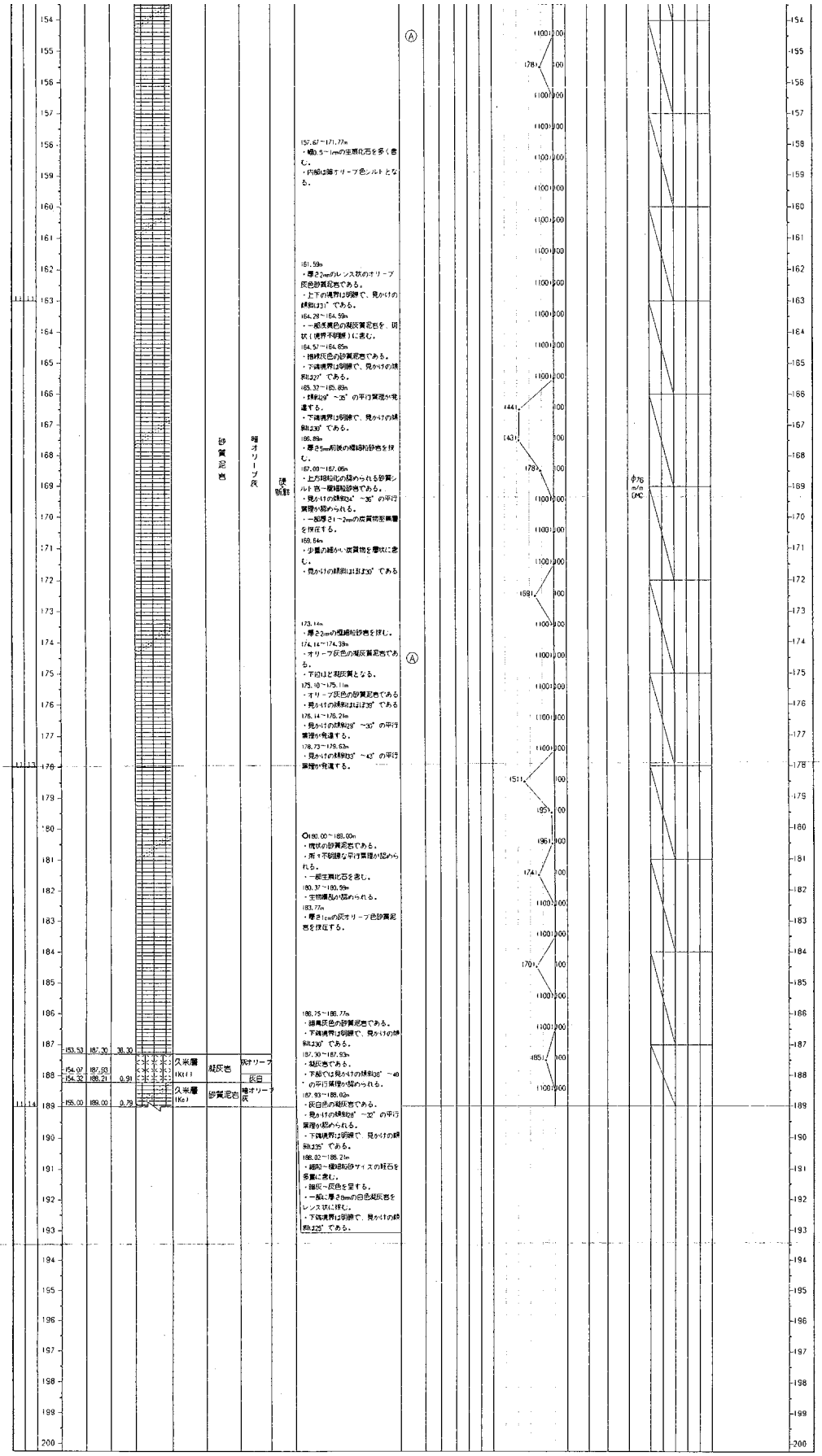
○60.00～90.00m
・塊状の砂質泥岩である。
・上部は砂分に富む。
・中～下部は一部平行葉理が認められる。
・上部では生痕化石を多く含む。
60.00～62.18m
・所々に幅1～2cmの充填構造のある生痕化石が含まれる。
60.41～67.79m
・所々に幅5～15mmの不規則な形状の生痕化石を含む。
・内部は暗オリーブ色砂質泥岩となる。
65.05～65.33m
・径1～3mmの白色軽石が極少量散在する。

72.17～72.45m
・見かけの傾斜26°～36°の平行葉理が発達する。
・下端は明瞭で、見かけの傾斜は26°である。
・器用し断層により4cmの高位が認められるが、密着している。
72.64～72.66m
・わずかに凝灰質となり、灰オリーブ色を帯びる。
・最下部に厚さ3mmの層縮粒砂岩を伴う。
・下位層中の歯ナシ断層を切っており、境界は明瞭で見かけの傾斜は36°である。
72.91～73.02m
・見かけの傾斜36°～39°の平行葉理が発達する。
74.92m
・厚さ10～15mmのオリーブ灰色砂質泥岩を挟む。
・スランプ状を呈する。
・見かけの傾斜はほぼ35°である
75.11～77.20m
・凝灰岩である。
・下端境界は明瞭で、見かけの傾斜は25°である。
・上端は単移89で不明瞭である。
・所々に径0.5～1mmの白色軽石密集層を挟む。
・77.04～77.15mは灰白色と二枚貝化石の密集層となる。
・最下部に厚さ1cmでレンズ状の灰白色と二枚貝化石片の密集層を伴う。
○77.70～87.85m
・所々に厚さ1～3cmのレンズ状の浅黄色凝灰質泥岩（境界不明瞭）を含む。
78.78m
・厚さ5mmのレンズ状の炭質物密集層を挟む。
79.54m
・長さ6cmの二枚貝化石を含む。
80.08～80.18m
・見かけの傾斜35°～42°の平行葉理が発達する。
82.61～82.64m
・暗黄灰色の砂質泥岩である。
・下端境界は明瞭で、見かけの傾斜は28°である。
83.18～83.20m
・細粒の炭質物を少量含む。
83.87～83.90m
・見かけの傾斜36°の平行葉理が発達する。
87.41～87.45m
・オリーブ灰～暗黄灰色のシルト岩である。
・下端境界は明瞭で、見かけの傾斜は30°である。

89.87～89.89m
・暗黄灰シルト岩である。
・下端境界は明瞭で、見かけの傾斜は35°である。

○90.00～120.00m
・塊状の砂質泥岩である。
・所々平行葉理が認められる。
・一部わずかに生痕化石を含む。
○91.71～114.59m
・所々に厚さ8～50mmのレンズ状または層状の浅黄色凝灰質泥岩（境界不明瞭）を含む。
・一部やや硬質となる。
93.46～93.48m
・オリーブ灰色の凝灰質泥岩である。
・下端境界は明瞭で、見かけの傾斜は31°である。
・上端は乱され、不明瞭となる。
95.82～96.07m
・見かけの傾斜26°～42°の平行葉理が発達する。
・上位層に見かけの傾斜33°で切られる。


久米層
(Ke)
砂質泥岩
暗オリーブ灰
硬
新鮮
99.27m
・5mm×1.5cm大の灰色細石を含む。
100.89m
・厚さ2~5cmの暗灰色シルト岩である。
・見かけの傾斜はおよそ28°である。
100.85m
・厚さ1cmの褐緑灰色シルト岩を挟在する。
・下底境界は明瞭で、見かけの傾斜は35°である。
101.51~101.54m
・暗黒灰色シルト岩である。
・下底境界は明瞭で、見かけの傾斜は22°である。
・上底は漸移的で不明瞭である。
101.68~101.72m
・暗黒灰色の極細粒砂岩である。
・上下の境界は明瞭で、見かけの傾斜は26°及び34°である。
101.78~101.81m
・暗黒灰色の極細粒砂岩を挟在する。
・境界は明瞭で、見かけの傾斜は13と32°である。
105.07~105.09m
・少量の長さ2~7mmの二枚貝化石片を雲状に含む。
105.29~105.32m
・暗黒灰色シルト岩である。
・下底境界は明瞭で、見かけの傾斜は22°である。
105.97~106.14m
・わずかに凝灰質である。
・下底は明瞭で、見かけの傾斜は4°である。
106.80m
・厚さ4mmの暗黒灰色シルト岩を挟む。
・下底境界は明瞭で、傾斜は0°である。
108.54~108.56m
・暗黒灰色シルト岩である。
・下底境界は明瞭で、見かけの傾斜は34°である。
・上底は漸移的で不明瞭である。
111.04~111.18m
・わずかに灰オリーブ色を帯びる凝灰質泥岩である。
・下底境界は明瞭で、見かけの傾斜は32°である。
・上底は漸移的で不明瞭である。
113.04m
・厚さ1.5cmの二枚貝化石を含む。
119.50~119.77m
・見かけの傾斜は20°~30°の平行葉理が発達する。
○120.00~150.00m
・塊状の砂質泥岩である。
・所々に不明瞭な平行葉理が認められる。
・わずかに生痕化石を含む。
121.33~121.40m
・わずかに灰オリーブ色を帯びる。
・上下の境界は漸移的で不明瞭である。
122.48~123.58m
・所々にレンズ状の凝灰を少量含む。
124.80m
・厚さ5mmのレンズ状の灰白色を呈する凝灰質泥岩を挟む。
126.57~126.75m
・見かけの傾斜は4°~35°の平行葉理が発達する。
・下位層との境界は明瞭で見かけの傾斜は24°である。
134.31~134.42m
・オリーブ灰色の凝灰質泥岩である。
・スランプ状を呈する。
・上底は漸移的で不明瞭である。
・最下部に厚さ1cmのレンズ状の極細粒砂岩を伴う。
・下底は明瞭で、見かけの傾斜は35°である。
136.67~136.84m
・見かけの傾斜は7°~21°の不明瞭な平行葉理が認められる。
140.73m
・厚さ3~10mmのオリーブ灰色シルト岩を挟在する。
・上底境界は明瞭で、見かけの傾斜は22°である。
・下底はスランプ状を呈する。
141.90m
・厚さ1.5cmのポケット状の極細粒砂岩を挟在する。
・見かけの傾斜は8°の平行葉理が認められる。
・下底境界は明瞭で、見かけの傾斜は45°である。
148.33m
・厚さ1cmの極細粒砂岩を2枚挟在する。
・見かけの傾斜は3°である。
148.35~148.37m
・極細粒砂岩と砂質泥岩の細互層である。
・スランプ状を呈し、全体に著しく乱れる。
・上下の境界の見かけの傾斜はほぼ42°である。
148.80~149.95m
・径1~2mmの白色軽石が極少量散在する。
○150.00~180.00m
・ほぼ全体に不明瞭な平行葉理が認められる砂質泥岩である。



（注） 1．試料採取方法

C：ホーリングコア試料
P：標準貫入試験による試料
D：デニソン型サンプラーによる試料
T：固定ピストン式シンウォールサンプラーによる試料

2．コアチューブ・ビットの種類

SMC：シングルコアチューブ・メタルクラウン
DMC：ダブルコアチューブ・メタルクラウン
DDB：ダブルコアチューブ・ダイヤモンドビット
TMC：トリプルコアチューブ・メタルクラウン
TDB：トリプルコアチューブ・ダイヤモンドビット

3．原位置試験・検層実施状況

○：孔内水平載荷試験
□：間隙水圧測定
田：PS検層（板たたき方式）
田：PS検層（サスペンション方式）
S：電気検層
I：密度検層
⋮：キャリパー検層

m　ボーリング柱状図

件　　名	東海第二発電所使用済燃料貯蔵設備設置に係るボーリング調査他		主任技術者
調　査　地	茨城県那珂郡東海村大字白方1-1	孔口標高 EL +8.33m	[redacted]
調査期間	平成 7年7月7日～7年7月13日	最終孔内水位 GL- 4.72m (EL +3.61m)	コア観察者
使用試錐機	TDC-1G	掘削深度 GL- 22.00m	[redacted]

掘進月日 月	掘進月日 日	標尺 m	標高 EL m	深度 GL-m	層厚 m	地質柱状図	地質 地層名	地質 層相	色調	硬軟・風化状況	記事	岩級区分	標準貫入試験 深度 GL-m	N値 回/cm	10cm毎の打撃回数 10cm	20cm	30cm	N値(回) 10 20 30 40 50 / 最大コア長(cm) 20 40 60 80 100 / RQD(%) 20 40 60 80 100	土質・岩石試験用試料採取 深度 GL-m	採取方法	試料番号	コピアッチュの1種類	コア採取率(%) 20 40 60 80 / 掘進時間(min) 10 20 30 40	原位置試験・検層	標尺 m
			8.23	0.10	0.30		埋土		暗褐		0.00～0.10m ・駐車場道路面のアスファルトである。 0.10～0.30m ・径1～6cm大の砕石からなる。		実施せず						実施せず			試掘		実施せず	
			8.03	0.30			砂丘層 (du)	砂	黄褐		0.30～5.30m ・中粒砂からなる砂丘層である。 ・所々に細粒砂、粗粒砂の薄層を伴うが、その境界は不明瞭である ・海浜は全体に不良である。 ・所々に径1～2mmの貝殻片を混入する。 2.55m、4.35m、5.30m ・部分的に暗褐色を呈す(幅3～4cm)。														
			5.28	3.05					褐灰																
			3.03	5.30	5.00																				
7	10		0.93	7.40	2.10		久慈川堆積層 (Ag2)	砂			5.30～7.40m ・中砂を主体とする。 5.42m付近 ・粗粒砂の薄層を挟む。 7.20～7.40m ・細粒砂の含有量が多い。 7.40～9.45m ・礫混じり中～粗粒砂からなる。 8.25～8.35m ・粗粒砂からなる。 ・礫種は砂岩、粘板岩、チャート岩等である。 9.45～10.25m ・礫混じり中粒砂である。 10.25～11.60m ・礫混じり粗粒砂である。 11.15～11.20m ・径2～4cmの礫を多量に含む。															
			-3.27	11.60	4.20			礫混り砂	褐～暗褐														φ76 m/m DMC		
7	11		-5.87	14.20	2.60		埋没段丘堆積層 (Dc3)	砂質シルト	暗灰		11.60～15.80m ・塊状・無層理な砂質シルト～砂混じりシルトである。 ・凝灰質シルトの薄層を伴う。 12.45m付近 ・炭質物を多く混入する。 13.45～13.50m ・砂層の薄層である。やや軟質である。 14.75m付近 ・炭質物を混入する。														
			-6.17	14.50	0.30			凝灰質シルト	灰																
			-7.47	15.80	1.30			砂混りシルト	暗灰																
7	12		-13.67	22.00	6.20		久米層 (Kc)	砂質泥岩	暗緑灰	硬新鮮	15.80～22.00m ・塊状・無層理な砂質泥岩である ・所々に貝化石片を混入する。 15.80m ・上位層との境界面に径5～10mmの礫を含む。礫種は粘板岩を主体としている。 16.20m付近 ・凝灰質泥岩の薄層(5～10mm)挟在する。 19.52m、19.72m ・貝化石片(5mm大)を含む。 21.40m ・白色軽石を少量含む。	Ⓐ						(77) 100 (62) 100 (52) 100 (57) 100 (50) 100 (55) 100							
7	13																								

(注)　1. 試料採取方法

C：ボーリングコア試料
P：標準貫入試験による試料
D：デニソン型サンプラーによる試料
T：固定ピストン式シンウォールサンプラーによる試料

2. コアチューブ・ビットの種類

SMC：シングルコアチューブ・メタルクラウン
DMC：ダブルコアチューブ・メタルクラウン
DDB：ダブルコアチューブ・ダイヤモンドビット
TMC：トリプルコアチューブ・メタルクラウン
TDB：トリプルコアチューブ・ダイヤモンドビット

3. 原位置試験・検層実施状況

○：孔内水平載荷試験
□：間隙水圧測定
目：PS検層(板たたき方式)
目：PS検層(サスペンション方式)
⚡：電気検層
｜：密度検層
⁞：キャリパー検層

n　ボーリング柱状図

件　　名　東海第二発電所使用済燃料貯蔵設備設置に係るボーリング調査他　　主任技術者 [redacted]

調 査 地　茨城県那珂郡東海村大字白方1-1

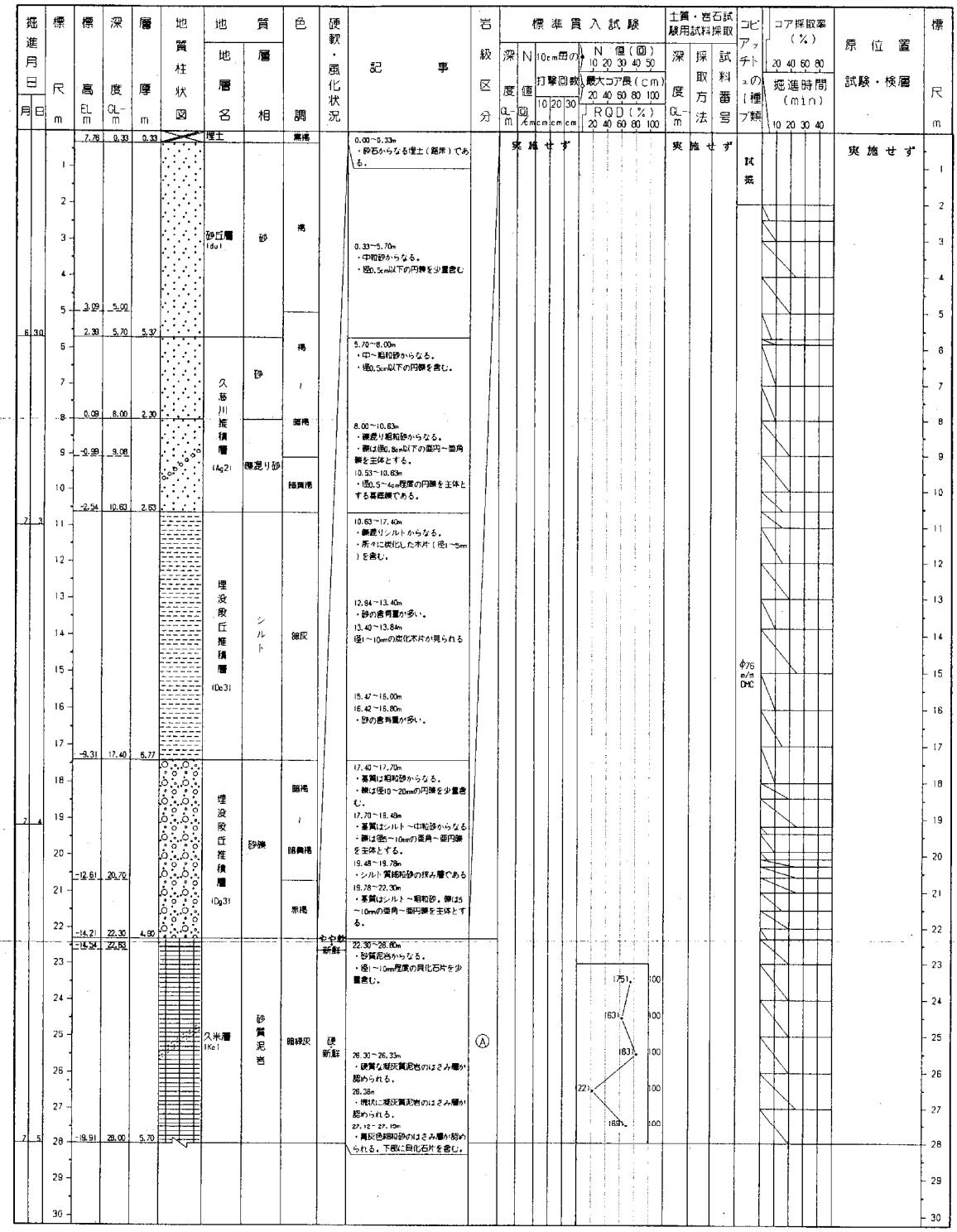
孔 口 標 高　EL　+8.09 m

調査期間　平成 7年6月26日～7年7月6日

最終孔内水位　GL-　2.80 m　(EL　+5.29 m)　　コア観察者 [redacted]

使用試錐機　YBM05D

掘 削 深 度　GL-　28.00 m



(注)　1．試料採取方法

C：ボーリングコア試料
P：標準貫入試験による試料
D：デニソン型サンプラーによる試料
T：固定ピストン式シンウォールサンプラーによる試料

2．コアチューブ・ビットの種類

SMC：シングルコアチューブ・メタルクラウン
DMC：ダブルコアチューブ・メタルクラウン
DDB：ダブルコアチューブ・ダイヤモンドビット
TMC：トリプルコアチューブ・メタルクラウン
TDB：トリプルコアチューブ・ダイヤモンドビット

3．原位置試験・検層実施状況

○：孔内水平載荷試験
□：間隙水圧測定
日：PS検層(板たたき方式)
日：PS検層(サスペンション方式)
S：電気検層
｜：密度検層
｜：キャリパー検層

10.平成17年調査孔(a-2～6孔、b-2孔)

ボーリング柱状図

調査名	東海発電所　放射性物質濃度の極めて低い廃棄物の敷地内埋設施設に係る予備調査
事業・工事名	
ボーリングNo.	
シートNo.	a-2

ボーリング名	a-2	調査位置	日本原子力研究所　東海研究所敷地内			北緯	゛ ゛ ゛
発注機関	[redacted]	調査期間	平成16年 8月20日～平成16年 8月25日			東経	゛ ゛ ゛
調査業者名	[redacted]	主任技師	[redacted]	現場代理人	[redacted]	コア鑑定者	[redacted]
ボーリング責任者	[redacted]						
孔口標高	TP 22.61m	角度	180° 上 下 0° 90°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°
総掘進長	21.50m	使用機種	試錐機	東邦 D2J-58	ハンマー落下用具	自動落下	
			エンジン	ヤンマー NFD-15	ポンプ	東邦 BG-3	

標尺 m	標高 m	層厚 m	深度 m	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	粒度試験による土質区分	孔内水位／測定月日
1					砂	淡褐	中ぐらい		0.00～0.07m ・表土である。 ・草根などを多く含む。 0.07～5.53m ・細粒砂である。 ・淘汰は良好である。 ・下部へ行くにつれ粒度が粗くなる。	(Sm)	8/24 1.90
2											
3						淡褐灰					8/25 3.70
4											8/21 4.50
5	17.06	5.53	5.53			淡灰					
6	16.11	0.97	6.50		ローム	暗褐～褐		硬い	5.53～5.95m ・腐植土である。 5.95～6.50m ・ロームである。 ・所々にφ1mm程度の黄橙色軽石粒が見られる。	(Im1)	8/22 6.15 8/26 6.70
7					砂礫	淡褐～淡褐灰			6.50～10.73m ・粘土混り砂礫である。 ・礫はφ2～10mm主体（最大φ40mm）で、砂岩・泥岩・チャートの亜角～亜円礫からなる。 ・基質は粘土～細粒砂からなる。 ・10.70～10.73mは褐色化している。	(Gp1)	
8											
9											
10	11.88	4.23	10.73								
11	10.61	0.97	11.70		シルト	灰～灰白		硬い	10.73～11.70m ・シルトである。 ・10.73～10.75mは橙褐色化している。 ・下端付近は砂分を含む。	(Dc1)	
12					砂礫	淡褐灰			11.70～14.05m ・砂礫である。 ・礫はφ2～10mm主体（最大φ50mm）で、砂岩・泥岩・チャート ・花崗岩の亜角～亜円礫からなり、所々にクサリ礫を含む。 ・基質は細～細粒砂からなる。	(Dg1)	
13											
14	8.56	2.35	14.05								
15					砂	淡褐～淡褐灰	中ぐらい		14.05～15.96m ・細～中粒砂である。 ・淘汰は良好である。 ・14.05～14.10mは褐色粘土である。 ・14.76～14.78mと14.92～15.00mはシルトと極細粒砂の薄互層であり、上端境界付近は褐色化している。 ・14.78～14.92mは極細粒砂である。		
16	6.65	1.91	15.96			橙褐					
17					粘土	緑灰			15.96～19.51m ・粘土である。 ・所々極細粒砂やシルトが見られる。 ・所々炭化木片が見られる。	(Dc1)	
18											
19	3.10	3.55	19.51								
20					砂質泥岩	黄緑灰～灰			19.51～21.50m ・砂質泥岩である。 ・全体に砂分に富み、やや軟質である。 ・上部1m程度はやや風化しており、下部1m程度は比較的新鮮である。 ・四系との境界はほぼ水平である。	(Ks)	
21	1.11	1.99	21.50								
22											
23											

標準貫入試験

深度 m	10cm毎の打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量	N値
2.15～2.45	3	3	4	10/30	10
3.15～3.45	6	7	8	21/30	21
4.15～4.45	7	8	9	24/30	24
5.15～5.45	5	4	3	12/30	12
6.15～6.45	3	4	5	12/30	12
7.15～7.45	10	12	10	32/30	32
8.15～8.45	11	13	15	39/30	39
9.15～9.45	12	14	18	44/30	44
10.15～10.45	11	9	7	27/30	27
11.15～11.45	2	3	5	10/30	10
12.15～12.30	17	19	14/3	50/23	50
13.15～13.30	22	28		50/30	50
14.15～14.45	3	5	6	16/30	16
15.15～15.45	2	3	5	10/30	10
16.15～16.45	4	5	6	15/30	15
17.15～17.45	3	4	5	12/30	12
18.15～18.45	3	3	5	11/30	11
19.15～19.45	4	5	6	15/30	15
20.15～20.45	6	7	8	21/30	21

原位置試験

深度 m	試験名及び結果

試料採取

深度 m	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
4.15～4.45	a-2-1	Ⓟ	含水粒度密度	8/20
8.15～9.00	a-2-2	⊙	含水粒度密度	8/21
18.15～18.45	a-2-3	Ⓟ	含水粒度密度	8/23
				8/24
				8/25

備考

注1）試料採取方法の記号
T：シンウォールサンプラー　F：フォイルサンプラー
P：標準貫入試験用サンプラー　O：オーガー
D：デニソン型サンプラー

注2）原位置試験方法の記号

ボーリング柱状図

調査名	東海発電所　放射性物質濃度の極めて低い廃棄物の敷地内埋設施設に係る予備調査
事業・工事名	
ボーリングNo.	
シートNo.	a-3

ボーリング名	a-3	調査位置	日本原子力発電株式会社　東海発電所敷地内	北緯	° ′ ″
発注機関	[redacted]	調査期間	平成16年 8月20日～平成16年 9月 1日	東経	° ′ ″
調査業者名	[redacted]	主任技師	[redacted]	現場代理人	[redacted]
コア鑑定者	[redacted]	ボーリング責任者	[redacted]		
孔口標高	TP 15.65m	角度	上下 0° 90°	方向	北 0° 90° 西 180° 東
地盤勾配	水平 0° 船底 90°	使用機種	試錐機	東邦 DI-C	
ハンマー落下用具	自動落下		エンジン	ヤンマー NFD-13	
ポンプ	東邦 BG-3C				
総掘進長	31.50m				

標尺 m	標高 m	層厚 m	深度 m	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	粒度試験による土質区分	孔内水位／測定月日
1									0.00～11.10m ・細～中粒砂である。 ・海法は良好である。 ・所々に粗粒砂が見られる。 ・10.95～11.10mは褐色化している。		
2											
3											
4											
5											
6											
7											
8											
9											
10											
11	4.55	11.10	11.10		砂	浅褐 I 浅褐灰	密な				
12	3.80	1.25	12.35		森林土	褐褐 黒灰			11.10～12.35m ・砂混り腐植土である。 ・11.10～11.60mにφ1mm程度の黄褐色結石粒が存在している。 ・11.60～12.35mは黒灰色を呈し、所々に腐った木片が見られる。		
13	2.15	1.15	13.50		標混り砂	浅灰	中ぐらい		12.35～13.50m ・標混り中～粗粒砂である。 ・標は主にφ2～5mmの砂岩・泥岩の亜角～亜円標からなる。 ・所々に腐った木片が見られる。		
14											
15					シルト混り砂	I 灰	緩い		13.50～16.84m ・シルト混り細粒砂である。 ・海法は良好である。 ・所々に腐った木片が見られる。 ・所々に中粒砂がレンズ状に含れる。 ・16.50～16.84mはシルト分に富み、炭質物を含む。		
16	-1.19	3.34	16.84								
17					標混り砂	浅褐灰	中ぐらい		16.84～18.69m ・標混り細～粗粒砂である。 ・標は主にφ2～10mmの砂岩・泥岩・チャートの亜角～亜円標からなる。 ・17.93～18.69mはシルト分を含む。		
18	-3.04	1.85	18.69								
19					砂	浅灰 I 灰	中ぐらい		18.69～19.88m ・極細粒砂である。 ・海法は良好である。 ・19.60mと19.83mには厚さ10～30mm程度の炭化木片が見られる。		
20	-4.23	1.19	19.88		シルト混り粘土				19.88～21.45m ・シルト混り粘土である。 ・所々に炭質物を含む。		
21	-5.80	1.57	21.45								
22					シルト混り砂	浅褐 浅灰	中ぐらい		21.45～24.15m ・シルト混り細粒砂である。 ・海法は良好である。 ・下部に行くにつれ、シルトの薄層状やレンズ状が見られる。		
23											
24	-8.50	2.70	24.15								
25					砂礫	浅黄灰 I 浅褐灰			24.15～29.78m ・砂礫である。 ・標はφ2～30mm主体（最大φ100mm）で主に砂岩・泥岩・チャート・花崗岩の亜角～円標からなる。 ・基質は主に中～粗粒砂からなり、一部粘土やシルトも見られる。 ・29.68～29.78mは褐色化している。		
26											
27											
28											
29											
30	-14.13	5.63	29.78		砂質泥岩	浅褐灰			29.78～31.50m ・砂質泥岩である。 ・硬質で膨脹である。 ・29.78～29.81mはやや軟質である。 ・両系との境界はほぼ水平であり、厚さ5mm程度にわたり褐色化している。		
31	-15.86	1.72	31.50								
32											
33											

標準貫入試験

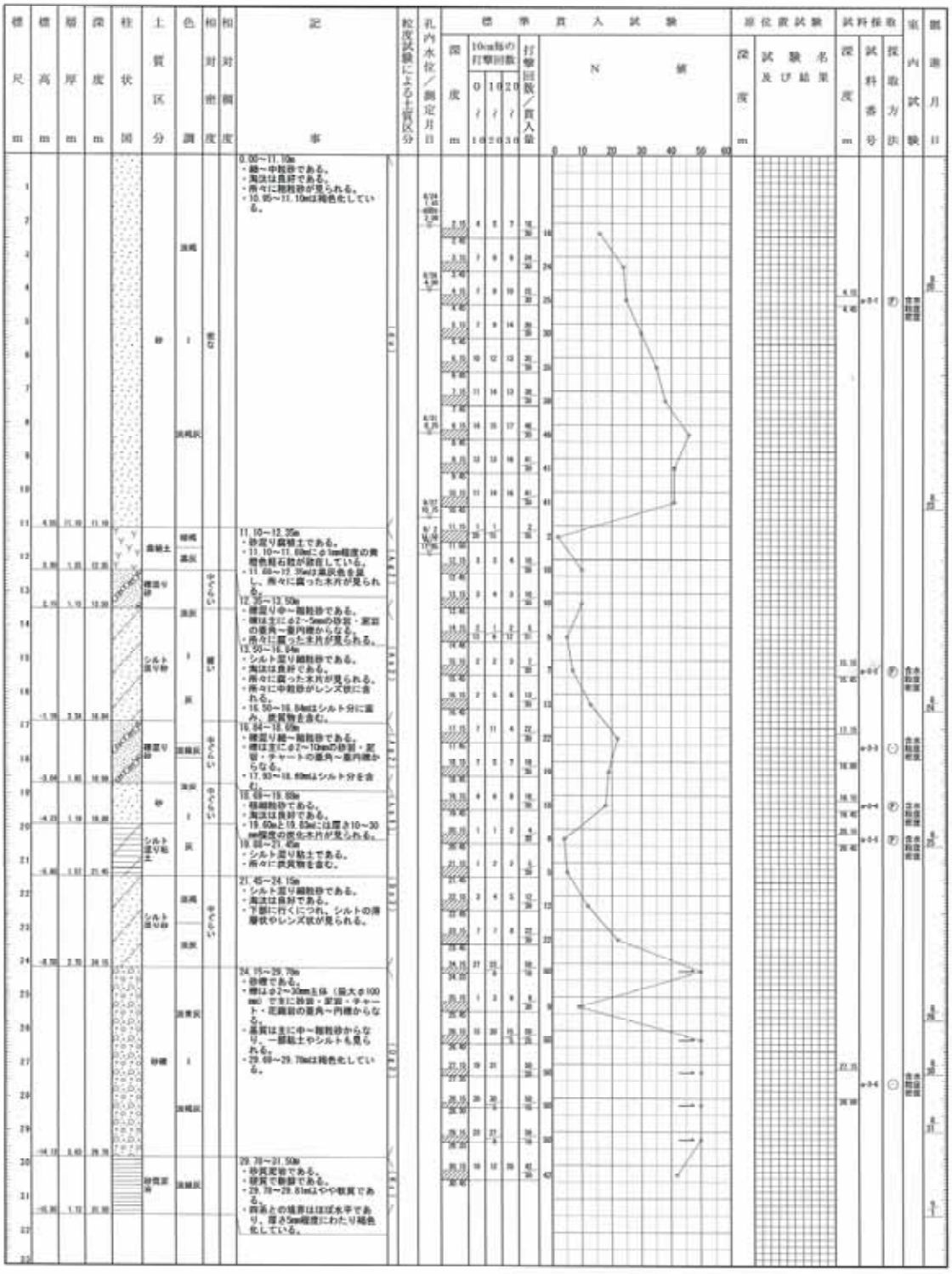
深度 m	10cm毎の打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量	N値
2.15	4	5	7	16/30	16
3.15	7	8	9	24/30	24
4.15	7	9	10	25/30	25
5.15	7	9	14	30/30	30
6.15	10	12	13	35/30	35
7.15	11	14	13	38/30	38
8.15	14	15	17	46/30	46
9.15	13	13	16	41/30	41
10.15	11	14	16	41/30	41
11.15	1/20	1/15		2/30	2
12.15	3	3	4	10/30	10
13.15	3	4	3	10/30	10
14.15	2/15	1/4	2/12	5/31	5
15.15	2	2	3	7/30	7
16.15	2	5	6	13/30	13
17.15	7	11	4	22/30	22
18.15	7	5	7	19/30	19
19.15	4	6	8	18/30	18
20.15	1	1	2	4/30	4
21.15	1	2	2	5/30	5
22.15	3	4	5	12/30	12
23.15	7	7	8	22/30	22
24.15	27	23/4		50/10	50
25.15	1	2	4	8/30	8
26.15	15	20	15/5	50/25	50
27.15	19	21		50/25	50
28.15	20	30/4		50/10	50
29.15	23	27/4		50/10	50
30.15	18	12	20	42/30	42

原位置試験

深度 m	試験名及び結果

試料採取

深度 m	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
4.15	a-0-1	(F)	含水粒度密度	8/20
4.40				
15.15	a-0-2	(F)	含水粒度密度	8/24
15.40				
17.15	a-0-3	(-)	含水粒度密度	
18.00				
18.15	a-0-4	(F)	含水粒度密度	8/25
19.40				
20.15	a-0-5	(F)	含水粒度密度	
20.40				
22.15	a-0-6	(-)	含水粒度密度	8/26
23.00				8/30
				8/31
				9/1



備考

注1）試料採取方法の記号
T：シンウォールサンプラー　F：フォイルサンプラー
P：標準貫入試験用サンプラー　O：オーガー
D：デニソン型サンプラー

注2）原位置試験方法の記号

ボーリング柱状図

調査名　東海発電所　放射性物質濃度の極めて低い廃棄物の敷地内埋設施設に係る予備調査

事業・工事名

ボーリングNo.

シートNo.　a-4

ボーリング名	a-4	調査位置	日本原子力発電株式会社　東海発電所敷地内	北緯	″　″　″
発注機関	[redacted]	調査期間	平成16年 9月 7日～平成16年 9月13日	東経	″　″　″
調査業者名	[redacted]	主任技師	[redacted]	調査代理人 [redacted]	口アー確定者 [redacted]
				ボーリング責任者	[redacted]
孔口標高	TP 9.64m	角度	180° 上 下 0°	方向	北 0° 90° 西 180° 南
総掘進長	31.50m	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°	使用機種	試錐機 東邦 DI-C
					エンジン ヤンマー NFD-13
					ハンマー落下用具 自動落下
					ポンプ 東邦 BG-3C

標尺 m	標高 m	層厚 m	深度 m	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	粒度試験による土質区分	孔内水位／測定月日
1					砂	褐橙灰	中ぐらい		0.00～7.93m ・細～中粒砂である。 ・海法は良好である。		
2											
3											
4											
5											
6											
7											
8	1.71	7.93	7.93								
9	0.94	0.82	8.75		腐植土	黒灰			7.93～8.75m ・砂混り腐植土である。 ・所々に腐った木片が見られる。 ・下部に行くにつれ、砂分の粒径が粗くなる。		
10	0.14	0.75	9.50		砂	暗灰	密な		8.75～9.50m ・細粒砂である。 ・海法はやや良好である。 ・所々に腐った木片が見られる。		
11					シルト混り砂	暗青灰	強い		9.50～13.00m ・シルト混り細粒砂である。 ・所々に腐った木片が見られる。 ・11.59～12.90mは砂分に富む。		
12						青灰					
13	-3.50	3.50	13.00								
14					シルト混り粘土				13.00～16.50m ・シルト混り粘土である。 ・全体に極小な貝殻片が見られる。 ・所々に炭質物や未炭化木片が見られる。 ・所々に砂分を含む。		
15											
16											
17	-4.50	3.50	16.50								
18	-3.50	1.00	17.50		砂混りシルト			中位	16.50～17.50m ・砂混りシルトである。 ・極小な貝殻片が比較的多く見られる。		
19	-4.50	3.50	18.50		砂		中ぐらい		17.50～18.40m ・細粒砂である。 ・海法は良好である。 ・所々シルト分を不規則に含む。 ・17.85mと17.97m付近に炭化物が見られる。		
20					シルト	暗青灰		非常に軟らかい	18.40～23.50m ・シルトである。 ・所々に極小な貝殻片や炭質物が見られる。 ・所々に粘土分や砂分を含む。 ・18.80m付近には細粒砂がレンズ状に見られる。		
21											
22											
23	-13.50	5.00	23.50								
24					砂質シルト			軟らかい	23.50～25.50m ・砂質シルトである。 ・所々に極小な貝殻片や未炭化木片が見られる。 ・24.50～24.84mは砂分に富む。		
25	-15.50	2.00	25.50								
26					シルト混り粘土				25.50～29.20m ・シルト混り粘土である。 ・全体に極小な貝殻片が点在し、28.50～29.00mには非常に多く見られ、カキ殻片も見られる。 ・所々シルト分に富む。 ・26.83mに傾斜5°程度の凝灰質細粒砂の薄層が見られる。 ・27.84～27.93m付近には細粒砂がレンズ状に見られる。		
27											
28											
29	-19.50	3.70	29.20								
30	-19.61	0.41	29.61		砂礫				29.20～29.61m ・砂礫である。 ・礫はφ2～15mm主体（最大φ100mm）で、砂岩・泥岩の亜角～亜円礫からなる。 ・基質は粘土～細粒砂からなる。		
31	-21.50	1.89	31.50		砂質泥岩	暗灰			29.61～31.50m ・砂質泥岩である。 ・硬質で新鮮である。 ・四系との境界は不明瞭である。 ・所々に極小な粗石や炭質物または生痕化石が見られる。 ・31.31～31.50mは細粒砂質であり、上位との境界はほぼ水平である。		
32											
33											
34											
35											

標準貫入試験

深度 m	10cm毎の打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量	N値
2.15	1	2	3	5/30	
2.40					
3.15	3	3	4	6/30	
3.40					
4.15	4	5	6	15/30	
4.40					
5.15	4	6	9	19/30	
5.40					
6.15	7	8	10	25/30	
6.40					
7.15	9	9	11	29/30	
7.40					
8.15	1	1	1	5/30	
8.40					
9.15	9	10	13	32/30	
9.40					
10.15	4	4	3	19/30	
10.40					
11.15	2	2	2	6/30	
11.40					
12.15	1	2	2	5/30	
12.40					
13.15	1/35			1/30	
13.40					
14.15	5/15	1/20		1/30	
14.40					
15.15	5/5	1/27		1/30	
15.40					
16.15	1/35			1/30	
16.40					
17.15	2	2	2	6/30	
17.40					
18.15	2	3	5	19/30	
18.40					
19.15	1/35			1/30	
19.40					
20.15	5/15	1/26		1/30	
20.40					
21.15	5/4	1/24		1/30	
21.40					
22.15	5/5	1/25		1/30	
22.40					
23.15	5/5	1/25		1/30	
23.40					
24.15	1/15	1/16		2/30	
24.40					
25.15	1	1/20		2/30	
25.40					
26.15	1/14	1/16		2/30	
26.40					
27.15	1/15	1/16		2/30	
27.40					
28.15	1	1	1	6/30	
28.40					
29.15	7	10	12	29/30	
29.40					
30.15	25	25		50/30	
30.40		5		50/30	

原位置試験

深度 m	試験名及び結果

試料採取

深度 m	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
3.15 / 3.40	a-1	(F)	含水粒度密度	9/7
10.15 / 10.40	a-2	(F)	含水粒度密度	9/8
20.15 / 20.40	a-3	(F)	含水粒度密度	9/9
25.15 / 25.40	a-4	(F)	含水粒度密度	9/10
				9/11
				9/12

備考

注1）試料採取方法の記号
T：シンウォールサンプラー　F：フォイルサンプラー
P：標準貫入試験用サンプラー　O：オーガー
D：デニソン型サンプラー

注2）原位置試験方法の記号

ボーリング柱状図

調査名	東海発電所 放射性物質濃度の極めて低い廃棄物の敷地内埋設施設に係る予備調査	ボーリングNo.	
事業・工事名		シートNo.	a-6

ボーリング名	a-6	調査位置	日本原子力発電株式会社 東海発電所敷地内			北緯	° ′ ″
発注機関	[redacted]	調査期間	平成16年 9月11日～平成16年 9月16日			東経	° ′ ″
調査業者名	[redacted]	主任技師	[redacted]	現場代理人	[redacted]	コア鑑定者	[redacted]
ボーリング責任者	[redacted]						
孔口標高	TP 9.46m	角度	180° 上 下 0° 90°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°
総掘進長	22.00m	使用機種	試錐機	東邦 D2J-58	ハンマー落下用具	自動落下	
			エンジン	ヤンマー NFD-15	ポンプ	東邦 BG-3	

標尺 m	標高 m	層厚 m	深度 m	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	粒度試験による土質区分	孔内水位／測定月日
1					砂	淡褐灰	中ぐらい		0.00～0.10m ・表土である。 ・草根など多く含む。 0.10～9.80m ・細～中粒砂である。 ・淘汰は良好である。 ・9.00～9.80mはやや腐植質であり、稀に炭化物を含む。	(Ac)	9/20 10 / 9/16 1.80
2											
3											
4											
5						I					9/16 5.30
6											
7						淡灰					
8											
9	-0.34	9.80	9.80								
10	-1.18	0.85	10.65		腐植土	黒褐			9.80～10.65m ・砂混り腐植土である。 ・所々に腐った木片が見られる。	(Ag2)	
11	-2.54	1.35	12.00		砂	褐灰	中ぐらい		10.65～11.72m ・腐植質細～細粒砂である。 ・所々に腐った木片が見られる。 ・下部にはφ2～3mm程度の砂岩・泥岩の亜円礫を少量含む。	(Ag1)	
12	-3.88	1.05	13.05		シルト混り砂		緩い		11.72～11.84m ・腐植質粘土である。 11.84～11.95m ・腐植質シルトである。	(Ac2)	
13	-5.18	1.40	14.65		砂質シルト	暗緑灰		非常に軟らかい	11.95～12.00m ・礫混り細粒砂である。 ・礫はφ2～3mm程度の砂岩・泥岩の亜円～円礫からなるが、含有量は極めて少ない。	(Ac1)	
14	-6.54	1.35	16.00		シルト混り砂		緩い		12.00～13.05m ・シルト混り細粒砂である。 ・所々に微小な貝殻片や炭質物が見られる。 ・12.90～12.98mはシルト分に乏しい。	(Ag1)	
15	-8.08	2.54	18.54		砂	I	密な		13.05～14.65m ・砂質シルトである。 ・微小な貝殻片が多く見られる。 ・14.50～14.65mはシルト分に富む。	(Ag1)	
16	-8.44	0.36	18.90		砂質シルト				14.65～16.00m ・シルト混り細粒砂である。 ・微小な貝殻片が少量見られる。	(Ag1)	
17					シルト	暗青灰		軟らかい	16.00～18.54m ・細粒砂である。 ・淘汰は良好である。 ・所々にほぼ水平な葉理が見られる。 ・16.69m付近に、やや硬質な凝灰質泥岩の偽礫が見られる。	(Ag1)	
18	-12.04	2.60	21.50						18.54～18.90m ・砂質シルトである。		
19	-12.54	0.50	22.00		砂質シルト				18.90～21.50m ・シルトである。 ・稀に微小な貝殻片が見られる。 ・19.73mと20.59mにφ30mm大の貝殻片が見られる。 21.50～22.00m ・砂質シルトである。 ・所々に微小な貝殻片を含む。		
20											
21											
22											
23											
24											
25											
26											
27											

標準貫入試験

深度 m	10cm毎の打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量	N値
2.15 / 2.45	3	2	3	8/30	6
3.15 / 3.45	3	3	4	10/30	10
4.15 / 4.45	3	4	4	11/30	11
5.15 / 5.45	3	3	4	10/30	10
6.15 / 6.45	6	7	8	21/30	21
7.15 / 7.45	6	7	9	22/30	22
8.15 / 8.45	3	3	4	10/30	10
9.15 / 9.45	6	6	7	19/30	19
10.15 / 10.45	2	2	3	7/30	7
11.15 / 11.45	4	5	6	15/30	15
12.15 / 12.45	2	2	3	7/30	7
13.15 / 13.45	0/6	1/12	1	2/21	2
14.15 / 14.45	0/8	1/23		1/31	1
15.15 / 15.45	2	2	2	6/30	6
16.15 / 16.45	8	11	13	32/30	32
17.15 / 17.45	7	9	11	27/30	27
18.15 / 18.45	15	12	7	32/30	32
19.15 / 19.45	0/8	1/12	1/11	2/31	2
20.15 / 20.45	0/4	1/15	1/11	2/32	2
21.15 / 21.45	1	1	1	2/30	2

原位置試験

深度 m	試験名及び結果

試料採取

深度 m	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
4.15 / 4.45	a-6-1	(P)	含水粒度密度	9/11
15.15 / 15.45	a-6-2	(P)	含水粒度密度	9/15
19.15 / 19.45	a-6-3	(P)	含水粒度密度	9/16

備考

注1）試料採取方法の記号
T：シンウォールサンプラー　F：フォイルサンプラー
P：標準貫入試験用サンプラー　O：オーガー
D：デニソン型サンプラー

注2）原位置試験方法の記号

ボーリング柱状図

調査名 高放射性、比較的放射性物質濃度の極めて低い廃棄物の敷地内埋設施設に係る地質調査

事業・工事名

ボーリングNo.

シートNo. 1/2

ボーリング名	b-2	調査位置	日本原子力研究所 東海研究所敷地内	北緯	° ′ ″
発注機関	[redacted]	調査期間	平成16年 8月30日～平成16年 9月 6日	東経	° ′ ″
調査業者名	[redacted]	主任技師	[redacted]	現代理人	[redacted] コア鑑定者 [redacted] ボーリング責任者 [redacted]
孔口標高	TP 15.57m	角度	90° 1:0 0°	方向	E N S W 180°	地盤勾配	北 東 南 西	使用機種	試錐機	東邦 D2J-56	ハンマー落下用具	自動落下
総掘進長	31.50m								エンジン	ヤンマー NFD-15	ポンプ	東邦 BG-3

標尺 m	標高 m	層厚 m	深度 m	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	粒度試験による土質区分	孔内水位／測定月日	標準貫入試験 深度 m	10cm毎の打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量	N値 0 10 20 30 40 50	原位置試験 深度 m	試験名及び結果	試料採取 深度 m	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
1									0.00～3.60m ・灰～中粒砂である。 ・海水は含水である。 ・所々褐根質シルトを厚さ10～70mmで挟み、一部砂分を含む。 ・3.77～6.84mの褐根質シルトの上・下試験面は褐色汚染している。															
2																								
3																								
4																								
5																								
6																								
7																								
8																								
9																								
10	-5.93	5.93	5.93																					
11	-6.43	0.50	11.36		腐植土	黒褐			6.55～10.35m ・砂質な腐植土である。 ・所々に未分解木片が見られる。															
12	-7.03	0.60	11.96		礫混り砂	褐灰			10.35～11.10m ・礫混り褐粗砂である。 ・礫はϕ1～5mm主体（最大ϕ10mm）で、砂岩・泥岩・チャートの亜角～亜円礫からなる。															
13	-7.53	0.50	12.46		腐植土	褐灰			11.10～11.50m ・礫混り腐植土である。 ・礫は主にϕ1～10mmの砂岩・泥岩・チャートの亜角～亜円礫からなる。															
14	-7.73	0.20	12.66		砂	灰褐			11.50～12.66m ・褐灰色を呈する。 ・礫径ϕ2mm以下の砂岩・泥岩・チャートの亜角～亜円礫からなる。															
15	-8.43	0.70	13.36		礫混り粘土	灰			12.66～13.36m ・褐粘砂である。 ・シルト分を若干含む。 ・礫はϕ5mm以下の砂岩・泥岩の亜角～亜円礫が見られる。 ・12.34m以深は中粘砂主体である。															
16	-8.93	0.50	13.86		粘土	灰			13.36～14.85m ・砂混り粘土である。 ・所々に未分解木片が見られる。 ・13.60m付近に凝灰質細粒砂の薄層が見られる。 ・13.95m以深は砂分に富む。 ・下試験片付近は褐色をしている。															
17																								
18	-10.43	1.50	15.36		礫混り砂	灰			14.85～18.35m ・礫混り中～粗粒砂である。 ・礫は主にϕ1～3mm程度の砂岩・泥岩の亜角～亜円礫からなるが、礫は少ない。															
19	-10.73	0.30	15.66		砂質シルト	灰		硬い	・海水は不良である。 ・所々粘土～シルト分を含む。 ・14.98～16.95mは褐色をしている。															
20	-11.93	1.20	16.86						18.35～20.43m ・砂質シルトである。 ・18.35～18.90mは砂分に富む。															
21																								
22					礫混り砂	灰			20.43～24.34m ・礫混り粗粒砂である。 ・礫は主にϕ1～5mm程度の砂岩・泥岩・チャートの亜角～亜円礫からなり、稀に花崗岩礫を含む。 ・海水は不良である。 ・20.60～20.70mと24.00～24.84mはシルト～粗礫粒からなり、稀に植物片・以下の層理が見															
23																								
24	-16.81	4.88	21.84		砂礫	灰			24.84～25.00m ・砂礫である。 ・礫はϕ2～10mm主体（最大ϕ60mm）で主に砂岩・泥岩・チャートの亜角～亜円礫からなる。 ・基質は粗粒砂である。															
25	-16.91	0.10	21.94		礫混り砂	灰			25.00～27.00m ・礫混り粗粒砂である。 ・礫は主にϕ1～2mmの砂岩・泥岩の亜円礫からなるが、礫は少ない。															
26	-17.11	0.20	22.14		砂礫	灰			27.00～29.00m ・砂礫である。 ・礫はϕ2～10mm主体（最大ϕ50mm）で主に砂岩・泥岩・チャートの亜角～亜円礫からなり、稀にクサリ礫も見られる。 ・基質は主に粗粒砂からなり、稀にシルトを含む。															
27	-17.31	0.20	22.34		礫混り砂	灰			29.00～31.50m ・礫混り粗粒砂である。 ・礫は主にϕ1～3mmの砂岩・泥岩・チャートの亜円～亜円礫からなり、上部は礫が少ない。															
28	-19.81	2.50	24.84		砂質混り	灰			30.00～31.50m ・砂質泥岩である。 ・硬質で軟質である。 ・所々にϕ5mm以下の粘石が見られ、一部変質している。 ・31.01mにリング状の生痕化石が見られる。															
29	-19.91	0.10	24.94																					
30	-21.41	1.50	26.44																					
31	-23.41	2.00	28.44																					
32	-24.91	1.50	29.94																					
33	-25.91	1.00	30.94																					
34	-26.91	1.00	31.94																					

備考

注1）試料採取方法の記号
T：シンウォールサンプラー　F：フォイルサンプラー
P：標準貫入試験用サンプラー　O：オーガー
D：デニソン型サンプラー

注2）原位置試験方法の記号

11.平成19年調査孔(B～H孔、S孔)

ボーリング柱状図

調査名　東海発電所 放射性物質濃度の極めて低い廃棄物の敷地内埋設施設に係る地質・地下水調査

ボーリングNo. B-1-0

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	B-1-0	調査位置	茨城県那珂郡東海村白方1番の1東海発電所構内北地区			北緯	
発注機関	日本原子力発電株式会社			調査期間	平成17年10月10日～17年10月18日	東経	
調査業者名	[redacted]	主任技師	[redacted]	現場代理人	[redacted]	コア鑑定者	[redacted]	ボーリング責任者	[redacted]
孔口標高	TP +5.98m	角度	上180° 90° 下0° 0°	方向	北0° 東90° 南180° 西270°	地盤勾配	水平0° 約西90°	使用機種	
総掘進長	25.00m					試錐機	利根 TS-100		
						エンジン	ヤンマー NFD-9	ポンプ	利根 NP-40

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
				細砂	褐灰						・深度0.00～0.04m 表土 草根を含む ・深度0.04～6.06m 細砂 中砂を少量含むが、比較的均質。ラミナ見られない。含水量少ない。全体に褐色を呈する
	-0.08	6.06									
	-0.95	6.93			灰						・深度6.06～6.93m 中砂を少量含む 灰色を呈する細砂。比較的均質。ラミナ見られない。含水量少ない。
	-1.39	7.37	Ac2	腐植物粘土	黒褐						・深度6.93～7.37m 炭化した腐植物を多量に含む粘土。含水量多い。
			Ac2	砂混り粘土	暗灰						・深度7.37～9.22m 厚さ5～10mmの炭化した腐植物のシーム・小片を少量含む粘土。水平方向に弱いラミナ見られる。含水量多く、粘性強い。 深度8.30～8.35m, 8.58～8.73m シルト混り細砂の薄層を挟む。
	-3.24	9.22									
	-3.38	9.36	Ag2	礫混り細砂	灰						・深度9.22～9.36m 径2～4mmの円礫混り細砂。
	-4.33	10.31	As1	シルト混り細砂							・深度9.36～10.31m 均質なシルト混り細砂。ラミナ見られない。含水量多い。
			Ac1	粘土	暗灰						・深度10.31～13.02m 貝殻片の小片が散在する粘土。炭化した腐植物の小片散在。均質であるが、一部水平方向に弱いラミナ見られる。含水量多く、粘性強い。
	-7.04	13.02									
			As1	シルト混り細砂	暗灰						・深度13.02～15.37m 全体にシルトを含む均質な細砂。ラミナ見られない。貝殻片の小片、炭化物の小片散在。含水量多く、締まり緩い。 深度13.12～13.17m 貝殻片を含む。
	-9.39	15.37									
			Ac1	粘土	暗灰						・深度15.37～18.00m 貝殻片の小片が散在する粘土。炭化した腐植物の小片散在。均質であるが、一部水平方向に弱いラミナ見られる。含水量多く、粘性強い。
	-12.02	18.00									
			As1	シルト混り細砂	暗灰						・深度18.00～20.55m 全体にシルトを含む均質な細砂。ラミナ見られない。含水量多く、締まり緩い。炭化した腐植物の小片、貝殻片の小片が散在。
	-14.57	20.55									
			As1	細砂	暗灰						・深度20.55～24.14m 均質な細砂。ラミナ見られない。貝殻片の小片、炭化した腐植物の小片が点在。含水量多く、締まり緩い。
	-18.16	24.14									
	-19.02	25.00	Ac1	シルト	明灰						・深度24.14～25.00m 水平方向に弱いラミナ見られるシルト。貝殻片の小片散在。

コア採取率 －×－ (%) 最大コア長 －●－ cm RQD [%] 0 50 100

岩級区分

孔内水位m／測定月日: 10/13 0.99; 10/12 2.60; 10/14 3.15; 10/17 3.60; 10/18 4.10

（ルジオン、標準貫入）試験（P～Q、N値～深度）図 N値 0 10 20 30 40 50

原位置試験（ ）

室内試験（ ）

掘進状況

掘進日	掘進速度(cm/時)	コアチューブ／ビット／孔径(mm)／孔壁保護	給圧(kN)	回転数(rpm)	送水圧(kPa)	送水量(l/分)	排水量(l/分)
10/10	試掘	140 ケーシング 試掘	0	0	0	無水	0
10/11	200	140 ケーシング 打ち込み	打撃	0	0	無水	0
10/12	240	116	打撃	0	0	無水	0
10/12	300	116 打ち込み	打撃	0	0	無水	0
10/12	300	ケーシング	打撃	0	0	無水	0
10/12	240		打撃	0	0	無水	0
10/13	336		0	30	0.1	泥水	20
10/13	357		0	30	0.1	泥水	20
10/13	354		0	30	0.1	泥水	20
10/13	348		0	30	0.1	泥水	20
10/13	360		0	30	0.1	泥水	20
10/13	360		0	30	0.1	泥水	20
10/13	320		0	30	0.1	泥水	20
10/13	336	86 コアパック／メタル	0	30	0.1	泥水	20
10/13	369		0	30	0.1	泥水	20
10/13	360		0	30	0.1	泥水	20
10/13	375		0	30	0.1	泥水	20
10/14	380		0	30	0	泥水	30
10/14	330		0	30	0	泥水	30
10/14	330		0	30	0	泥水	30
10/14	360		0	30	0	泥水	30
10/14	400		0	30	0	泥水	30

B-1-0（0～25m）

ボーリング柱状図

調査名　東海発電所 放射性物質濃度の極めて低い廃棄物の敷地内埋設施設に係る地質・地下水調査

ボーリングNo. B-2-0

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	B-2-0	調査位置	茨城県那珂郡東海村白方1番の1東海発電所構内北地区	北緯	
発注機関	日本原子力発電株式会社	調査期間	平成17年11月7日～17年11月12日	東経	
調査業者名	[redacted]	主任技師	[redacted]	現場代理人 [redacted] / コア鑑定者 [redacted]	ボーリング責任者 [redacted]
孔口標高	TP +8.22m	角度	方向	地盤勾配	使用機種
総掘進長	25.00m			試錐機	利根 TS－100
				エンジン ヤンマー NFD－9	ポンプ 利根 NP－40

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 －×－ (%) 最大コア長 －●－ cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位m／測定月日	N値	（ルジオン、標準貫入）試験 （P～Q、N値～深度）図 N値 0 10 20 30 40 50	原位置試験（）	室内試験（）	掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径（mm）／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
1																			11/7	試掘	140 ケーシング	試掘	0	0	0	無水 0	0
2																			11/8	300	140 ケーシング	打ち込み	打撃	0	0	無水 0	0
3				中砂	褐灰						・深度0.00～7.26m 均質な中砂 細砂を少量含むが、比較的均質。ラミナ見られない。 含水量少ない。全体に褐色を呈する								11/8	300	ケーシング		打撃	0	0	無水 0	0
4																			11/8	300	ケーシング		打撃	0	0	無水 0	0
5																			11/8	300	116 ケーシング	打ち込み	打撃	0	0	無水 0	0
6																			11/8	300	ケーシング		打撃	0	0	無水 0	0
7	0.96	7.26			灰														11/9	300	116 ケーシング	打ち込み コアバック		2	30	1	無水 20	18
	0.72	7.50			灰						・深度7.26～7.50m 灰色を呈する中砂																
	0.47	7.73		砂質	灰						・深度7.50～7.75m 径2mmの円礫を少量含む粗砂。中砂、細砂含む。								11/9	345	ケーシング			2	30	1	泥水 20	18
8	0.09	8.17		腐植物粘土	黒褐						・深度7.75～8.17m 炭化した腐植物の小片を多量に含む粘土。含水量多く、粘性強い。																
9											・深度8.17～11.34m 径2～5mmの円礫を散在する細砂。中砂を含む。全体にシルトを含む。 炭化した腐植物の小片を少量含む。 含水量多く、締り緩い。 ・深度10.55～10.60m、10.87～10.90m、11.30～11.34m 径2～8mmの円礫密集 含水量多く、締り緩い。								11/10	380				3	30	1	泥水 20	20
10				礫混り細砂	暗灰														11/10	288				3	30	1	泥水 20	20
11	-3.12	11.34																	11/10	180				3	30	1	泥水 20	20
12	-4.52	12.74		細砂	暗灰						・深度11.34～12.74m 均質な細砂。全体に貝殻片の小片、炭化した腐植物の小片散在。含水量多く、締り緩い。 深度12.17～12.39m シルト質細砂								11/10	330				3	30	1	泥水 20	20
13																			11/10	375				3	30	1	泥水 20	20
14				砂混り粘土	暗灰						・深度12.74～15.95m 均質な粘土、ラミナ見られない。 全体に細砂を含む。全体に貝殻片の小片、炭化した腐食物の小片散在。 含水量多く、粘性強い。								11/10	375				3	30	1	泥水 20	20
15																											
16	-7.73	15.95																	11/10	360				3	30	1	泥水 20	20
17				シルト質細砂	暗灰						・深度15.95～17.96m 全体にシルトを含む細砂。均質、含水量多く、締り緩い。 貝殻片の小片、炭化した腐植物の小片散在。 深度17.00～17.57m 細砂、深度17.57～17.96m シルト質細砂								11/10	270	86	ダブル／メタル		3	30	1	泥水 20	20
18	-9.74	17.96																	11/10	360				3	30	1	泥水 20	20
19				粘土	暗灰						・深度17.96～20.73m 均質な粘土。 炭化した腐植物の小片、貝殻片の小片が散在。含水量多く、粘性強い。 深度20.15～20.73m 全体に細砂を少量含む。								11/10	195				3	30	1	泥水 20	20
20																			11/10	201				3	30	1	泥水 20	20
																			11/10	384				3	30	1	泥水 20	20
	-12.51	20.73																									
21	-13.11	21.33		砂混り粘土	暗灰						・深度20.73～21.33m 全体に細砂を含む粘土。貝殻片の小片散在。含水量多く、粘性強い。								11/11	360				3	30	1	泥水 20	19
22				シルト質細砂	明灰						・深度21.33～23.15m 全体にシルトを含む細砂。水平方向に弱いラミナ見られる。 ・深度22.52～23.15m 厚さ5～10mmのシルトと細砂の互層								11/11	345				3	30	1	泥水 20	19
23	-14.93	23.15																									
24				細砂	暗灰						・深度23.15～25.00m 均質な細砂。貝殻片の小片、腐植物の小片点在。 ・含水量多く、締り緩い。								11/11	330				3	30	1	泥水 20	19
	-16.78	25.00																	11/11	285				3	30	1	泥水 20	19

B-2-0（0～25m）

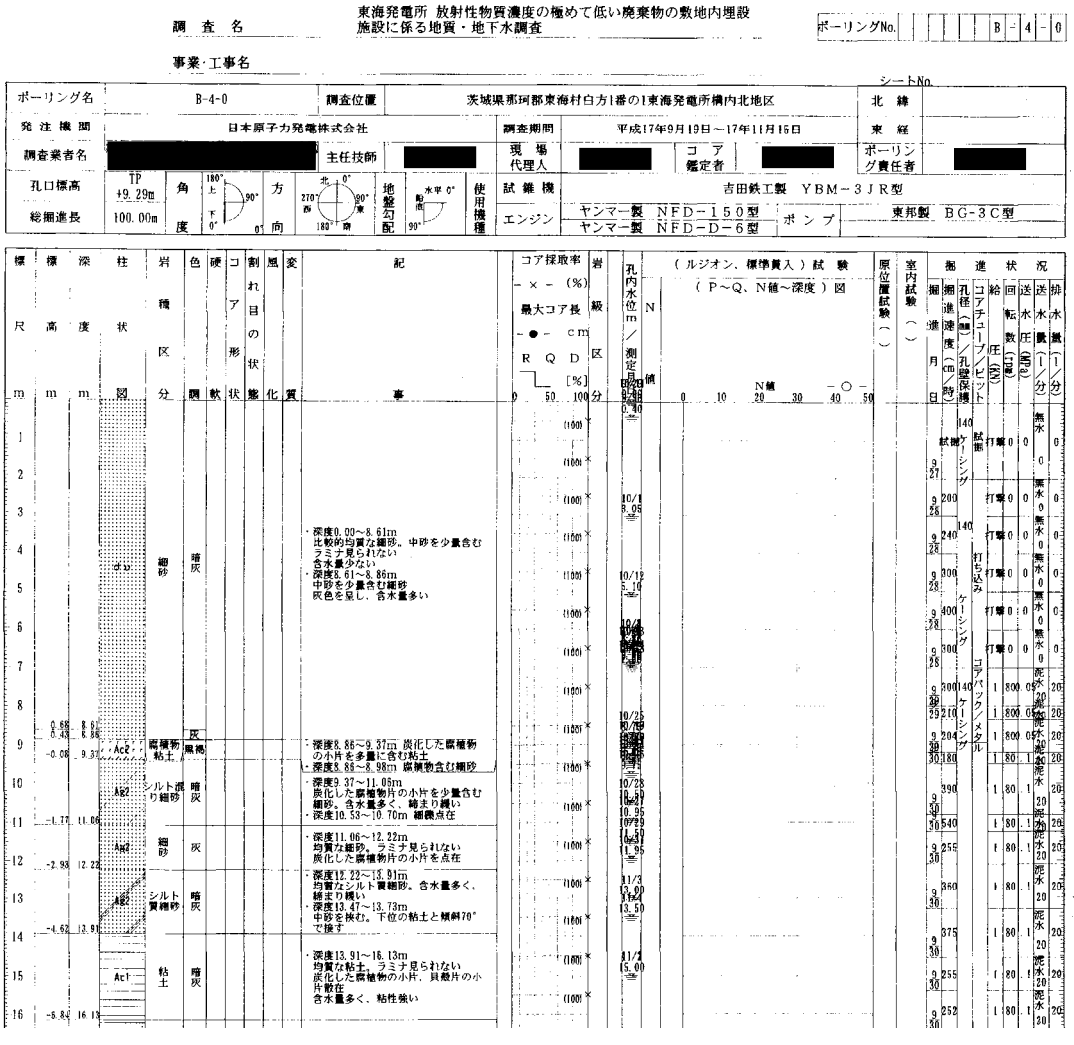
ボーリング柱状図

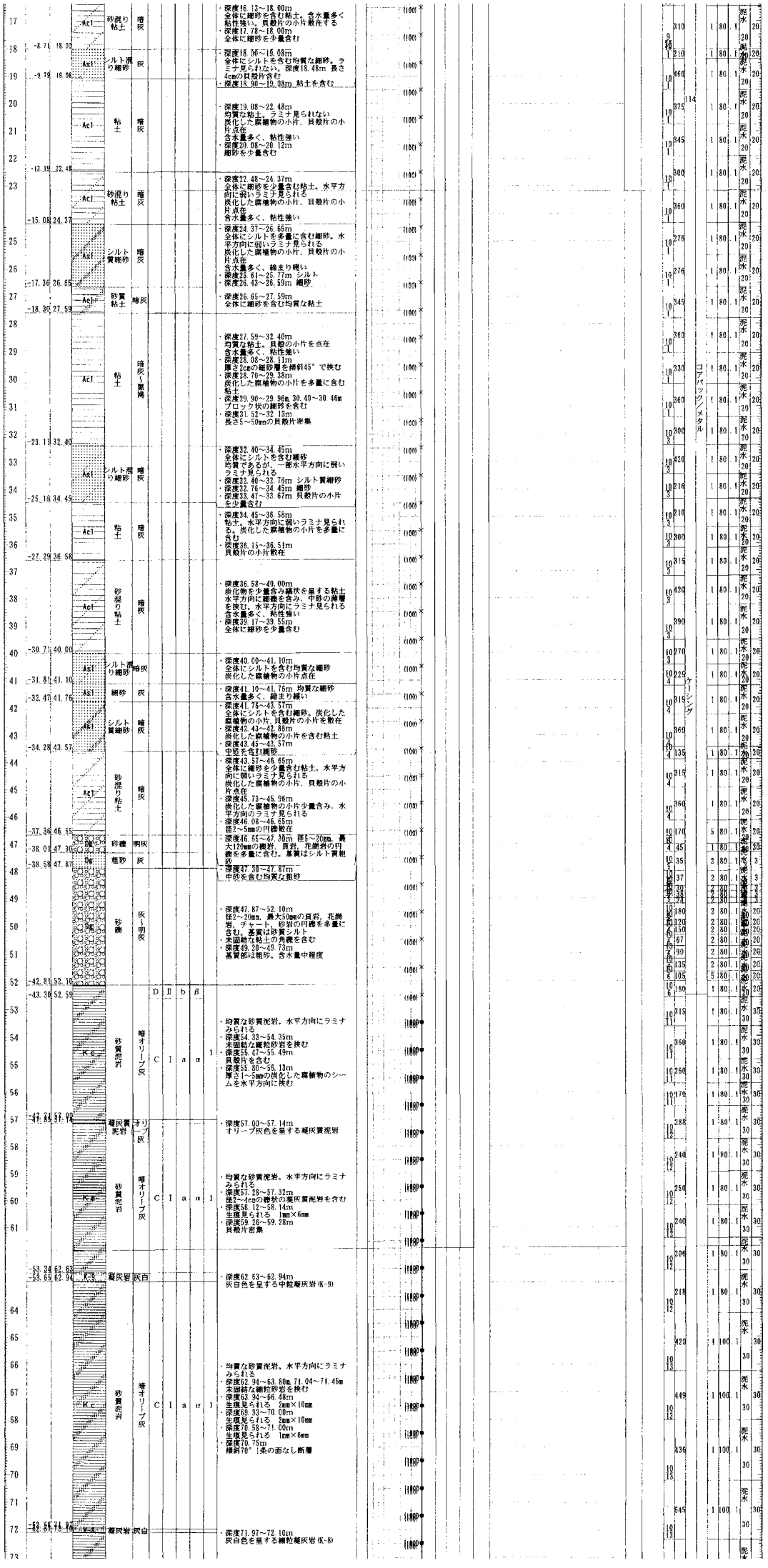
調査名	東海発電所 放射性物質濃度の極めて低い廃棄物の敷地内埋設施設に係る地質・地下水調査	ボーリングNo.	B-4-0
事業・工事名			

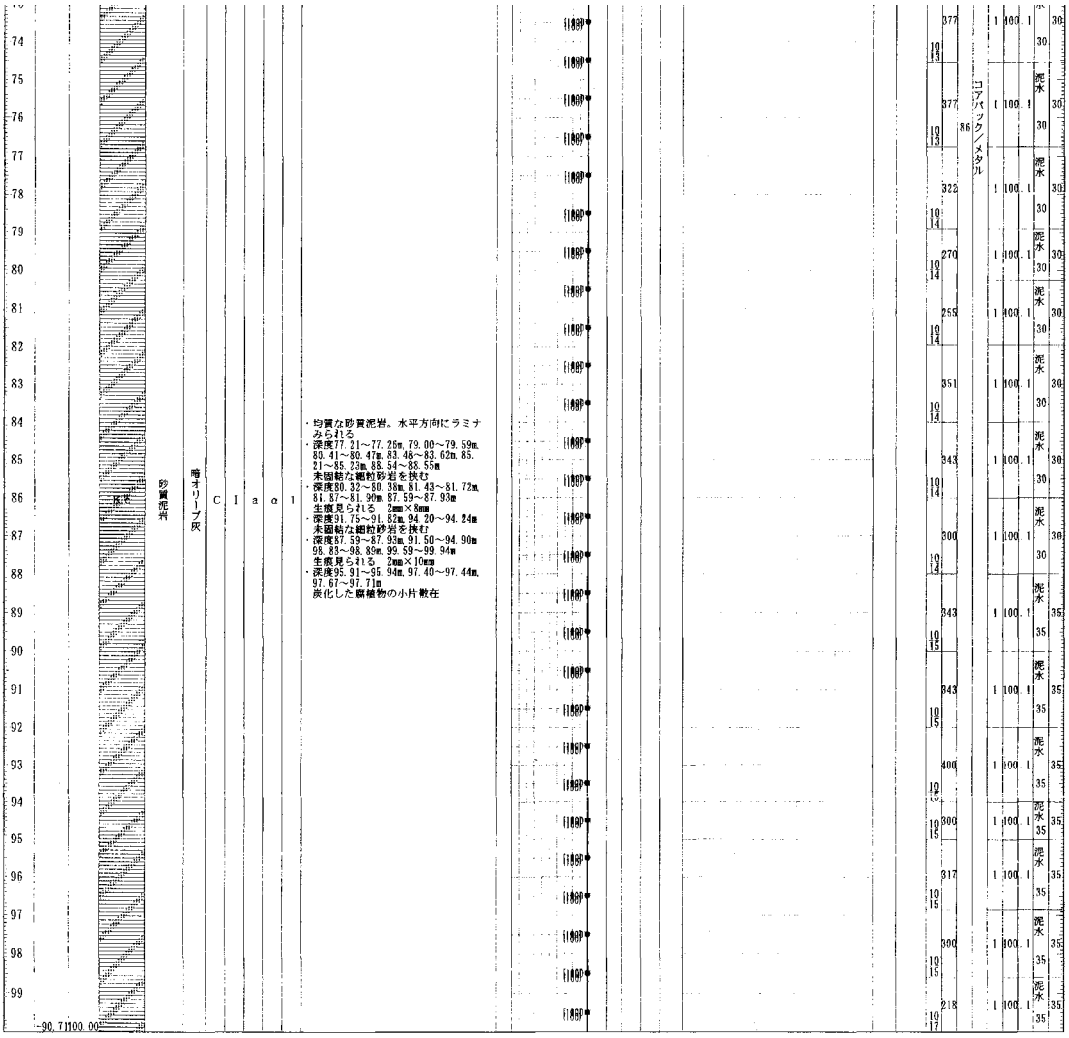
ボーリング名	B-4-0	調査位置	茨城県那珂郡東海村白方1番の1東海発電所構内北地区			シートNo.	
発注機関	日本原子力発電株式会社	調査期間	平成17年9月19日～17年11月15日			北緯	
調査業者名	[redacted]	主任技師	[redacted]	現場代理人	[redacted]	コア鑑定者	[redacted]	東経	
								ボーリング責任者	[redacted]
孔口標高	TP +9.29m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	水平 0° 船底 90°	使用機種	
総掘進長	100.00m								

試錐機	吉田鉄工製 YBM－3JR型		
エンジン	ヤンマー製 NFD－150型	ポンプ	東邦製 BG-3C型
	ヤンマー製 NFD－D－6型		

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 -×- (%) 最大コア長 -●- cm R Q D [%] 0 50 100	岩級区分	孔内水位m／測定日	N値	(ルジオン、標準貫入)試験 (P～Q、N値～深度)図 N値 0 10 20 30 40 50	原位置試験	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(KN)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(l/分)	排水量(l/分)
1												(100)							9/27	試掘	140 ケーシング	試掘	打撃	0	0	無水 0	0
2												(100)															
3												(100)		10/13.05					9/28	200			打撃	0	0	無水 0	0
4												(100)							9/28	240	140 ケーシング	打ち込み	打撃	0	0	無水 0	0
5												(100)		10/12.10					9/28	300			打撃	0	0	無水 0	0
6												(100)							9/28	400			打撃	0	0	無水 0	0
7												(100)							9/28	300			打撃	0	0	無水 0	0
8												(100)							9/29	300	140 ケーシング	コアパック／メタル	1	800	0.05	泥水 20	20
	0.68	8.61																	9/29	210			1	800	0.05	泥水 20	20
	0.43	8.86			灰														9/29	204			1	800	0.05	泥水 20	20
9	-0.08	9.37	Ac2	腐植物粘土	黒褐						・深度8.86～9.37m 炭化した腐植物の小片を多量に含む粘土 ・深度8.86～8.98m 腐植物含む細砂	(100)		10/25					9/30	180			1	80	1	泥水 20	20
10			Ag2	シルト混り細砂	暗灰						・深度9.37～11.06m 炭化した腐植物片の小片を少量含む細砂。含水量多く、締まり緩い ・深度10.53～10.70m 細礫点在	(100)		10/28 10.30 10.95					9/30	390			1	80	1	泥水 20	20
11	-1.77	11.06												10/29 11.50					9/30	540			1	80	1	泥水 20	20
12	-2.98	12.22	Ag2	細砂	灰						・深度11.06～12.22m 均質な細砂。ラミナ見られない 炭化した腐植物片の小片を点在	(100)		11.95					9/30	255			1	80	1	泥水 20	20
13			Ag2	シルト質細砂	暗灰						・深度12.22～13.91m 均質なシルト質細砂。含水量多く、締まり緩い ・深度13.47～13.73m 中砂を挟む。下位の粘土と傾斜70°で接す	(100)		11/3 13.00 13.50					9/30	360			1	80	1	泥水 20	20
14	-4.62	13.91										(100)							9/30	375			1	80	1	泥水 20	20
15			Ac1	粘土	暗灰						・深度13.91～16.13m 均質な粘土。ラミナ見られない 炭化した腐植物の小片、貝殻片の小片散在 含水量多く、粘性強い	(100)		11/2 15.00					9/30	255			1	80	1	泥水 20	20
16	-5.84	16.13										(100)							9/30	252			1	80	1	泥水 20	20




コアバック／メタル
ケーシング


砂質泥岩
暗オリーブ灰
C l a α 1
・均質な砂質泥岩。水平方向にラミナみられる
・深度77.21～77.25m,79.00～79.59m,80.41～80.47m,83.46～83.62m,85.21～85.23m,88.54～88.55m
木園結な細粒砂岩を挟む
・深度80.32～80.39m,81.43～81.72m,81.87～81.90m,87.59～87.93m
生痕見られる 2mm×8mm
・深度91.75～91.82m,94.20～94.24m
木園結な細粒砂岩を挟む
・深度87.59～87.93m,91.50～94.90m
98.83～98.89m,99.59～99.94m
生痕見られる 2mm×10mm
・深度95.91～95.94m,97.40～97.44m,97.67～97.71m
炭化した腐植物の小片散在
コアバック/メタル
泥水

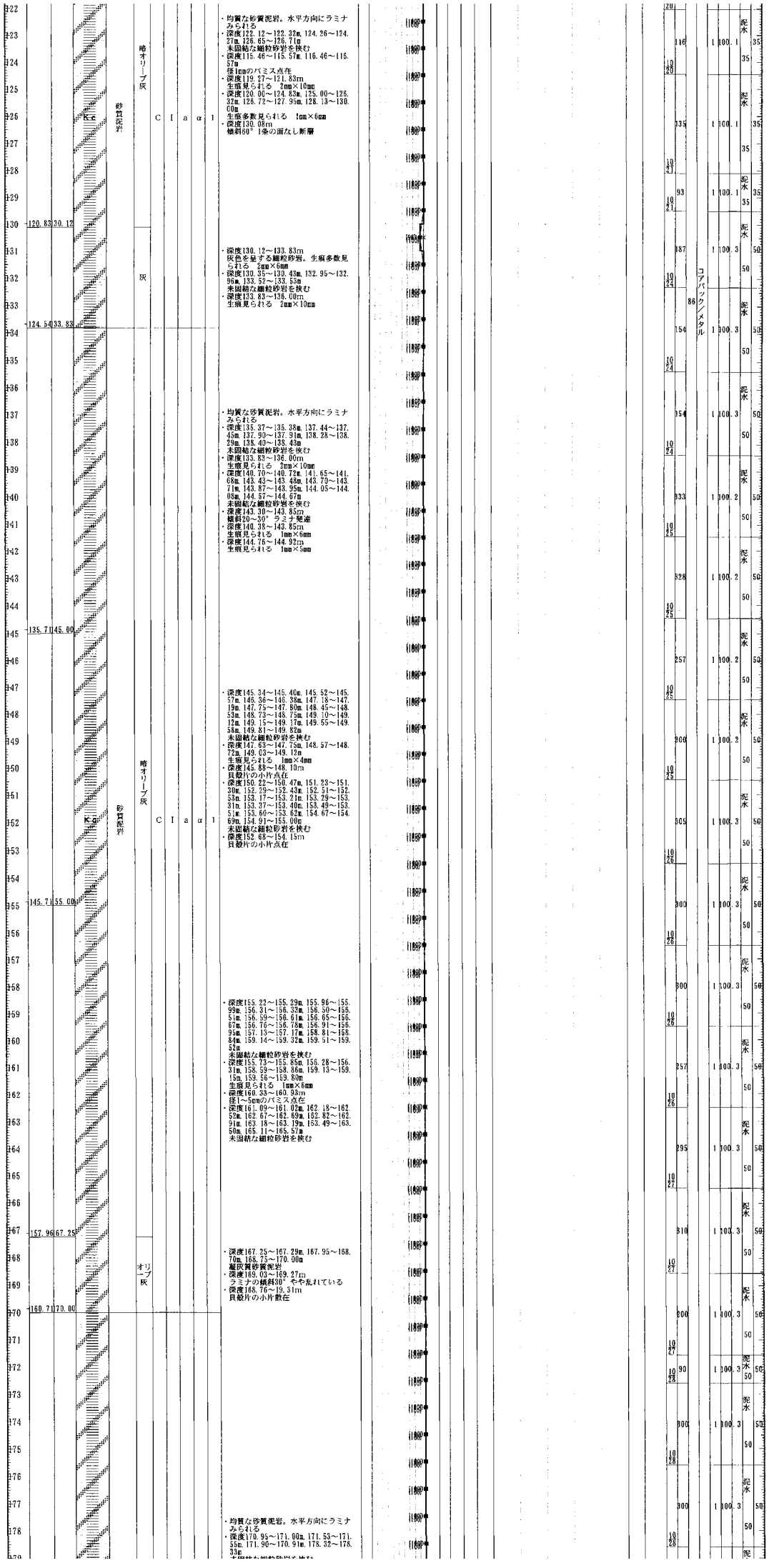
B-4-0（0～100m）

ボーリング柱状図

調査名	東海発電所 放射性物質濃度の極めて低い廃棄物の敷地内埋設施設に係る地質・地下水調査	ボーリングNo.	B-4-0
事業・工事名		シートNo.	

ボーリング名	B-4-0	調査位置	茨城県那珂郡東海村白方1番の1東海発電所構内北地区			北緯	
発注機関	日本原子力発電株式会社	調査期間	平成17年9月19日～17年11月15日			東経	
調査業者名	[redacted]	主任技師	[redacted]	現場代理人	[redacted]	コア鑑定者	[redacted]	ボーリング責任者	[redacted]
孔口標高	TP +9.29m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	水平 0° 約 90°	使用機種	
総掘進長	213.10m	試錐機	吉田鉄工製 YBM－3JR型				
		エンジン	ヤンマー製 NFD－150型 ヤンマー製 NFD－D－6型	ポンプ	東邦製 BG-3C型		

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ口の状態	風化	変質	記事	岩級区分	孔内水位m／測定月日	N値	掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(l/分)	排水量(l/分)
01	-94.96	101.25	K-7	凝灰岩	灰白						・深度101.25～101.31m 灰白色を呈する中粒凝灰岩(K-7)				10/17	267			1	100	1	水 35	35
02																							
03															10/17	222			1	100	1	泥水 35	35
04																							
05											・均質な砂質泥岩。水平方向にラミナみられる ・深度106.29～106.30m, 109.39～109.43m 未固結な細粒砂岩を挟む ・深度100.30～101.26m, 102.11～104.13m, 105.55～106.93m 生痕見られる 2mm×10mm ・深度108.37～108.39m 生痕見られる 2mm×6mm ・深度109.43～109.70m 貝殻片の小片，径2mmのパミス散在				10/17	203			1	100	1	泥水 35	35
06																							
07															10/18	200			1	100	1	泥水 30	30
08																							
09															10/18	175			1	100	1	泥水 30	30
10																							
11	-102.29	111.48	K-6	凝灰岩	灰白						・深度111.48～111.49m 灰白色を呈する細粒凝灰岩(K-6)					233			1	100	1	泥水 30	30
12															10/19								
13																							
14											・均質な砂質泥岩。水平方向にラミナみられる ・深度111.65～111.66m 未固結な細粒砂岩を挟む ・深度115.46～115.57m, 116.46～116.57m 径1mmのパミス点在 ・深度110.05～110.10m, 111.05～111.48m, 115.68～115.82m, 116.85～118.70m 生痕見られる 2mm×10mm					221			1	100	1	泥水 30	30
15															10/19								
16																							
17																197			1	100	1	泥水 30	30
18	-109.00	118.39	K-5	凝灰岩	灰白						・深度118.29～118.30m 灰白色を呈する細粒凝灰岩(K-5)				10/19								
19																							
20																153			1	100	1	泥水 35	35
21															10								



・均質な砂質泥岩。水平方向にラミナみられる
・深度122.12～122.32m, 124.26～124.27m, 126.65～126.71m
未固結な細粒砂岩を挟む
・深度115.46～115.57m, 116.46～116.57m
径1mmのパミス点在
・深度119.57～121.83m
生痕見られる　2mm×10mm
・深度120.00～124.83m, 125.00～125.32m, 125.72～127.95m, 128.13～130.00m
生痕多数見られる　1mm×6mm
・深度130.08m
傾斜60°1条の面なし断層

・深度130.12～133.83m
灰色を呈する細粒砂岩。生痕多数見られる　2mm×6mm
・深度130.35～130.43m, 132.95～132.96m, 133.52～133.53m
未固結な細粒砂岩を挟む
・深度133.83～136.00m
生痕見られる　2mm×10mm

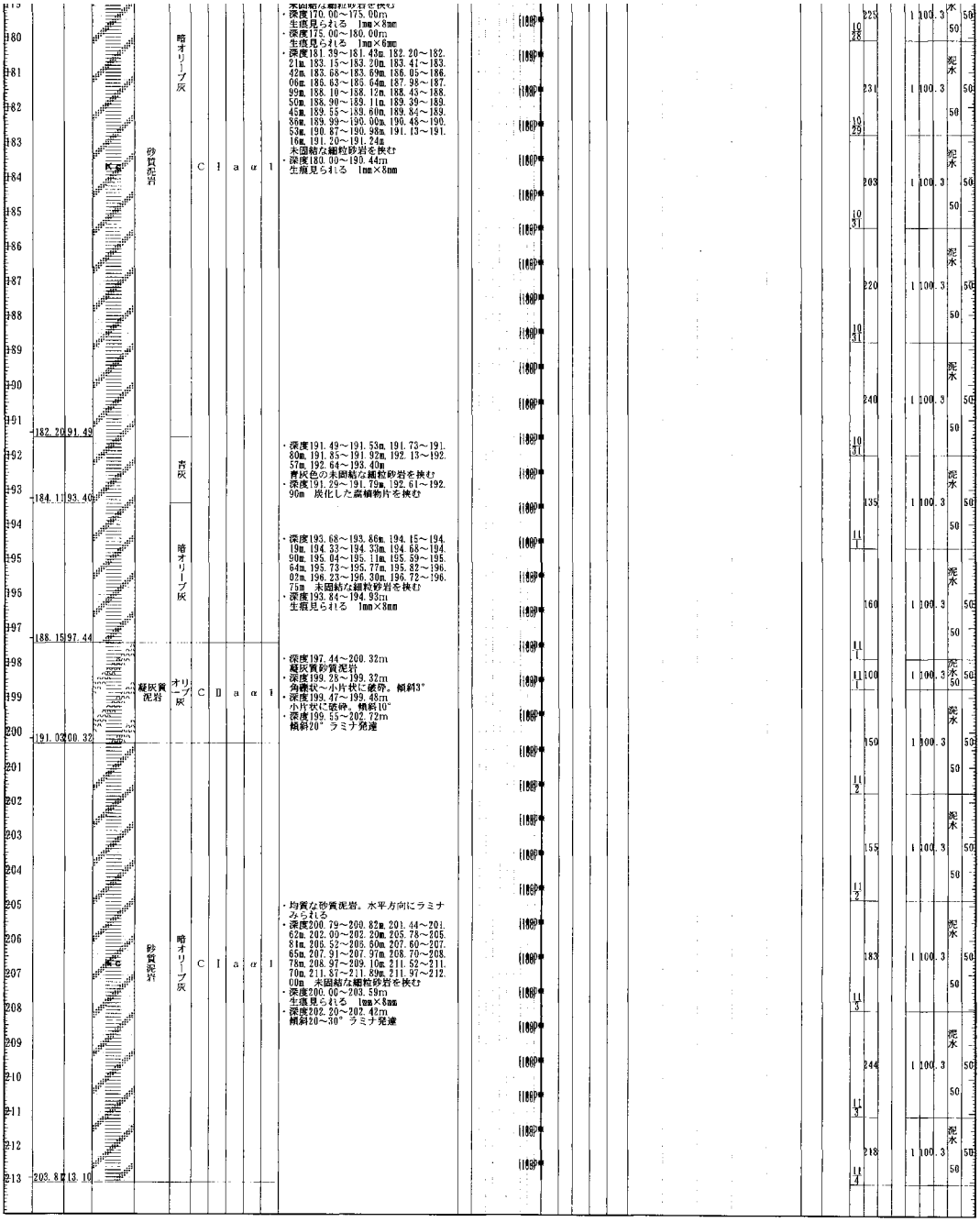
・均質な砂質泥岩。水平方向にラミナみられる
・深度135.37～135.38m, 137.44～137.45m, 137.90～137.91m, 138.28～138.29m, 138.40～138.43m
未固結な細粒砂岩を挟む
・深度133.83～136.00m
生痕見られる　2mm×10mm
・深度140.70～140.72m, 141.65～141.68m, 143.43～143.48m, 143.70～143.71m, 143.87～143.95m, 144.05～144.08m, 144.57～144.67m
未固結な細粒砂岩を挟む
・深度143.30～143.85m
傾斜20～30°ラミナ発達
・深度140.38～142.85m
生痕見られる　1mm×6mm
・深度144.76～144.92m
生痕見られる　1mm×5mm

・深度145.34～145.40m, 145.52～145.57m, 146.36～146.38m, 147.18～147.19m, 147.75～147.80m, 148.45～148.53m, 148.73～148.75m, 149.10～149.12m, 149.15～149.17m, 149.55～149.55m, 149.81～149.82m
未固結な細粒砂岩を挟む
・深度147.63～147.75m, 148.57～148.72m, 149.03～149.12m
生痕見られる　1mm×4mm
・深度148.88～148.10m
貝殻片の小片点在
・深度150.22～150.47m, 151.23～151.30m, 152.29～152.43m, 152.51～152.53m, 153.17～153.21m, 153.29～153.31m, 153.37～153.40m, 153.49～153.51m, 153.60～153.62m, 154.67～154.69m, 154.91～155.00m
未固結な細粒砂岩を挟む
・深度152.68～154.15m
貝殻片の小片点在

・深度155.22～155.29m, 155.96～155.99m, 156.31～156.33m, 156.50～156.51m, 156.59～156.61m, 156.65～156.67m, 156.76～156.78m, 156.91～156.95m, 157.13～157.17m, 158.81～158.84m, 159.14～159.32m, 159.51～159.52m
未固結な細粒砂岩を挟む
・深度155.73～155.85m, 156.28～156.31m, 158.59～158.86m, 159.13～159.15m, 159.56～159.80m
生痕見られる　1mm×6mm
・深度160.33～160.93m
径1～5mmのパミス点在
・深度161.09～161.02m, 162.18～162.52m, 162.67～162.69m, 162.82～162.91m, 163.18～163.19m, 163.49～163.50m, 165.11～165.57m
未固結な細粒砂岩を挟む

・深度167.25～167.29m, 167.95～168.70m, 168.75～170.00m
凝灰質砂質泥岩
・深度169.03～169.27m
ラミナの傾斜30°やや乱れている
・深度168.76～19.31m
貝殻片の小片散在

・均質な砂質泥岩。水平方向にラミナみられる
・深度170.95～171.00m, 171.53～171.55m, 171.90～170.91m, 178.32～178.33m



B-4-0（100～209m）

ボーリング柱状図

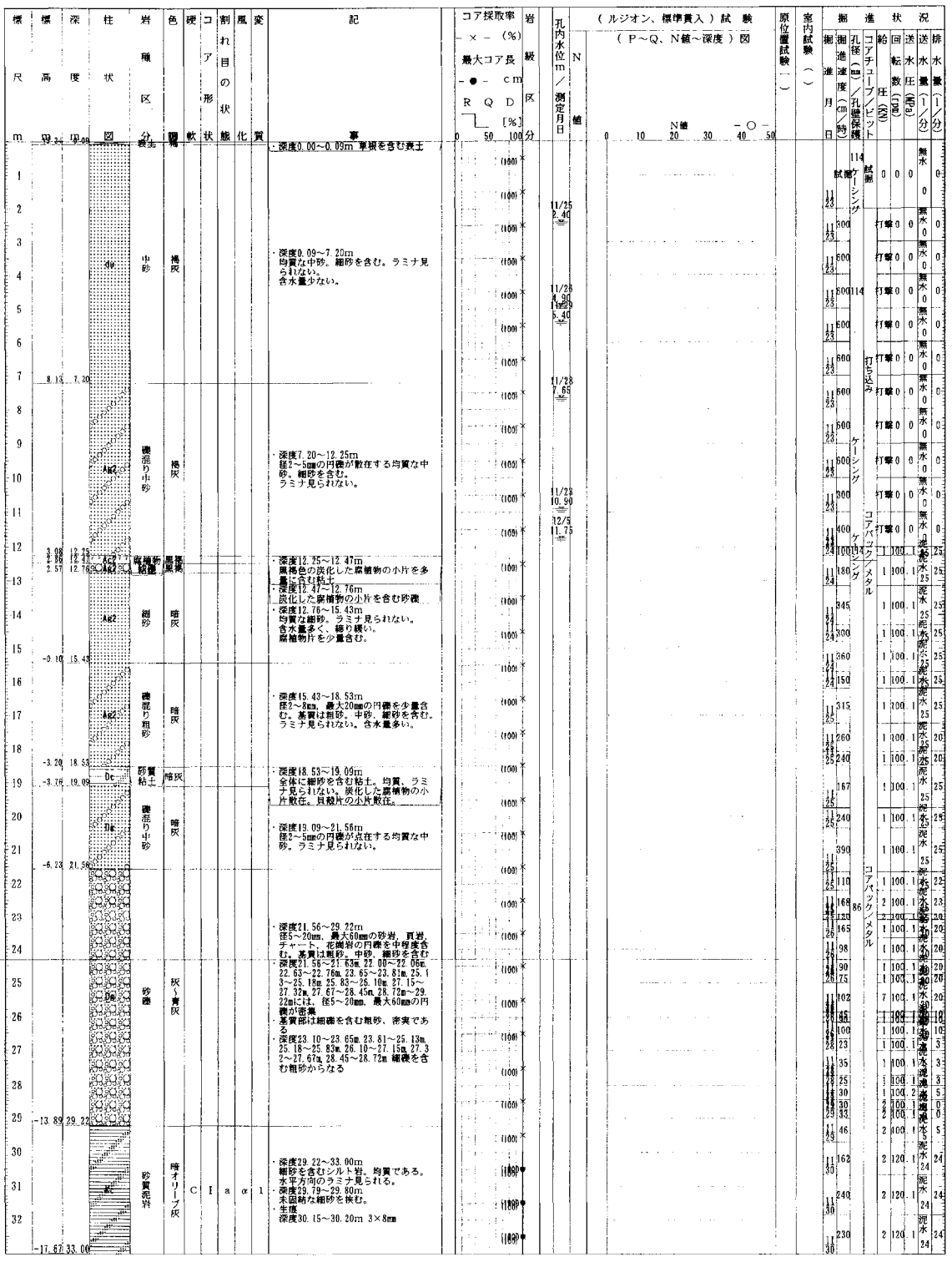
調査名　東海発電所 放射性物質濃度の極めて低い廃棄物の敷地内埋設施設に係る地質・地下水調査

ボーリングNo. B-6-0

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	B-6-0	調査位置	茨城県那珂郡東海村白方1番の1東海発電所構内北地区	北緯	
発注機関	日本原子力発電株式会社	調査期間	平成17年11月21日～17年12月5日	東経	
調査業者名	[redacted]	主任技師	[redacted]	現場代理人 [redacted]	コア鑑定者 [redacted]	ボーリング責任者 [redacted]
孔口標高	TP +15.33m	角度	上 90° 下 0°	方向	北 0° 東 90° 南 180° 西 270°	地盤勾配	水平 0° 90°	使用機種	試錐機	吉田鉄工 YBM-3JR
総掘進長	33.00m								エンジン	ヤンマー NFD-150 / ヤンマー NFD-D-6	ポンプ	東邦 BG3C



・深度0.00～0.09m 草根を含む表土

・深度0.09～7.20m
均質な中砂。細砂を含む。ラミナ見られない。
含水量少ない。

・深度7.20～12.25m
径2～5mmの円礫が散在する均質な中砂。細砂を含む。
ラミナ見られない。

・深度12.25～12.47m
黒褐色の炭化した腐植物の小片を多量に含む粘土。

・深度12.47～12.76m
炭化した腐植物の小片を含む砂礫。

・深度12.76～15.43m
均質な細砂。ラミナ見られない。
含水量多く、緩い。
腐植物片を少量含む。

・深度15.43～18.53m
径2～8mm、最大20mmの円礫を少量含む。基質は粗砂、中砂、細砂を含む。
ラミナ見られない。含水量多い。

・深度18.53～19.09m
全体に細砂を含む粘土。均質、ラミナ見られない。炭化した腐植物の小片散在。貝殻片の小片散在。

・深度19.09～21.56m
径2～5mmの円礫が点在する均質な中砂。ラミナ見られない。

・深度21.56～29.22m
径5～20mm、最大60mmの砂岩、頁岩、チャート、花崗岩の円礫を中程度含む。基質は粗砂。中砂、細砂を含む
深度21.56～21.65m、22.00～22.06m、22.63～22.76m、23.65～23.81m、25.13～25.18m、25.83～26.10m、27.15～27.32m、27.67～28.45m、28.72m～29.22mには、径5～20mm、最大60mmの円礫が密集
基質部は細礫を含む粗砂、密実である
・深度23.10～23.65m、23.81～25.13m、25.18～25.83m、26.10～27.15m、27.32～27.67m、28.45～28.72m 細礫を含む粗砂からなる

・深度29.22～33.00m
細砂を含むシルト岩。均質である。
水平方向のラミナ見られる。
・深度29.79～29.80m
未固結な細砂を挟む。
・生痕
深度30.15～30.20m 3×8mm

B-6-0 (0～33m)

ボーリング柱状図

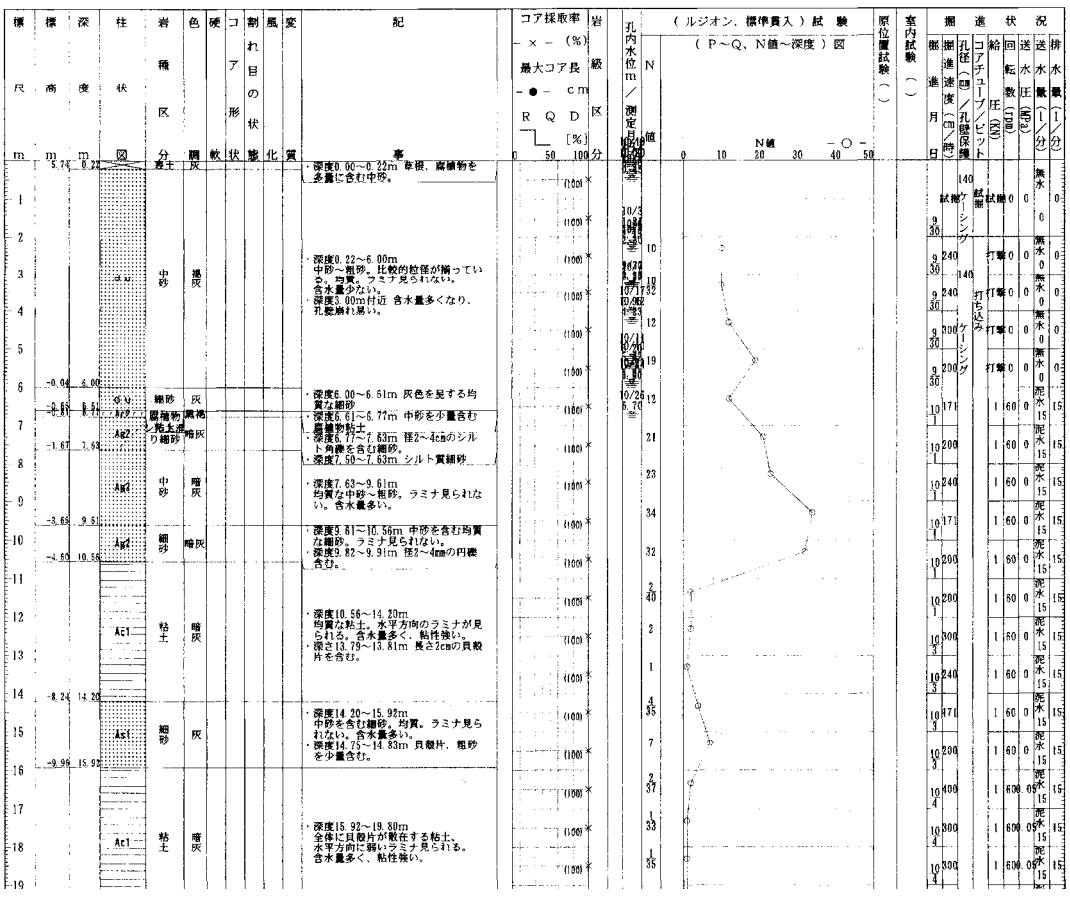
調査名　東海発電所 放射性物質濃度の極めて低い廃棄物の敷地内埋設施設に係る地質・地下水調査

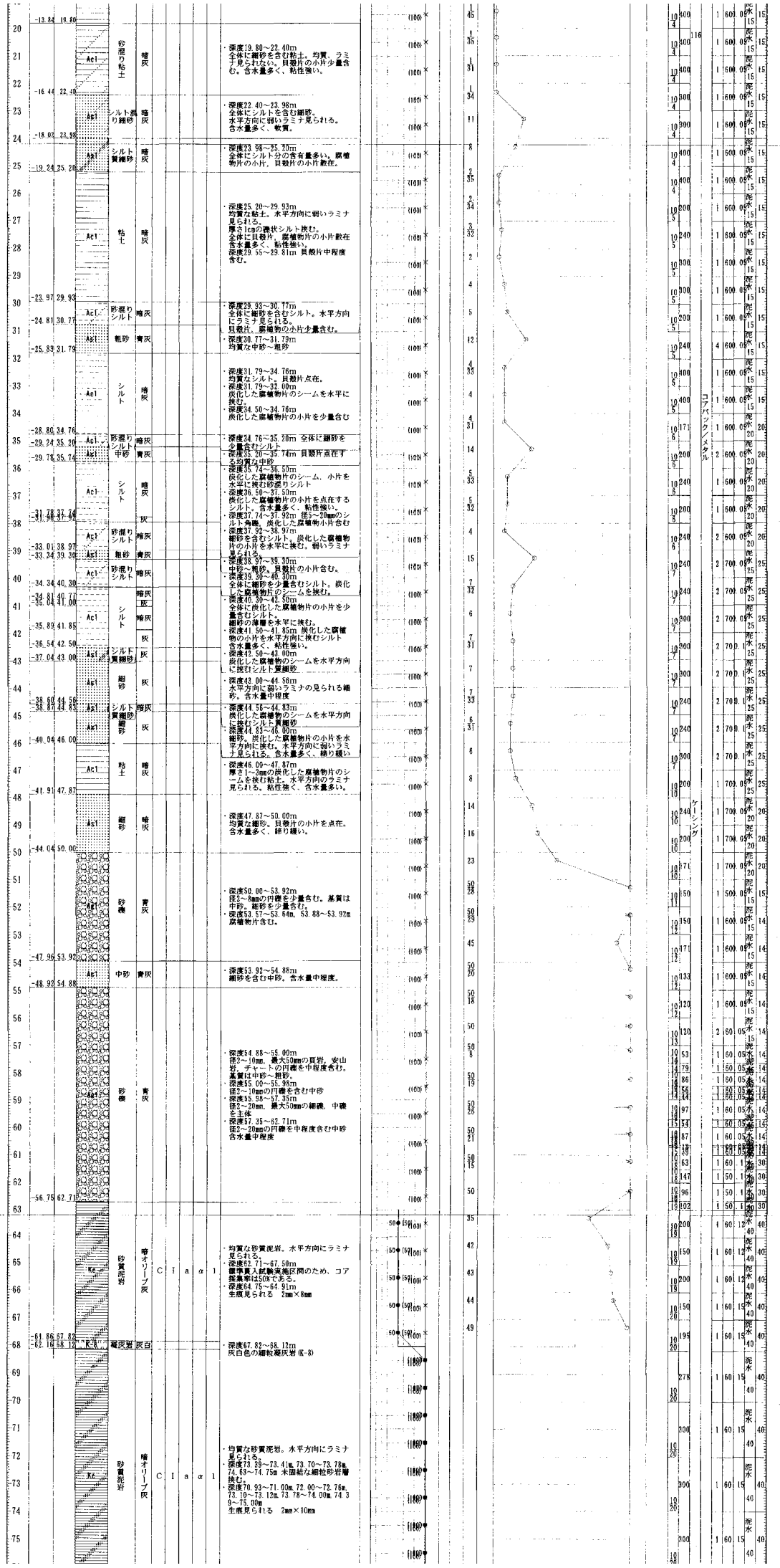
ボーリングNo. C-4-0

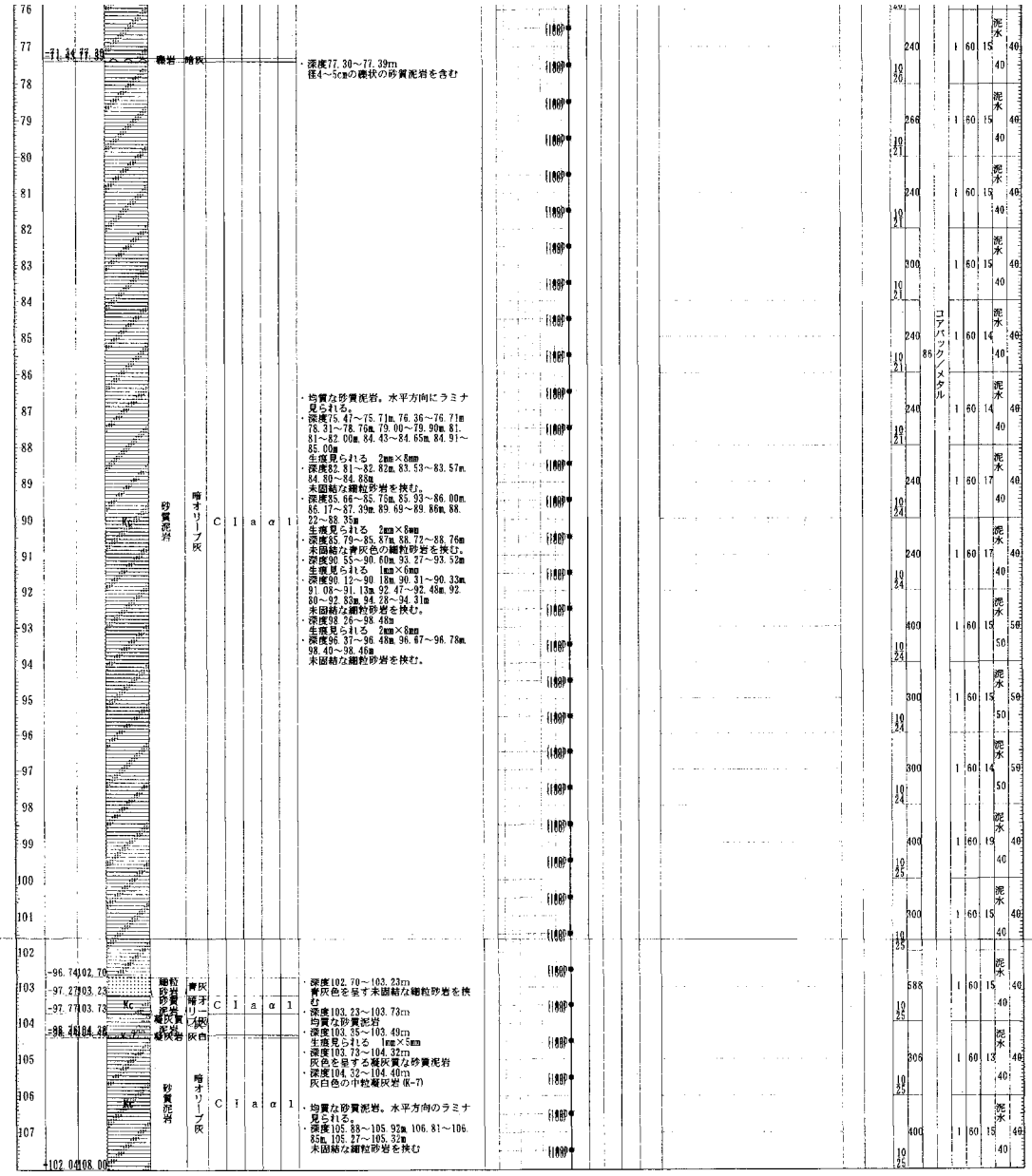
事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	C-4-0	調査位置	茨城県那珂郡東海村白方1番の1東海発電所構内北地区			北緯	
発注機関	日本原子力発電株式会社			調査期間	平成17年9月26日～17年10月30日	東経	
調査業者名	[redacted]	主任技師	[redacted]	現場代理人	[redacted]	コア鑑定者	[redacted]	ボーリング責任者	[redacted]
孔口標高	TP +5.96m	角度	上180° 90° 下0°	方向	北0° 西270° 90° 東 180° 南	地盤勾配	水平0° 90°	使用機種	試錐機	吉田鉄工製 YBM－1W型
総掘進長	108.00m								エンジン	ヤンマー製 NFA－100型	ポンプ	鉱研製 MG－10型




-13.84 19.80
-16.44 22.40
-18.02 23.98
-19.24 25.20
-23.97 29.93
-24.81 30.77
-25.83 31.79
-28.80 34.76
-29.24 35.20
-29.76 35.74
-31.78 37.76
-33.01 38.97
-33.34 39.30
-34.34 40.30
-34.81 40.77
-35.04 41.00
-35.89 41.85
-36.54 42.50
-37.04 43.00
-38.60 44.56
-38.87 44.83
-40.04 46.00
-41.91 47.87
-44.04 50.00
-47.96 53.92
-48.92 54.88
-56.75 62.71
-61.86 67.82
-62.16 68.12
-71.00
-73.41
-74.63
-74.75
砂混り粘土
シルト混り細砂
シルト質細砂
粘土
砂混りシルト
粗砂
シルト
細砂
中砂
砂礫
砂質泥岩
凝灰岩
暗灰
青灰
灰白
Ac1
As1
Ac
Ag1
Ke
R-8
C I a α 1
・深度19.80～22.40m
全体に細砂を含む粘土。均質。ラミナ見られない。貝殻片の小片少量含む。含水量多く、粘性強い。
・深度22.40～23.98m
全体にシルトを含む細砂。
水平方向に弱いラミナ見られる。
含水量多く、軟質。
・深度23.98～25.20m
全体にシルト分の含有量多い。腐植物片の小片、貝殻片の小片散在。
・深度25.20～29.93m
均質な粘土。水平方向に弱いラミナ見られる。
厚さ1cmの礫状シルト挟む。
全体に貝殻片、腐植物片の小片散在
含水量多く、粘性強い。
深度29.55～29.81m 貝殻片中程度含む。
・深度29.93～30.77m
全体に細砂を含むシルト。水平方向にラミナ見られる。
貝殻片、腐植物の小片少量含む。
・深度30.77～31.79m
均質な中砂～粗砂
・深度31.79～34.76m
均質なシルト。貝殻片点在。
・深度31.79～32.00m
炭化した腐植物片のシームを水平に挟む。
・深度34.50～34.76m
炭化した腐植物片の小片を少量含む
・深度34.76～35.20m 全体に細砂を少量含むシルト
・深度35.20～35.74m 貝殻片点在する均質な中砂
・深度35.74～36.50m
炭化した腐植物片のシーム、小片を水平に挟む砂混りシルト
・深度36.50～37.50m
炭化した腐植物片の小片を点在するシルト。含水量多く、粘性強い。
・深度37.74～37.92m 径5～20mmのシルト角礫、炭化した腐植物小片含む
・深度37.92～38.97m
細砂を含むシルト。炭化した腐植物片の小片を水平に挟む。弱いラミナ見られる。
・深度38.97～39.30m
中砂～粗砂。貝殻片の小片含む。
・深度39.30～40.30m
全体に細砂を少量含むシルト。炭化した腐植物片のシームを挟む。
・深度40.30～42.50m
全体に炭化した腐植物片の小片を少量含むシルト。
細砂の薄層を水平に挟む。
・深度41.50～41.85m 炭化した腐植物の小片を水平方向に挟むシルト
含水量多く、粘性強い。
・深度42.50～43.00m
炭化した腐植物のシームを水平方向に挟むシルト質細砂
・深度42.00～44.56m
水平方向に弱いラミナの見られる細砂。含水量中程度
・深度44.56～44.83m
炭化した腐植物のシームを水平方向に挟むシルト質細砂
・深度44.83～46.00m
細砂。炭化した腐植物片の小片を水平方向に挟む。水平方向に弱いラミナ見られる。含水量多く、締り緩い
・深度46.00～47.87m
厚さ1～3mmの炭化した腐植物片のシームを挟む粘土。水平方向のラミナ見られる。粘性強く、含水量多い。
・深度47.87～50.00m
均質な細砂。貝殻片の小片を点在。
含水量多く、締り緩い。
・深度50.00～53.92m
径2～8mmの円礫を少量含む。基質は中砂。細砂を少量含む。
・深度53.57～53.64m、53.88～53.92m
腐植物片含む。
・深度53.92～54.88m
細砂を含む中砂。含水量中程度。
・深度54.88～55.00m
径2～10mm、最大50mmの頁岩、安山岩、チャートの円礫を中程度含む。
基質は中砂～粗砂。
・深度55.00～55.98m
径2～10mmの円礫を含む中砂
・深度55.98～57.35m
径2～20mm、最大50mmの細礫、中礫を主体
・深度57.35～62.71m
径2～20mmの円礫を中程度含む中砂
含水量中程度
・深度67.82～68.12m
灰白色の細粒凝灰岩 (R-8)
・均質な砂質泥岩。水平方向にラミナ見られる。
・深度62.71～67.50m
原位置試験実施区間のため、コア採取率は50%である。
・深度64.75～64.91m
生痕見られる 2mm×8mm
・均質な砂質泥岩。水平方向にラミナ見られる。
・深度73.39～73.41m、73.70～73.78m、74.63～74.75m 未固結な細粒砂岩層挟む。
・深度70.93～71.00m、72.00～72.76m、73.10～73.12m、73.78～74.00m、74.39～75.00m
生痕見られる 2mm×10mm
コアバック／メタル
ケーシング


-71.34 77.39
礫岩 暗灰
深度77.30～77.39m
径4～5cmの礫状の砂質泥岩を含む
砂質泥岩
暗オリーブ灰
Cl a α l
均質な砂質泥岩。水平方向にラミナ見られる。
深度75.47～75.71m, 76.36～76.71m, 78.31～78.76m, 79.00～79.90m, 81.81～82.00m, 84.43～84.65m, 84.91～85.00m
生痕見られる 2mm×8mm
深度82.81～82.82m, 83.53～83.57m, 84.80～84.88m
未固結な細粒砂岩を挟む。
深度85.66～85.76m, 85.93～86.00m, 86.17～87.39m, 89.69～89.86m, 88.22～88.35m
生痕見られる 2mm×8mm
深度85.79～85.87m, 88.72～88.76m
未固結な青灰色の細粒砂岩を挟む。
深度90.55～90.60m, 93.27～93.52m
生痕見られる 1mm×6mm
深度90.12～90.18m, 90.31～90.33m, 91.08～91.13m, 92.47～92.48m, 92.80～92.83m, 94.28～94.31m
未固結な細粒砂岩を挟む。
深度98.26～98.49m
生痕見られる 2mm×8mm
深度96.37～96.48m, 96.67～96.78m, 98.40～98.46m
未固結な細粒砂岩を挟む。
-96.74 102.70
-97.27 103.23
-97.77 103.73
-98.26 104.26
-102.04 108.00
細粒砂岩
砂質泥岩
凝灰質泥岩
凝灰岩
青灰
オリーブ灰
暗オリーブ灰
白
Cl a α l
深度102.70～103.23m
青灰色を呈す未固結な細粒砂岩を挟む
深度103.23～103.73m
均質な砂質泥岩
深度103.35～103.49m
生痕見られる 1mm×5mm
深度103.73～104.32m
灰色を呈する凝灰質な砂質泥岩
深度104.32～104.40m
灰白色の中粒凝灰岩(K-7)
砂質泥岩
暗オリーブ灰
Cl a α l
均質な砂質泥岩。水平方向のラミナ見られる。
深度105.58～105.92m, 106.81～106.85m, 105.27～105.32m
未固結な細粒砂岩を挟む
コアバック／メタル
泥水

C-4-0 (0～108m)

ボーリング柱状図

調査名　東海発電所 放射性物質濃度の極めて低い廃棄物の敷地内埋設施設に係る地質・地下水調査

ボーリングNo. C-7-0

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	C-7-0	調査位置	茨城県那珂郡東海村白方1番の1東海発電所構内北地区	北緯	
発注機関	日本原子力発電株式会社	調査期間	平成17年11月22日～17年12月3日	東経	
調査業者名	[redacted] 主任技師 [redacted]	現場代理人 [redacted]	コア鑑定者 [redacted]	ボーリング責任者	[redacted]
孔口標高	TP +12.08m	角度	上180° 下0° 90° 0°	方向	北0° 東90° 南180° 西270°
総掘進長	33.00m	地盤勾配	鉛直 水平0° 90°	使用機種	試錐機 吉田鉄工 YBM－1W
					エンジン ヤンマー NFA－100 ポンプ 鉱研 MG－10

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化変質	記事	コア採取率 －×－ (%) 最大コア長 －●－ cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位 m／測定月日	N値	（ルジオン、標準貫入）試験 （P～Q、N値～深度）図	原位置試験（ ）	室内試験（ ）	掘進状況 掘進月日	掘進速度（cm／時）	コアチューブ／ビット 孔径（mm） 孔壁保護	給圧（kN）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
0											0 50 100				0 10 20 30 40 50										
1			盛	中砂	褐灰					・深度0.00～2.00m 粒度の揃った均質な中砂。含水量少ない	(100)		11/25 0.50					試掘		140 ケーシング	0	0	0	無水	0
2	10.08	2.00									(100)							11/26		120	1	30	0	無水	0
	9.68	2.40		アスファルト	褐灰					・深度2.00～2.40m 劣化したアスファルト。径5～30mmの砕石、アスファルト片を含む。										80	1	30	0	無水	0
3											(100)		11/28 3.60					11/27		80	1	30	0	無水	0
4				中砂	褐灰					・深度2.40～4.75m 均質な中砂。細砂を含む。ラミナ見られない。含水量少ない。	(100)									240	打撃	0	0	無水	0
	7.33	4.75																11/24		140					
5											(100)							11/24		500	打撃	0	0	無水	0
6											(100)							11/24		300	打撃	0	0	無水	0
7				礫混り中砂	褐灰					・深度4.75～9.22m 径2～5mmの円礫が散在する中砂。細砂、粗砂を含む。ラミナ見られない。含水量少ない。	(100)							11/24		300	打撃	0	0	無水	0
8											(100)							11/24		240	打撃	0	0	無水	0
9	2.86	9.22									(100)		11/24 8.86					11/24		80	1	30	0	無水	0
	2.60	9.48		腐植物中砂	黒褐					・深度9.22～9.48m 炭化した腐植物片を多量に含む中砂 含水量多い。															
10											(100)							11/24		160	1	70	0.5	泥水	30
																		11/25		100	1	70	0.5	泥水	30
11										・深度9.48～14.67m 径2～5mmの円礫を中程度含む中砂。全体に灰色を呈し、細砂を多量に含む。含水量多い。	(100)							11/25		380	1	70	1	泥水	20
12				砂礫	灰					・深度9.48～11.58m 径5～10mmの亜円～亜角礫が散在する中砂。細砂多く含む。	(100)							11/25		276	1	70	1	泥水	20
13										・深度11.58～13.49m 径2～10mmの亜円～亜角礫を少量含む中砂。細砂含む。	(100)							11/25		119	1	70	1	泥水	20
14										・深度13.49～14.67m 径5～30mmの砂岩、頁岩、安山岩の円礫を多量に含む中砂。細砂、粗砂含む。	(100)							11/25		224	1	70	1	泥水	20
	-2.59	14.67																							
15	-2.92	15.00		砂混り粘土	暗灰					・深度14.67～15.00m 細砂を少量含む粘土。	(100)							11/25		186	0	70	1	泥水	20
16				礫混り細砂	灰					・深度14.69～14.72m 中砂を挟む。深度14.92～15.00m 貝殻片の小片を多量に含む。	(100)							11/25		165	1	70	1	泥水	20
17										・深度15.00～18.13m 径2～8mm、最大10mmの円礫が散在する細砂。中砂、粗砂を含む。含水量多く、締り緩い。	(100)							11/26		120	1	70	0.5	泥水	20
18	-6.05	18.13								・深度15.00～15.39m、深度16.75～16.83mには、径2～5mm円礫、貝殻片の小片を多量に含む。	(100)							11/26		250	1	70	0.5	泥水	20
	-6.82	18.90		砂礫	灰					・深度18.13～18.90m 径2～10mm、最大20mmの亜円～亜角礫を少量含む中砂。細砂、粗砂を含む。								11/26		110	1	70	0.5	泥水	18
19											(100)							11/26		70	1	70	0.5	泥水	18
																		11/26		50	1	70	0.5	泥水	0
																		11/26		57	1	70	0.5	泥水	19
20											(100)							11/26		102	1	70	0.5	泥水	19
																		11/26		60	1	70	0.5	泥水	19
21										・深度18.90～26.24m 径2～20mm、最大100mmの頁岩、チャート、砂岩、花崗岩の円～亜円礫を多量に含む。	(100)							11/26		98	1	70	0.5	泥水	19
										・基質部はシルト混り粗砂。中砂、細砂を多量に含む。全体に不均質である。								11/26		108	1	70	0.5	泥水	19
22				砂礫	灰～青灰					・深度24.37～24.64m、25.46～25.78m 細礫、粗砂からなる。	(100)							11/26		102	1	70	0.5	泥水	19
										・深度25.83～26.24m 径5～20mmの円礫からなる。								11/26		110	1	70	0.5	泥水	19
23											(100)							11/26		105	1	70	0.5	泥水	19
																		11/26		108	1	70	0.5	泥水	19
24											(100)							11/26		103	1	70	0.5	泥水	19
																		11/26		120	1	70	0.5	泥水	19
25											(100)							11/26		62	1	60	0.5	泥水	19
																		11/26		76	1	60	0.5	泥水	19
26	-14.16	26.24									(100)							11/26		65	1	60	0.5	泥水	19
																		11/26		75	1	60	0.5	泥水	15
27											(100)							11/26		92	1	60	0.5	泥水	20
28										・深度26.24～33.00m 細砂を含むシルト岩。水平方向にラミナ見られる。	(100)							11/29		197	0	70	0.5	泥水	20
										・明褐灰色のノジュール挟む 深度29.75～29.76m、30.06～30.07m、30.34～30.35m、31.15～31.17m、31.35～31.37m、31.33～31.35m								11/30		172	0	70	0.5	泥水	20
29										・深度25.24～26.41m 網目状の割れ目発達。	(100)							12/1							
30				Kc	暗オリーブ灰	C	l	a	α	・深度26.61～26.81m 径2～3mmのパミス含在	(100)							30.03	三軸(CUU)	172	0	70	0.5	泥水	20
				砂質泥岩						・深度27.78～28.00m 生痕 1×6mm								31.15							
31										・深度29.81～29.85m 未固結な細砂を挟む	(100)							31.68							
										・傾斜55～60° の面なし断層発達 深度30.50m、30.52m、30.58m、30.68m								12/1		92	0	70	0.5	泥水	20
32											(100)							32.73	三軸(CUU)	92	0	70	0.5	泥水	20
	-20.92	33.00																							

C-7-0（0～33m）

ボーリング柱状図

調査名　東海発電所 放射性物質濃度の極めて低い廃棄物の敷地内埋設施設に係る地質・地下水調査

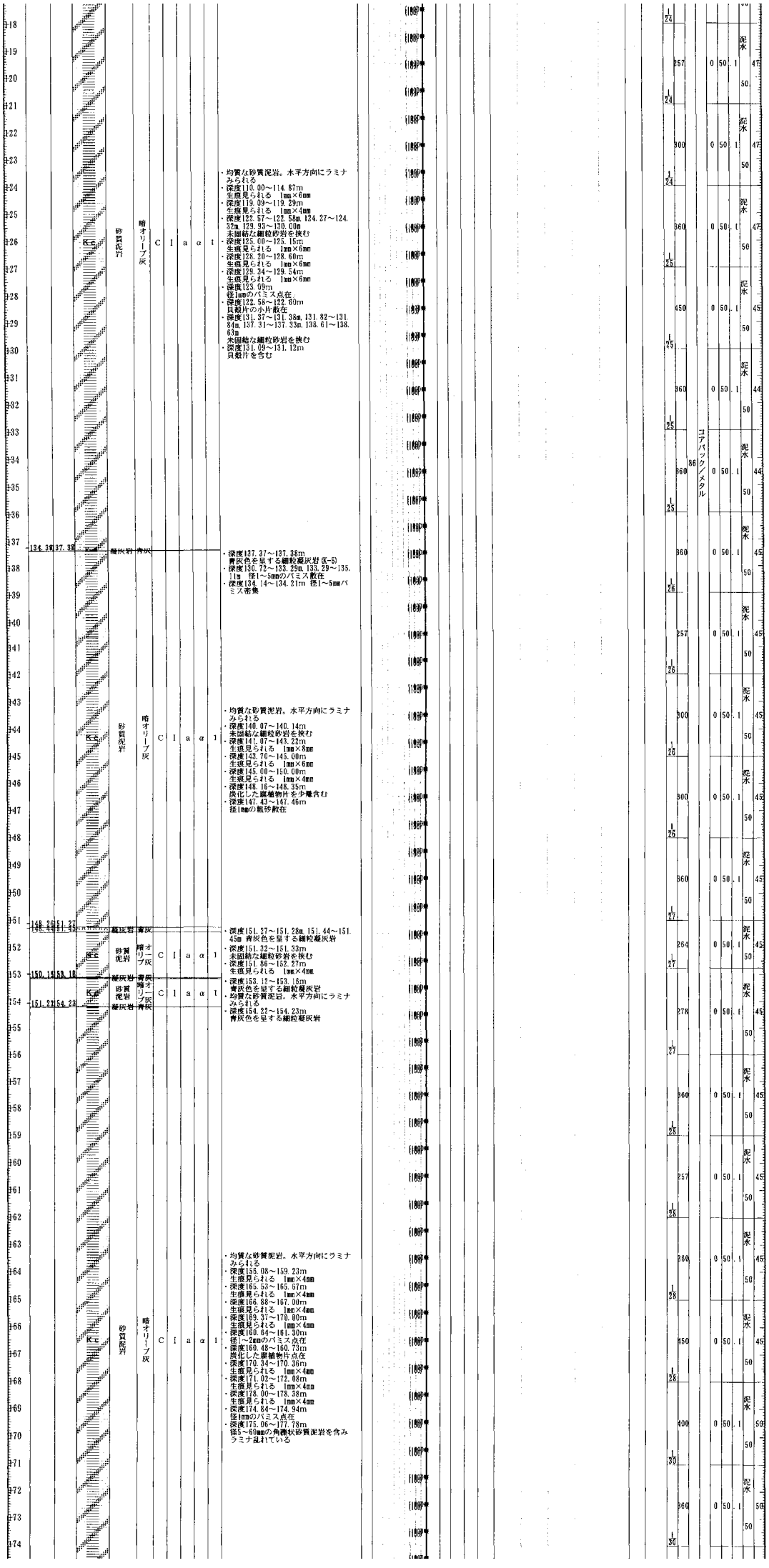
ボーリングNo. D-0-0

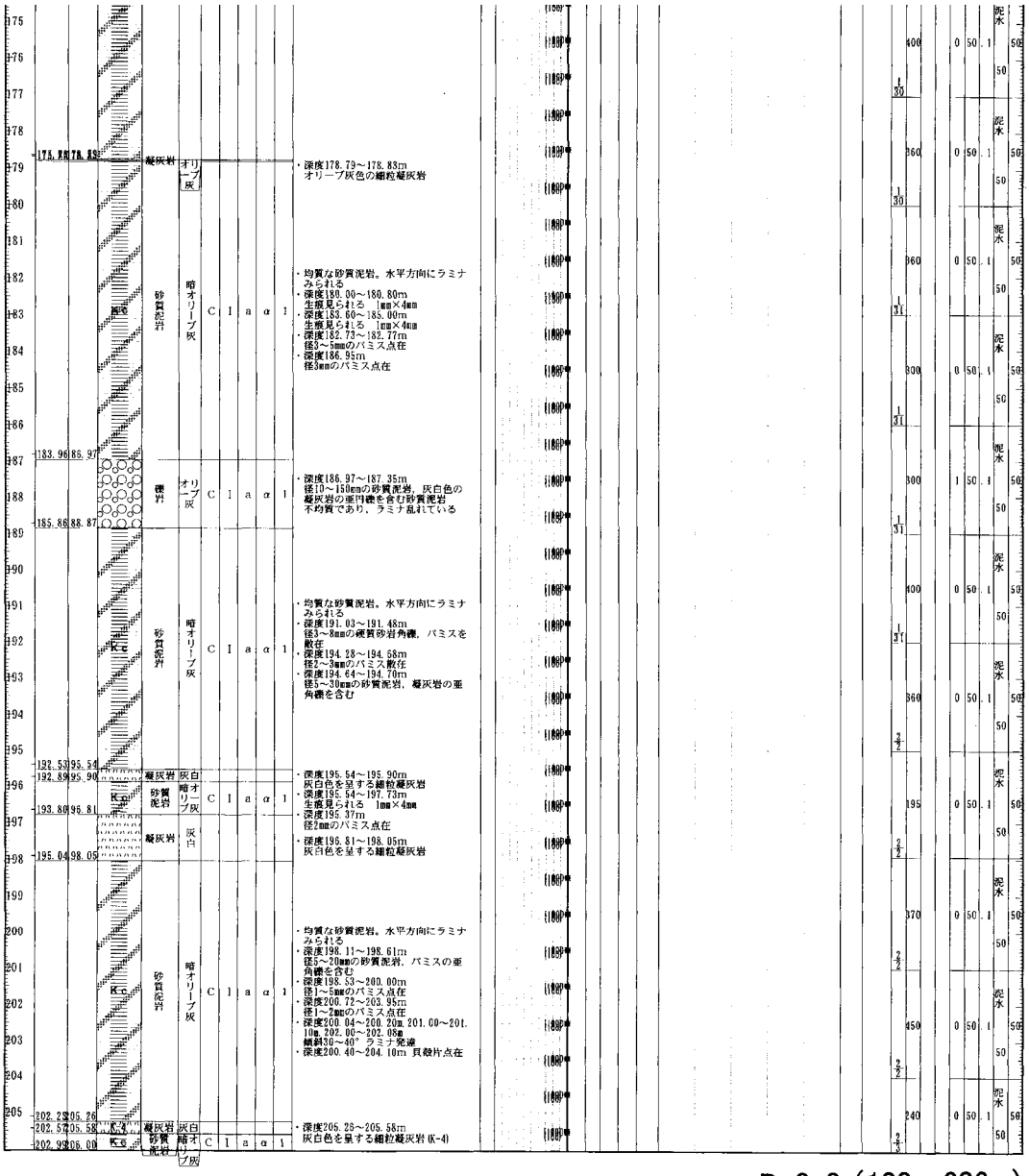
事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	D-0-0	調査位置	茨城県那珂郡東海村白方1番の1東海発電所構内	北緯	
発注機関	日本原子力発電株式会社	調査期間	平成17年12月16日～18年2月6日	東経	
調査業者名	[redacted] 主任技師 [redacted]	現場代理人 [redacted]	コア鑑定者 [redacted]	ボーリング責任者 [redacted]	
孔口標高	TP +3.01m	角度	方向	地盤勾配	使用機種
総掘進長	206.00m	試錐機	吉田鉄工製 YBM-3J型		
		エンジン	ヤンマー製 NFD-150型	ポンプ	吉田鉄工製 YBM GP-5型

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 −×−(%) 最大コア長 −●− cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位m／測定月日	N値	(ルジオン、標準貫入)試験 (P～Q、N値～深度)図	原位置試験	室内試験	掘進状況 掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)／コアチューブ／ビット／孔壁保護	給圧(MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(l/分)	排水量(l/分)
100				砂質泥岩	暗オリーブ灰	C	1	a	α	1	・均質な砂質泥岩。水平方向にラミナみられる ・深度100.20～100.23m, 103.27～103.28m, 106.67～106.75m, 111.04～111.07m 未固結な細粒砂岩を挟む ・深度100.00～102.75m 生痕見られる 1mm×4mm ・深度103.30～105.00m 生痕見られる 1mm×4mm ・深度105.00～110.00m 生痕見られる 1mm×6mm								1/21						
101																									
102																				360	0	50	1		50
103																			1/23						
104																									
105																				360	0	50	1		50
106																			1/23						
107																									
108																				300	0	50	1		50
109																			1/23						
110																									
111																				300	0	50	1		50
112																			1/23						
113																									
114																				360	0	50	1		47
	111.93	114.98		凝灰岩	灰白						・深度114.68～114.73m 灰白色を呈する細粒凝灰岩(K-6) ・深度112.55～112.92m 明オリーブ灰色を呈する細粒凝灰岩 ・深度118.75m 径3mmのパミス点在								1/24						
115																									
116																				360	0	50	1		47
117																									


・均質な砂質泥岩。水平方向にラミナみられる
・深度110.00～114.87m
生痕見られる　1mm×6mm
・深度119.09～119.29m
生痕見られる　1mm×4mm
・深度122.57～122.58m, 124.27～124.32m, 129.93～130.00m
未固結な細粒砂岩を挟む
・深度125.00～125.15m
生痕見られる　1mm×6mm
・深度128.20～128.60m
生痕見られる　1mm×6mm
・深度129.34～129.54m
生痕見られる　1mm×6mm
・深度123.09m
径1mmのパミス点在
・深度122.58～122.60m
貝殻片の小片散在
・深度131.37～131.38m, 131.82～131.84m, 137.31～137.33m, 138.61～138.63m
未固結な細粒砂岩を挟む
・深度131.09～131.12m
貝殻片を含む
・深度137.37～137.38m
青灰色を呈する細粒凝灰岩(K-5)
・深度130.75～133.29m, 133.29～135.11m　径1～5mmのパミス散在
・深度134.14～134.21m　径1～5mmパミス密集
・均質な砂質泥岩。水平方向にラミナみられる
・深度140.07～140.14m
未固結な細粒砂岩を挟む
・深度141.07～143.22m
生痕見られる　1mm×8mm
・深度142.70～145.00m
生痕見られる　1mm×6mm
・深度145.00～150.00m
生痕見られる　1mm×4mm
・深度148.16～148.35m
炭化した腐植物片を少量含む
・深度147.43～147.46m
径1mmの粗砂散在
・深度151.27～151.28m, 151.44～151.45m 青灰色を呈する細粒凝灰岩
・深度151.32～151.33m
未固結な細粒砂岩を挟む
・深度151.86～152.27m
生痕見られる　1mm×4mm
・深度153.12～153.15m
青灰色を呈する細粒凝灰岩
・均質な砂質泥岩。水平方向にラミナみられる
・深度154.22～154.23m
青灰色を呈する細粒凝灰岩
・均質な砂質泥岩。水平方向にラミナみられる
・深度155.08～159.23m
生痕見られる　1mm×4mm
・深度165.53～165.97m
生痕見られる　1mm×4mm
・深度166.88～167.00m
生痕見られる　1mm×4mm
・深度169.37～170.00m
生痕見られる　1mm×4mm
・深度160.64～161.30m
径1～2mmのパミス点在
・深度160.48～160.73m
炭化した腐植物片点在
・深度170.34～170.36m
生痕見られる　1mm×4mm
・深度171.02～172.08m
生痕見られる　1mm×4mm
・深度178.00～178.38m
生痕見られる　1mm×4mm
・深度174.84～174.94m
径1mmのパミス点在
・深度175.06～177.78m
径5～60mmの角礫状砂質泥岩を含みラミナ乱れている
泥水
コアバック/メタル


・深度178.79～178.83m
オリーブ灰色の細粒凝灰岩
・均質な砂質泥岩。水平方向にラミナみられる
・深度180.00～180.80m
生痕見られる 1mm×4mm
・深度183.60～185.00m
生痕見られる 1mm×4mm
・深度182.73～182.77m
径3～5mmのパミス点在
・深度186.95m
径3mmのパミス点在
・深度186.97～187.35m
径10～150mmの砂質泥岩，灰白色の凝灰岩の亜円礫を含む砂質泥岩
不均質であり，ラミナ乱れている
・均質な砂質泥岩。水平方向にラミナみられる
・深度191.03～191.48m
径3～8mmの硬質砂岩角礫，パミスを散在
・深度194.28～194.58m
径2～3mmのパミス散在
・深度194.64～194.70m
径5～30mmの砂質泥岩，凝灰岩の亜角礫を含む
・深度195.54～195.90m
灰白色を呈する細粒凝灰岩
・深度195.54～197.73m
生痕見られる 1mm×4mm
・深度195.37m
径2mmのパミス点在
・深度196.81～198.05m
灰白色を呈する細粒凝灰岩
・均質な砂質泥岩。水平方向にラミナみられる
・深度198.11～198.61m
径5～20mmの砂質泥岩，パミスの亜角礫を含む
・深度198.53～200.00m
径1～5mmのパミス点在
・深度200.72～203.95m
径1～2mmのパミス点在
・深度200.04～200.20m，201.00～201.10m，202.00～202.05m
傾斜30～40° ラミナ発達
・深度200.40～204.10m 貝殻片点在
・深度205.28～205.58m
灰白色を呈する細粒凝灰岩(K-4)

D-0-0（100～206m）

ボーリング柱状図

調査名	東海発電所 放射性物質濃度の極めて低い廃棄物の敷地内埋設施設に係る地質・地下水調査	ボーリングNo.	D-3-0
事業・工事名		シートNo.	

ボーリング名	D-3-0	調査位置	茨城県那珂郡東海村白方1番の1東海発電所構内北地区	北緯	
発注機関	日本原子力発電株式会社	調査期間	平成17年11月14日～17年12月10日	東経	
調査業者名	[redacted]	主任技師	[redacted]	現場代理人	[redacted]
		コア鑑定者	[redacted]	ボーリング責任者	[redacted]
孔口標高	TP +4.03m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南
地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°	使用機種	試錐機	吉田鉄工製 YBM-1WA型	
総掘進長	116.20m		エンジン	ヤンマー製 NFD-150型	ポンプ 東邦製 BG-10C型

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
1	3.07	0.96		表土	黒褐						・深度0.00～0.96m 草根を含む中砂 ・深度0.00～0.43m 腐植物を多量に含む
2				中砂	褐灰						・深度0.96～4.84m 均質な中砂。細砂含む。ラミナ見られない。 ・深度2.44～2.53m 茶褐色のシルト含む
3	1.03	3.00	du								
4					灰						・深度3.00～4.84m 灰色を呈する中砂。含水量中程度。締まっている。
5	-0.84	4.84	Ar2	腐植物粘土	黒褐						・深度4.84～5.00m 炭化した腐植物の小片を多量に含む粘土
6	-0.97	5.00	Ag2	礫混り中砂	灰						・深度5.00～6.10m 径2～3mmの円礫を少量含む中砂
7	-2.07	6.10	Ar2	腐植物粘土	暗灰						・深度6.10～6.33m 炭化した腐植物の小片を少量含む粘土
8	-2.30	6.33	Ag2	砂礫	灰						・深度6.33～8.30m 径2～8mmの円礫を多量に含む粗砂中砂を含む。ラミナ見られない。
9	-4.27	8.30	Ac1	粘土	暗灰						・深度8.30～10.84m 均質な粘土。ラミナ見られない。貝殻片の小片散在。含水量多く、粘性強い。
10											
11	-6.81	10.84									
12			As1	シルト混り細砂	暗灰						・深度10.84～13.72m 全体にシルトを含む細砂。ラミナ見られない。貝殻片の小片，炭化した腐植物片の小片散在。含水量多く、締まり緩い。
13	-9.69	13.72									
14											
15			Ac1	粘土	暗灰						・深度13.72～17.11m 均質な粘土。ラミナ見られない。炭化した腐植物片の小片，貝殻片の小片散在。含水量多く、粘性強い。
16											
17	-13.08	17.11									
18											
19											・深度17.11～23.18m 全体にシルトを含む細砂。水平方向にラミナ見られる。貝殻片の小片，炭化した腐植物片の小片散在。 ・深度18.30～19.16m 厚さ5～20mmのシルトと細砂の互層 ・深度20.00～20.60m 均質な細砂 ・深度20.60～23.06m 厚さ5～20mmのシルトと細砂の互層 ・深度23.06～23.18m シルト質細砂
20			As1	シルト混り細砂	暗灰						
21											
22											
23	-19.15	23.18									
24	-19.82	23.85			オリーブ灰						・深度23.18～23.85m 全体に細砂を少量含む粘土 ・深度23.85～24.60m 均質な粘土。ラミナ見られない。
25	-20.57	24.60			暗灰						
	-21.13	25.16			黒褐						・深度24.60～25.16m 炭化した腐植物の小片を多量に含む粘土

コア採取率 -×- (%) 最大コア長 -●- cm R Q D (%) 0 50 100

岩級区分

孔内水位m／測定日 3.00

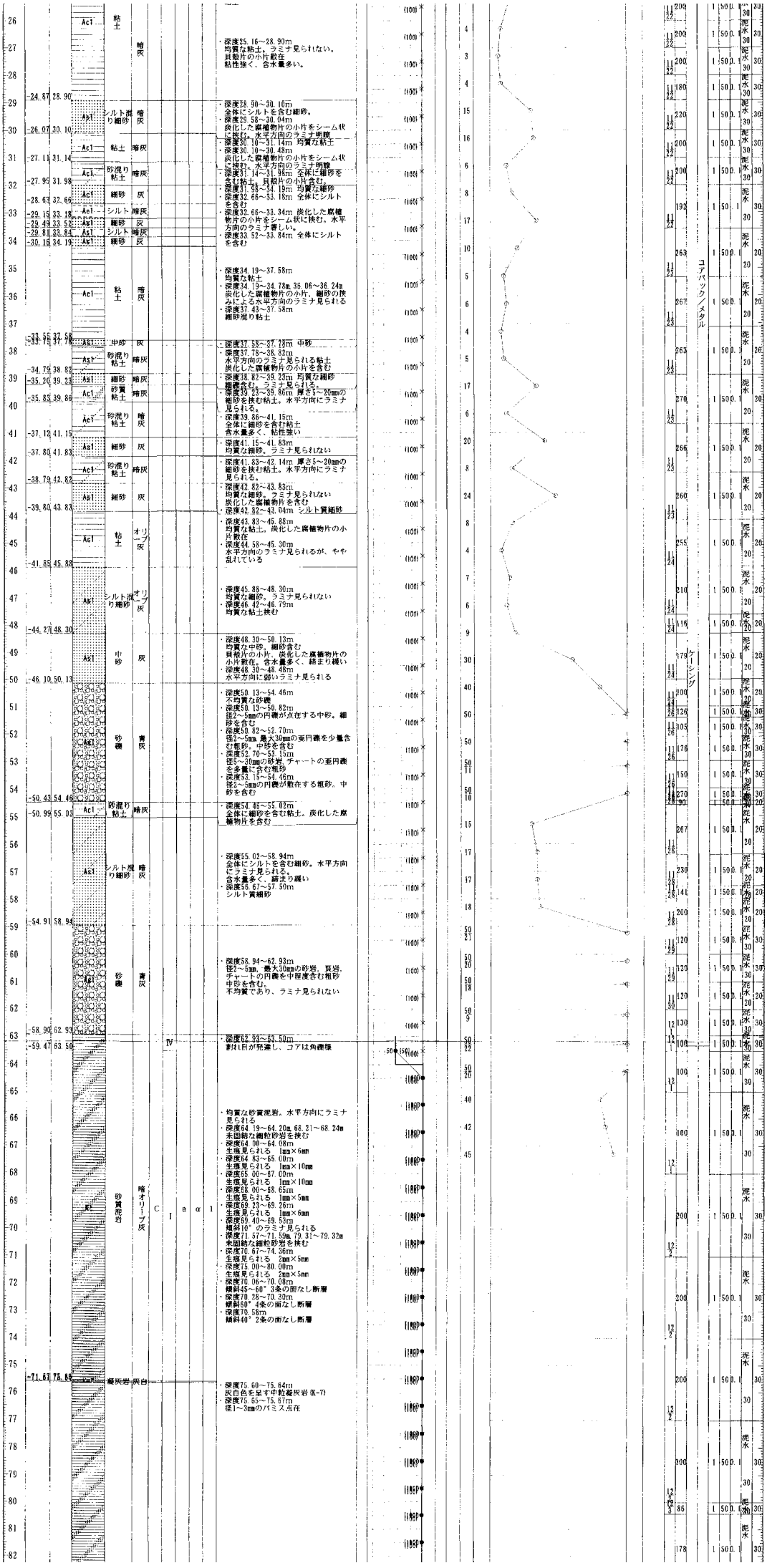
（ルジオン、標準貫入）試験 （P～Q、N値～深度）図 N値 -○- 0 10 20 30 40 50

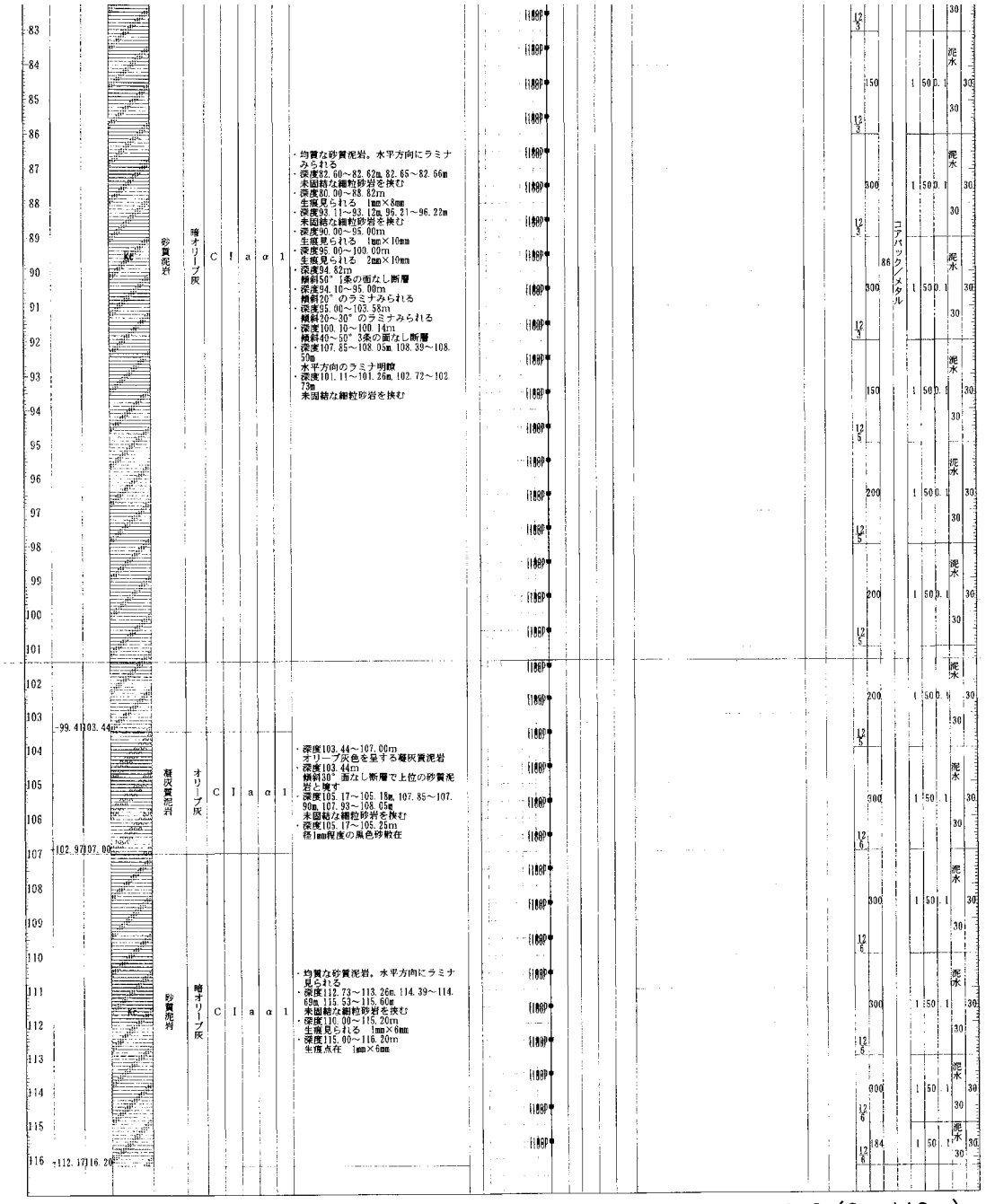
原位置試験（ ）

室内試験（ ）

掘進状況

掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(l/分)	排水量(l/分)
11/15	試掘	175 ケーシング	試掘 コアパック／メタル	0	0	0	無水 0	0
11/16	200	175 ケーシング		1	50	0.1	泥水 20	20
11/16	200			1	50	0.1	泥水 20	20
11/16	150	141 ケーシング	コアパック／メタル	1	50	0.1	泥水 20	20
11/17	200			1	50	0.1	泥水 20	20
11/17	200			1	50	0.1	泥水 20	20
11/17	200			1	50	0.1	泥水 20	20
11/18	180			1	50	0.1	泥水 20	30
11/18	840			1	50	0.1	泥水 30	30
11/18	330			1	50	0.1	泥水 30	30
11/18	345			1	50	0.1	泥水 30	30
11/18	405			1	50	0.1	泥水 30	30
11/18	240			1	50	0.1	泥水 30	30
11/18	330			1	50	0.1	泥水 30	30
11/19	183			1	50	0.1	泥水 20	20
11/19	184			1	50	0.1	泥水 20	20
11/19	183			1	50	0.1	泥水 20	20
11/19	184			1	50	0.1	泥水 20	20
11/19	240			1	50	0.1	泥水 20	20
11/19	240			1	50	0.1	泥水 20	20
11/19	240	114		1	50	0.1	泥水 20	20
11/19	240			1	50	0.1	泥水 20	20
11/22	160			1	50	0.1	泥水 30	30


コアバック／メタル
ケーシング


砂質泥岩
暗オリーブ灰
C l a α 1
・均質な砂質泥岩。水平方向にラミナ
みられる
・深度82.60～82.62m, 82.65～82.66m
未固結な細粒砂岩を挟む
・深度80.90～88.82m
生痕見られる 1mm×8mm
・深度93.11～93.12m, 95.21～96.22m
未固結な細粒砂岩を挟む
・深度90.00～95.00m
生痕見られる 1mm×10mm
・深度95.00～100.00m
生痕見られる 2mm×10mm
・深度94.82m
傾斜50° 1条の面なし断層
・深度94.10～95.00m
傾斜20° のラミナみられる
・深度95.00～103.58m
傾斜20～30° のラミナみられる
・深度100.10～100.14m
傾斜40～50° 3条の面なし断層
・深度107.85～108.05m, 108.39～108.
50m
水平方向のラミナ明瞭
・深度101.11～101.26m, 102.72～102.
79m
未固結な細粒砂岩を挟む
99.41
103.44
凝灰質泥岩
オリーブ灰
・深度103.44～107.00m
オリーブ灰色を呈する凝灰質泥岩
・深度103.44m
傾斜50° 面なし断層で上位の砂質泥
岩と接す
・深度105.17～105.19m, 107.85～107.
90m, 107.93～108.05m
未固結な細粒砂岩を挟む
・深度105.17～105.21m
径1mm程度の黒色砂粒在
102.97
107.00
砂質泥岩
暗オリーブ灰
・均質な砂質泥岩。水平方向にラミナ
見られる
・深度112.73～113.26m, 114.39～114.
69m, 115.53～115.90m
未固結な細粒砂岩を挟む
・深度110.00～115.20m
生痕見られる 1mm×6mm
・深度115.00～116.20m
生痕点在 1mm×6mm
112.17
116.20
コアバック／メタル
泥水

D-3-0（0～116m）

ボーリング柱状図

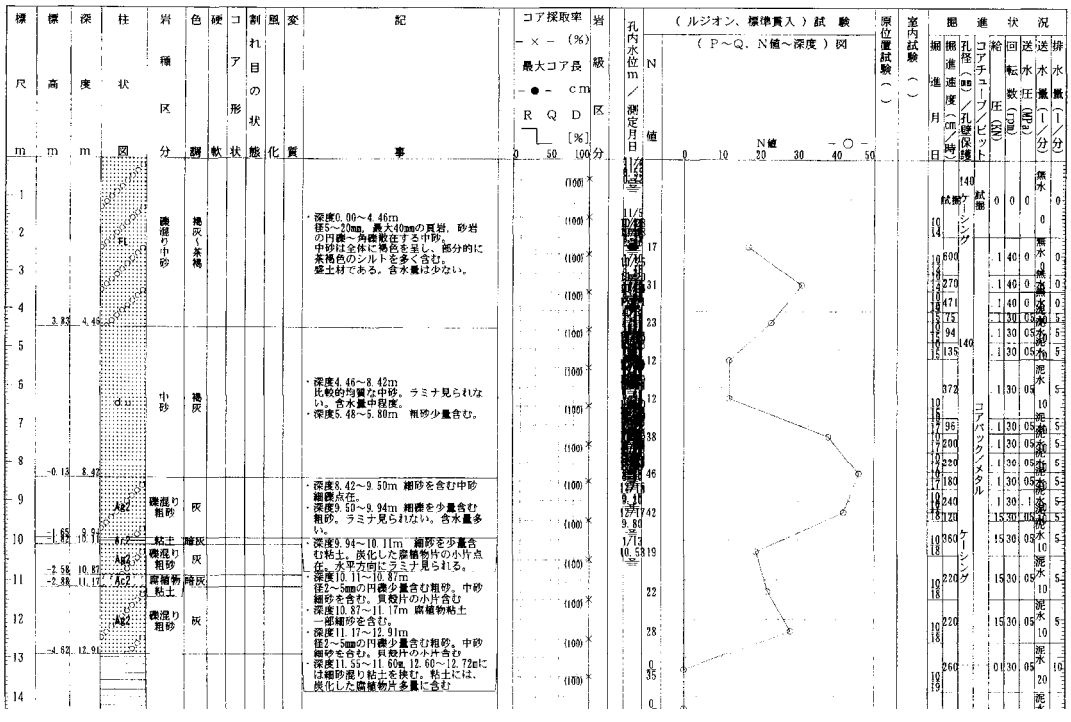
調査名　東海発電所 放射性物質濃度の極めて低い廃棄物の敷地内埋設施設に係る地質・地下水調査

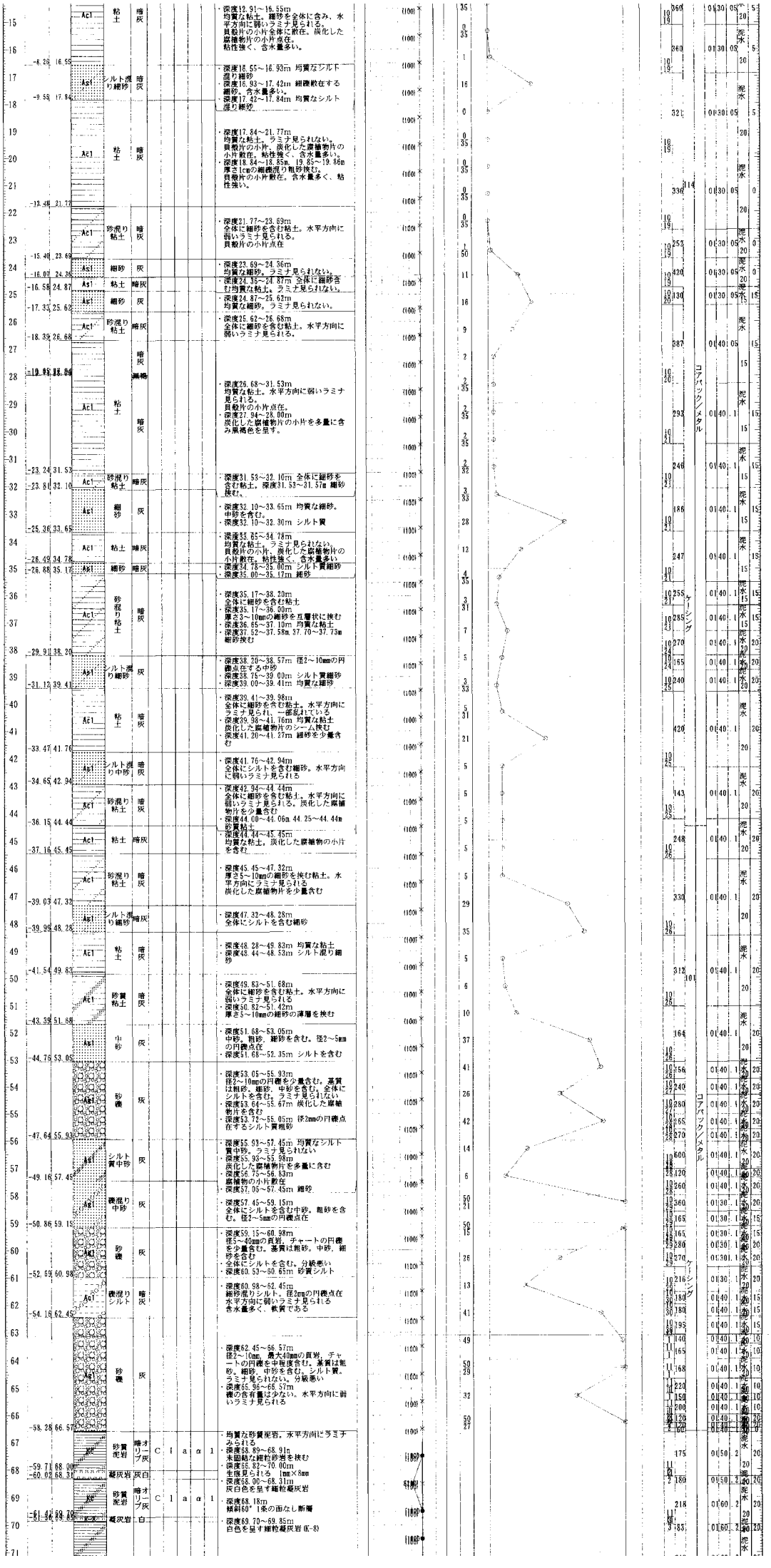
ボーリングNo. D-4-0

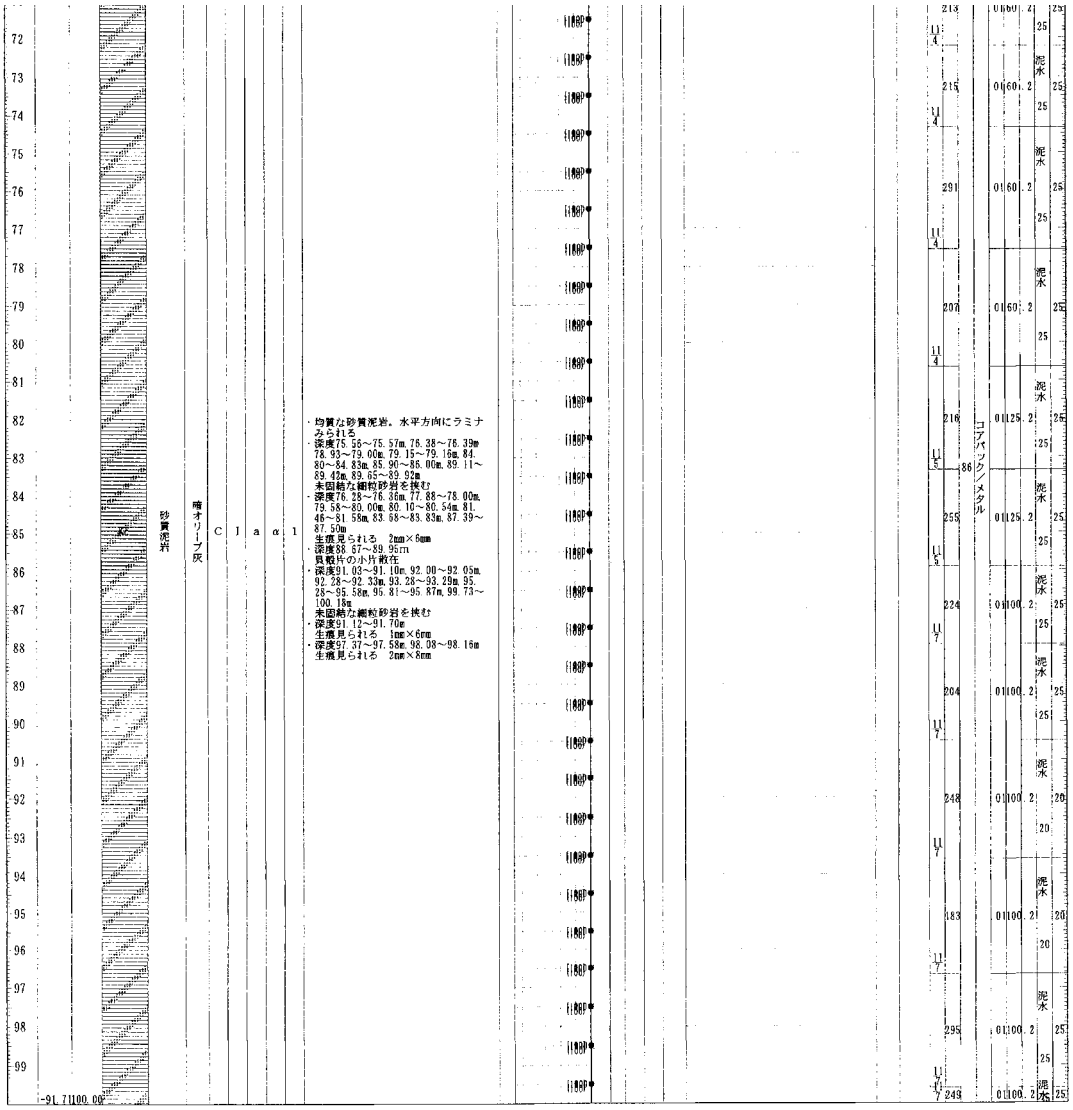
事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	D-4-0	調査位置	茨城県那珂郡東海村白方1番の1東海発電所構内北地区
発注機関	日本原子力発電株式会社	調査期間	平成17年9月22日～18年2月7日
調査業者名	[redacted]	主任技師	[redacted]
孔口標高	TP +8.29m	角度	上180° 下0° 90°
総掘進長	100.00m	方向	北0° 東90° 南180° 西270°
地盤勾配	水平0° 90°	使用機種	
現場代理人	[redacted]	コア鑑定者	[redacted]
ボーリング責任者	[redacted]		
試錐機	エヌエルシー製 メガロL38型		
エンジン	三井ドイツ製 3C9型	ポンプ	東邦製 BG-3型




深度12.91～16.55m
均質な粘土。細砂を全体に含み、水平方向に弱いラミナ見られる。
貝殻片の小片全体に散在。炭化した腐植物片の小片点在。
粘性強く、含水量多い。
深度16.55～16.93m 均質なシルト混り細砂
深度16.93～17.42m 細礫散在する細砂。含水量多い。
深度17.42～17.84m 均質なシルト混り細砂
深度17.84～21.77m
均質な粘土。ラミナ見られない。
貝殻片の小片、炭化した腐植物片の小片散在。粘性強く、含水量多い。
深度18.84～18.85m、19.85～19.86m
厚さ1cmの細礫混り粗砂挟む。
貝殻片の小片散在。含水量多く、粘性強い。
深度21.77～23.69m
全体に細砂を含む粘土。水平方向に弱いラミナ見られる。
貝殻片の小片点在
深度23.69～24.36m
均質な細砂。ラミナ見られない。
深度24.36～24.87m 全体に細砂含む均質な粘土。ラミナ見られない。
深度24.87～25.62m
均質な細砂。ラミナ見られない。
深度25.62～26.68m
全体に細砂を含む粘土。水平方向に弱いラミナ見られる。
深度26.68～31.53m
均質な粘土。水平方向に弱いラミナ見られる。
貝殻片の小片点在。
深度27.94～28.00m
炭化した腐植物片の小片を多量に含み黒褐色を呈す。
深度31.53～32.10m 全体に細砂を含む粘土。深度31.53～31.57m 細砂挟む。
深度32.10～33.65m 均質な細砂。
中砂を含む。
深度32.10～32.30m シルト質
深度33.65～34.78m
均質な粘土。ラミナ見られない。
貝殻片の小片、炭化した腐植物片の小片散在。粘性強く、含水量多い。
深度34.78～35.00m シルト質細砂
深度35.00～35.17m 細砂
深度35.17～38.20m
全体に細砂を含む粘土
深度35.17～36.00m
厚さ3～10mmの細砂を互層状に挟む
深度36.65～37.10m 均質な粘土
深度37.52～37.58m、37.70～37.75m
細砂挟む
深度38.20～38.57m 径2～10mmの円礫点在する中砂
深度38.75～39.00m シルト質細砂
深度39.00～39.41m 均質な細砂
深度39.41～39.98m
全体に細砂を含む粘土。水平方向にラミナ見られ、一部乱れている
深度39.98～41.76m 均質な粘土
炭化した腐植物片のシーム挟む
深度41.20～41.27m 細砂を少量含む
深度41.76～42.94m
全体にシルトを含む細砂。水平方向に弱いラミナ見られる
深度42.94～44.44m
全体に細砂を含む粘土。水平方向に弱いラミナ見られる。炭化した腐植物片を少量含む
深度44.00～44.06m、44.25～44.44m
砂質粘土
深度44.44～45.45m
均質な粘土。炭化した腐植物の小片を含む
深度45.45～47.32m
厚さ5～10mmの細砂を挟む粘土。水平方向にラミナ見られる
炭化した腐植物片を少量含む
深度47.32～48.28m
全体にシルトを含む細砂
深度48.28～49.83m 均質な粘土
深度48.44～48.53m シルト混り細砂
深度49.83～51.68m
全体に細砂を含む粘土。水平方向に弱いラミナ見られる
深度50.82～51.42m
厚さ5～10mmの細砂の薄層を挟む
深度51.68～53.05m
中砂。粗砂、細砂を含む。径2～5mmの円礫点在
深度51.68～52.35m シルトを含む
深度53.05～55.93m
径2～10mmの円礫を少量含む。基質は粗砂、細砂、中砂を含む。全体にシルトを含む。ラミナ見られない
深度53.64～55.67m 炭化した腐植物片を含む
深度53.72～55.05m 径2mmの円礫点在するシルト質粗砂
深度55.93～57.45m 均質なシルト質中砂。ラミナ見られない
深度55.93～56.98m
炭化した腐植物片を多量に含む
深度56.75～56.83m
腐植物の小片散在
深度57.05～57.45m 細砂
深度57.45～59.15m
全体にシルトを含む中砂。粗砂を含む。径2～5mmの円礫点在
深度59.15～60.98m
径5～40mmの頁岩、チャートの円礫を少量含む。基質は粗砂。中砂、細砂を含む
全体にシルトを含む。分級悪い
深度60.53～60.65m 砂質シルト
深度60.98～62.45m
細砂混りシルト。径2mmの円礫点在
水平方向に弱いラミナ見られる
含水量多く、軟質である
深度62.45～66.57m
径2～10mm、最大40mmの頁岩、チャートの円礫を中程度含む。基質は粗砂、細砂、中砂を含む。シルト質。
ラミナ見られない。分級悪い
深度65.96～66.57m
礫の含有量は少ない。水平方向に弱いラミナ見られる
均質な砂質泥岩。水平方向にラミナ見られる
深度68.85～68.91m
未固結な細粒砂岩を挟む
深度68.82～70.00m
生痕見られる 1mm×8mm
深度68.00～68.31m
灰白色を呈す細粒凝灰岩
深度68.18m
傾斜60° 1条の面なし断層
深度69.70～69.85m
白色を呈す細粒凝灰岩(K-8)
コアバック/メタル
ケーシング
コアバック/メタル
ケーシング


砂質泥岩
暗オリーブ灰
C J a α 1
・均質な砂質泥岩。水平方向にラミナみられる
・深度75.56～75.57m.76.38～76.39m
78.93～79.00m.79.15～79.16m.84.80～84.83m.85.90～85.00m.89.11～89.42m.89.85～89.92m
未固結な細粒砂岩を挟む
・深度76.28～76.36m.77.88～78.00m.79.58～80.00m.80.10～80.54m.81.46～81.55m.83.68～83.83m.87.39～87.50m
生痕見られる 2mm×6mm
・深度88.67～89.95m
貝殻片の小片散在
・深度91.03～91.10m.92.00～92.05m.92.28～92.33m.93.28～93.29m.95.28～95.58m.95.81～95.87m.99.73～100.18m
未固結な細粒砂岩を挟む
・深度91.12～91.70m
生痕見られる 1mm×6mm
・深度97.37～97.58m.98.08～98.16m
生痕見られる 3mm×8mm
コアパック/メタル
泥水

D-4-0（0～100m）

ボーリング柱状図

調　査　名　東海発電所 放射性物質濃度の極めて低い廃棄物の敷地内埋設施設に係る地質・地下水調査

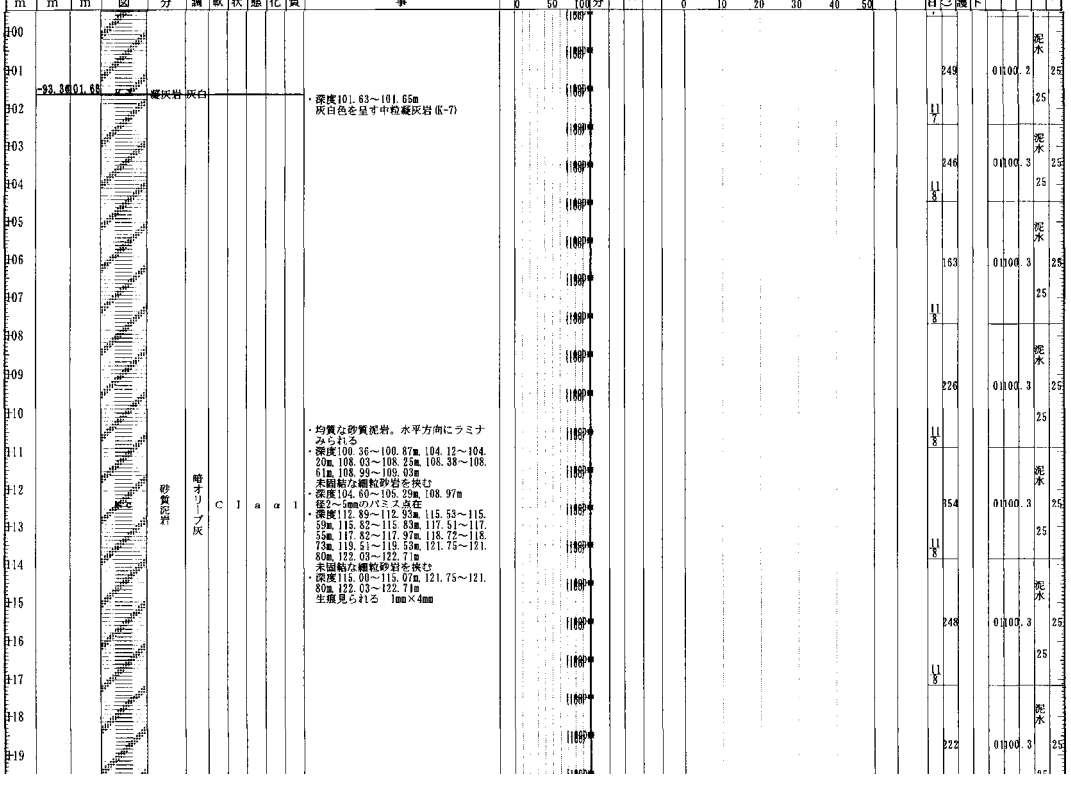
ボーリングNo.　D－4－0

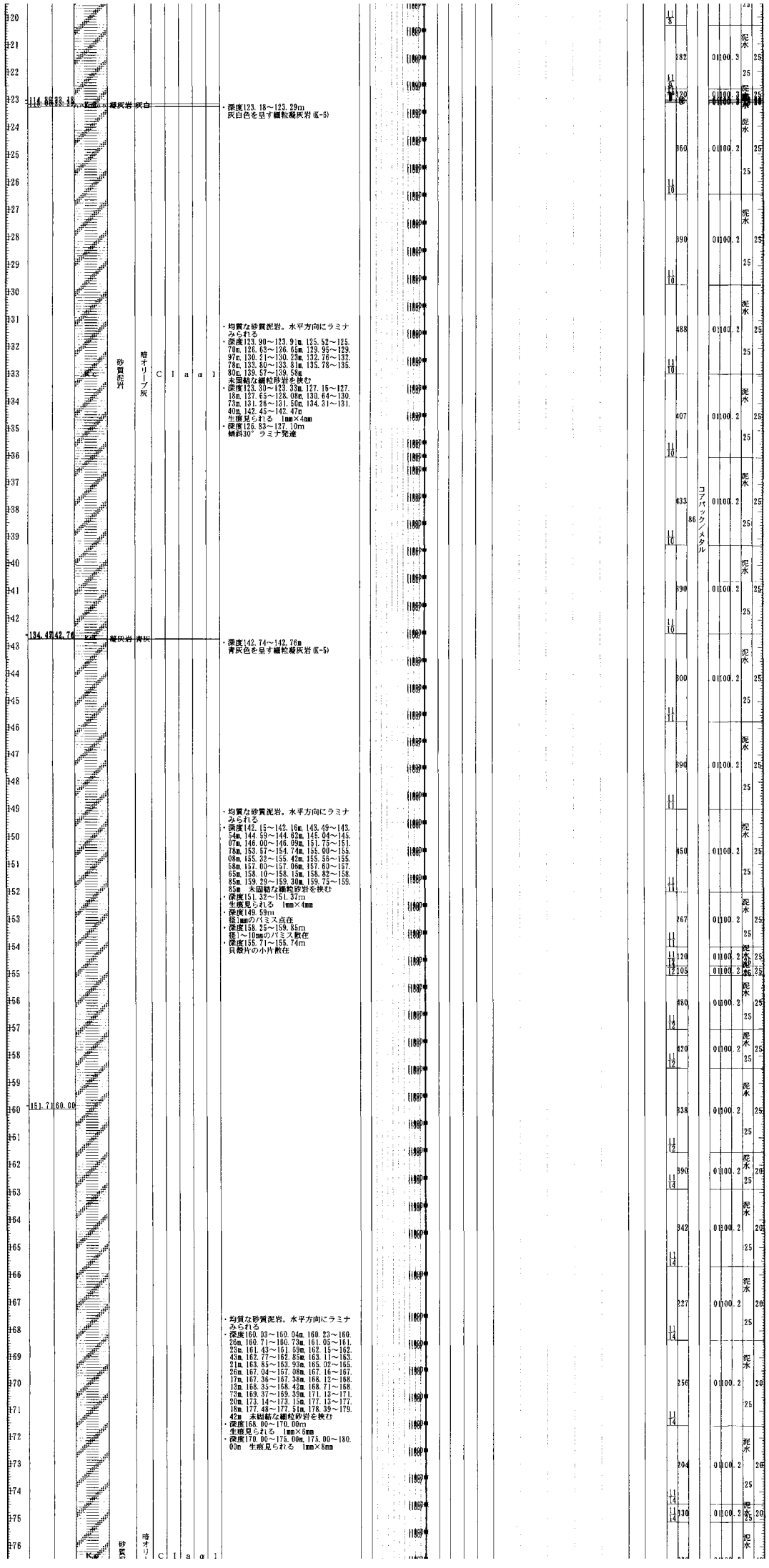
事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	D-4-0	調査位置	茨城県那珂郡東海村白方1番の1東海発電所構内北地区	北　緯	
発注機関	日本原子力発電株式会社	調査期間	平成17年9月22日～18年2月7日	東　経	
調査業者名	[redacted] 主任技師 [redacted]	現場代理人	[redacted] コア鑑定者 [redacted]	ボーリング責任者	[redacted]
孔口標高	TP +8.29m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南
総掘進長	410.00m	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°	使用機種	
試錐機	エヌエルシー製　メガロＬ３８型				
エンジン	三井ドイツ製　３Ｃ９型	ポンプ	東邦製　ＢＧ－３型		

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ口の状態	風化	変質	記事	コア採取率 －×－ (%) 最大コア長 －●－ cm RQD [%] 0 50 100	岩級区分	孔内水位m／測定月日	N値	(ルジオン、標準貫入)試験 (P～Q、N値～深度)図 N値 0 10 20 30 40 50	原位置試験(　)	室内試験(　)	掘進状況 掘進月日	掘進速度(m/時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(KN)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(l/分)	排水量(l/分)
100																											
101	-93.36	101.65		凝灰岩	灰白						・深度101.63～101.65m 灰白色を呈す中粒凝灰岩(K-7)																
102																			11/7	249			01	100	2	泥水 25	25
103																											
104																			11/8	246			01	100	3	泥水 25	25
105																											
106																				163			01	100	3	泥水 25	25
107																			11/8								
108																											
109																				226			01	100	3	泥水 25	25
110																			11/8								
111											・均質な砂質泥岩。水平方向にラミナみられる ・深度100.36～100.87m, 104.12～104.20m, 108.03～108.25m, 108.38～108.61m, 108.99～109.03m 未固結な細粒砂岩を挟む ・深度104.60～105.29m, 108.97m 径2～5mmのパミス点在 ・深度112.89～112.93m, 115.53～115.59m, 115.82～115.83m, 117.51～117.55m, 117.82～117.97m, 118.72～118.73m, 119.51～119.53m, 121.75～121.80m, 122.03～122.71m 未固結な細粒砂岩を挟む ・深度115.00～115.07m, 121.75～121.80m, 122.03～122.71m 生痕見られる　1mm×4mm																										
112				砂質泥岩	暗オリーブ灰	C	l	a	α	l																	
113																			11/8	354			01	100	3	泥水 25	25
114																											
115																				248			01	100	3	泥水 25	25
116																											
117																			11/8								
118																											
119																				222			01	100	3	泥水 25	25





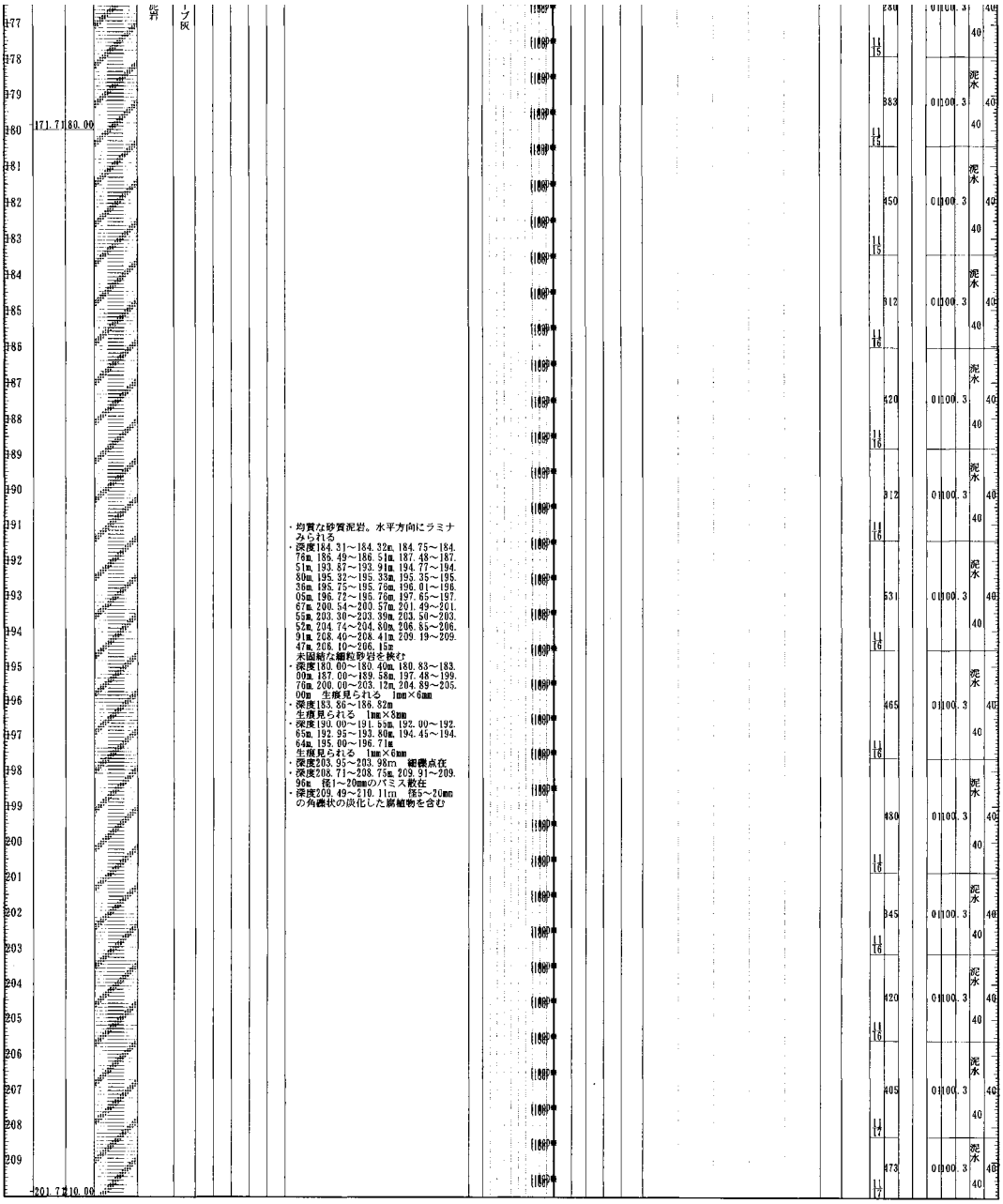
・深度123.18～123.29m
灰白色を呈す細粒凝灰岩(K-5)

・均質な砂質泥岩。水平方向にラミナみられる
・深度123.90～123.91m、125.52～125.70m、126.63～126.65m、129.96～129.97m、130.21～130.23m、132.76～132.78m、133.80～133.81m、135.78～135.80m、139.57～139.58m
未固結な細粒砂岩を挟む
・深度123.30～123.33m、127.15～127.18m、127.65～128.08m、130.64～130.73m、131.26～131.50m、134.31～131.40m、142.45～142.47m
生痕見られる　1mm×4mm
・深度126.83～127.10m
傾斜30°ラミナ発達

・深度142.74～142.76m
青灰色を呈す細粒凝灰岩(K-5)

・均質な砂質泥岩。水平方向にラミナみられる
・深度142.15～142.16m、143.49～143.54m、144.59～144.62m、145.04～145.07m、146.00～146.09m、151.75～151.78m、153.57～154.74m、155.00～155.08m、155.32～155.42m、155.56～155.58m、157.00～157.06m、157.60～157.65m、158.10～158.15m、158.82～158.85m、159.29～159.30m、159.75～159.85m　未固結な細粒砂岩を挟む
・深度151.32～151.37m
生痕見られる　1mm×4mm
・深度149.59m
径1mmのパミス点在
・深度158.25～159.85m
径1～10mmのパミス散在
・深度155.71～155.74m
貝殻片の小片散在

・均質な砂質泥岩。水平方向にラミナみられる
・深度160.03～160.04m、160.23～160.26m、160.71～160.73m、161.05～161.23m、161.43～161.53m、162.15～162.45m、162.77～162.85m、163.11～163.21m、163.85～163.93m、165.02～165.26m、167.04～167.08m、167.16～167.17m、167.36～167.38m、168.12～168.13m、168.35～168.42m、168.71～168.73m、169.37～169.39m、171.13～171.20m、173.14～173.15m、177.13～177.18m、177.48～177.51m、178.39～179.42m　未固結な細粒砂岩を挟む
・深度168.00～170.00m
生痕見られる　1mm×5mm
・深度170.00～175.00m、175.00～180.00m　生痕見られる　1mm×5mm


能野
ープ区
171.71 180.00
201.71 210.00
・均質な砂質泥岩。水平方向にラミナみられる
・深度184.31～184.32m, 184.75～184.76m, 186.49～186.51m, 187.48～187.51m, 193.87～193.91m, 194.77～194.80m, 195.32～195.33m, 195.35～195.36m, 195.75～195.76m, 196.01～196.05m, 196.72～196.76m, 197.65～197.67m, 200.54～200.57m, 201.49～201.55m, 203.30～203.39m, 203.50～203.52m, 204.74～204.80m, 206.85～206.91m, 208.40～208.41m, 209.19～209.47m, 206.10～206.15m
木園緒な細粒砂岩を挟む
・深度180.00～180.40m, 180.83～183.00m, 187.00～189.58m, 197.48～199.76m, 200.00～203.12m, 204.89～205.00m　生痕見られる　1mm×6mm
・深度183.86～186.82m
生痕見られる　1mm×8mm
・深度190.00～191.65m, 192.00～192.65m, 192.95～193.80m, 194.45～194.64m, 195.00～196.71m
生痕見られる　1mm×6mm
・深度203.95～203.98m　細礫点在
・深度208.71～208.75m, 209.91～209.96m　径1～20mmのパミス散在
・深度209.49～210.11m　径5～20mmの角礫状の炭化した腐植物を含む
泥水

D-4-0（100～210m）

ボーリング柱状図

調査名　東海発電所 放射性物質濃度の極めて低い廃棄物の敷地内埋設施設に係る地質・地下水調査

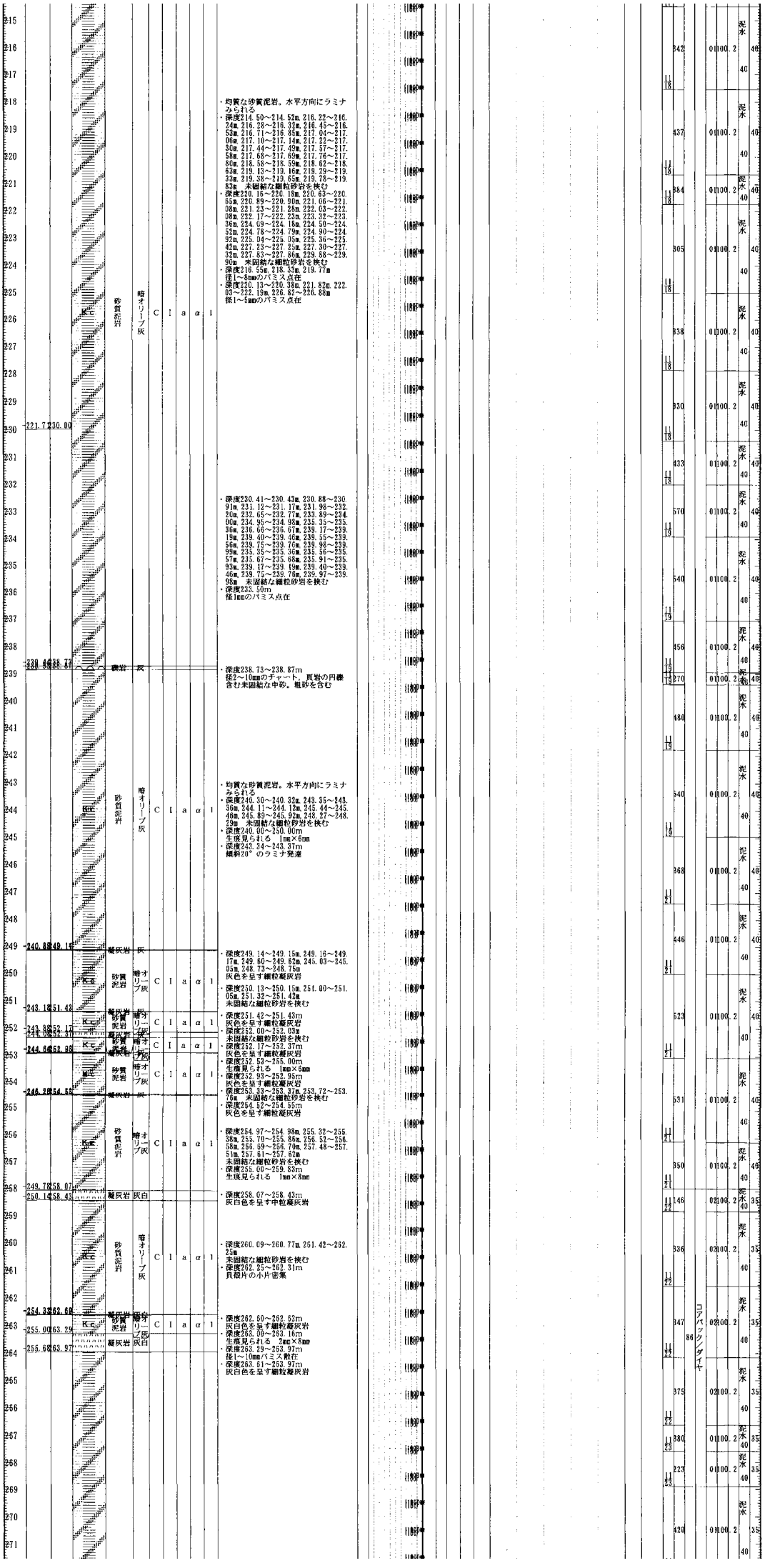
ボーリングNo. D-4-0

事業・工事名

シートNo.

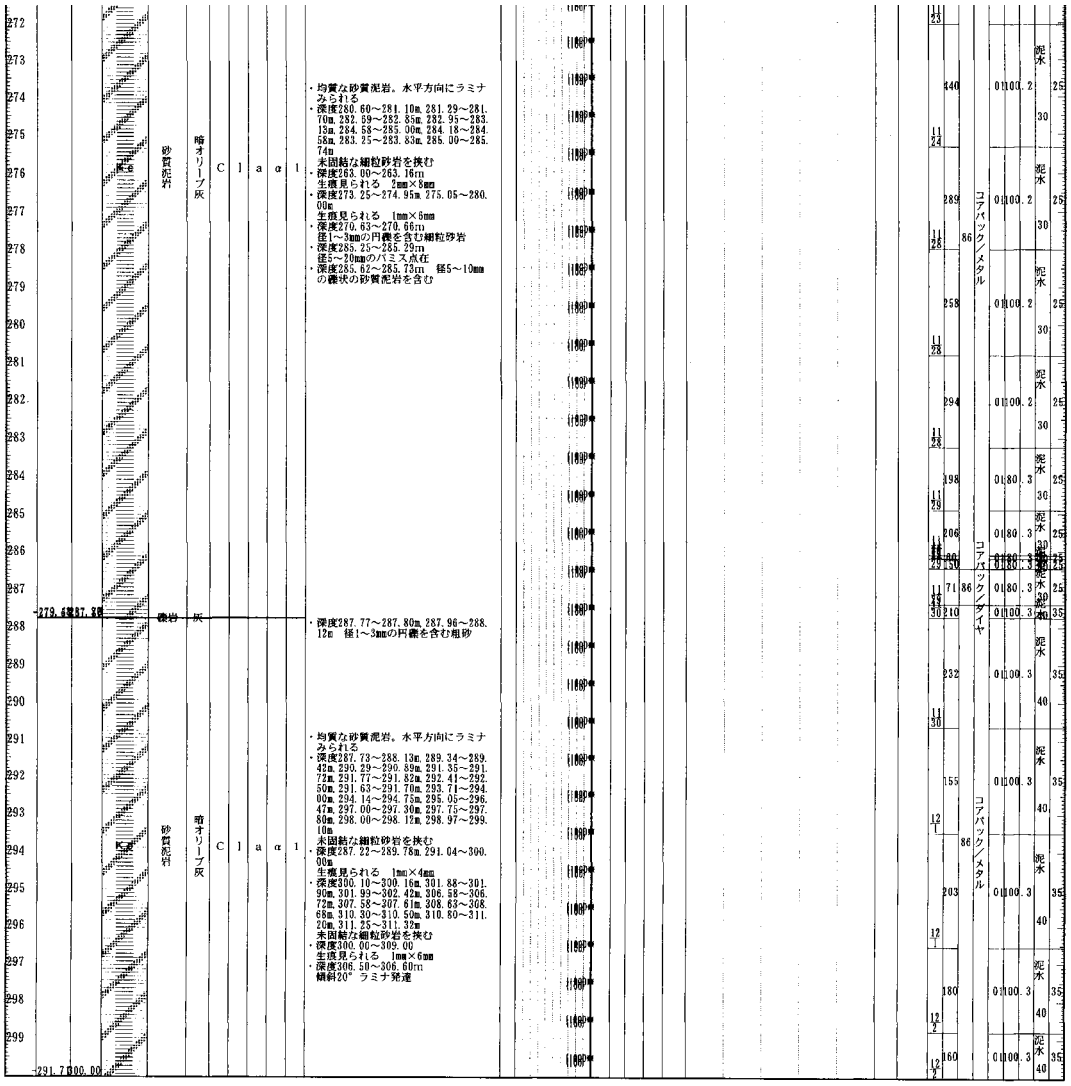
ボーリング名	D-4-0	調査位置	茨城県那珂郡東海村白方1番の1東海発電所構内北地区	北緯	
発注機関	日本原子力発電株式会社	調査期間	平成17年9月22日～18年2月7日	東経	
調査業者名	[redacted] 主任技師 [redacted]	現場代理人	[redacted] コア鑑定者 [redacted]	ボーリング責任者	[redacted]
孔口標高	TP +8.29m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	270° 西 0° 北 90° 東 180° 南
総掘進長	410.00m	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°	使用機種	
試錐機	エヌエルシー製 メガロL38型				
エンジン	三井ドイツ製 3C9型	ポンプ	東邦製 BG-3型		

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 -×-(%) 最大コア長 -●- cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位m/測定月日	N値	(ルジオン、標準貫入)試験 (P～Q、N値～深度)図 N値 -○-	原位置試験(〇)	室内試験(〇)	掘進月日	掘進速度(m/時)	孔径(mm)/孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧(MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(l/分)	排水量(l/分)
200																										40	
201																			11/16								
202											・均質な砂質泥岩。水平方向にラミナみられる ・深度184.31～184.32m, 184.75～184.76m, 186.49～186.51m, 187.48～187.51m, 193.87～193.91m, 194.77～194.80m, 195.32～195.33m, 195.35～195.36m, 195.75～195.76m, 196.01～196.05m, 196.72～196.76m, 197.65～197.67m, 200.54～200.57m, 201.49～201.55m, 203.30～203.39m, 203.50～203.52m, 204.74～204.80m, 206.85～206.91m, 208.40～208.41m, 209.19～209.47m, 206.10～206.15m 未固結な細粒砂岩を挟む																										
203																			11/16	345			0	100	0.3	泥水 40	40
204																											
205				砂質泥岩	暗オリーブ灰	C	I	a	α	1	・深度180.00～180.40m, 180.83～183.00m, 187.00～189.58m, 197.48～199.76m, 200.00～203.12m, 204.89～205.00m 生痕見られる 1mm×6mm ・深度183.86～186.82m 生痕見られる 1mm×8mm ・深度190.00～191.55m, 192.00～192.65m, 192.95～193.80m, 194.45～194.64m, 195.00～196.71m 生痕見られる 1mm×6mm ・深度203.95～203.98m 細礫点在 ・深度208.71～208.75m, 209.91～209.96m 径1～20mmのパミス散在 ・深度209.49～210.11m 径5～20mmの角礫状の灰化した変質物を含む																										
206																										泥水 40	40
207																			11/17	405			0	100	0.3		
208																											
209																										泥水 40	40
210																			11/17	473			0	100	0.3		
211																											
212																										泥水 40	40
213	-204.40	212.75		凝灰岩	青灰						・深度212.75～212.79m 青灰色を呈す細粒凝灰岩(K-4)								11/17	523			0	100	0.3		
214																											



深度	岩種	色	備考
221.7～230.00	砂質泥岩	暗オリーブ灰	・均質な砂質泥岩。水平方向にラミナみられる ・深度214.50～214.52m, 216.22～216.24m, 216.28～216.32m, 216.45～216.53m, 216.71～216.85m, 217.04～217.06m, 217.10～217.14m, 217.22～217.30m, 217.44～217.49m, 217.57～217.58m, 217.68～217.69m, 217.76～217.80m, 218.58～218.59m, 218.62～218.63m, 219.13～219.16m, 219.29～219.33m, 219.38～219.65m, 219.73～219.83m　未固結な細粒砂岩を挟む ・深度220.16～220.18m, 220.63～220.65m, 220.89～220.90m, 221.06～221.08m, 221.23～221.28m, 222.03～222.06m, 222.17～222.23m, 223.32～223.36m, 224.09～224.18m, 224.50～224.52m, 224.78～224.79m, 224.90～224.92m, 225.04～225.05m, 225.36～225.42m, 227.23～227.25m, 227.30～227.32m, 227.83～227.86m, 229.88～229.90m　未固結な細粒砂岩を挟む ・深度216.55m, 218.33m, 219.77m 径1～8mmのパミス点在 ・深度220.13～220.38m, 221.82m, 222.03～222.19m, 226.82～226.88m 径1～5mmのパミス点在
230.00～239.46	砂質泥岩	暗オリーブ灰	・深度230.41～230.43m, 230.88～230.91m, 231.12～231.17m, 231.98～232.20m, 232.65～232.77m, 233.89～234.00m, 234.95～234.98m, 235.35～235.36m, 236.66～236.67m, 239.17～239.19m, 239.40～239.46m, 239.55～239.56m, 239.75～239.76m, 239.98～239.99m, 235.35～235.36m, 235.56～235.57m, 235.67～235.68m, 235.91～235.93m, 239.17～239.19m, 239.40～239.46m, 239.75～239.76m, 239.97～239.98m　未固結な細粒砂岩を挟む ・深度233.50m 径1mmのパミス点在
239.46～239.81	礫岩	灰	・深度238.73～238.87m 径2～10mmのチャート、頁岩の円礫含む未固結な中砂。粗砂を含む
239.81～249.19	砂質泥岩	暗オリーブ灰	・均質な砂質泥岩。水平方向にラミナみられる ・深度240.30～240.32m, 243.35～243.36m, 244.11～244.12m, 245.44～245.46m, 245.89～245.92m, 248.27～248.29m　未固結な細粒砂岩を挟む ・深度240.00～250.00m 生痕見られる　1mm×6mm ・深度243.34～243.37m 傾斜20°のラミナ発達
249.19～251.42	凝灰岩	灰	・深度249.14～249.15m, 249.16～249.17m, 249.60～249.62m, 245.03～245.05m, 248.73～248.75m 灰色を呈す細粒凝灰岩 ・深度250.13～250.15m, 251.00～251.05m, 251.32～251.42m 未固結な細粒砂岩を挟む
251.42～252.37	砂質泥岩	暗オリーブ灰	・深度251.42～251.43m 灰色を呈す細粒凝灰岩 ・深度252.00～252.03m 未固結な細粒砂岩を挟む ・深度252.17～252.37m 灰色を呈す細粒凝灰岩
252.37～252.98	凝灰岩	灰	・深度252.53～255.00m 生痕見られる　1mm×6mm ・深度252.93～252.95m 灰色を呈す細粒凝灰岩 ・深度253.33～253.37m, 253.72～253.76m　未固結な細粒砂岩を挟む ・深度254.52～254.55m 灰色を呈す細粒凝灰岩
252.98～254.55	砂質泥岩	暗オリーブ灰	・深度254.97～254.98m, 255.32～255.38m, 255.70～255.86m, 256.52～256.58m, 256.69～256.70m, 257.48～257.51m, 257.61～257.62m 未固結な細粒砂岩を挟む ・深度255.00～259.83m 生痕見られる　1mm×8mm
254.55～258.07	凝灰岩	灰白	・深度258.07～258.43m 灰白色を呈す中粒凝灰岩
258.07～262.69	砂質泥岩	暗オリーブ灰	・深度260.09～260.77m, 261.42～262.25m 未固結な細粒砂岩を挟む ・深度262.25～262.31m 貝殻片の小片密集
262.69～263.29	砂質泥岩	暗オリーブ灰	・深度262.60～262.62m 灰白色を呈す細粒凝灰岩 ・深度263.00～263.16m 生痕見られる　2mm×8mm ・深度263.29～263.97m 径1～10mmパミス散在 ・深度263.61～263.97m 灰白色を呈す細粒凝灰岩
263.29～263.97	凝灰岩	灰白	

試料	試験	孔径	掘進方法	泥水
11/18	342	01100.2		泥水 40
11/18	437	01100.2		泥水 40
11/18	384	01100.2		泥水 40
11/18	305	01100.2		泥水 40
11/18	338	01100.2		泥水 40
11/18	330	01100.2		泥水 40
11/18	433	01100.2		泥水 40
11/19	570	01100.2		泥水 40
11/19	540	01100.2		泥水 40
11/19	456	01100.2		泥水 40
11/19	270	01100.2		泥水 40
11/19	480	01100.2		泥水 40
11/19	540	01100.2		泥水 40
11/21	368	01100.2		泥水 40
11/21	446	01100.2		泥水 40
11/21	523	01100.2		泥水 40
11/21	531	01100.2		泥水 40
11/21	350	01100.2		泥水 40
11/22	146	02100.2		泥水 40 35
11/22	336	02100.2		泥水 40 35
11/22	347	02100.2	コアパック／ダイヤ 86	泥水 40 35
11/22	375	02100.2		泥水 40 35
11/23	380	01100.2		泥水 40 35
11/23	223	01100.2		泥水 40 35
	420	01100.2		泥水 40 35



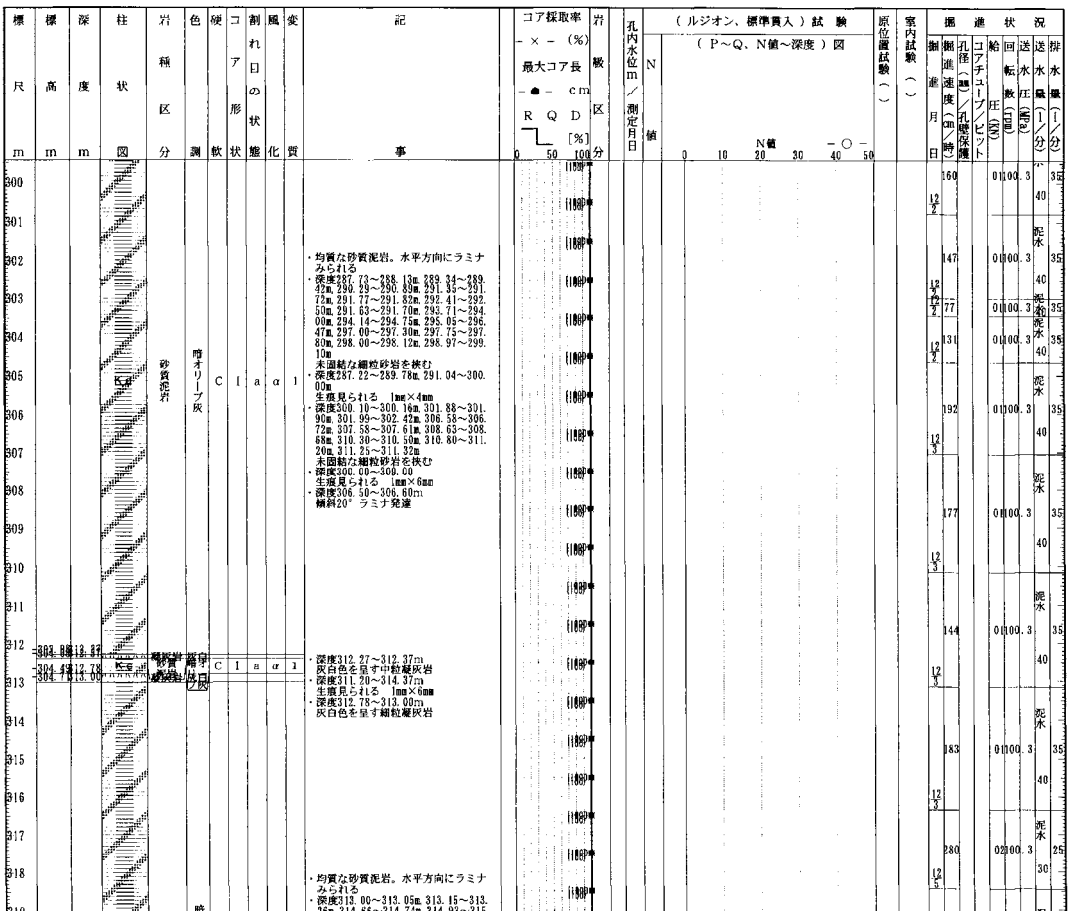
Ke
砂質泥岩
暗オリーブ灰
Clacl
・均質な砂質泥岩。水平方向にラミナみられる
・深度280.60～281.10m, 281.29～281.70m, 282.69～282.85m, 282.95～283.13m, 284.58～285.00m, 284.18～284.58m, 283.25～283.83m, 285.00～285.74m
未固結な細粒砂岩を挟む
・深度263.00～263.16m
生痕見られる　2mm×8mm
・深度273.25～274.95m, 275.05～280.00m
生痕見られる　1mm×6mm
・深度270.63～270.66m
径1～3mmの円礫を含む細粒砂岩
・深度285.25～285.29m
径5～20mmのパミス点在
・深度285.62～285.73m　径5～10mmの礫状の砂質泥岩を含む
-279.48
287.80
Kd
礫岩
灰
・深度287.77～287.80m, 287.96～288.12m　径1～3mmの円礫を含む粗砂
Kc
砂質泥岩
暗オリーブ灰
Clacl
・均質な砂質泥岩。水平方向にラミナみられる
・深度287.73～288.13m, 289.34～289.42m, 290.29～290.89m, 291.35～291.72m, 291.77～291.82m, 292.41～292.50m, 291.63～291.70m, 293.71～294.00m, 294.14～294.75m, 295.05～296.47m, 297.00～297.30m, 297.75～297.80m, 298.00～298.12m, 298.97～299.10m
未固結な細粒砂岩を挟む
・深度287.22～289.78m, 291.04～300.00m
生痕見られる　1mm×4mm
・深度300.10～300.16m, 301.88～301.90m, 301.99～302.42m, 306.58～306.72m, 307.58～307.61m, 308.63～308.68m, 310.30～310.50m, 310.80～311.20m, 311.25～311.32m
未固結な細粒砂岩を挟む
・深度300.00～309.00
生痕見られる　1mm×6mm
・深度306.50～306.60m
傾斜20°ラミナ発達
-291.70
300.00
コアパック／メタル
コアパック／ダイヤ
コアパック／メタル
泥水

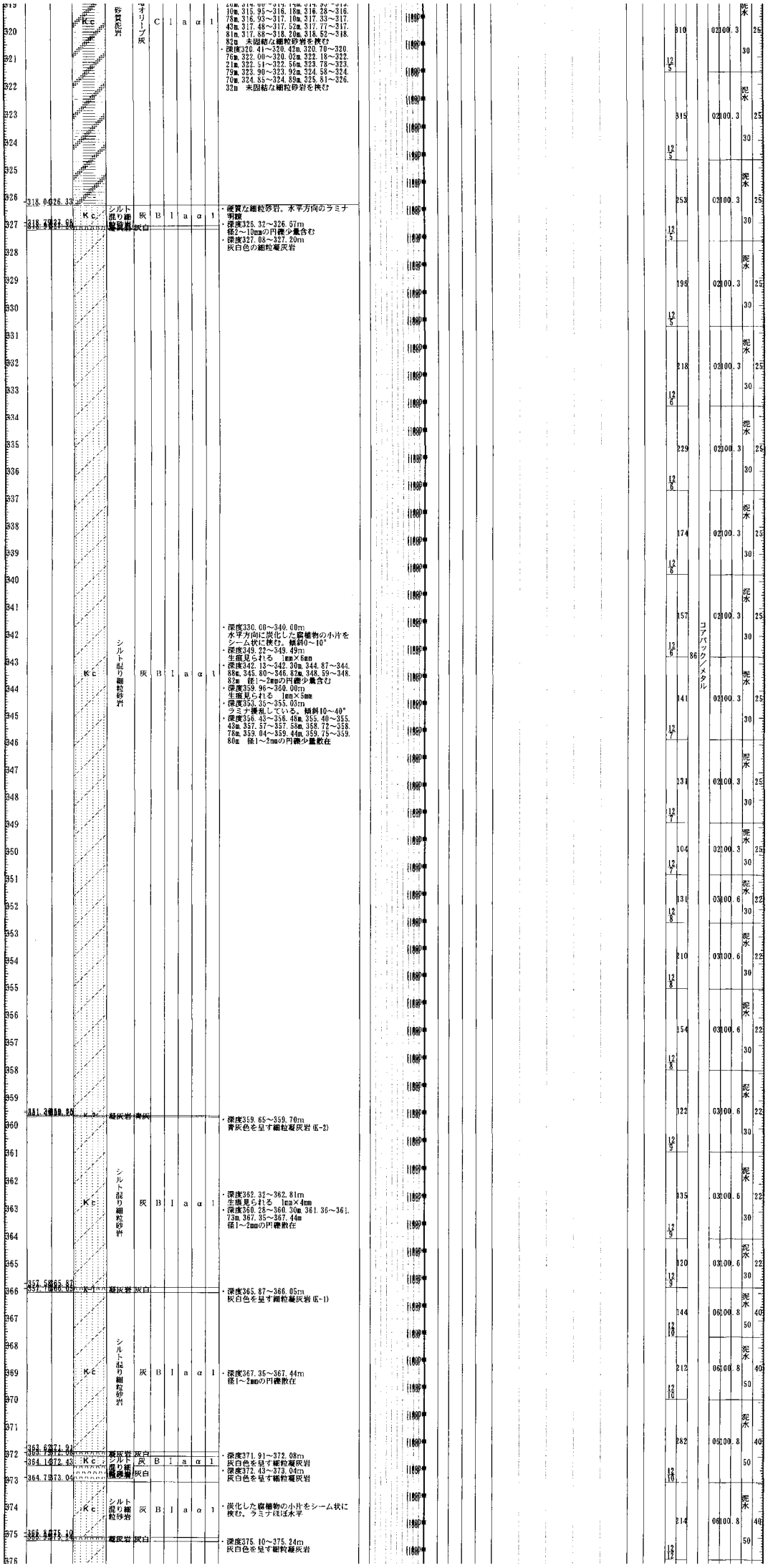
D-4-0（200～300m）

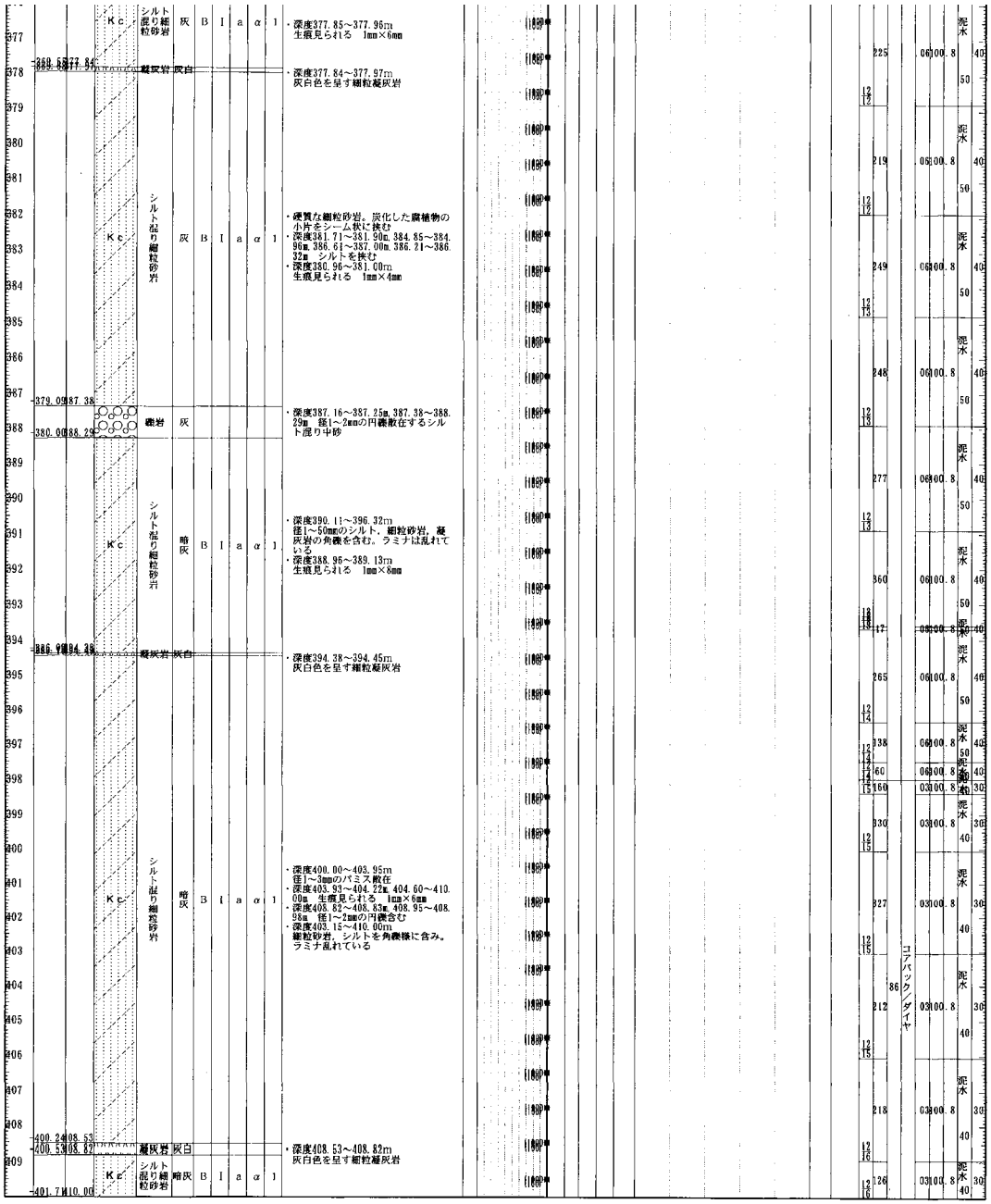
ボーリング柱状図

調査名	東海発電所 放射性物質濃度の極めて低い廃棄物の敷地内埋設施設に係る地質・地下水調査	ボーリングNo.	D-4-0
事業・工事名			

ボーリング名	D-4-0	調査位置	茨城県那珂郡東海村白方1番の1東海発電所構内北地区	北緯	
発注機関	日本原子力発電株式会社	調査期間	平成17年9月22日～18年2月7日	東経	
調査業者名	[redacted]	主任技師	[redacted]	現場代理人	[redacted]
				コア鑑定者	[redacted]
				ボーリング責任者	[redacted]
孔口標高	TP +8.29m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 西 270° 90° 東 180° 南
総掘進長	410.00m	地盤勾配	鉛直 水平 0° 90°	使用機種	
試錐機	エヌエルシー製 メガロL３８型				
エンジン	三井ドイツ製 ３C９型	ポンプ	東邦製 ＢＧ－３型		




コアバック／メタル


Kc
シルト混り細粒砂岩
凝灰岩
礫岩
灰
暗灰
灰白
B I a α 1
・深度377.85～377.95m
生痕見られる 1mm×6mm
・深度377.84～377.97m
灰白色を呈す細粒凝灰岩
・硬質な細粒砂岩。炭化した腐植物の小片をシーム状に挟む
・深度381.71～381.90m, 384.85～384.96m, 386.61～387.00m, 386.21～386.32m シルトを挟む
・深度380.96～381.00m
生痕見られる 1mm×4mm
・深度387.16～387.25m, 387.38～388.29m 径1～2mmの円礫散在するシルト混り中砂
・深度390.11～396.32m
径1～50mmのシルト，細粒砂岩，凝灰岩の角礫を含む。ラミナは乱れている
・深度388.95～389.13m
生痕見られる 1mm×8mm
・深度394.38～394.45m
灰白色を呈す細粒凝灰岩
・深度400.00～403.95m
径1～3mmのパミス散在
・深度403.93～404.22m, 404.60～410.00m 生痕見られる 1cm×6mm
・深度405.82～408.83m, 408.95～408.98m 径1～2mmの円礫含む
・深度403.15～410.00m
細粒砂岩，シルトを角礫様に含み，ラミナ乱れている
・深度408.53～408.82m
灰白色を呈す細粒凝灰岩
泥水
コンパックダイヤ

D-4-0（300～410m）

ボーリング柱状図

調査名　東海発電所 放射性物質濃度の極めて低い廃棄物の敷地内埋設施設に係る地質・地下水調査　　ボーリングNo. D-5-0

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	D-5-0	調査位置	茨城県那珂郡東海村白方1番の1東海発電所構内北地区	北緯	
発注機関	日本原子力発電株式会社	調査期間	平成17年10月10日～17年12月12日	東経	
調査業者名	[redacted] 主任技師 [redacted]	現場代理人	[redacted] コア鑑定者 [redacted]	ボーリング責任者	[redacted]
孔口標高	TP +7.98m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南
総掘進長	140.50m	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°	使用機種	
試錐機	利根製 TDC－10型				
エンジン	ヤンマー製 NFD－12型 / ヤンマー製 NFD－6型	ポンプ	東邦製 BG－3C型		

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
	7.76	0.22		砕石	黒褐						・深度0.00～0.22m 径5～20mmの砕石
1	6.98	1.00	Sl	礫混り細砂	褐						・深度0.22～1.00m 径2～10mm、最大20mmの円礫散在する細砂
2											
3					褐灰						・深度2.00～5.00m 均質な細砂。中砂を含む。ラミナ見られない。 含水量少ない。
4			du	細砂							
5	2.98	5.00									
6					褐						・深度5.00～6.85m 均質な細砂。中砂を含む。ラミナ見られない。含水量中程度。 ・深度6.85～7.40m 褐灰色を呈する細砂。中砂を含む ラミナ見られない。含水量中程度
7	1.13	6.85			褐灰						
	0.58	7.40									
	0.18	7.80	Ag2	礫混り細砂	褐灰						・深度7.40～7.80m 径2～5mmの円礫を少量含む粗砂。中砂、細砂を含む
8			Ag2	粗砂	褐灰						・深度7.80～8.00m 細砂 ・深度8.00～8.75m 粗砂。細砂、中砂を含む。ラミナ見られない
9	-0.77	8.75									
10			Ag2	礫混り粗砂	灰						・深度8.75～12.00m 径2～5mm、最大30mmの円礫点在する粗砂。中砂、細砂を含む。 不均質で、ラミナ見られない。 全体に炭化した腐植物片の小片を少量含む。含水量多い。 ・深度11.50～11.80m 細砂。中砂を含む
11											
12	-4.02	12.00									
	-4.75	12.73	As1	細砂	暗灰						・深度12.00～12.73m 均質な細砂。ラミナ見られない 貝殻片点在。含水量多い
13											
14			Ac1	粘土	暗灰						・深度12.73～16.58m 均質な粘土。貝殻片の小片を少量含む。含水量多く、粘性強い。 ・深度12.75～12.77m、12.78～12.80m、12.83～12.85m 未固結な細砂を挟む ・深度15.53m、15.95m 径1cmの礫状の未固結な細砂を含む
15											
16	-8.60	16.58									
17			As1	中砂	暗灰						・深度16.58～18.00m 細砂～中砂 ・深度17.50～18.00m 均質な細砂。ラミナ見られない
18	-10.02	18.00									
19											
20			Ac1	粘土	暗灰						・深度18.00～22.50m 均質な粘土。水平方向に弱いラミナ見られる。 貝殻片の小片を少量含む。 含水量多く、粘性強い。
21											
22	-14.52	22.50									
23											・深度22.50～23.00m シルト質細砂。水平方向に弱いラミナ見られる。貝殻片の小片点在 ・深度23.00～25.00m 全体にシルトを含む細砂。水平方向に弱いラミナ見られる。含水量多い ・深度23.77～24.00m シルト質。含水量多く、軟質 ・深度25.50～26.79m 厚さ10～20mmの細砂と砂混りシルトの互層
24			As1	シルト質細砂	暗灰						
25											
26											
27	-18.81	26.79									
28											・深度26.79～32.87m 均質な粘土。水平方向に弱いラミナ見られる。 貝殻片の小片含む。炭化した腐植物片の小片点在。 含水量多く、粘性強い。 ・深度26.79～27.00m 全体に細砂を含むシルト ・深度28.53～29.00m、29.59～29.90m 炭化した腐植物の小片を多量に含む粘土 ・深度32.50～32.87m 径5～20mmの礫状の細砂を含む
29											
30			Ac1	粘土	暗灰						
31											
32											
33	-24.89	32.87									
34			As1	シルト混り細砂	暗灰						・深度32.87～34.82m シルト混り細砂。中砂を含む 含水量多く、締まり緩い ・深度33.93～34.82m 炭化した腐植物の小片を少量含み、水平方向のラミナ見られる。
35	-26.84	34.82									
				粘	暗						・深度34.82～36.00m

コア採取率 -×-(%)　最大コア長 -●- cm　RQD [%]　岩級区分　孔内水位m／測定月日

（ルジオン、標準貫入）試験（P～Q、N値～深度）図

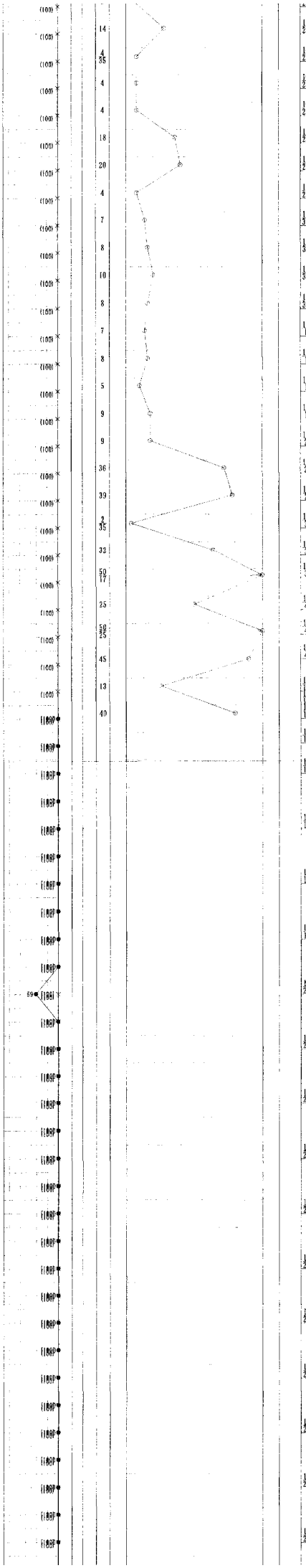
N値 0 10 20 30 40 50

原位置試験（ ）　室内試験（ ）

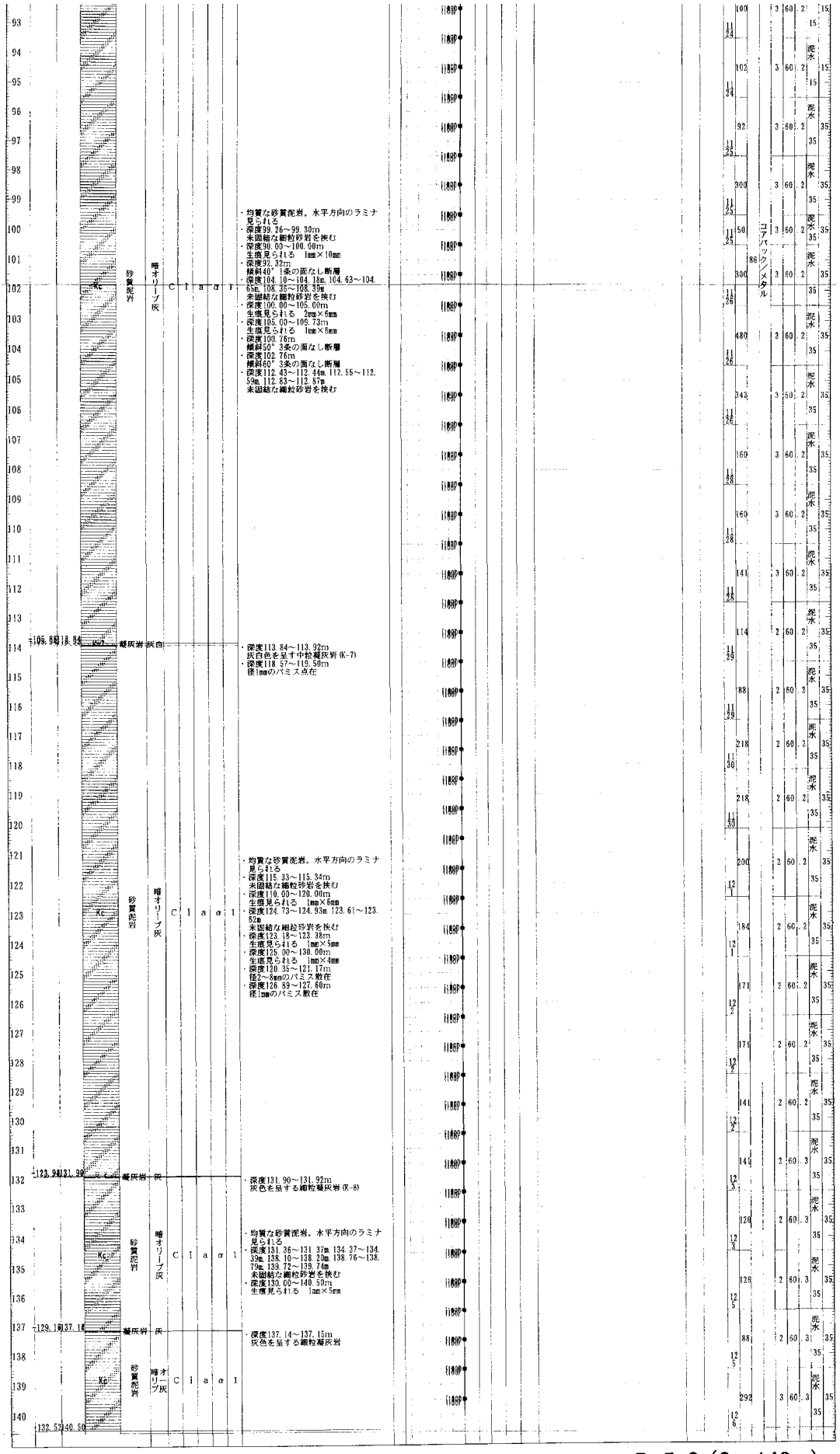
掘進状況

掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(l/分)	排水量(l/分)
10/15	試掘	142 ケーシング	試掘	試掘	0	0	無水 0	0
10/15	200			打撃	0	0	無水 0	0
10/15	200	142 ケーシング		打撃	0	0	無水 0	0
10/15	200			打撃	0	0	無水 0	0
10/17	200			打撃	0	0	無水 0	0
10/17	180			打撃	0	0	無水 0	0
10/18	150			2	60	1	泥水 20	15
10/18	165			2	60	1	泥水 20	15
10/19	150			2	60	1	泥水 20	15
10/19	120			2	60	1	泥水 20	15
10/20	120			2	60	2	泥水 15	10
10/20	120			2	60	2	泥水 15	10
10/20	120			2	60	2	泥水 15	10
10/21	120			1	60	1	泥水 15	15
10/21	120			1	60	1	泥水 15	15
10/21	150			1	60	1	泥水 15	15
10/24	150			1	60	1	泥水 15	15
10/24	200			1	60	1	泥水 15	15
10/24	150	142		1	60	1	泥水 15	15
10/24	200			1	60	1	泥水 15	15
10/24	150			1	60	1	泥水 15	15
10/24	200			1	60	1	泥水 15	15
10/25	150			1	60	1	泥水 15	15
10/25	132			1	60	1	泥水 15	15
10/25	132			1	60	1	泥水 15	15
10/25	150			1	60	1	泥水 15	15
10/26	120			1	60	1	泥水 15	15
10/26	150			1	60	1	泥水 15	15
10/26	120			1	60	1	泥水 15	15
10/26	120			1	60	1	泥水 15	15
10/26	150		コアパック／メタル	1	60	1	泥水 15	15
10/27	120			1	60	1	泥水 15	15
10/27	120			1	60	1	泥水 15	15
10/27	120			1	60	1	泥水 15	15

深度	層厚	記号	土質	色	地質時代	備考
-28.02	35.00	Ac1	土	灰		均質な粘土。貝殻片の小片散在 含水量多く、粘性強い
-29.61	37.59	Ac1	砂混り粘土	暗灰		・深度36.00～37.59m 細砂を全体に含む粘土。炭化した腐植物片の小片散在 ・深度36.83～36.84m, 37.58～37.59m 細砂を挟む
-31.76	39.74	Ac1	粘土	暗灰		・深度37.59～39.74m 均質な粘土。炭化した腐植物片の小片散在 ・深度37.59～38.00m 炭化した腐植物片の小片をシーム状に挟む
-34.02	42.00	As1	シルト混り細砂	暗灰		・深度39.74～42.00m シルト混り細砂。炭化した腐植物片の小片含む。含水量多い ・深度40.69～41.00m 水平方向に弱いラミナ見られる
-35.03	43.00	Ac1	粘土	暗灰		・深度42.00～43.00m 均質な粘土。腐植物の小片少量含む
-35.96	43.94	Ac1	細砂	暗灰		・深度43.00～43.94m 均質な細砂。腐植物の小片散在
-36.83	44.81	Ac1	砂混り粘土	暗灰		・深度43.94～44.81m 均質な粘土。深度44.59mに厚さ5mmの中砂を挟む
-37.85	45.83	As1	シルト混り細砂	暗灰		・深度44.81～45.83m 全体にシルトを含む均質な細砂
-39.54	47.52	Ac1	砂混り粘土	暗灰		・深度45.83～47.52m 全体に細砂を含む粘土 ・深度45.83～45.85m 厚さ5～10mmの細砂を挟む ・深度46.73～46.75m 細砂 ・深度45.85～46.59m 厚さ1～10mmの炭化した腐植物のシームを挟む
-44.17	52.15	Ag1	砂質粘土	暗灰		・深度47.52～52.15m 厚さ2～5cmの粗砂を含む粘土 ・深度47.88～47.96m, 48.86～48.89m, 49.73～49.77m 細礫敷在 ・深度47.65～47.77m, 48.67～48.68m, 49.55～49.72m 炭化した腐植物片を多量に含む ・深度50.76～50.78m 径5～10mmのチャート、砂岩の円礫点在。水平方向に弱いラミナ見られる
-45.99	53.97	Ag1	礫	暗灰		・深度52.15～53.97m 径2～30mmの砂岩、頁岩、チャートの円～亜円礫を中程度含む 基質部はシルト混り中砂。粗砂、細砂を含む
-48.46	56.44	Ag1	礫混り中砂	灰		・深度53.97～56.44m 径2～5mm、最大30mmの頁岩、砂岩の円礫を少量含むシルト混り中砂。粗砂、細砂含む。不均質であり、ラミナ見られない ・深度54.96～55.00m 径5～20mmの砂岩、砂質泥岩の礫を多量に含む ・深度55.32～56.36m 径8～30mmの円礫密集 ・深度56.44～57.64m 全体に細砂を少量含むシルト。水平方向にラミナ見られる ・深度56.87～57.00m 細礫敷在
-49.66	57.64	Ag1	砂礫	暗灰		・深度57.64～60.95m 径5～20mm、最大50mmの頁岩、チャート、砂岩の円礫を多量に含む。 基質部は細砂、中砂からなる。全体に細砂を含む
-52.97	60.95	Kc	砂質泥岩	暗オリーブ灰	C l a α 1	・均質な砂質泥岩。水平方向にラミナみられる ・深度62.40～62.49m, 65.50～65.51m 未固結な細粒砂岩を挟む ・深度63.41～63.65m 生痕見られる 1mm×8mm ・深度62.72～62.92m, 65.54～65.58m 貝殻片の小片散在 ・深度63.93～64.61m 径1～3mmのパミス点在 ・深度66.91～66.98m 傾斜30°のラミナ発達 ・深度67.69～67.72m 傾斜30°のラミナ発達 ・深度69.53～69.69m 傾斜20～30°のラミナ発達
-62.09	70.07	K-9	凝灰岩	灰白		・深度69.69～70.07m 灰白色を呈する細粒凝灰岩(K-9)
-81.78	89.70	Kc	砂質泥岩	暗オリーブ灰	C l a α 1	・均質な砂質泥岩。水平方向にラミナみられる ・深度71.40～71.60m 傾斜30°のラミナ発達 ・深度73.16～74.92m, 75.80～76.02m, 77.35～77.37m 貝殻片の小片散在 ・深度74.23～74.46m 炭化した腐植物の小片を層状に多量に挟む 傾斜10° ・深度75.08～75.10m 炭化した腐植物の小片挟む ・深度76.31～76.37m 径2～8mmのパミス散在 ・深度77.86～77.95m 径1～2mmのパミス散在 ・深度78.59～80.61m 径1～4cmの角礫状の砂質泥岩を含む 基質部は中砂～粗砂。ラミナ乱れている ・深度80.60～85.00m 生痕著しい 1mm×10mm ・深度85.00～86.70m 生痕見られる 1mm×6mm ・深度86.85～87.07m 径1mmのパミス点在 ・深度87.70～89.20m 生痕見られる 1mm×8mm
-81.78	89.76	K-8	凝灰岩	灰白		・深度89.76～89.94m 灰白色を呈す細粒凝灰岩(K-8) ・深度89.40～89.41m 径1mmのパミス点在



試料番号	試料	試験	試験	試験	試験	試験	試験	試験	試験	試験
10 27	120		1	60	1	泥水	15	15		
10 28	120		1.5	60	1	泥水	15	15		
10 28	120		1.5	60	1	泥水	15	15		
10 28	120		1.5	60	1	泥水	15	15		
10 29	100		2	60	1	泥水	15	15		
10 29	120		2	60	1	泥水	15	15		
10 29	120		2	60	1	泥水	15	15		
10 31	100		2	60	0.9	泥水	15	15		
10 31	120		2	60	0.9	泥水	15	15		
10 31	100		2	60	0.9	泥水	15	15		
10 31	100	ケーシング	2	60	0.9	泥水	15	15		
11 1	132		2	60	1	泥水	15	15		
11 1	120		2	60	1	泥水	15	15		
11 1	150		2	60	1	泥水	15	15		
11 1	100		2	60	1	泥水	15	15		
11 2	86		2	60	1	泥水	15	15		
11 2	120		2	60	1	泥水	15	15		
11 2	86		2	60	1	泥水	15	15		
11 3	100		2	60	15	泥水	15	15		
11 3	67		2	60	15	泥水	15	15		
11 3	98		2	60	15	泥水	15	15		
11 4	75		2	60	2	泥水	15	15		
11 4	100		2	60	2	泥水	15	15		
11 4	68		2	60	2	泥水	15	15		
11 6	75	コアバッファ/115ケーシング	3	60	2	泥水	15	15	5	
11 17	33		3	60	2	泥水	15	15	5	
11 17	180		2	60	15	泥水	15	15	20	
11 18	216		2.5	60	15	泥水	15	15	20	
11 18	330		2.5	60	15	泥水	15	15	14	
11 19	267		3	60	1	泥水	15	15		
11 19	193		3	60	1	泥水	15	15		
11 19	174		3	60	1	泥水	15	15		
11 19	218		3	60	1	泥水	15	15		
11 21	185		3	60	1	泥水	15	15		
11 21	218		3	60	1	泥水	15	15		
11 21	120		3	60	1	泥水	15	15		
11 22	154		3	60	15	泥水	15	15		
11 22	137		3	60	15	泥水	15	15		
11 22	96		3	60	15	泥水	15	15		
11 23	81		3	60	3	泥水	15	15		
11 23	133		3	60	3	泥水	15	15		
11 23	133		3	60	3	泥水	15	15		
11 24	92		3	60	2	泥水	15	15		


砂質泥岩
暗オリーブ灰
C l a α 1
・均質な砂質泥岩。水平方向のラミナ見られる
・深度99.26～99.30m
未固結な細粒砂岩を挟む
・深度90.00～100.00m
生痕見られる 1mm×10mm
・深度92.32m
・深度104.10～104.18m, 104.63～104.65m, 108.35～108.39m
未固結な細粒砂岩を挟む
・深度100.00～105.00m
生痕見られる 2mm×6mm
・深度105.00～109.73m
生痕見られる 1mm×6mm
・深度100.76m
傾斜50° 3条の面なし断層
・深度102.76m
傾斜60° 3条の面なし断層
・深度112.43～112.44m, 112.55～112.59m, 112.83～112.87m
未固結な細粒砂岩を挟む
凝灰岩 灰白
・深度113.84～113.92m
灰白色を呈す中粒凝灰岩 (K-7)
・深度118.57～119.50m
径1mmのパミス点在
・均質な砂質泥岩。水平方向のラミナ見られる
・深度115.33～115.34m
未固結な細粒砂岩を挟む
・深度110.00～120.00m
生痕見られる 1mm×6mm
・深度124.73～124.93m, 123.61～123.52m
未固結な細粒砂岩を挟む
・深度123.18～123.38m
生痕見られる 1mm×5mm
・深度125.00～130.00m
生痕見られる 1mm×4mm
・深度120.35～121.17m
径2～4mmのパミス散在
・深度126.89～127.60m
径1mmのパミス散在
凝灰岩 灰
・深度131.90～131.92m
灰色を呈する細粒凝灰岩 (K-8)
・均質な砂質泥岩。水平方向のラミナ見られる
・深度131.36～131.37m, 134.37～134.39m, 138.10～138.20m, 138.76～138.79m, 139.72～139.74m
未固結な細粒砂岩を挟む
・深度130.00～140.50m
生痕見られる 1mm×5mm
凝灰岩 灰
・深度137.14～137.15m
灰色を呈する細粒凝灰岩
泥水
コアパック／メタル

D-5-0 (0～140m)

ボーリング柱状図

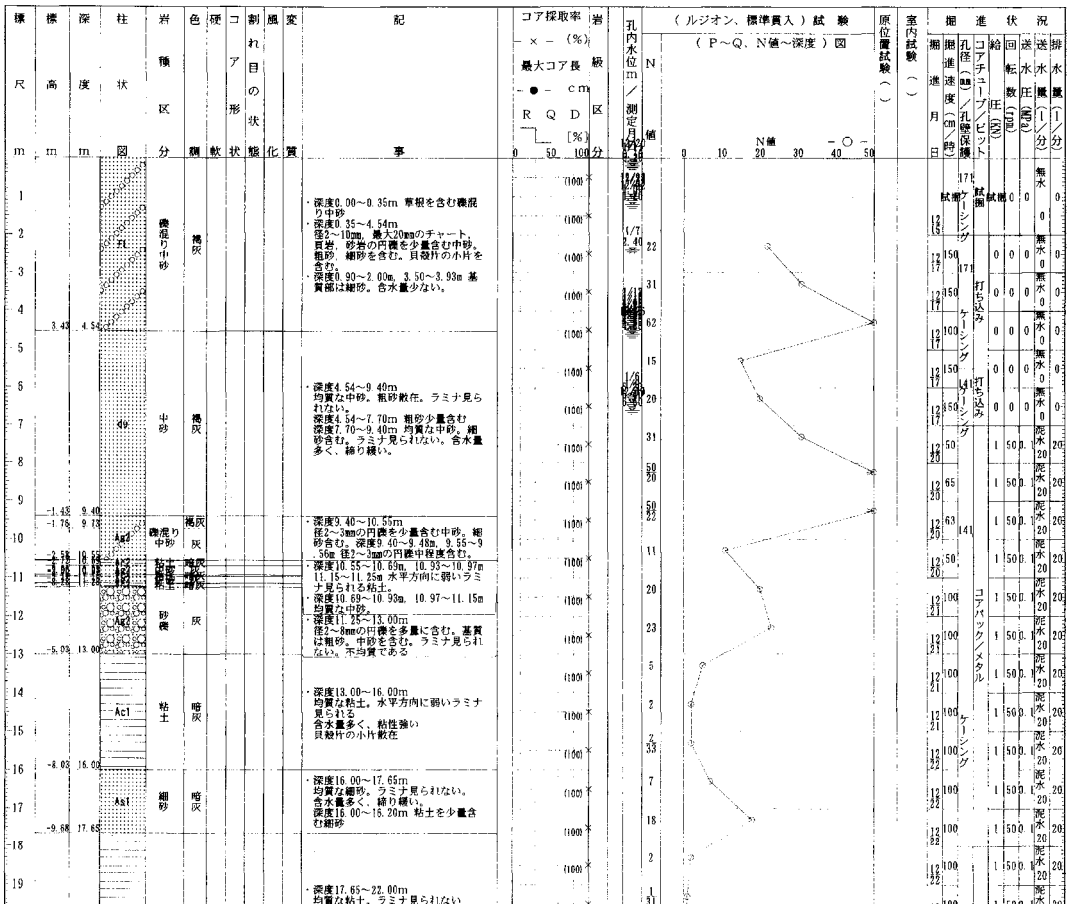
調　査　名　東海発電所 放射性物質濃度の極めて低い廃棄物の敷地内埋設施設に係る地質・地下水調査

ボーリングNo.　E-4-0

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	E-4-0	調査位置	茨城県那珂郡東海村白方1番の1東海発電所構内北地区	北緯	
発注機関	日本原子力発電株式会社	調査期間	平成17年12月15日～18年1月19日	東経	
調査業者名	[redacted]	主任技師	[redacted]	現場代理人	[redacted]
コア鑑定者	[redacted]	ボーリング責任者	[redacted]		
孔口標高	TP +7.97m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南
地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°	使用機種			
総掘進長	109.00m	試錐機	吉田鉄工製 YBM-1WA型		
エンジン	ヤンマー製 NFD150型	ポンプ	東邦製 BG-10C型		



標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
1				礫混り中砂	褐灰						・深度0.00～0.35m 草根を含む礫混り中砂 ・深度0.35～4.54m 径2～10mm、最大20mmのチャート、頁岩、砂岩の円礫を少量含む中砂。粗砂、細砂を含む。貝殻片の小片を含む。 ・深度0.90～2.00m、3.50～3.93m 基質部は細砂。含水量少ない。
2											
3											
4	3.43	4.54									
5				中砂	褐灰						・深度4.54～9.40m 均質な中砂。粗砂散在。ラミナ見られない。 深度4.54～7.70m 粗砂少量含む 深度7.70～9.40m 均質な中砂。細砂含む。ラミナ見られない。含水量多く、締り緩い。
6											
7											
8											
9	-1.43	9.40									
10	-1.76	9.73	Ag2	礫混り中砂	褐灰						・深度9.40～10.55m 径2～3mmの円礫を少量含む中砂。細砂含む。深度9.40～9.48m、9.55～9.56m 径2～3mmの円礫中程度含む。
11	-2.58	10.55	Ag2	粘土	暗灰						・深度10.55～10.69m、10.93～10.97m 11.15～11.25m 水平方向に弱いラミナ見られる粘土。
	-2.66	10.69	Ag2	細砂	暗灰						
	-2.66	10.69	Ag2	粘土	暗灰						
12			Ag2	砂礫	灰						・深度10.69～10.93m、10.97～11.15m 均質な中砂。 ・深度11.25～13.00m 径2～8mmの円礫を多量に含む。基質は粗砂。中砂を含む。ラミナ見られない。不均質である
13	-5.03	13.00									
14			Ac1	粘土	暗灰						・深度13.00～16.00m 均質な粘土。水平方向に弱いラミナ見られる 含水量多く、粘性強い 貝殻片の小片散在
15											
16	-8.03	16.00									
17			As1	細砂	暗灰						・深度16.00～17.65m 均質な細砂。ラミナ見られない。含水量多く、締り緩い。 深度16.00～16.20m 粘土を少量含む細砂
18	-9.68	17.65									
19											・深度17.65～22.00m 均質な粘土。ラミナ見られない

コア採取率 -×- (%)　最大コア長 -●- cm　R Q D [%]　0 50 100

岩級区分

孔内水位m／測定月日

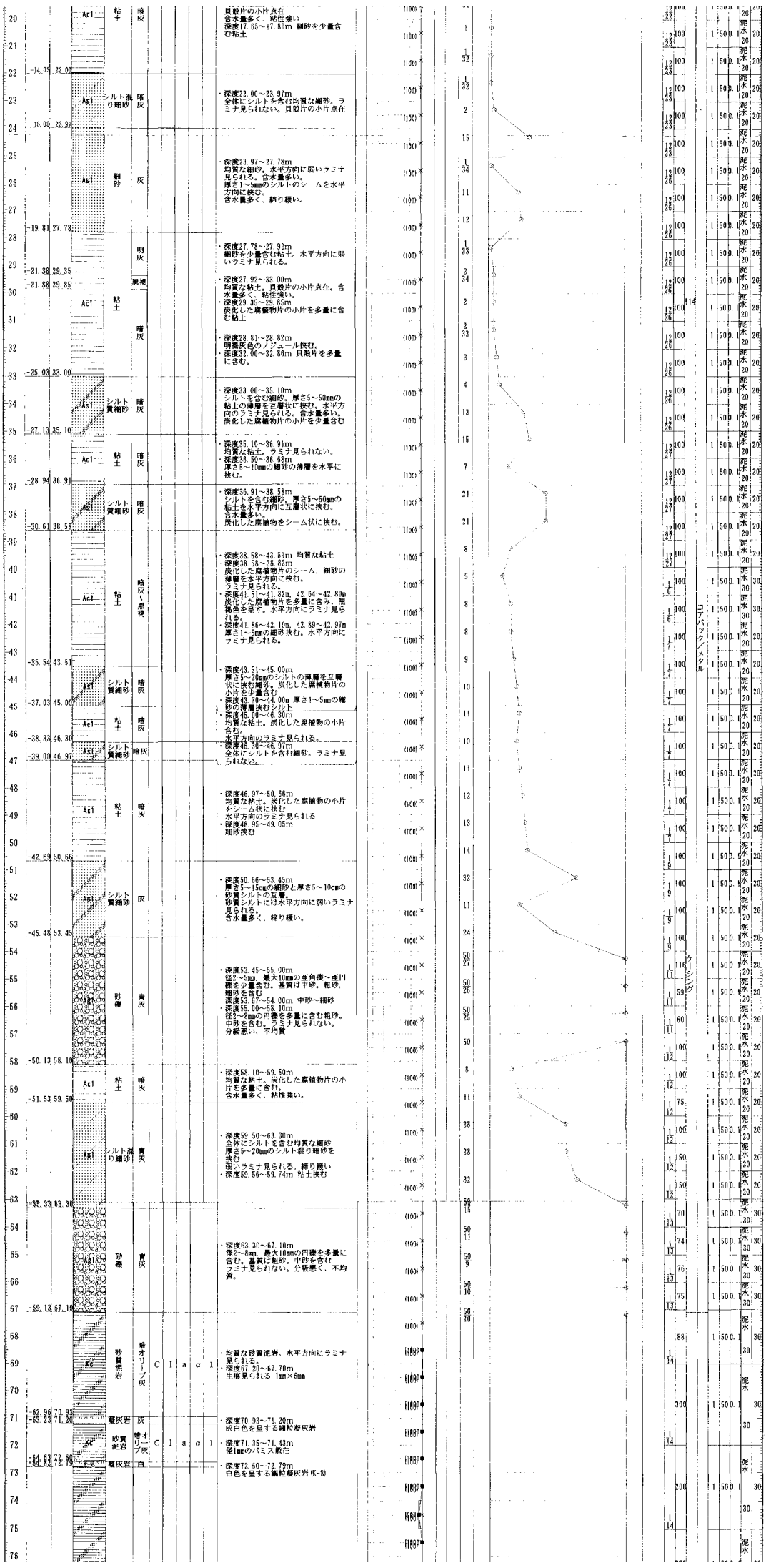
（ルジオン、標準貫入）試験（P～Q、N値～深度）図　N値 -○-　0 10 20 30 40 50

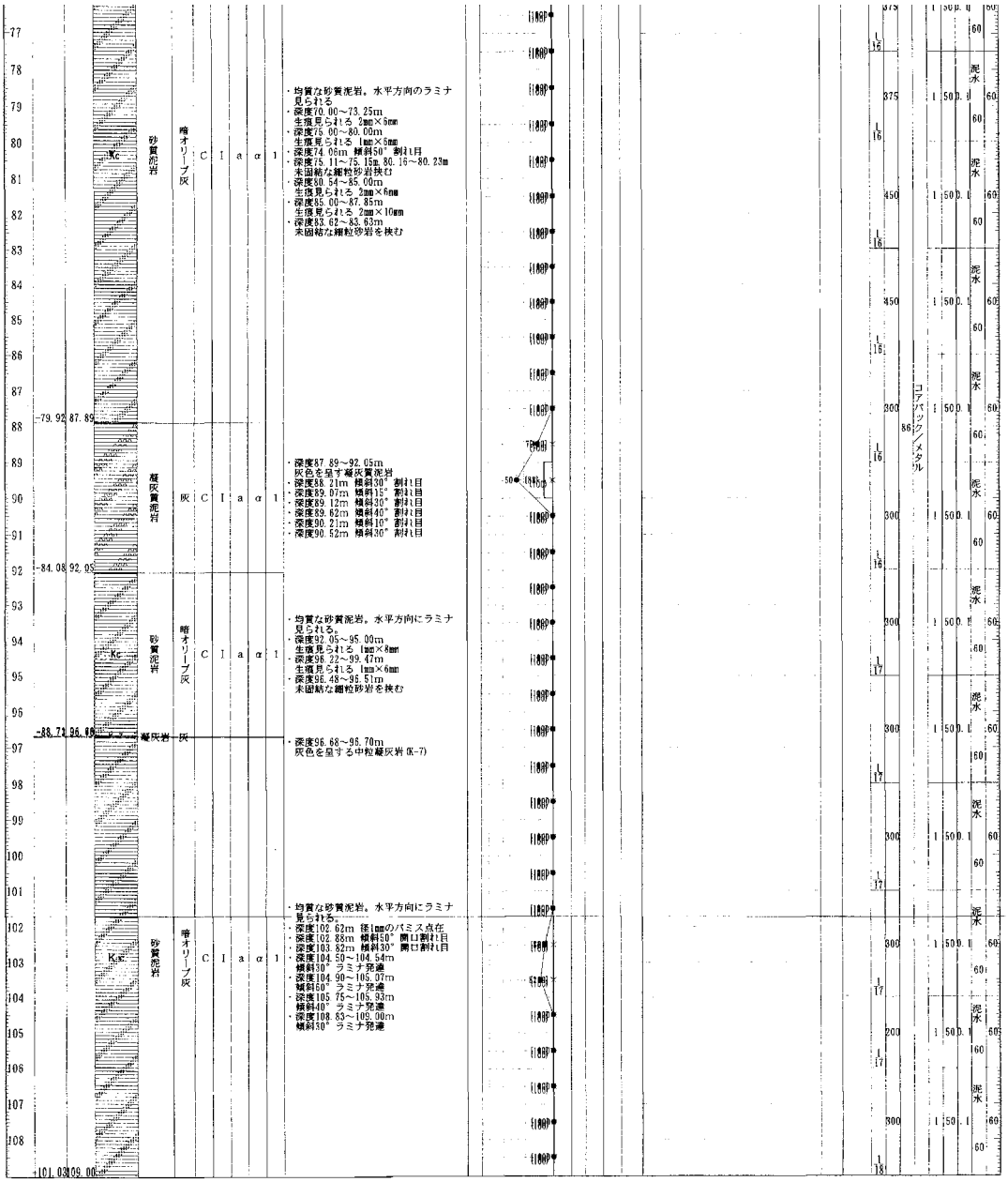
原位置試験（ ）

室内試験（ ）

掘進状況

掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(KN)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(l/分)	排水量(l/分)
12/15	試掘	171 ケーシング	試掘	試掘	0	0	無水 0	0
12/17	150	171 ケーシング	打ち込み	0	0	0	無水 0	0
12/17	150			0	0	0	無水 0	0
12/17	100			0	0	0	無水 0	0
12/17	150	141 ケーシング	打ち込み	0	0	0	無水 0	0
12/17	150			0	0	0	無水 0	0
12/20	50		コアパック／メタル	1	50	0.1	泥水 20	20
12/20	65			1	50	0.1	泥水 20	20
12/20	63			1	50	0.1	泥水 20	20
12/20	50			1	50	0.1	泥水 20	20
12/21	100			1	50	0.1	泥水 20	20
12/21	100			1	50	0.1	泥水 20	20
12/21	100			1	50	0.1	泥水 20	20
12/21	100			1	50	0.1	泥水 20	20
12/22	100			1	50	0.1	泥水 20	20
12/22	100			1	50	0.1	泥水 20	20
12/22	100			1	50	0.1	泥水 20	20
12/22	100			1	50	0.1	泥水 20	20


-14.03 22.00
-16.00 23.97
-19.81 27.78
-21.38 29.35
-21.86 29.85
-25.03 33.00
-27.13 35.10
-28.94 36.91
-30.61 38.58
-35.54 43.51
-37.03 45.00
-38.33 46.30
-39.00 46.97
-42.69 50.66
-45.46 53.43
-50.13 58.10
-51.53 59.50
-55.33 63.30
-59.13 67.10
-62.96 70.93
-63.23 71.20
-64.63 72.60
-64.82 72.79
貝殻片の小片点在
含水量多く、粘性強い
深度17.65～17.80m 細砂を少量含む粘土
・深度22.00～23.97m
全体にシルトを含む均質な細砂。ラミナ見られない。貝殻片の小片点在
・深度23.97～27.78m
均質な細砂。水平方向に弱いラミナ見られる。含水量多い。
厚さ1～5mmのシルトのシームを水平方向に挟む。
含水量多く、締り緩い。
・深度27.78～27.92m
細砂を少量含む粘土。水平方向に弱いラミナ見られる。
・深度27.92～33.00m
均質な粘土。貝殻片の小片点在。含水量多く、粘性強い。
・深度29.35～29.85m
炭化した腐植物片の小片を多量に含む粘土
・深度28.81～28.82m
明褐灰色のノジュール挟む。
・深度32.00～32.86m 貝殻片を多量に含む。
・深度33.00～35.10m
シルトを含む細砂。厚さ5～50mmの粘土の薄層を互層状に挟む。水平方向のラミナ見られる。含水量多い。
炭化した腐植物片の小片を少量含む
・深度35.10～36.91m
均質な粘土。ラミナ見られない。
・深度36.30～36.68m
厚さ5～10mmの細砂の薄層を水平に挟む。
・深度36.91～38.58m
シルトを含む細砂。厚さ5～50mmの粘土を水平方向に互層状に挟む。
含水量多い。
炭化した腐植物をシーム状に挟む。
・深度38.58～43.51m 均質な粘土
・深度38.58～38.82m
炭化した腐植物片のシーム、細砂の薄層を水平方向に挟む。
ラミナ見られる。
・深度41.51～41.82m、42.64～42.80m
炭化した腐植物片を多量に含み、黒褐色を呈す。水平方向にラミナ見られる。
・深度41.86～42.10m、42.89～42.97m
厚さ1～5mmの細砂挟む。水平方向にラミナ見られる。
・深度43.51～45.00m
厚さ5～20mmのシルトの薄層を互層状に挟む細砂。炭化した腐植物片の小片を少量含む
・深度43.70～44.00m 厚さ1～5mmの細砂の薄層挟む シル上
・深度45.00～46.30m
均質な粘土。炭化した腐植物の小片含む。
水平方向のラミナ見られる。
・深度46.30～46.97m
全体にシルトを含む細砂。ラミナ見られない。
・深度46.97～50.66m
均質な粘土。炭化した腐植物の小片をシーム状に挟む
水平方向のラミナ見られる
・深度48.95～49.05m
細砂挟む
・深度50.66～53.45m
厚さ5～15cmの細砂と厚さ5～10cmの砂質シルトの互層。
砂質シルトには水平方向に弱いラミナ見られる。
含水量多く、締り緩い。
・深度53.45～55.00m
径2～5mm、最大10mmの亜角礫～亜円礫を少量含む。基質は中砂。粗砂、細砂を含む
・深度53.67～54.00m 中砂～細砂
・深度55.00～58.10m
径2～8mmの円礫を多量に含む粗砂。中砂を含む。ラミナ見られない。
分級悪い、不均質
・深度58.10～59.50m
均質な粘土。炭化した腐植物片の小片を多量に含む。
含水量多く、粘性強い。
・深度59.50～63.30m
全体にシルトを含む均質な細砂
厚さ5～20mmのシルト混り細砂を挟む
弱いラミナ見られる。締り緩い
・深度59.56～59.74m 粘土挟む
・深度63.30～67.10m
径2～8mm、最大10mmの円礫を多量に含む。基質は粗砂。小砂を含む
ラミナ見られない。分級悪く、不均質。
・均質な砂質泥岩。水平方向にラミナ見られる。
・深度67.20～67.70m
生痕見られる 1mm×8mm
・深度70.93～71.20m
灰白色を呈する細粒凝灰岩
・深度71.35～71.43m
径1mmのパミス散在
・深度72.60～72.79m
白色を呈する細粒凝灰岩(K-8)
コアバック/メタル
ケーシング


砂質泥岩
暗オリーブ灰
凝灰質泥岩
灰
凝灰岩
-79.92 87.89
-84.08 92.05
-88.74 96.68
-101.03 109.00
・均質な砂質泥岩。水平方向のラミナ見られる。
・深度70.00～73.25m 生痕見られる 2mm×6mm
・深度75.00～80.00m 生痕見られる 1mm×6mm
・深度74.08m 傾斜50° 割れ目
・深度75.11～75.15m,80.16～80.23m 未固結な細粒砂岩挟む
・深度80.54～85.00m 生痕見られる 2mm×6mm
・深度85.00～87.85m 生痕見られる 2mm×10mm
・深度83.62～83.63m 未固結な細粒砂岩を挟む
・深度87.89～92.05m 灰色を呈す凝灰質泥岩
・深度88.21m 傾斜30° 割れ目
・深度89.07m 傾斜15° 割れ目
・深度89.12m 傾斜20° 割れ目
・深度89.62m 傾斜40° 割れ目
・深度90.21m 傾斜10° 割れ目
・深度90.52m 傾斜30° 割れ目
・均質な砂質泥岩。水平方向にラミナ見られる。
・深度92.05～95.00m 生痕見られる 1mm×4mm
・深度96.22～99.47m 生痕見られる 1mm×6mm
・深度96.48～96.51m 未固結な細粒砂岩を挟む
・深度96.68～96.70m 灰色を呈する中粒凝灰岩(K-7)
・均質な砂質泥岩。水平方向にラミナ見られる。
・深度102.62m 径1mmのパミス点在
・深度102.88m 傾斜50° 開口割れ目
・深度103.82m 傾斜30° 開口割れ目
・深度104.50～104.54m 傾斜30° ラミナ発達
・深度104.90～105.07m 傾斜60° ラミナ発達
・深度105.76～105.93m 傾斜40° ラミナ発達
・深度108.83～109.00m 傾斜30° ラミナ発達
コアパック/メタル
泥水

E-4-0 (0～109m)

ボーリング柱状図

調　査　名　東海発電所 放射性物質濃度の極めて低い廃棄物の敷地内埋設施設に係る地質・地下水調査

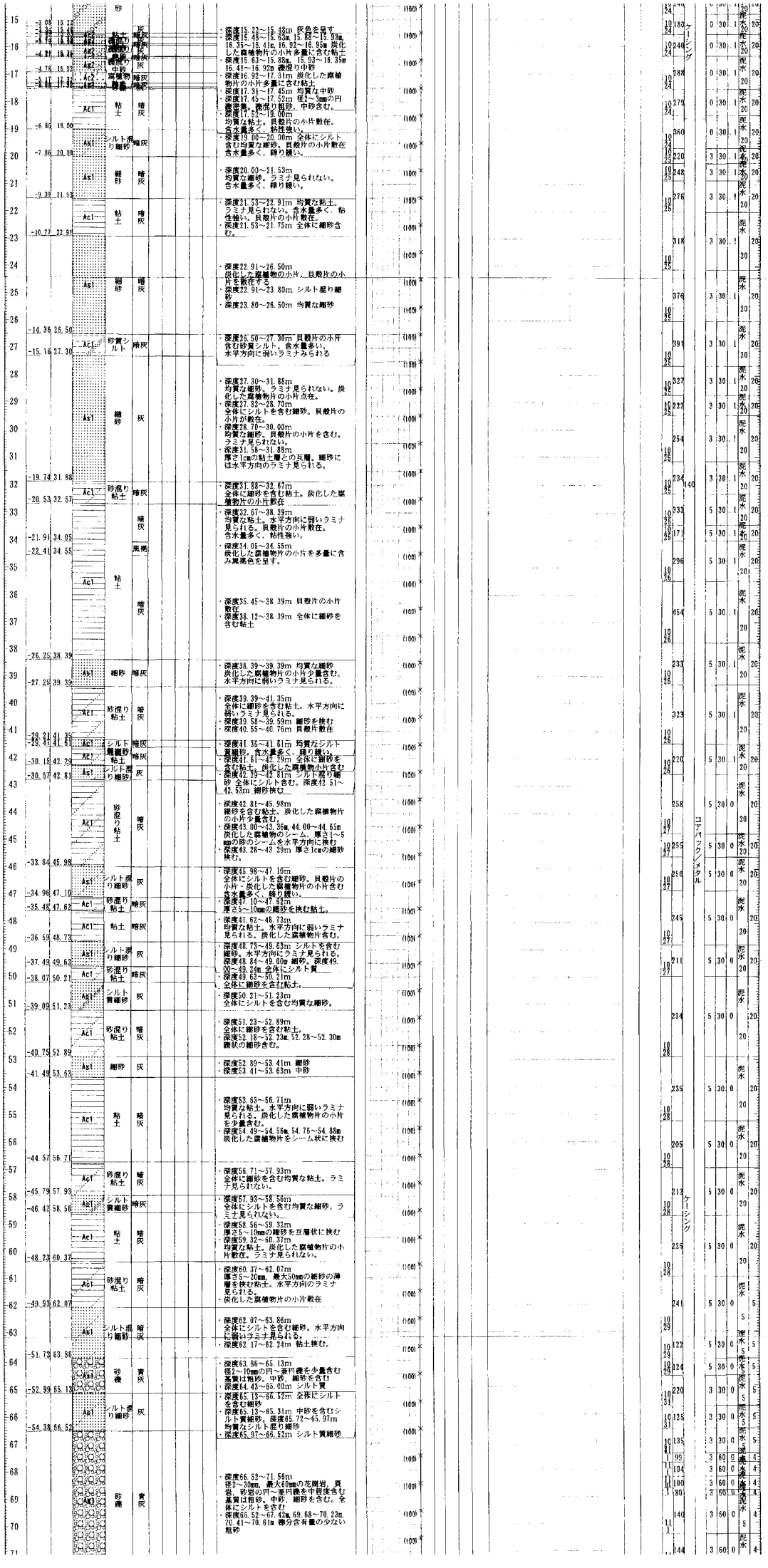
ボーリングNo.　F-2-0

事業・工事名

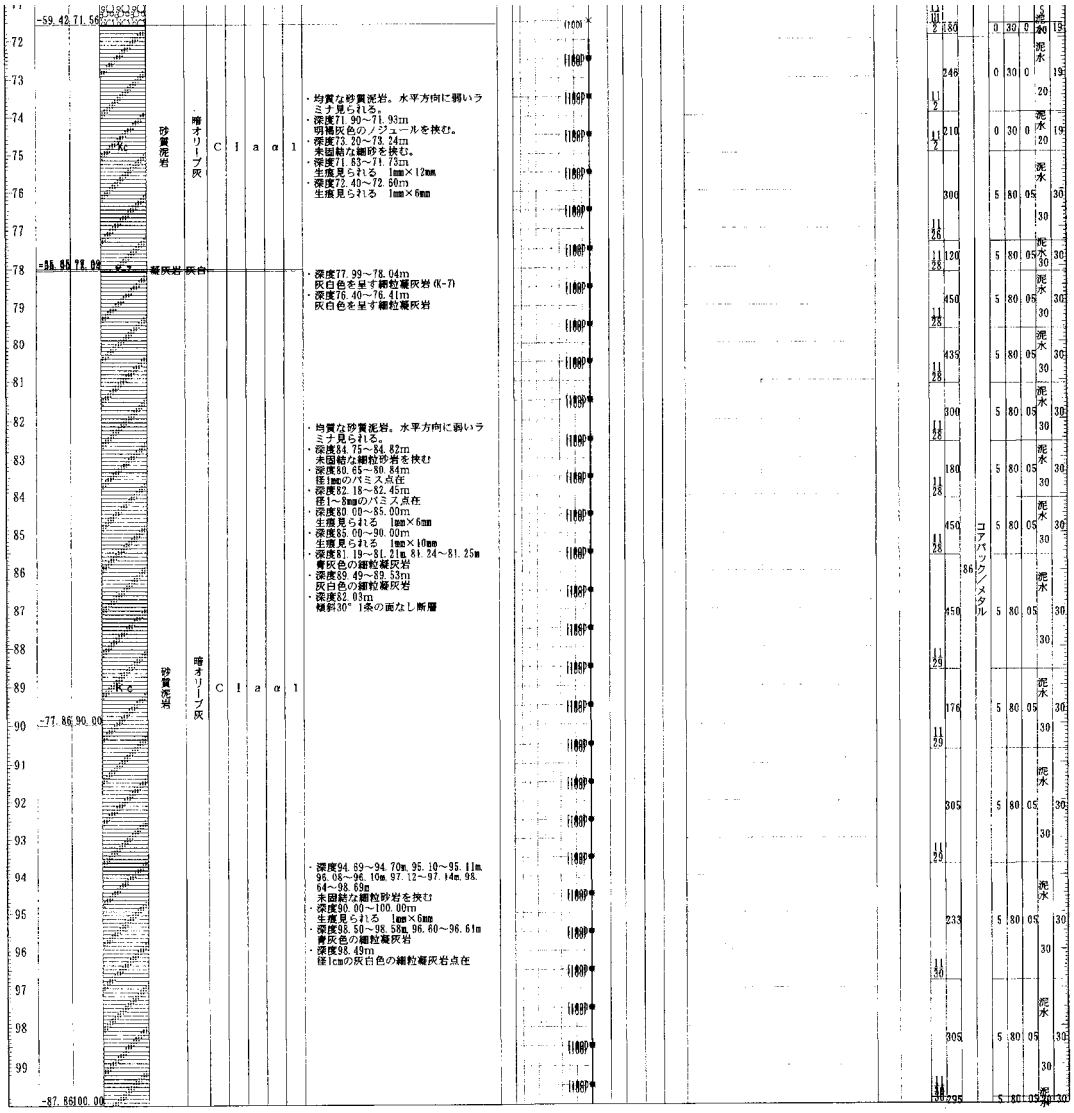
シートNo.

ボーリング名	F-2-0	調査位置	茨城県那珂郡東海村白方1番の1東海発電所構内北地区	北　緯	
発注機関	日本原子力発電株式会社	調査期間	平成17年10月19日～18年2月24日	東　経	
調査業者名	[redacted]	主任技師	[redacted]	現場代理人 [redacted]	コア鑑定者 [redacted]	ボーリング責任者 [redacted]
孔口標高	TP +12.14m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 90° 西 東 180° 南	地盤勾配 水平 0° 鉛直 90°	使用機種
総掘進長	100.00m					試錐機	利根製　TBM－70型
						エンジン	モーター　東芝17KV型	ポンプ	鉱研製　MG－15型

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 －×－ (%) 最大コア長 －●－ cm R Q D [%] 0 50 100	岩級区分	孔内水位m／測定月日	N値	(ルジオン、標準貫入)試験 (P～Q、N値～深度)図 N値 0 10 20 30 40 50	原位置試験(　)	室内試験(　)	掘進状況 掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(KN)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(l/分)	排水量(l/分)
1												(100)							10/19	試掘	165 ケーシング	試掘	0	0	0	無水 0	0
2											・深度0.00～4.04m 均質な中砂、細砂含む。ラミナ見られない 径2～5mmの円礫点在 含水量少なく、締り緩い	(100)							10/20	300		0	0	0	無水 0	0
3												(100)							10/20	300	165		0	0	0	無水 0	0
4	8.10	4.04										(100)							10/20	300		打ち込み	0	0	0	無水 0	0
5											・深度4.04～6.64m 径1～5cmの赤褐色のシルト塊を多量に含む中砂。細砂を含む浸漆材。	(100)							10/21	200		0	30	1	泥水 20	20
6												(100)							10/21	200			0	30	1	泥水 20	20
7	5.50	6.64										(100)							10/21	186			0	30	1	泥水 20	20
8											・深度6.64～9.13m 径2～10mm、最大30mmの円礫を少量含む砂混りシルト。不均質な浸漆材。含水量多く、粘性強い。	(100)		10/24 8.55 10/25 9.15					10/21	189		0	30	1	泥水 20	20
9	3.01	9.13										(100)							10/21	216			0	30	1	泥水 20	20
10	2.05	10.09									・深度9.13～10.09m 径2～5mmの円礫が散在する中砂～細砂。深度9.66～10.09m 細砂	(100)		10/26 10.20					10/21	216			0	30	1	泥水 20	20
11											・深度10.09～12.54m 均質な中砂、細砂含む。ラミナ見られない。 含水量少なく、締り緩い。	(100)		[illegible]					10/21	228	165		0	30	1	泥水 20	20
12	-0.40	12.54										(100)							10/21	240		コアバック／メタル	0	30	1	泥水 20	20
13												(100)							10/21	240			0	30	1	泥水 20	20
14											・深度12.54～15.48m 径2mmの円礫を少量含む中砂。粗砂細砂を含む。ラミナ見られない	(100)							10/21	300			0	30	1	泥水 20	20
																			10/21	240			0	30	1	泥水 20	20



深度	層厚	土質	色調	記事	孔径	掘進速度	水量	水位	水圧	時刻	備考
-3.08	15.22	砂	灰								
-3.38	15.52	粘土混り砂	暗灰	・深度15.22～15.48m 灰色を呈す							
-3.78	15.92	粘土混り砂	暗灰	深度15.48～15.53m 15.83～15.93m, 16.35～16.41m, 16.92～16.95m 炭化した腐植物片の小片多量に含む粘土							
-4.21	16.35	粘土混り砂	暗灰	・深度15.63～15.88m, 15.93～16.35m 16.41～16.92m 微浸り中砂							
-4.78	16.92	粘土混り中砂	暗灰	・深度16.92～17.31m 炭化した腐植物片の小片多量に含む粘土							
-5.17	17.31	腐植物	暗灰	・深度17.31～17.45m 均質な中砂							
-5.31	17.45	粘土	暗灰	・深度17.45～17.52m 径2～3mmの円礫密集。微浸り粗砂。中砂含む。							
-6.86	19.00	粘土	暗灰	・深度17.52～19.00m 均質な粘土。貝殻片の小片散在。含水量多く、粘性強い。							
-7.86	20.00	シルト混り細砂	暗灰	・深度19.00～20.00m 全体にシルト含む均質な細砂。貝殻片の小片散在 含水量多く、締り緩い。							
-9.39	21.53	細砂	暗灰	・深度20.00～21.53m 均質な細砂。ラミナ見られない。含水量多く、締り緩い。							
-10.77	22.91	粘土	暗灰	・深度21.53～22.91m 均質な粘土。ラミナ見られない。含水量多く、粘性強い。貝殻片の小片散在。・深度21.53～21.75m 全体に細砂含む。							
-14.36	26.50	細砂	暗灰	・深度22.91～26.50m 炭化した腐植物の小片、貝殻片の小片を散在する・深度22.91～23.80m シルト混り細砂・深度23.80～26.50m 均質な細砂							
-15.16	27.30	砂質シルト	暗灰	・深度26.50～27.30m 貝殻片の小片含む砂質シルト。含水量多い。水平方向に弱いラミナみられる							
-19.74	31.88	細砂	灰	・深度27.30～31.88m 均質な細砂。ラミナ見られない。炭化した腐植物片の小片点在。・深度27.82～28.70m 全体にシルトを含む細砂。貝殻片の小片が散在。・深度28.70～30.00m 均質な細砂。貝殻片の小片を含む。ラミナ見られない。・深度31.58～31.88m 厚さ1cmの粘土層との互層。細砂には水平方向のラミナ見られる。							
-20.53	32.67	砂混り粘土	暗灰	・深度31.88～32.67m 全体に細砂を含む粘土。炭化した腐植物片の小片散在							
-21.91	34.05	粘土	暗灰	・深度32.67～38.39m 均質な粘土。水平方向に弱いラミナ見られる。貝殻片の小片散在。含水量多く、粘性強い。							
-22.41	34.55	粘土	黒褐	・深度34.05～34.55m 炭化した腐植物片の小片を多量に含み黒褐色を呈す。							
-26.25	38.39	粘土	暗灰	・深度35.45～38.39m 貝殻片の小片散在・深度38.12～38.39m 全体に細砂を含む粘土							
-27.25	39.39	細砂	暗灰	・深度38.39～39.39m 均質な細砂 炭化した腐植物片の小片少量含む。水平方向に弱いラミナ見られる。							
-29.21	41.35	砂混り粘土	暗灰	・深度39.39～41.35m 全体に細砂を含む粘土。水平方向に弱いラミナ見られる。・深度39.58～39.59m 細砂を挟む・深度40.55～40.76m 貝殻片散在							
-29.47	41.61	シルト質細砂	暗灰	・深度41.35～41.61m 均質なシルト質細砂。含水量多く、締り緩い。							
-30.15	42.29	砂混り粘土	暗灰	・深度41.61～42.29m 全体に細砂を含む粘土。炭化した腐植物片含む							
-30.67	42.81	シルト混り細砂	灰	・深度42.29～42.81m シルト混り細砂 全体にシルト含む。深度42.51～42.53m 細砂挟む							
-33.84	45.98	砂混り粘土	暗灰	・深度42.81～45.98m 細砂を含む粘土。炭化した腐植物片の小片少量含む。・深度43.00～43.36m, 44.00～44.65m 炭化した腐植物のシーム。厚さ1～5mmの砂のシームを水平方向に挟む・深度43.28～43.29m 厚さ1cmの細砂挟む。							
-34.96	47.10	シルト混り細砂	灰	・深度45.98～47.10m 全体にシルトを含む細砂。貝殻片の小片・炭化した腐植物片の小片含む 含水量多く、締り緩い。							
-35.48	47.62	砂混り粘土	暗灰	・深度47.10～47.62m 厚さ5～10mmの細砂を挟む粘土。							
-36.59	48.73	粘土	暗灰	・深度47.62～48.73m 均質な粘土。水平方向に弱いラミナ見られる。炭化した腐植物片含む。							
-37.49	49.63	シルト混り細砂	灰	深度48.73～49.63m シルトを含む細砂。水平方向にラミナ見られる。深度48.84～49.00m 細砂。深度49.00～49.24m 全体にシルト質							
-38.07	50.21	砂混り粘土	暗灰	・深度49.63～50.21m 全体に細砂を含む粘土。							
-39.09	51.23	シルト質細砂	灰	・深度50.21～51.23m 全体にシルトを含む均質な細砂。							
-40.75	52.89	砂混り粘土	暗灰	・深度51.23～52.89m 全体に細砂を含む粘土。・深度52.18～52.23m, 52.28～52.30m 微状の細砂含む。							
-41.49	53.63	細砂	灰	・深度52.89～53.41m 細砂・深度53.41～53.63m 中砂							
-44.57	56.71	粘土	暗灰	・深度53.63～56.71m 均質な粘土。水平方向に弱いラミナ見られる。炭化した腐植物片の小片を少量含む。・深度54.49～54.56m, 54.76～54.88m 炭化した腐植物片をシーム状に挟む							
-45.79	57.93	砂混り粘土	暗灰	・深度56.71～57.93m 全体に細砂を含む均質な粘土。ラミナ見られない。							
-46.42	58.56	シルト質細砂	暗灰	・深度57.93～58.56m 全体にシルトを含む均質な細砂。ラミナ見られない。							
-48.23	60.37	粘土	暗灰	・深度58.56～59.32m 厚さ5～10mmの細砂を互層状に挟む・深度59.32～60.37m 均質な粘土。炭化した腐植物片の小片散在。ラミナ見られない。							
-49.93	62.07	砂混り粘土	暗灰	・深度60.37～62.07m 厚さ5～20mm, 最大50mmの細砂の薄層を挟む粘土。水平方向のラミナ見られる。・炭化した腐植物片の小片散在							
-51.72	63.86	シルト混り細砂	暗灰	・深度62.07～63.86m 全体にシルトを含む細砂。水平方向に弱いラミナ見られる。・深度62.17～62.24m 粘土挟む。							
-52.99	65.13	砂礫	青灰	・深度63.86～65.13m 径2～30mmの円～亜円礫を少量含む 基質は粗砂。中砂、細砂を含む・深度64.43～65.00m シルト質							
-54.38	66.52	シルト混り細砂	灰	・深度65.13～66.52m 全体にシルトを含む細砂・深度65.13～65.31m 中砂を含むシルト質細砂。深度65.72～65.97m 均質なシルト混り細砂・深度65.97～66.52m シルト質細砂							
		砂礫	青灰	・深度66.52～71.56m 径2～30mm, 最大60mmの花崗岩、貝岩、砂岩の円～亜円礫を中程度含む 基質は粗砂、中砂、細砂を含む。全体にシルトをさむ・深度66.52～67.42m, 69.68～70.23m, 70.41～70.61m 礫分含有量の少ない粗砂							



-59.42 71.56
-95.65 78.09
-77.86 90.00
-87.86 100.00
Kc
Kc
砂質泥岩
暗オリーブ灰
凝灰岩
灰白
C I a α 1
・均質な砂質泥岩。水平方向に弱いラミナ見られる。
・深度71.90～71.93m
明褐灰色のノジュールを挟む。
・深度73.20～73.24m
未固結な細砂を挟む。
・深度71.63～71.73m
生痕見られる 1mm×12mm
・深度72.40～72.60m
生痕見られる 1mm×6mm
・深度77.99～78.04m
灰白色を呈す細粒凝灰岩(K-7)
・深度76.40～76.41m
灰白色を呈す細粒凝灰岩
・均質な砂質泥岩。水平方向に弱いラミナ見られる。
・深度84.75～84.82m
未固結な細粒砂岩を挟む
・深度80.65～80.84m
径1mmのパミス点在
・深度82.18～82.45m
径1～8mmのパミス点在
・深度80.00～85.00m
生痕見られる 1mm×6mm
・深度85.00～90.00m
生痕見られる 1mm×10mm
・深度81.19～81.21m 81.24～81.25m
青灰色の細粒凝灰岩
・深度89.49～89.53m
灰白色の細粒凝灰岩
・深度82.03m
傾斜30° 1条の面なし断層
・深度94.69～94.70m 95.10～95.11m 96.08～96.10m 97.12～97.14m 98.64～98.69m
未固結な細粒砂岩を挟む
・深度90.00～100.00m
生痕見られる 1mm×6mm
・深度98.50～98.58m 96.60～96.61m
青灰色の細粒凝灰岩
・深度98.49m
径1cmの灰白色の細粒凝灰岩点在
コアパック/メタル

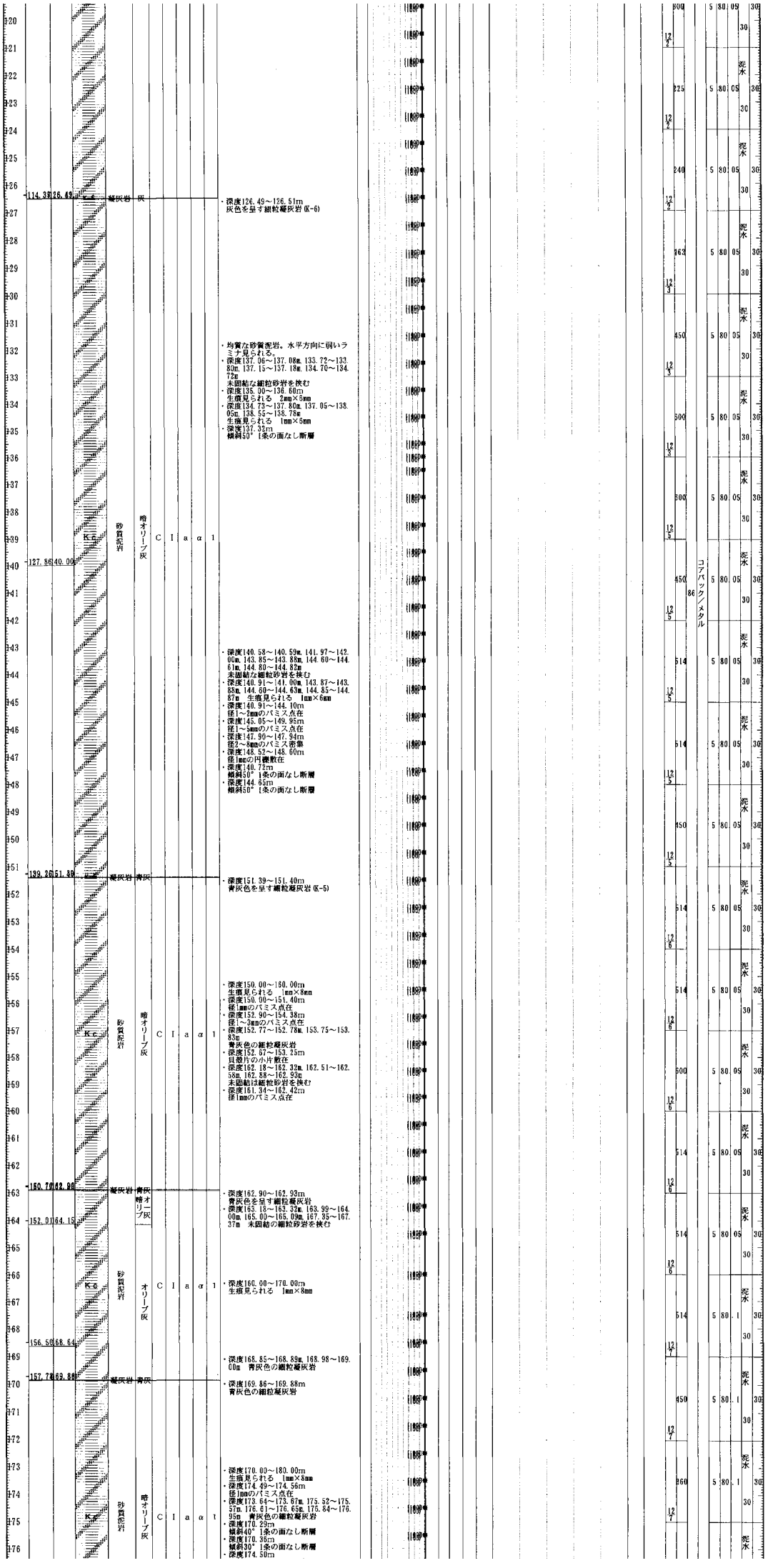
F-2-0 (0～100m)

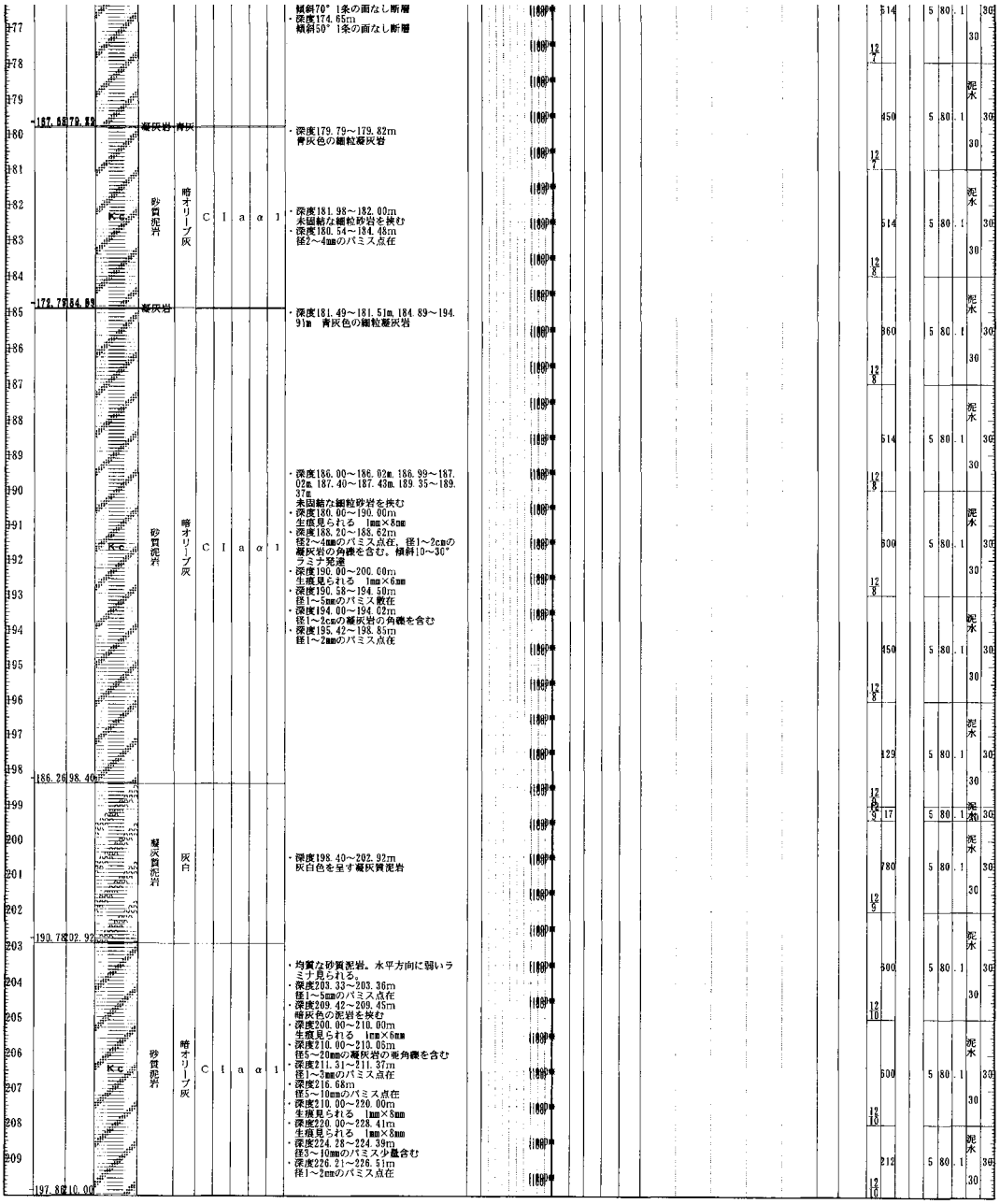
ボーリング柱状図

調査名	東海発電所 放射性物質濃度の極めて低い廃棄物の敷地内埋設施設に係る地質・地下水調査	ボーリングNo.	F-2-0
事業・工事名		シートNo.	

ボーリング名	F-2-0	調査位置	茨城県那珂郡東海村白方1番の1東海発電所構内北地区	北緯	
発注機関	日本原子力発電株式会社	調査期間	平成17年10月19日～18年2月24日	東経	
調査業者名	[redacted]	主任技師	[redacted]	現場代理人	[redacted]
コア鑑定者	[redacted]	ボーリング責任者	[redacted]		
孔口標高	TP +12.14m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南
地盤勾配	水平 0° 約 90°	使用機種	試錐機	利根製 TBM－70型	
総掘進長	376.62m		エンジン	モーター 東芝17KV型	ポンプ 鉱研製 MG－15型

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 －×－(%) 最大コア長 －●－cm RQD [%] 0 50 100	岩級区分	孔内水位m／測定月日	N値	(ルジオン、標準貫入)試験 (P～Q、N値～深度)図 N値 0 10 20 30 40 50	原位置試験(−)	室内試験(−)	掘進状況 掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(KN)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(l/分)	排水量(l/分)
00																			11/30								
01																				295			5	80	05	泥水 30	30
02																			11/30								
03																											
04																				360			5	80	05	泥水 30	30
05																			11/30								
06											・均質な砂質泥岩。水平方向に弱いラミナ見られる。 ・深度101.11～101.12m, 114.52～114.54m, 116.06～116.09m, 118.21～118.26m, 119.74～119.78m, 124.33～124.39m, 129.13～129.15m 未固結な細粒砂岩を挟む ・深度100.00～110.00m 生痕見られる 1mm×8mm ・深度110.00～120.00m 生痕見られる 1mm×10mm ・深度120.00～130.00m 生痕見られる 1mm×6mm ・深度114.06m 傾斜20° 1条の面なし断層 ・深度114.61m 傾斜10° 1条の面なし断層 ・深度114.62m 傾斜30° 1条の面なし断層 ・深度113.82～113.93m 径2～3mmのパミス点在																					
07																			12/1	210			5	80	05	泥水 30	30
08				K	砂質泥岩	暗オリーブ灰	C	I	a	α	1									240			5	80	05	泥水 30	30
09																			12/1								
10																				465			5	80	05	泥水 30	30
11																											
12																			12/1								
13																				180			5	80	05	泥水 30	30
14																											
15																			12/1								
16																				360			5	80	05	泥水 30	30
17																											
18																			12/2								
19																										泥水	


114.39 126.49 凝灰岩 灰
・深度126.49～126.51m 灰色を呈す細粒凝灰岩(K-6)
・均質な砂質泥岩。水平方向に弱いラミナ見られる。
・深度137.06～137.08m,133.72～133.80m,137.15～137.18m,134.70～134.72m 未固結な細粒砂岩を挟む
・深度135.00～136.60m 生痕見られる 2mm×5mm
・深度134.73～137.80m,137.05～138.05m,138.55～138.78m 生痕見られる 1mm×5mm
・深度137.32m 傾斜50° 1条の面なし断層
砂質泥岩 暗オリーブ灰 C I a α 1
K6
127.86 140.06
・深度140.58～140.59m,141.97～142.00m,143.85～143.88m,144.60～144.61m,144.80～144.82m 未固結な細粒砂岩を挟む
・深度140.91～141.00m,143.87～143.88m,144.60～144.63m,144.85～144.87m 生痕見られる 1mm×6mm
・深度140.91～144.10m 径1～2mmのパミス点在
・深度145.05～149.95m 径1～5mmのパミス点在
・深度147.90～147.94m 径2～8mmのパミス密集
・深度148.52～148.60m 径1mmの円礫散在
・深度140.72m 傾斜50° 1条の面なし断層
・深度144.65m 傾斜50° 1条の面なし断層
139.26 151.38 凝灰岩 青灰
・深度151.39～151.40m 青灰色を呈す細粒凝灰岩(K-5)
砂質泥岩 暗オリーブ灰 C I a α 1
K5
・深度150.00～150.00m 生痕見られる 1mm×8mm
・深度150.00～151.40m 径1mmのパミス点在
・深度152.90～154.38m 径1～3mmのパミス点在
・深度152.77～152.78m,153.75～153.95m 青灰色の細粒凝灰岩
・深度152.67～153.25m 貝殻片の小片散在
・深度162.18～162.32m,162.51～162.58m,162.88～162.93m 未固結は細粒砂岩を挟む
・深度161.34～162.42m 径1mmのパミス点在
150.70 162.98 凝灰岩 青灰
・深度162.90～162.93m 青灰色を呈す細粒凝灰岩
・深度165.18～163.32m,163.99～164.00m,165.00～165.09m,167.35～167.37m 未固結の細粒砂岩を挟む
152.01 164.15
砂質泥岩 暗オリーブ灰 オリーブ灰 C I a α 1
K6
・深度160.00～170.00m 生痕見られる 1mm×8mm
156.50 168.64
・深度168.85～168.89m,168.98～169.00m 青灰色の細粒凝灰岩
157.78 169.88 凝灰岩 青灰
・深度169.86～169.88m 青灰色の細粒凝灰岩
砂質泥岩 暗オリーブ灰 C I a α 1
K7
・深度170.00～180.00m 生痕見られる 1mm×8mm
・深度174.49～174.56m 径1mmのパミス点在
・深度173.64～173.67m,175.52～175.57m,176.61～176.65m,175.84～176.95m 青灰色の細粒凝灰岩
・深度170.29m 傾斜40° 1条の面なし断層
・深度170.36m 傾斜30° 1条の面なし断層
・深度174.50m
コンパック/メタル
泥水


傾斜70° 1条の面なし断層
・深度174.65m
傾斜50° 1条の面なし断層
-187.58 179.82
凝灰岩
青灰
・深度179.79～179.82m
青灰色の細粒凝灰岩
砂質泥岩
暗オリーブ灰
C I a α 1
・深度181.98～182.00m
未固結な細粒砂岩を挟む
・深度180.54～184.48m
径2～4mmのパミス点在
-174.79 184.89
凝灰岩
・深度181.49～181.51m, 184.89～194.91m 青灰色の細粒凝灰岩
・深度186.00～186.02m, 186.99～187.02m, 187.40～187.43m, 189.35～189.37m
未固結な細粒砂岩を挟む
・深度189.00～190.00m
生痕見られる 1mm×8mm
・深度186.20～186.62m
径2～4mmのパミス点在、径1～2cmの凝灰岩の角礫を含む。傾斜10～30°ラミナ発達
・深度190.00～200.00m
生痕見られる 1mm×6mm
・深度190.58～194.50m
径1～5mmのパミス散在
・深度194.00～194.02m
径1～2cmの凝灰岩の角礫を含む
・深度195.42～198.85m
径1～2mmのパミス点在
-186.26 198.40
凝灰質泥岩
灰白
・深度198.40～202.92m
灰白色を呈す凝灰質泥岩
-190.78 202.92
・均質な砂質泥岩。水平方向に弱いラミナ見られる。
・深度203.33～203.36m
径1～5mmのパミス点在
・深度209.42～209.45m
暗灰色の泥岩を挟む
・深度200.00～210.00m
生痕見られる 1cm×6mm
・深度210.00～210.05m
径5～20mmの凝灰岩の亜角礫を含む
・深度211.31～211.37m
径1～3mmのパミス点在
・深度216.68m
径5～10mmのパミス点在
・深度210.00～220.00m
生痕見られる 1mm×8mm
・深度220.00～228.41m
生痕見られる 1mm×8mm
・深度224.28～224.39m
径5～10mmのパミス少量含む
・深度226.21～226.51m
径1～2mmのパミス点在
-197.88 210.00
泥水

F-2-0 (100～210m)

ボーリング柱状図

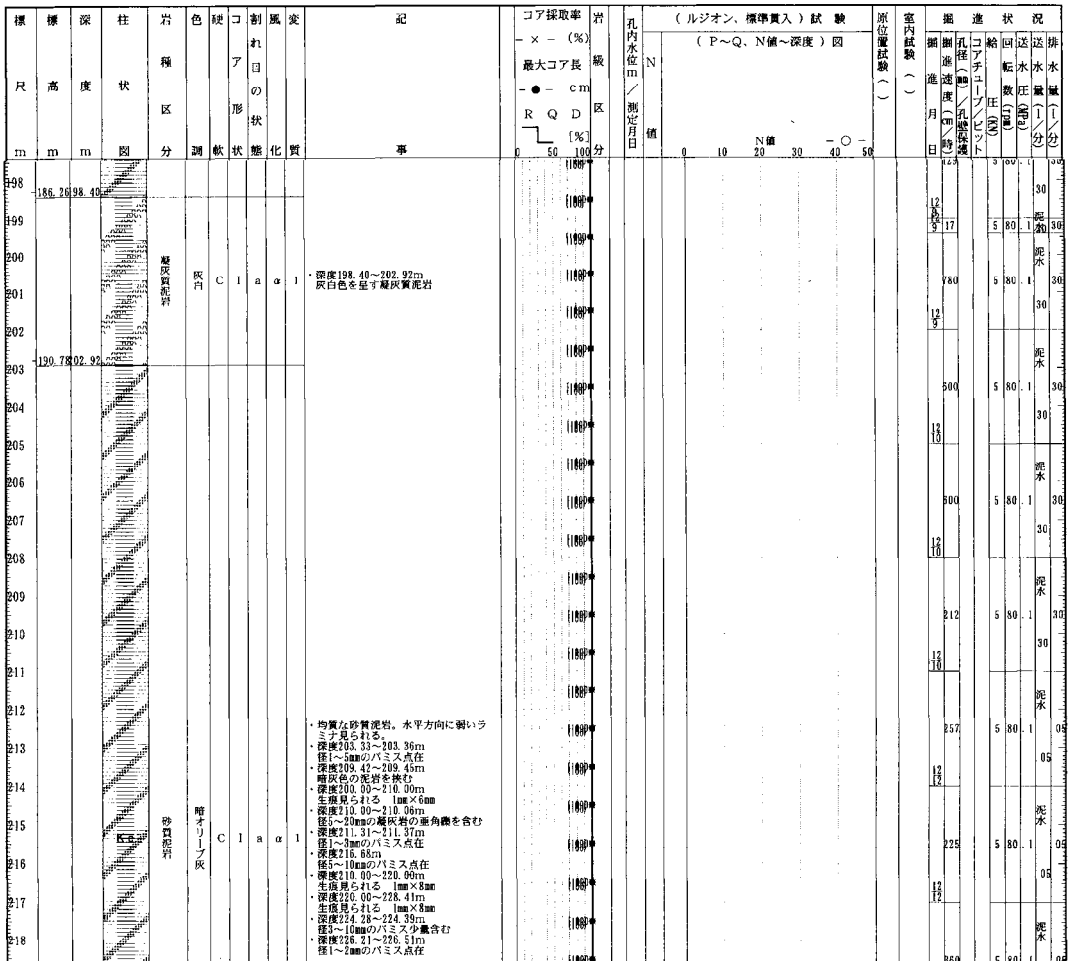
調査名　東海発電所 放射性物質濃度の極めて低い廃棄物の敷地内埋設施設に係る地質・地下水調査

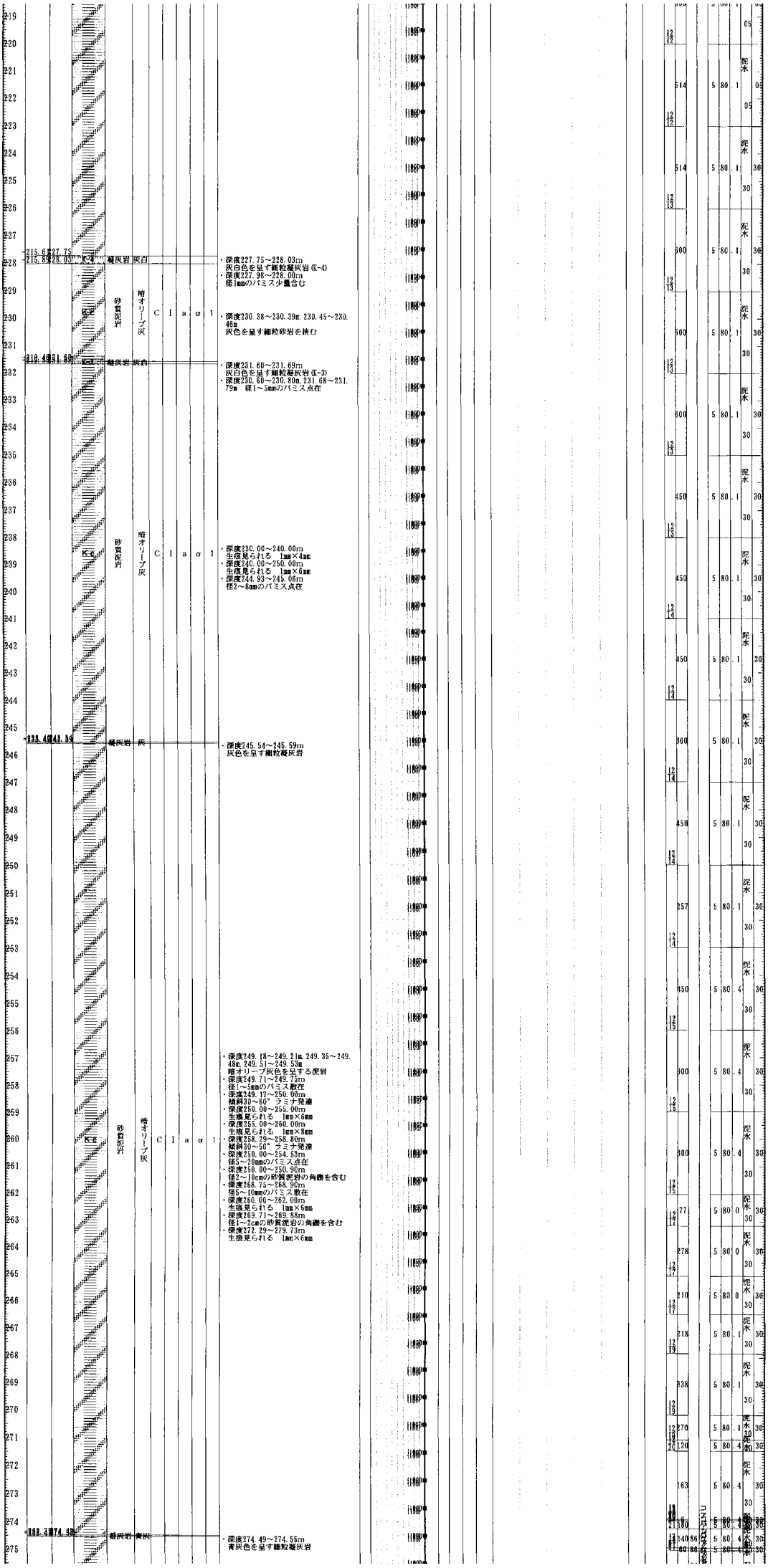
ボーリングNo. F-2-0

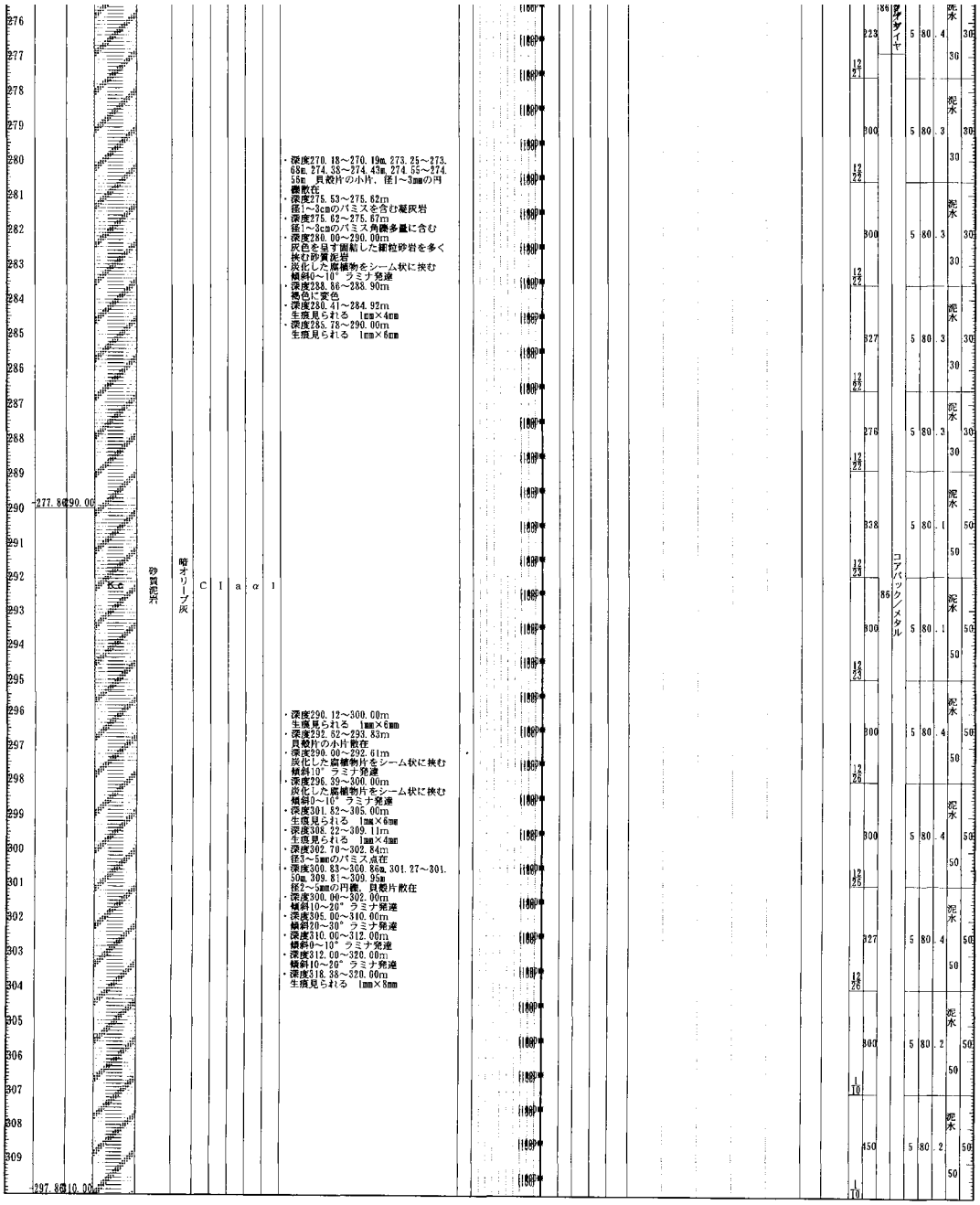
事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	F-2-0	調査位置	茨城県那珂郡東海村白方1番の1東海発電所構内北地区	北緯	
発注機関	日本原子力発電株式会社	調査期間	平成17年10月19日～18年2月24日	東経	
調査業者名	[redacted] 主任技師 [redacted]	現場代理人	[redacted]	コア鑑定者 [redacted]	ボーリング責任者 [redacted]
孔口標高	TP +12.14m	角度	180° 上 / 下 0° 90°	方向	北 0° 西 270° 90° 東 南 180°
総掘進長	376.62m	地盤勾配	水平 0° 約1 90°	使用機種	
		試錐機	利根製 TBM－７０型		
		エンジン	モーター 東芝１７KV型	ポンプ	鉱研製 MG－１５型




凝灰岩 灰白
砂質泥岩
暗オリーブ灰
C I a α 1
凝灰岩 灰白
砂質泥岩
暗オリーブ灰
C I a α 1
凝灰岩 灰
砂質泥岩
暗オリーブ灰
C I a α 1
凝灰岩 青灰
・深度227.75～228.03m
灰白色を呈す細粒凝灰岩(K-4)
・深度227.98～228.00m
径1mmのパミス少量含む
・深度230.38～230.39m,230.45～230.46m
灰色を呈す細粒砂岩を挟む
・深度231.60～231.69m
灰白色を呈す細粒凝灰岩(K-3)
・深度230.60～230.80m,231.68～231.75m 径1～5mmのパミス点在
・深度230.00～240.00m
生痕見られる 1mm×4mm
・深度240.00～250.00m
生痕見られる 1mm×6mm
・深度244.93～245.08m
径2～8mmのパミス点在
・深度245.54～245.59m
灰色を呈す細粒凝灰岩
・深度249.18～249.21m,249.35～249.48m,249.51～249.53m
暗オリーブ灰色を呈する泥岩
・深度249.71～249.73m
径1～5mmのパミス散在
・深度249.17～250.00m
傾斜30～60°ラミナ発達
・深度250.00～255.00m
生痕見られる 1mm×6mm
・深度255.00～260.00m
生痕見られる 1mm×8mm
・深度258.29～258.80m
傾斜30～50°ラミナ発達
・深度250.00～254.53m
径5～20mmのパミス点在
・深度250.00～250.90m
径2～10cmの砂質泥岩の角礫を含む
・深度268.73～268.90m
径5～10mmのパミス散在
・深度260.00～262.00m
生痕見られる 1mm×6mm
・深度269.71～269.85m
径1～2cmの砂質泥岩の角礫を含む
・深度272.29～279.73m
生痕見られる 1mm×6mm
・深度274.49～274.55m
青灰色を呈す細粒凝灰岩
泥水


276
277
278
279
280
281
282
283
284
285
286
287
288
289
290
291
292
293
294
295
296
297
298
299
300
301
302
303
304
305
306
307
308
309
277.8
290.00
297.8
310.00
Kc
砂質泥岩
暗オリーブ灰
Cl a-α1
・深度270.18～270.19m, 273.25～273.68m, 274.38～274.43m, 274.55～274.55m 貝殻片の小片, 径1～3mmの円礫散在
・深度275.53～275.62m
径1～3cmのパミスを含む凝灰岩
・深度275.62～275.67m
径1～3cmのパミス角礫多量に含む
・深度280.00～290.00m
灰色を呈す固結した細粒砂岩を多く挟む砂質泥岩
・炭化した腐植物をシーム状に挟む
傾斜0～10° ラミナ発達
・深度288.86～288.90m
褐色に変色
・深度280.41～284.92m
生痕見られる 1mm×4mm
・深度285.78～290.00m
生痕見られる 1mm×6mm
・深度290.12～300.00m
生痕見られる 1mm×6mm
・深度292.52～293.83m
貝殻片の小片散在
・深度290.00～292.61m
炭化した腐植物片をシーム状に挟む
傾斜10° ラミナ発達
・深度296.39～300.00m
炭化した腐植物片をシーム状に挟む
傾斜0～10° ラミナ発達
・深度301.52～305.00m
生痕見られる 1mm×6mm
・深度306.22～309.11m
生痕見られる 1mm×4mm
・深度302.70～302.84m
径3～5mmのパミス点在
・深度300.83～306.86m, 301.27～301.50m, 309.81～309.95m
径2～5mmの円礫, 貝殻片散在
・深度300.00～302.00m
傾斜10～20° ラミナ発達
・深度305.00～310.00m
傾斜20～30° ラミナ発達
・深度310.00～312.00m
傾斜0～10° ラミナ発達
・深度312.00～320.00m
傾斜10～20° ラミナ発達
・深度318.38～320.00m
生痕見られる 1mm×8mm
コアバック/メタル
泥水

F-2-0（200～300m）

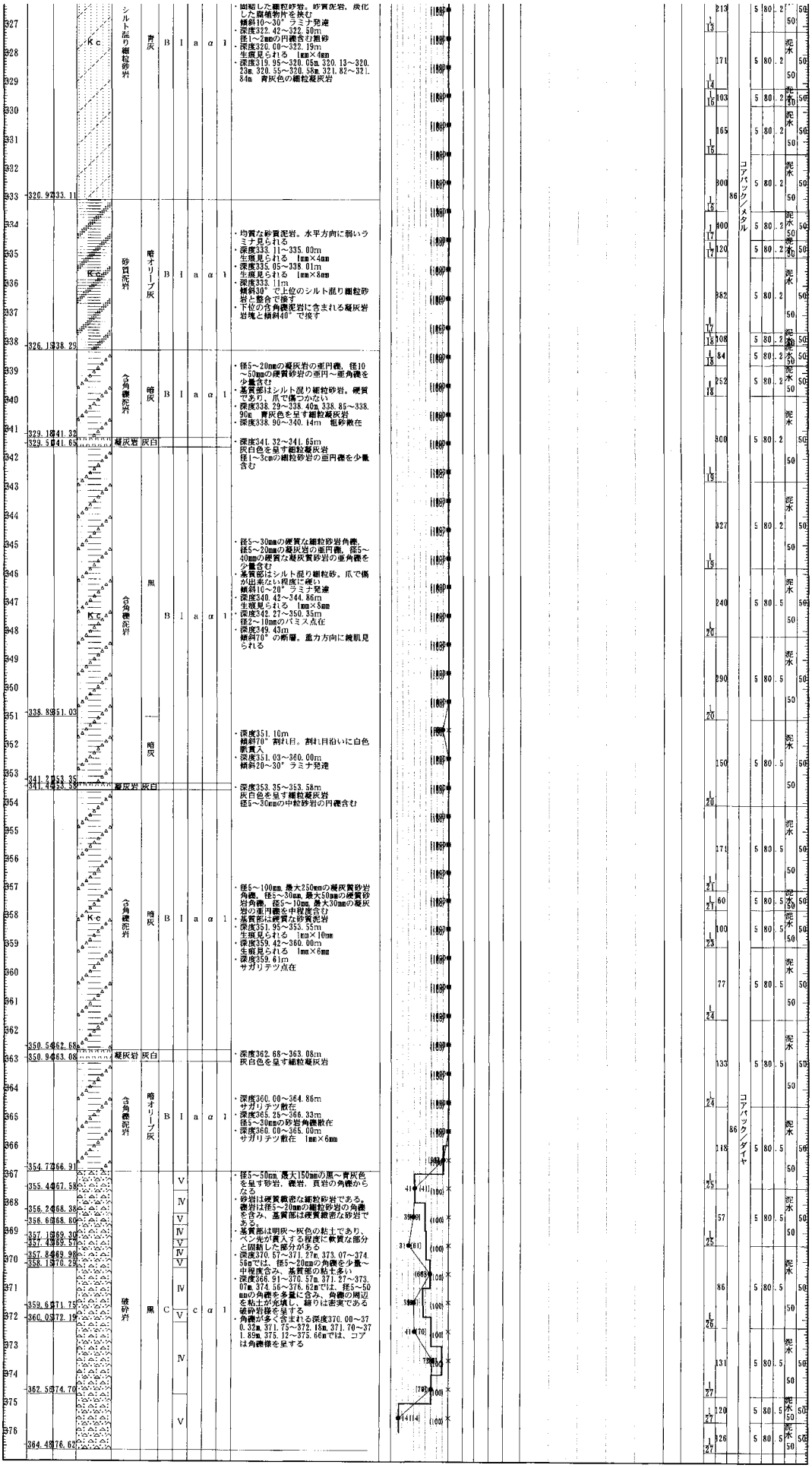
ボーリング柱状図

調査名	東海発電所 放射性物質濃度の極めて低い廃棄物の敷地内埋設施設に係る地質・地下水調査	ボーリングNo.	F-2-0
事業・工事名			

シートNo.

ボーリング名	F-2-0	調査位置	茨城県那珂郡東海村白方1番の1東海発電所構内北地区	北緯	
発注機関	日本原子力発電株式会社	調査期間	平成17年10月19日～18年2月24日	東経	
調査業者名	[redacted]	主任技師	[redacted]	現場代理人	[redacted]
				コア鑑定者	[redacted]
				ボーリング責任者	[redacted]
孔口標高	TP +12.14m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南
地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°	使用機種		試錐機	利根製 TBM－70型
総掘進長	376.62m			エンジン	モーター 東芝17KV型
				ポンプ	鉱研製 MG－15型

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 -×-(%) 最大コア長 -●- cm RQD [%] 0 50 100	岩級区分	孔内水位m／測定月日	N値	(ルジオン、標準貫入)試験 (P～Q、N値～深度)図 N値 -○- 0 10 20 30 40 50	原位置試験()	室内試験()	掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(kN)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(l/分)	排水量(l/分)
290	-277.86	290.00																										
291																												
292																			12/23	338			5	80	.1	泥水 50	50
293																												
294																				300	86	コアパック／メタル	5	80	.1	泥水 50	50
295																			12/23								
296																												
297			Ka	砂質泥岩	暗オリーブ灰	C	I	a	α	1										300			5	80	.4	泥水 50	50
298																			12/26								
299																												
300																				300			5	80	.4	泥水 50	50
301											・深度290.12～300.00m 生痕見られる 1mm×6mm ・深度292.62～293.83m 貝殻片の小片散在 ・深度290.00～292.61m 炭化した腐植物片をシーム状に挟む 傾斜10°ラミナ発達 ・深度296.39～300.00m 炭化した腐植物片をシーム状に挟む 傾斜0～10°ラミナ発達 ・深度301.82～305.00m 生痕見られる 1mm×6mm ・深度308.22～309.11m 生痕見られる 1mm×4mm ・深度302.70～302.84m 径3～5mmのパミス点在 ・深度300.83～300.86m, 301.27～301.50m, 309.81～309.95m 径2～5mmの円礫、貝殻片散在 ・深度300.00～302.00m 傾斜10～20°ラミナ発達 ・深度305.00～310.00m 傾斜20～30°ラミナ発達 ・深度310.00～312.00m 傾斜0～10°ラミナ発達 ・深度312.00～320.00m 傾斜10～20°ラミナ発達 ・深度318.38～320.00m 生痕見られる 1mm×8mm																											
302																												
303																				327			5	80	.4	泥水 50	50
304																			12/26								
305																												
306																				300			5	80	.2	泥水 50	50
307																			1/10								
308																				450			5	80	.2	泥水 50	50
309																												
310																			1/10								
311																				137		コアパック／ダイヤ	5	80	.2	泥水 50	50
312																			1/11	60	86		5	80	.3	泥水 50	50
313																				120			5	80	.3	泥水 50	50
314																				250			5	80	.3	泥水 50	50
315																			1/11								
316																												
317																				249			5	80	.5	泥水 50	50
318																			1/12								
319	-307.53	319.65																		480			5	80	.5	泥水 50	50
320	-308.44	320.58		凝灰岩	青灰						・深度314.80～314.83m, 318.38～318.83m, 319.10～319.33m, 319.65～320.00m 青灰色を呈する細粒砂岩																	
321			Mc	砂質泥岩	暗オリーブ灰	C	I	a	α	1										220			5	80	.5	泥水 50	50
322	-310.05	322.19																	1/12								
323																				153			5	80	.5	泥水 50	50
324																												
325																				200			5	80	.2	泥水 50	50
326																			1/13								



・固結した細粒砂岩。砂質泥岩，炭化した植物片を挟む
傾斜10～30° ラミナ発達
・深度322.42～322.50m
径1～2mmの円礫含む粗砂
・深度320.00～322.19m
生痕見られる 1mm×4mm
・深度319.95～320.05m,320.13～320.23m,320.55～320.65m,321.82～321.84m 青灰色の細粒凝灰岩

・均質な砂質泥岩。水平方向に弱いラミナ見られる
・深度333.11～335.00m
生痕見られる 1mm×4mm
・深度335.05～338.01m
生痕見られる 1mm×8mm
・深度333.11m
傾斜30° で上位のシルト混り細粒砂岩と整合で接す
・下位の含角礫泥岩に含まれる凝灰岩岩塊と傾斜40° で接す

・径5～20mmの凝灰岩の亜円礫，径10～50mmの硬質砂岩の亜円～亜角礫を少量含む
・基質部はシルト混り細粒砂岩。硬質であり，爪で傷つかない
・深度338.29～338.40m,338.85～338.90m 青灰色を呈す細粒凝灰岩
・深度338.90～340.14m 粗砂敵在

・深度341.32～341.65m
灰白色を呈す細粒凝灰岩
径1～3cmの細粒砂岩の亜円礫を少量含む

・径5～30mmの硬質な細粒砂岩角礫，径5～20mmの凝灰岩の亜円礫，径5～40mmの硬質な凝灰質砂岩の亜角礫を少量含む
・基質部はシルト混り細粒砂。爪で傷が出来ない程度に硬い
傾斜10～20° ラミナ発達
・深度340.42～344.86m
生痕見られる 1mm×8mm
・深度342.27～350.33m
径2～10mmのパミス点在
・深度349.43m
傾斜70° の断層，重力方向に鏡肌見られる

・深度351.10m
傾斜70° 割れ目，割れ目沿いに白色脈貫入
・深度351.03～360.00m
傾斜20～30° ラミナ発達

・深度353.35～353.58m
灰白色を呈す細粒凝灰岩
径5～30cmの中粒砂岩の円礫含む

・径5～100mm，最大250mmの凝灰質砂岩角礫，径5～30mm，最大50mmの硬質砂岩角礫，径5～10mm，最大30mmの凝灰岩の亜円礫を中程度含む
・基質部は緻質な砂質泥岩
・深度351.95～353.55m
生痕見られる 1mm×10mm
・深度359.42～360.00m
生痕見られる 1mm×6mm
・深度359.61m
サガリテツ点在

・深度362.68～363.08m
灰白色を呈す細粒凝灰岩

・深度360.00～364.86m
サガリテツ散在
・深度365.25～366.33m
径5～30mmの砂岩角礫散在
・深度360.00～365.00m
サガリテツ散在 1mm×6mm

・径5～50mm，最大150mmの黒～青灰色を呈す砂岩，礫岩，頁岩の角礫からなる
・砂岩は硬質緻密な細粒砂岩である。礫岩は径5～20mmの細粒砂岩の角礫を含み，基質部は硬質緻密な砂岩である。
・基質部は明灰～灰色の粘土であり，ペン先が貫入する程度に軟質な部分と固結した部分がある
・深度370.57～371.27m,373.07～374.56mでは，径5～20mmの角礫を少量～中程度含み，基質部の粘土多い
・深度366.91～370.57m,371.27～373.07m,374.56～376.62mでは，径5～50mmの角礫を多量に含み，角礫の周辺を粘土が充填し，締りは密実である破砕岩様を呈する
・角礫が多く含まれる深度370.00～370.32m,371.75～372.18m,371.70～371.89m,375.12～375.66mでは，コアは角礫様を呈する

F-2-0（290～377m）

ボーリング柱状図

調査名　東海発電所 放射性物質濃度の極めて低い廃棄物の敷地内埋設施設に係る地質・地下水調査

ボーリングNo.　F-4-0

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	F-4-0	調査位置	茨城県那珂郡東海村白方1番の1東海発電所構内北地区	北緯	
発注機関	日本原子力発電株式会社	調査期間	平成17年11月25日～17年12月2日	東経	
調査業者名	[redacted]	主任技師	[redacted]	現場代理人	[redacted]
コア鑑定者	[redacted]	ボーリング責任者	[redacted]		
孔口標高	TP +6.97m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南
地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°	使用機種		試錐機	利根 TS-100
総掘進長	33.00m			エンジン	ヤンマー NFD-9
ポンプ	利根 NP-40				

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
1				礫混り中砂	褐灰						・深度0.00～4.97m 径2～5mm，最大8mmの円礫が散在する中砂。細砂，粗砂を含む。長さ1～2cm程度の木片の小片散在。
2											・深度0.00～0.37m 草根を少量含む
3											・深度2.46～2.77m 黒色の砂を少量含む。
4											・深度3.51～4.97m 径2～5mm，最大8mmの円礫が散在。全体にシルトを含む。
5	2.00	4.97									
6	0.33	6.64	du	中砂	褐灰						・深度4.97～6.64m 均質な中砂。粗砂，細砂を含む。ラミナ見られない。含水量少なく、締り緩い。
7				礫混り中砂	褐灰						・深度6.64～9.11m 径2～5mm，最大8mmの円礫が散在する均質な中砂。粗砂を多量に含む。ラミナ見られない。
8											・深度9.11～10.07m 径2～5mm，最大8mmの円礫が散在する均質な中砂。細砂を含む。ラミナ見られない。
9	-2.14	9.11	Ag2		灰						
10	-3.10	10.07									
11				砂礫	灰						・深度10.07～12.34m 径2～5mm，最大8mmの円礫を多量に含む。基質は粗砂
12											・深度12.19～12.34m 径5～20mm，最大40mmの砂岩，頁岩，チャートの円礫を多量に含む。分級悪く、不均質。
13	-5.37	12.34	Ac1	砂混り粘土	暗灰						・深度12.34～13.82m 全体に細砂を少量含む粘土。ラミナ見られない。貝殻片の小片が散在する。含水量多く、粘性強い。
14	-6.85	13.82									
15			As1	細砂	暗灰						・深度13.82～15.67m 均質な細砂。ラミナ見られない。含水量多く、締り緩い。
16	-8.70	15.67									
17			Ac1	砂混り粘土	暗灰						・深度15.67～18.67m 全体に細砂を含む粘土。水平方向に弱いラミナが見られる。貝殻片の小片散在。含水量多く、粘性強い。
18	-11.70	18.67									
19	-12.81	19.78	As1	シルト質細砂	暗灰						・深度18.67～19.78m 全体にシルトを含む均質な細砂。ラミナ見られない。
20											
21			As1	細砂	暗灰						・深度19.78～22.83m 均質な細砂。ラミナ見られない。含水量多く、締まり緩い。
22	-15.86	22.83									
23	-16.12	23.09	Ac1	砂質シルト	暗灰						・深度22.83～23.09m 全体に細砂を含むシルト。
24			As1	細砂	暗灰						・深度23.09～24.85m 均質な細砂。ラミナ見られない。含水量多く、締まり緩い。
25	-17.88	24.85									・深度24.06～24.84m 水平方向にラミナ見られる。含水量多く、締り緩い。
26				粘土	暗灰						・深度24.85～27.49m 水平方向に弱いラミナの見られる粘土。
27	-20.52	27.49									・深度26.45～26.51m 未固結な細砂を挟む。
28	-21.08	28.05	Ac1		黒褐						・深度27.49～28.05m 炭化した腐植物の小片を多量に含む貝殻片の小片点在。
29					暗灰						
30											・深度30.65～30.97m 貝殻片の小片が密集。
31	-24.86	31.83									
32	-26.03	33.00	As1	シルト質細砂	暗灰						・深度31.83～33.00m 炭化した腐植物の小片をシーム状に挟む細砂。厚さ2～5mmのシルトと互層状。水平方向のラミナ見られる。

コア採取率 -×-(%)　最大コア長 -●- cm　RQD [%]　岩級区分　孔内水位m／測定月日　N値　（ルジオン、標準貫入）試験（P～Q、N値～深度）図　原位置試験（）　室内試験（）

掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(KN)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(l/分)	排水量(l/分)
11/25	試掘	116 ケーシング	試掘	0	0	0	無水 0	0
11/26	400		打撃	0	0	無水 0	0	
11/26	300	116	打撃	0	0	無水 0	0	
11/26	300		打撃	0	0	無水 0	0	
11/26	300		打撃	0	0	無水 0	0	
11/26	300	ケーシング	打撃	0	0	無水 0	0	
11/26	300		打撃	0	0	無水 0	0	
11/28	150	116 ケーシング	コアパック／メタル	1	30	0	泥水 20	10
11/28	150			1	30	0	泥水 20	10
11/28	128			1	30	0	泥水 20	10
11/28	165			1	30	0	泥水 20	10
11/28	168			1	30	0	泥水 20	10
11/29	150	116 ケーシング	打ち込みパック／メタル	打撃	0	0	泥水 20	0
11/29	150			打撃	0	0	泥水 20	0
11/29	180			打撃	0	0	泥水 20	0
11/29	360			1	30	1	泥水 20	20
11/29	200			1	30	1	泥水 20	20
11/29	270			1	30	1	泥水 20	20
11/29	210			1	30	1	泥水 20	20
11/29	330			1	30	1	泥水 20	20
11/29	375			1	30	1	泥水 20	20
11/29	375			1	30	1	泥水 20	20
11/29	330			1	30	1	泥水 20	20
11/30	210			1	30	1	泥水 20	20
11/30	240			1	30	1	泥水 20	20
11/30	170		コアパック／メタル	1	30	1	泥水 20	20
11/30	180	86		1	30	1	泥水 20	20
11/30	156			1	30	1	泥水 20	20
11/30	264			1	30	1	泥水 20	20
11/30	285			1	30	1	泥水 20	20
11/30	360			1	30	1	泥水 20	20
11/30	300			1	30	1	泥水 20	20
12/1	300			2	30	1	泥水 20	20
12/1	360			2	30	1	泥水 20	20
12/1	330			2	30	1	泥水 20	20
12/1	220			2	30	1	泥水 20	20

F-4-0（0～33m）

ボーリング柱状図

調査名	東海発電所 放射性物質濃度の極めて低い廃棄物の敷地内埋設施設に係る地質・地下水調査	ボーリングNo.	F-6-0
事業・工事名			

シートNo.

ボーリング名	F-6-0	調査位置	茨城県那珂郡東海村白方1番の1東海発電所構内			北緯	
発注機関	日本原子力発電株式会社			調査期間	平成17年11月9日～17年11月19日	東経	
調査業者名	[redacted]	主任技師	[redacted]	現場代理人	[redacted]	コア鑑定者	[redacted]
						ボーリング責任者	[redacted]
孔口標高	TP +7.99m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°
総掘進長	18.00m	使用機種	試錐機	東邦 D－0			
			エンジン	ヤンマー NFD－150	ポンプ	カノー V－6	

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	岩級区分	孔内水位 m／測定月日	N値	(ルジオン、標準貫入)試験 (P～Q、N値～深度)図 N値	原位置試験	室内試験	掘進状況 掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(KN)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(l/分)	排水量(l/分)
1			Fl	礫混り中砂	褐						・深度0.00～5.00m 径5～20mm, 最大50mmの角礫散在する粗砂。中砂、細砂を含む。含水量少ない。 ・全体に褐色を呈し、シルトを含む。径1～3cmの礫状の茶褐色シルトを含む。均質であるが、分級悪い。 ・深度4.08～4.17m 炭化した腐植物の小片密集。	(100)		11/14 1.45				11/10	試掘	140 ケーシング	試掘	0	0	0	無水 0	0
2												(100)							11/10	600			打撃	0	0	無水 0	0
3												(100)							11/10	600	140		打撃	0	0	無水 0	0
4												(100)							11/11	600		打ち込み	打撃	0	0	無水 0	0
5	2.99	5.00										(100)							11/11	600			打撃	0	0	無水 0	0
6	1.54	6.45	Ag	中砂	褐灰						・深度5.00～6.45m 均質な中砂。細砂を含む。ラミナ見られない。含水量少ない。	(100)		11/18 6.45 11/22 6.95					11/11	270			打撃	0	0	無水 0	0
7												(100)							11/11	450			打撃	0	0	無水 0	0
8			Ag2	礫混り粗砂	褐灰						・深度6.45～11.22m 径2～5mmの円礫を散在する粗砂。中砂, 細砂を含む。ラミナ見られない。 ・深度10.00～11.22m 均質な粗砂。中砂, 細砂含む。含水量多い。	(100)							11/11	540	86	打ち込み	打撃	0	0	無水 0	0
9												(100)							11/11	660			打撃	0	0	無水 0	0
10												(100)							11/12	225			.5	60	.1	泥水 30	30
11	-3.44	11.40	Ag2	腐植物粘土	黒褐灰						・深度11.22～11.31m, 11.82～12.06m 炭化した腐植物の小片を多量に含む粘土。含水量多く、粘性強い。 ・深度11.31～11.82m 均質な細砂。中砂を含む。含水量多い。深度11.69～11.82m シルト質細砂 ・深度12.06～12.28m シルトを含む中砂。深度12.28～12.40m 径2～5mmの円礫を中程度含む粗砂	(100)							11/12	180			1	60	05	泥水 30	30
12	-3.83	11.82	Ag2	腐植物粘土	黒褐灰							(100)							11/13	216			1	60	.1	泥水 30	30
13	-4.07	12.06	Ag2	腐植物粘土	黒褐灰							(100)							11/14	140			.5	60	.1	泥水 30	30
14	-4.29	12.28	Ag2	腐植物粘土	黒褐灰						・深度12.40～14.69m 均質な粘土。貝殻片の小片散在。含水量多く、粘性強い。	(100)							11/14	180			2	60	15	泥水 30	30
15	-6.70	14.69	Ac1	粘土	暗灰						・深度14.69～16.15m 全体にシルトを含む均質な中砂。ラミナ見られない。含水量多く、軟質である。	(100)							11/14	220			1	60	.2	泥水 30	30
16	-8.16	16.15	Ac1	シルト質中砂	暗灰							(100)							11/14	160			.5	60	.2	泥水 30	25
17	-10.01	18.00	Ac1	粘土	暗灰						・深度16.15～18.00m 均質な粘土。ラミナ見られない。 ・深度16.15～16.65m 全体に細砂を少量含む。含水量多く、粘性強い。全体に貝殻片の小片散在。	(100)							11/14	255			1	60	.2	泥水 30	25
												(100)							11/14	90			1	60	.2	泥水 30	25
												(100)							11/14	250			.5	60	15	泥水 30	30
												(100)							11/17	45			.5	60	.2	泥水 30	30
												(100)							11/17	230			.5	60	.1	泥水 30	30

F-6-0 (0～18m)

ボーリング柱状図

調査名	東海発電所 放射性物質濃度の極めて低い廃棄物の敷地内埋設施設に係る地質・地下水調査	ボーリングNo.	G-1-0
事業・工事名			

ボーリング名	G-1-0	調査位置	茨城県那珂郡東海村白方1番の1東海発電所構内			シートNo. 北緯	
発注機関	日本原子力発電株式会社	調査期間	平成17年10月3日～17年10月24日			東経	
調査業者名	[redacted]	主任技師	[redacted]	現場代理人	[redacted]	コア鑑定者	[redacted]	ボーリング責任者	[redacted]
孔口標高	TP +5.02m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 90° 西 東 180° 南	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°	使用機種	試錐機 東邦 D－0
総掘進長	26.00m					エンジン	ヤンマー NFD－150	ポンプ	カノー V－6

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 －×－ (%) 最大コア長 －●－ cm RQD [%] 0 50 100	岩級区分	孔内水位 m／測定月日	N値	(ルジオン、標準貫入)試験 (P～Q、N値～深度)図 N値 0 10 20 30 40 50	原位置試験	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(KN)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(l/分)	排水量(l/分)
1												(100)															
2			dp	細砂	褐灰						・深度0.00～3.83m 均質な細砂。ラミナ見られない。含水量中程度。	(100)							10/7	試掘	114 ケーシング	試掘	0	0	0	無水 0	0
3												(100)							10/7	300			打撃	0	0	無水 0	0
4	1.19	3.83	Ag2	中砂	褐灰						・深度3.83～4.74m 均質な中砂～粗砂 ラミナ見られない。含水量少ない。 深度3.83～3.86m 細礫を散在する中砂～粗砂 深度3.86～4.74m 細砂を含む中砂	(100)							10/7	600	114		打撃	0	0	無水 0	0
5	0.28	4.74										(100)							10/11	600			打撃	0	0	無水 0	0
6			Ag3	礫混り粗砂	褐灰						・深度4.74～7.97m 細礫を少量含む粗砂。全体に細砂、中砂を含む。 均質、ラミナ見られない。 深度6.59～6.84m 中砂を含む細砂	(100)							10/11	360		打ち込み	打撃	0	0	無水 0	0
7												(100)							10/12	240			打撃	0	0	無水 0	0
8	-2.95	7.97										(100)							10/12	300			打撃	0	0	無水 0	0
9			Ag2	砂礫	灰～褐灰						・深度7.97～9.83m 径2～10mm，最大30mmのチャート，頁岩の円礫を少量含む。 基質部は灰色を呈するシルト質粗砂 細砂、中砂を含む。含水量多い。	(100)							10/12	270			打撃	0	0	無水 0	0
10	-4.81	9.83										(100)							10/12	330			打撃	0	0	無水 0	0
11			As1	細砂	暗灰～灰						・深度9.83～12.65m 均質な細砂、ラミナ見られない。 炭化した腐植物片の小片、貝殻片の小片が点在。 含水量多く、締まり緩い。 ・深度11.87～12.31m 細礫を少量含むシルト質粗砂。中砂，細砂を含む。 ・深度12.31～12.65m 中砂を含むシルト混り粗砂	(100)							10/13	180			打撃	0	0	無水 0	0
12												(100)							10/13	140			打撃	0	0	無水 0	0
13	-7.63	12.65	Ac1	砂混り粘土	灰						・深度12.65～13.11m 細礫散在する細砂混り粘土。貝殻片の小片散在	(100)							10/13	320			打撃	0	0	無水 0	0
14	-8.09	13.11										(100)							10/13	150			打撃	0	0	無水 0	0
15												(100)							10/14	225	114	コアパック／メタル	1	60	.1	泥水 30	30
16			As1	細砂	暗灰～灰						・深度13.11～19.03m 均質な細砂。ラミナ見られない。 貝殻片の小片，炭化した腐植物片の小片が点在。 含水量多く、締まり緩い。	(100)							10/14	300			.5	60	.1	泥水 30	30
17												(100)							10/14	240			1	60	.1	泥水 30	30
18												(100)							10/15	75			.5	60	.1	泥水 30	15
19	-14.01	19.03										(100)							10/15	90			.5	60	.1	泥水 30	10
20	-14.86	19.88	Ac1	砂混り粘土	暗灰						・深度19.03～19.88m 全体に細砂を含む粘土。一部に水平方向に弱いラミナ見られる。 含水量多く、粘性強い。	(100)							10/15	150			.5	60	.1	泥水 30	20
21												(100)							10/15	60			.5	60	.1	泥水 30	27
22			As1	細砂	灰						・深度19.88～24.37m 均質な細砂。ラミナ見られない。 貝殻片の小片点在。 含水量多く、締まり緩い。 ・深度21.41～21.92m シルト混り細砂 ・深度24.35～24.37m 細礫点在	(100)							10/16	120			.5	60	.1	泥水 30	27
23												(100)							10/16	140			.5	60	.1	泥水 30	27
24	-19.35	24.37										(100)							10/16	125			.5	60	.1	泥水 30	27
25			Ac1	粘土	暗灰						・深度24.37～26.00m 均質な粘土。ラミナ見られない。 貝殻片の小片点在。 含水量多く、粘性強い。	(100)							10/18	160			.5	60	.1	泥水 30	27
	-20.98	26.00										(100)							10/18	210			.5	60	.1	泥水 30	27
																			10/19	210			1	60	.1	泥水 30	27
																			10/19	150			1	60	.1	泥水 30	27
																			10/19	180			.5	60	.1	泥水 30	27
																			10/19	195			1	60	.1	泥水 30	27
																			10/19	105			1	60	.1	泥水 30	27
																			10/19	200			1	60	.1	泥水 30	27
																			10/19	200			1	60	.1	泥水 30	27
																			10/19	300	86	コアパック／メタル	.5	60	.1	泥水 30	27
																			10/19	150			.5	60	.1	泥水 30	27
																			10/19	120			.5	60	.1	泥水 30	27
																			10/19	360			.5	60	.1	泥水 30	27
																			10/20	132			1	60	.1	泥水 30	25
																			10/20	132			1	60	.1	泥水 30	25
																			10/20	210			.5	60	.1	泥水 30	27
																			10/20	255			.5	60	.1	泥水 30	27
																			10/20	315			.5	60	15	泥水 30	27
																			10/20	120			.5	60	15	泥水 30	27

G-1-0 (0～26m)

ボーリング柱状図

調　査　名　東海発電所 放射性物質濃度の極めて低い廃棄物の敷地内埋設施設に係る地質・地下水調査

ボーリングNo. G-5-0

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	G-5-0	調査位置	茨城県那珂郡東海村白方1番の1東海発電所構内北地区			北　緯	
発注機関	日本原子力発電株式会社			調査期間	平成17年10月25日～17年11月8日	東　経	
調査業者名	[redacted]	主任技師	[redacted]	現場代理人	[redacted]	コア鑑定者	[redacted]	ボーリング責任者	[redacted]
孔口標高	TP +7.99m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 0° 水平 90°	使用機種	
総掘進長	18.00m					試錐機	東邦　D－0		
						エンジン	ヤンマー　NFD－150	ポンプ	カノー　V－6

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 －×－ (%) 最大コア長 －●－ cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位m／測定月日	(ルジオン、標準貫入)試験 (P～Q、N値～深度)図 N値	原位置試験（　）	室内試験（　）	掘進状況 掘進月日	掘進速度(cm／時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(KN)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(l／分)	排水量(l／分)
1	6.89	1.10		礫混り中砂	褐灰						・深度0.00～1.10m 径10～30mmの円礫，草根が散在する中砂。盛土である。							10/26	試掘	114 ケーシング	試掘	0	0	0	無水 0	0
2					褐灰						・深度1.10～6.75m 均質な中砂。細砂を含む。ラミナ見られない。含水量少ない。			10/31 1.70				10/27	600		打撃	0	0	0	無水 0	0
3	4.44	3.55																								
4	4.27	3.72		中砂	黒褐						・深度3.55～3.72m 炭化した黒褐色の腐植物片を多量に含む。							10/27	600	114	打撃	0	0	0	無水 0	0
5					褐灰													10/27	600		打撃	0	0	0	無水 0	0
6	1.24	6.75																10/27	600		打撃	0	0	0	無水 0	0
7				礫混り中砂	褐灰						・深度6.75～8.32m 径2～5mmの円礫を散在する中砂。			7.80				10/27	240	ケーシング	打撃	0	0	0	無水 0	0
8	-0.33	8.32									・深度7.89～8.00m，8.16～8.19m 径2～5mmの円礫を少量含む。							10/27	360		打撃	0	0	0	無水 0	0
9											・深度8.32～13.34m 径2～10mm，最大30mmのチャート，頁岩，砂岩の円礫を多量に含む粗砂中砂，細砂を含む。							10/28	300		打撃	0	0	0	無水 0	0
10					褐灰						・深度8.69～8.85m，9.00～10.00m 径2～10mmの円礫を多量に含む。							10/29	225		打撃	0	0	0	無水 0	0
11				砂礫							・深度10.29～10.47m，10.68～10.80m，11.55～11.69m，12.18～12.35m，12.63～12.32m 径2～10mmの頁岩，チャート，砂岩の円礫を中程度含む。							10/31	180		コアパック／メタル	1	60	1	泥水 30	30
12	-4.19	12.18									・深度11.03～11.40m，12.34～12.56m，13.20～13.24m 均質な細砂挟む。							10/31	135			1	60	1	泥水 30	30
13	-5.34	13.33			灰													10/31	195	114		1	60	1	泥水 30	30
14	-6.41	14.40		シルト混り中砂	暗灰						・深度13.33～14.40m 全体にシルトを含む均質な中砂。細砂を含む。ラミナ見られない。含水量多く，締まり緩い。							10/31	165			1	60	1	泥水 30	30
15																		10/31	135			1	60	1	泥水 30	30
16				砂質粘土	暗灰						・深度14.40～18.00m 均質な砂質粘土。全体に細砂含む。ラミナ見られない 含水量多く，粘性強い。軟質である ・貝殻片の小片，炭化した腐植物の小片点在。							11/1	300			1	60	1.5	泥水 30	15
17																		11/1	240			.5	60	1.5	泥水 30	10
	-10.01	18.00																11/2	105			.5	60	1.5	泥水 30	10
																		11/2	60			.5	60	2	泥水 30	30
																		11/3	53			.5	60	2	泥水 30	30
																		11/3	120			.5	60	2	泥水 30	30
																		11/3	100			.5	60	2	泥水 30	30
																		11/4	100			.5	60	2	泥水 30	30
																		11/4	240	86	コアパック／メタル	.5	60	1.5	泥水 30	30
																		11/4	130			.5	60	1.5	泥水 30	30
																		11/4	190			.5	60	1	泥水 30	30

G-5-0（0～18m）

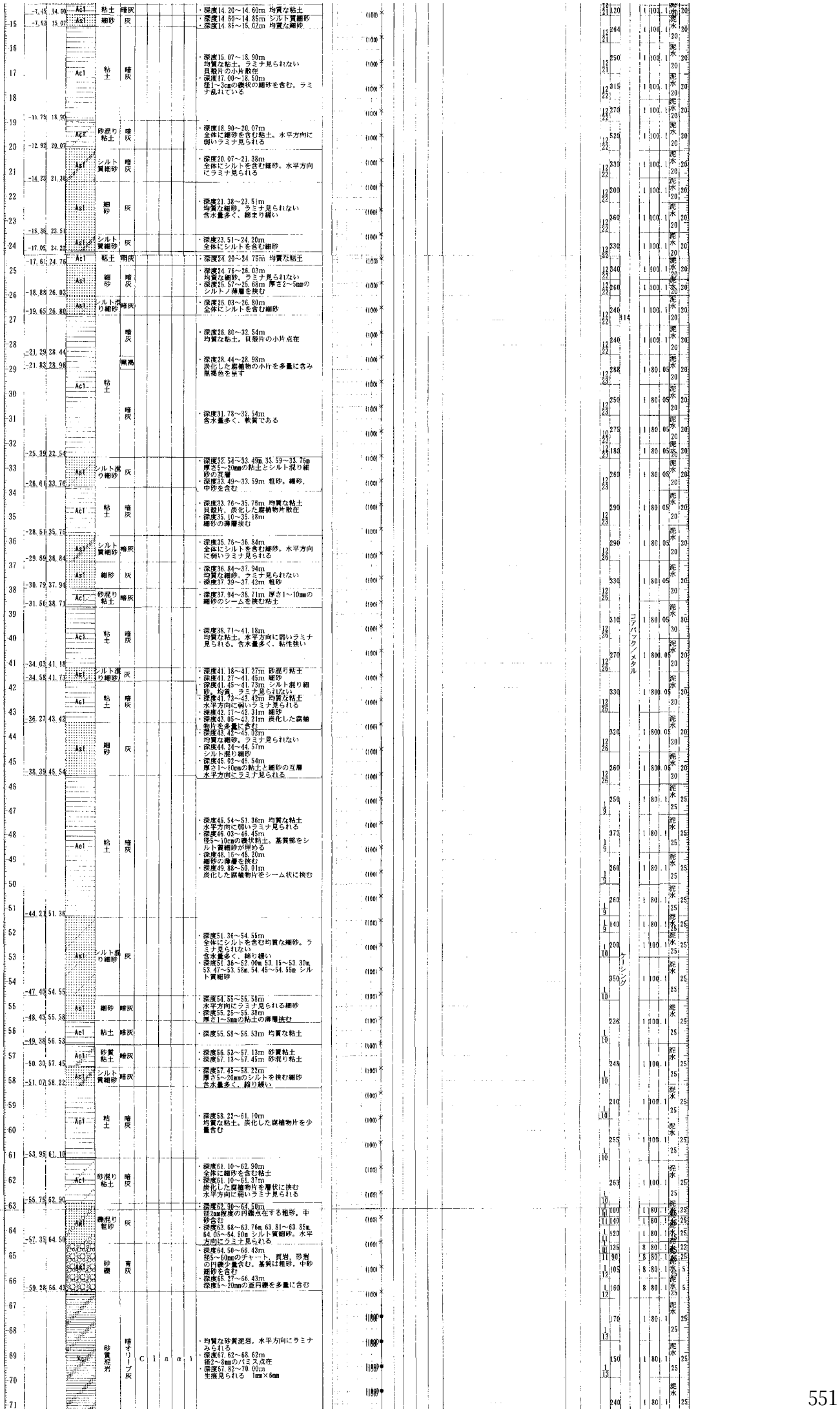
ボーリング柱状図

調査名	東海発電所 放射性物質濃度の極めて低い廃棄物の敷地内埋設施設に係る地質・地下水調査	ボーリングNo.	H-4-0
事業・工事名		シートNo.	

ボーリング名	H-4-0	調査位置	茨城県那珂郡東海村白方1番の1東海発電所構内	北緯	
発注機関	日本原子力発電株式会社	調査期間	平成17年12月10日～18年2月7日	東経	
調査業者名	[redacted]	主任技師	[redacted]	現場代理人	[redacted]
コア鑑定者	[redacted]	ボーリング責任者	[redacted]		
孔口標高	TP +7.15m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南
地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°	使用機種			
総掘進長	100.00m	試錐機	吉田鉄工製 YBM－3JR型		
エンジン	ヤンマー製 NFD－150型 / ヤンマー製 NFD－D－6型	ポンプ	東邦製 BG－3C型		

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
1											
2				中砂	褐灰						・深度0.00～4.20m 粗砂散在する均質な中砂 含水量少ない。
3											
4	2.95	4.20									
5											
6				礫混り中砂	褐灰						・深度4.20～9.04m 径2～5mm，最大10mmのチャート，頁岩の円礫を少量含む中砂。粗砂，細砂含む ・深度4.20～5.49m 中砂
7											
8											
9	-1.89	9.04									
10											
11				砂礫	灰～褐灰						・深度9.04～14.20m 径5～20mm，最大100mmのチャート，頁岩，砂岩の円礫を中程度含む。基質は中砂。粗砂，細砂含む ・深度12.00～13.35m 径5～20mmの円礫多量に含む ・深度13.35～14.00m 径5～10mmの円礫少量含む
12											
13											
14	-7.05	14.20									

標尺 m	コア採取率 ～×～（%） 最大コア長 ～●～ cm R Q D [%] 0 50 100	岩級区分	孔内水位m／測定月	N値	（ルジオン、標準貫入）試験（P～Q、N値～深度）図 N値 0 10 20 30 40 50	原位置試験（ ）	室内試験（ ）	掘進状況 掘進月日	掘進速度（cm／時）	孔径（mm）／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
1	(100)		2/19 12/20					12/16	試掘	140 ケーシング	試掘	試掘	0	0	無水 0	0
2	(100)		4/1 12/20					12/16	600			打撃	0	0	無水 0	0
3	(100)		4/1 12/20					12/16	600	140		打撃	0	0	無水 0	0
4	(100)		4/1 12/20					12/16	600		打ち込み	打撃	0	0	無水 0	0
5	(100)		4/1 12/20					12/16	600			打撃	0	0	無水 0	0
6	(100)		5/20					12/16	570			打撃	0	0	無水 0	0
7	(100)		1/7 5.35 12/17 6.90					12/17	200			2	90	03	無水 0	12
8	(100)							12/19	180			2	90	03	無水 0	12
9	(100)							12/19	100			2	90	03	無水 0	12
10	(100)							12/19	105	140		1	80	1	無水 0	12
11	(100)							12/19	130		コアパック／メタルケーシング	1	80	1	無水 0	12
12	(100)							12/19	150			1	80	1	無水 0	12
13	(100)							12/19	105			5	80	1	無水 0	12
14	(100)							12/19	120			1	80	1	無水 0	12
								12/26	140			1	80	1	無水 0	13
								12/26	140			1	80	1	無水 0	13
								12/26	84			1	80	1	無水 0	13
								12/26	50			1	80	1	無水 0	13
								12/26	80			1	80	1	無水 0	13
								12/26	80			1	80	1	無水 0	13
								12/26	108			1	80	1	無水 0	13
								12/26	200			1	80	1	無水 0	20
								12/26	200			1	100	1	無水 0	20

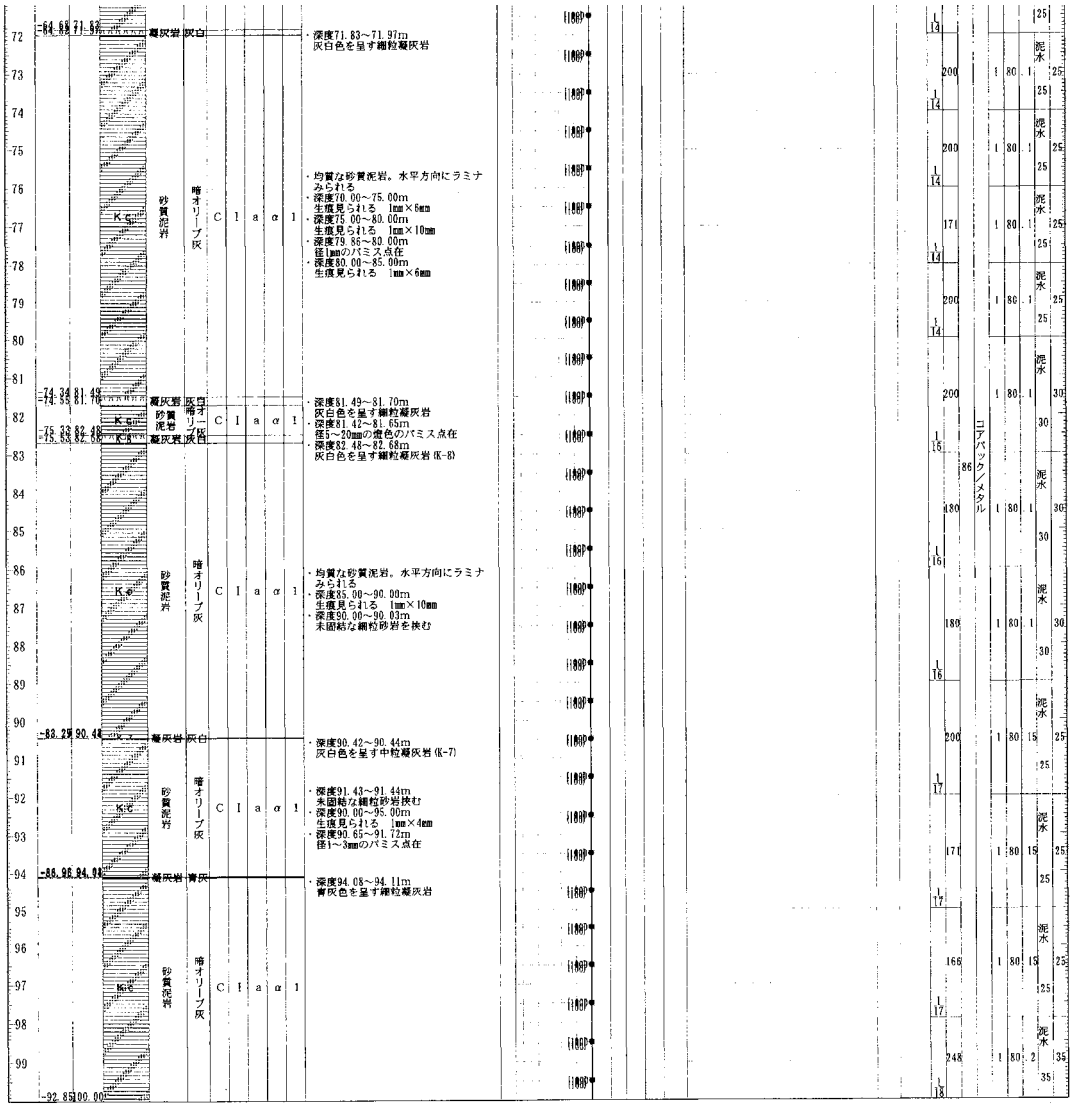


深度	標高	記号	土質	色	備考
-7.45	14.60	Ac1	粘土	暗灰	・深度14.20～14.60m 均質な粘土
-7.92	15.07	As1	細砂	灰	・深度14.60～14.85m シルト質細砂 ・深度14.85～15.07m 均質な細砂
-11.75	18.90	Ac1	粘土	暗灰	・深度15.07～18.90m 均質な粘土。ラミナ見られない 貝殻片の小片散在 ・深度17.00～18.50m 径1～3cmの礫状の細砂を含む。ラミナ乱れている
-12.92	20.07	Ac1	砂混り粘土	暗灰	・深度18.90～20.07m 全体に細砂を含む粘土。水平方向に弱いラミナ見られる
-14.23	21.38	As1	シルト質細砂	暗灰	・深度20.07～21.38m 全体にシルトを含む細砂。水平方向にラミナ見られる
-16.36	23.51	As1	細砂	灰	・深度21.38～23.51m 均質な細砂。ラミナ見られない 含水量多く、締まり緩い
-17.05	24.20	As1	シルト質細砂	灰	・深度23.51～24.20m 全体にシルトを含む細砂
-17.61	24.76	Ac1	粘土	明灰	・深度24.20～24.75m 均質な粘土
-18.88	26.03	As1	細砂	暗灰	・深度24.76～26.03m 均質な細砂。ラミナ見られない ・深度25.57～25.68m 厚さ2～5mmのシルトノ薄層を挟む
-19.65	26.80	As1	シルト混り細砂	暗灰	・深度26.03～26.80m 全体にシルトを含む細砂
-21.29	28.44	Ac1	粘土	暗灰	・深度26.80～32.54m 均質な粘土。貝殻片の小片点在
-21.83	28.98			黒褐	・深度28.44～28.98m 炭化した腐植物の小片を多量に含み 黒褐色を呈す
-25.39	32.54			暗灰	・深度31.78～32.54m 含水量多く、軟質である
-26.61	33.76	As1	シルト混り細砂	灰	・深度32.54～33.49m 33.59～33.76m 厚さ5～20mmの粘土とシルト混り細砂の互層 ・深度33.49～33.59m 粗砂、細砂、中砂を含む
-28.61	35.76	Ac1	粘土	暗灰	・深度33.76～35.76m 均質な粘土 貝殻片、炭化した腐植物片散在 ・深度35.10～35.18m 細砂の薄層挟む
-29.69	36.84	As1	シルト質細砂	暗灰	・深度35.76～36.84m 全体にシルトを含む細砂。水平方向に弱いラミナ見られる
-30.79	37.94	As1	細砂	灰	・深度36.84～37.94m 均質な細砂。ラミナ見られない ・深度37.39～37.42m 粗砂
-31.56	38.71	Ac1	砂混り粘土	暗灰	・深度37.94～38.71m 厚さ1～10mmの細砂のシームを挟む粘土
-34.03	41.18	Ac1	粘土	暗灰	・深度38.71～41.18m 均質な粘土。水平方向に弱いラミナ見られる。含水量多く、粘性強い
-34.58	41.73	As1	シルト混り細砂	灰	・深度41.18～41.27m 砂混り粘土 ・深度41.27～41.45m 細砂 ・深度41.45～41.73m シルト混り細砂。均質、ラミナ見られない
-36.27	43.42	Ac1	粘土	暗灰	・深度41.73～43.42m 均質な粘土 水平方向に弱いラミナ見られる ・深度42.17～42.31m 細砂 ・深度43.05～43.21m 炭化した腐植物片を多量に含む
-38.39	45.54	As1	細砂	灰	・深度43.42～45.02m 均質な細砂。ラミナ見られない ・深度44.24～44.57m シルト混り細砂 ・深度45.02～45.54m 厚さ1～10mmの粘土と細砂の互層 水平方向にラミナ見られる
-44.21	51.36	Ac1	粘土	暗灰	・深度45.54～51.36m 均質な粘土 水平方向に弱いラミナ見られる ・深度46.03～46.45m 径5～10cmの礫状粘土。基質部をシルト質細砂が埋める ・深度48.16～48.20m 細砂の薄層を挟む ・深度49.88～50.01m 炭化した腐植物片をシーム状に挟む
-47.40	54.55	As1	シルト混り細砂	灰	・深度51.36～54.55m 全体にシルトを含む均質な細砂。ラミナ見られない 含水量多く、締り緩い ・深度51.36～52.00m 53.15～53.30m 53.47～53.58m 54.45～54.55m シルト質細砂
-48.43	55.58	As1	細砂	暗灰	・深度54.55～55.58m 水平方向に弱いラミナ見られる細砂 ・深度55.25～55.38m 厚さ1～5mmの粘土の薄層挟む
-49.38	56.53	Ac1	粘土	暗灰	・深度55.58～56.53m 均質な粘土
-50.30	57.45	Ag1	砂質粘土	暗灰	・深度56.53～57.13m 砂質粘土 ・深度57.13～57.45m 砂混り粘土
-51.07	58.22	Ac1	シルト質細砂	暗灰	・深度57.45～58.22m 厚さ5～20mmのシルトを挟む細砂 含水量多く、締り緩い
-53.95	61.10	Ac1	粘土	暗灰	・深度58.22～61.10m 均質な粘土。炭化した腐植物片を少量含む
-55.75	62.90	Ag1	砂混り粘土	暗灰	・深度61.10～62.90m 全体に細砂を含む粘土 ・深度61.10～61.37m 炭化した腐植物片を層状に挟む 水平方向に弱いラミナ見られる
-57.35	64.50	Ag1	礫混り粗砂	灰	・深度62.90～64.50m 径2mm程度の円礫点在する粗砂。中砂含む ・深度63.68～63.76m 63.81～63.85m 64.05～64.50m シルト質細砂。水平方向にラミナ見られる
-59.28	66.43	Ag1	砂礫	青灰	・深度64.50～66.43m 径5～60mmのチャート、頁岩、砂岩の円礫少量含む。基質は粗砂、中砂細砂を含む ・深度65.27～66.43m 深度5～20mmの亜円礫を多量に含む
		Kc	砂質泥岩	暗オリーブ灰	Cl a α1 ・均質な砂質泥岩。水平方向にラミナみられる ・深度67.62～68.62m 径2～8mmのパミス点在 ・深度67.82～70.00m 生痕見られる 1mm×6mm

試料	採取	試験	試験	試験	試験	試験	試験
12/21	120	1	100	1	泥水	20
12/21	264	1	100	1	泥水	20
12/21	250	1	100	1	泥水	20
12/22	315	1	100	1	泥水	20
12/22	270	1	100	1	泥水	20
12/22	520	1	100	1	泥水	20
12/22	330	1	100	1	泥水	20
12/22	200	1	100	1	泥水	20
12/22	360	1	100	1	泥水	20
12/22	330	1	100	1	泥水	20
12/22	340	1	100	1	泥水	20
12/22	260	1	100	1	泥水	20
12/22	240	1	100	1	泥水	20
12/22	240	1	100	1	泥水	20
12/23	288	1	80	05	泥水	20
12/23	250	1	80	05	泥水	20
12/23	275	1	80	05	泥水	20
12/23	180	1	80	05	泥水	20
12/23	260	1	80	05	泥水	20
12/23	290	1	80	05	泥水	20
12/26	290	1	80	05	泥水	20
12/26	330	1	80	05	泥水	20
12/26	310	1	80	05	泥水	30
12/26	270	1	800	05	泥水	20
12/26	330	1	800	05	泥水	20
12/26	320	1	800	05	泥水	20
12/26	260	1	800	05	泥水	20
1/9	250	1	80	1	泥水	25
1/9	372	1	80	1	泥水	25
1/9	260	1	80	1	泥水	25
1/9	260	1	80	1	泥水	25
1/9	140	1	80	1	泥水	25
1/10	200	1	100	1	泥水	25
1/10	350	1	100	1	泥水	25
1/10	236	1	100	1	泥水	25
1/10	248	1	100	1	泥水	25
1/10	210	1	100	1	泥水	25
1/10	255	1	100	1	泥水	25
1/10	263	1	100	1	泥水	25
1/11	100	1	80	1	泥水	25
1/11	140	1	80	1	泥水	25
1/11	120	1	80	1	泥水	25
1/11	135	8	80	1	泥水	25
1/11	90	8	80	1	泥水	25
1/12	105	8	80	1	泥水	5
1/12	160	8	80	1	泥水	5
1/13	170	1	80	1	泥水	25
1/13	150	1	80	1	泥水	25
	240	1	80	1	泥水	25

コアパック／メタル

ケーシング


凝灰岩 灰白
・深度71.83～71.97m
灰白色を呈す細粒凝灰岩
砂質泥岩 暗オリーブ灰
・均質な砂質泥岩。水平方向にラミナ
みられる
・深度70.00～75.00m
生痕見られる 1mm×6mm
・深度75.00～80.00m
生痕見られる 1mm×10mm
・深度79.86～80.00m
径1mmのパミス点在
・深度80.00～85.00m
生痕見られる 1mm×6mm
凝灰岩 灰白
砂質泥岩 暗オリーブ灰
凝灰岩 灰白
・深度81.49～81.70m
灰白色を呈す細粒凝灰岩
・深度81.42～81.65m
径5～20mmの灰色のパミス点在
・深度82.48～82.68m
灰白色を呈す細粒凝灰岩(K-8)
砂質泥岩 暗オリーブ灰
・均質な砂質泥岩。水平方向にラミナ
みられる
・深度85.00～90.00m
生痕見られる 1mm×10mm
・深度90.00～90.03m
未固結な細粒砂岩を挟む
凝灰岩 灰白
・深度90.42～90.44m
灰白色を呈す中粒凝灰岩(K-7)
砂質泥岩 暗オリーブ灰
・深度91.43～91.44m
未固結な細粒砂岩挟む
・深度90.00～95.00m
生痕見られる 1mm×4mm
・深度90.65～91.72m
径1～3mmのパミス点在
凝灰岩 青灰
・深度94.08～94.11m
青灰色を呈す細粒凝灰岩
砂質泥岩 暗オリーブ灰
コアパック/メタル
泥水

H-4-0（0～100m）

ボーリング柱状図

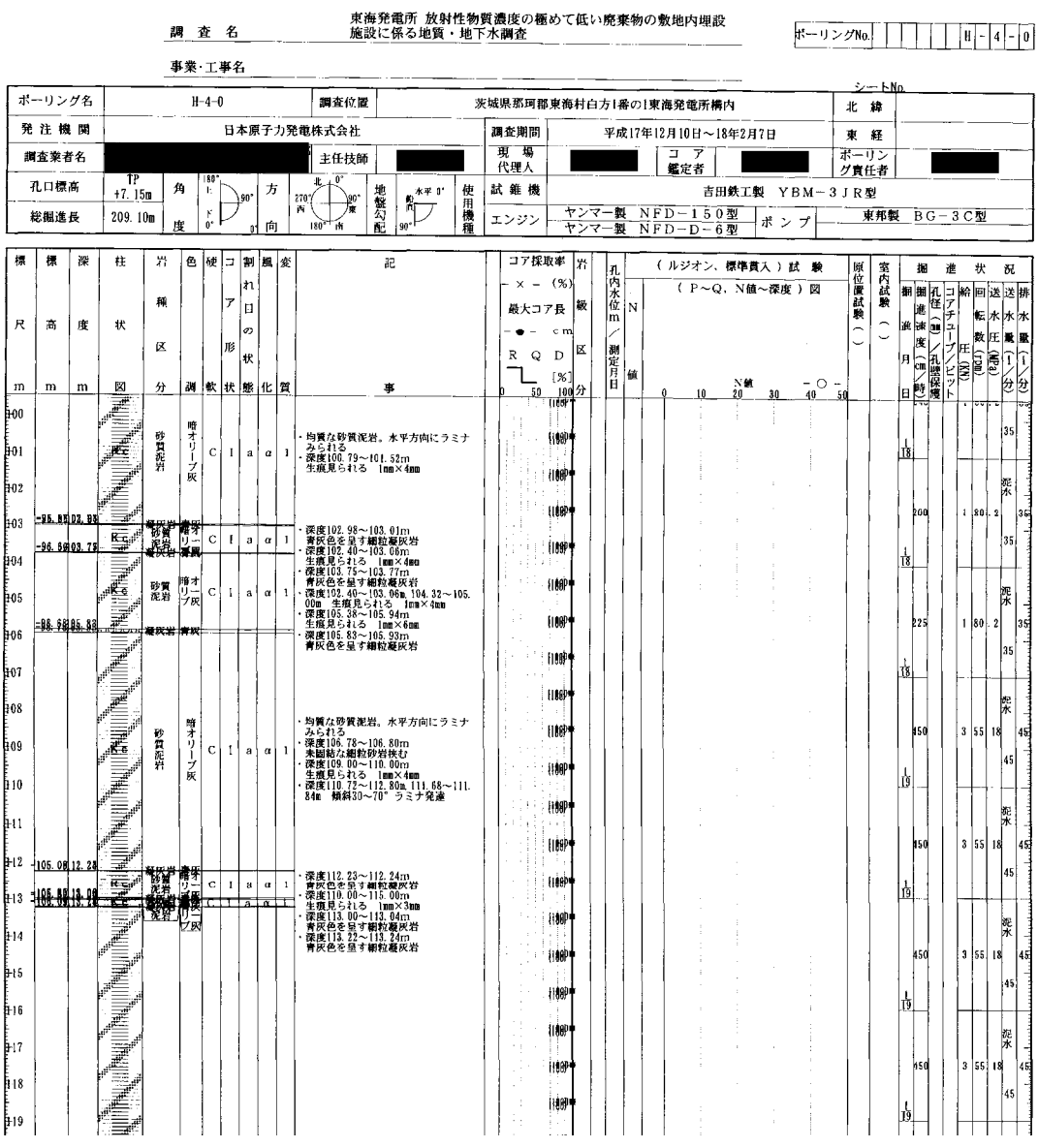
調査名　東海発電所 放射性物質濃度の極めて低い廃棄物の敷地内埋設施設に係る地質・地下水調査

ボーリングNo.　H-4-0

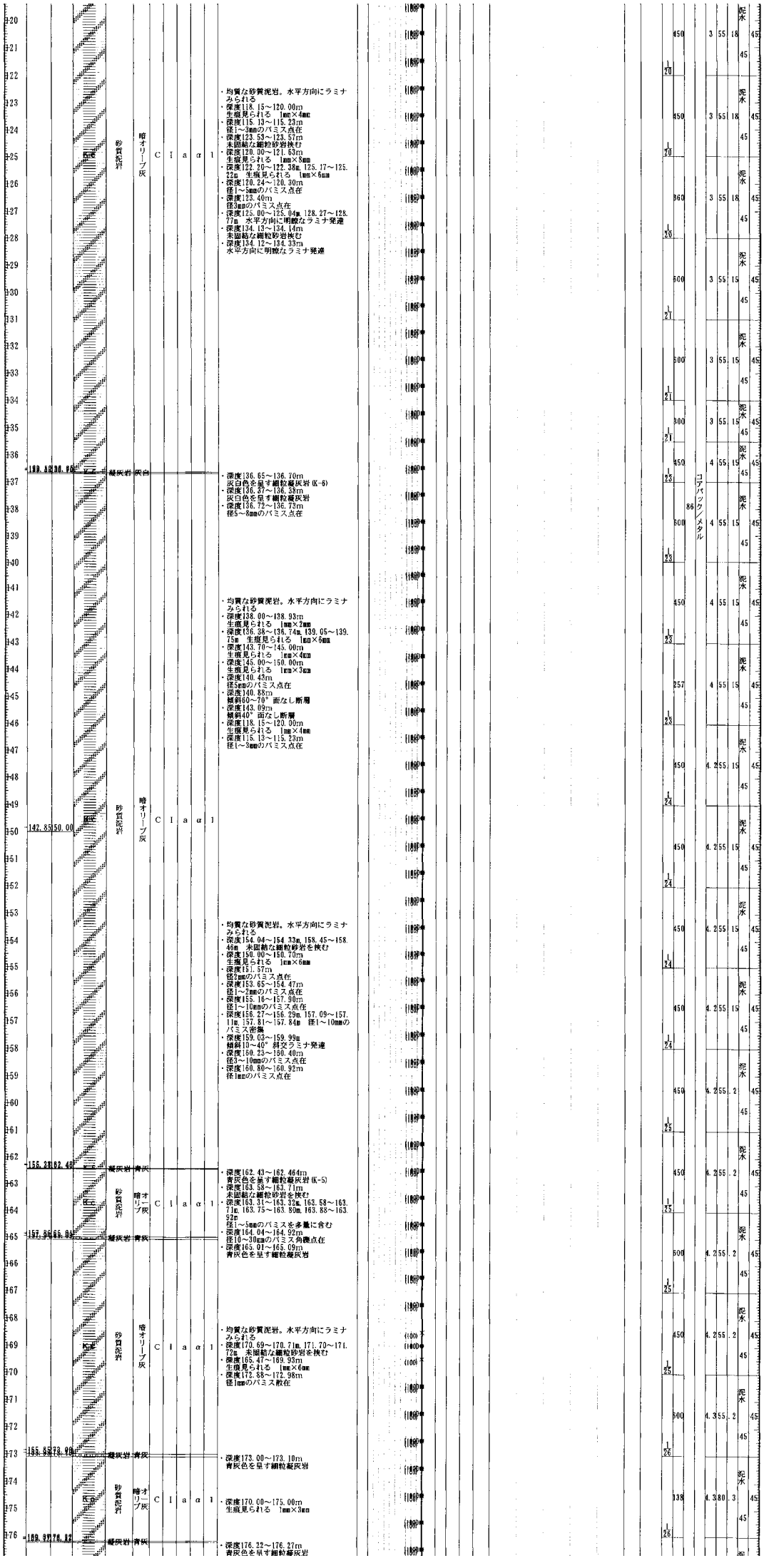
事業・工事名

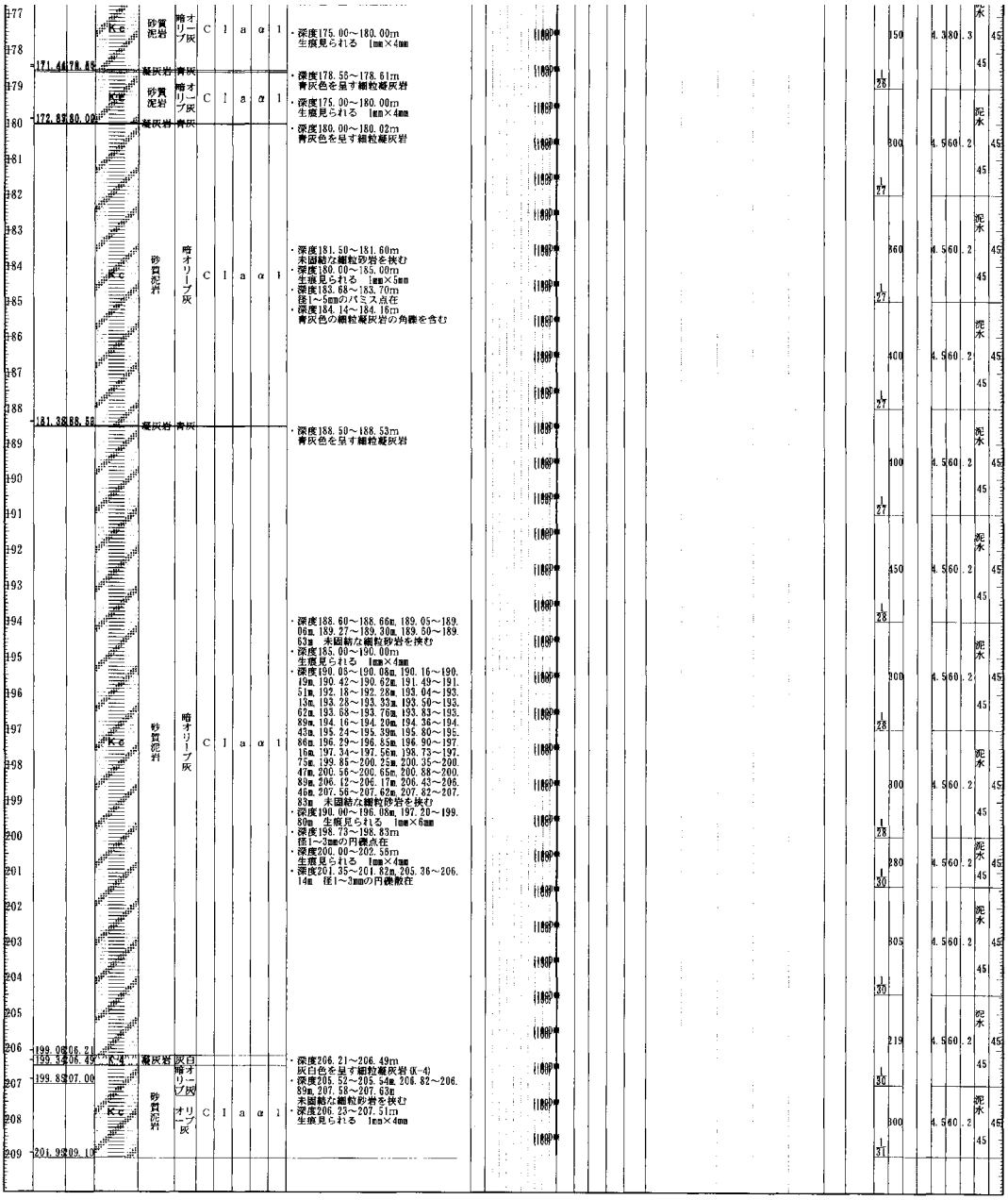
シートNo.

ボーリング名	H-4-0	調査位置	茨城県那珂郡東海村白方1番の1東海発電所構内	北緯	
発注機関	日本原子力発電株式会社	調査期間	平成17年12月10日～18年2月7日	東経	
調査業者名	[redacted]	主任技師	[redacted]	現場代理人	[redacted]
				コア鑑定者	[redacted]
				ボーリング責任者	[redacted]
孔口標高	TP +7.15m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南
総掘進長	209.10m	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°	使用機種	
試錐機	吉田鉄工製 YBM－3JR型				
エンジン	ヤンマー製 NFD－150型 / ヤンマー製 NFD－D－6型	ポンプ	東邦製 BG－3C型		



標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 －×－(%) 最大コア長 －●－ cm RQD [%] 0 50 100	岩級区分	孔内水位m／測定月日	N値	(ルジオン、標準貫入)試験 (P～Q、N値～深度)図 N値 0 10 20 30 40 50	原位置試験(ー)	室内試験(ー)	掘進状況 掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(KN)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(l/分)	排水量(l/分)
00																											
01			Kc	砂質泥岩	暗オリーブ灰	C	I	a	α	1	・均質な砂質泥岩。水平方向にラミナみられる ・深度100.79～101.52m 生痕見られる 1mm×4mm								1/18							35	
02																											
03	-95.85	02.98		凝灰岩	青灰																200			1	80	2	泥水 35
	-96.60	03.75	Kc	砂質泥岩	暗オリーブ灰	C	I	a	α	1	・深度102.98～103.01m 青灰色を呈す細粒凝灰岩 ・深度102.40～103.06m 生痕見られる 1mm×4mm															35	
04				凝灰岩	青灰														1/18								
05			Kc	砂質泥岩	暗オリーブ灰	C	I	a	α	1	・深度103.75～103.77m 青灰色を呈す細粒凝灰岩 ・深度102.40～103.06m, 104.32～105.00m 生痕見られる 1mm×4mm ・深度105.38～105.94m 生痕見られる 1mm×6mm																	
06	-98.68	05.83		凝灰岩	青灰						・深度105.83～105.93m 青灰色を呈す細粒凝灰岩										225			1	80	2	泥水 35
07																			1/18							35	
08																											
09			Kc	砂質泥岩	暗オリーブ灰	C	I	a	α	1	・均質な砂質泥岩。水平方向にラミナみられる ・深度106.78～106.80m 未固結な細粒砂岩挟む ・深度109.00～110.00m 生痕見られる 1mm×4mm ・深度110.72～112.80m, 111.68～111.84m 傾斜30～70° ラミナ発達																	
10																			1/19							45	
11																											
12	-105.08	12.23		凝灰岩	青灰																450			3	55	18	泥水 45
	-105.88	13.00	Kc	砂質泥岩	暗オリーブ灰	C	I	a	α	1	・深度112.23～112.24m 青灰色を呈す細粒凝灰岩 ・深度110.00～115.00m 生痕見られる 1mm×3mm															45	
13	-106.09	13.22		凝灰岩	青灰														1/19								
14											・深度113.00～113.04m 青灰色を呈す細粒凝灰岩 ・深度113.22～113.24m 青灰色を呈す細粒凝灰岩																
15																					450			3	55	18	泥水 45
16																			1/19							45	
17																											
18																					450			3	55	18	泥水 45
19																			1/19							45	


砂質泥岩
暗オリーブ灰
Clayα1
凝灰岩
灰白
青灰
・均質な砂質泥岩。水平方向にラミナみられる
・深度118.15～120.00m
生痕見られる 1mm×4mm
・深度115.13～115.23m
径1～3mmのパミス点在
・深度123.53～123.57m
未固結な細粒砂岩挟む
・深度120.00～121.63m
生痕見られる 1mm×5mm
・深度122.70～122.38m,125.17～125.22m 生痕見られる 1mm×6mm
・深度120.24～120.30m
径1～3mmのパミス点在
・深度123.40m
径3mmのパミス点在
・深度125.00～125.04m,128.27～128.77m 水平方向に明瞭なラミナ発達
・深度134.13～134.14m
未固結な細粒砂岩挟む
・深度134.12～134.33m
水平方向に明瞭なラミナ発達
・深度136.65～136.70m
灰白色を呈す細粒凝灰岩(K-6)
・深度136.27～136.33m
灰白色を呈す細粒凝灰岩
・深度136.72～136.73m
径5～8mmのパミス点在
・深度138.00～138.93m
生痕見られる 1mm×2mm
・深度136.38～136.74m,139.05～139.75m 生痕見られる 1mm×6mm
・深度143.70～145.00m
生痕見られる 1mm×4mm
・深度145.00～150.00m
生痕見られる 1mm×3mm
・深度140.43m
径5mmのパミス点在
・深度140.88m
傾斜60～70° 面なし断層
・深度143.09m
傾斜40° 面なし断層
・深度118.15～120.00m
生痕見られる 1mm×4mm
・深度115.13～115.23m
径1～3mmのパミス点在
・均質な砂質泥岩。水平方向にラミナみられる
・深度154.04～154.33m,158.45～158.46m 未固結な細粒砂岩を挟む
・深度150.00～150.70m
生痕見られる 1mm×6mm
・深度151.57m
径2mmのパミス点在
・深度153.65～154.47m
径1～2mmのパミス点在
・深度155.16～157.90m
径1～10mmのパミス点在
・深度156.27～156.29m,157.09～157.11m,157.81～157.84m 径1～10mmのパミス密集
・深度159.03～159.99m
傾斜10～40° 斜交ラミナ発達
・深度150.23～150.40m
径3～10mmのパミス点在
・深度160.80～160.92m
径1mmのパミス点在
・深度162.43～162.464m
青灰色を呈す細粒凝灰岩(K-5)
・深度163.58～163.71m
未固結な細粒砂岩を挟む
・深度163.31～163.32m,163.58～163.71m,163.75～163.80m,163.88～163.92m
径1～5mmのパミスを多量に含む
・深度164.04～164.92m
径10～30mmのパミス角礫点在
・深度165.01～165.09m
青灰色を呈す細粒凝灰岩
・均質な砂質泥岩。水平方向にラミナみられる
・深度170.69～170.71m,171.70～171.72m 未固結な細粒砂岩を挟む
・深度165.47～169.93m
生痕見られる 1mm×6mm
・深度172.88～172.98m
径1mmのパミス散在
・深度173.00～173.10m
青灰色を呈す細粒凝灰岩
・深度170.00～175.00m
生痕見られる 1mm×3mm
・深度176.22～176.27m
青灰色を呈す細粒凝灰岩
コアバック/メタル
泥水



H-4-0（100～207m）

ボーリング柱状図

調査名　東海発電所 放射性物質濃度の極めて低い廃棄物の敷地内埋設施設に係る地質・地下水調査

ボーリングNo. H-7-0

事業・工事名

シートNo.

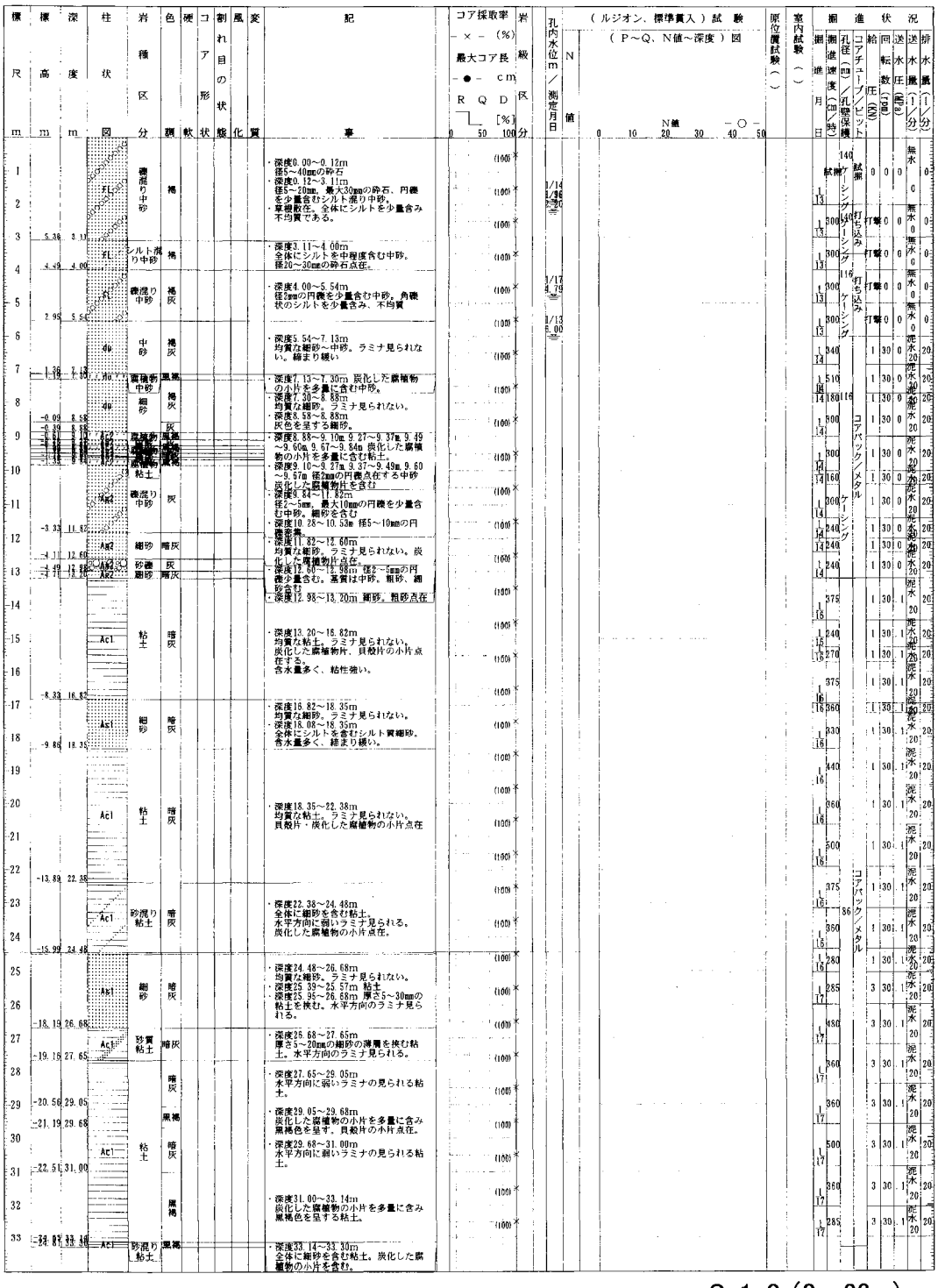
ボーリング名	H-7-0	調査位置	茨城県那珂郡東海村白方1番の1東海発電所構内北地区	北緯	
発注機関	日本原子力発電株式会社	調査期間	平成17年11月17日～17年11月24日	東経	
調査業者名	[redacted]	主任技師	[redacted]	現場代理人 [redacted]	コア鑑定者 [redacted]	ボーリング責任者 [redacted]
孔口標高	TP +8.28m	角度	180°上 90° 0°下 0	方向	北 0° 90°東 180°南 270°西	地盤勾配	水平 0° 90°	使用機種
総掘進長	28.00m	試錐機	利根 TS－100		
		エンジン	ヤンマー NFD－9	ポンプ	利根 NP－40

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 －×－ (%) 最大コア長 －●－ cm RQD [%]	岩級区分	孔内水位m／測定月日	N値	（ルジオン、標準貫入）試験 （P～Q、N値～深度）図 N値	原位置試験（ ）	室内試験（ ）	掘進状況 掘進月日	掘進速度（cm／時）	給圧（MPa）	コアチューブ／ビット 孔径（mm）／孔壁保護	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
0												0 50 100				0 10 20 30 40 50										
1	6.28	1.95		礫混り中砂	褐						・深度0.00～0.12m 草根 角礫を含む表土 ・深度0.12～1.95m 径2～10mmの円礫散在する中砂，含水量少ない。	(100)							11/17	試掘		0	0	0	無水	0	0
2												(100)							11/18	300		打撃	0	0	無水	0	0
3												(100)														
4				中砂	褐灰						・深度1.95～7.05m 均質な中砂。ラミナ見られない。 含水量少なく，締り緩い。	(100)		11/23 4.10					11/18	300	40	打撃	0	0	無水	0	0
5												(100)														
6												(100)							11/18	300		打撃	0	0	無水	0	0
7	1.18	7.05										(100)		11/28 7.45					11/18	300		打撃	0	0	無水	0	0
8				砂礫	褐灰						・深度7.05～11.68m 径2～10mm，最大20mmの円礫を少量含む粗砂，中砂，細砂を含む。 ・深度7.09～7.25m，7.95～8.00m，8.49～8.65m，8.79～8.85m，9.30～9.52m，9.67～9.68mには，径2～10mmの円礫が密集。 ・深度8.85～9.50m 含水量多く，締り緩い。	(100)							11/18	300		打撃	0	0	無水	0	0
9												(100)							11/18	320		打撃	0	0	無水	0	0
10												(100)								240		打撃	0	0	無水	0	0
11												(100)								150		打撃	0	0	無水	0	15
12	-3.45	11.68		細砂	灰						・深度11.68～12.69m 均質な細砂。ラミナ見られない。 含水量多く，締り緩い。	(100)								105		0	30	0	泥水	20	15
13	-4.46	12.69		礫混り中砂	灰						・深度12.69～13.99m 径2～10mm，最大20mmのチャート，頁岩の円礫を少量含む中砂。 ・深度12.69～12.85m，13.66～13.99m 円礫が密集。	(100)								180		1	30	0	泥水	20	15
14	-5.76	13.99										(100)								165			1	30	0	泥水	20	15
15	-7.66	15.89		砂混り粘土	暗灰						・深度13.99～15.89m 全体に細砂を含む均質な粘土。ラミナ見られない。 全体に貝殻片の小片散在。含水量多く，粘性強い。 ・深度15.50～15.89m 砂質粘土	(100)								120	16	1	30	0	泥水	15	15
16												(100)								200			3	30	0	泥水	20	20
17				中砂	灰						・深度15.89～18.42m 均質な中砂。ラミナ見られない。 含水量多く，締り緩い。 貝殻片の小片散在。	(100)								100		3	30	0	泥水	20	20
18	-10.19	18.42										(100)								120			3	30	0	泥水	20	20
19												(100)								135			3	30	0	泥水	20	20
20												(100)								165			3	30	0	泥水	20	20
21				粘土	暗灰						・深度18.42～23.00m 均質な粘土。ラミナ見られない。 貝殻片の小片散在。 ・深度18.42～18.85m 全体に細砂を含む粘土。 ・含水量多く，粘性強い。	(100)							11/21	300		3	30	0	泥水	20	20
22												(100)								252			3	30	0	泥水	20	20
23	-14.77	23.00										(100)							11/21	276			3	30	0	泥水	20	20
24												(100)								192			3	30	0	泥水	20	20
25				シルト混り細砂	暗灰						・深度23.00～25.49m 全体にシルトを含む均質な細砂。 ・深度23.04～23.19m 水平方向のラミナ見られる。	(100)								330		3	30	0	泥水	20	20
26												(100)							11/22	300			3	30	0	泥水	20	20
27	-17.28	25.49										(100)								252			3	30	0	泥水	20	20
												(100)								276			3	30	0	泥水	20	20
												(100)								192			3	30	0	泥水	20	20
												(100)								330			3	30	0	泥水	20	20
												(100)								300			3	30	0	泥水	20	20

ボーリング柱状図

調査名	東海発電所 放射性物質濃度の極めて低い廃棄物の敷地内埋設施設に係る地質・地下水調査	ボーリングNo.	S-1
事業・工事名		シートNo.	

ボーリング名	S-1	調査位置	茨城県那珂郡東海村白方1番の1東海発電所構内北地区	北緯	
発注機関	日本原子力発電株式会社	調査期間	平成18年1月13日～18年1月17日	東経	
調査業者名	[redacted] 主任技師 [redacted]	現場代理人	[redacted] コア鑑定者 [redacted]	ボーリング責任者	[redacted]
孔口標高	TP +8.49m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南
総掘進長	33.30m	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°	使用機種	
試錐機	利根 TS-100				
エンジン	ヤンマー NFD-9	ポンプ	利根 NP-40		



標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 -×- (%) 最大コア長 -●- cm RQD [%] 0 50 100	岩級区分	孔内水位m/測定月日	N値	(ルジオン、標準貫入)試験 (P～Q、N値～深度)図 N値 0 10 20 30 40 50	原位置試験	室内試験	掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)/孔壁保護	給圧(KN)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(l/分)	排水量(l/分)
1			FL	礫混り中砂	褐						・深度0.00～0.12m 径5～40mmの砕石 ・深度0.12～3.11m 径5～20mm、最大30mmの砕石、円礫を少量含むシルト混り中砂。 ・草根散在。全体にシルトを少量含み不均質である。	(100)		1/14 3.96 2.90					1/13	300	140 ケーシング	試掘	0	0	0	無水 0	0
2												(100)														
3	5.38	3.11	FL	シルト混り中砂	褐						・深度3.11～4.00m 全体にシルトを中程度含む中砂。径20～30mmの砕石点在。	(100)							1/13	300	140 ケーシング	打ち込み	打撃	0	0	無水 0	0
4	4.49	4.00										(100)							1/13	300			打撃	0	0	無水 0	0
5			Ac	礫混り中砂	褐灰						・深度4.00～5.54m 径2mmの円礫を少量含む中砂。角礫状のシルトを少量含み、不均質	(100)		1/17 4.79					1/13	300	116 ケーシング	打ち込み	打撃	0	0	無水 0	0
6	2.95	5.54										(100)		1/13 6.00					1/13	300			打撃	0	0	無水 0	0
7	-1.36	7.13	du	中砂	褐灰						・深度5.54～7.13m 均質な細砂～中砂。ラミナ見られない。締まり緩い	(100)							1/14	340			1	30	0	泥水 20	20
8	-1.19	7.30	du	腐植物中砂	黒褐						・深度7.13～7.30m 炭化した腐植物の小片を多量に含む中砂。	(100)							1/14	510	116	コアパック/メタル	1	30	0	泥水 20	20
9	-0.09	8.58	du	細砂	褐灰						・深度7.30～8.88m 均質な細砂。ラミナ見られない。 ・深度8.58～8.88m 灰色を呈する細砂。	(100)							1/14	180			1	30	0	泥水 20	20
10	-0.39	8.88	Ac2	腐植物	灰						・深度8.88～9.10m 9.27～9.37m 9.49～9.60m 9.67～9.84m 炭化した腐植物の小片を多量に含む粘土。 ・深度9.10～9.27m 9.37～9.49m 9.60～9.67m 径2mmの円礫点在する中砂 炭化した腐植物片を含む	(100)							1/14	300			1	30	0	泥水 20	20
11	-0.61	9.10	Ac2	腐植物	黒褐						・深度9.84～11.82m 径2～5mm、最大10mmの円礫を少量含む中砂。細砂を含む	(100)							1/14	160			1	30	0	泥水 20	20
12	-3.33	11.82	Ac2	礫混り中砂	灰						・深度10.28～10.53m 径5～10mmの円礫密集。	(100)							1/14	300			1	30	0	泥水 20	20
13	-4.11	12.60	Ac2	細砂	暗灰						・深度11.82～12.60m 均質な細砂。ラミナ見られない。炭化した腐植物片点在。	(100)							1/14	240			1	30	0	泥水 20	20
14	-4.49	12.98	Ac2	砂礫	灰						・深度12.60～12.98m 径2～5mmの円礫少量含む。基質は中砂。粗砂、細砂含む	(100)							1/14	240			1	30	0	泥水 20	20
15	-4.71	13.20	Ac2	細砂	暗灰						・深度12.98～13.20m 細砂。粗砂点在	(100)							1/14	240			1	30	0	泥水 20	20
16			Ac1	粘土	暗灰						・深度13.20～16.82m 均質な粘土。ラミナ見られない。炭化した腐植物片、貝殻片の小片点在する。含水量多く、粘性強い。	(100)							1/15	375			1	30	1	泥水 20	20
17												(100)							1/15	240			1	30	1	泥水 20	20
18	-8.33	16.82										(100)							1/15	270			1	30	1	泥水 20	20
19	-9.86	18.35	As1	細砂	暗灰						・深度16.82～18.35m 均質な細砂。ラミナ見られない。 ・深度18.08～18.35m 全体にシルトを含むシルト質細砂。含水量多く、締まり緩い。	(100)							1/16	375			1	30	1	泥水 20	20
20												(100)							1/16	360			1	30	1	泥水 20	20
21			Ac1	粘土	暗灰						・深度18.35～22.38m 均質な粘土。ラミナ見られない。貝殻片・炭化した腐植物の小片点在	(100)							1/16	330			1	30	1	泥水 20	20
22												(100)							1/16	440			1	30	1	泥水 20	20
23	-13.89	22.38										(100)							1/16	360			1	30	1	泥水 20	20
24			Ac1	砂混り粘土	暗灰						・深度22.38～24.48m 全体に細砂を含む粘土。水平方向に弱いラミナ見られる。炭化した腐植物の小片点在。	(100)							1/16	500			1	30	1	泥水 20	20
25												(100)							1/16	375	86	コアパック/メタル	1	30	1	泥水 20	20
26	-15.99	24.48	As1	細砂	暗灰						・深度24.48～26.68m 均質な細砂。ラミナ見られない。 ・深度25.39～25.57m 粘土 ・深度25.95～26.68m 厚さ5～30mmの粘土を挟む。水平方向のラミナ見られる。	(100)							1/16	360			1	30	1	泥水 20	20
27	-18.19	26.68	Ac1	砂質粘土	暗灰						・深度26.68～27.65m 厚さ5～20mmの細砂の薄層を挟む粘土。水平方向のラミナ見られる。	(100)							1/17	280			1	30	1	泥水 20	20
28	-19.16	27.65										(100)							1/17	285			3	30	1	泥水 20	20
29	-20.56	29.05			暗灰						・深度27.65～29.05m 水平方向に弱いラミナの見られる粘土。	(100)							1/17	480			3	30	1	泥水 20	20
30	-21.19	29.68			黒褐						・深度29.05～29.68m 炭化した腐植物の小片を多量に含み黒褐色を呈す。貝殻片の小片点在。	(100)							1/17	360			3	30	1	泥水 20	20
31	-22.51	31.00	Ac1	粘土	暗灰						・深度29.68～31.00m 水平方向に弱いラミナの見られる粘土。	(100)							1/17	360			3	30	1	泥水 20	20
32					黒褐						・深度31.00～33.14m 炭化した腐植物の小片を多量に含み黒褐色を呈する粘土。	(100)							1/17	500			3	30	1	泥水 20	20
33	-24.81	33.30	Ac1	砂混り粘土	黒褐						・深度33.14～33.30m 全体に細砂を含む粘土。炭化した腐植物の小片を含む。	(100)							1/17	360			3	30	1	泥水 20	20
												(100)							1/17	285			3	30	1	泥水 20	20

S-1-0 (0～33m)

ボーリング柱状図

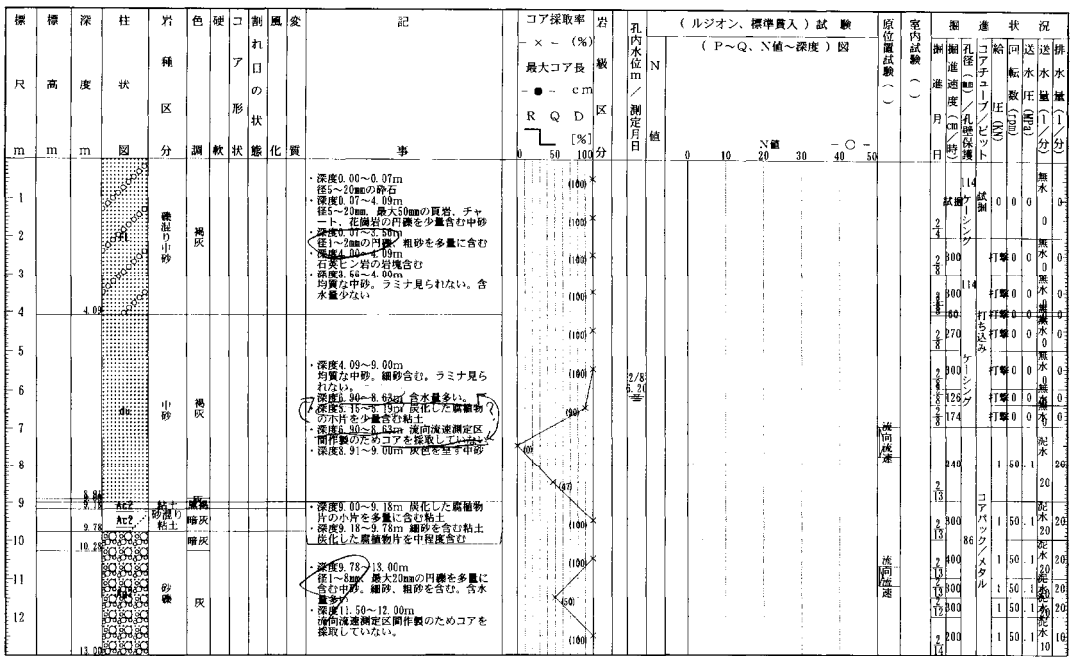
調査名　東海発電所 放射性物質濃度の極めて低い廃棄物の敷地内埋設施設に係る地質・地下水調査

ボーリングNo.　S-1-2

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	S-1-2	調査位置	茨城県那珂郡東海村白方1番の1東海発電所構内北地区	北緯	
発注機関	日本原子力発電株式会社	調査期間	平成18年2月4日～18年2月14日	東経	
調査業者名	[redacted]	主任技師	[redacted]	現場代理人	[redacted]	コア鑑定者	[redacted]	ボーリング責任者	[redacted]
孔口標高	TP	角度	方向	地層勾配	使用機種	試錐機	吉田鉄工製　YBM－1WA型
総掘進長	13.00m					エンジン	ヤンマー製　NFD－150型	ポンプ	東邦製　BG－10C型


標尺 m
標高 m
深度 m
柱状図
岩種区分
色調
硬軟
コア形状
割れ目の状態
風化
変質
記事
・深度0.00～0.07m 径5～20mmの砕石
・深度0.07～4.09m 径5～20mm、最大50mmの頁岩、チャート、花崗岩の円礫を少量含む中砂
・深度0.07～5.50m 径1～2mmの円礫、粗砂を多量に含む
・深度4.00～4.09m 石英モン岩の岩塊含む
・深度3.68～4.00m 均質な中砂。ラミナ見られない。含水量少ない
・深度4.09～9.00m 均質な中砂。細砂含む。ラミナ見られない。
・深度5.90～8.62m 含水量多い。
・深度5.15～5.19m 炭化した植物の小片を少量含む粘土
・深度8.50～8.62m 流向流速測定区間作製のためコアを採取していない
・深度8.91～9.00m 灰色を呈す中砂
・深度9.00～9.18m 炭化した植物片の小片を多量に含む粘土
・深度9.18～9.78m 細砂を含む粘土 炭化した植物片を中程度含む
・深度9.78～13.00m 径1～8mm、最大20mmの円礫を多量に含む中砂。細砂、粗砂を含む。含水量多い
・深度11.50～12.00m 流向流速測定区間作製のためコアを採取していない。
コア採取率 －×－（%）
最大コア長 －●－ cm
RQD［%］
岩級区分
孔内水位m／測定月日
N値
（ルジオン、標準貫入）試験
（P～Q、N値～深度）図
原位置試験（　）
室内試験（　）
掘進状況
掘進月日
掘進時間
掘進速度（cm／時）
孔径（mm）／孔壁保護
コアチューブ／ビット
給圧（kN）
回転数（rpm）
送水圧（MPa）
送水量（l／分）
排水量（l／分）
試掘
ケーシング
打ち込み
コアバック／メタル
流向流速
無水
打撃
泥水
泥水逸水
泥水逸水
泥水逸

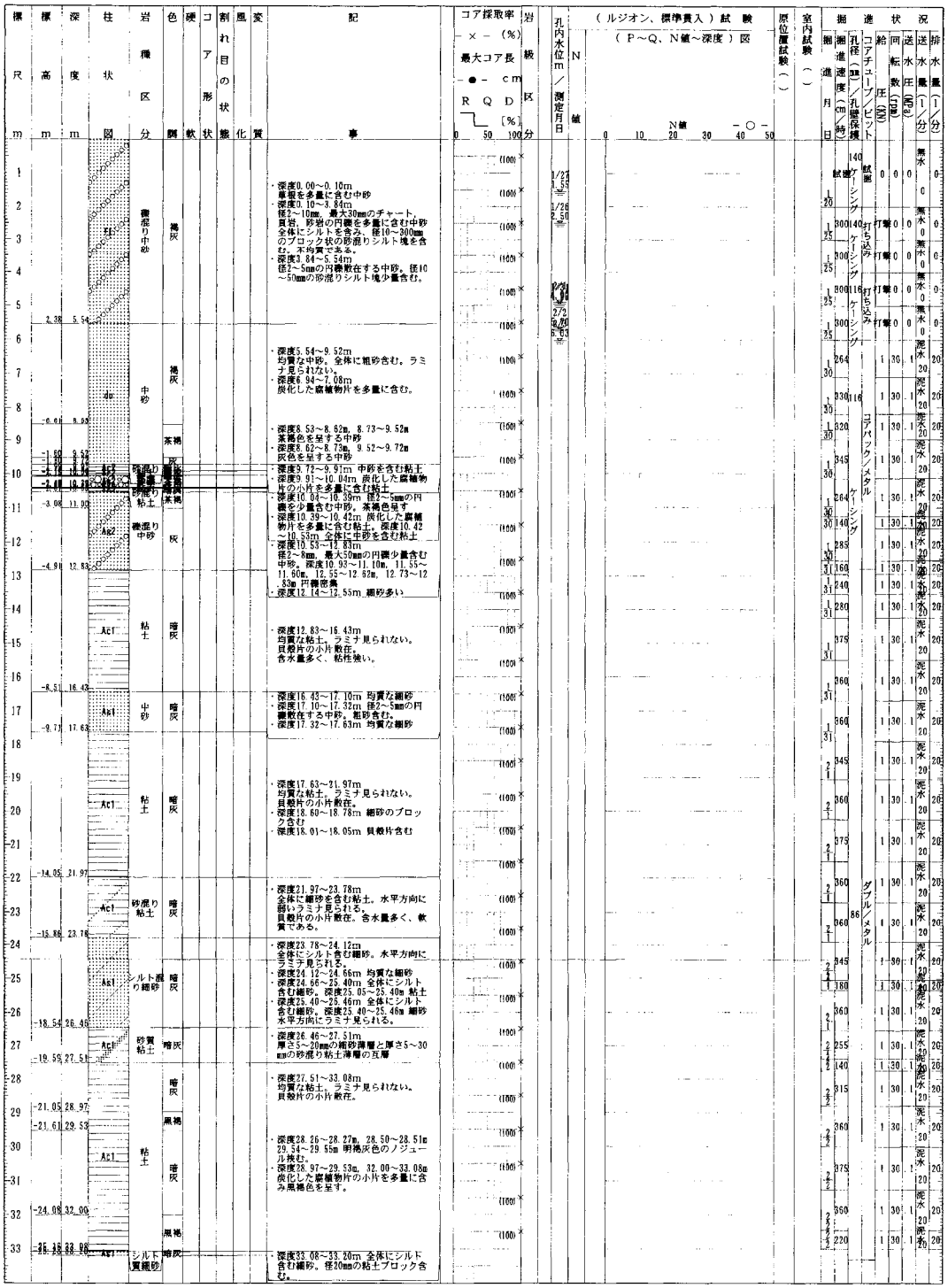
ボーリング柱状図

調査名　東海発電所 放射性物質濃度の極めて低い廃棄物の敷地内埋設施設に係る地質・地下水調査

ボーリングNo. S-2

事業・工事名

ボーリング名	S-2	調査位置	茨城県那珂郡東海村白方1番の1東海発電所構内北地区		シートNo. / 北緯
発注機関	日本原子力発電株式会社	調査期間	平成18年1月20日～18年2月3日		東経
調査業者名	[redacted]	主任技師	[redacted]	現場代理人 [redacted] / コア鑑定者 [redacted]	ボーリング責任者 [redacted]
孔口標高	TP +7.92m	角度	上180° 90° 下0°	方向 北0° 90° 180° 270°	地盤勾配 水平0° 90°
総掘進長	33.20m	試錐機	利根 TS-100		使用機種
エンジン	ヤンマー NFD-9	ポンプ	利根 NP-40		



S-2（0～33m）

ボーリング柱状図

調査名　東海発電所 放射性物質濃度の極めて低い廃棄物の敷地内埋設施設に係る地質・地下水調査

ボーリングNo. S-3

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	S-3	調査位置	茨城県那珂郡東海村白方1番の1東海発電所構内北地区	北緯	
発注機関	日本原子力発電株式会社			調査期間	平成17年11月24日～17年12月6日	東経	
調査業者名	[redacted]	主任技師	[redacted]	現場代理人	[redacted]	コア鑑定者	[redacted]	ボーリング責任者	[redacted]
孔口標高	TP +8.11m	角度	方向	地盤勾配	使用機種	試錐機	東邦 D－0		
総掘進長	33.20m					エンジン	ヤンマー NFD－150	ポンプ	カノー V－6

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
1				礫混り中砂	褐灰～褐						・深度0.00～2.08m 径5～20mmの亜円礫が点在する中砂粗砂、細砂を含む。 ・深度2.08～4.36m 径30～60mmの茶褐色の塊状シルトを含む。 ・深度4.36～6.00m 径2～3mmの円礫点在する中砂 ・深度6.00～6.29m 茶褐色を呈するシルト混り中砂。 ・深度6.09～6.16m 茶褐色の塊状シルト含む。含水量少なく、締り緩い。
2											
3											
4											
5											
6	1.82	6.29									
7				中砂	褐灰						・深度6.29～8.18m 均質な中砂。細砂を含む。ラミナ見られない。含水量少なく、締り緩い。
8	-0.07	8.18									
9				砂礫	褐灰						・深度8.18～10.97m 径2～5mm、最大8mmの円礫を多量に含む粗砂、中砂、細砂を含む。ラミナ見られない。不均質である。 ・深度10.58～10.83m 径2～8mm、最大20mmの砂岩、チャート、礫岩の円礫を多量に含む。
10	-2.61	10.72									
11	-2.86	10.97			灰						
12	-4.72	12.83		礫混り中砂	灰						・深度10.97～12.83m 径1～3mmの円礫が散在する中砂。細砂含む。
13											
14				粘土	暗灰						・深度12.83～15.58m 均質な粘土。ラミナ見られない。貝殻片の小片散在。 ・深度12.83～13.10m 細砂混り粘土
15											
16	-7.72	15.83		中砂	暗灰						・深度15.58～17.23m 均質な中砂。粗砂、細砂を含む。ラミナ見られない。貝殻片の小片散在
17	-9.12	17.23									
18											
19				粘土	暗灰						・深度17.23～21.10m 均質な粘土。ラミナ見られない。貝殻片の小片散在。含水量多く、粘性強い。 ・深度19.90～19.93m 粗砂を層状に挟む。
20											
21	-12.99	21.10									
22				砂混り粘土	暗灰						・深度21.10～23.18m 全体に細砂を含む粘土。水平方向に弱いラミナ見られる。貝殻片の小片点在。含水量多く、軟質。 ・深度21.10～21.21m 粗砂を多量に含む。
23	-15.07	23.18									
24				細砂	暗灰						・深度23.18～25.81m 均質な細砂。水平方向に弱いラミナ見られる。 ・深度23.18～23.19m 粗砂を多量に含む。含水量多く、締り緩い。
25											
26	-17.70	25.81		砂混り粘土	暗灰						・深度25.81～26.78m 全体に細砂を含む粘土。水平方向に弱いラミナ見られる。
27	-18.67	26.78		粘土	暗灰						・深度26.78～31.64m 均質な粘土。水平方向に弱いラミナ見られる。
28	-20.03	28.14									・深度28.14～28.70m 炭化した腐植物の小片を多量に含む貝殻片の小片点在。
29	-20.59	28.70			黒褐						
30					暗灰						・深度31.34～31.63m 貝殻片を多量に含む。
31	-23.53	31.64									
32	-24.06	32.17		砂混り粘土	暗灰						・深度31.64～32.17m 全体に細砂を含む粘土。
33	-25.09	33.20		細砂	暗灰						・深度32.17～33.20m 均質な細砂。中砂を含む。 ・深度32.17～32.25m シルト質

コア採取率 －×－（%）　最大コア長 －●－ cm　RQD［%］　岩級区分

孔内水位m／測定月日　N値

（ルジオン、標準貫入）試験（P～Q、N値～深度）図

原位置試験（　）

室内試験（　）

掘進日	掘進速度（cm／時）	孔径（mm）／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧（kN）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	送水量（l／分）	排水量（l／分）
11/24	試掘	140 ケーシング	試錐	0	0	0	無水 0	0
11/25	500			打撃	0	0	無水 0	0
11/25	500	140		打撃	0	0	無水 0	0
11/26	500			打撃	0	0	無水 0	0
11/26	500		打ち込み	打撃	0	0	無水 0	0
11/26	500		ケーシング	打撃	0	0	無水 0	0
11/26	500			打撃	0	0	無水 0	0
11/26	500			打撃	0	0	無水 0	0
11/28	210	140	コアバック／メタル	0.5	60	1	泥水 30	30
11/28	120		ケーシング	1	60	0.5	泥水 30	30
11/28	210			1	60	1	泥水 30	30
11/28	240			5	60	1	泥水 30	25
11/29	100			3	60	2	泥水 40	40
11/29	113			3	60	2	泥水 40	40
11/29	120			2	60	2.5	泥水 40	40
11/29	135			1	60	0.5	泥水 40	40
11/30	128			5	60	2.5	泥水 40	40
11/30	200			5	60	2.5	泥水 40	40
11/30	250			5	60	2.5	泥水 40	40
11/30	230			3	40	1.5	泥水 40	40
12/1	210			1	60	0.5	泥水 40	40
12/1	75			5	60	1.5	泥水 30	30
12/1	120			5	60	1.5	泥水 30	30
12/1	140			5	60	1.5	泥水 30	30
12/1	143	86	コアバック／メタル	5	60	1.5	泥水 30	30
12/1	170			5	60	1.5	泥水 30	30
12/1	135			5	60	1.5	泥水 30	30
12/2	68			1	60	1.5	泥水 30	30
12/2	114			5	60	1.5	泥水 30	30
12/2	60			1	60	1.5	泥水 30	30
12/2	125			5	60	1.5	泥水 30	30
12/2	115			1	60	1.5	泥水 30	30
12/3	115			5	60	1	泥水 30	30
12/3	86			5	60	1	泥水 30	30
12/3	180			5	60	1	泥水 30	30
12/3	230			5	60	1	泥水 30	30
12/3	72			5	60	1	泥水 30	30

S-3（0～33m）

ボーリング柱状図

調査名	東海発電所 放射性物質濃度の極めて低い廃棄物の敷地内埋設施設に係る地質・地下水調査	ボーリングNo.	S-4
事業・工事名		シートNo.	

ボーリング名	S-4	調査位置	茨城県那珂郡東海村白方1番の1東海発電所構内北地区	北緯	
発注機関	日本原子力発電株式会社	調査期間	平成17年12月14日～17年12月20日	東経	
調査業者名	[redacted] 主任技師 [redacted]	現場代理人	[redacted] コア鑑定者 [redacted]	ボーリング責任者	[redacted]
孔口標高	TP +8.33m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 90° 西 東 180° 南
総掘進長	33.20m	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°	使用機種	
試錐機	利根 TS-100	エンジン	ヤンマー NFD-9	ポンプ	利根 NP-40

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事
1			Fl	礫混り中砂	褐灰						・深度0.00～0.05m 径5～20mmの砕石 ・深度0.05～2.02m 径5～20mmのチャート、頁岩の円礫を散在する中砂。粗砂を含む。 ・深度2.02～2.94m 径5～20mmのチャート、頁岩の円礫を少量含む中砂。粗砂を多量に含む ・深度2.94～3.25m 中砂。シルトを少量含む。
2											
3	5.08	3.25									
4											
5											・深度3.25～8.38m 均質な中砂。細砂を含む。ラミナ見られない 含水量少なく、締り緩い ・深度4.87～5.84m 粗砂を少量含む ・深度6.00～7.21m 全体にシルトを含む ・深度8.13～8.38m 灰色を呈する中砂
6			Du	中砂	褐灰						
7											
8	0.20 -0.05	8.18 8.38			灰						
	-0.42	8.75	Ag2	腐植物	黒褐						・深度8.38～8.75m 炭化した腐植物の小片を多量に含む中砂。
9	-0.88	9.21	Ag2	礫混り中砂	灰						・深度8.75～9.21m 径1～2mmの円礫が散在する中砂。
	-1.41	9.74	Ac2	砂混り粘土	暗灰						・深度9.21～9.74m 全体に細砂を少量含む粘土。炭化した腐植物の小片を少量含む。
10											
11			Ag2	砂礫	灰						・深度9.74～10.03m 細砂 ・深度10.03～11.95m 径2～5mm、最大20mmのチャート、頁岩の円礫を中程度含む。基質は粗砂 ・深度11.44～11.48m 中砂を含む黄褐色の均質なシルト ラミナ見られない
12	-3.62	11.95									
	-4.58	12.91	Ag4	礫混り中砂	灰						・深度11.95～12.91m 径2～5mmの円礫が散在する中砂。細砂を含む。
13											
14											・深度12.91～13.11m 厚さ5～8mmの細砂を挟む粘土 ・深度13.11～16.76m 均質な粘土。水平方向に弱いラミナ見られる。貝殻片の小片点在。含水量多く、粘性強い
15			Ac1	粘土	暗灰						
16											
	-8.43	16.76									
17			As1	細砂	灰						・深度16.76～17.20m シルト混り細砂。深度17.20～17.81m 細砂。中砂を含む。 ・深度17.81～18.08m シルト混り細砂。均質、ラミナ見られない。
18	-9.76	18.08									
19											
20											
21			Ac1	粘土	暗灰						・深度18.08～24.04m 均質な粘土。ラミナ見られない。貝殻片の小片散在。含水量多く、粘性強い。
22											
23											
24	-15.71	24.04									
25			Ac1	シルト混り細砂	暗灰						・深度24.04～25.42m 全体にシルトを含む均質な細砂。ラミナ見られない。
	-17.09	25.42									
	-17.40	25.73	Ac1	粘土	暗灰						・深度25.42～25.73m 均質な粘土
26			Ac1	シルト混り細砂	暗灰						・深度25.73～26.68m 水平方向にラミナの見られるシルト混り細砂。
	-18.35	26.68									
27			Ac1	シルト質細砂	暗灰						・深度26.68～27.68m 全体にシルトを含む細砂。水平方向に弱いラミナ見られる。
	-19.35	27.68									
28					暗灰						・深度27.68～32.93m 水平方向に弱いラミナの見られる粘土。含水量多く、粘性強い。
29	-20.62	28.95									
	-21.21	29.54			黒褐						・深度28.95～29.54m 炭化した腐植物の小片を多量に含む。
30			Ac1	粘土							
31					暗灰						・貝殻片の小片点在。含水量多く、粘性強い。
32											
33	-24.60 -24.87	32.93 33.20	Ac1	砂混り粘土	暗灰						・深度32.93～33.20m 全体に細砂を含む粘土。ラミナ見られない。

孔内水位 m／測定月日	N値	掘進月日	掘進速度(cm/時)	孔径(mm)／孔壁保護	コアチューブ／ビット	給圧(KN)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	送水量(l/分)	排水量(l/分)
12/17 1.20		12/14	試掘	140 ケーシング	試掘	0	0	0	無水 0	0
		12/15	300	140 ケーシング	打ち込み	打撃	0	0	無水 0	0
		12/15	300			打撃	0	0	無水 0	0
		12/15	300	116 ケーシング	打ち込み	打撃	0	0	無水 0	0
12/16 5.85		12/15	300			打撃	0	0	無水 0	0
12/20 5.50		12/16	171			1	30	0	清水 20	20
		12/16	133	116		1	30	0	清水 20	20
		12/16	300		コアパック／メタル	1	30	0	清水 20	20
		12/16	300			1	30	0	清水 20	20
		12/16	300	ケーシング		1	30	0	清水 20	20
		12/16	300			1	30	0	清水 20	20
		12/17	480			1	30	1	泥水 20	20
		12/17	480			1	30	1	泥水 20	20
		12/17	480			1	30	1	泥水 20	20
		12/17	150			1	30	1	泥水 20	20
		12/17	330			1	30	1	泥水 20	20
		12/17	315			1	30	1	泥水 20	20
		12/17	360			1	30	1	泥水 20	20
		12/17	360			1	30	1	泥水 20	20
		12/17	288		コアパック／メタル	1	30	1	泥水 20	20
		12/17	480	86		1	30	1	泥水 20	20
		12/19	180			3	30	1	泥水 20	20
		12/19	360			3	30	1	泥水 20	20
		12/19	288			3	30	1	泥水 20	20
		12/19	276			3	30	1	泥水 20	20
		12/19	375			3	30	1	泥水 20	20
		12/19	360			3	30	1	泥水 20	20
		12/19	288			3	30	1	泥水 20	20
		12/19	315			3	30	1	泥水 20	20

S-4-0 (0～33m)

余　　白

12.平成19年調査孔(No.1)

ボーリング柱状図

調　査　名　東海第二発電所 第6給水加熱器取替工事に係る現場干渉物調査（その1）

事業・工事名

ボーリングNo.

シートNo.

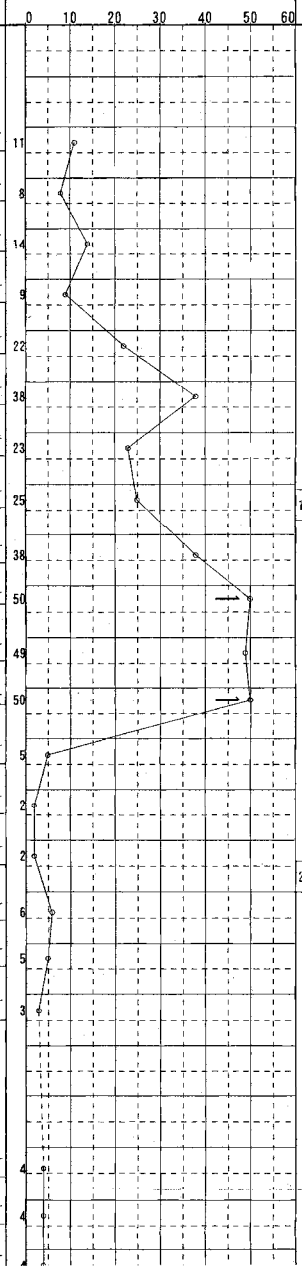
ボーリング名	No.1	調査位置	日本原子力発電㈱東海第二発電所構内	北緯	° ′ ″
発注機関	日本原子力発電株式会社	調査期間	平成19年 1月16日～平成19年 1月29日	東経	° ′ ″
調査業者名	[redacted]	主任技師	[redacted]	現場代理人	[redacted]
コア鑑定者	[redacted]	ボーリング責任者	[redacted]		
孔口標高	TP 7.81m	角度	180° 上 下 90° 0° 0°	方向	北 0° 270° 90° 西 東 180° 南
地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°	使用機種	試錐機 YBM-05	ハンマー落下用具	トンビ
総掘進長	60.45m		エンジン ヤンマーNF-80	ポンプ	ヤンマーNFAD7

標尺 m	標高 m	層厚 m	深度 m	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	粒度試験による土質区分	孔内水位／測定月日
1					盛土				0.00～2.00m ・細～中粒砂からなる盛土である ・所々粗粒砂～細礫を含む		
2	5.81	2.00	2.00		細砂	淡褐灰			2.00～6.00m ・細粒砂からなる ・淘汰良好である		
3											
4											1/23 6.40
5											
6	1.81	4.00	6.00		中砂				6.00～7.20m ・中粒砂からなる		1/25 6.40
7	0.61	1.20	7.20		礫混り粗砂				7.20～10.45m ・礫混り粗粒砂からなる。 ・礫は径2～10mmの円礫からなる ・下部ほど粗い		1/28 7.20
8											
9											
10	-2.64	3.25	10.45		礫混り中砂	淡青灰			10.45～12.80m ・礫混り中粒砂からなる ・礫は径2～20mm（最大径30mm）の円礫からなる		
11											
12											
13	-4.99	2.35	12.80		砂礫	黒灰			12.80～13.90m ・砂礫からなる ・礫は径2～30mm（最大径100mm）の亜円礫～円礫からなる。 ・基質は中粒～粗粒砂からなる		
14	-6.09	1.10	13.90		砂混りシルト	暗灰			13.90～17.20m ・砂混りシルトからなる ・貝殻片を多く含む		
15											
16											
17	-9.39	3.30	17.20		シルト混り細砂				17.20～17.70m ・シルト混り細粒砂からなる ・シルトをレンズ状に挟む		
18	-9.89	0.50	17.70		砂混りシルト				17.70～18.80m ・砂混りシルトからなる ・貝殻片を含む		
19	-10.99	1.10	18.80		シルト				18.80～25.70m ・シルトからなる ・貝殻片を含む ・まれに砂分を含む		
20											
21											
22											
23											
24											

標準貫入試験

深度 m	10cm毎の打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量
2.15 / 2.47	4 / 11	3 / 9	4 / 12	11 / 32
3.15 / 3.45	2	3	3	8 / 30
4.15 / 4.45	3	5	6	14 / 30
5.15 / 5.45	3	3	3	9 / 30
6.15 / 6.45	5	7	10	22 / 30
7.15 / 7.45	10	12	16	38 / 30
8.15 / 8.45	7	7	9	23 / 30
9.15 / 9.45	7	8	10	25 / 30
10.25 / 10.55	11	12	15	38 / 30
11.15 / 11.35	16	34		50 / 20
12.15 / 12.45	11	13	25	49 / 30
13.15 / 13.32	25	25 / 7		50 / 17
14.15 / 14.48	1 / 8	2 / 12	2 / 13	5 / 33
15.15 / 15.47	1 / 15	1 / 17		2 / 32
16.15 / 16.47	1 / 21	1 / 11		2 / 32
17.25 / 17.55	2	2	2	6 / 30
18.15 / 18.46	2 / 12	1 / 8	2 / 11	5 / 31
19.15 / 19.50	1 / 12	1 / 14	1 / 9	3 / 35
22.25 / 22.58	1 / 8	1	2 / 15	4 / 33
23.15 / 23.47	1 / 9	1	2 / 13	4 / 32
24.15 / 24.47	1 / 8	2 / 16	1 / 8	4 / 32

N値

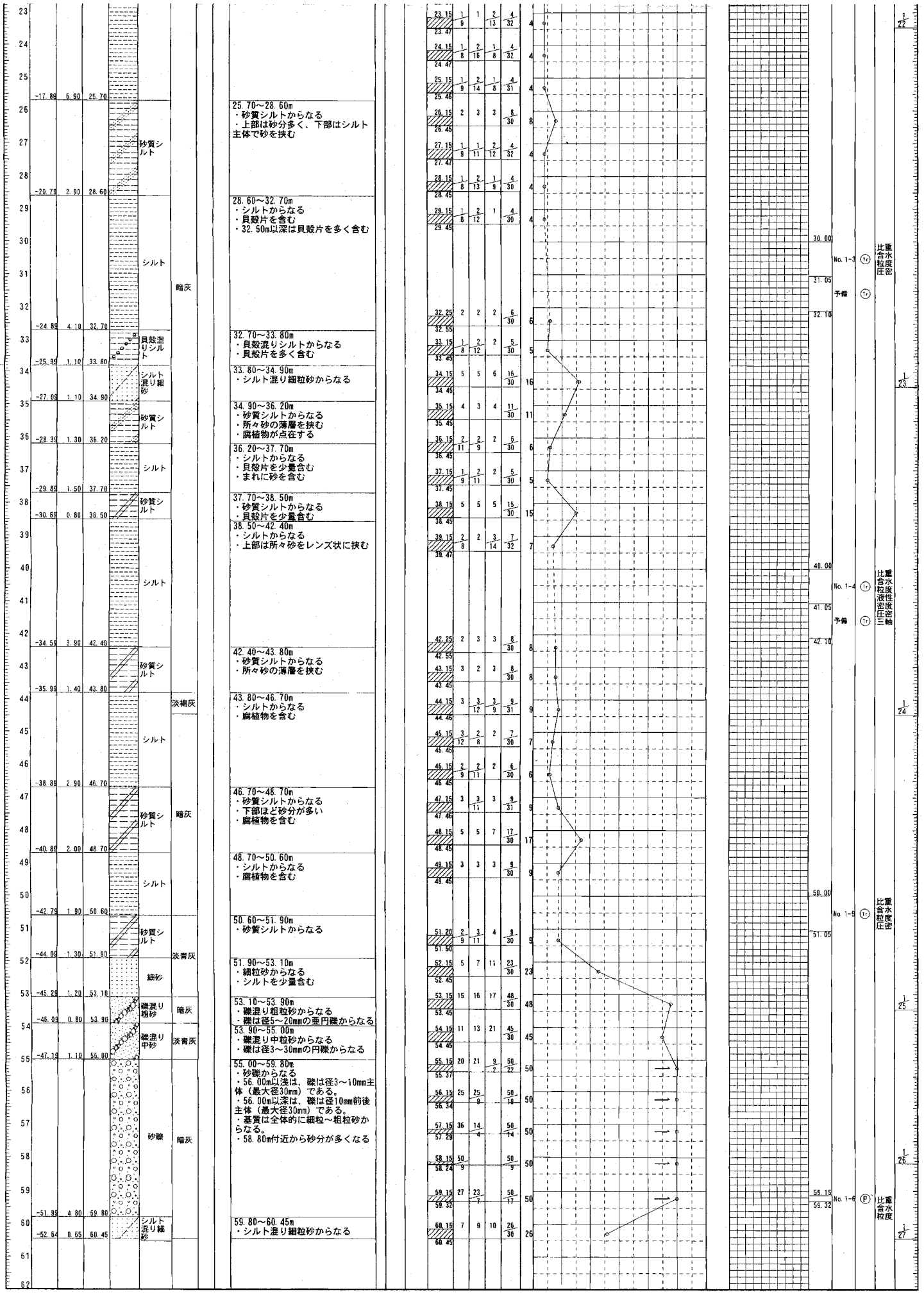


原位置試験

深度 m	試験名及び結果
9.10 / 1 / 9.70	LLT
16.40 / 2 / 17.00	LLT

試料採取

深度 m	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
10.25 / 10.55	No.1-1	Ⓟ	比重含水粒度	1/18
20.00 / 21.05 / 22.10	No.1-2 予備	Ⓣ Ⓣ	比重含水粒度液性密度圧密三軸	1/19
				1/20
				1/22



備　考

注１）試料採取方法の記号
T：シンウォールサンプラー　F：フォイルサンプラー
P：標準貫入試験用サンプラー　O：オーガー
D：デニソン型サンプラー

注２）原位置試験方法の記号

余　　白

13.平成21年調査孔(液検Ⅰ,Ⅲ,Ⅴ孔)

ボーリング柱状図

調　査　名　東海第二発電所におけるボーリング調査（全5件）

ボーリングNo.

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	液検Ⅰ－1	調査位置	茨城県那珂郡東海村白方1の1 （X=782.578, Y=455.776）	北緯	
発注機関	日本原子力発電株式会社	調査期間	平成 20年 8月 18日 ～ 20年 8月 21日	東経	
調査業者名	[redacted]	主任技師	[redacted]	現場代理人	[redacted]
				コア鑑定者	[redacted]
				ボーリング責任者	[redacted]
孔口標高	9.17m	角度	180°上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南
総掘進長	22.45m	地盤勾配	鉛直 90° 0° 水平 0°	使用機種	
試錐機	YBM－05	ハンマー落下用具	トンビ		
エンジン	YANMAR NFAD8	ポンプ	KANO V6		

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事		孔内水位(m)／測定月日
1	7.37	1.80	1.80		礫混り砂	淡褐灰			表面部は芝生。 以深、0.20mまで砂質土。 0.20～1.50m間、番線、ガラ混り砂。 1.50～1.80m間、砂による埋土。	f1	
2											
3											
4											
5											
6					細砂	淡褐灰			粒子均一の細砂。 5.00m付近までは比較的ゆるく、以深は締ってくる。 8.00m貫入試験で含水認められる。以浅は含水に乏しい。	du	
7											
8											8/19 7.60
9											
10	-1.63	9.00	10.80							Ag2	
11					礫混り粗砂	淡青灰			含水多く、φ1～3mm程度の小礫混在。粒子不均一。		
12	-3.53	1.90	12.70								
13					シルト	暗青灰			含水中位。比較的均質。貝殻粒混入、14.00m付近よりブロックに砂挟む。	Ac1	
14	-5.43	1.90	14.60								
15					シルト混り細砂	暗青灰			含水中位。粒子均一。小ブロックにシルト挟む。雲母粒混入。	As1	
16	-7.73	2.30	16.90								
17					微細砂	暗青灰			含水中位。粒子均一。雲母粒混入。		
18	-9.53	1.80	18.70								
19	-10.33	0.80	19.50		砂質シルト	暗灰			含水中位。比較的均質。ブロック砂含む。 部分的に有機質土点在。貝殻片混入。		
20											
21					シルト	暗灰			均質で粘性中位。貝殻片混入。	Ac1	
22	-13.28	2.95	22.45								

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
2.15	1/9	1	2/16	4/35	3
2.50 3.15	3/12	3	3	9/32	8
3.47 4.15	2/8	3/12	3	8/30	8
4.45 5.15	3/9	3	4/12	10/31	10
5.46 6.15	5	5	6	16/30	16
6.45 7.15	4	6	6	16/30	16
7.45 8.15	5	8	9	22/30	22
8.45 9.15	8	12	17	37/30	37
9.45 10.15	7	9	9	25/30	25
10.45 11.15	9	10	12	31/30	31
11.45 12.15	13	12	15	40/30	40
12.45 13.15	1/9	1	2/14	4/33	4
13.48 14.15	1/14	1	1	3/34	3
14.49 15.15	1/11	1/12	1	3/33	3
15.48 16.15	1/12	1	1	3/32	3
16.47 17.15	12	19	19/8	50/28	54
17.43 18.15	14	12	14	40/30	40
18.45 19.15	2/12	1	1/8	4/30	4
19.45 20.15	1	1	1	3/30	3
20.45 21.15	1/16	1/14		2/30	2
21.45 22.15	1	1	1	3/30	3
22.45					

原位置試験

深度 (m)	試験名および結果

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法
6.15	液検Ⅰ-SPT6	
6.45		
7.15	液検Ⅰ-SPT7	
7.45		
10.15	液検Ⅰ-SPT10	
10.45		
15.15	液検Ⅰ-SPT15	
15.45		
18.15	液検Ⅰ-SPT18	
18.45		
21.15	液検Ⅰ-SPT21	
21.45		

室内試験（　）

掘進月日：8/18、8/19、8/20

ボーリング柱状図

調　査　名　東海第二発電所におけるボーリング調査（全5件）

ボーリングNo.

事業・工事名

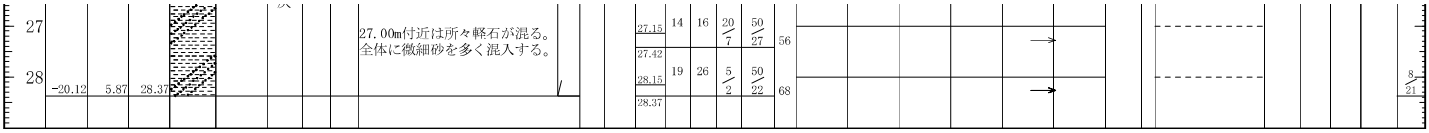
シートNo.

ボーリング名	液検Ⅲ－1	調査位置	茨城県那珂郡東海村白方1の1 （X=397.816, Y=151.212）	北緯	
発注機関	日本原子力発電株式会社	調査期間	平成 20年 8月 18日 ～ 20年 8月 22日	東経	
調査業者名	[redacted]	主任技師	[redacted]	現場代理人	[redacted] / コア鑑定者 [redacted]	ボーリング責任者	[redacted]
孔口標高	8.25m	角度	180°上 90° 0°下 0°	方向	北 0° 270°西 90°東 180°南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0°	使用機種	試錐機 KANO KR-50	ハンマー落下用具	自動落下装置
総掘進長	28.37m								エンジン YANMAR NFAD8	ポンプ KANO V6

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
	7.65	0.60	0.60		礫混り砂	暗茶灰			上部10cm程度は草・木根を多く混る。 以深はコンクリート片及びφ100mm程度の礫が混る。
1									
2									所々中砂を混る不均一な細砂で小礫が点在する。
3									
4					細砂	淡黄灰			
5									5.00m付近以深は所々厚さ5～10cm程度の粗砂を挟む。
6									
7	0.55	7.10	7.70						7.50m付近以深はφ10mm程度の亜円礫が点在する。
8	-0.25	0.80	8.50		礫混じり細砂	暗黄灰			7.80m付近以深は貝殻片が混入する。 礫はφ10～20mm程度の亜円礫である。
9									
10					砂礫	淡黄灰			平均φ5～20mm、最大φ50mm程度の亜円礫でマトリックスは中～粗砂である。
11									
12	-4.05	3.80	12.30						11.90～12.30m間、礫が主体で玉石を混る。
13	-4.65	0.60	12.90		細砂	暗黄灰			所々中砂を混る不均一な細砂である。
14	-6.70	2.05	14.95		砂礫	暗黄灰			φ5～20mm程度、最大φ50mm程度の亜円礫で、マトリックスは中砂が主体。
15	-7.15	0.45	15.40		礫混じり細砂	暗黄灰			φ5mm程度の亜円礫が混る。 所々中砂を混る。
16					砂礫	暗黄灰			所々細砂を5～10cm程度の厚さで挟む。 φ10～20mm程度の亜円礫である。
17									
18	-9.65	2.50	17.90		粘土	暗褐灰			所々細砂を1～2cm程度の厚さで挟む。 棒状コアにて採取される。
19	-10.55	0.90	18.80		砂質粘土	乳黄灰			全体に微細砂を混る。所々、細砂と粘土の互層である。
20	-11.40	0.85	19.65		砂礫	暗緑灰～暗青灰			φ10～20mm程度の亜円礫である。 下部はφ50～80mm程度の礫を多く混る。 色調が変わる。全体に硬く締っている。
21									
22	-14.25	2.85	22.50						
23					砂質泥岩	暗青灰～暗緑灰			新鮮な岩で棒状コアにて採取される。
24									
25									
26									
27									27.00m付近は所々軽石が混る。 全体に微細砂を多く混入する。

孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 深度(m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値
	2.15	3	2	3	8/30	8
	2.45 / 3.15	3	5	7	15/30	15
	3.45 / 4.15	5	6	7	18/30	18
	4.45 / 5.15	5	5	5	15/30	15
	5.45 / 6.15	4	6	5	15/30	15
8/18 6.45	6.45 / 7.15	10	14	18	42/30	42
	7.45 / 8.15	6	7	8	21/30	21
	8.45 / 9.15	10	12	16	38/30	38
	9.45 / 11.15	17	28	5/1	50/21	71
	11.36 / 12.15	7	14	17	38/30	38
	12.45 / 13.15	15	30	5/1	50/21	71
	13.36 / 14.15	13	17	20/8	50/28	54
	14.43 / 15.15	20	30/9		50/19	79
	15.34 / 16.15	18	32		50/20	75
	16.35 / 18.15	3	3	3	9/30	9
	18.45 / 19.15	5	5	8	18/30	18
	19.45 / 20.15	50/9			50/9	167
	20.24 / 21.05	50/2			50/2	750
	21.07 / 22.00	50/5			50/5	300
	22.05 / 23.15	15	17	18	50/30	50
	23.45 / 24.15	15	17	18/7	50/27	56
	24.42 / 25.15	16	20	14/5	50/25	60
	25.40 / 26.15	15	20	15/5	50/25	60
	26.40 / 27.15	14	16	20/7	50/27	56
	27.42					

原位置試験 深度(m)	試験名および結果	試料採取 深度(m)	試料番号	採取方法	室内試験（　）	掘進月日
9.70	孔内水平載荷試験					
10.30						8/18
						8/19
16.70	孔内水平載荷試験					
17.30						8/20
		20.24	採Ⅲ-SPT20			


27
28
-20.12
5.87
28.37
27.00m付近は所々軽石が混る。
全体に微細砂を多く混入する。
27.15
27.42
28.15
28.37
14
19
16
26
20/7
5/2
50/27
50/22
56
68
8/21

ボーリング柱状図

調　査　名　東海第二発電所におけるボーリング調査（全5件）

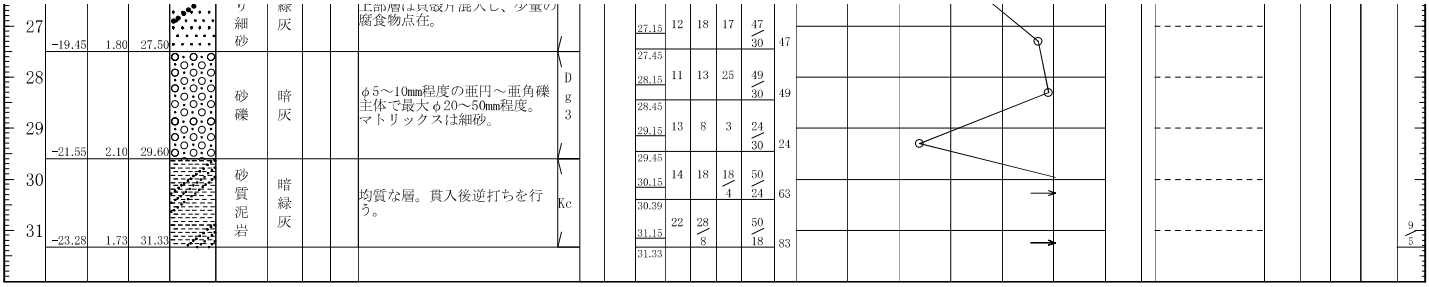
ボーリングNo.

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	液検Ｖ－1	調査位置	茨城県那珂郡東海村白方1の1 （X=580.171, Y=254.296）	北緯	
発注機関	日本原子力発電株式会社	調査期間	平成 20年 9月 1日 ～ 20年 9月 6日	東経	
調査業者名	[redacted]	主任技師	[redacted]	現場代理人	[redacted]
				コア鑑定者	[redacted]
				ボーリング責任者	[redacted]
孔口標高	8.05m	角度	180°上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南
総掘進長	31.33m	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 0°	使用機種	
試錐機	YBM－05	ハンマー落下用具	トンビ		
エンジン	YANMAR NFAD8	ポンプ	KANO V6		

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値	原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（　）	掘進月日
1											2.15	3/12	3	3	9/32	8							
2											2.47												
3											3.15	2/12	2/8	2	6/30	6							
4											3.45												
5											4.15	2/9	3/13	2/8	7/30	7							
6											4.45												
7	0.85	7.20	7.20		細砂	淡黄褐			細砂（埋土）。粒子粗く不均一。φ10～30mm程度の玉砂利点在。下位ほど混入礫径が大きくなり、φ30～60mmの礫が点在する。		5.15	1	1	1	3/30	3							
8											5.45												
9											6.15	1	2/13	1	4/33	4							
10											6.48												
11											7.15	8	26	10	44/30	44							
12	-3.95	4.80	12.00		礫混り細砂	淡黄褐			礫混り細砂（埋土）。7.20m、玉石に当たる。以深、全体的にφ5～50mm位の砂利混入。最大礫径φ100～200mm程度と思われる。粒子粗く不均一。		7.45	6	4	4	14/30	14							
13	-4.65	0.70	12.70		細砂	淡褐灰			含水乏しい。粒子均一。少量の小礫点在。		8.15												
	-5.25	0.60	13.30		砂礫	茶褐			含水中位。φ10～20mmの亜角礫主体。最大φ80mm程度。マトリックスは中～粗砂。		8.45	3	2	3	8/30	8							
14										9/4 12.90	9.15								9.15	液検V-SPT9			
15					シルト	暗青灰			均質で粘性中位。		9.45	5	5	3	13/30	13			9.45				
16	-8.05	2.80	16.10								10.15								10.15	液検V-SPT10			
	-8.65	0.60	16.70		砂質シルト	暗青灰			粘性弱く、部分的にブロックに砂挟む。		10.45	3	2	3	8/30	8			10.45				
17					砂混りシルト	暗青灰			粘性中位。部分的にブロックに砂挟む。貝殻片混入。		11.45												
18	-9.85	1.20	17.90								11.15												
19					シルト	暗青灰			全体的に均質。粘性中位。貝殻片混入。		12.15	2	2	3	7/30	7							
20											12.45												
21											13.15	2	2	2	6/30	6							
22	-14.15	4.30	22.20								13.45												
23					シルト分有し貝殻片混入。φ1～2mm程度の小礫混入。	暗緑灰					14.15	1/12	1	1	3/32	3							
24									24.00m付近よりφ10～20mm位の亜円礫点在。下位ほどシルト分が減少する。		14.47												
25					シルト混り細砂	暗緑灰					15.15	1/35			1/35	1							
26	-17.65	3.50	25.70								15.50												
27					礫混り細砂	暗緑灰			混入礫（φ20～30mm）多い。上部層は貝殻片混入し、少量の腐食物点在。		16.15	1	1	2	4/30	4							
	-19.45	1.80	27.50								16.45												
											17.15	1/20	1/15		2/35	2							
											17.50												
											18.15	1/35			1/35	1							
											18.50												
											19.15	1/15	1/15		2/30	2							
											19.45												
											20.15	1/18	1/12		2/30	2			20.15	液検V-SPT20			
											20.45								20.45				
											21.15	1/15	1	1	3/35	3							
											21.50												
											22.15	1/11	2	2	5/31	5							
											22.46												
											23.15	3/12	2	2	7/32	7							
											23.47												
											24.15	2	2	3	7/30	7			24.15	液検V-SPT24			
											24.45								24.45				
											25.15	2	3	2	7/30	7			25.15	液検V-SPT25			
											25.45								25.45				
											26.15	9	10	16	35/30	35							
											26.45												
											27.15	12	18	17	47/30	47							
											27.45												


27
28
29
30
31
-19.45
1.80
27.50
-21.55
2.10
29.60
-23.28
1.73
31.33
細砂
緑灰
砂礫
暗灰
砂質泥岩
暗緑灰
上部層は貝殻片混入し、多量の腐食物点在。
φ5～10㎜程度の亜円～亜角礫主体で最大φ20～50㎜程度。マトリックスは細砂。
均質な層。貫入後逆打ちを行う。
Dg3
Kc
27.15
27.45
28.15
28.45
29.15
29.45
30.15
30.39
31.15
31.33
12
18
17
47/30
47
11
13
25
49/30
49
13
8
3
24/30
24
14
18
18/4
50/24
63
22
28/8
50/18
83
9/5

14.平成21年調査孔
(緊対-1～6孔、固作1～4孔、消車-1孔、電装-1～2孔)

ボーリング柱状図

調　査　名　東海第二発電所におけるボーリング調査（全5件）

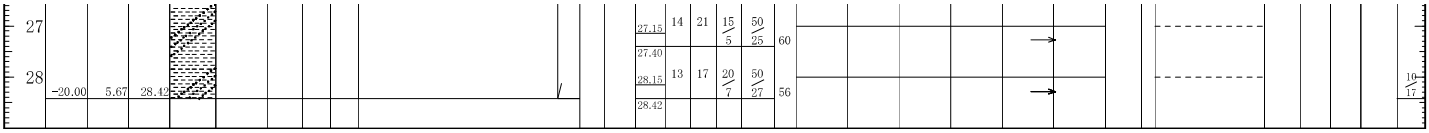
ボーリングNo.

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	繁対－1－1	調査位置	茨城県那珂郡東海村白方1の1 （X＝376.734, Y＝397.945）	北緯	
発注機関	日本原子力発電株式会社	調査期間	平成 20年 10月 9日 ～ 20年 10月 18日	東経	
調査業者名	[redacted]	主任技師	[redacted]	現場代理人 [redacted]	コア鑑定者 [redacted]	ボーリング責任者 [redacted]
孔口標高	8.42m	角度	180°上 90° 0°下 0°	方向	北 0° 270°西 90°東 180°南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0°	使用機種	試錐機	KANO KR－50	ハンマー落下用具	自動落下装置
総掘進長	28.42m								エンジン	YANMAR NFAD8	ポンプ	KANO V6

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事		孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値	原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（　）	掘進月日
1					礫混り砂	乳黄灰			0.30mまで黒ボク土。 1.10mまでコンクリート片混り土砂。 以深は砂主体の盛土で、所々小礫が点在する。	f1														
2																								
3	5.42	3.00	3.00									3.15	5	5	6	16／30	16							
4					細砂	乳黄灰			所々中砂を混る不均一な細砂である。	du		3.45 4.15	6	8	8	22／30	22							
5												4.45 5.15	9	10	11	30／30	30							
6												5.45 6.15	7	9	11	27／30	27							
7											10/14 6.95	6.45 7.15	13	17	20	50／30	50							
8												7.45 8.15	10	13	17	40／30	40							
9	-1.08	6.50	9.50						9.30m付近以深は粗砂を多く混る。	Ag2		8.45 9.15	9	11	12	32／30	32							
10					砂礫	暗黄灰			φ10～20mm、最大φ50mm程度の亜円礫で、マトリックスは細～中砂が主体である。 毎分4～5L程度漏水する。			9.45 11.15	23	27／8		50／18	83	9.70	孔内水平載荷試験					
11																		10.30						
12	-3.63	2.55	12.05									11.33 13.15	6	10	10	26／30	26	12.20	孔内水平載荷試験					
13	-4.38	0.75	12.80		砂質シルト	乳褐灰			12.50m付近以深は所々礫を薄く混る。	Dc3								12.80						
14	-5.08	0.70	13.50		砂質シルト・砂互層	暗黄灰			砂質シルトと砂の互層である。 所々礫を薄く混る。			13.45 14.15	5	5	12	22／30	22							
15									φ10～20mm程度の亜円礫である。マトリックスは細～中砂が主体である。 所々砂を5cm程度の厚さで挟む。 全体に硬く締まっている。 14.10～14.40m間、砂が主体で所々砂質シルトを挟む。 16.00m付近以深はφ50～80mm程度の大礫を多く混る。			14.45 15.15	16	21	13／5	50／25	60							
16																		15.70	孔内水平載荷試験					
17												15.40 17.15	21	29／9		50／19	79	16.30						
18					砂礫	暗黄灰				Dg3		17.34 18.15	20	27	3／1	50／21	71							
19												18.36 19.15	33	17／4		50／14	107							
20												19.29 20.15	23	27		50／20	75							
21												20.35 21.15	26	24／6		50／16	94							
22	-14.33	9.25	22.75									21.31 22.15	22	28／8		50／18	83							
23									新鮮な岩で、棒状コアにて採取される。 固結度は弱い。			22.33 23.15	12	16	20	48／30	48							
24												23.45 24.15	14	18	18／7	50／27	56							
25					砂質泥岩	暗緑灰			25.00～26.00m付近、所々浮石を5～10cm程度の厚さで挟む。 以深は新鮮な岩である。	Kc		24.42 25.15	15	20	15／6	50／26	58							
26												25.41 26.15	13	22	15／5	50／25	60							
27												26.40 27.15	14	21	15／5	50／25	60							
												27.40												


27
28
-20.00
5.67
28.42
27.15
27.40
28.15
28.42
14
13
21
17
15/5
20/7
50/25
50/27
60
56
10/17

ボーリング柱状図

調　査　名　東海第二発電所におけるボーリング調査（全5件）

ボーリングNo.

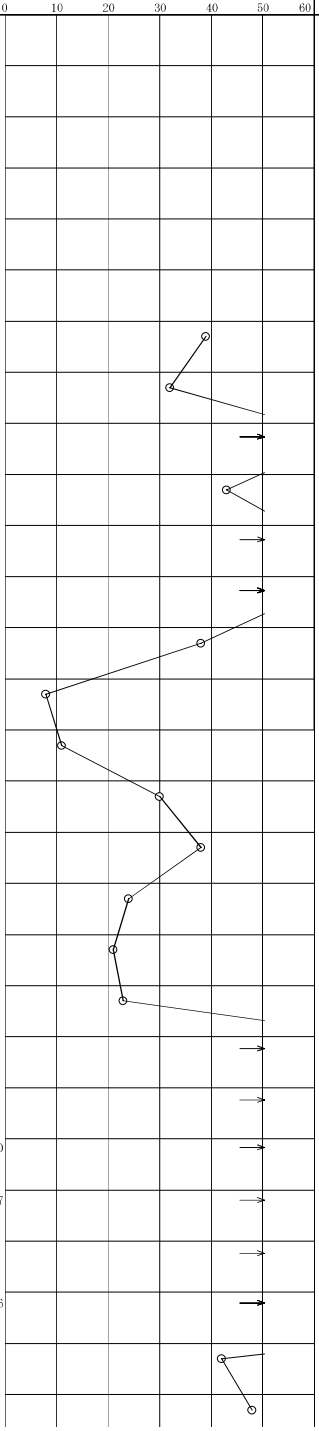
事業・工事名

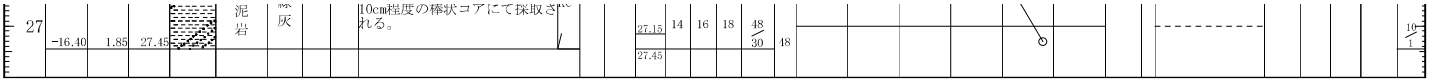
シートNo.

ボーリング名	緊対－2	調査位置	茨城県那珂郡東海村白方1の1（X=285.144, Y=472.781）			北緯	
発注機関	日本原子力発電株式会社			調査期間	平成 20年 9月 29日 ～ 20年 10月 2日	東経	
調査業者名	[redacted]	主任技師	[redacted]	現場代理人	[redacted]	コア鑑定者	[redacted]	ボーリング責任者	[redacted]
孔口標高	11.05m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 90° 西 東 180° 南	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 0°	使用機種	試錐機 KANO KR－50	ハンマー落下用具 自動落下装置
総掘進長	27.45m								エンジン YANMAR NFAD8	ポンプ KANO V6

標尺(m)	標高(m)	層厚(m)	深度(m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	
1 2 3	7.55	3.50	3.50		礫混り砂	乳黄灰			上部は礫混り砂が主体である。下部は小礫が点在する。	f1
4 5 6 7 8 9 10	0.20	7.35	10.85		細砂	乳黄灰			全体に中砂を混る不均一な細砂である。 8.00m付近、硬く締まった細砂である。 9.00m付近、所々粗砂を3～5cm程度の厚さで挟む。	du Ag2
11 12	-1.45	1.65	12.50		砂礫	暗黄灰			φ10～20mm程度の亜円礫でマトリックスは粗砂が主体である。含水多い。毎分2～3L程度漏水する。	
13 14	-2.95	1.50	14.00		固結シルト	褐灰			所々細砂を1cm程度の厚さで挟む。	Dc3
15	-4.15	1.20	15.20		固結シルト・細砂互層	暗青灰			固結シルト5～10cm、細砂5～15cm程度の厚さで互層状。	
16	-5.05	0.90	16.10		細砂	暗青灰			粒子均一な細砂である。	Ds3
17	-5.85	0.80	16.90		シルト質微細砂	暗青灰			凝灰質のシルト質微細砂である。全体に硬く締まっている。	
18 19 20	-9.10	3.25	20.15		シルト質細砂	暗青灰			所々砂質シルトを2～3cm程度の層で挟む。	
21 22 23 24	-13.35	4.25	24.40		砂礫	暗青灰			φ10～20mm、最大φ50mm程度の亜円礫である。マトリックスは中～粗砂主体。 20.15～20.50m付近、礫の混りが少ない。 21.50m以深、所々φ80mm程度の大礫が混る。 全体に硬く締まっている。 23.90～24.00m間、粘土を挟む。	Dg3
25	-14.55	1.20	25.60		玉石混り砂礫	暗黄灰			所々玉石が混る。	
26 27	-16.40	1.85	27.45		砂質泥岩	暗緑灰			新鮮な岩であるが、固結度は弱い。10cm程度の棒状コアにて採取される。	Kc

孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 深度(m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値	原位置試験 深度(m)	試験名および結果	試料採取 深度(m)	試料番号	採取方法	室内試験（ ）	掘進月日
	6.15	13	13	13	39/30	39							9/29
	6.45 7.15	8	10	14	32/30	32							
	7.45 8.15	18	22	10/3	50/23	65							
	8.38 9.15	12	14	17	43/30	43							
	9.45 10.15	18	20	12/5	50/25	60							
	10.40 11.15	18	20	12/5	50/25	60							
	11.40 12.15	13	14	11	38/30	38							
	12.45 13.15	3/13	2/7	3	8/30	8							
	13.45 14.15	3	4	4	11/30	11							
	14.45 15.15	6	10	14	30/30	30							
	15.45 16.15	9	14	15	38/30	38							
	16.45 17.15	6	7	11	24/30	24							
	17.45 18.15	5	8	8	21/30	21							9/30
	18.45 19.15	6	7	10	23/30	23							
	19.45 20.15	21	29/7		50/17	88							
	20.32 21.15	24	26/7		50/17	88							
	21.32 22.15	50/3			50/3	500							
	22.18 23.15	50/9			50/9	167							
	23.24 24.15	29	21/7		50/17	88							
	24.32 25.15	43	7/1		50/11	136							
	25.26 26.15	12	15	15	42/30	42							
	26.45 27.15	14	16	18	48/30	48							10/1
	27.45												




27
-16.40
1.85
27.45
泥岩
凝灰
10cm程度の棒状コアにて採取さ
れる。
27.15
27.45
14
16
18
48/30
48

ボーリング柱状図

調　査　名　東海第二発電所におけるボーリング調査（全5件）

ボーリングNo.

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	緊対－3	調査位置	茨城県那珂郡東海村白方1の1 （X=274.003, Y=421.982）	北緯	
発注機関	日本原子力発電株式会社	調査期間	平成 20年 9月 9日 ～ 20年 9月 16日	東経	
調査業者名	[redacted]	主任技師	[redacted]	現場代理人 [redacted]	コア鑑定者 [redacted]	ボーリング責任者 [redacted]
孔口標高	11.19m	角度	180°上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0°	使用機種	試錐機	KANO KR-50	ハンマー落下用具	自動落下装置
総掘進長	28.41m								エンジン	YANMAR NFAD8	ポンプ	KANO V6

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事		孔内水位(m)／測定月日
1									0.30m以浅、コンクリート片及び角礫を多く混る。 以深は礫混り砂が主体である。 1.00m付近まではφ50mm程度の礫が混る。 以深はφ10～20mm程度の円礫が主体である。	f1	
2											
3											
4											
	6.39	4.80	4.80		礫混り砂	乳黄灰					
5											
6											
7											
8									所々中砂を2～3cm程度の厚さで挟む不均一な細砂である。	du	
9											
10											
	0.39	6.00	10.80		細砂	乳黄灰				Ag2	
11											
	-0.41	0.80	11.60		礫混り中砂	暗黄灰			φ5mm程度の亜円礫で、所々粗砂を挟む。		
12									φ5～10mm程度の亜円礫で、マトリックスは粗砂が主体である。		
13	-2.01	1.60	13.20		砂礫	暗黄灰			12.80m付近以深はφ50mm程度の礫が混る。 含水多い。		
	-2.71	0.70	13.90		砂質シルト	淡褐灰			所々細砂を1～2cm程度の厚さで不規則に挟む。植物を若干混入する。		
14	-3.61	0.90	14.80		シルト	暗青灰			所々細砂を1～2cm程度の厚さで不規則に挟む。		
15										Dc3	
16					固結シルト・細砂互層	乳青灰			厚さ5～10cmの固結シルトと、厚さ3～5cm程度の細砂の互層状である。 所々微細砂を混る。		
17											
18	-7.11	3.50	18.30								
19									φ5～20mm程度の亜円礫である。 所々マトリックスに粘性土を混る。		
20									19.70～19.90m間、砂を挟む。		
21									20.50m付近以深は所々φ50mm程度の亜円礫を混る。マトリックスは中～粗砂が主体である。 全体に硬く締っている。		
22					砂礫	暗褐灰				Dg3	
23											
24											
25									25.00m付近に所々石英が混る。		
26	-15.21	8.10	26.40						25.50m以深はφ50～80mm程度の礫を多く混る。		
27					砂質泥	暗緑			新鮮な岩であるが固結度は低い。	Kc	

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
6.15	5	6	7	18／30	18
6.45～7.15	6	7	8	21／30	21
7.45～8.15	7	7	8	22／30	22
8.45～9.15	10	11	13	34／30	34
9.45～10.15	13	21	16／6	50／26	58
10.41～11.15	23	27／9		50／19	79
11.34～12.15	15	18	17／8	50／28	54
12.43～13.15	5	3	3	11／30	11
13.45～14.15	2／15	1／5	2	5／30	5
14.45～15.15	5	5	5	15／30	15
15.45～16.15	6	7	13	26／30	26
16.45～17.15	4	5	8	17／30	17
17.45～18.15	6	13	23	42／30	42
18.45～19.15	5	6	11	22／30	22
19.45～20.15	35	15／2		50／12	125
20.27～21.15	25	25／9		50／19	79
21.34～22.15	25	20	5／1	50／21	71
22.36～23.15	18	18	14／7	50／27	56
23.42～24.15	18	32／8		50／18	83
24.33～25.15	32	18／5		50／15	100
25.30～26.15	17	20	13／4	50／24	63
26.39～27.15	14	16	20／9	50／29	52
27.44					

原位置試験

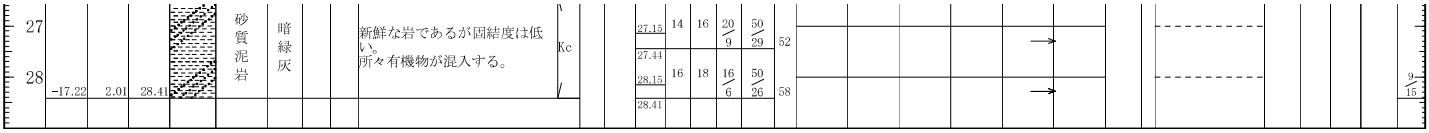
深度 (m)	試験名および結果

試料採取

深度 (m)	試料番号	採取方法

室内試験（　）

掘進月日：9／9、9／10、9／11


27
28
-17.22
2.01
28.41
砂質泥岩
暗緑灰
新鮮な岩であるが固結度は低い。
所々有機物が混入する。
Kc
27.15
27.44
28.15
28.41
14
16
16
18
20/9
16/6
50/29
50/26
52
58
9/15

ボーリング柱状図

調　査　名　東海第二発電所におけるボーリング調査（全5件）

ボーリングNo.

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	緊対－4	調査位置	茨城県那珂郡東海村白方1の1 （X=372.247, Y=470.939）	北緯	
発注機関	日本原子力発電株式会社	調査期間	平成 20年 9月 19日 ～ 20年 9月 29日	東経	
調査業者名	[redacted]	主任技師	[redacted]	現場代理人 [redacted]	コア鑑定者 [redacted]	ボーリング責任者 [redacted]
孔口標高	11.00m	角度	180°上 90° 0°下 0°	方向	北 0° 270°西 90°東 180°南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0°	使用機種	試錐機	KANO KR-50	ハンマー落下用具	自動落下装置
総掘進長	27.40m								エンジン	YANMAR NFAD8	ポンプ	KANO V6

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事		孔内水位(m)／測定月日
1					礫混り砂	乳黄灰			0.50mまではコンクリート片及び円礫が主体、以深は礫混り砂が主体である。 礫はφ20mm程度の亜円礫である。	fl	
2											
3	8.00	3.00	3.00								
4					細砂	乳黄灰			全体に中砂を混る不均一な細砂である。 5.50～5.80m間、礫を多く混る。 8.00m付近、所々小礫が点在する。	du	
5											
6											
7											
8											
9											
10											
11	-0.70	8.70	11.70							Ag2	
12					砂礫	暗黄灰			φ10～20mm、最大φ50mm程度の亜円礫で、マトリックスは中砂が主体である。 12.70m付近、大礫を混る。 毎分1～2L程度漏水。		
13	-1.90	1.20	12.90								
14	-3.80	1.90	14.80		礫混り中砂	暗褐灰			φ10mm程度の亜円礫。 所々砂質シルトを1m程度の層で挟む。 14.40m以深は含水多く緩い。		
15	-4.50	0.70	15.50		砂質シルト	乳黄灰			全体に微細砂を多く混る。含水多い。	Dc3	
16					砂混りシルト	乳黄灰			細砂を5～10cm程度の厚さで不規則に挟む。 含水多い。 17.15～17.30m間、細砂を挟む。		
17	-6.30	1.80	17.30								
18					砂礫	暗褐灰～暗黄灰			φ10～20mm程度の亜円礫からなり、マトリックスは細～中砂が主体で若干粘土分を含む。所々石英を混る。	Dg3	
19											
20											
21									21.35～21.45m間、粘土を挟む。		
22	-11.70	5.40	22.70								
23					玉石混り砂礫	暗黄灰			φ100mm程度の玉石を所々混る。 24.50m以深、φ50～80mm程度の礫を多く混る。		
24											
25	-14.50	2.80	25.50								
26					砂質泥岩	暗緑灰			新鮮な岩であるが、固結度は弱い。	Kc	
27	-16.40	1.90	27.40								

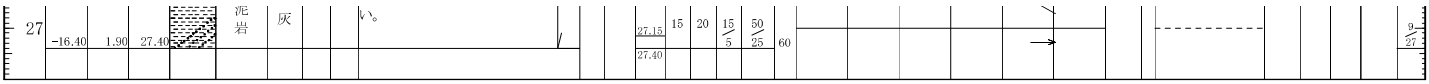
標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
6.15	7	8	11	26／30	26
6.45～7.15	8	10	12	30／30	30
7.45～8.15	10	16	20	46／30	46
8.45～9.15	8	12	14	34／30	34
9.45～10.15	10	13	16	39／30	39
10.45～11.15	22	28／9		50／19	79
11.34～12.15	23	23	4／1	50／21	71
12.36～13.15	8	10	12	30／30	30
13.45～14.15	10	5	3	18／30	18
14.45～15.15	2／15	1／5	2	5／30	5
15.45～16.15	5	4	3	12／30	12
16.45～17.15	15	18	17／8	50／28	54
17.43～18.15	15	15	19	49／30	49
18.45～19.15	18	22	10／5	50／25	60
19.40～20.15	19	19	12／5	50／25	60
20.40～21.15	17	10	3	30／30	30
21.45～22.15	31	19／5		50／15	100
22.30～23.15	28	22／7		50／17	88
23.32～24.15	30	20／6		50／16	94
24.31～25.15	15	21	14／7	50／27	56
25.42～26.15	10	13	20	43／30	43
26.45～27.15	15	20	15／5	50／25	60
27.40					

原位置試験 深度 (m)	試験名および結果

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（　）

掘進月日：9/19、9/26、9/27


27
−16.40
1.90
27.40
泥
岩
灰
27.15
27.40
15
20
15
5
50
25
60
9
27

ボーリング柱状図

調　査　名　東海第二発電所におけるボーリング調査（全5件）

ボーリングNo.

事業・工事名

シートNo.

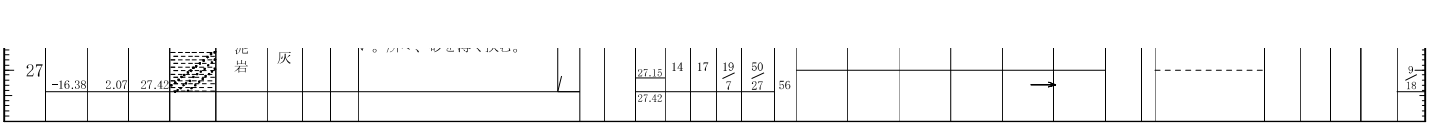
ボーリング名	緊対－5	調査位置	茨城県那珂郡東海村白方1の1 （X=372.982, Y=424.171）	北緯	
発注機関	日本原子力発電株式会社	調査期間	平成 20年 9月 16日 ～ 20年 9月 19日	東経	
調査業者名	[redacted]	主任技師	[redacted]	現場代理人	[redacted]
				コア鑑定者	[redacted]
				ボーリング責任者	[redacted]
孔口標高	11.04m	角度	180°上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南
総掘進長	27.42m	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 0°	使用機種	
				試錐機	KANO KR-50
				ハンマー落下用具	自動落下装置
				エンジン	YANMAR NFAD8
				ポンプ	KANO V6

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事		孔内水位(m)／測定月日
	6.24	4.80	4.80		礫混り砂	乳黄灰			上部30cmまでφ50～100mm程度の豆礫を多く混る。以深は礫混り砂が主体である。礫径はφ5～20mm程度の円礫である。	f1	
	-0.76	7.00	11.80		細砂	乳黄灰			所々、中砂を5～10cm程度の厚さで不規則に挟む。 8.50m付近以深は所々粗砂を2～3cm程度の厚さで挟む。 10.50m以深は毎分2L程度漏水する。全体に硬く締っている。	du Ag2	
	-3.56	2.80	14.60		砂礫	暗黄灰			φ5～20mm、最大φ50mm程度の亜円礫で、マトリックスは中～粗砂が主体である。 毎分2～3L程度漏水する。		
	-4.56	1.00	15.60		シルト質細砂	暗褐灰			14.80～14.90m間、礫層を挟む。 所々砂質シルトを3～5cm程度の厚さで挟む。	Ds3	
	-5.71	1.15	16.75		砂礫	暗褐灰～褐灰			φ5～20mm程度の亜円礫でマトリックスは中～粗砂が主体である。 所々砂質シルトを5～10cm程度の厚さで挟む。		
	-6.76	1.05	17.80		礫混り中砂	褐灰			16.75～16.90m間、砂質シルトを挟む。 φ5～20mm程度の亜円礫である。若干シルト分を含む。		
	-13.46	6.70	24.50		砂礫	暗黄灰			φ10～20mm、最大φ50mm程度の亜円礫で、マトリックスは細～中砂が主体である。 全体に硬く締まっている。 21.50m付近以深はφ50mm程度の亜円礫を多く混る。 22.70m付近1.10m間　、玉石を混る。	Dg3	
	-14.31	0.85	25.35		玉石混り砂礫	暗黄灰			24.50m以深は玉石を多く混る10～20mm程度の亜円礫である。		
	-16.38	2.07	27.42		砂質泥岩	暗緑灰			新鮮な岩であるが、固結度は低い。所々、砂を薄く挟む。	Kc	

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
6.15	6	6	8	20／30	20
6.45～7.15	7	7	8	22／30	22
7.45～8.15	8	10	13	31／30	31
8.45～9.15	11	16	20	47／30	47
9.45～10.15	10	13	17	40／30	40
10.45～11.15	15	25	10／3	50／23	65
11.38～12.15	15	17	18／8	50／28	54
12.43～13.15	14	17	19／8	50／28	54
13.43～14.15	25	25／9		50／19	79
14.34～15.15	5	5	7	17／30	17
15.45～16.15	3	10	17	30／30	30
16.45～17.15	7	8	8	23／30	23
17.45～18.15	20	26	4／1	50／21	71
18.36～19.15	14	20	16	50／30	50
19.45～20.15	16	18	16／8	50／28	54
20.43～21.15	30	20／5		50／15	100
21.30～22.15	39	11／1		50／11	136
22.26～23.15	35	15／3		50／13	115
23.28～24.15	30	20／5		50／15	100
24.30～25.15	19	20	10	49／30	49
25.45～26.15	15	23	12／3	50／23	65
26.38～27.15	14	17	19／7	50／27	56
27.42					

原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（　）	掘進月日
						9／16
						9／17
						9／18


27
-16.38
2.07
27.42
泥岩
灰
27.15
27.42
14
17
19/7
50/27
56
9/18

ボーリング柱状図

調　査　名　東海第二発電所におけるボーリング調査（全5件）

ボーリングNo.

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	緊対－6	調査位置	茨城県那珂郡東海村白方1の1 （X=355.915, Y=399.468）	北緯	
発注機関	日本原子力発電株式会社	調査期間	平成 20年 10月 3日 ～ 20年 10月 8日	東経	
調査業者名	[redacted]	主任技師	[redacted]	現場代理人 [redacted]	コア鑑定者 [redacted]	ボーリング責任者 [redacted]
孔口標高	8.34m	角度	180°上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0°	使用機種	試錐機 KANO KR-50	ハンマー落下用具	自動落下装置
総掘進長	24.41m								エンジン YANMAR NFAD8	ポンプ KANO V6	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事		孔内水位(m)／測定月日
1					礫混り砂	暗茶灰～乳黄灰			0.30mまで芝及び黒ボク土。 1.10mまでコンクリート片混り土砂。 以深は礫混り砂を主体とする盛土。	f1	
2											
3	5.34	3.00	3.00								
4					細砂	乳黄灰～暗黄灰			所々中砂を混る不均一な細砂である。	du	
5											
6											
7											
8	-0.36	5.70	8.70							Ag2	
9	-1.36	1.00	9.70		礫混り中砂	暗黄灰			φ10mm程度の亜円礫で、所々粗砂とを5～10cm程度の厚さで挟む。 毎分3L程度漏水する。		
10					砂礫	暗黄灰			φ10～20mm程度の亜円礫である。 11.30m付近以深はφ50～80mm程度の礫が混る。 マトリックスは細砂が主体である。		
11											
12	-3.61	2.25	11.95		砂質シルト	乳褐灰			所々細砂を3～5cm程度の厚さで挟む。	Dc3	
13	-4.36	0.75	12.70		砂礫	暗褐灰			φ10～20mm程度の亜円礫で、マトリックスは中砂が主体である。	Dg3	
14	-5.06	0.70	13.40		砂質シルト・砂互層	暗褐灰			砂質シルト・砂とも15cm程度の厚さで互層状である。	Dc3	
15	-6.16	1.10	14.50		砂礫	暗青灰			φ10～20mm、最大φ80mm程度の礫で、マトリックスは細～中砂が主体である。 全体に硬く締まっている。	Dg3	
16											
17											
18											
19											
20									19.60～20.00m付近は玉石を混る。 以深もφ50～80mm程度の礫を多く混る。		
21											
22	-14.41	8.25	22.75								
23					砂質泥岩	暗緑灰			新鮮な岩で棒状コアにて採取される。 所々軽石を2～3cm程度の厚さで挟む。	Kc	
24	-16.07	1.66	24.41								

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
3.15	3	3	4	10／30	10
3.45	6	7	8	21／30	21
4.15					
4.45	6	8	8	22／30	22
5.15					
5.45	7	10	13	30／30	30
6.15					
6.45	13	17	19	49／30	49
7.15					
7.45	12	17	19	48／30	48
8.15					
8.45	13	20	17／8	50／28	54
9.15					
9.43	13	17	20／9	50／29	52
10.15					
10.44	30	20／5		50／15	100
11.15					
11.30	2	2	2	6／30	6
12.15					
12.45	9	8	3	20／30	20
13.15					
13.45	3	3	3	9／30	9
14.15					
14.45	50			50／10	150
15.15					
15.25	19	31		50／20	75
16.15					
16.35	13	17	16	46／30	46
17.15					
17.45	19	31		50／20	75
18.15					
18.35	26	24／7		50／17	88
19.15					
19.32	29	21／6		50／16	94
20.15					
20.31	15	26	9／3	50／23	65
21.15					
21.38	30	20		50／20	75
22.15					
22.35	10	10	15	35／30	35
23.15					
23.45	13	18	19／6	50／26	58
24.15					
24.41					

原位置試験

深度 (m)	試験名および結果

試料採取

深度 (m)	試料番号	採取方法

室内試験（　）	掘進月日
	10／3
	10／4
	10／-

ボーリング柱状図

調　査　名　東海第二発電所におけるボーリング調査（全5件）

ボーリングNo.

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	固作－1	調査位置	茨城県那珂郡東海村白方1の1（X=400.911, Y=191.723）			北緯	
発注機関	日本原子力発電株式会社			調査期間	平成 20年 9月 1日 ～ 20年 9月 4日	東経	
調査業者名	[redacted]	主任技師	[redacted]	現場代理人	[redacted]	コア鑑定者	[redacted]	ボーリング責任者	[redacted]
孔口標高	8.08m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 90° 西 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平 0° 90° 0°	使用機種	試錐機 KANO KR－50	ハンマー落下用具 自動落下装置
総掘進長	24.43m								エンジン YANMAR NFAD8	ポンプ KANO V6

標尺(m)	標高(m)	層厚(m)	深度(m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事		孔内水位(m)／測定月日
1					礫混り砂	暗黄灰			アスファルト5cm、0.30mまで砕石、以深は礫混り砂が主体である。	fl	
2											
3	5.18	2.90	2.90						2.70m付近にφ80mm程度の亜円礫を混る。		
4					細砂	乳黄灰			中砂を混る不均一な細砂である。 4.00m以深は所々粗砂を2～3cm程度の厚さで挟む。	du	
5									5.00m以深は所々粗砂を5～10cm程度の厚さで不規則に挟む。		
6											
7											
8	-0.32	5.50	8.40								
9					砂礫	乳黄灰～暗褐灰			φ5～20mm、最大φ50mm程度の亜円礫である。 マトリックスは中～粗砂が主体である。	Ag2	
10											
11											
12											
13									13.20～13.60m間は礫が主体で玉石を混る。		
14											
15											
16									15.50～15.80m間は玉石を多く混る。		
17									16.50m付近以深は所々砂を5～10cm程度の厚さで挟む。 全体に硬く締っている。	Dg3	
18											
19											
20									20.00m付近以深は礫径が大きくなる。		
21											
22	-14.37	14.05	22.45								
23					砂質泥岩	暗緑灰			新鮮な岩である。 細砂を薄く挟む。	Kc	
24	-16.35	1.98	24.43								

標準貫入試験

深度(m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値
2.15	2	2	2	6/30	6
2.45 3.15	7	7	7	21/30	21
3.45 4.15	6	5	6	17/30	17
4.45 5.15	5	6	6	17/30	17
5.45 6.15	6	6	7	19/30	19
6.45 7.15	5	5	7	17/30	17
7.45 8.15	6	7	7	20/30	20
8.45 9.15	11	12	14	37/30	37
9.45 10.15	12	13	16	41/30	41
10.45 11.15	30	20/4		50/14	107
11.29 12.15	13	14	16	43/30	43
12.45 13.05	50/2			50/2	750
13.07 14.15	16	30	4/1	50/21	71
14.36 15.15	20	23	7/3	50/23	65
15.38 16.15	19	20	11/5	50/25	60
16.40 17.15	18	22	10/5	50/25	60
17.40 18.15	25	25/7		50/17	88
18.32 19.15	35	15/3		50/13	115
19.28 20.15	27	23/4		50/14	107
20.29 21.15	33	17/3		50/13	115
21.28 22.15	32	18		50/20	75
22.35 23.15	12	20	18/9	50/29	52
23.44 24.15	15	16	19/8	50/28	54
24.43					

原位置試験 深度(m)	試験名および結果	試料採取 深度(m)	試料番号	採取方法	室内試験（ ）	掘進月日
		18.15 固作-1-SPT18 18.32				
		19.15 固作-1-SPT19 19.28				

ボーリング柱状図

調　査　名　東海第二発電所におけるボーリング調査（全5件）

ボーリングNo.

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	固作－2	調査位置	茨城県那珂郡東海村白方1の1 （X=424.863, Y=174.745）	北緯	
発注機関	日本原子力発電株式会社	調査期間	平成 20年 9月 25日 ～ 20年 10月 1日	東経	
調査業者名	[redacted]	主任技師	[redacted]	現場代理人	[redacted]
				コア鑑定者	[redacted]
				ボーリング責任者	[redacted]
孔口標高	8.13m	角度	180°上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南
総掘進長	24.45m	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0°	使用機種	試錐機：YBM－05　ハンマー落下用具：自動落下装置 エンジン：YANMAR NFD9　ポンプ：YANMAR GP5

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事		孔内水位(m)／測定月日
	7.63	0.50	0.50		礫混り砂	褐灰			礫、ガラが混入する。締まっている。	Fl	
1											
2					細砂	褐灰			不均一な砂。含水量小位		
3	4.33	3.30	3.80							du	
4	3.43	0.90	4.70		礫混り砂	褐灰			砂は細砂～中砂主体、不均一な砂。礫は小礫主体。		
5	2.83	0.60	5.30		細砂	褐灰			不均一な砂		
6					礫混り砂	褐灰			砂は細砂～中砂主体、不均一な砂。 小礫主体、φ20mm程度。		
7											
8	-0.37	3.20	8.50								
9					砂礫	褐灰～暗褐灰			砂は細砂～中砂主体、不均一な砂。 最大礫径80mm程度、φ20～30mm程度の小礫主体。 部分的に礫が多いところがある。 15m付近より暗褐灰色となる。	Ag2	
10											
11											
12											
13											
14											
15											
16	-8.37	8.00	16.50								
17					粘土質シルト	褐灰			若干固結する。	Dc3	
18	-10.07	1.70	18.20								
19					砂礫	暗青灰			砂は細砂～中砂主体の不均一な砂。 最大礫径90mm程度。φ20～30mmの礫主体。 含水量中位。	Dg3	
20											
21											
22	-14.07	4.00	22.20								
23					砂質泥岩	暗緑灰			砂は微細砂主体、均一な砂。	Kc	
24	-16.32	2.25	24.45								

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
2.15	6	7	8	21／30	21
2.45					
3.15	8	9	9	26／30	26
3.45					
4.15	8	9	10	27／30	27
4.45					
5.15	4	5	5	14／30	14
5.45					
6.15	8	9	9	26／30	26
6.45					
7.15	8	8	9	25／30	25
7.45					
8.15	15	13	15	43／30	43
8.45					
9.15	16	17	17	50／30	50
9.45					
10.15	10	12	14	36／30	36
10.45					
11.15	20	21	9／4	50／24	63
11.39					
12.15	25	25／7		50／17	88
12.32					
13.15	50／7			50／7	214
13.22					
14.15	50／8			50／8	188
14.23					
15.15	40	10／1		50／11	136
15.26					
16.15	17	13	7	37／30	37
16.45					
17.15	4	4	5	13／30	13
17.45					
18.15	4	6	18	28／30	28
18.45					
19.15	30	20／5		50／15	100
19.30					
20.02	50／1			50／1	150
20.03					
21.15	16	17	17／5	50／25	60
21.40					
22.15	13	11	13	37／30	37
22.45					
23.15	10	13	14	37／30	37
23.45					
24.15	13	15	16	44／30	44
24.45					

原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（　）	掘進月日
						9／27
						9／29
						9／30
						10／1

ボーリング柱状図

調　査　名　東海第二発電所におけるボーリング調査（全5件）

ボーリングNo.

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	固作－3	調査位置	茨城県那珂郡東海村白方1の1 （X=448.894, Y=192.424）	北緯			
発注機関	日本原子力発電株式会社	調査期間	平成 20年 9月 4日 ～ 20年 9月 9日	東経			
調査業者名	[redacted]	主任技師	[redacted]	現場代理人	[redacted]	コア鑑定者	[redacted]	ボーリング責任者	[redacted]
孔口標高	8.05m	角度	180°上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0°	使用機種	試錐機	KANO KR-50	ハンマー落下用具	自動落下装置
総掘進長	24.22m								エンジン	YANMAR NFAD8	ポンプ	KANO V6

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事		孔内水位(m)／測定月日
	7.15	0.90	0.90		礫混り砂	乳黄灰			アスファルト0.05m、0.40mまで砕石、以深は礫混り砂が主体である。	F1	
1					細砂	乳黄灰			中砂を混る不均一な細砂である。	du	
2											
3											
4									4.00m付近は所々粗砂を2～3cm程度挟む。		
5											
6									6.00m付近は均一な細砂である。		
7	0.25	6.90	7.80						6.70m付近は所々粗砂を5～10cm程度挟む。 貝殻片が混入する。		
8					礫混り中砂	乳黄灰			φ5～20mm程度の亜円礫である。 所々粗砂を2～3cm程度挟む。		
9											
10	-2.50	2.75	10.55						10.00m付近は細砂を多く混る。		
11					砂礫	乳黄灰～暗褐灰			全体に硬く締っている。	Ag2	
12									12.50～12.80m間は玉石を多く混る。		
13									13.50m付近までは毎分2～3L程度漏水する。		
14									13.30～13.80m間は玉石を多く混る。		
15									14.55m以深は所々中砂を5～10cm程度の厚さで挟む。		
16	-7.80 -8.20	5.30 0.40	15.85 16.25		細砂	乳黄灰			均一な細砂である。		
	-8.50	0.30	16.55		砂礫	暗褐灰			φ5～20m程度の亜円礫で、マトリックスは中砂が主体。	Ac1	
17	-9.20	0.70	17.25		シルト	暗青灰			所々細砂を1～2cm程度挟む。		
18					砂礫	暗褐灰～暗青灰			φ10～20mm、最大φ50mm程度の亜円礫である。 マトリックスは細～中砂が主体。 17.40m付近で色調が変わる。 全体に硬く締っている。	Dg3	
19											
20											
21											
22	-14.25	5.05	22.30								
23					砂質泥岩	淡緑灰			新鮮な岩であるが、固結度は低い。 22.50m付近に軽石が混入する。	Kc	
24	-16.17	1.92	24.22								

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
2.15	4	6	6	16／30	16
2.45～3.15	2	4	6	12／30	12
3.45～4.15	5	6	7	18／30	18
4.45～5.15	5	5	6	16／30	16
5.45～6.15	7	10	11	28／30	28
6.45～7.15	8	8	9	25／30	25
7.45～8.15	6	6	8	20／30	20
8.45～9.15	8	10	14	32／30	32
9.45～10.15	12	13	13	38／30	38
10.45～11.15	13	15	18	46／30	46
11.45～12.15	18	20	12／5	50／25	60
12.40～13.15	30	20／4		50／14	107
13.29～14.15	50／7			50／7	214
14.22～15.15	13	20	10	43／30	43
15.45～16.15	5	15	20	40／30	40
16.45～17.35	50／3			50／3	500
17.38～18.10	50／4			50／4	375
18.14～19.15	50			50／10	150
19.25～20.15	15	23	12／3	50／23	65
20.38～21.15	50／5			50／5	300
21.20～22.15	22	10	16	48／30	48
22.45～23.15	10	11	15	36／30	36
23.45～24.15	50／7			50／7	214
24.22					

原位置試験

深度 (m)	試験名および結果

試料採取

深度 (m)	試料番号	採取方法

室内試験（　）

掘進月日：9／4、9／5、9／6、9／8

ボーリング柱状図

調　査　名　東海第二発電所におけるボーリング調査（全5件）

ボーリングNo.

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	固作－4	調査位置	茨城県那珂郡東海村白方1の1 （X=449.915, Y=151.950）	北緯			
発注機関	日本原子力発電株式会社			調査期間	平成 20年 10月 2日 ～ 20年 10月 7日	東経	
調査業者名	[redacted]	主任技師	[redacted]	現場代理人	[redacted]	コア鑑定者	[redacted]	ボーリング責任者	[redacted]
孔口標高	8.16m	角度	180°上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 0°	使用機種	試錐機	YBM－05	ハンマー落下用具	自動落下装置
総掘進長	24.45m								エンジン	YANMAR NFD9	ポンプ	YANMAR GP5

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事		孔内水位(m)／測定月日
1											
2											
3					細砂	褐灰			不均一な砂。 含水量少位。	du	
4											
5											
6	1.66	6.50	6.50								
	1.36	0.30	6.80		粗砂	褐灰			不均一な砂。		
7					細砂	褐灰			不均一な砂。 少量の小礫混入する所あり。		
8	0.56	0.80	7.60								
9	-1.44	2.00	9.60		礫混り砂	褐灰			砂は中砂～粗砂主体、不均一な砂。 含水量多い。 礫は小礫主体。	Ag2	
10											
11					砂礫	褐灰			砂は細砂～中砂主体、不均一。 最大礫径80mm程度。 含水量多い。		
12											
13	-5.54	4.10	13.70								
14					シルト	暗灰			孔内水平載荷試験のため素掘。		
15	-6.74	1.20	14.90		砂質シルト	暗緑灰			砂は微細砂主体。 15m付近、暗灰色の部分を層状に挟む所あり。	Ac1	
16	-7.64	0.90	15.80								
17	-9.14	1.50	17.30		シルト	暗灰			粘性強い。		
18											
19					砂礫	暗青灰～暗灰			砂は細砂～中砂主体。不均一な砂。 19m付近より暗青灰色、20m付近より暗灰色となる。 最大礫径60mm程度。 含水量多い。 22m付近、礫が多くなる。	Dg3	
20											
21											
22	-14.34	5.20	22.50								
23					砂質泥岩	暗緑灰			砂は微細砂主体の均一な砂。	Kc	
24	-16.29	1.95	24.45								

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
2.15	3	5	6	14／30	14
2.45					
3.15	5	8	8	21／30	21
3.45					
4.15	6	6	6	18／30	18
4.45					
5.15	8	8	9	25／30	25
5.45					
6.15	8	9	10	27／30	27
6.45					
7.15	5	5	9	19／30	19
7.45					
8.15	5	6	7	18／30	18
8.45					
9.15	6	8	11	25／30	25
9.45					
10.15	9	11	14	34／30	34
10.45					
11.15	8	9	10	27／30	27
11.45					
12.15	15	15	20／8	50／28	54
12.43	50			50／10	150
13.15					
13.25					
15.15	3	4	4	11／30	11
15.45					
16.15	2	3	3	8／30	8
16.45					
17.15	3	8	13	24／30	24
17.45					
18.15	12	23	15／5	50／25	60
18.40					
19.15	50／8			50／8	188
19.23					
20.15	16	14	20／8	50／28	54
20.43					
21.15	25	25／5		50／15	100
21.30					
22.03	50／1			50／1	500
22.04					
23.15	10	15	17	42／30	42
23.45					
24.15	11	14	15	40／30	40
24.45					

原位置試験

深度 (m)	試験名および結果
14.20	孔内水平載荷試験
14.80	

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（　）	掘進月日
				10／2
				10／3
				10／4

ボーリング柱状図

調　査　名　東海第二発電所におけるボーリング調査（全5件）

ボーリングNo.

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	消車－1	調査位置	茨城県那珂郡東海村白方1の1 （X=640.293, Y=296.991）			北緯	
発注機関	日本原子力発電株式会社			調査期間	平成 20年 8月 25日 ～ 20年 9月 15日	東経	
調査業者名	[redacted]	主任技師	[redacted]	現場代理人	[redacted]	コア鑑定者	[redacted]	ボーリング責任者	[redacted]
孔口標高	8.02m	角度	180°上 90° 0° 下 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 0°	使用機種	試錐機	YBM YSO－1	ハンマー落下用具	自動落下装置
総掘進長	56.00m								エンジン	YANMAR NFD12	ポンプ	YANMAR GP5

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事		孔内水位(m)／測定月日
	7.22	0.80	0.80		礫混り砂	褐灰			礫混り砂（盛土）。細砂主体で不均質な砂。最大φ200mm程度の礫などを混入する。	f1	
1					礫混り砂	褐灰			砂は細砂主体、不均一な砂。最大φ30mm程度の礫を混る。円礫多い。	f1	
	5.32	1.90	2.70								
3									不均一な砂。含水量少位。	du	
4											
5											
6					細砂	褐灰					
7									7m貫入試験区間より含水量中位。	Ag2	8/26 7.20
8											
9	-1.48	6.80	9.50								
10					砂礫	褐灰～暗灰			砂は細～中砂主体、不均一な砂。最大礫径φ80mm程度。小礫多い。含水量中位。		
11											
12	-4.78	3.30	12.80								
13					シルト	暗灰			貝殻片少量混入。細砂を少量混入する。	Ac1	
14											
15											
16	-8.18	3.40	16.20								
17					細砂	暗灰			均一な砂である。含水量少位。	As1	
	-9.78	1.60	17.80								
18					シルト	暗灰			貝殻片の混入少量あり。細砂を少量混入する。		
19											
20											
21											
22	-14.68	4.90	22.70								
23	-15.78	1.10	23.80		砂混りシルト	暗灰			砂は細砂を混入する。貝殻片少量混入する。		
24					シ	暗			貝殻片少量混入あり。	Ac1	
25											
26											
27											

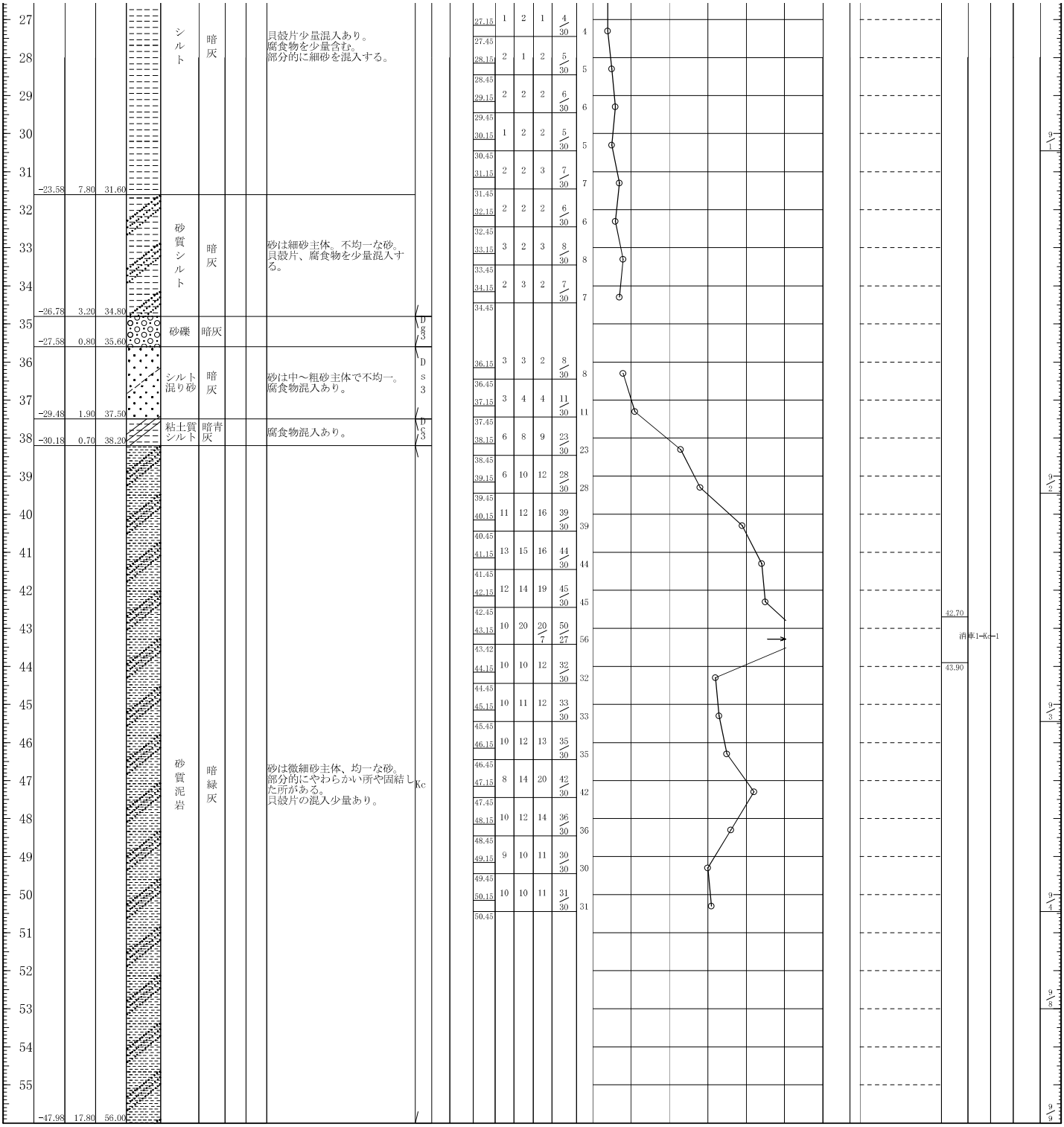
標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
2.15	6	6	7	19／30	19
2.45 3.15	6	6	6	18／30	18
3.45 4.15	5	5	9	19／30	19
4.45 5.15	11	12	13	36／30	36
5.45 6.15	10	11	11	32／30	32
6.45 7.15	6	9	10	25／30	25
7.45 8.15	10	12	13	35／30	35
8.45 9.15	6	7	13	26／30	26
9.45 10.15	8	12	13	33／30	33
10.45 12.15	11	13	15	39／30	39
12.45 13.15	1	2	2	5／30	5
13.45 14.15	1	1	1	3／30	3
14.45 15.15	1	1	2	4／30	4
15.45 17.15	11	13	15	39／30	39
17.45 18.15	1	1	2	4／30	4
18.45 19.15	1	1	1	3／30	3
19.45 20.15	1	1	1	3／30	3
20.45 21.15	1	1	1	3／30	3
21.45 22.15	1	1	1	3／30	3
22.45 23.15	1	1	2	4／30	4
23.45 25.15	1	1	2	4／30	4
25.45 26.15	1	1	2	4／30	4
26.45 27.15	1	2	1	4／30	4
27.45					

原位置試験

深度 (m)	試験名および結果
10.70	孔内水平載荷試験
11.30	
15.70	孔内水平載荷試験
16.30	
23.70	孔内水平載荷試験
24.30	

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（　）	掘進月日
				8/25
				8/26
				8/27
				8/28
				8/29


シルト
暗灰
貝殻片少量混入あり。
腐食物を少量含む。
部分的に細砂を混入する。
-23.58
7.80
31.60
砂質シルト
暗灰
砂は細砂主体、不均一な砂。
貝殻片、腐食物を少量混入する。
-26.78
3.20
34.80
砂礫
暗灰
Dg3
-27.58
0.80
35.60
シルト混り砂
暗灰
砂は中～粗砂主体で不均一。
腐食物混入あり。
Ds3
-29.48
1.90
37.50
粘土質シルト
暗青灰
腐食物混入あり。
Dc3
-30.18
0.70
38.20
砂質泥岩
暗緑灰
砂は微細砂主体、均一な砂。
部分的にやわらかい所や固結した所がある。
貝殻片の混入少量あり。
Kc
-47.98
17.80
56.00
42.70
消事1-Kc-1
43.90

ボーリング柱状図

調　査　名　東海第二発電所におけるボーリング調査（全5件）

ボーリングNo.

事業・工事名

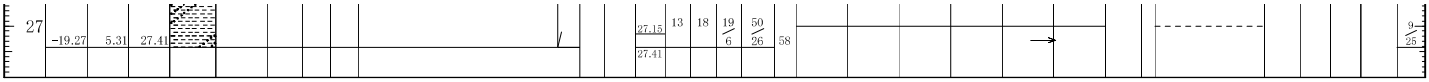
シートNo.

ボーリング名	電装－1－1	調査位置	茨城県那珂郡東海村白方1の1 （X=388.000, Y=326.701）	北緯	
発注機関	日本原子力発電株式会社	調査期間	平成 20年 9月 16日 ～ 20年 9月 26日	東経	
調査業者名	[redacted]	主任技師	[redacted]	現場代理人	[redacted]
				コア鑑定者	[redacted]
				ボーリング責任者	[redacted]
孔口標高	8.14m	角度	180°上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南
総掘進長	27.41m	地盤勾配	鉛直 90° 0° 水平 0°	使用機種	
試錐機	YBM－05	ハンマー落下用具	自動落下装置		
エンジン	YANMAR NFAD8	ポンプ	KANO V6		

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
1	7.54	0.60	0.60		礫混り砂	褐			0.05mまでアスファルト。0.05～0.40m間、砕石。0.40～0.60m間、礫混り細砂（埋土）。
	6.14	1.40	2.00		細砂	淡褐灰			粒子均一。含水乏しい。
2									
3									
4									
5									
6									
7					細砂	淡褐灰～黄茶褐			全体的に粒子均一。7.00m以浅、含水乏しい。以深、含水多い。9.70～10.50m、粒子粗く小礫点在。
8									
9									
10	-2.36	8.50	10.50						
11	-3.76	1.40	11.90		礫混り細砂	黄茶褐			φ10～20mm程度の亜円礫混入。粒子均一。
12					砂礫	黄茶褐～暗黄褐			φ5～10mm程度の小礫主体、最大礫径φ30～60mm程度と思われる。マトリックスは細砂～粗砂。含水中位。
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									19.00m付近以深、φ20～30mm程度の亜角礫が多く、硬くなる。φ5mm前後の小礫主体で、マトリックスは細砂～粗砂。
20									
21									
22	-13.96	10.20	22.10						
23					砂質泥岩	暗青灰			全体に均質。貫入後引き上げできず逆打ちを行う。
24									
25									
26									
27	-19.27	5.31	27.41						

孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
	2.15	2/9	3/11	3	8/30	8
	2.45	6	6	6	18/30	18
	3.15					
	3.45	5	7	8	20/30	20
	4.15					
	4.45	6	6	7	19/30	19
	5.15					
	5.45	7	7	8	22/30	22
	6.15					
9/18 7.00	6.45	6	7	8	21/30	21
	7.15					
	7.45	10	12	14	36/30	36
	8.15					
	8.45	10	9	10	29/30	29
	9.15					
	9.45	12	15	21	48/30	48
	10.15					
	10.45	26	24		50/20	75
	11.15					
	11.35	7	15	21	43/30	43
	12.15					
	12.45					
	16.65	10	9	13	32/30	32
	16.95	12	12	13	37/30	37
	17.15					
	17.45	14	15	15	44/30	44
	18.15					
	18.45	19	22	9/4	50/24	63
	19.15					
	19.39	50/7			50/7	214
	20.15					
	20.22	27	23/7		50/17	88
	21.15					
	21.32	7	14	20	41/30	41
	22.15					
	22.45	12	17	21/6	50/26	58
	23.15					
	23.41	12	38/5		50/15	100
	24.15					
	24.30	20	30/7		50/17	88
	25.15					
	25.32	16	25	9/3	50/22	68
	26.15					
	26.37	13	18	19/6	50/26	58
	27.15					
	27.41					

原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（　）	掘進月日
7.70	孔内水平載荷試験					9/17
8.30						9/18
15.20	孔内水平載荷試験					9/19
15.80						9/22
						9/23
						9/24
						9/25


27
-19.27
5.31
27.41
27.15
27.41
13
18
19/6
50/26
58
9/28

ボーリング柱状図

調　査　名　東海第二発電所におけるボーリング調査（全5件）

ボーリングNo.

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	電装－2	調査位置	茨城県那珂郡東海村白方1の1 （X=412.000, Y=310.701）	北緯	
発注機関	日本原子力発電株式会社	調査期間	平成 20年 10月 7日 ～ 20年 10月 15日	東経	
調査業者名	[redacted]	主任技師	[redacted]	現場代理人	[redacted]
				コア鑑定者	[redacted]
				ボーリング責任者	[redacted]
孔口標高	8.14m	角度	180°上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南
総掘進長	23.45m	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 0°	使用機種	
試錐機	YBM－05	ハンマー落下用具	トンビ		
エンジン	YANMAR NFAD8	ポンプ	KANO V6		

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事		孔内水位(m)／測定月日
1									0.05mまでアスファルト。0.05～0.30m、砕石。 0.30～3.00m、礫混り細砂（埋土）。 3.00～5.90m、礫混り細砂（埋土）。 φ5～10mm程度の小礫点在。 所々φ30～60mmの礫が混る。	f1	
2					礫混り細砂	暗黄褐～暗灰					
3											
4											
5											
6	2.24	5.90	5.90								
7					細砂	淡褐灰			粒子均一。混入物なし。 含水乏しい。	Ag2	
8											
9											
10	-1.66	3.90	9.80		細砂～粗砂	暗黄褐			粒子粗い。小礫点在。 含水乏しい。		
	-2.36	0.70	10.50								
11					礫混り細砂	暗黄褐			φ5～20mm程度の円礫混入。 含水乏しい。		
12	-3.86	1.50	12.00								
13					砂礫	暗黄褐～褐灰～暗黄褐			13.00m付近より含水があると思われる（泥水が薄くなる）。 φ5～10mm程度の小礫主体。最大φ20～80mm程度と思われる。 マトリックスは細砂～粗砂。	Dg3	
14											
15											
16											
17											
18											
19											
20									20.00m付近以深、礫が大きく硬くなる。		
21											
22	-14.06	10.20	22.20								
23	-15.31	1.25	23.45		砂質泥岩	暗黄灰～暗青灰			最上部は暗黄灰色でやや軟らかい。 貫入後引き上げできず逆打ちを行う。	Kc	

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)	N値
3.15	14	20	16／4	50／24	63
3.39					
4.15	6	5	5	16／30	16
4.45					
5.15	7	4	5	16／30	16
5.45					
6.15	5	5	7	17／30	17
6.45					
7.15	9	10	11	30／30	30
7.45					
8.15	13	15	16	44／30	44
8.45					
9.15	12	14	15	41／30	41
9.45					
10.15	4	7	10	21／30	21
10.45					
11.15	8	12	16	36／30	36
11.45	29	21／6		50／16	94
12.15					
12.31	16	18	16／7	50／27	56
13.15					
13.42	17	21	12／5	50／25	60
14.15					
14.40	25	25／8		50／18	83
15.15					
15.33	16	21	13／5	50／25	60
16.15					
16.40	21	29		50／20	75
17.15					
17.35	32	18／3		50／13	115
18.15					
18.28	24	26／7		50／17	88
19.15					
19.32	50／8			50／8	188
20.15					
20.23	31	19／4		50／14	107
21.15					
21.29	13	6	7	26／30	26
22.15					
22.45	9	13	15	37／30	37
23.15					
23.45					

原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（　）	掘進月日
						10／8
						10／9
						10／14

余　　白

15.平成24年調査孔(No.1孔)

ボーリング柱状図

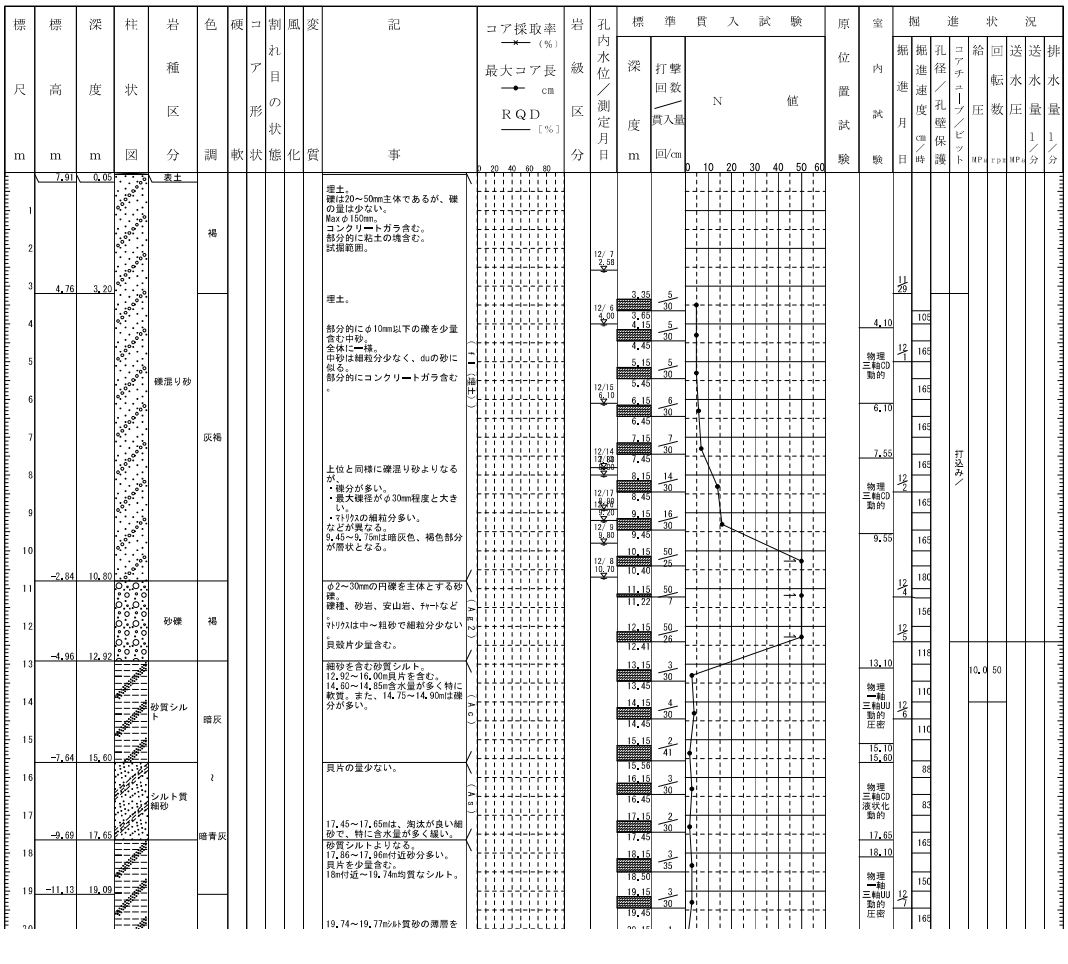
調　査　名　東海第二発電所　防護壁詳細設計委託　地質調査

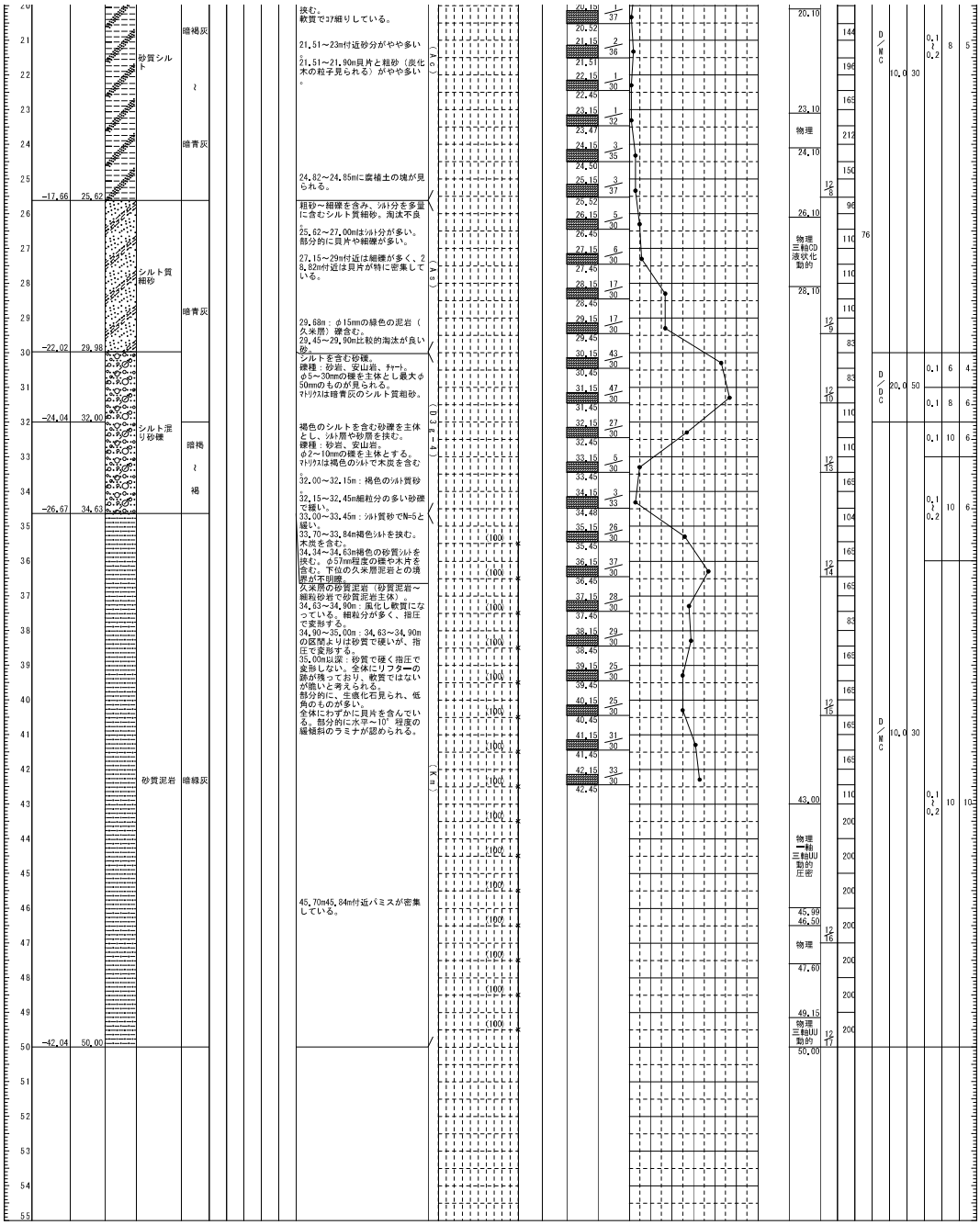
事業・工事名

ボーリングNo.

シートNo.

ボーリング名	No.1	調査位置	茨城県那珂郡東海村大字白方1-1	北緯	° ′ ″
発注機関	日本原子力発電株式会社	調査期間	平成23年11月28日～平成23年12月22日	東経	° ′ ″
調査業者名	[redacted]	主任技師	[redacted]	現場代理人	[redacted]
				コア鑑定者	[redacted]
				ボーリング責任者	[redacted]
孔口標高	E L 7.96m	角度	180° 上 90 下 0°	方向	北 0° 西 270° 90° 東 180° 南
総掘進長	50.00m	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°	使用機種	
試錐機	東邦地下工機(株) DO-D	ハンマー落下用具	自動落下		
エンジン	ヤンマー(株) NFD-10	ポンプ	鉱研工業TP-3		





砂質シルト
暗褐灰
暗青灰
シルト質細砂
暗青灰
シルト混り砂礫
暗褐
褐
砂質泥岩
暗緑灰
-17.66
25.62
-22.02
29.98
-24.04
32.00
-26.67
34.63
-42.04
50.00
挟む。
軟質でｺｱ細りしている。
21.51～23m付近砂分がやや多い。
21.51～21.90m貝片と粗砂（炭化木の粒子見られる）がやや多い。
24.82～24.85mに腐植土の塊が見られる。
粗砂～細礫を含み、ｼﾙﾄ分を多量に含むシルト質細砂。淘汰不良。
25.62～27.00mはｼﾙﾄ分が多い。
部分的に貝片や細礫が多い。
27.15～29m付近は細礫が多く、28.82m付近は貝片が特に密集している。
29.68m：φ15mmの緑色の泥岩（久米層）礫含む。
29.45～29.90m比較的淘汰が良い砂。
シルトを含む砂礫。
礫種：砂岩、安山岩、ﾁｬｰﾄ。
φ5～30mmの礫を主体とし最大φ50mmのものが見られる。
ﾏﾄﾘｸｽは暗青灰のシルト質粗砂。
褐色のシルトを含む砂礫を主体とし、ｼﾙﾄ層や砂層を挟む。
礫種：砂岩、安山岩。
φ2～10mmの礫を主体とする。
ﾏﾄﾘｸｽは褐色のｼﾙﾄで木炭を含む。
32.00～32.15m：褐色のｼﾙﾄ質砂。
32.15～32.45m細粒分の多い砂礫で緩い。
33.00～33.45m：ｼﾙﾄ質砂でN=5と緩い。
33.70～33.84m褐色ｼﾙﾄを挟む。
木炭を含む。
34.34～34.63m褐色の砂質ｼﾙﾄを挟む。φ57mm程度の礫や木片を含む。下位の久米層泥岩との境界が不明瞭。
久米層の砂質泥岩（砂質泥岩～細粒砂岩で砂質泥岩主体）。
34.63～34.90m：風化し軟質になっている。細粒分が多く、指圧で変形する。
34.90～35.00m：34.63～34.90mの区間よりは砂質で硬いが、指圧で変形する。
35.00m以深：砂質で硬く指圧で変形しない。全体にリフターの跡が残っており、軟質ではないが脆いと考えられる。
部分的に、生痕化石見られ、低角のものが多い。
全体にわずかに貝片を含んでいる。部分的に水平～10°程度の緩傾斜のラミナが認められる。
45.70m45.84m付近パミスが密集している。
(Ac)
(As)
(D3g-4)
(Km)
20.10
23.10
物理
24.10
26.10
物理
三軸CD
液状化
動的
28.10
43.00
物理
一軸
三軸UU
動的
圧密
45.99
46.50
物理
47.60
49.15
物理
三軸UU
動的
50.00
D/MC
10.0
30
0.1～0.2
8
5
76
D/DC
20.0
50
0.1
6
4
0.1
8
6
0.1
10
6
0.1～0.2
10
6
0.1～0.2
10
10